

第4章 自然科学的分析

はじめに

各機関に依頼・委託して実施した自然科学的分析の結果を本章で一括して掲載した。あらかじめ、分析の目的と、試料採取の状況について記載し、その後分析結果を掲載した。

第1節 放射性炭素年代測定

近年、AMS年代測定による弥生時代の実年代に関する研究が進展している。

土器片に付着した炭化物について、パレオラボ、住居跡等より出土した炭化物を加速器分析研究所に委託して分析を行った。

分析は2回に区分し、まず河川跡出土の土器に付着する炭化物についての分析である。

放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS年代測定グループ

伊藤茂・丹生越子・尾寄大真・廣田正史・瀬谷薫・小林紘一

Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani

1. はじめに

香川県善通寺市に位置する旧練兵場遺跡より出土した土器に付着する炭化物について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表19のとおりである。

試料は土器付着炭化物6点である。SR02最下層の下の河川堆積層から出土した試料No.1・2(PLD-12411・12412)の土器は縄文時代晩期と推定されている。SR03最下層の河川堆積層から出土した試料No.3～5(PLD-12413～12415)およびSR02下層下位の河川堆積層から出土した試料No.6(PLD-12416)の土器は弥生時代中期と推定されている。

試料は調製後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS:NEC製1.5SDH)を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

3. 結果

表20に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に較正した年代範囲を、図488に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を

丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正にはOxCal4.0 (較正曲線データ:INTCAL04) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

4. 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。 2σ 暦年代範囲 (確率95.4%) に着目して結果を整理する。

縄文時代晩期と推定される土器に付着した炭化物は、試料No.1 (PLD-12411) が紀元前9世紀初頭～末 (896-804calBC)、試料No.2 (PLD-12412) が紀元前9世紀後半～8世紀前半 (825-786calBC) の範囲を示した。小林謙一が整理した縄文時代の編年と暦年較正結果との対応関係 (小林, 2008) を参照すると、試料No.1と2の結果は、おおむね縄文時代晩期中葉に相当し、推定時期と矛盾しない。

弥生時代中期と推定される土器に付着した炭化物は、試料No.3 (PLD-12413) が紀元前4世紀前半～2世紀初頭 (362-196calBC)、試料No.4 (PLD-12414) が紀元前4世紀中頃～2世紀後半 (351～111calBC)、試料No.5 (PLD-12415) が紀元前4世紀中頃～2世紀前半 (359～176calBC)、試料No.6 (PLD-12416) が紀元前4世紀初頭～3世紀末 (391～209calBC) の範囲を示した。春成・今村 (2004) や西本編 (2006, 2007) を参照すると、試料No.3～6の結果は、おおむね弥生時代中期に相当し、推定時期と矛盾しない。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.
Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.
春成秀爾・今村峯雄編 (2004) 弥生時代の実年代, 253p, 学生社.
小林謙一 (2008) 縄文時代の暦年代. 縄文時代の考古学2 歴史のものさし, 257-269, 同成社.
中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の14C年代, 3-20.
西本豊弘編 (2006) 新弥生時代のはじまり第1巻 弥生時代の新年代, 143p, 雄山閣.
西本豊弘編 (2007) 新弥生時代のはじまり第2巻 縄文時代から弥生時代へ, 185p, 雄山閣.

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Bertrand, C.J.H., Blackwell, P.G., Buck, C.E., Burr, G.S., Cutler, K.B., Damon, P.E., Edwards, R.L., Fairbanks, R.G., Friedrich, M., Guilderson, T.P., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Bronk Ramsey, C., Reimer, R.W., Remmele, S., Southon, J.R., Stuiver, M., Talamo, S., Taylor, F.W., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C.E. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP. Radiocarbon, 46, 1029-1058.

測定番号	報文番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-12411	2336	調査区：NZR 遺構：SR02 最下層の下 層位：河川堆積層 試料 No.：1 その他：実測番号：西 4	試料の種類：土器付着炭化物 器種：甕 部位：口縁部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N) サルフィックス
PLD-12412	2336	調査区：NZR 遺構：SR02 最下層の下 層位：河川堆積層 試料 No.：2 その他：実測番号：西 4	試料の種類：土器付着炭化物 器種：甕 部位：内面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N) サルフィックス
PLD-12413	2533	調査区：NZR 遺構：SR03 最下層 層位：河川堆積層 試料 No.：3 その他：実測番号：西 371	試料の種類：土器付着炭化物 器種：甕 部位：外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N) サルフィックス
PLD-12414	2533	調査区：NZR 遺構：SR03 最下層 層位：河川堆積層 試料 No.：4 その他：実測番号：西 371	試料の種類：土器付着炭化物 器種：甕 部位：内面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N, 塩酸:1.2N) サルフィックス
PLD-12415	2519	調査区：NZR 遺構：SR03 最下層 層位：河川堆積層 試料 No.：5 その他：実測番号：西 371-1	試料の種類：土器付着炭化物 器種：甕 部位：外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N, 塩酸:1.2N) サルフィックス
PLD-12416	2686	調査区：NZR 遺構：SR02 下層下位 層位：河川堆積層 試料 No.：6 その他：実測番号：西 257	試料の種類：土器付着炭化物 器種：甕 部位：底部内面 状態：dry	酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N, 塩酸:1.2N) サルフィックス

表 19 測定試料及び処理

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-12411 試料 No.：1	-26.34 \pm 0.25	2686 \pm 23	2685 \pm 25	889BC(6.9%)881BC 843BC(61.3%)807BC	896BC(95.4%)804BC
PLD-12412 試料 No.：2	-28.66 \pm 0.15	2625 \pm 21	2625 \pm 20	809BC(68.2%)795BC	825BC(95.4%)786BC
PLD-12413 試料 No.：3	-28.32 \pm 0.16	2194 \pm 21	2195 \pm 20	354BC(48.1%)291BC 231BC(20.1%)203BC	362BC(95.4%)196BC
PLD-12414 試料 No.：4	-28.10 \pm 0.18	2148 \pm 19	2150 \pm 20	345BC(16.6%)323BC 205BC(51.6%)166BC	351BC(24.6%)301BC 227BC(0.4%)224BC 210BC(70.4%)111BC
PLD-12415 試料 No.：5	-26.51 \pm 0.12	2183 \pm 19	2185 \pm 20	352BC(53.0%)296BC 228BC(5.3%)221BC 211BC(9.9%)200BC	359BC(61.0%)277BC 260BC(34.4%)176BC
PLD-12416 試料 No.：6	-19.57 \pm 0.18	2250 \pm 19	2250 \pm 20	384BC(30.7%)357BC 284BC(26.9%)256BC 247BC(10.6%)235BC	391BC(36.8%)351BC 300BC(58.6%)209BC

表 20 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

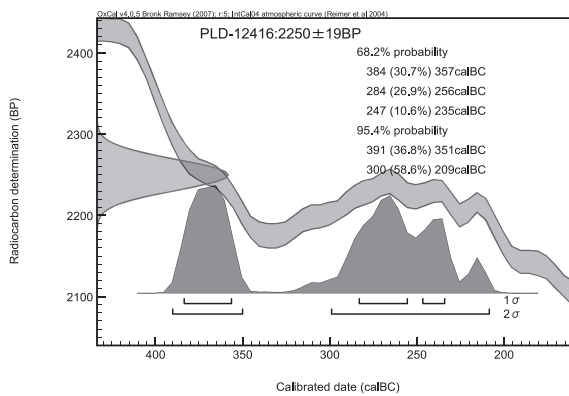
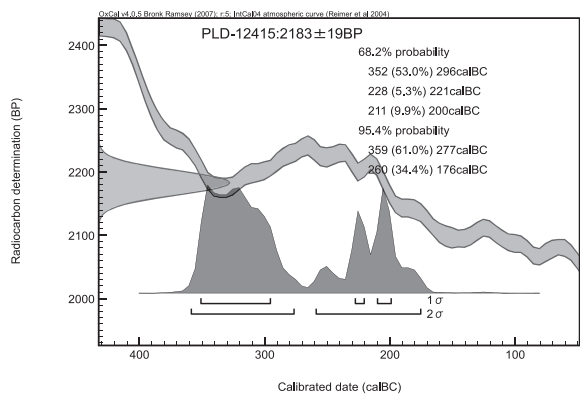
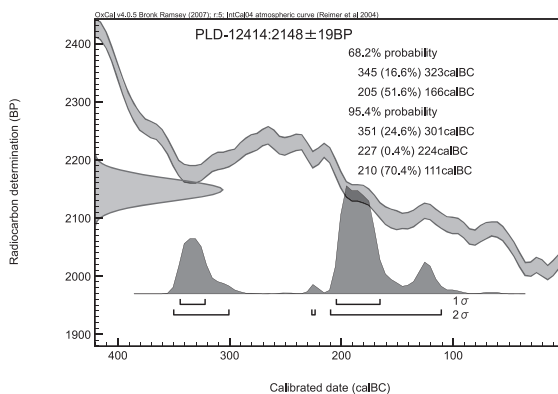
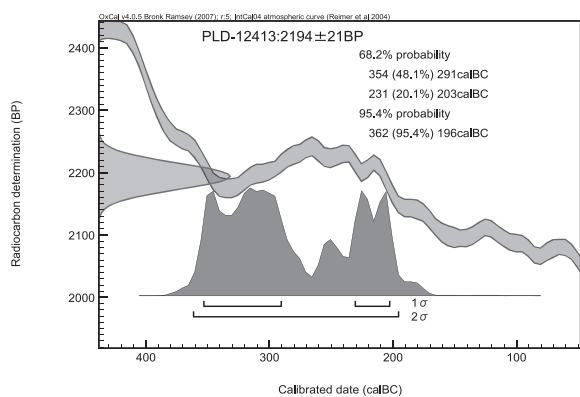
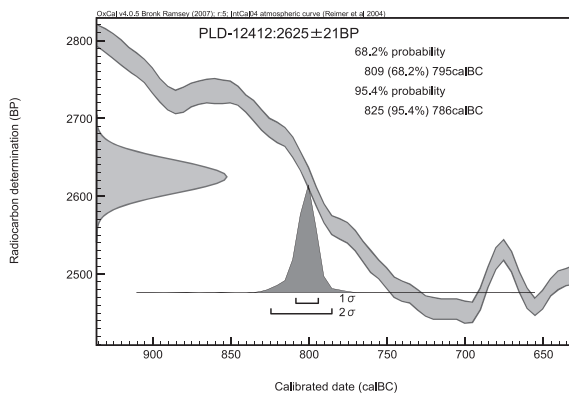
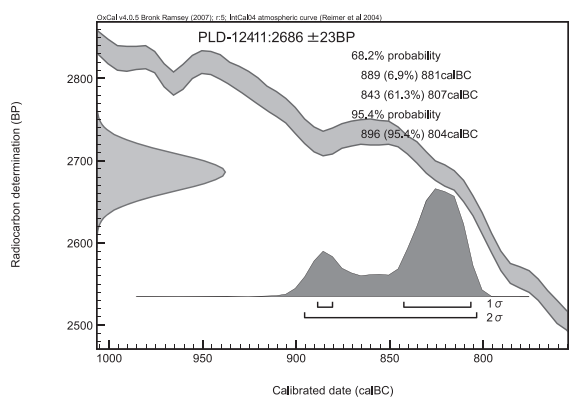


図 488 曆年較正結果

旧練兵場遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

1 測定対象試料

測定対象試料は、旧練兵場遺跡 NZR 地区の SR02 上層から出土した炭化物 2 点（1：IAAA-82418、2：IAAA-82419）、SH55K1 第 2 層から出土した炭化物（3：IAAA-82420）、SR02 上層溝下層 EFG・IJK 間の炭化物（4：IAAA-82421）、SX23 埋土中から出土した炭化物（5：IAAA-82422）、SK40 ④黄灰のごった層から出土した炭化物（6：IAAA-82423）、SH01 土器集中部から出土した炭化物（7：IAAA-82424）、SH06 埋土中から出土した炭化物（8：IAAA-82425）、SH27 上層床面直上から出土した炭化物（9：IAAA-82426）、SH27 中央土坑 K-1 から出土した炭化物（10：IAAA-82427）、SH51 中央土坑 K-1 から出土した炭化物（11：IAAA-82428）、SB10（SP766）から出土した炭化物（12：IAAA-82429）、合計 12 点である。

2 化学処理工程

- （1）メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- （2）酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA：Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 1N の水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。なお、AAA 処理において、アルカリ濃度が 1N 未満の場合、表中に AaA と記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- （3）試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で 30 分、850℃で 2 時間加熱する。
- （4）液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO₂）を精製する。
- （5）精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。
- （6）グラファイトを内径 1mm のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

3 測定方法

測定機器は、加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HO_x II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4 算出方法

- （1）年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polash 1977）。
- （2）¹⁴C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ¹⁴C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。

^{14}C 年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

(3) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (%) で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ を測定した場合には表中に(AMS)と注記する。

(4) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。

(5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化等を補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04 データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCalv4.0 較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

5 測定結果 SR02 上層溝下層 EFG・IJK 間

^{14}C 年代は、SR02 上層の炭化物が $42930 \pm 450\text{yrBP}$ 、 $41190 \pm 370\text{yrBP}$ 、SH55K1 第2層の炭化物が $2010 \pm 30\text{yrBP}$ 、SR02 上層溝下層 EFG・IJK 間の炭化物が $1990 \pm 30\text{yrBP}$ である。SX23 の炭化物が $3720 \pm 40\text{yrBP}$ 、SK40 ④の炭化物が $2070 \pm 30\text{yrBP}$ 、SH01 土器集中部の炭化物が $42980 \pm 450\text{yrBP}$ 、SH06 の炭化物が $1860 \pm 30\text{yrBP}$ 、SH27 上層床面直上の炭化物が $45060 \pm 480\text{yrBP}$ 、SH27 中央土坑 K-1 の炭化物が $1980 \pm 30\text{yrBP}$ 、SH51 中央土坑 K-1 の炭化物が $1930 \pm 30\text{yrBP}$ 、SB10 (SP766) の炭化物が $2170 \pm 30\text{yrBP}$ である。

分析結果には、予想年代と大きく異なり、4万年を超える試料が4点みられる。これらは炭素含有率が低く、1が42.7%、2が6.26%、7が33.8%、9が8.7%であった。それ以外の試料の炭素含有率はすべて55%以上であり、明らかに異なる。このような点から、古い年代の4点については、もともと堆積土中に含まれていたものであり、人類活動に関連しない炭化物と推定される。

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-82418	1	SR02 上層	炭化物	AaA	-22.70 ± 0.46	42,930 ± 450	0.48 ± 0.03
IAAA-82419	2	SR02 上層	炭化物	AAA	-19.06 ± 0.68	41,190 ± 370	0.59 ± 0.03
IAAA-82420	3	SH55K1 第2層	炭化物	AaA	-20.43 ± 0.78	2,010 ± 30	77.84 ± 0.32
IAAA-82421	4	SR02 上層溝下層 EFG・IJK 間	炭化物	AaA	-30.09 ± 0.78	1,990 ± 30	78.09 ± 0.32
IAAA-82422	5	SX23 埋土中	炭化物	AAA	-24.31 ± 0.75	3,720 ± 40	62.90 ± 0.28
IAAA-82423	6	SK40 ④黄灰のごった層	炭化物	AAA	-23.14 ± 0.78	2,070 ± 30	77.25 ± 0.32
IAAA-82424	7	SH01 土器集中部	炭化物	AAA	-23.67 ± 0.52	42,980 ± 450	0.47 ± 0.03
IAAA-82425	8	SH06 埋土中	炭化物	AAA	-23.21 ± 0.75	1,860 ± 30	79.35 ± 0.33
IAAA-82426	9	SH27 上層床面直上	炭化物	AAA	-23.69 ± 0.74	45,060 ± 480	0.37 ± 0.02
IAAA-82427	10	SH27 中央土坑 K-1	炭化物	AAA	-24.28 ± 0.84	1,980 ± 30	78.14 ± 0.33
IAAA-82428	11	SH51 中央土坑 K-1	炭化物	AAA	-24.05 ± 0.76	1,930 ± 30	78.62 ± 0.33
IAAA-82429	12	SB10 (SP766)	炭化物	AAA	-22.74 ± 0.82	2,170 ± 30	76.36 ± 0.32

[#2657]

表 21 分析試料及び結果 (その1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-82418	42,890 ± 450	0.48 ± 0.03	42,932 ± 457	41455BC - 40537BC (68.2%)	41956BC - 40116BC (95.4%)
IAAA-82419	41,100 ± 370	0.60 ± 0.03	41,194 ± 368	39623BC - 38884BC (68.2%)	40018BC - 38541BC (95.4%)
IAAA-82420	1,940 ± 30	78.57 ± 0.30	2,012 ± 33	47BC - 25AD (68.2%)	103BC - 68AD (95.4%)
IAAA-82421	2,070 ± 30	77.28 ± 0.29	1,986 ± 33	37BC - 30BC (5.8%) 21BC - 11BC (8.6%) 2BC - 54AD (53.8%)	53BC - 82AD (95.4%)
IAAA-82422	3,710 ± 30	62.99 ± 0.26	3,724 ± 35	2197BC - 2169BC (17.2%) 2148BC - 2121BC (16.2%) 2095BC - 2041BC (34.8%)	2274BC - 2257BC (1.9%) 2208BC - 2024BC (93.5%)
IAAA-82423	2,040 ± 30	77.54 ± 0.30	2,073 ± 33	158BC - 135BC (14.8%) 116BC - 46BC (53.4%)	182BC - 2AD (95.4%)
IAAA-82424	42,960 ± 450	0.48 ± 0.03	42,978 ± 453	41497BC - 40587BC (68.2%)	41992BC - 40170BC (95.4%)
IAAA-82425	1,830 ± 30	79.64 ± 0.31	1,858 ± 33	91AD - 100AD (5.6%) 124AD - 215AD (62.6%)	78AD - 235AD (95.4%)
IAAA-82426	45,040 ± 480	0.37 ± 0.02	45,064 ± 480	43612BC - 42647BC (68.2%)	44140BC - 42206BC (95.4%)
IAAA-82427	1,970 ± 30	78.26 ± 0.31	1,980 ± 34	36BC - 31BC (3.6%) 20BC - 12BC (6.2%) 1BC - 60AD (58.4%)	51BC - 85AD (94.8%) 109AD - 115AD (0.6%)
IAAA-82428	1,920 ± 30	78.77 ± 0.31	1,932 ± 34	27AD - 42AD (11.3%) 48AD - 90AD (40.1%) 101AD - 124AD (16.8%)	37BC - 30BC (0.7%) 22BC - 11BC (1.3%) 2BC - 134AD (93.4%)
IAAA-82429	2,130 ± 30	76.72 ± 0.29	2,166 ± 33	352BC - 295BC (37.5%) 229BC - 220BC (4.1%) 211BC - 171BC (26.6%)	361BC - 271BC (44.0%) 264BC - 111BC (51.4%)

[参考値]

表 22 分析試料及び結果 (その2)

参考文献

- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19, 355-363
Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37(2), 425-430
Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43(2A), 355-363
Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43(2A), 381-389
Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

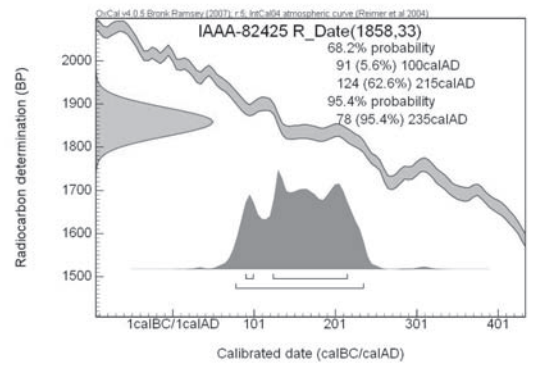
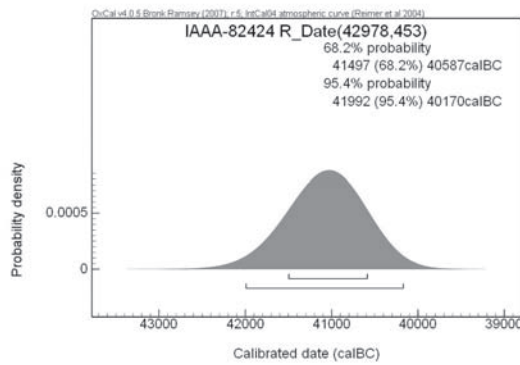
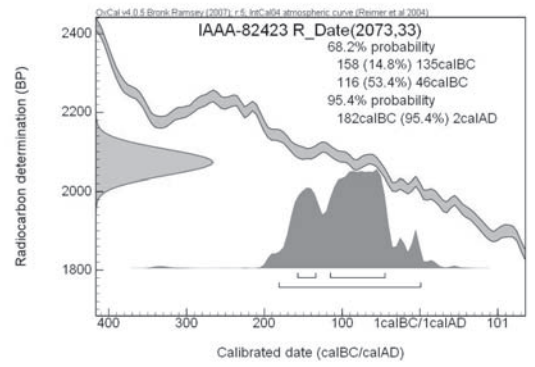
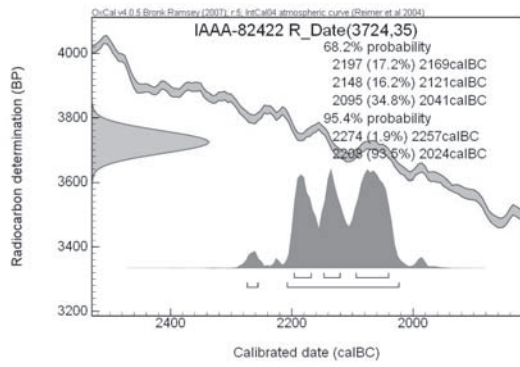
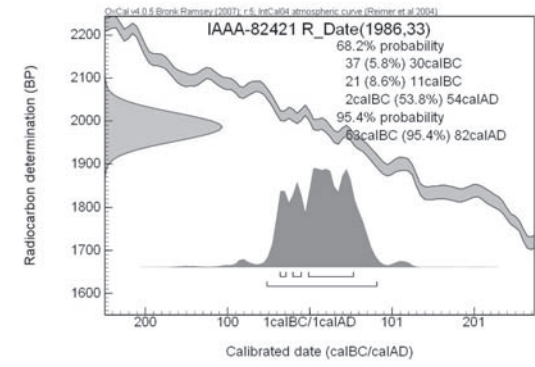
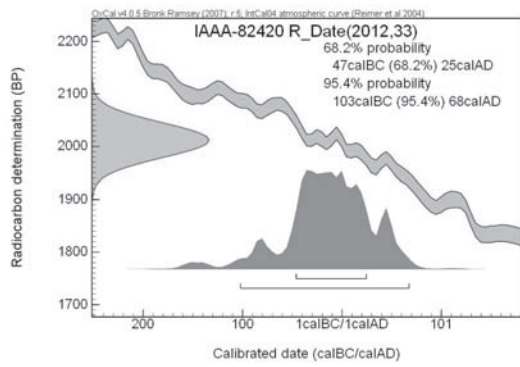
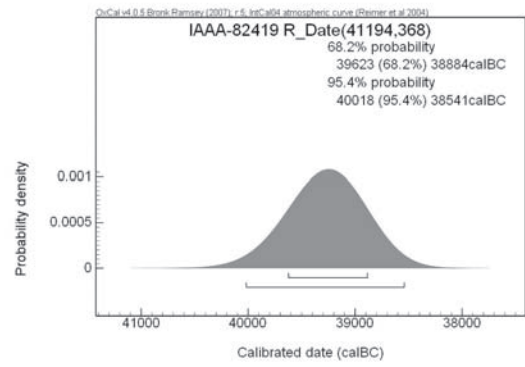
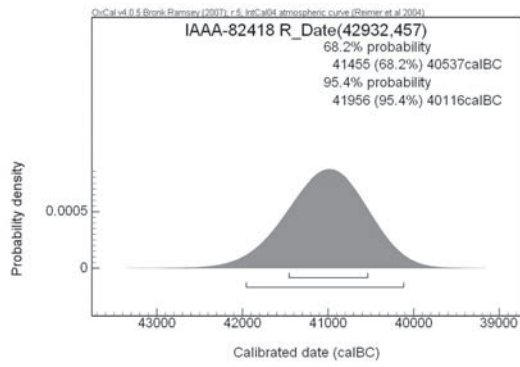


図 489 [参考] 暦年較正年代グラフ その 1

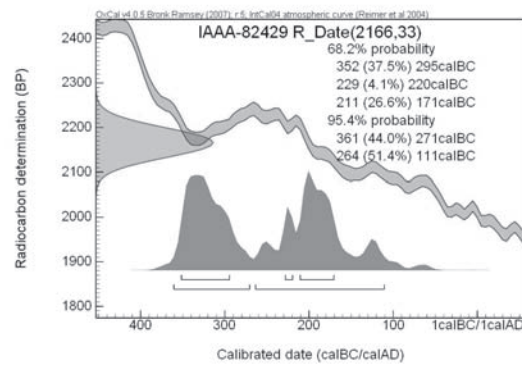
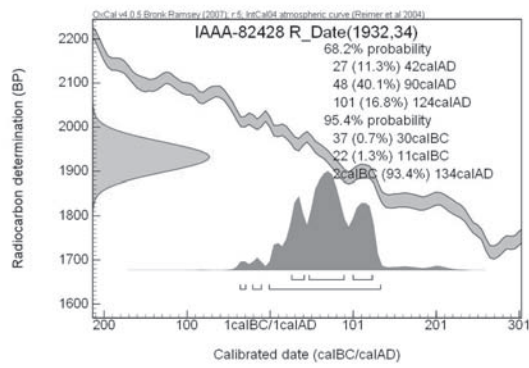
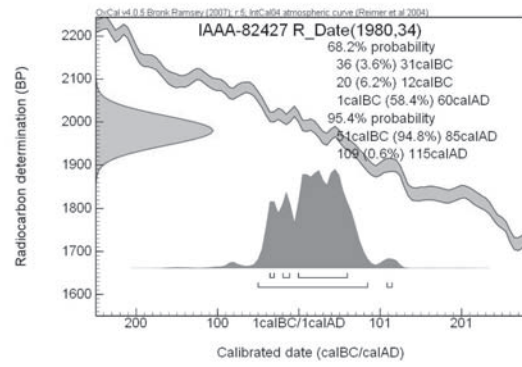
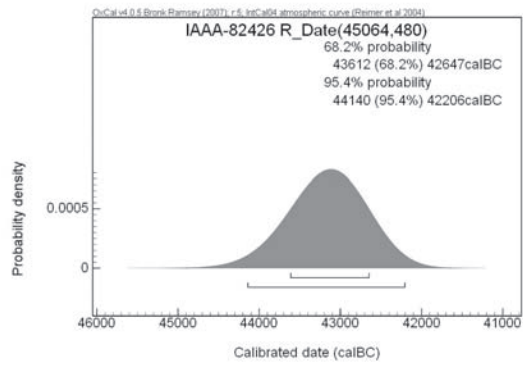


図 490 [参考] 暦年較正年代グラフ その2

第2節 堆積層の土壌分析及び河川出土樹木の樹種同定

河川堆積層の花粉分析を行うための試料採取が必ずしも良好なタイミングで選択できなかったが、各層の自然木と考えられる木材を樹種同定した。また、古代の堆積層のプラントオパール分析を行うことにより、古代の当該箇所の水田稲作の有無を点検した。また報告した木製品の樹種を、保存処理を行う前に実施した。これについては、処理を3回に分けて行ったために、同じ機関が樹種同定を行った訳ではない。その結果、ヒノキとアスナロといった類似樹種については、分析機関によって解釈が分かれている。唯一、同一材を分析した結果、やはり異なった解釈となった。よって、後発の分析機関には、結果に至った経緯について、添付文書をいただいた。ここに掲載し、資料評価の材料として公表する。

香川県旧練兵場遺跡における土壌分析・樹種同定・種子同定

株式会社古環境研究所

I. プラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO_2) が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石 (プラント・オパール) となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山, 2000)。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である (藤原・杉山, 1984)。

2. 試料

分析試料は、B区西壁の古代水平堆積層およびその上層と下層から採取された計3点である。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法 (藤原, 1976) を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105℃ で 24 時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加 (0.1mg の精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精

査に相当する。試料 1 g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1 g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重 (1.0 と仮定) と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位: 10^{-5} g) をかけて、単位面積で層厚 1 cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる (杉山, 2000)。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4. 分析結果

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表 23 および図 491 に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

[イネ科]

イネ、イネ (穎の表皮細胞由来)、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型 (おもにススキ属)、ウシクサ族 A (チガヤ属など)、ウシクサ族 B (大型)

[イネ科-タケ亜科]

メダケ節型 (メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属)、ネザサ節型 (おもにメダケ属ネザサ節)、チマキザサ節型 (ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型 (ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体 (おもに結合組織細胞由来)、未分類等

[樹木]

ブナ科 (シイ属)、クスノキ科、その他

5. 考察

(1) 稲作跡の検討

水田跡 (稲作跡) の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体 (プラント・オパール) が試料 1 g あたり 5,000 個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している (杉山, 2000)。なお、密度が 3,000 個 /g 程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を 3,000 個 /g として検討を行った。

B 区西壁では、古代水平堆積層 (試料 2) およびその上層 (試料 1) と下層 (試料 3) について分析を行った。その結果、これらの各層からイネが検出された。このうち、古代水平堆積層 (試料 2) とその上層 (試料 1) では、密度が 5,000 個 /g および 9,700 個 /g と高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。下層 (試料 3) では、密度が 2,500 個 /g と比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

(2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ

属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジユズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

（3）植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群では、ネザサ節型が比較的多く検出され、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族A、メダケ節型、および樹木（照葉樹）のクスノキ科、ブナ科（シイ属）なども検出された。樹木は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある（杉山, 1999）。なお、すべての樹種で植物珪酸体が形成されるわけではなく、落葉樹では形成されないものも多い（近藤・佐瀬, 1986）。おもな分類群の推定生産量によると、イネ以外ではネザサ節型が優勢であり、古代水平堆積層（試料2）ではヨシ属も比較的多くなっている。

以上の結果から、古代水平堆積層の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところにはメダケ属（おもにネザサ節）、ススキ属、キビ族などが生育し、遺跡周辺にはクスノキ科などの照葉樹林も分布していたと考えられる。

6. まとめ

植物珪酸体（プラント・オパール）分析の結果、古代水平堆積層およびその上層ではイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。同層の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところにはメダケ属（おもにネザサ節）やススキ属などが生育し、遺跡周辺にはクスノキ科などの照葉樹林も分布していたと考えられる。

文献

- 近藤鍊三・佐瀬隆（1986）植物珪酸体、その特性と応用. 第四紀研究, 25, p.31-63.
杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－. 考古学と自然科学, 19, p.69-84.
杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）. 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.
杉山真二（1999）植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史. 第四紀研究, 38(2), p.109-123.
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

検出密度 (単位: × 100 個 /g)

分類群	学名	地点・試料		
		B区西壁		
		1	2	3
イネ科	Gramineae			
イネ	<i>Oryza sativa</i>	97	50	25
イネ籾殻 (穎の表皮細胞)	<i>Oryza sativa</i> (husk Phytolith)	7		
キビ族型	Paniceae type		7	6
ヨシ属	<i>Phragmites</i>		14	6
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	14	7	6
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	28	29	6
ウシクサ族B	Andropogoneae B type		7	
タケ亜科	Bambusoideae			
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nipponocalamus</i>	69	36	19
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	180	216	162
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	7		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	14	7	19
未分類等	Others	28	14	25
その他のイネ科	Others			
表皮毛起源	Husk hair origin	28	22	25
棒状珪酸体	Rodshaped	97	94	75
未分類等	Others	270	288	194
樹木起源	Arboreal			
ブナ科 (シイ属)	<i>Castanopsis</i>	7		
クスノキ科	Lauraceae	42	29	31
その他	Others	14	14	6
(海綿骨針)	Sponge spicules	7		
植物珪酸体総数	Total	899	835	606

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg / m² · cm) : 試料の仮比重を 1.0 と仮定して算出

イネ	<i>Oryza sativa</i>	2.85	1.48	0.73
ヨシ属	<i>Phragmites</i>		0.91	0.39
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.17	0.09	0.08
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nipponocalamus</i>	0.80	0.42	0.22
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	0.86	1.04	0.78
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.05		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.04	0.02	0.06

タケ亜科の比率 (%)

メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nipponocalamus</i>	46	28	21
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	49	70	74
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	3		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	2	1	5
メダケ率	Medake ratio	95	99	95

表 23 旧鎌浜場遺跡における植物珪酸体分析結果

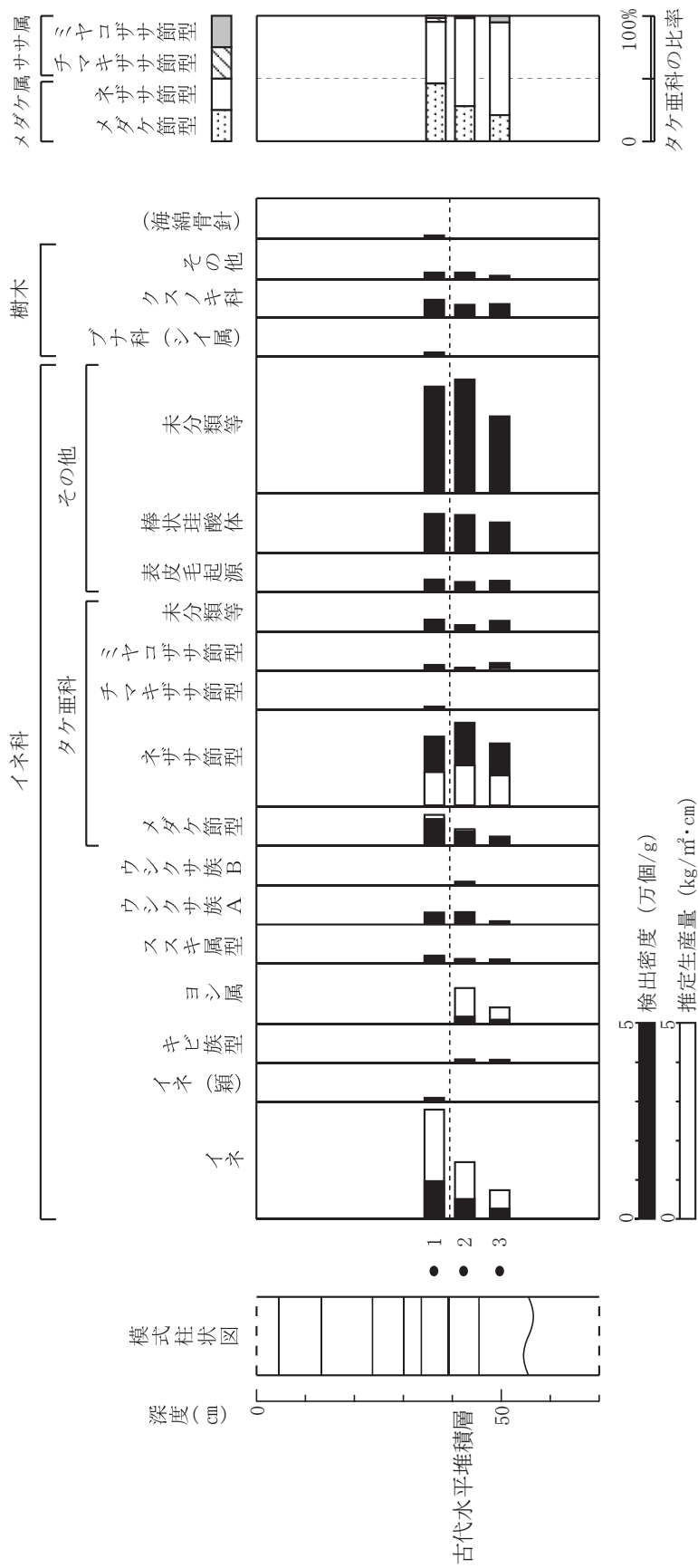


図 491 旧練兵場遺跡 B 区西壁における植物珪酸体分析結果

II. 樹種同定

1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては、木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2. 試料

試料は、旧練兵場遺跡より出土した木材 100 点である。

3. 方法

カミソリを用いて試料の新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柁目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって 40 ～ 1000 倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4. 結果

表 24、25 に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を図版に示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. ヒノキ科 図 493

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で 1 分野に 2 個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、1 ～ 15 細胞高である。

以上の形質よりヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ 40 m、径 1.5 m に達する。材は木理通直、肌目緻密で強靱であり、耐朽性、耐湿性ともに高い。良材であり、建築など広く用いられる。

針葉樹 conifer

横断面：仮道管と放射組織が存在する。

放射断面：仮道管と放射組織が存在する。

接線断面：仮道管と単列の放射組織が存在する。

以上の形質より針葉樹に同定される。なお本試料は保存状態が悪く、広範囲の観察が困難であることから、針葉樹の同定にとどめる。

ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 図 493

横断面：小型で丸い、放射方向にややのびた道管が、単独あるいは 2 ～ 3 個放射方向に複合し、散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、道管相互の壁孔は交互状で密に分布する。放射組織は異性である。
接線断面：放射組織は、単列の異性放射組織型である。

以上の形質よりヤナギ属に同定される。ヤナギ属は落葉の高木または低木で、北海道、本州、四国、九州に分布する。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図 493

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ 20m、径 40cm ぐらいであるが、大きいものは高さ 30 m、径 2 m に達する。耐朽性が強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸櫓木など広く用いられる。

ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* Schottky ブナ科 図 494

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管が、やや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。放射組織は、単列のものと集合放射組織が存在する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなり、同性放射組織型である。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと集合放射組織が存在する。

以上の形質よりツブラジイに同定される。ツブラジイは関東以南の本州、四国、九州に分布する。常緑の高木で、高さ 20 m、径 1.5 m に達する。材は耐朽性、保存性ともに低く、建築材などに用いられる。

シイ属 *Castanopsis* ブナ科 図 494

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管がやや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型のものが存在する。

以上の形質よりシイ属に同定される。シイ属は本州(福島県、新潟県佐渡以南)、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ 20 m、径 1.5 m に達する。材は耐朽、保存性やや低く、建築、器具などに用いられる。

なお、シイ属にはスタジイとツブラジイがあり、集合放射組織の有無などで同定できるが、本試料は小片で広範囲の観察が困難であったため、シイ属の同定にとどめる。

コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 図 494

横断面：中型から大型の道管が、1～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織であ

る。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ 30 m、径 1.5 m 以上に達する。材は堅硬で強靱、弾力性が強く耐湿性も高い。とくに農耕具に用いられる。

エノキ属 *Celtis* ニレ科 図 495

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管が 1～2 列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形、ないし斜線状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部に方形細胞が見られる。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、1～2 細胞幅の小型のものと、6～10 細胞幅ぐらいで鞘細胞をもつ大型のものからなる。

以上の形質よりエノキ属に同定される。エノキ属にはエゾエノキ、エノキなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。落葉の高木で、高さ 25 m、径 1.5 m に達する。材は、建築、器具、薪炭などに用いられる。

ムクノキ *Aphananthe aspera* Planch. ニレ科 図 495

横断面：中型から小型で厚壁の放射方向にのびた道管が、年輪界にむけて径を減少しながら、単独あるいは 2～3 個放射方向に複合して、まばらに散在する散孔材である。軸方向柔細胞は早材部で周囲状、晩材部では、数細胞幅で帯状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、1～4 細胞幅である。多列部は平伏細胞からなり、単列部は直立細胞からなる。

以上の形質よりムクノキに同定される。ムクノキは本州（関東以西）、四国、九州、沖縄に分布する。落葉高木で、通常高さ 15～20 m、径 50～60cm ぐらいであるが、大きいものは高さ 30 m、径 1.5 m に達する。材はやや堅く密で強靱である。建築、器具、楽器、下駄、船、薪炭などに用いられる。

ヤマグワ *Morus australis* Poiret クワ科 図 495

横断面：年輪のはじめに中型から大型の丸い道管が、単独あるいは 2～3 個複合して配列する環孔材である。孔圏部外的小道管は複合して円形の小块をなす。道管の径は徐々に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部の 1～3 細胞ぐらいは直立細胞である。

接線断面：放射組織は上下の縁辺部が直立細胞からなる異性放射組織型で、1～6 細胞幅である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

以上の形質よりヤマグワに同定される。ヤマグワは北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、通常高さ 10～15m、径 30～40cm である。材は堅硬で靱性に富み、建築などに用いられる。

クスノキ *Cinnamomum camphora* Presl クスノキ科 図 496

横断面：中型から大型の道管が、単独および2～4個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の周囲を鞘状に軸方向柔細胞が取り囲んでいる。これらの柔細胞の中には、油を含み大きく膨れ上がったものも存在する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞で上下の縁辺部のみ直立細胞からなる。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で1～2細胞幅である。上下の縁辺部の直立細胞のなかには、しばしば大きく膨れ上がったものが見られる。

以上の形質よりクスノキに同定される。クスノキは、関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑の高木で、通常高さ25 m、径80 cmぐらいであるが、高さ50 m、径5 mに達するものもある。材は堅硬で耐朽性が強い。保存性が高く芳香がある。建築、器具、楽器、船、彫刻、ろくろ細工などに用いられる。

タブノキ *Machilus thunbergii* Sieb. et Zucc. クスノキ科 図 496

横断面：やや小型から中型の道管が、単独および2～4個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の周囲を鞘状に軸方向柔細胞が取り囲んでいる。これらの柔細胞の中には、油を含み大きく膨れ上がったものも存在する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔または少数ではあるが、数の少ない階段穿孔が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞で上下の縁辺部のみ直立細胞からなる。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で1～2細胞幅である。上下の縁辺部の直立細胞のなかには大きく膨れ上がったものが見られる。

以上の形質よりタブノキに同定される。タブノキは、本州（暖地）、四国、九州、沖縄に分布する。常緑の高木で、高さ15 m、径1 mに達する。材は耐朽性、保存性ともに中庸で、建築、家具、土木、器具、楽器、船、彫刻、薪炭などに用いられる。

サクラ属 *Prunus* バラ科 図 496

横断面：小型で丸い道管が、単独あるいは2～3個放射方向および斜め方向に複合して散在する散孔材である。道管の径は、早材部から晩材部にかけてゆるやかに減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は、同性に近い異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で1～5細胞幅である。

以上の形質よりサクラ属に同定される。サクラ属には、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、シウリザクラ、ウメ、モモなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木または低木である。

フジ属 *Wisteria* マメ科 図 497

横断面：年輪のはじめに大型で丸い道管が、1～2列配列する環孔材である。晩材部では中型の道管のほかにごく小型の道管が多数集合して木部柔組織とともに接線方向の帯状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は同性に近い異性放射組織型で、1～8細胞幅である。

以上の形質よりフジ属に同定される。フジ属にはフジ、ヤマフジがあり、本州、四国、九州に分布する、つる性の落葉木本である。

センダン *Melia azedarach* L. var. *subtripinnata* Miq. センダン科 図 497

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、1～数列配列する環孔材である。孔圏部外の道管は単独または2～3個複合して散在し、年輪界付近の小道管は群状に複合する。道管の径は徐々に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管および中型の道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は平伏細胞である。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、1～6細胞幅である。小道管および中型の道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

以上の形質よりセンダンに同定される。センダンは、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ30m、径1mに達する。材は強さ中庸で、建築、家具、器具などに用いられる。

ハゼノキ *Rhus succedanea* L. ウルシ科 図 497

横断面：やや小型で厚壁の道管が、まばらに散在する散孔材である。道管の径は、早材部から晩材部にかけてゆるやかに減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、1～2細胞幅である。

以上の形質よりハゼノキに同定される。ハゼノキは、本州（関東南部以西）、四国、九州、沖縄に分布する落葉の高木である。

トチノキ *Aesculus turbinata* Blume トチノキ科 図 498

横断面：小型でやや角張った道管が、単独ないし放射方向に2～数個複合して密に散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。放射組織と道管との壁孔は、小型で密に分布する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、層階状に規則正しく配列する。

以上の形質よりトチノキに同定される。トチノキは北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ15～20m、径50～60cmに達する。材は軟らかく緻密であるが耐朽性、保存性がなく、容器などに用いられる。

ヤブツバキ *Camellia japonica* Linn. ツバキ科 図 498

横断面：小型でやや角張った道管が、単独ないし2～3個複合して散在する散孔材である。道管の径はゆるやかに減少する。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は8～30本ぐらいである。放射組織は平伏細胞と直立細胞からなる異性で、直立細胞には、大きく膨れているものが存在する。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で、1～3細胞幅である。直立細胞には大きく膨れているも

のが存在する。

以上の形質よりヤブツバキに同定される。ヤブツバキは本州、四国、九州に分布する。常緑の高木で、通常高さ5～10 m、径20～30cmである。材は強靱で、耐朽性が強く、建築、器具、楽器、船、彫刻などに用いられる。

エゴノキ属 *Styrax* エゴノキ科 図 498

横断面：年輪のはじめに、やや小型で丸い道管が、おもに2～4個放射方向に複合して散在し、晩材部ではごく小型で角張った道管が単独あるいは数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の径は、早材部から晩材部にかけてゆるやかに減少する。軸方向柔細胞が、晩材部において接線状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は10本前後である。放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で1～3細胞幅である。

以上の形質よりエゴノキ属に同定される。エゴノキ属には、エゴノキ、ハクウンボクなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の小高木で、高さ10 m、径30cmである。材は器具、旋作、薪炭などに用いられる。

散孔材 diffuse-porous wood

横断面：小型の道管が散在する。

放射断面：道管と放射組織が存在する。

接線断面：道管と多列幅の放射組織が存在する。

以上の形質より散孔材に同定される。本試料は保存状態が悪く、広範囲の観察が困難であることから、散孔材の同定にとどめる。

広葉樹 broad-leaved tree

横断面：道管が存在する。

放射断面：道管と放射組織が存在する。

接線断面：道管と放射組織が存在する。

以上の形質より広葉樹に同定される。本試料は保存状態が悪く、広範囲の観察が困難であることから、広葉樹の同定にとどめる。

樹皮 bark

師部柔細胞、師部放射柔細胞が見られる。

以上の形質より樹皮と考えられるが、樹種の同定には至らなかった。

5. 所見

同定の結果、旧練兵場跡出土の木材は、ヒノキ22点、針葉樹1点、ヤナギ属9点、クリ1点、ツブラジイ1点、シイ属2点、コナラ属アカガシ亜属33点、エノキ属1点、ムクノキ1点、ヤマグワ8点、

クスノキ3点、タブノキ1点、サクラ属2点、フジ属1点、センダン1点、ハゼノキ1点、トチノキ2点、ヤブツバキ3点、エゴノキ属1点、散孔材2点、広葉樹1点、樹皮3点であった。

ヒノキの木材は木理通直で大きな材が取れる良材である。ヤナギ属は耐朽性、保存性は低いが、切削、加工の容易な材である。クリは重厚で保存性の良い材である。シイ属（ツブラジイを含む）は耐朽性、保存性は低い材である。コナラ属アカガシ亜属は概して強靱で弾力に富んだ材である。エノキ属、ムクノキ、タブノキ、センダンは強さ中庸の材といえる。ヤマグワはやや堅硬で靱性に富んだ材である。クスノキは堅硬で耐朽性の高い材である。サクラ属はやや強い材といえ、耐朽性、保存性は高い。ハゼノキは硬く、トチノキは弱く軟らかい材であり、耐朽性、保存性も極めて低いが、切削、加工は容易である。ヤブツバキは強靱、堅硬な良材である。エゴノキ属はやや堅硬で、切削、加工は容易な材である。ヒノキは、やや傾斜のある適潤地を好み、急傾斜地、尾根筋、岩盤上にも生育する。ヒノキは温帯に広く分布する針葉樹である。ヤナギ属は湿地や河辺などの水辺に生育し、クリは乾燥した台地や丘陵地を好み、二次林要素でもある。コナラ属アカガシ亜属は一般にカシと総称されるが、イチイガシ、アラカシなど多くの種があり、イチイガシは自然度が高いが、アラカシは二次林性でもある。エノキ属は谷あい、斜面、河川沿いや平坦地に、ムクノキ、トチノキは谷あいなどの適潤地に生育する。ヤマグワは谷間や緩傾斜地の適潤な深層の肥沃地を好む。クスノキ、タブノキ、センダンは海岸沿いに多く、ヤブツバキは海岸から河川の沿岸に多く分布する。フジ属は日当たりの良い湿気のある山野に、ハゼノキはやや乾燥した尾根や傾斜面等に生育する。エゴノキ属は河川や谷沿いの湿地に生育する。コナラ属アカガシ亜属、シイ属（ツブラジイを含む）、クスノキ、タブノキ、ヤブツバキは常緑広葉樹であり、西南日本に分布する照葉樹林の主要構成要素である。ヤナギ属、クリ、エノキ属、ムクノキ、ヤマグワ、サクラ属、フジ属、センダン、ハゼノキ、トチノキ、エゴノキ属は温帯から温帯下部の暖温帯に分布する落葉広葉樹である。

最も多いコナラ属アカガシ亜属は照葉樹林主要構成要素であり、ヒノキは多くはないが照葉樹林内に生育し、ヤナギ属とヤマグワは河川や谷、流路沿いに生育することから、周辺地域はコナラ属アカガシ亜属を主とする照葉樹林が主要な森林であり、本遺跡周辺にヤナギ属とヤマグワが生育する河川や谷、流路沿いの水辺の環境の分布が考えられる。

参考文献

- 佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞。木材の構造，文永堂出版，p.20-48。
佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞。木材の構造，文永堂出版，p.49-100。
島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p.296
山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成，植生史研究特別第1号，植生史研究会，p.242

資料 番号	報文番号	地区名	遺構名	結果 (学名/和名)	
1		E 区	SR02	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
2		E 区	SR02	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
3		E 区	SR02	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
4		E 区	SR02	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
5		E 区	SR02	<i>Prunus</i>	サクラ属
6	2476	E 区	SR02 46	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
7		E 区東	SR02	<i>Cinnamomum camphora</i> Presl	クスノキ
8		E 区	SR02 41	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
9		E 区	SR02 48	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
10		E 区	SR02	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
11		E 区	SR02	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
12		E 区	SR02	<i>Morus australis</i> Poir.	ヤマグワ
13		E 区	SR02	<i>Castanopsis</i>	シイ属
14		E 区	SR02 43	diffuse-porous wood	散孔材
15		E 区	SR02 41 の下から	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
16		E 区	SR02 45	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
17		E 区	SR03 木 12	<i>Castanopsis cuspidata</i> Schottky	ツブラジイ
18	2485	E 区	SR02 49	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
19	2581	E 区	SR03 ④	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
20	2478	E 区	SR02 39	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
21	2586	E 区	SR03 30	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
22	2583	E 区	SR03 4	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
23	2585	E 区	SR03 5	<i>Camellia japonica</i> Linn.	ヤブツバキ
24	2582	E 区	SR03 12	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
25		E 区	SR03 26	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
26		E 区	SR03 27	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
27		E 区	SR03 28	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
28		E 区	SR03 28	<i>Salix</i>	ヤナギ属
29		E 区	SR03 12 の下辺り	<i>Salix</i>	ヤナギ属
30		E 区	SR03 12 の下辺り	<i>Celtis</i>	エノキ属
31		E 区	SR03 16	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
32	2591	E 区	SR03 6	<i>Cinnamomum camphora</i> Presl	クスノキ
33		E 区	SR03 7	<i>Salix</i>	ヤナギ属
34		E 区	SR03 8	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
35		E 区	SR03 8	<i>Salix</i>	ヤナギ属
36		E 区	SR03 8	<i>Rhus succedanea</i> L.	ハゼノキ
37	2584	E 区	SR03 15	<i>Melia azedarach</i> L. var. <i>subtripinnata</i> Miq.	センダン
38	2593	E 区	SR03 10	<i>Chamaecyparis obtusa</i> a Endl.	ヒノキ
39	2600	E 区	SR03 18	<i>Salix</i>	ヤナギ属
40	2600	E 区	SR03 18	<i>Salix</i>	ヤナギ属
41		E 区	SR03 24	<i>Salix</i>	ヤナギ属
42		E 区	SR03 24	<i>Salix</i>	ヤナギ属
43		E 区	SR03 木 12	<i>Morus australis</i> Poir.	ヤマグワ
44		E 区東側	SR02	<i>Cinnamomum camphora</i> Presl	クスノキ
45	2387	E 区	SR03 木 4	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
46	2387	E 区	SR03 木 4	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
47	2359	B 区	SR02 木 2	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
48		B 区	SR02 木 33	conifer	針葉樹
49		B 区	SR02 木 23	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
50	2387	B 区	SR02 木 4	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
51		B 区	SR02 木 28	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
52		B 区	SR02 木 27	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
53		B 区	SR02 木 34	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
54		B 区	SR02 木 13	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ
55		E 区	SR02(SR03)	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
56		E 区	SR02(SR03)	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
57		E 区	SR02(SR03)	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
58		E 区	SR02(SR03)	<i>Aesculus turbinata</i> Blume	トチノキ
59		E 区	SR02(SR03)	<i>Aesculus turbinata</i> Blume	トチノキ
60		E 区	SR02(SR03)	bark	樹皮
61		B 区	SR02 木 6	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
62		B 区	SR02 木 11	<i>Aphananthe aspera</i> Planch.	ムクノキ
63		B 区	SR02 木 8	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ

表 24 旧練兵場遺跡における樹種同定結果 その1

資料 番号	報文番号	地区名	遺構名	結果 (学名/和名)	
64		B 区	SR02 木 5	<i>Camellia japonica</i> Linn.	ヤブツバキ
65		B 区	SR02	broad-leaved tree	広葉樹
66		B 区	SR02 木 3	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
67		B 区	SR02	diffuse-porous wood	散孔材
68		B 区	SR02	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
69		B 区	SR02	bark	樹皮
70		B 区	SR02	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
71		B 区	SR02	<i>Morus australis</i> Poiret	ヤマグワ
72		B 区	SR02 木 16	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
73		B 区	SR02	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
74		B 区	SR02	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
75		B 区	SR02	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
76		B 区	SR02	<i>Morus australis</i> Poiret	ヤマグワ
77		B 区	SR02	<i>Prunus</i>	サクラ属
78		B 区	SR02	<i>Wisteria</i>	フジ属
79		B 区	SR02	bark	樹皮
80		B 区	SR02	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
81		B 区	SR02	<i>Morus australis</i> Poiret	ヤマグワ
82		B 区	SR02	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
83		B 区	SR02	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
84		B 区	SR02	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
85		B 区	SR02	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
86		B 区	SR02	<i>Morus australis</i> Poiret	ヤマグワ
87		B 区	SR02	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
88		B 区	SR02	<i>Morus australis</i> Poiret	ヤマグワ
89		B 区	SR02	<i>Morus australis</i> Poiret	ヤマグワ
90		B 区	SR02	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
91		B 区	SR02 木 19	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
92		B 区	SR02 木 19	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
93		B 区	SR02 木 18	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
94		B 区	SR02 木 20	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
95		B 区	SR02	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
96		B 区	SR02 木 22	<i>Styrax</i>	エゴノキ属
97		E 区	SR02	<i>Salix</i>	ヤナギ属
98		E 区	SR02	<i>Machilus thunbergii</i> Sieb.et Zucc.	タブノキ
99		E 区	SR03 24	<i>Castanopsis</i>	シイ属
100		E 区	SR03 24	<i>Camellia japonica</i> Linn.	ヤブツバキ

表 25 旧練兵場遺跡における樹種同定結果 その2

Ⅲ. 種実同定

1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

2. 試料

試料は、A区 SH04・K2、SP304、SP397 と B区 SR02 最下層の下、最下層の下の下、最下層の下の下の下、SH27・C20・K2 の計7点である。すべて水洗選別済みである。

3. 方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

4. 結果

(1) 分類群

樹木 19、草本 2 の計 21 分類群が同定される。学名、和名および粒数を表 26 に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載する。

[樹木]

ヤマモモ *Myrica rubra* S. et Z. 核 (半形) ヤマモモ科

茶褐色で楕円形を呈し、両端がややとがる。一端にへそがあり、表面は粗い。断面は扁平である。

イチイガシ *Quercus gilva* Blume 堅果 (完形・破片) ブナ科

黒褐色で楕円形を呈し、先端に明瞭な花柱を持つ。花柱の先端は直上かやや内側に向き、殻斗壁が厚い。殻斗は輪状紋をもち基部から先端に向かって直線的な椀状を呈する。

コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* 殻斗・幼果 ブナ科

殻斗は黒褐色でゆるやかな椀状を呈し、輪状紋がある。

幼果は黒褐色で輪状紋の殻斗に包まれている。上端は花柱が突出している。

コナラ属 *Quercus* 堅果 (破片) ブナ科

黒褐色で楕円形を呈し、一端につき部が残る。表面は平滑である。この分類群は殻斗欠落しており、属レベルの同定までである。

ムクノキ *Aphananthe aspera* Planch. 核 (完形・破片) ニレ科

淡褐色で広卵形を呈し、一端に白色の突起がある。表面には微細な網目模様がある。断面は扁平～楕円形である。

クスノキ *Cinnamomum camphora* S. 種子 (完形・破片) クスノキ科

黒褐色で球形を呈す。一条の稜線が走りその中央が突起する。

モモ *Prunus persica* Batsch 炭化核 (破片) バラ科

黄褐色～黒褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある。

フジ属 *Wisteria* 豆果（破片） マメ科

狭倒卵形で扁平を呈す。ピロード状に短毛を蜜生し、果皮は厚い。

イヌザンショウ *Zanthoxylum schinifolium* S. et Z. 種子 ミカン科

種子は黒褐色で楕円状球形を呈す。側面に長く深いへそがある。表面にやや大きな網目模様がある。

カラスザンショウ *Zanthoxylum ailanthoides* S. et Z. 種子 ミカン科

黒色で楕円形を呈し、側面に長く深いへそがある。表面には大きい網目模様がある。

アカメガシワ *Mallotus japonicus* Muell. et Arg. 種子 トウダイグサ科

黒色で球形を呈し、「Y」字状のへそがある。表面にはいぼ状の突起が密に分布する。

ウルシ属 *Rhus* 種子 ウルシ科

茶褐色で楕円形を呈す。表面には微細な縦方向の模様がある。断面は扁平である。

トチノキ *Aesculus turbinata* Blume 種子（完形・破片） トチノキ科

黒色と茶褐色の部分とに分かれ、黒色の部分に光沢がある。

ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. 種子 ムクロジ科

灰黒色で円状球形を呈し、線形のへそがみられる。

ブドウ属 *Vitis* 種子（完形・破片） ブドウ科

茶褐色で卵形を呈し、先端がとがる。腹面には二つの孔があり、背面には先端が楕円形のへそがある。

ヤブツバキ *Camellia japonica* L. 幼果 ツバキ科

幼果は黒色で球形を呈す。表面はやや粗い。

エゴノキ *Styrax japonica* S. et Z. 核（完形・破片） エゴノキ科

黒褐色で楕円形を呈し、下端にへそがある。表面に3本の溝が走る。

ハクウンボク *Styrax obassia* S. et Z. 核（完形・破片） エゴノキ科

黒褐色で楕円形を呈し、下端にへそがある。表面に3本の浅い溝と、低い稜がある。

クサギ *Clerodendrum trichotomum* Thunb. 核（破片） クマツヅラ科

暗褐色で倒卵形を呈す。断面は三日月形。腹部の一端には発芽口があり、背面の表面には大きな網目状の模様がある。

[草本]

ノブドウ *Ampelopsis brevipedunculata* var. *heterophylla* Hara 種子（完形・破片） ブドウ科

茶褐色で広卵形を呈す。腹面に「ハ」字状の孔が2つあり、背面のカラザは長く伸びる。

ヤブガラシ *Cayratia japonica* Gagn. 種子（完形・破片） ブドウ科

黒褐色で広倒卵形を呈し、基部は嘴状に細かく尖る。背面の正中線上は浅い帯状の凹みがあり、その両面はやや鋭い稜状隆条が5～6個ずつ直角に並ぶ。光沢はない。

(2) 種実群集の特徴

1) A区

種実は含まれていなかった。

2) B区

・SH27・C20・K2

炭化したモモ核が1点同定された。

・SR02 最下層（下、下の下、下の下の下）

ほとんどが樹木種実であり、最も多いのはコナラ属アカガシ亜属で、次いでイチイガシ、コナラ属、トチノキ、クスノキ、ブドウ属、ハクウンボク、アカメガシワが同定された。

5. 考察

旧練兵場遺跡における種実同定の結果、A区には種実が含まれておらず、B区 SH27・C20・K2の種実は栽培植物のモモ核であった。

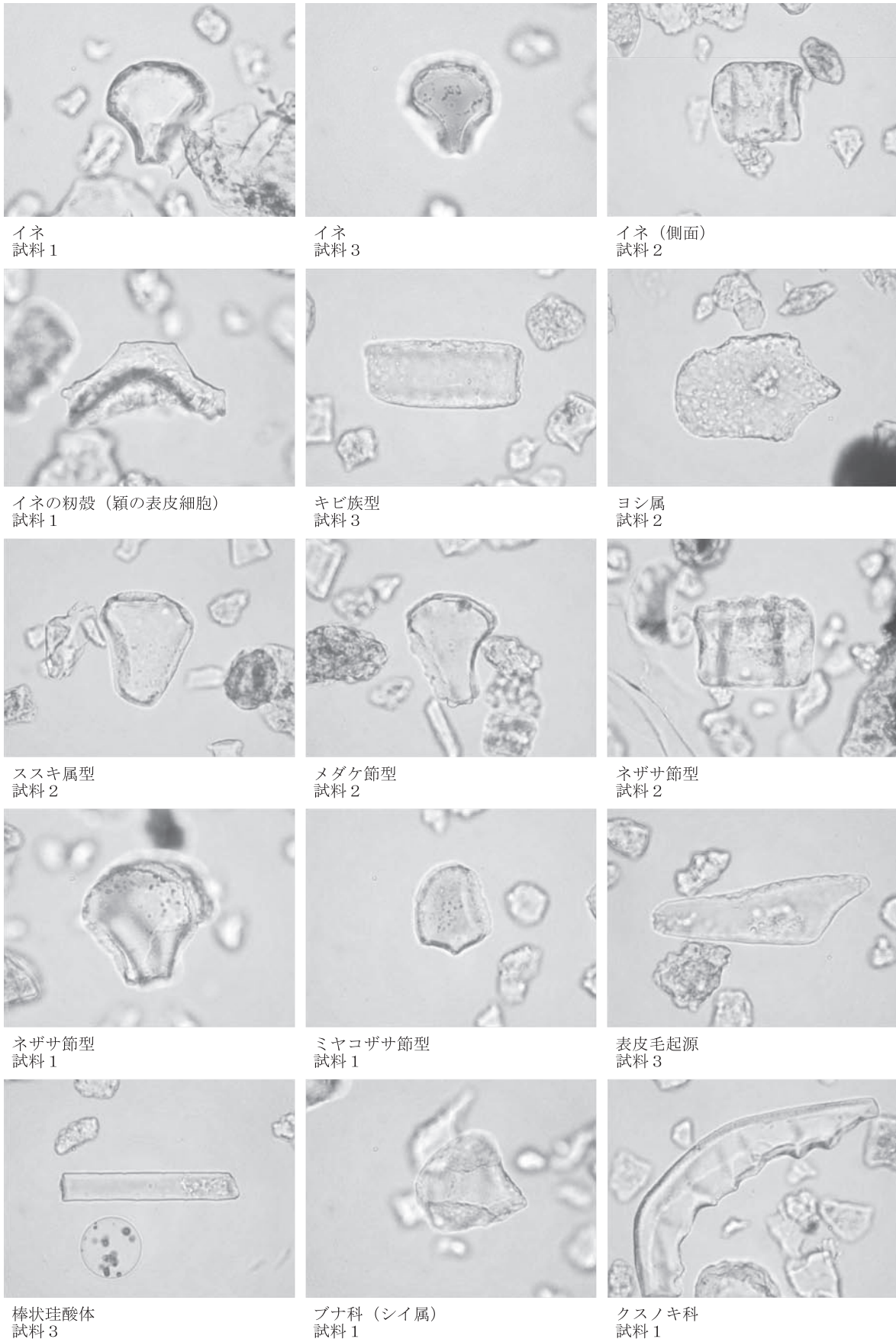
B区 SR02 最下層では、下および下の下から多くの種実が同定された。樹木種実がほとんどを占め、検出数の多いコナラ属アカガシ亜属、イチイガシはクスノキやヤブツバキも含め照葉樹林の主要構成要素であることから、周囲にカシ類を主とする照葉樹林が分布していたとみなされる。トチノキ、ハクウンボク、エゴノキ、ムクノキ、ムクロジ、フジ属は、河辺や谷沿いなどの湿地に分布するため、周囲は河辺や谷沿いであったと推定される。ウルシ属、イヌザンショウ、カラスザンショウ、アカメガシワは落葉広葉樹で二次林種でもあり、周辺で人為活動が行われていたとみられる。ヤマモモ、ブドウ属も食用となる有用植物である。

参考文献

- 金原正明（1996）古代モモの形態と品種. 月刊考古学ジャーナル No.409, ニューサイエンス社, p.15 - 19.
南木陸彦（1991）栽培植物. 古墳時代の研究第4巻生産と流通 I, 雄山閣出版株式会社, p.165 - 174.
南木陸彦（1992）低湿地遺跡の種実. 月刊考古学ジャーナル No.355, ニューサイエンス社, p.18 - 22.
南木陸彦（1993）葉・果実・種子. 日本第四紀学会編, 第四紀試料分析法, 東京大学出版会, p.276 - 283.
渡辺誠（1975）縄文時代の植物食. 雄山閣, 187p.

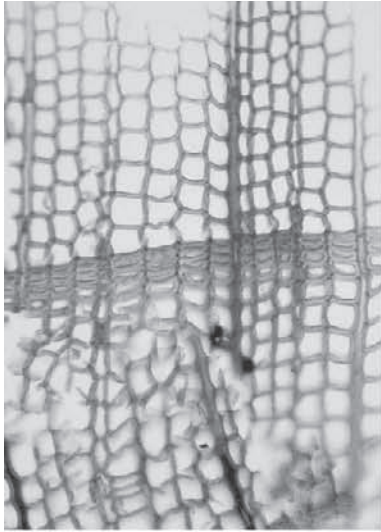
学名	分類群	和名	部位	A区		B区	
				SH04 K2	SP304	SH27 C20 K2	SH27 C20 K2
Arbor		樹木					
<i>Myrica rubra</i> S. et Z.		ヤマモモ	核 (半形)	1		6	1
<i>Quercus gilva</i> Blume		イチイガシ	堅果 (破片)			63	
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカガシ亜属	殻斗	43		128	2
<i>Quercus</i>		コナラ属	幼果	45		141	
<i>Aphananthe aspera</i> Planch.		ムクノキ	堅果 (破片)	16		15	19
<i>Cinnamomum camphora</i> S.		クスノキ	核 (破片)	3			
<i>Prunus persica</i> Batsch		モモ	種子 (破片)	1		2	
<i>Wisteria</i>		フジ属	炭化核 (破片)	4		6	
<i>Zanthoxylum schinifolium</i> S. et Z.		イヌザンショウ	豆果 (破片)	14		2	
<i>Zanthoxylum ailanthoides</i> S. et Z.		カラスザンショウ	種子	1			1
<i>Mallotus japonicus</i> Muell. et Arg.		アカメガシワ	種子	2		3	
<i>Rhus</i>		ウルシ属	種子	6		10	
<i>Aesculus turbinata</i> Blume		トチノキ	種子 (破片)			2	
<i>Sapindus mukorossi</i> Gaertn.		ムクロジ	果実 (破片)	2		1	2
<i>Vitis</i>		ブドウ属	種子	1		39	
<i>Camellia japonica</i> L.		ヤブツバキ	種子	13		1	
<i>Syrax japonica</i> S. et Z.		エゴノキ	幼果	1		8	
<i>Syrax obassia</i> S. et Z.		ハクウンボク	核 (破片)	1		3	
<i>Clerodendron trichotomum</i> Thunb.		クサギ	核 (破片)	1		1	
Herb		草本	核 (破片)	2			
<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> var. <i>Heterophylla</i> Hara		ノブドウ	種子 (破片)	2		3	
<i>Cayratia japonica</i> Gagn.		ヤブガラシ	種子 (破片)	1		1	
Total		合計		177	0	445	24
Unknown		不明		1	0	0	1

表 26 旧練兵場遺跡における種実同定結果



50 μ m

図 492 旧練兵場遺跡の植物珪酸体 (プラント・オパール)

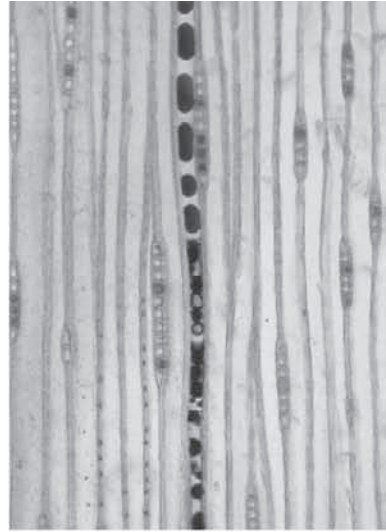


横断面 ————— : 0.2mm

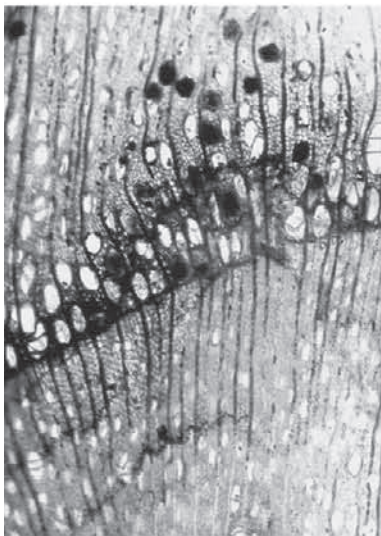
1. 15 ヒノキ



放射断面 ————— : 0.05mm



接線断面 ————— : 0.2mm

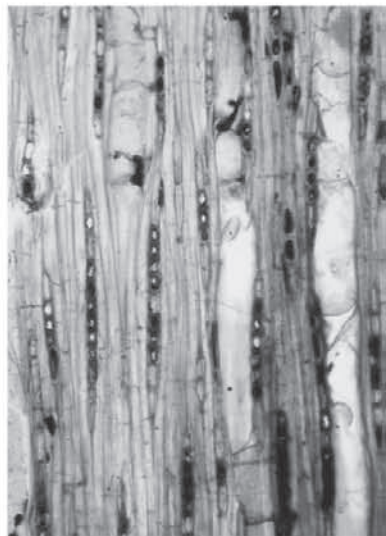


横断面 ————— : 0.5mm

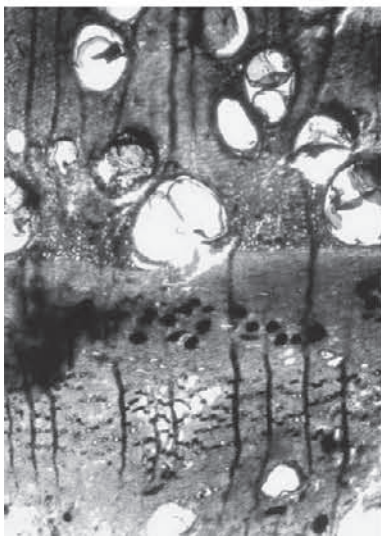
2. 41 ヤナギ属



放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.5mm

3. 54 クリ

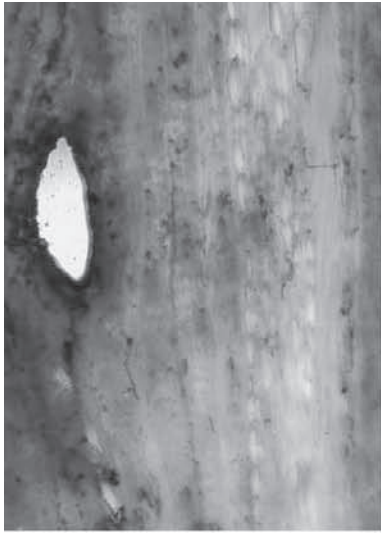


放射断面 ————— : 0.2mm

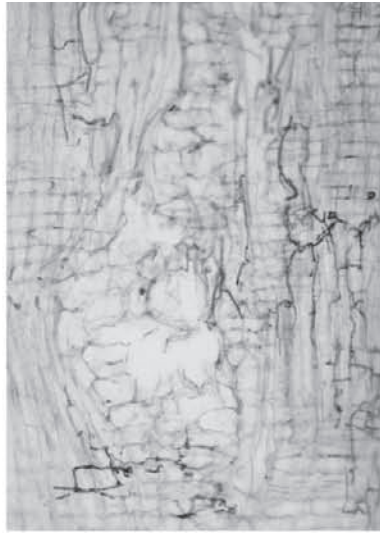


接線断面 ————— : 0.2mm

図 493 旧練兵場遺跡の木材 I



横断面 ————— : 0.2mm

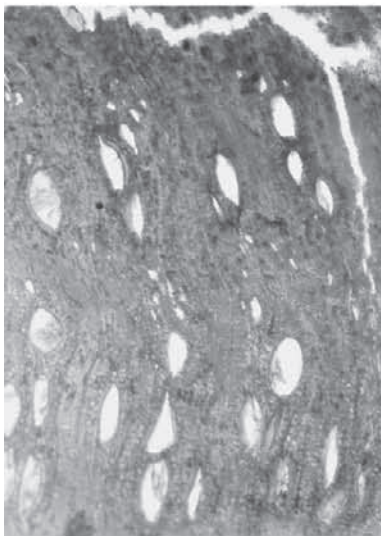


放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm

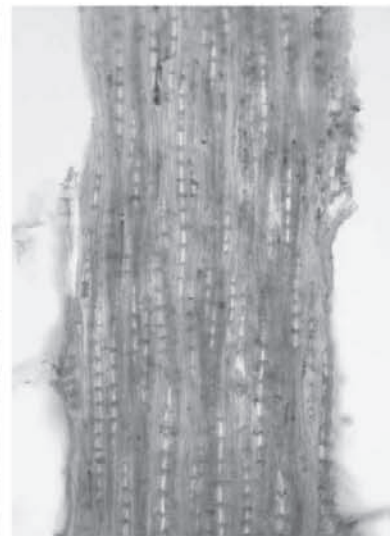
4. 17 ツブラジイ



横断面 ————— : 0.5mm

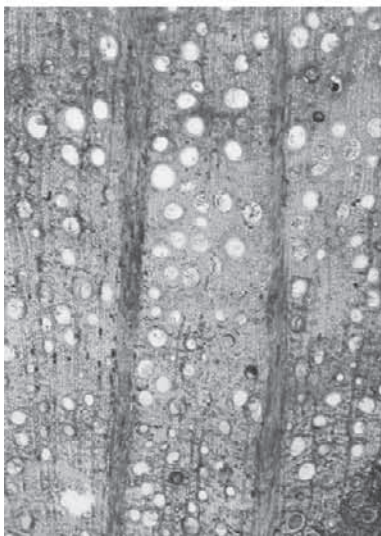


放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm

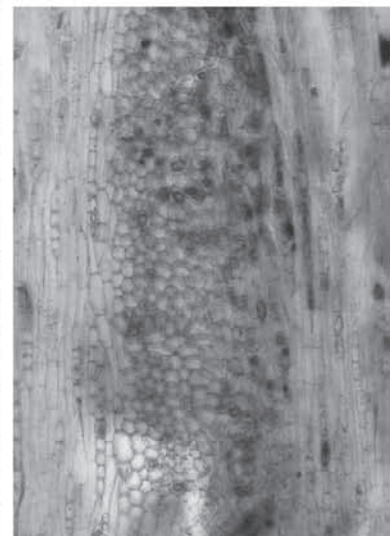
5. 13 シイ属



横断面 ————— : 0.5mm



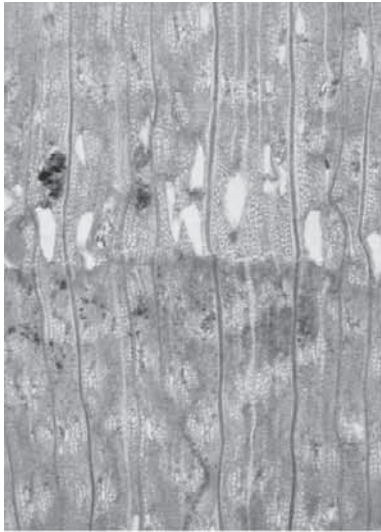
放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm

6. 87 コナラ属アカガシ亜属

図 494 旧練兵場遺跡の木材 II



横断面 ————— : 0.5mm

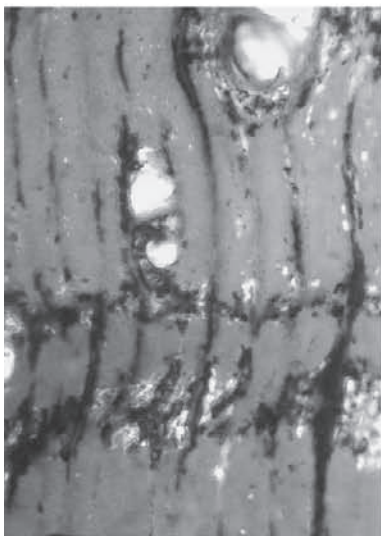


放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm

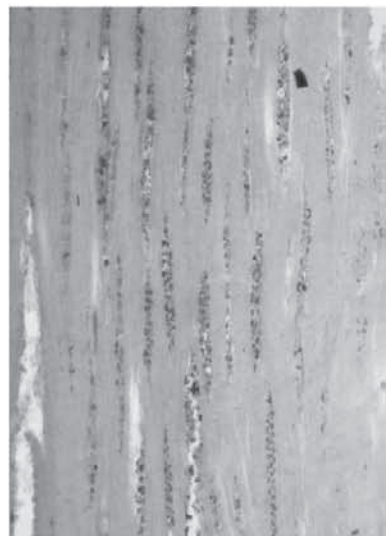
7. 30 エノキ属



横断面 ————— : 0.2mm

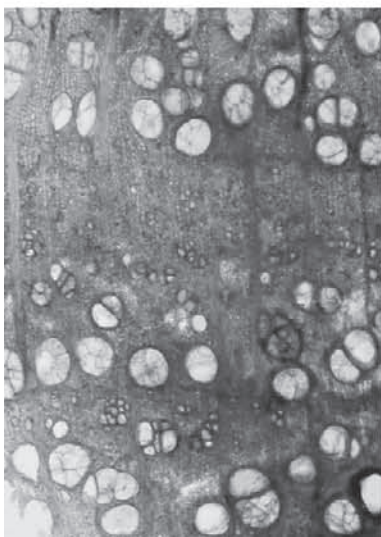


放射断面 ————— : 0.2mm

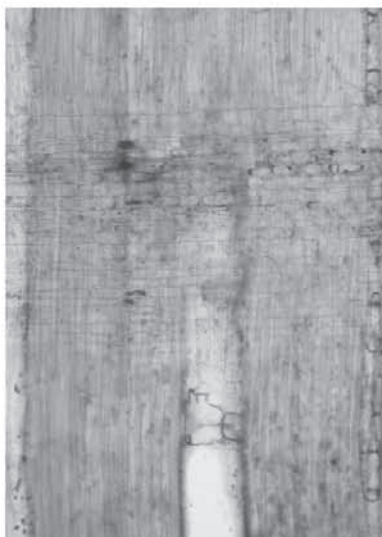


接線断面 ————— : 0.2mm

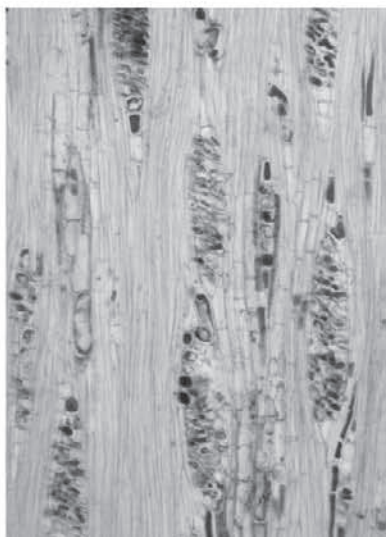
8. 62 ムクノキ



横断面 ————— : 0.5mm



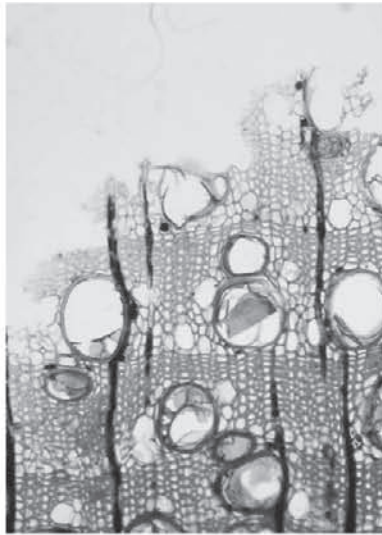
放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm

8. 88 ヤマグワ

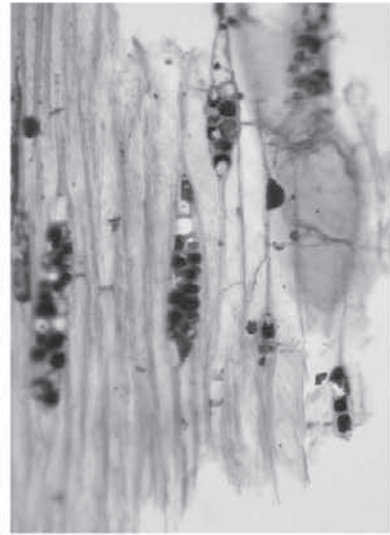
図 495 旧練兵場遺跡の木材Ⅲ



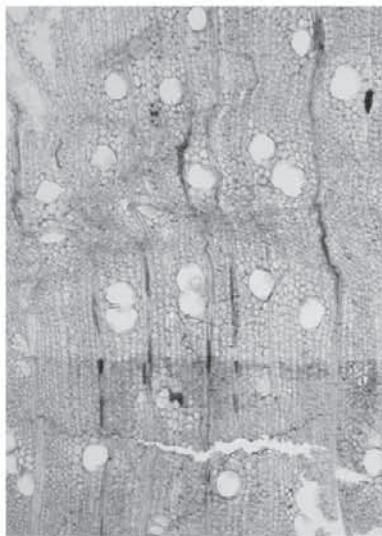
横断面 ————— : 0.5mm
10. 32 クスノキ



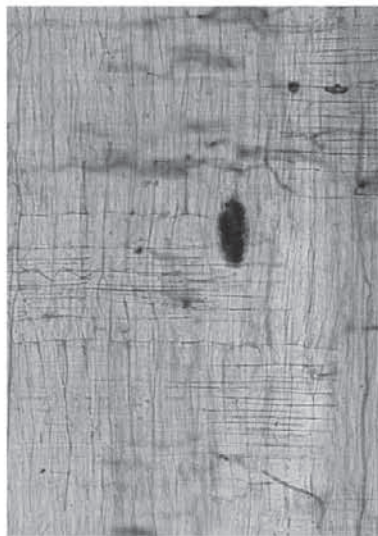
放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm



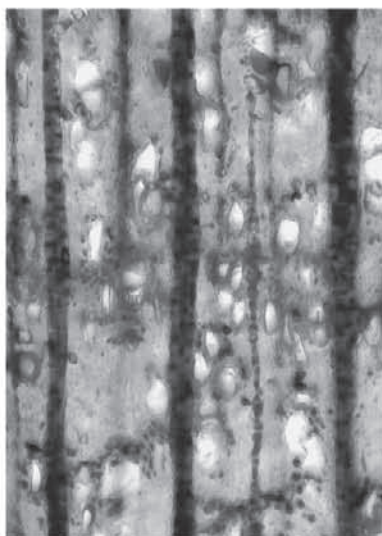
横断面 ————— : 0.5mm
11. 98 タブノキ



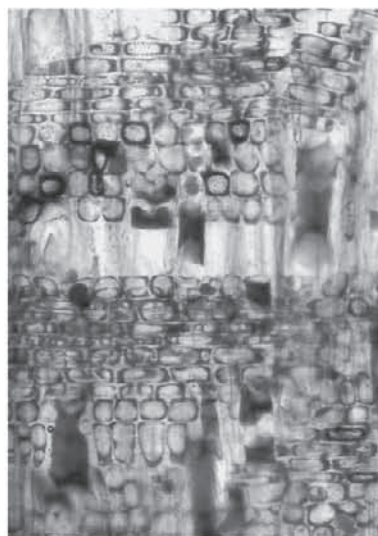
放射断面 ————— : 0.2mm



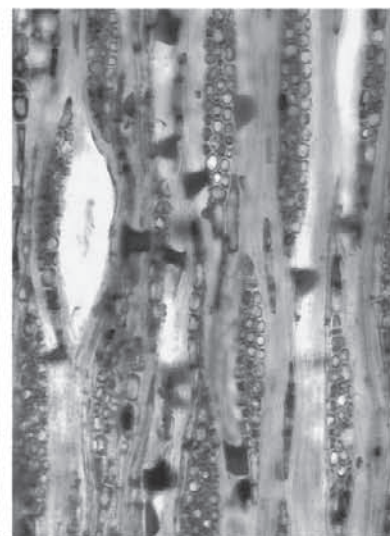
接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.2mm
12. 5 サクラ属

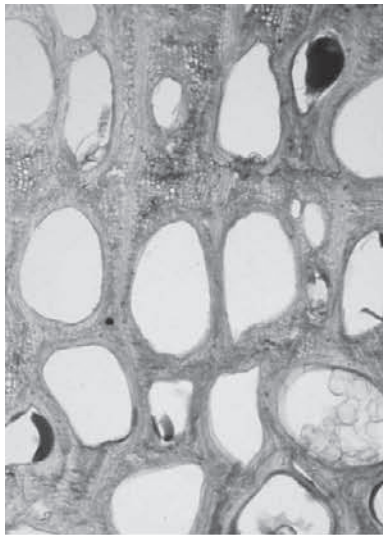


放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm

図 496 旧練兵場遺跡の木材Ⅳ



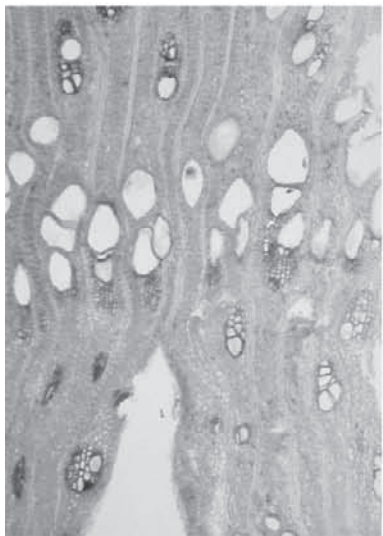
横断面 ————— : 0.5mm
13. 78 フジ属



放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm



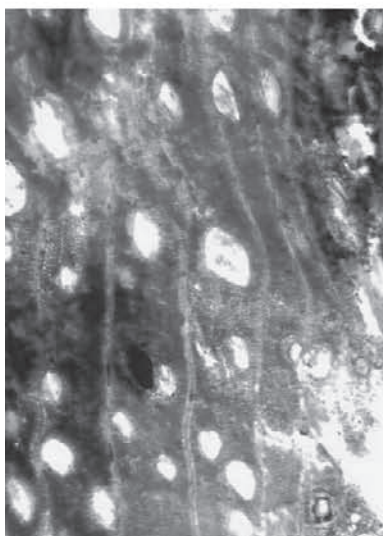
横断面 ————— : 0.5mm
14. 37 センダン



放射断面 ————— : 0.2mm



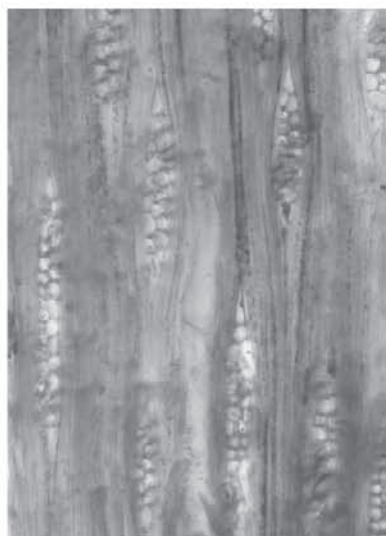
接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.5mm
15. 36 ハゼノキ

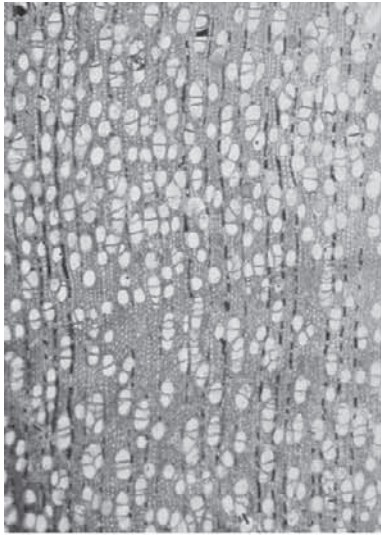


放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm

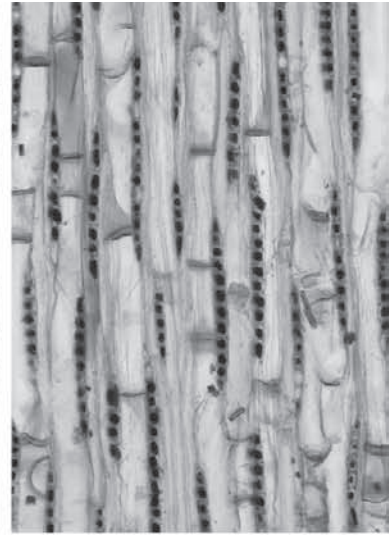
図 497 旧練兵場遺跡の木材V



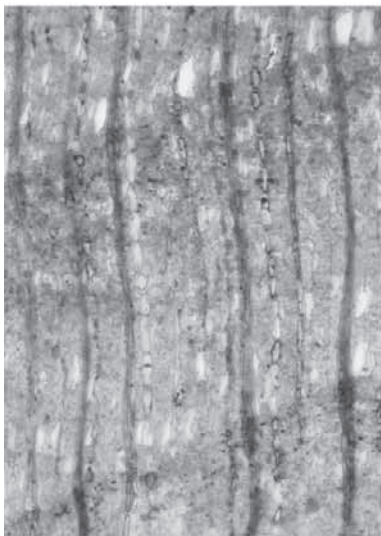
横断面 ————— : 0.5mm
16. 59 トチノキ



放射断面 ————— : 0.2mm



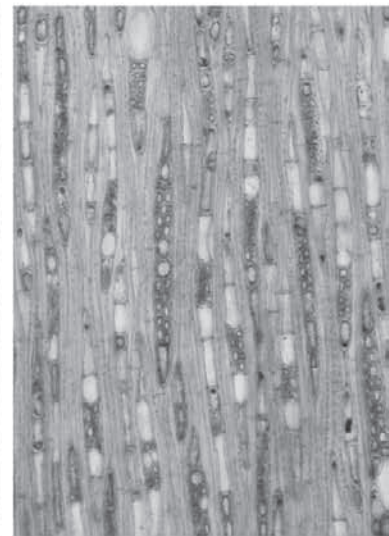
接線断面 ————— : 0.2mm



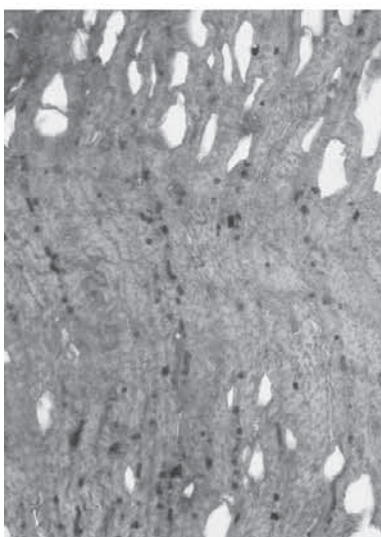
横断面 ————— : 0.2mm
17. 100 ヤブツバキ



放射断面 ————— : 0.1mm



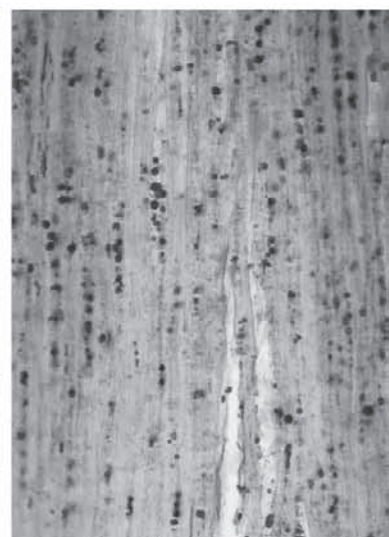
接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.2mm
18. 96 エゴノキ属

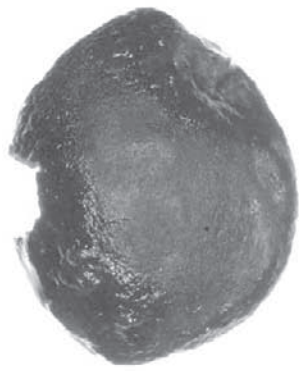


放射断面 ————— : 0.1mm



接線断面 ————— : 0.2mm

図 498 旧練兵場遺跡の木材VI



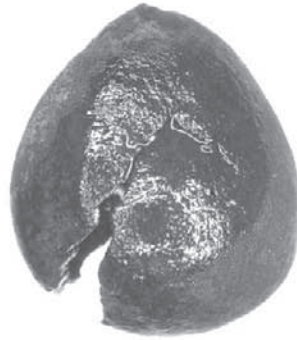
1 ヤマモモ核

1.0mm



2 イチイガシ堅果

5.0mm



3 ムクノキ核

1.0mm



4 クスノキ種子

1.0mm



5 モモ核

1.0mm



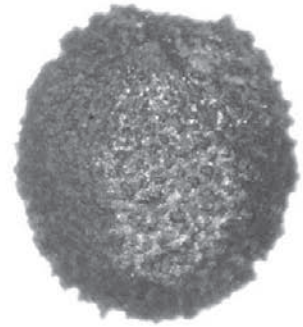
6 フジ属豆果

5.0mm



7 カラスザンショウ種子

1.0mm



8 アカメガシワ種子

1.0mm



9 ウルシ属種子

1.0mm



10 トチノキ種子

5.0mm



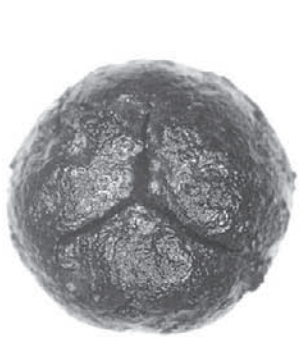
11 ムクロジ種子

5.0mm



12 ブドウ属種子

1.0mm



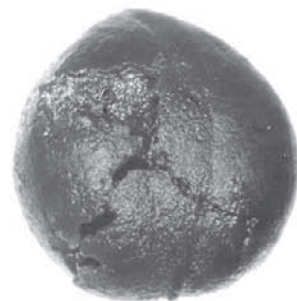
13 ヤブツバキ幼果

5.0mm



14 エゴノキ核

1.0mm



15 ノブドウ種子

1.0mm



16 ヤブガラスシ種子

1.0mm

図 499 旧練兵場遺跡の種実

旧連兵場遺跡出土木製品の樹種

三村 昌史(パレオ・ラボ)

旧連兵場遺跡は、香川県西部の善通寺市仙遊町に位置する縄紋時代晩期～近世にかけての複合遺跡であり、特に弥生時代に巨大集落が存在したことが明らかになっている。今回弥生時代中期頃と考えられる出土木製品のうち 22 点について樹種同定を行い、樹種構成から樹種の選択性や各製品に対する材質への要求などについて調査した。

方法

木製品から剃刀を用いて横断面・放射断面・接線断面の 3 方向の薄片を切り取り、ガムクロラル(アラビアゴム・抱水クロラル・グリセリン・蒸留水を混合したもの)で封入してプレパラートを作成した。検鏡は光学顕微鏡にて 40～400 倍で行い、同定は現生標本との対照に拠った。同定後、プレパラートには KGW - の頭文字と通し番号を付してパレオ・ラボに保管した。

結果

樹種同定の結果、木製品全 22 点中には計 6 分類群が認められた。同定リストを表 25 に掲げる。次に、検出された各分類群の解剖学的記載を行うと共に写真図版を付して同定の根拠とし、また日本国内における分布や生態についても簡潔に述べる。

ヒノキ *Chamaecyparis obtuse* (Sieb. et Zucc.) Endl. (ヒノキ科) 図 500 1a～1c

仮道管と放射柔細胞、および樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材へかけての移行は緩やかで、樹脂細胞はこの移行部分にかけて散在する傾向にある。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型でふつう 1 分野に 2 個。

ヒノキは主に暖温帯に分布し山地の尾根沿いなどに生育する、高木になる常緑針葉樹である。材質はやや軽軟であるが強度に優れ、加工し易く保存性が著しく高いという特徴がある。

アスナロ *Thujopsis dolabrata* Sieb. et Zucc. (ヒノキ科) 図 500 2a～2c

仮道管と放射柔細胞、および樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、樹脂細胞はこの移行部分にかけて散在する傾向にある。放射柔細胞には所々内容物が詰まっている。分野壁孔は小さなヒノキ型でふつう 1 分野に 2～4 個。

アスナロは高木になる常緑針葉樹で、温帯に分布する。材質は硬さ・重さが中庸で、割裂・加工性も中庸。耐久性は良好な部類に入り、水湿にも強い。

アカガシ亜属 *Cyclobalanopsis* (ブナ科) 図 500 3a～3c

中型(直径 100—120 μ m)で丸い導管が単独で 1—数列まとまり、やや斜めに連なって放射方向に配列する放射孔材。導管の穿孔は単一で、木部柔細胞は数列の束となって何層もの帯状に配列する。導管の内腔にはチロースが認められる。放射組織は同性で、単列のものに複合放射組織が混じる。導管と放射組織との壁孔は柵状。

アカガシ亜属の母植物としてはアカガシ *Quercus acuta* Thunb. ex Murray、シラカシ *Quercus myrsinaefolia*

Blume の他数種が考えられる。種によって若干分布は異なるが、いずれも高木になる常緑広葉樹で、暖温帯の主要な樹種である。材質はいずれも重硬で強靱な部類に属し、加工は困難、割裂性は中庸～やや困難である。

クスノキ *Cinnamomum camphora* (L.) Presl (クスノキ科) 図 501 4a～4c

大型(直径約 150 - 220 μ m)で厚壁の導管が、単独あるいは 1 - 2 個複合してまばらで均等に分布する散孔材。導管の穿孔は単一で、内腔にはチロースおよびらせん肥厚が認められる。木部柔細胞は周囲状で、一部に顕著な油細胞が認められる。放射組織は異性で 2 列程度。導管と放射組織との壁孔は大きなレンズ状。

クスノキは高木になる常緑広葉樹で、暖温帯に分布し照葉樹林の指標となる。また日本に生育する樹木のうちで最も高くなるともいわれる。材質は硬さ・重さがやや軽軟～中庸、切削加工は容易であり、また精油分を含むので水湿に強く対朽性があり、そのうちの樟脳成分により防虫性も有する。

クスノキ科 Lauraceae 図 501 版 5a～5c

小型(直径約 30 - 60 μ m)の導管が、単独あるいは放射方向に数個複合して均等に分布する散孔材。導管の穿孔は単一。放射組織は異性で 2 - 3 列程度。油細胞が認められる。導管と放射組織との壁孔は大きなふるい状。

クスノキとタブノキ *Machilus thunbergii* Sieb. et Zucc. 以外は、クスノキ科の詳細な同定は材構造がたがいに良く似ていることから今のところ困難であり、クスノキ科とした。クスノキ科には様々な種が含まれ、また材質も種により異なっている。

マタタビ属 *Actinidia* (マタタビ科) 図 501 6a～6c

年輪の始めに大型(直径約 200 - 250 μ m)で薄壁の導管が間隔を置いて一列に分布し、その間隙および晩材部では小型(直径約 50 - 80 μ m)で薄壁の導管が散在する環孔材。導管の穿孔は単一。放射組織は異性で 3 - 4 列程度のものと、上下に長く連なった直立細胞からなる単列のものが認められる。

マタタビ属の母植物としてはサルナシ *Actinidia arguta* (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Miq. やマタタビ *Actinidia polygama* (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Maxim. などが主に考えられる。どちらも国内の山中に普通な木本性蔓植物である。材質は緻密で従曲性がある。

考察

木製品の器種別に着目すると、まず欵には 2 点ともアカガシ亜属(カシ類)の材が用いられていた。欵には、「打ち下ろし」・「引き」・「ならし」といった外力に耐え得る丈夫な材を用いる必要があると考えられるが、アカガシ亜属の材は硬く強靱であるから、適材が選択されていると指摘できる。一般に硬く強靱な材は割裂・加工の面で困難性を伴うという側面もあるが、木取りをみると 2 点とも柁目取りで虎斑もでていることから、おそらく軟らかい組織である広放射組織(放射方向に走る太い髄線として肉眼視できる)を利用して割裂し、その後削りなどの加工を行ったものとみられる。香川県内の諸遺跡における弥生時代の欵の用材をみてみると、高松市井手東 I 遺跡では未製品なども含めてアカガシ亜属の材が重点的で(能城・鈴木 1995)、善通寺市市龍川五条遺跡 I においてもアカガシ亜属の材が見出され

ており(パリノ・サーヴェイ株式会社 1996)、本遺跡の結果との共通性が認められる。西日本において照葉樹林が潜在植生である地域での鋤の用材としてはアカガシ亜属の材が多用されており、こうした地域の一般的な傾向とも調和的である。

鋤などの柄とみられる把手状の木製品(No.3)にはヒノキの材が用いられていた。ヒノキは針葉樹材の中ではやや軽軟な部類に入るものの強度には優れるので、このような材質に着目した樹種選択が成された可能性がある。

また、片面に削りによる窪みが認められる盤状の製品(No.5,6)はクスノキの材が用いられていた。西日本では刳物の用材としてしばしば見出される材であり、クスノキの材が加工容易でかつ大径が得られることから選択され用いられたとみられる。

板状の製品(No.7,8,10～15,18～22)にはアカガシ亜属の1点(No.15)を除き、すべて針葉樹材で占められていた。その内訳はヒノキが11点、アスナロが2点である。およそ弥生時代以降こうした板材の使用は顕著になり、用材としては軽軟な部類の針葉樹材がほとんどを占める傾向にある。検出されたヒノキやアスナロも軽軟な部類に属する材で、材質からみると切削加工が容易であるばかりでなく、柾目・板目どちらにも割裂し易く、材が元来通直であるので板材に適することから選択されたと考えられる。これらの板状の製品は、角材状のもの(No.17)、一方がやや棒状のもの(No.12)、柄穴が認められるもの(No.7)など様々で、それぞれ異なった用途であったと考えられるが、使用法に応じた樹種の使い分けは不明である。

その他、板状で残存部がくの字状を呈する製品(No.4)にはマタタビ属が用いられていた。加工のみられない自然木では類例があるものの、木製品からマタタビ属の材が検出されることは稀であり、福井県鳥浜貝塚では輪状の製品に用いられて(能城ほか 1996)、マタタビ属の従曲性に富んだ材質が巧みに利用されている例がある。本製品は完形をとどめていないため具体的な用途は明らかでないが、マタタビ属の材質を生かすなんらかの使用法をとっていた可能性が想定される。

次に全体の樹種構成に着目してみると、今回の同定点数が少ないことや、各製品がどの程度含まれるのかということに影響される面があるものの、ヒノキの材が22点中12点と多用されている傾向にあることがわかる(表27)。このようなヒノキ材の多用は、弥生時代中期を中心とした高松市井手東I遺跡の出土木製品や、古墳時代～古代を中心とした坂出市下川津遺跡の出土木製品においても確認されている(能城・鈴木 1990a,1995; 島地・林 1990)。時代的にみて当時広範で集約的な木材流通が存在した可能性は低く、このことは花粉分析結果(例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社 1990)や自然木の樹種同定結果(能城・鈴木 1990b)からも類推されるように、周辺に当時ヒノキが比較的多く分布していた地域が存在したということを示している。しかしながら現在の植物分布からみると香川県内にはヒノキの天然分布は非常に限られており、能城・鈴木(1990)の指摘の通り選択的な伐採と木材利用により時代が下るにつれ次第にその姿を消していったことが想定される。また、アスナロについても現在の分布では香川県内に天然分布しないにもかかわらず材が見出されているのも同様な背景による可能性があろう。香川県内においては他の地域と比較して樹種同定および花粉分析による考証があまり行われてきておらず、古植生の変遷と実際的な木材利用とが相互にどのように関連するかについて、今後のデータの蓄積により明らかにされていくことが望まれる。

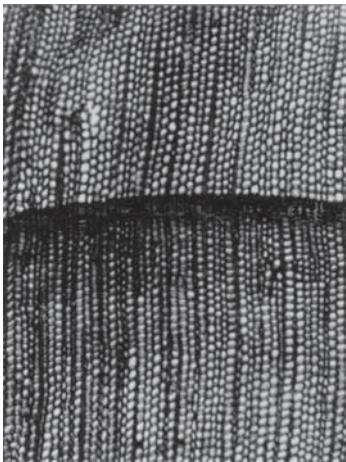
引用文献

- 能城修一・鈴木三男 (1990a) 昭和 63 年度調査の分析委託結果. 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ 下川津遺跡―第2分冊―」533 - 567
- 能城修一・鈴木三男 (1990b) 善通寺市永井遺跡の木材化石群集. 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第九冊 永井遺跡 附編・観察表・写真図版編」
- 能城修一・鈴木三男 (1995) 井手東 I 遺跡出土の木製品の樹種. 高松市教育委員会・建設省四国地方建設局「一般国道 11 号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第四冊 井手東 I 遺跡(自然科学分析・考察編)」1 - 28
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (1990) 下川津遺跡における花粉・珪藻分析委託報告. 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ 下川津遺跡―第2分冊―」479 - 500
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (1996) 龍川五条遺跡から出土した木製品の樹種. 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第二十三冊 龍川五条遺跡 I 第1分冊」283 - 291
- 島地謙・林昭三 (1990) 昭和 61 年度調査の分析委託結果. 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ 下川津遺跡―第2分冊―」520 - 532

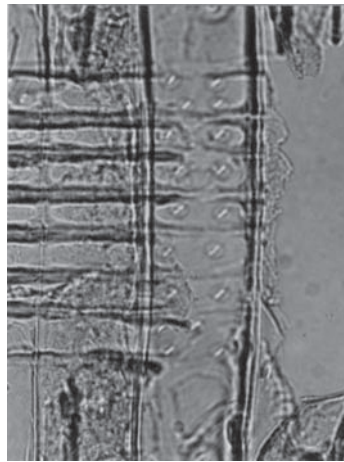
木製品 No.	報文番号	製品名	樹種	備考	木取り	保管 No.
1	2593	鋳	アカガシ亜属	身	柁目	KGW-001
2	2594	鋳	アカガシ亜属	身	柁目	KGW-002
3	2592	棒状木製品	クスノキ科		芯外し	KGW-003
4	2599	木製品	マタタビ属		板目	KGW-004
5	2589	木器等	クスノキ	盤状	柁目	KGW-005
6	2590	木製品	クスノキ	盤状	柁目	KGW-006
7	2604	板状木製品	ヒノキ	柄穴有り	斜め	KGW-007
8	2602	板状木製品	ヒノキ		板目	KGW-008
9	2591	木製品	クスノキ		半裁?	KGW-009
10	2608	木製品	ヒノキ	板状	板目	KGW-010
11	2603	木製品	ヒノキ	板状	板目	KGW-011
12	2605	木製品	ヒノキ	板棒状	柁目	KGW-012
13	2606	木製品	ヒノキ	板状	板目	KGW-013
14	2607	木製品	ヒノキ	板状	板目	KGW-014
15	2595	木製品	アカガシ亜属	板状	斜め	KGW-015
16	2472	木製品	ヒノキ	把手状	柁目	KGW-016
17	2474	木製品	ヒノキ	角材状	板目	KGW-017
18	2601	木製品	ヒノキ	板状	板目	KGW-018
19	2477	板状木製品	ヒノキ		板目	KGW-019
20	2484	板状木製品	アスナロ		板目	KGW-020
21	2478	板状木製品	ヒノキ		板目	KGW-021
22	2483	板状木製品	アスナロ		板目	KGW-022

表 27 旧練兵場遺跡出土木製品の樹種同定結果リスト

a: 横断面 b: 放射断面 c: 接線断面



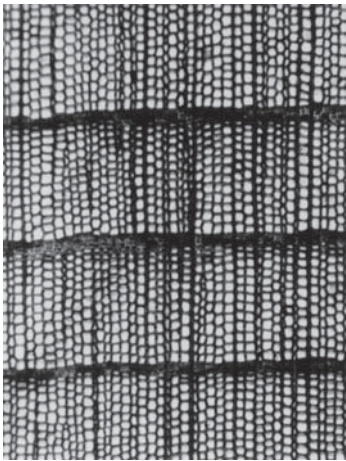
1a. ヒノキ (No.7) bar:1.0mm



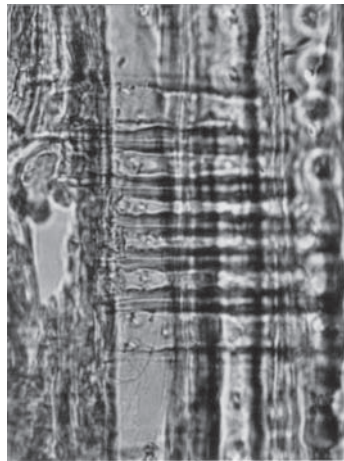
1b. 同 bar:1.0mm



1c. 同 bar:0.4mm



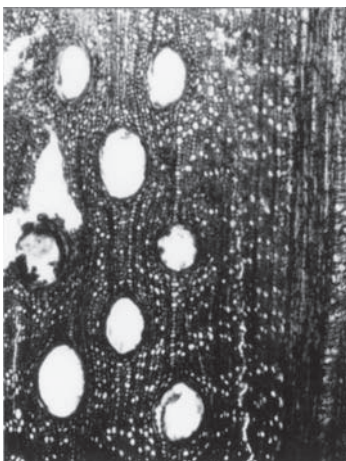
2a. アスナロ (No.20) bar:1.0mm



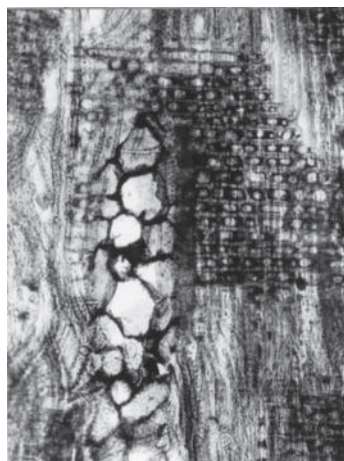
2b. 同 bar:0.1mm



2c. 同 bar:0.4mm



3a. アカガシ亜属 (No.2) bar:1.0mm



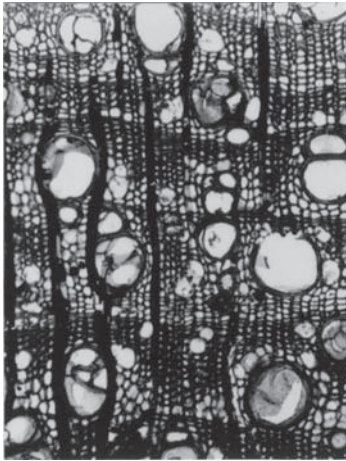
3b. 同 bar:0.4mm



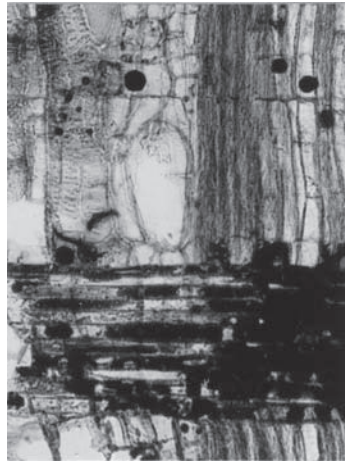
3c. 同 bar:1.0mm

図 500 写真図版：旧練兵場遺跡出土木製品の切片の光学顕微鏡写真 (1)

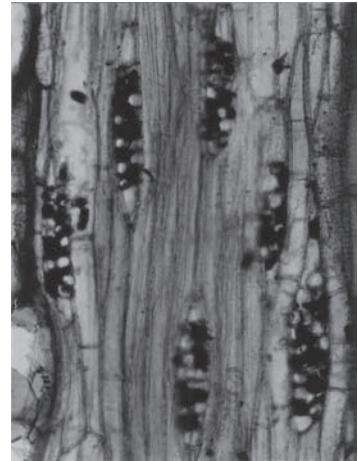
a: 横断面 b: 放射断面 c: 接線断面



4a. クスノキ (No.9) bar:1.0mm



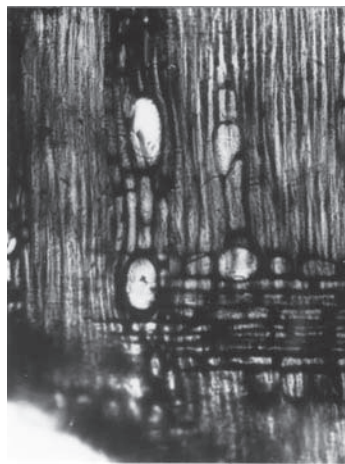
4b. 同 bar:0.4mm



4c. 同 bar:0.4mm



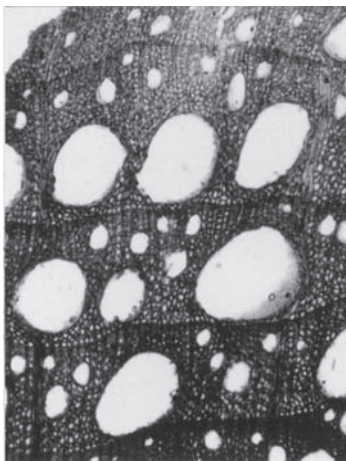
5a. クスノキ科 (No.3) bar:1.0mm



5b. 同 bar:0.4mm



5c. 同 bar:0.4mm



6a. マタタビ属 (No.4) bar:1.0mm



6b. 同 bar:0.4mm



6c. 同 bar:0.4mm

図 501 写真図版：旧練兵場遺跡出土木製品の切片の光学顕微鏡写真 (2)

香川県旧練兵場遺跡出土木製品の樹種調査結果 その1

(株) 吉田生物研究所

1. 試料

試料は香川県旧練兵場遺跡から出土した土木具 2 点、用途不明品 24 点の合計 26 点である。

2. 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柁目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果（針葉樹 2 種、広葉樹 4 種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1) マツ科マツ属 [二葉松類] (*Pinus* sp.)

(遺物 No.3,12)

(写真 No.3,12)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は急であった。大型の垂直樹脂道が細胞間隙としてみられる。柁目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔は窓型である。上下両端の放射仮道管内は内腔に向かって鋸歯状に著しくかつ不規則に突出している。板目では放射組織は単列で 1～15 細胞高のもの、水平樹脂道を含んだ紡錘形のものがある。マツ属 [二葉松類] はクロマツ、アカマツがあり、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。

2) ヒノキ科アスナロ属 (*Thujopsis* sp.)

(遺物 No.1,4,6,10,11,13,15～19A,20～24)

(写真 No.1,4,6,10,11,13,15～19A,20～24)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柁目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で 1 分野に 2～4 個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

3) ブナ科コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*)

(遺物 No.2,8,9,14,19B,25)

(写真 No.2,8,9,14,19B,25)

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの道管（ $\sim 200 \mu\text{m}$ ）が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に 1～3 細胞幅の独立带状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放

射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州（宮城、新潟以南）、四国、九州、琉球に分布する。

4) ブナ科シイ属 (*Castanopsis* sp.)

(遺物 No.26)

(写真 No.26)

環孔性放射孔材である。木口では孔圏部の道管（ $\sim 300 \mu\text{m}$ ）は単独でかつ大きい接線方向には連続していない。孔圏外に移るにしたがって大きさを減じ、放射方向に火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型で柵状の壁孔がある。板目では多数の単列放射組織が見られる。シイ属にはツブラジイとスダジイがあるが、ツブラジイに見られる集合～複合放射組織の出現頻度が低い為区別は難しい。シイ属は本州（福島、佐渡以南）、四国、九州、琉球に分布する。

5) クスノキ科タブノキ属 (*Persea* sp.)

(遺物 No.5)

(写真 No.5)

散孔材である。木口では中庸で厚壁の道管（ $\sim 130 \mu\text{m}$ ）が単独または2ないし数個が放射方向あるいは斜方向に連続して年輪内に平等に分布する。軸方向柔細胞は道管の周囲を厚く鞘状に囲んでいる。柾目では道管は単穿孔とまれに階段穿孔、側壁に交互壁孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管と放射組織間壁孔は円形、レンズ状、篩状の壁孔が並んでいる。板目では放射組織は1～3細胞列、高さ $\sim 600 \mu\text{m}$ からなる。放射組織の直立細胞や軸方向柔細胞が油細胞（樟脳油貯蔵細胞）となったものが見られる。タブノキ属はタブノキ、ホソバタブがあり、本州（日本海側は青森、太平洋側は岩手中部以南）、四国、九州、琉球に分布する。

6) ミズキ科アオキ属アオキ (*Aucuba japonica* Thunb.)

(遺物 No.7)

(写真 No.7)

散孔材である。木口ではきわめて小さい道管（ $\sim 60 \mu\text{m}$ ）が放射方向の配列傾向を示して多数分布する。放射柔細胞の径が道管の径よりも大きいことが多い。柾目では道管は階段穿孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏、方形、直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は多数の小壁孔である。板目では放射組織は1～6細胞列、高さ $\sim 4 \text{mm}$ からなる。アオキは本州（関東以西）、四国、九州に分布する。

◆参考文献◆

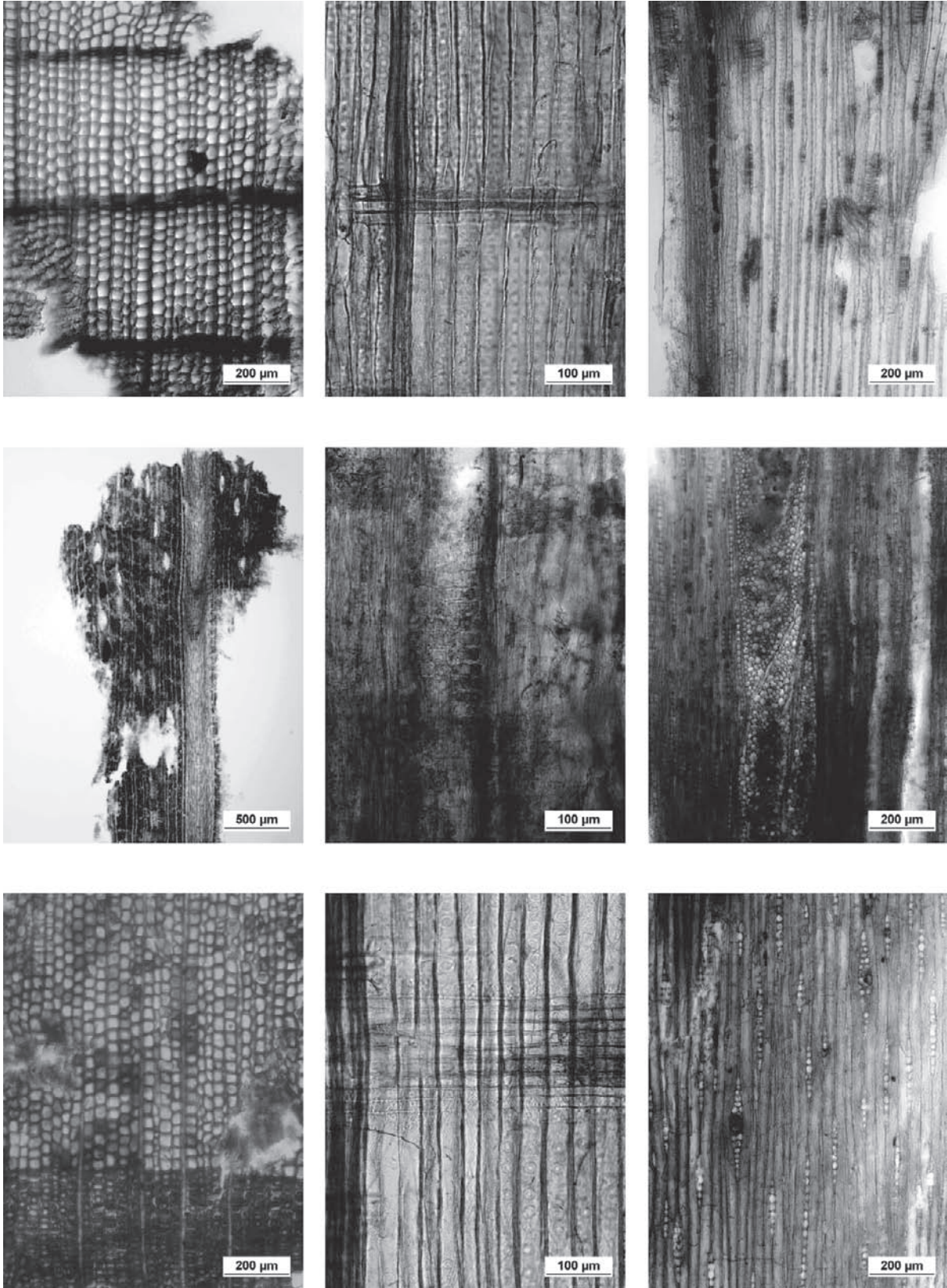
- 島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）
 島地 謙・伊東隆夫「図説木材組織」地球社（1982）
 伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所（1999）
 北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」保育社（1979）
 深澤和三「樹体の解剖」海青社（1997）
 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）
 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

◆使用顕微鏡◆

Nikon DS-Fil

No.	報文番号	品名	樹種
1	2579	板状木製品	ヒノキ科アスナロ属
2	2596	板状木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
3	2476	棒状木製品	マツ科マツ属〔二葉松類〕
4	2580	板状木製品	ヒノキ科アスナロ属
5	2588	板状木製品	クスノキ科タブノキ属
6	2586	板状木製品	ヒノキ科アスナロ属
7	2600	板状木製品	ミズキ科アオキ属アオキ
8	2340	杭	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
9	2387	杭	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
10	2482	板状木製品	ヒノキ科アスナロ属
11	2479	板状木製品	ヒノキ科アスナロ属
12	2475	棒状木製品	マツ科マツ属〔二葉松類〕
13	2584	板状木製品	ヒノキ科アスナロ属
14	2388	板状木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
15	2480	板状木製品	ヒノキ科アスナロ属
16	2481	板状木製品	ヒノキ科アスナロ属
17	2585	板状木製品	ヒノキ科アスナロ属
18	2583	板状木製品	ヒノキ科アスナロ属
19	2587	A 板状木製品(大) B 〃 (小)	ヒノキ科アスナロ属 ブナ科コナラ属アカガシ亜属
20	2358	板状木製品	ヒノキ科アスナロ属
21	2581	有孔板状木製品	ヒノキ科アスナロ属
22	2486	板状木製品	ヒノキ科アスナロ属
23	2485	板状木製品	ヒノキ科アスナロ属
24	2582	板状木製品	ヒノキ科アスナロ属
25	2597	板状木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
26	2598	板状木製品	ブナ科シイ属

表 28 香川県旧練兵場遺跡出土木製品同定 その1

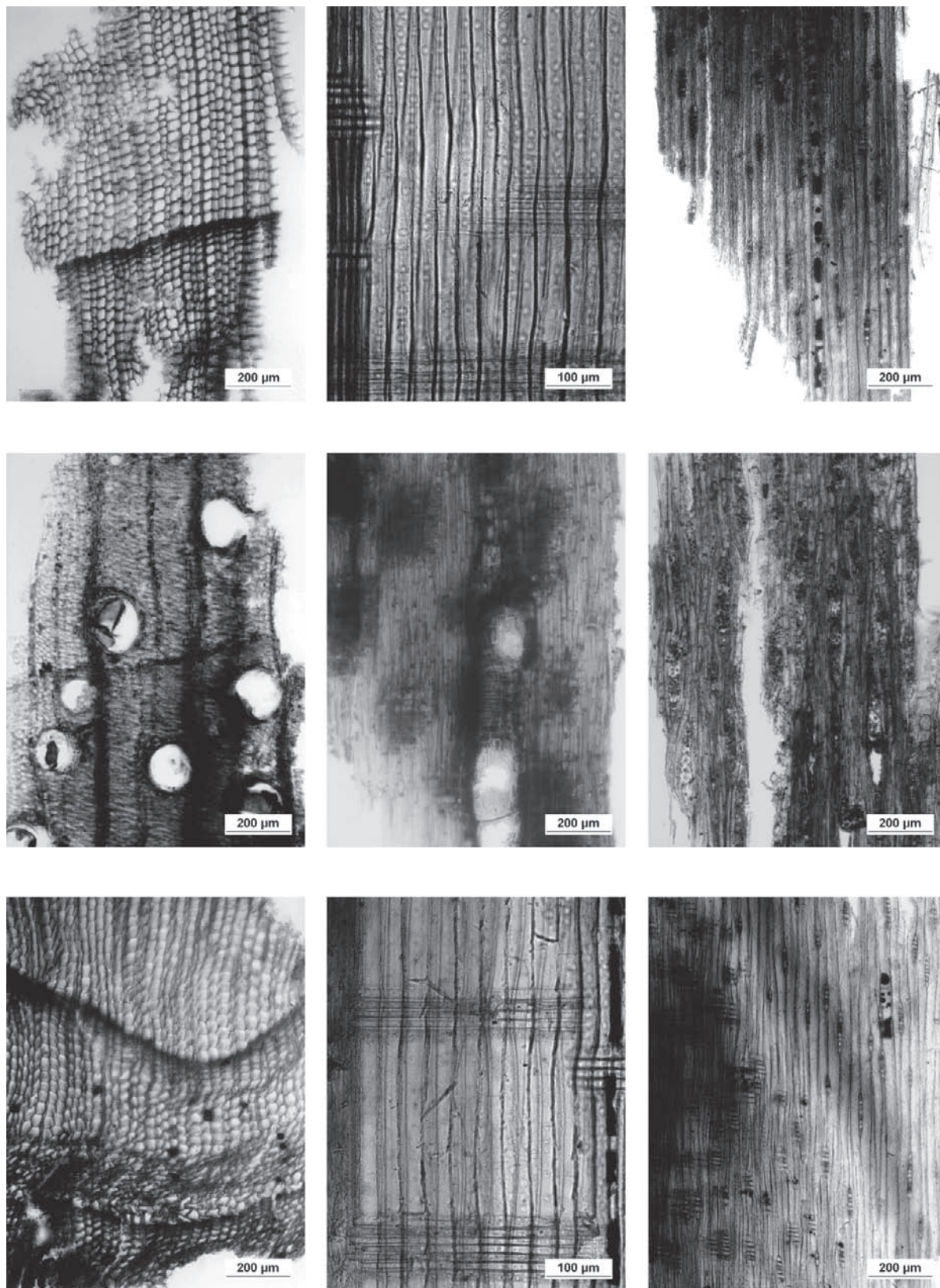


No-3 木口
マツ科マツ属〔二葉松類〕

柁目

板目

図 502 香川県旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真 その1

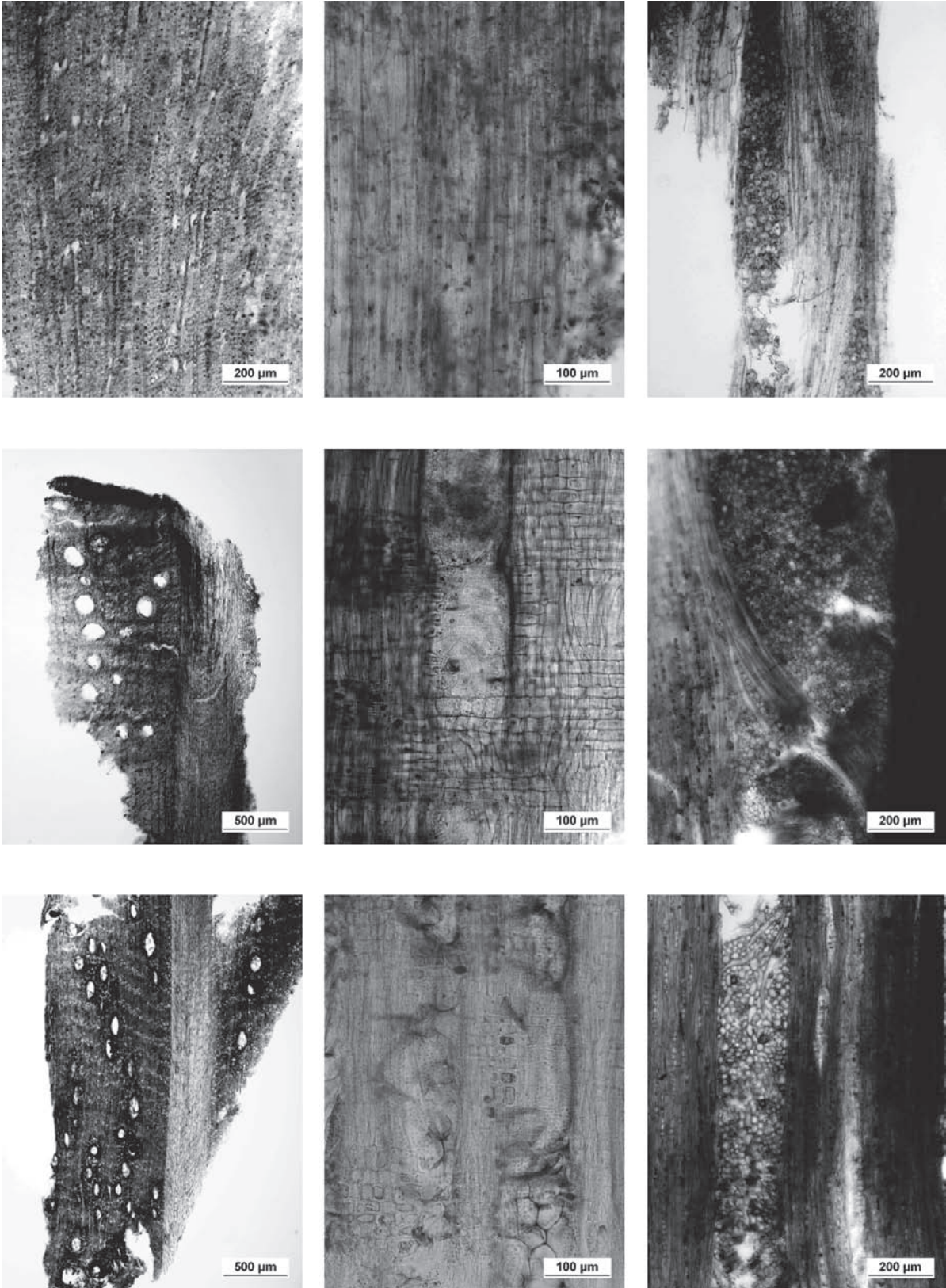


No-6 木口
ヒノキ科アスナロ属

柁目

板目

図 503 香川県旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真 その2

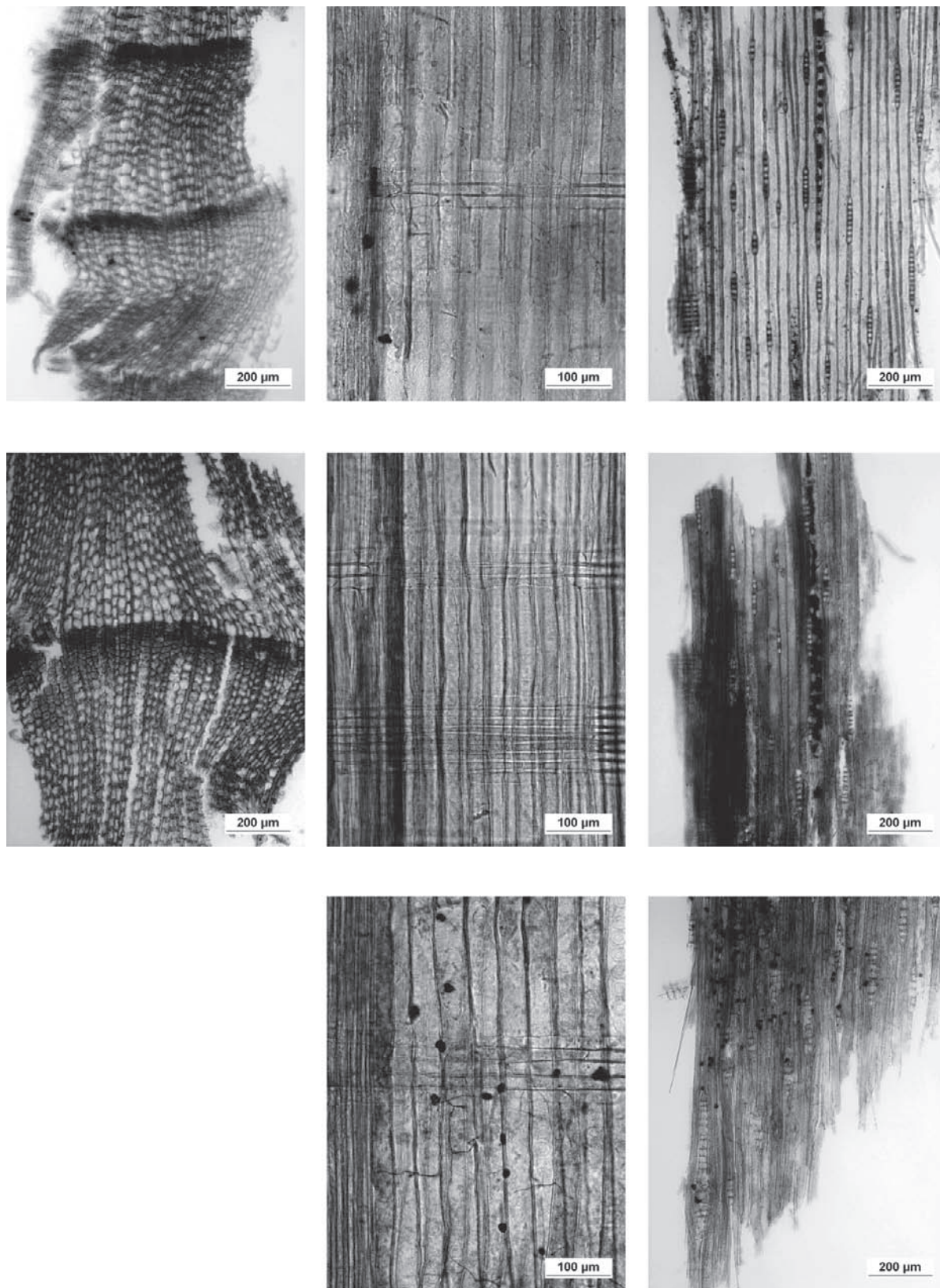


No-9 木口
ブナ科コナラ属アカガシ亜属

柁目

板目

図 504 香川県旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真 その 3

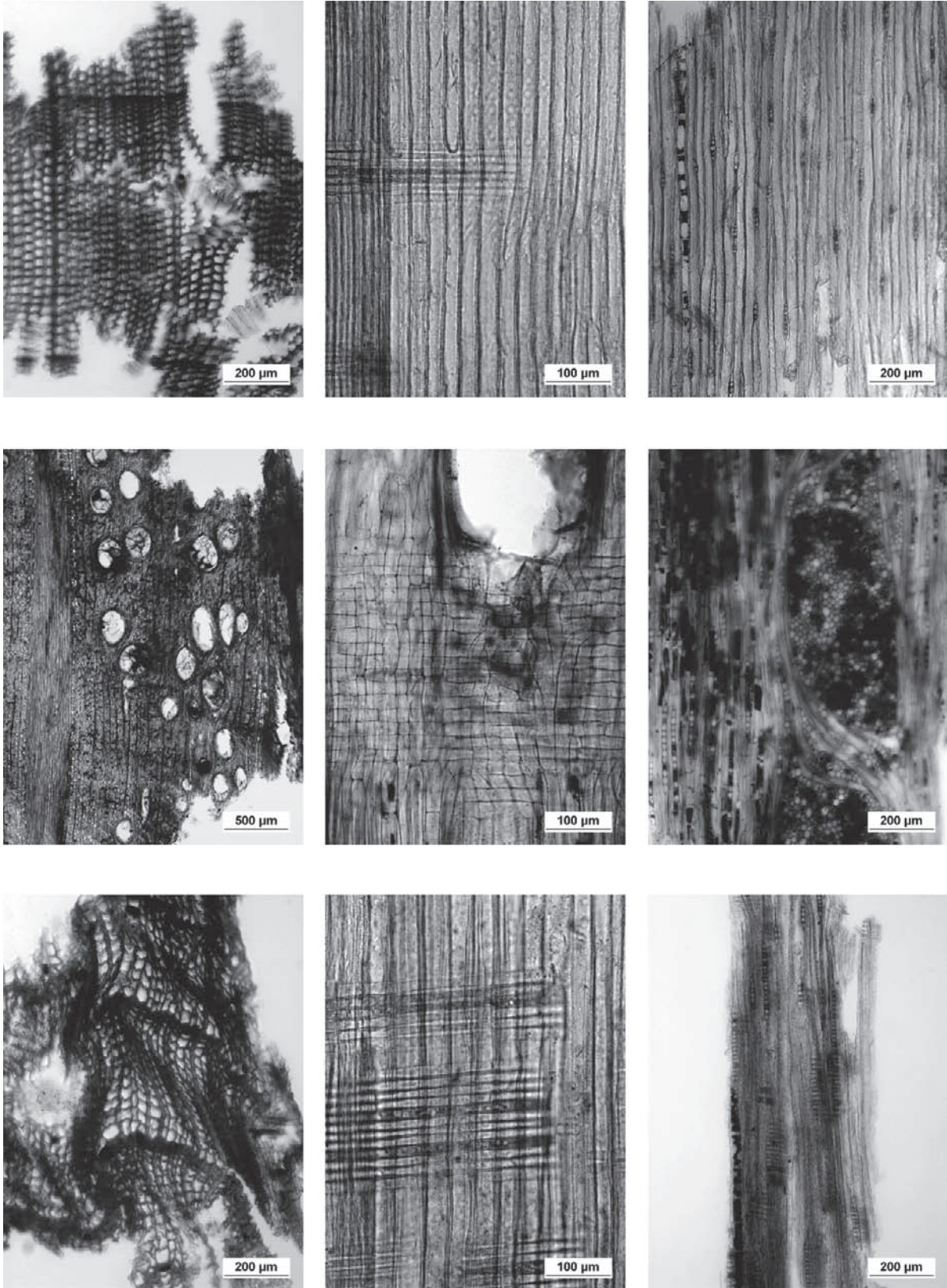


No-12 マツ科マツ属〔二葉松類〕

柁目

板目

図 505 香川県旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真 その 4

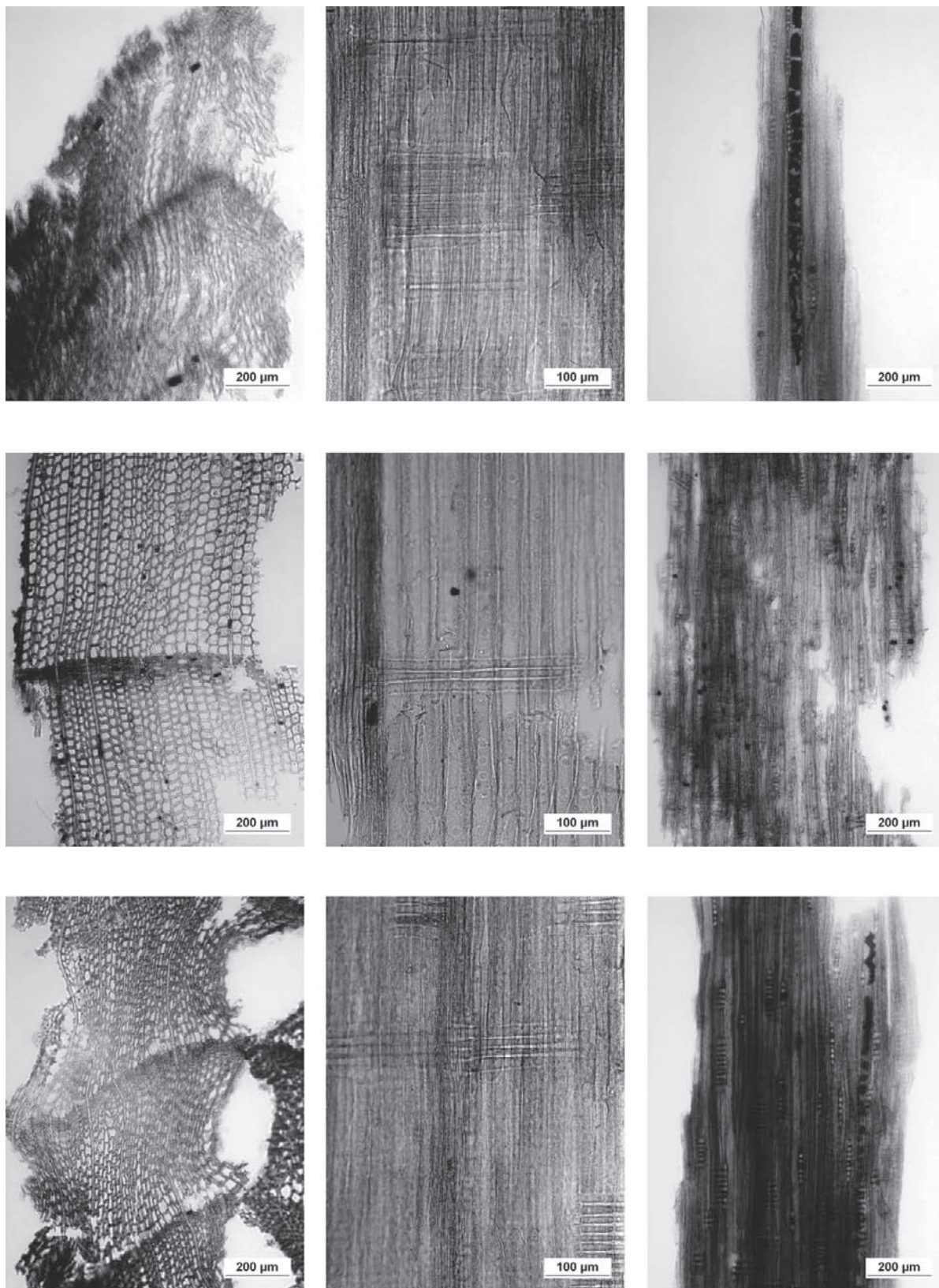


No-15 木口
ヒノキ科アスナロ属

柁目

板目

図 506 香川県旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真 その 5

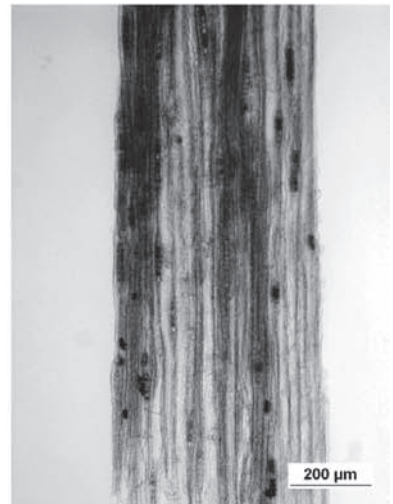
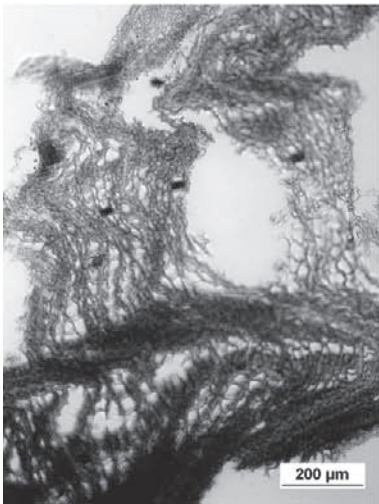
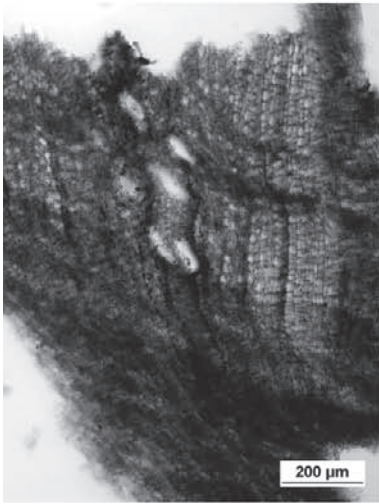
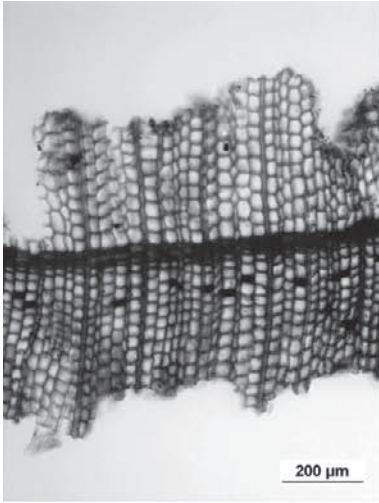


木口
No-18 ヒノキ科アスナロ属

柁目

板目

図 507 香川県旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真 その6

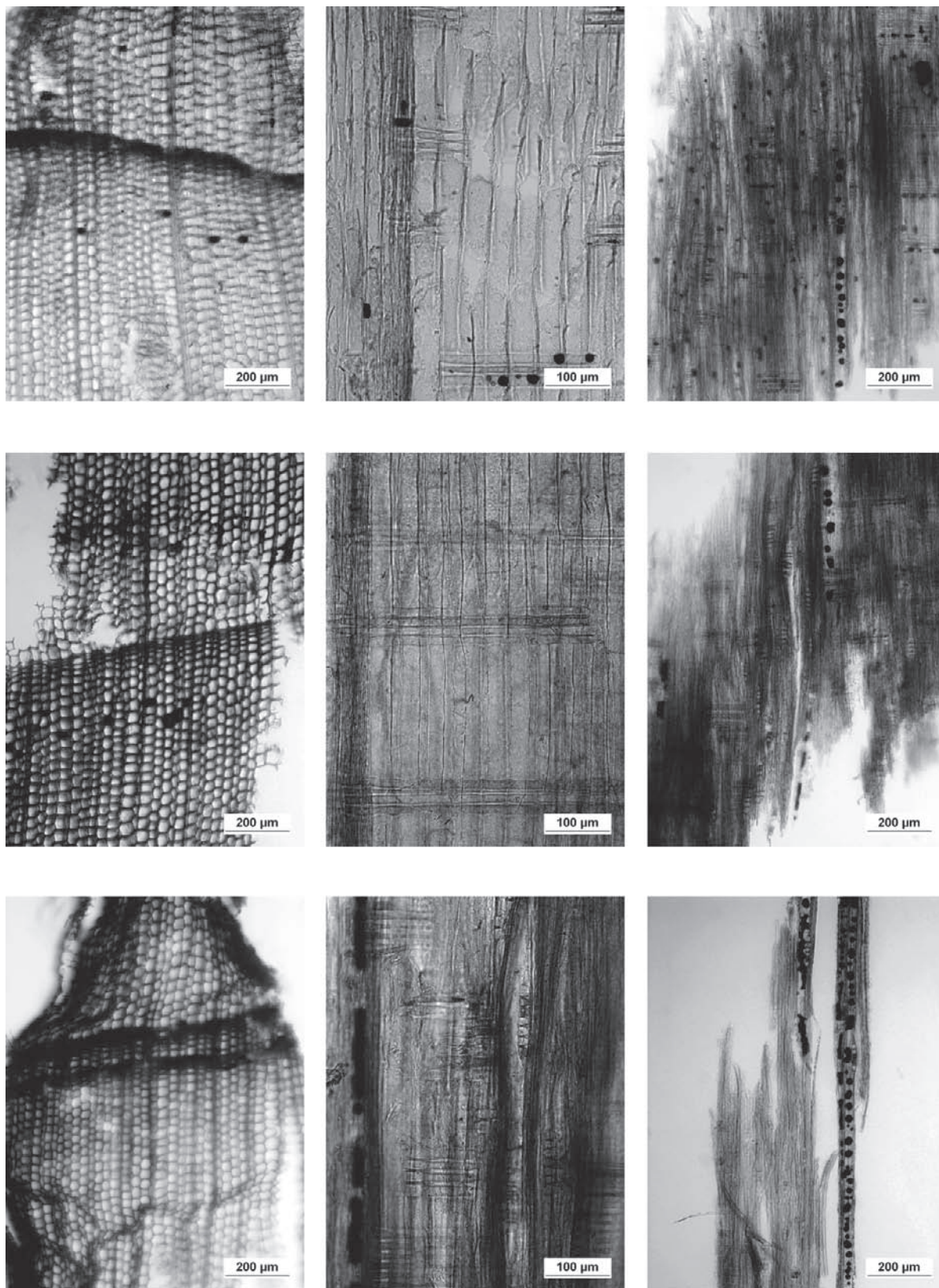


No-20 木口
ヒノキ科アスナロ属

柁目

板目

図 508 香川県旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真 その7

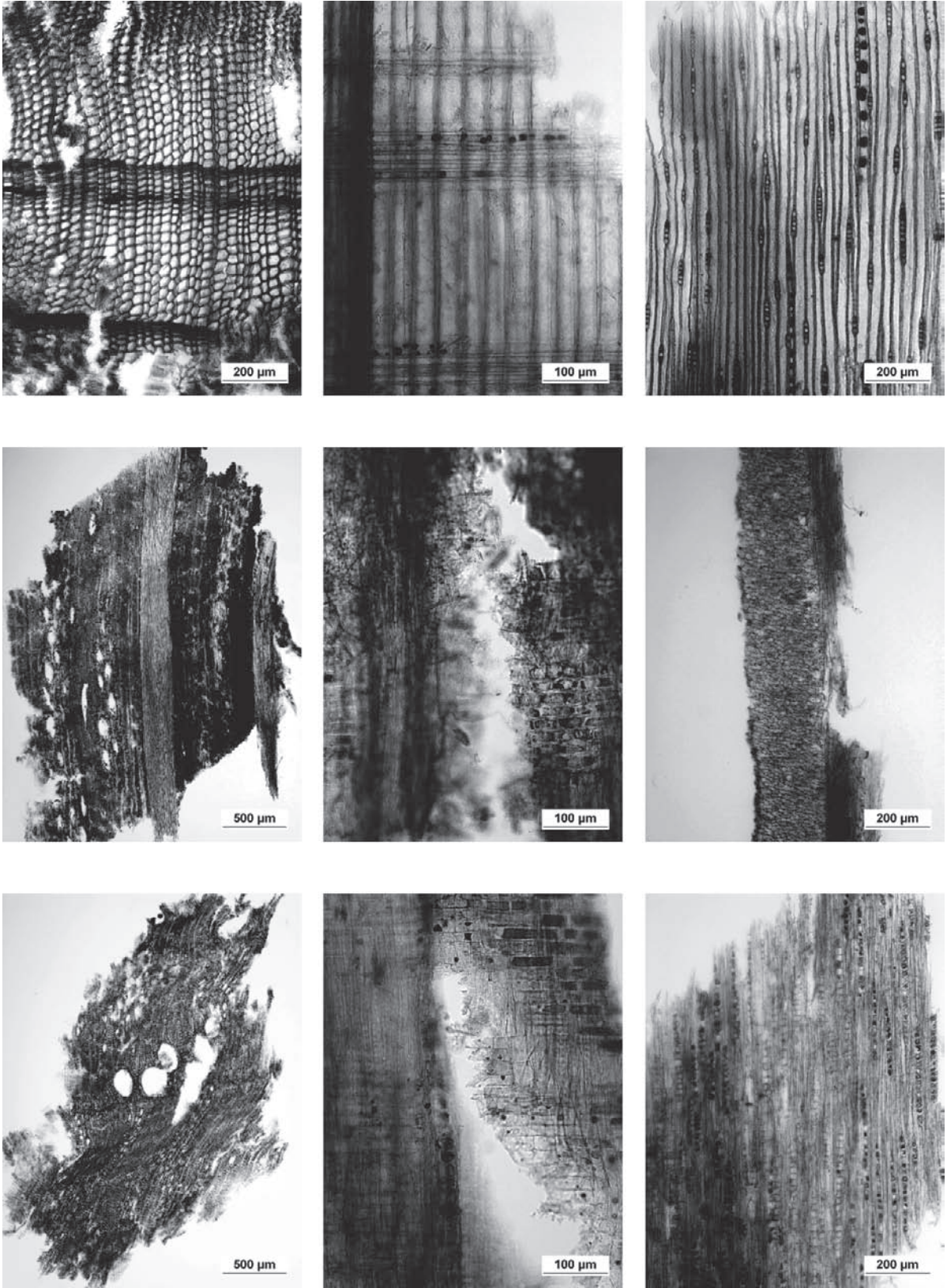


No-23 木口
ヒノキ科アスナロ属

柁目

板目

図 509 香川県旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真 その 8



No-26 木口
ブナ科シイ属

柾目

板目

図 510 香川県旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真 その9

香川県旧練兵場遺跡出土木製品の樹種調査結果 その2

(株) 吉田生物研究所

1. 試料

試料は香川県旧練兵場遺跡から出土した用途不明品2点である。

2. 観察方法

剃刀で木口(横断面)、柾目(放射断面)、板目(接線断面)の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果(針葉樹2種)の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。本文中の()内の○番号は顕微鏡写真に記されたものを表す。

1) マキ科マキ属イヌマキ (*Podocarpus macropyllus* Sweet)

(遺物 No.2)

(写真 No.2)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はゆるやかであり、年輪界がやや不明瞭で均質な材である(①)。樹脂細胞はほぼ平等に散在し数も多い(②)。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1~2個ある(③)。短冊型をした樹脂細胞が早材部、晩材部の別なく軸方向に連続(ストランド)をなして存在する。板目では放射組織はすべて単列であった。イヌマキは本州(中・南部)、四国、九州、琉球に分布する。

2) ヒノキ科アスナロ属 (*Thujopsis* sp.)

(遺物 No.1)

(写真 No.1)

木口は採取出来なかった。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2~4個ある(①)。仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である(②)。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある(③)。アスナロ属にはアスナロ(ヒバ、アテ)とヒノキアスナロ(ヒバ)があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

◆参考文献◆

島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版(1988)

島地 謙・伊東隆夫「図説木材組織」地球社(1982)

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ~Ⅴ」京都大学木質科学研究所(1999)

北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」保育社(1979)

深澤和三「樹体の解剖」海青社（1997）

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）

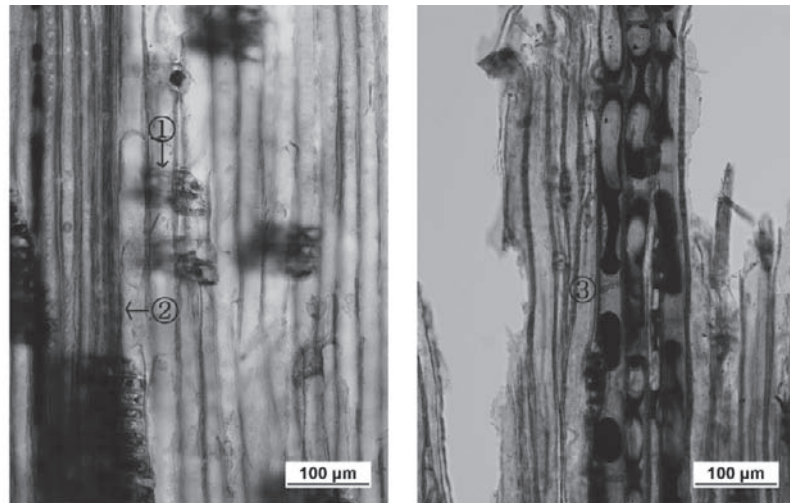
奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 36 冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

◆使用顕微鏡◆

Nikon DS-Fi1

No.	報文番号	品名	樹種
1	2473	木製品	ヒノキ科アスナロ属
2	2359	木製品	マキ科マキ属イヌマキ

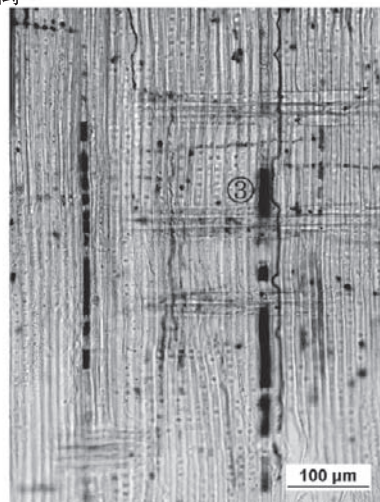
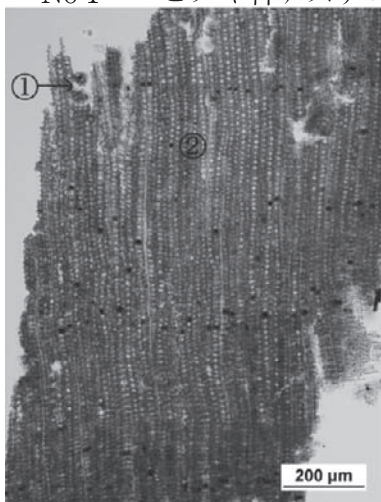
表 29 香川県旧練兵場遺跡出土木製品同定 その 2



柱目

板目

No-1 ヒノキ科アスナロ属



柱目



板目

No-2 木口
マキ科マキ属イヌマキ

P-1

図 511 香川県旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真 その 10

第3節 動物遺存体同定

土器棺内出土の幼児遺体、河川出土の動物遺体、竪穴住居等出土の魚骨類等を奈良文化財研究所環境考古学研究室において分析・同定していただいた結果を報告する。

旧練兵場遺跡から出土した動物遺存体と古人骨

山崎健・橋本裕子

(奈良文化財研究所・環境考古学研究室)

香川県善通寺市に所在する旧練兵場遺跡は、弥生時代から中近世にわたる複合遺跡であり、とくに弥生時代では中期中葉から終末期を中心として継続した大規模集落として知られている。今回の調査で弥生時代を中心として、動物遺存体や古人骨が出土した。本稿では、これらの分析結果について報告する。分析と記載にあたっては、動物遺存体を山崎が、古人骨を橋本が分担して行なった。

1. 動物遺存体

(1) 分析資料

分析資料の所属時期は、弥生時代から中世まで含まれている。弥生時代では、自然河川跡や竪穴住居跡、柱穴跡から出土した。とくに自然河川跡 SR02 の上層溝下層から多くの動物遺存体が出土している。また、古代（7～9世紀）では溝状遺構や包含層、中世（14世紀）では溝状遺構から動物遺存体が出土した。これらの資料は、基本的に現場で採集された資料であり、一部の資料（竪穴住居跡 SH04、SH29、柱穴跡 SH16）のみが土壌を水洗選別して採集した資料である。

(2) 分析方法

分析資料の保存状態は全般的に悪く、緻密質が溶解して海綿質の露出する資料が多く認められ、ほとんどが細片であった。そのため、同定に有効な部位が残存した資料だけではなく、骨や歯の破片についても残存長 1cm以上の資料を分析対象とした。

その結果、合計 798 点の動物遺存体が抽出された。このうち、目以下の分類群に同定できた資料は 290 点（36.3%）であった。分析資料の同定は、現生骨格標本との比較によりおこなった。比較標本には、奈良文化財研究所が所蔵する現生骨格標本を用いた。

(3) 分析結果

出土資料からは魚類 1 分類群と哺乳類 6 分類群を同定した（表 30）。同定結果の集計表を表 31・32 に示す。以下、分類群ごとについて若干の記載を加えていく。

タイ科 SH04, SH16 (SP304), SR02 上層溝から、タイ科魚類の顎歯が出土した。犬歯状の顎歯が 4 点、臼歯状の顎歯が 1 点出土している。これらの顎歯は、タイ科魚類の前上顎骨や歯骨から脱落したものである。1 点が焼けて白色化している。

その他の魚類 科以下の同定は不可能であったが、ST03 から魚類の椎骨片、SH16 (SP304) から魚類の棘破片が出土している。

イノシシ 111 点が出土した。その内訳は、遊離歯 26 点、下顎骨 4 点、上顎骨 1 点のほか、歯破片 74 点と頭蓋骨片 6 点である。ほとんどが SR02 (弥生時代後期前半期) の堆積層からの出土であった。SR02 上層溝下層

の獣骨⑩では、前頭骨、頭頂骨、後頭顆といった頭蓋骨を構成する部位骨の破片がまとまって出土しており、同一個体に由来した資料である可能性が高い。

ニホンジカ 99 点が出土した。その内訳は、遊離歯 6 点、距骨 2 点、前頭骨のついた状態の角 (前頭骨+角座骨+角) 2 点、中手・中足骨 2 点、前頭骨 1 点、下顎骨 1 点のほか、歯破片 63 点と角破片 22 点である。ほとんどが SR02 (弥生時代後期前半期) の堆積層からの出土であった。SR02 上層溝下層の獣骨①では左側の下顎遊離歯 (M1 ~ M3)、同じく獣骨⑧では右側の上顎遊離歯 (M1 ~ M3) がまとまって出土したことから、これらは同一個体に由来した資料である可能性が高い。

ウマ 47 点が出土した。その内訳は、遊離歯 3 点、中手骨 1 点のほか、歯破片 43 点である。SD17 (14 世紀前半) からまとまって出土している。7 ~ 9 世紀の包含層から出土した中手骨の遠位端幅 (Bd) は 42.91mm で、中手骨の最大骨長は 205mm と推定された (推定式 II : 西中川・松元 1991)。そこから推定体高は 124.9cm となる (推定式 III : 林田・山内 1957)。

ウシ 26 点が出土した。その内訳は、遊離歯 1 点と歯破片 25 点である。SD36 (8 世紀) や SD17 の堆積層 (14 世紀後半) からまとまって出土している。計測可能な資料は認められなかった。

その他の哺乳類 イヌの遊離歯 1 点が SP1760 (古代以降) から、イルカ類の椎骨 1 点が SR02 の弥生時代終末期の堆積層から出土した。また、科以下の同定は不可能であったが、B 区 SD14 (14 世紀前半) や B 区 SD17 の 14 世紀前半と後半の堆積層から、哺乳類の骨の破片が多く出土した。ウシやウマの可能性が考えられる。

硬骨魚綱	OSTEICHTHYES
タイ科	Sparidae sp.
哺乳綱	MAMMALIA
イヌ	<i>Canis familiaris</i>
ウマ	<i>Equus caballus</i>
イノシシ	<i>Sus scrofa</i>
ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>
ウシ	<i>Bos taurus</i>
イルカ類	Cetacea sp.

表 30 出土した動物遺存体の種名一覧

(4) 考察

旧練兵場遺跡では弥生時代から中世までの動物遺存体が出土したが、その様相には時代的な変化が認められた。弥生時代ではニホンジカとイノシシに集中するが、古代・中世ではウシやウマのみであり、その他の動物種は認められなかった。以下に、弥生時代と古代・中世に分けて、考察を加えていく。

A. 弥生時代

弥生時代後期から終末期に属する動物遺存体が出土した。弥生時代で分析対象となった動物遺存体は合計 368 点で、そのうち 92.7% (341 点) が弥生時代後期前半の資料である。

弥生時代後期前半の資料は、自然流路 (低地帯) SR02 の上層溝と上層溝下層から出土した。SR02 で確認された哺乳類はイノシシとニホンジカのみである。イノシシとニホンジカに偏る哺乳類組成は、弥生時代におけるこれまでの分析事例と共通する (松井 1991、西本 1997、甲本 2000)。残存部位をみると、イノシシとニホンジカがともに頭部 (とくに歯) が多く認められた。この現象は、①頭部のみを集中的に廃棄・配置した、②頭部 (とくに歯) のみが残存した、という 2 つの可能性が考えられる。遺物形成過程を考慮すると、分析資料は保存状態が悪いため、椎骨や四肢骨などの骨は分解され、残りやすい歯

図512で拡大

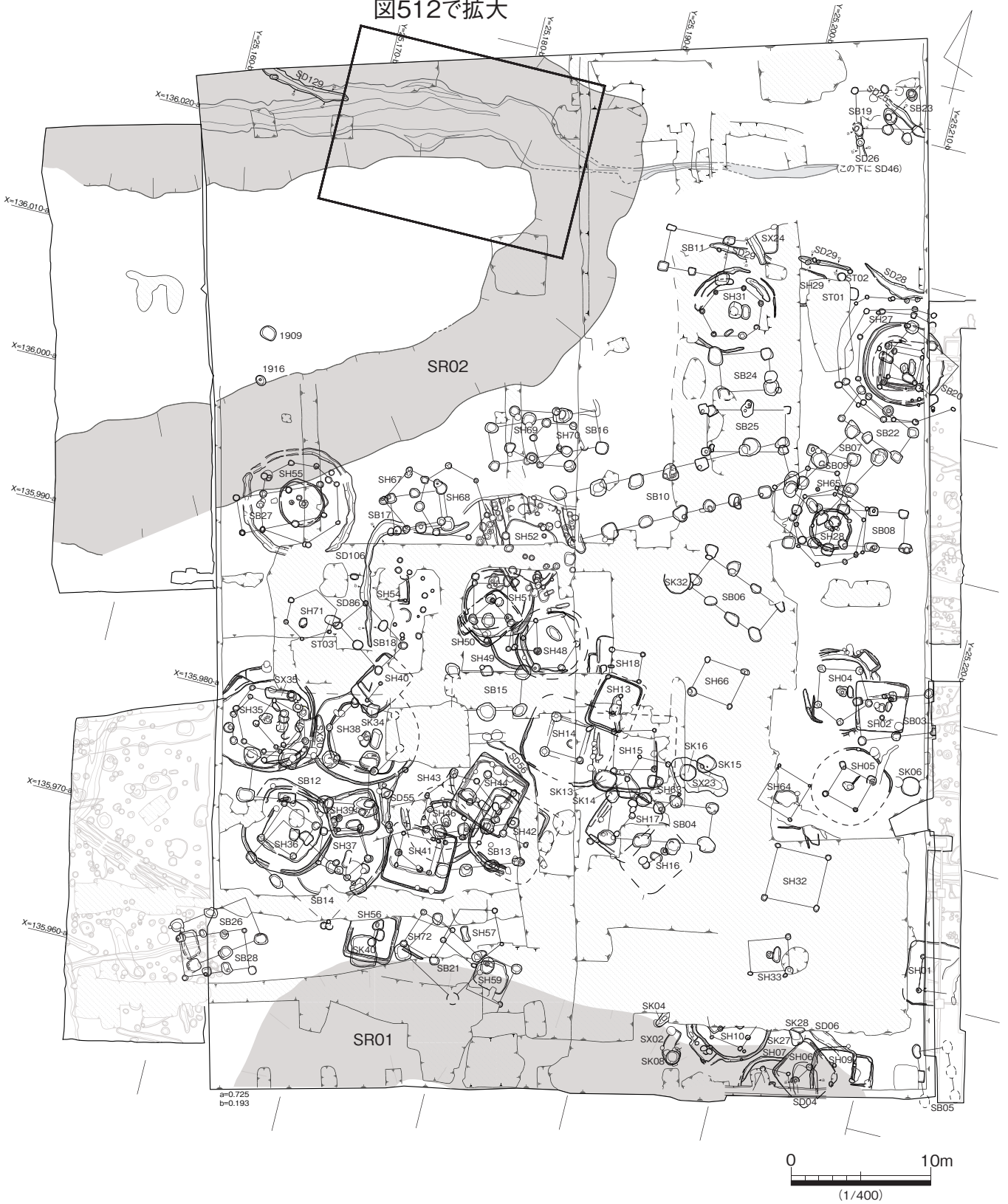


図 513 SR02（弥生時代後期前半期）における動物遺存体の出土分布状況 その2

ウマは、推定体高 124.9cmの小型～中型馬であった。川津一ノ又遺跡（松井 1998）や中間西井坪遺跡（富岡 1999）から出土したウマの大きさと同傾向である。

2. 古人骨

発掘調査において、弥生時代の層位と 14 世紀の層位からそれぞれ人骨が出土したのでここに報告する。弥生時代の人骨は土器棺墓内から出土した歯のみが確認されている。確認できた 3 墓の土器棺墓のうち 2 墓から歯が検出された。ST01 土器棺墓から 1 個体、ST03 土器棺墓から 1 個体が確認されている。14 世紀の人骨は四肢骨片が 2 点のみ保存されている。歯と骨の保存状態は悪い。本遺跡の土壌の影響で四肢骨並びに歯の一部のみが保存されている。体幹骨は殆ど保存されていない。骨はもろく、触ると崩れてしまうため、水洗作業は避け、土壌の除去についても骨の破損が予想された部分については行わずに現状を維持することを優先した。そのため同定は非常に困難であった。保存されている骨はそれぞれが細かく割れており、復元は困難だったため、確認できた部位ごとに鑑定を行った。特に弥生時代の人骨は、歯の歯冠部であるエナメル質のみの出土が多く慎重を極めた。

(1) 人骨所見

A. 弥生時代

ST01 土器棺墓

本土器棺墓は B 区竪穴住居 SH27 と SH29 の間に隣接して設置されている。所属時期は弥生後期後半である。土器棺墓内から出土した歯は、土器棺内の土とともに固められて取り上げられており、歯の総数は確認できない。そのため、今回は固められた土の表面に歯冠部が確認できた歯のみを同定した。乳歯は切歯から乳臼歯まで確認できるがいずれも土に潜り込んでおり、詳細は不明である。唯一左側上顎の第二乳臼歯と、右左下顎の第二乳臼歯の一部が確認できた。乳臼歯には殆ど咬耗が認められない。右側の第二乳臼歯の咬合面の中央はピット状の齲歯が認められる。確認できた永久歯は、上顎第一切歯と下顎の切歯は歯冠の形成がほぼ終了、上顎側切歯は歯冠形成が完全には終了していない。上顎切歯は歯冠の半分が形成されている。第一大臼歯は上下顎とも歯冠の形成がほぼ終了している。永久歯の歯冠形成の状態から、全ての永久歯は未放出で歯槽骨内での形成段階であることは間違いない。乳歯の状態と永久歯の歯冠形成の状態は合致しており、確認できた歯は 1 個体分であると推定してよいであろう。歯の特徴としては、上顎の門歯、側切歯とも非常に強いシャベル型であり、典型的な弥生時代人の特徴を示す。また、保存状態が悪いため、キャリパーによる計測は行っていないが、一見して歯のサイズは大きく、やはり弥生時代人の特徴を示す。永久歯の歯冠形成の段階から判断して、ST01 土器棺墓内から出土した人骨の年齢は 4 歳と判断した。確認できた歯に関しては以下の歯式に示した。

M1	C	I1	I1	I2	C	M1
M1	dm2				dm2	dm2
M1	I2	I1	I1	I2		M1

■ : 齲歯

ST03 土器棺墓

本土器棺墓は D 区 SK39 を中央土坑として復元される弥生時代後期中葉の竪穴住居や弥生時代中期

の掘立柱建物 SB18 を切り込んで単独で設置されている。所属時期は弥生時代後期後半である。土器棺墓から出土した歯は、1点のみで、左側上顎の第一乳臼歯のみである。歯冠部のエナメル質のみであり、また頬側の一部と頬側 1/3 の咬合面が保存されているのみである。ST01 土器棺墓の人骨よりも咬耗は進んでいる。確認できた歯は1点のみで、保存されている部分が少ないため、年齢の推定は難しいが、7～8歳の可能性が高い。8歳以上である可能性は低いであろう。確認できた歯に関しては以下の歯式に示した。

dml

B. 14 世紀

出土した骨は2点のみである。B区 SD17 ①下層出土人骨は、右側大腿骨遠位端の内側顆の一部が保存されている。B区 SD17 ③西側出土人骨は、左側橈骨遠位端のみが保存されている。遠位骨端は癒合が終了しておらず、10代の未成人であることが推測できる。B区から出土した人骨2点は同一個体であるか否かについては不明である。

(2) まとめ

旧練兵場遺跡出土人骨（弥生時代）の保存状態は極めて悪いものであった。また人骨の取り上げを優先するために土器棺墓内の土を固めてしまったために、ST01 土器棺墓については歯の本数や詳細な歯種の特定ができなかった。しかしながら、ST01 土器棺墓には4歳の小児骨が1体、ST03 土器棺墓には7～8歳と推定した小児骨が1体確認できた。本遺跡においては、死亡年齢を高く推定しても8歳の小児は、土器棺墓に埋葬するということと言えるであろう。九州地域では弥生時代における共同体構成員として認知される年齢の下限は5～6歳の小児期と報告されている。当地域の類例を調べる必要があるが、本遺跡においては、九州地域の土器棺墓の埋葬年齢よりも、高い年齢（推定年齢7～8歳）でも土器棺に埋葬されることが確認できた。

参考文献

- 甲本真之（2000）「弥生時代の食糧事情」『古代史の論点1 環境と食糧生産』、167-182頁。
- 富岡直人（1999）「香川県中間西井坪遺跡出土動物遺存体」、『中間西井坪遺跡』四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第32冊、379-386頁。
- 富岡直人・沖田絵麻（2000）「鴨部・川田遺跡出土動物遺存体」『鴨部・川田遺跡Ⅱ（第2分冊）』高松東道路建設に伴う埋蔵文化財調査発掘調査報告第9冊、1-20頁。
- 西中川駿・松元光春（1991）「遺跡出土骨同定のための基礎的研究—とくに日本在来牛、在来馬の骨の計測値—」『古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』平成2年度文部省科学研究費補助金（一般B）研究成果報告書、164-188頁。
- 西本豊弘（1997）「弥生時代の動物質食料」『国立歴史民俗博物館研究報告』70号、256-265頁。
- 埴原和郎（1992）『歯と人類学の話』医歯薬出版株式会社
- 林田重幸・山内忠平（1957）「馬における骨長より体高の推定方法」『鹿児島大学農学部学術報告』6、146-156頁。
- 藤田等（1988）「北部九州における弥生時代未成人埋葬について」『日本民族・文化の生成』1
- 松井章（1991）「弥生時代の動物食」『弥生文化—日本文化の源流をさぐる—』、89-94頁。
- 松井章（1992）「動物遺存体」『東山崎・水田遺跡（第1分冊）』高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊、352-357頁。
- 松井章（1998）「川津一ノ又遺跡出土の動物遺存体」『川津一ノ又遺跡Ⅱ』四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第30冊、339-349頁。
- 渡辺誠（1990）「香川県観音寺市一の谷遺跡群出土の動物遺体」『一の谷遺跡群』四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第7冊、478-481頁。
- Lovejoy, C. O（1985）Dental wear in the Libben population: Its functional pattern and role in the determination of adult skeletal age at death. *Am. J. Phys. Anthropology*, 68: 47-56
- White T. D. (1991) *Human Osteology*. Academic Press, Inc.

分類群・部位	遺構・時期	科		明不種類		シ		ン		類		ウ		ウ・シウ		明不種類		計					
		顎	片骨椎	破棘	(顎)	棘	幹骨足部	下(歯)	下(歯)	下(歯)	下(歯)	明不種歯(歯)	ウ	シウ	明不種歯(歯)	部	棘		片骨				
					M3			M1		M3			M2										
B区 SH29	弥生時代後期初頭															6		6					
A区 SH04	弥生時代後期後半	2																2					
A区 SH16 (SP304)	弥生時代後期後半	2	1															3					
D区 ST03	弥生時代後期後半		1															1					
A区 SH15	弥生時代終末期															1		1					
C区 SH39	弥生時代終末期					2												2					
E区 SR02 上層	弥生時代終末期			0/1	1		1								1	4	2	10					
F区 SR02 上層	弥生時代終末期																1	1					
D区 SP1678	弥生時代															1		1					
C区 包含層	7～9世紀											0/1					6	7					
B区 SD36	8世紀									1	3		11	9			5	29					
A区 SD02	14世紀前半												3					3					
B区 SD14	14世紀前半																180	180					
B区 SD17	14世紀前半								1/0	0/1	40			28		3	43	116					
B区 SD33	14世紀前半																5	5					
B区 SD17	14世紀後半											0/1	4	1	10		58	75					
D区 SX41	古代～中世													8				8					
B区 SP696	古代以後												7					7					
F区 SP1760	古代以後						1/0											1					
計		4	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	43	1	1	25	1	55	1	12	3	300	457

※残存長1cm以上の動物遺存体を分析対象とした。
 ※左右のある骨格部位は「左側の同定資料数/右側の同定資料数」を示している。

表 32 集計表 (L/R)

第4節 青銅器鉛同位体比分析

元興寺文化財研究所を通じて平尾良光氏による分析結果を提示する。

1. 分析対象

香川県善通寺市旧練兵場遺跡出土銅鏃分析試料 17 点（鉛 1～17）（表 33）。

2. 分析内容

旧練兵場遺跡出土銅鏃 17 点について、2.1 に示す方法で分析試料（鉛 1～17）を得て、蛍光 X 線分析により鉛の含有を確認したうえで鉛同位体比測定を行った。ただし、鉛同位体比測定は別府大学大学院文学研究科 教授平尾良光、藤村里香により行われた。

2.1. 分析試料

旧練兵場遺跡出土銅鏃 17 点から、①分析用試料や同梱の小片を試料とする、②遺物より採取して試料とする、という 2 通りの方法で分析試料（鉛 1～17）を得た（表 33）。銅鏃、および分析試料採取箇所を図 514、516、518、520、522、524、526、528、530、532、534、536、538、540、542、544 に示した。

分析試料	報文番号	出土遺物	地区名	出土遺構	層位	鉛同位体比 測定番号	分析試料 採取方法*
鉛 1	1985	銅鏃 1	D 区	SD76 ㊟		BP6009	㊟
鉛 2	1698	銅鏃 2	E 区	SD100	上層	BP6010	㊟
鉛 3	206	銅鏃 3	A 区	SH14		BP6011	㊟
鉛 4	282	銅鏃 4	B 区	SH27 ㊟中央より		BP6012	㊟
鉛 5	399	銅鏃 5	C 区	SH35		BP6013	㊟
鉛 6	401	銅鏃 6	C 区	SH35		BP6014	㊟
鉛 7	519	銅鏃 7	C 区	SH41 ア		BP6015	㊟
鉛 8	520	銅鏃 8	C 区	SH41 エ		BP6016	㊟
鉛 9	583	銅鏃 9	C 区	SH44		BP6017	㊟
鉛 10	584	銅鏃 10	C 区	SH44		BP6018	㊟
鉛 11	549	銅鏃 11	C 区	SH42 十字あぜ・真ん中あたり	上層	BP6019	㊟
鉛 12	400	銅鏃 12	C 区	SH35 あぜ（北）くずし		BP6020	㊟
鉛 13	685	銅鏃 13	F 区	SH56 イ		BP6021	㊟
鉛 14	867	銅鏃 14	C 区	SP998		BP6022	㊟
鉛 15	732	銅鏃 15	F 区	SP1819		BP6023	㊟
鉛 16	4889	銅鏃 16	E 区	SR02K	上層	BP6024	㊟
鉛 17	5544	銅鏃 17	C 区	青銅 II		BP6025	㊟

※ ㊟分析用試料や同梱の小片を試料とする、㊟遺物より採取して試料とする

表 33 分析試料一覧

3. 蛍光 X 線分析

3.1. 使用機器および測定条件

エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置（XRF）【SII ナノテクノロジー社製 SEA5230】

試料の微小領域に X 線を照射し、そのさいに試料から放出される各元素に固有の蛍光 X 線を検出することにより元素を同定する。

測定は大気圧でφ 1.8mm のコリメータを用い、比較的重い元素の測定に適する 45kV の管電圧で 300

秒間測定した。なお、X線管球はモリブデン (Mo) である。

3. 2. 結果

旧練兵場遺跡出土銅鏃分析試料 17 点 (鉛 1 ~ 17) とその XRF 分析結果を表 34、図 515、517、519、521、523、525、527、529、531、533、535、537、539、541、543、545、546 に示した。

報文番号	Z 元素 元素名 ライン	26 Fe 鉄 K a	29 Cu 銅 K a	33 As ヒ素 K β	47 Ag 銀 K a	50 Sn スズ K a	82 Pb 鉛 L β
1985	鉛 1(cps)	7.413	1230.485	26.462	-	50.849	177.901
1698	鉛 2(cps)	72.847	445.813	-	-	222.419	395.708
206	鉛 3(cps)	-	1480.561	-	-	55.645	210.585
282	鉛 4(cps)	18.033	626.414	-	-	238.104	607.973
399	鉛 5(cps)	56.326	209.459	30.866	33.741	272.802	554.138
401	鉛 6(cps)	19.328	640.676	-	-	84.490	605.971
519	鉛 7(cps)	154.658	424.897	-	-	83.785	84.751
520	鉛 8(cps)	10.873	665.067	24.150	-	133.412	629.488
583	鉛 9(cps)	124.574	357.209	-	-	78.466	203.560
584	鉛 10(cps)	54.247	300.320	33.566	34.253	207.230	585.340
549	鉛 11(cps)	134.675	1007.719	-	-	57.881	171.829
400	鉛 12(cps)	7.730	1082.881	-	-	71.223	266.224
685	鉛 13(cps)	284.570	804.966	-	35.840	165.705	133.406
867	鉛 14(cps)	11.326	683.555	33.948	38.353	297.785	497.819
732	鉛 15(cps)	-	1014.412	-	-	28.022	63.844
4889	鉛 16(cps)	14.551	296.230	-	-	184.847	240.722
5544	鉛 17(cps)	68.717	512.858	21.513	27.791	98.077	608.330
	ROI(keV)	6.23- 6.57	7.86- 8.22	11.52-11.93	21.84-22.36	24.92-25.47	12.42-12.84

表 34 分析試料から検出された元素とその強度

3. 3. 考察

旧練兵場遺跡出土銅鏃分析試料 17 点 (鉛 1 ~ 17) 全てから銅 (Cu)、スズ (Sn)、鉛 (Pb) を検出し、一部の銅鏃から銀 (Ag)、ヒ素 (As) を検出した。同時に検出した鉄 (Fe) は土壌成分由来であると考えられる。したがって、これらの銅鏃は青銅製であり、鉛同位体比測定に必要な鉛を含んでいることが確認できた。

以上、文責 川本耕三

[銅鏃と分析試料]

鉛 1 (銅鏃 1)

試料採取箇所



図 514 銅鏃 1 (左：試料採取前、右：試料採取後)

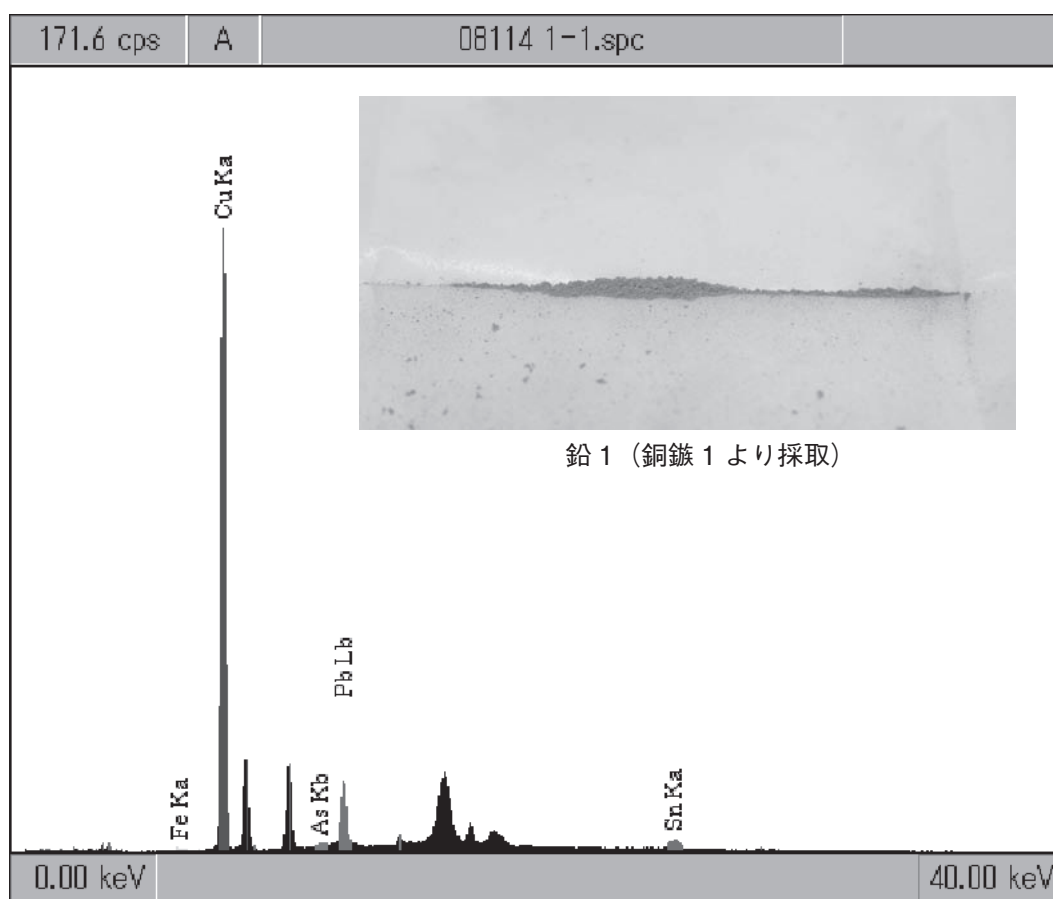


図 515 鉛 1 の XRF スペクトル

鉛 2 (銅鍍 2)



図 516 銅鍍 2

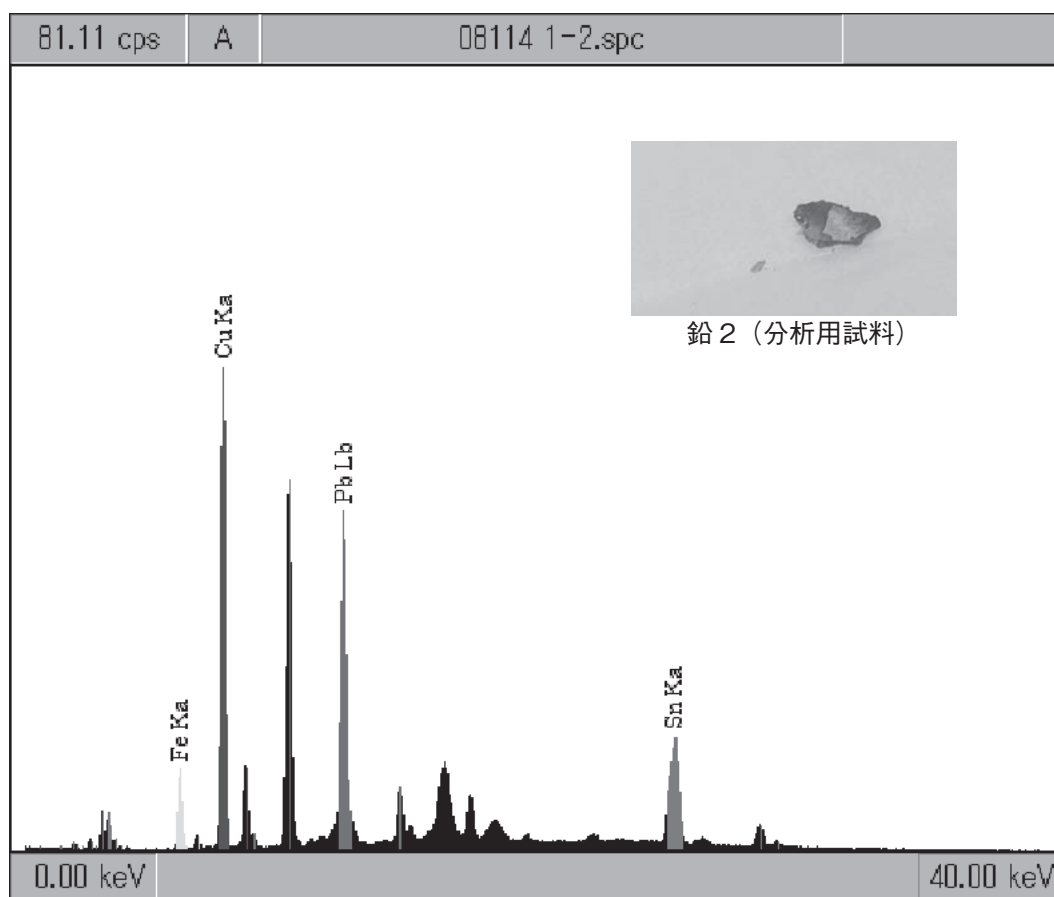


図 517 鉛 2 の XRF スペクトル

鉛3 (銅鏝3)



図 518 銅鏝3 (左: 試料採取前、右: 試料採取後)

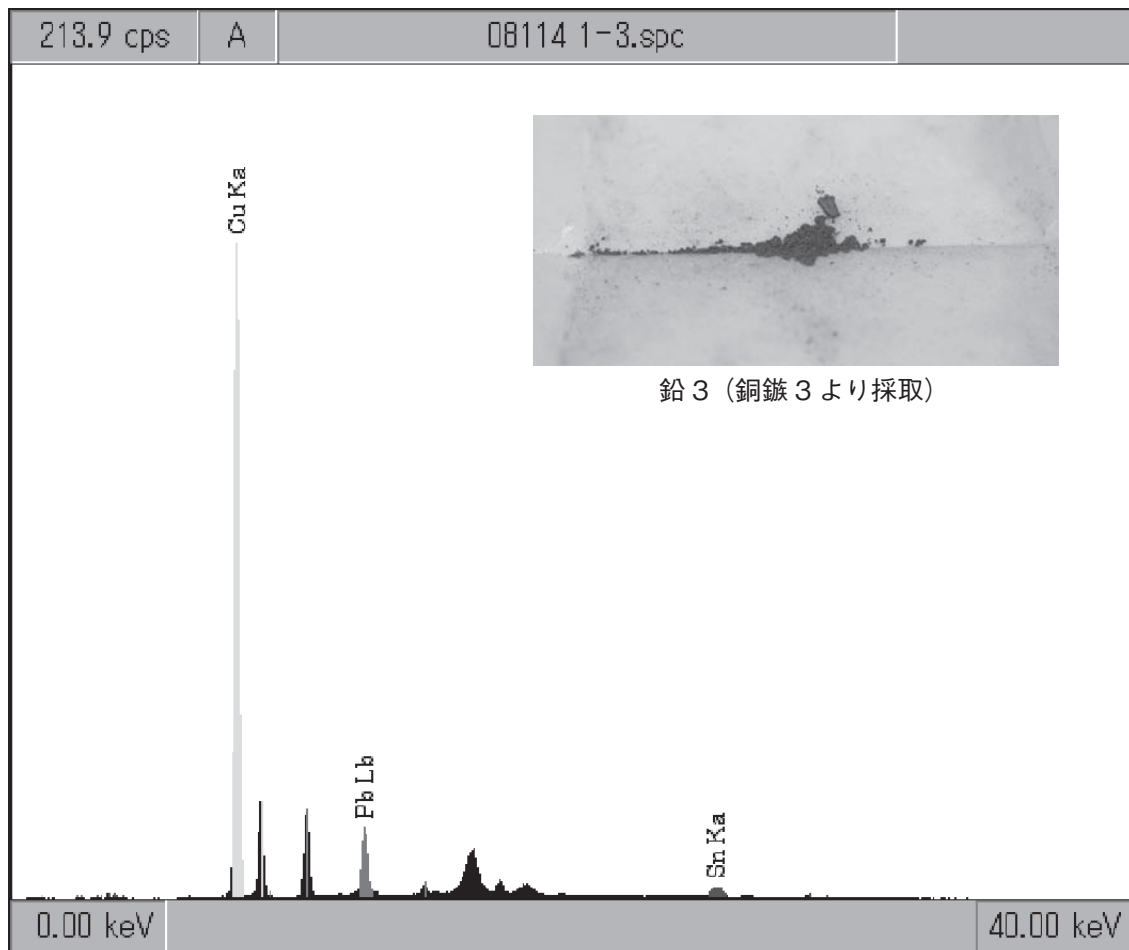


図 519 鉛3のXRFスペクトル

鉛 4 (銅鍍 4)



試料とした小片

図 520 銅鍍 4

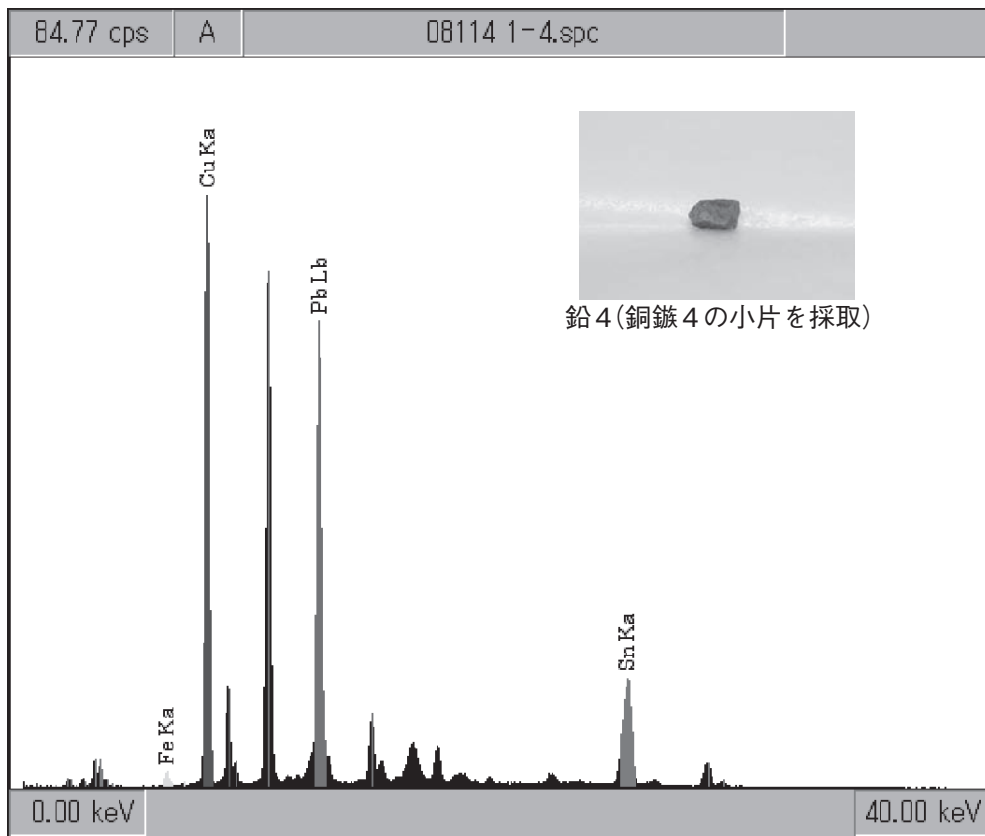


図 521 鉛 4 の XRF スペクトル

鉛 5 (銅鍍 5)



図 522 銅鍍 5

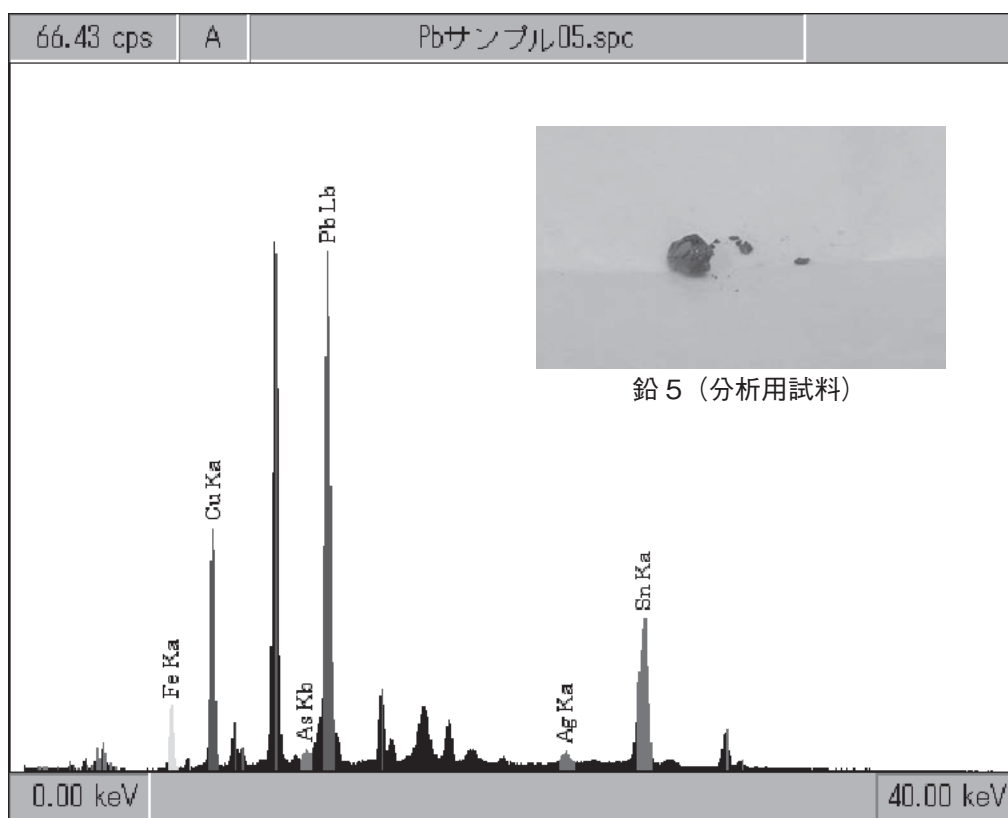


図 523 鉛 5 の XRF スペクトル

鉛6（銅鍍6）



図 524 銅鍍6

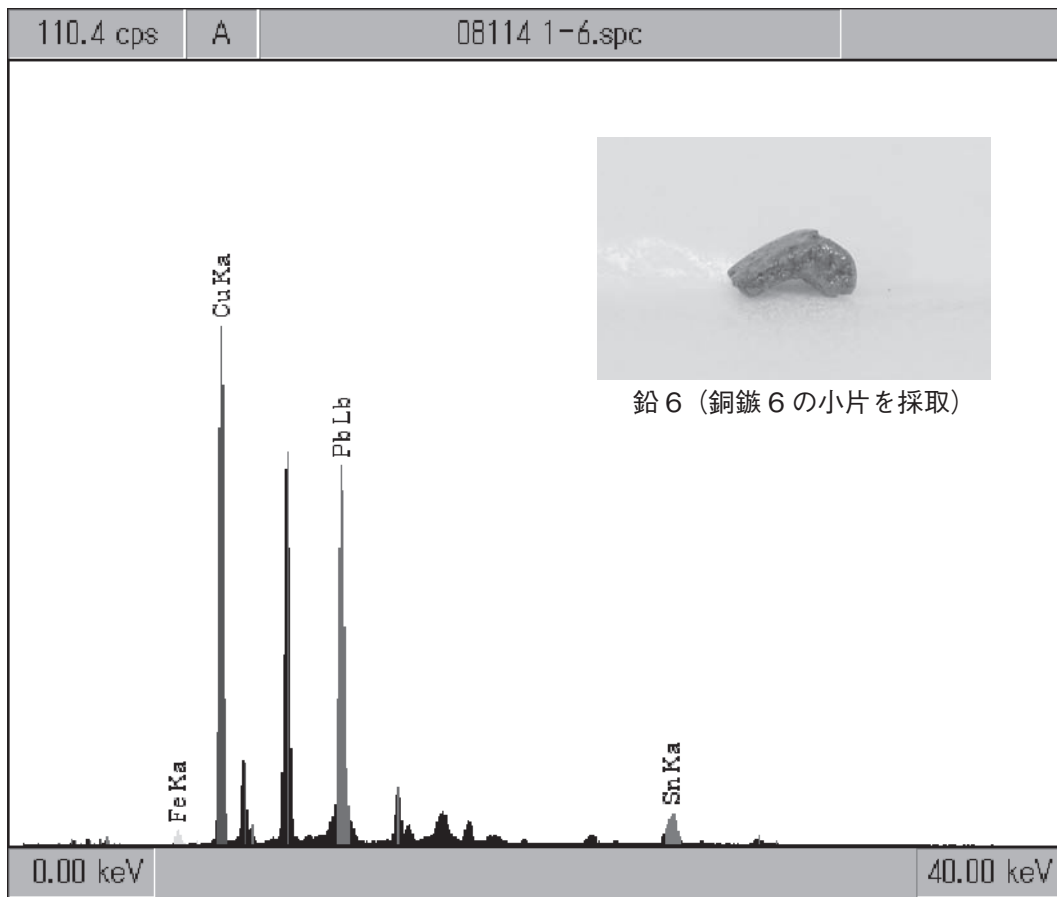


図 525 鉛6のXRFスペクトル

鉛 7 (銅鍍 7)

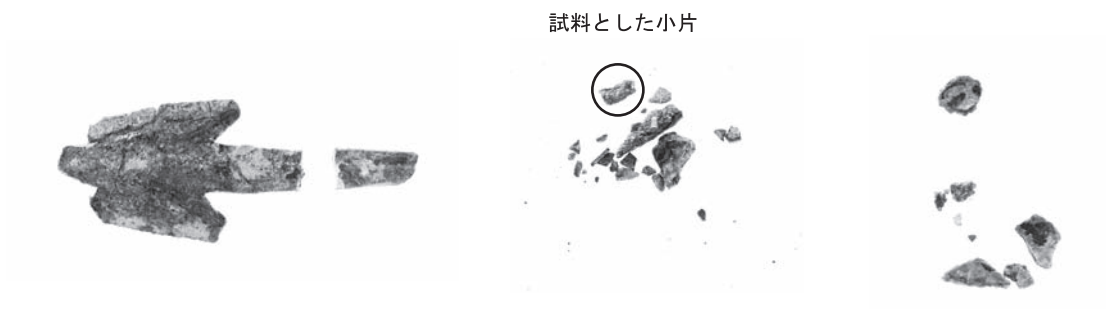


図 526 銅鍍 7

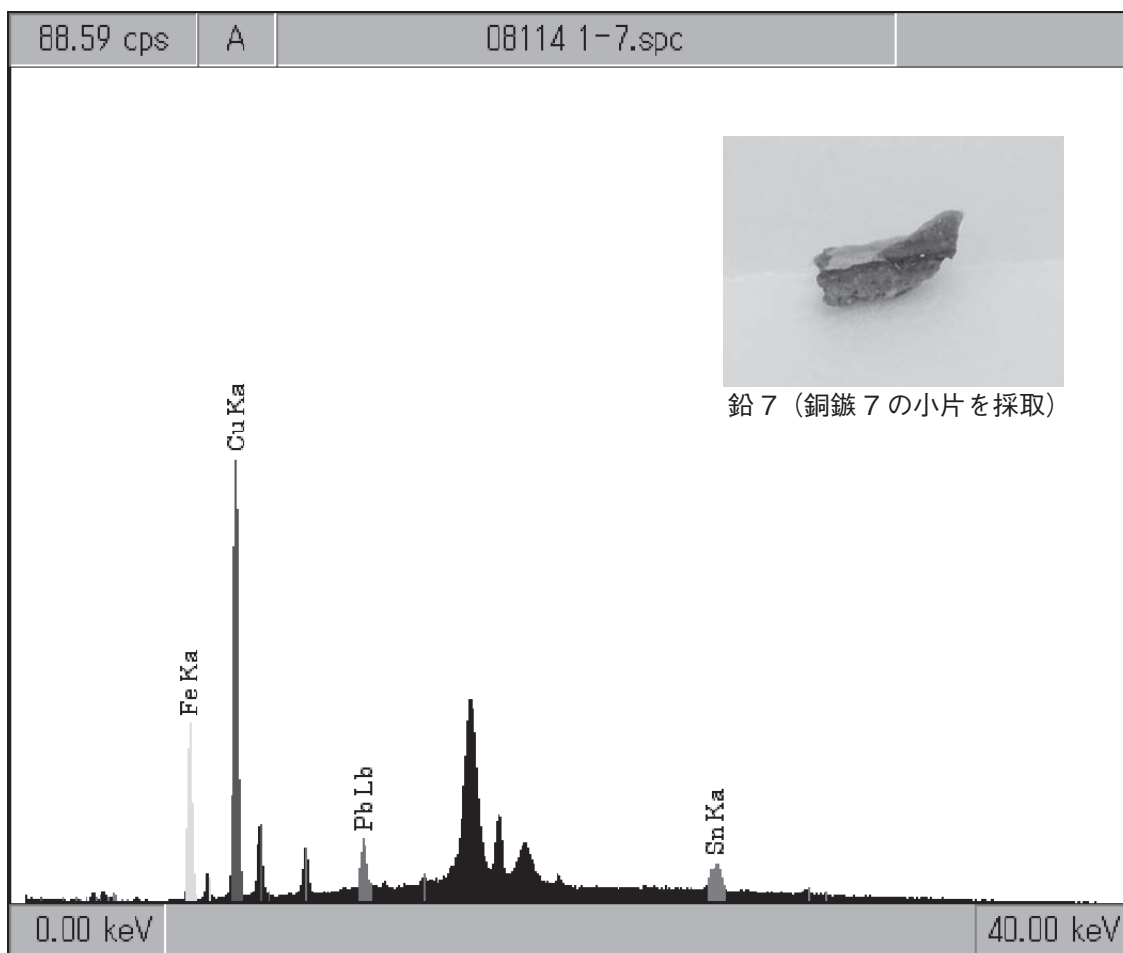


図 527 鉛 7 の XRF スペクトル

鉛 8 (銅鑛 8)



図 528 銅鑛 8

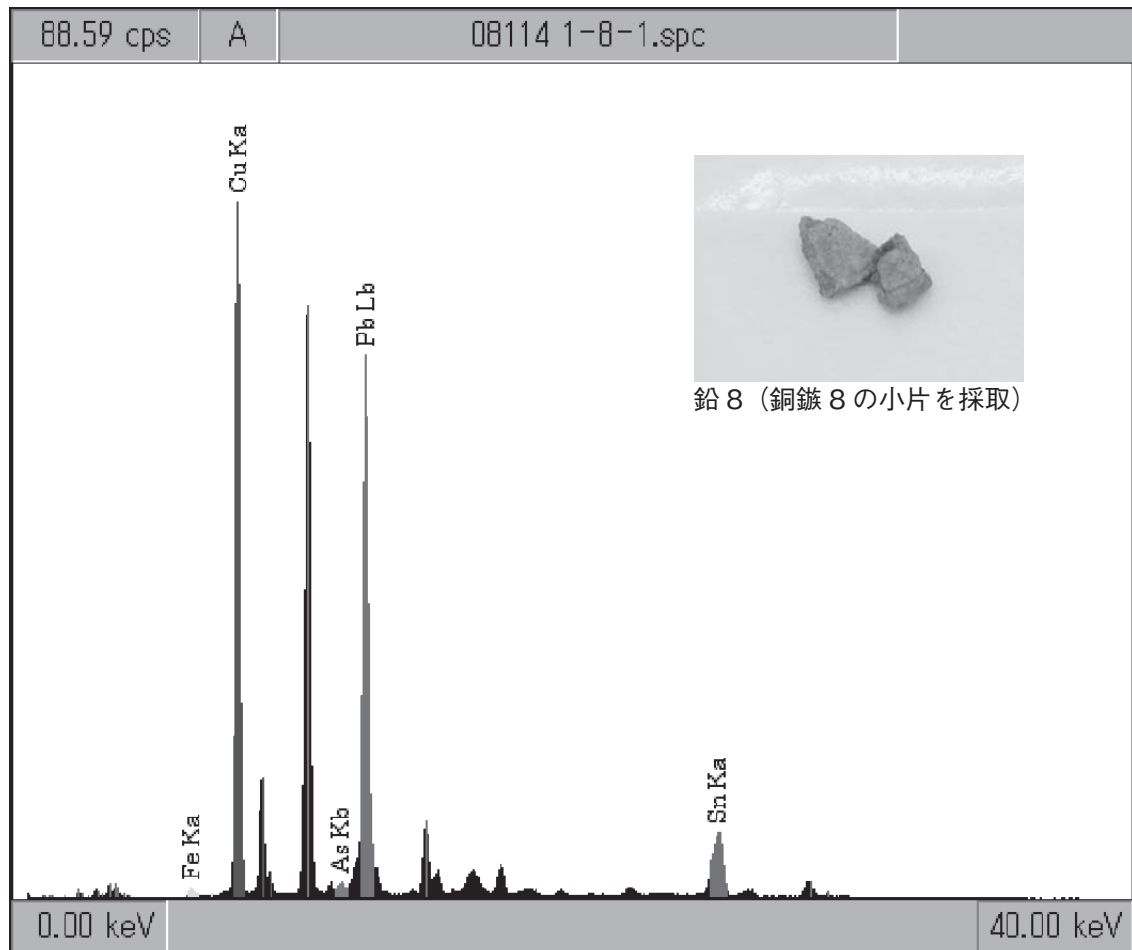


図 529 鉛 8 の XRF スペクトル

鉛9 (銅鍍9)



図 530 銅鍍9

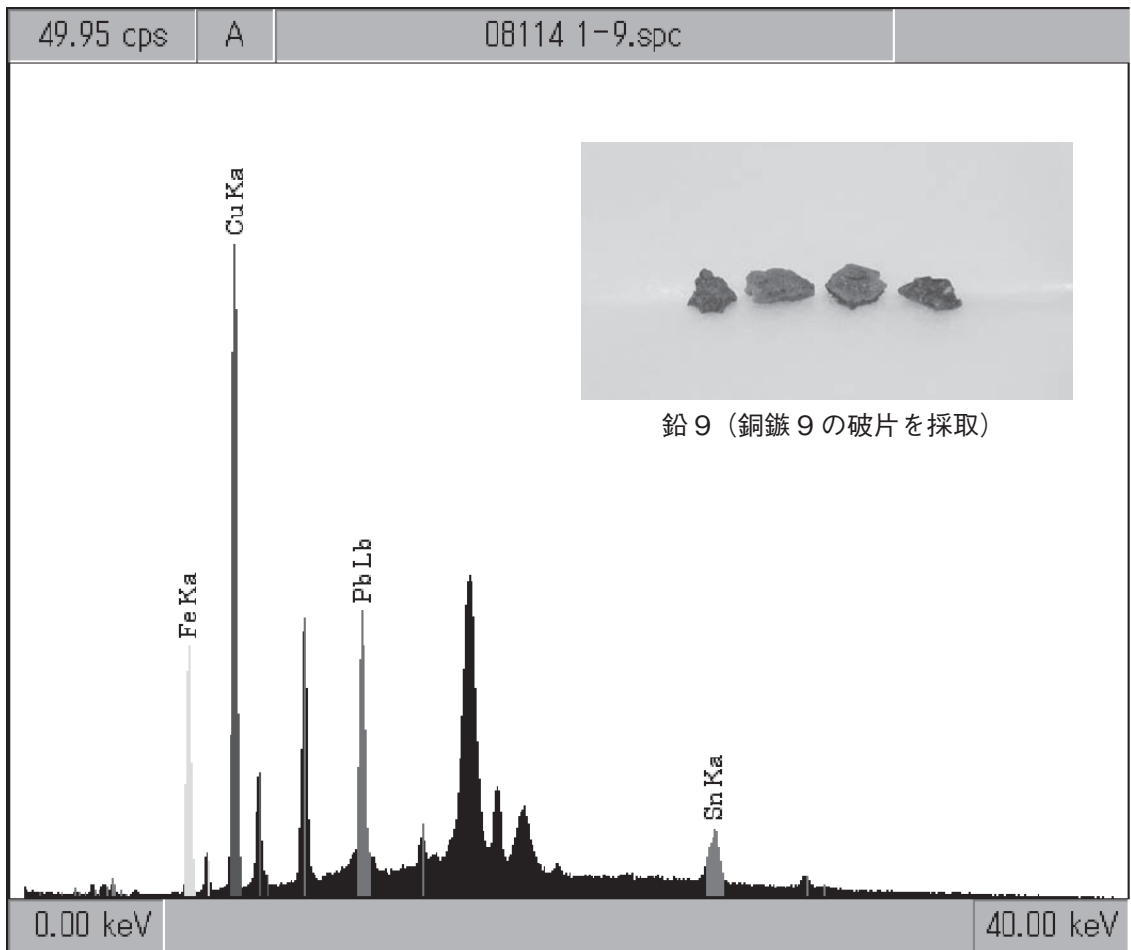


図 531 鉛9のXRFスペクトル

鉛 10 (銅鍍 10)



図 532 銅鍍 10

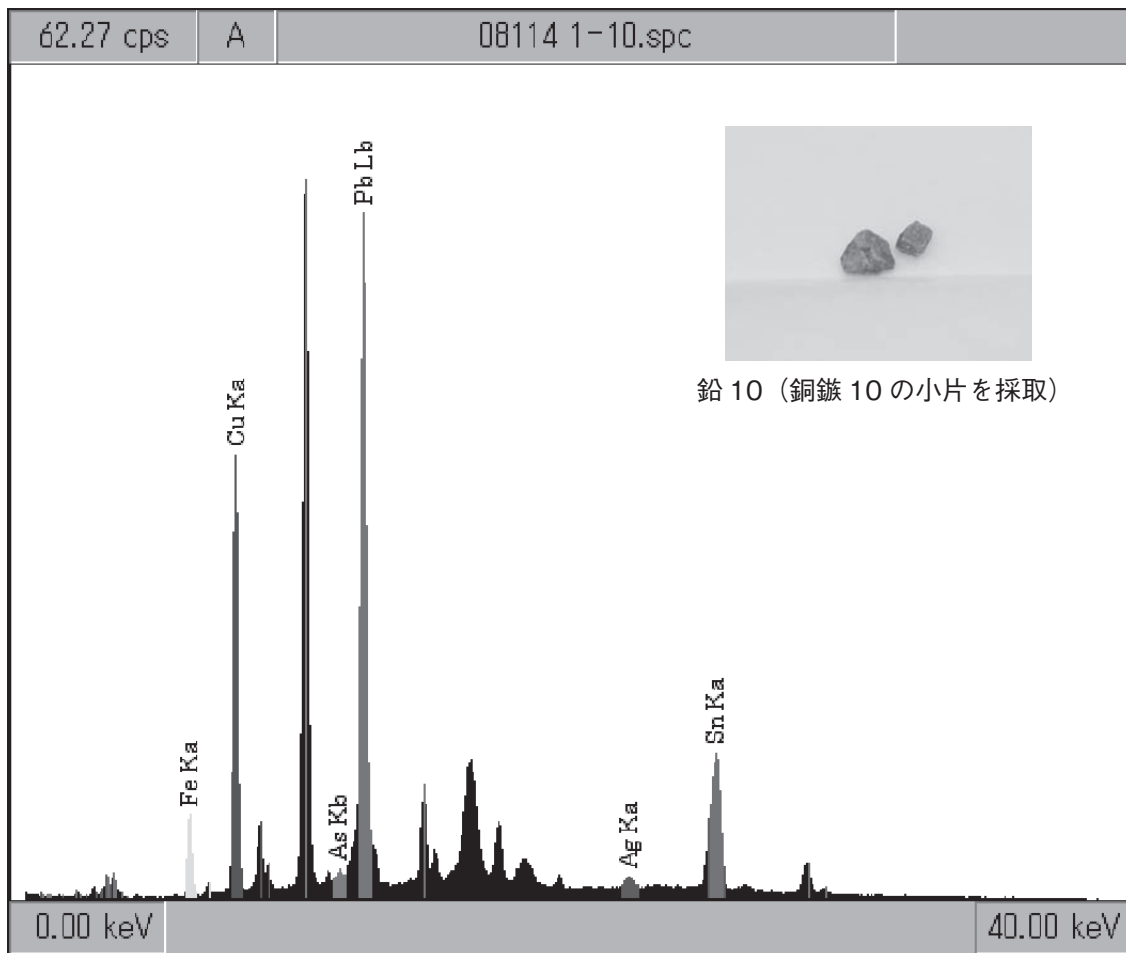


図 533 鉛 10 の XRF スペクトル

鉛 11 (銅鍍 11)

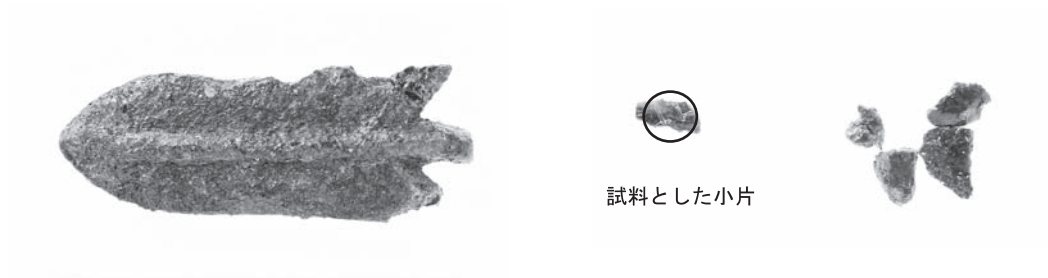


図 534 銅鍍 11

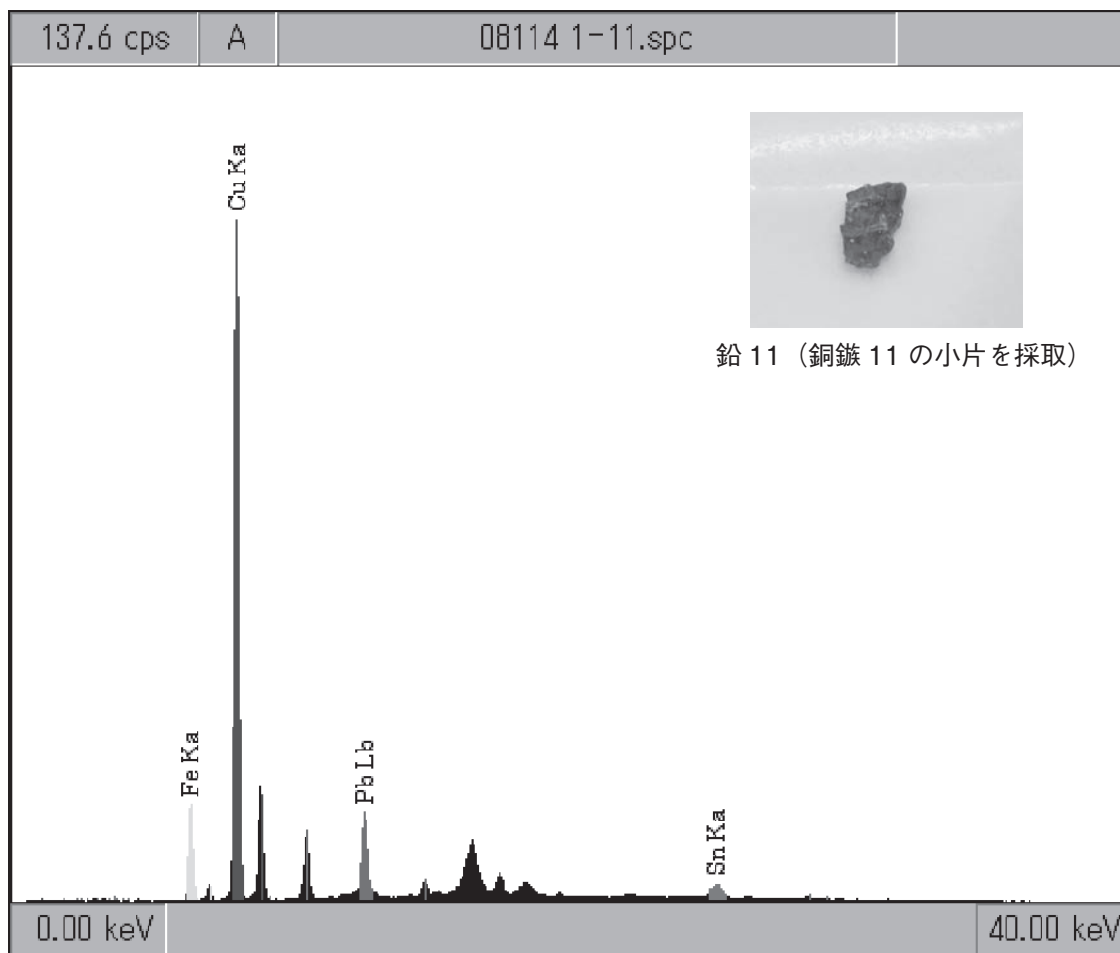


図 535 鉛 11 の XRF スペクトル

鉛 12 (銅鍍 12)



図 536 銅鍍 12 (左：試料採取前、右：試料採取後)

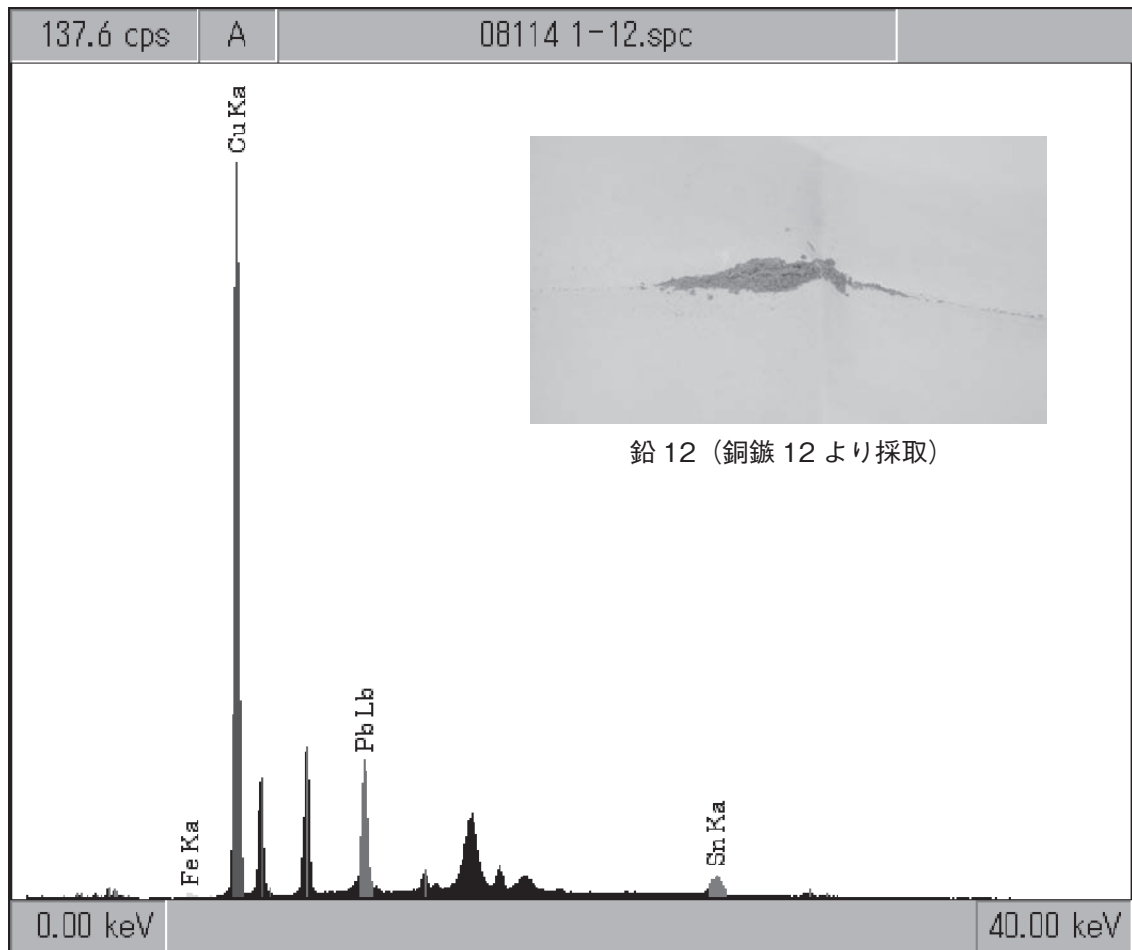


図 537 鉛 12 の XRF スペクトル

鉛 13 (銅鑛 13)



図 538 銅鑛 13

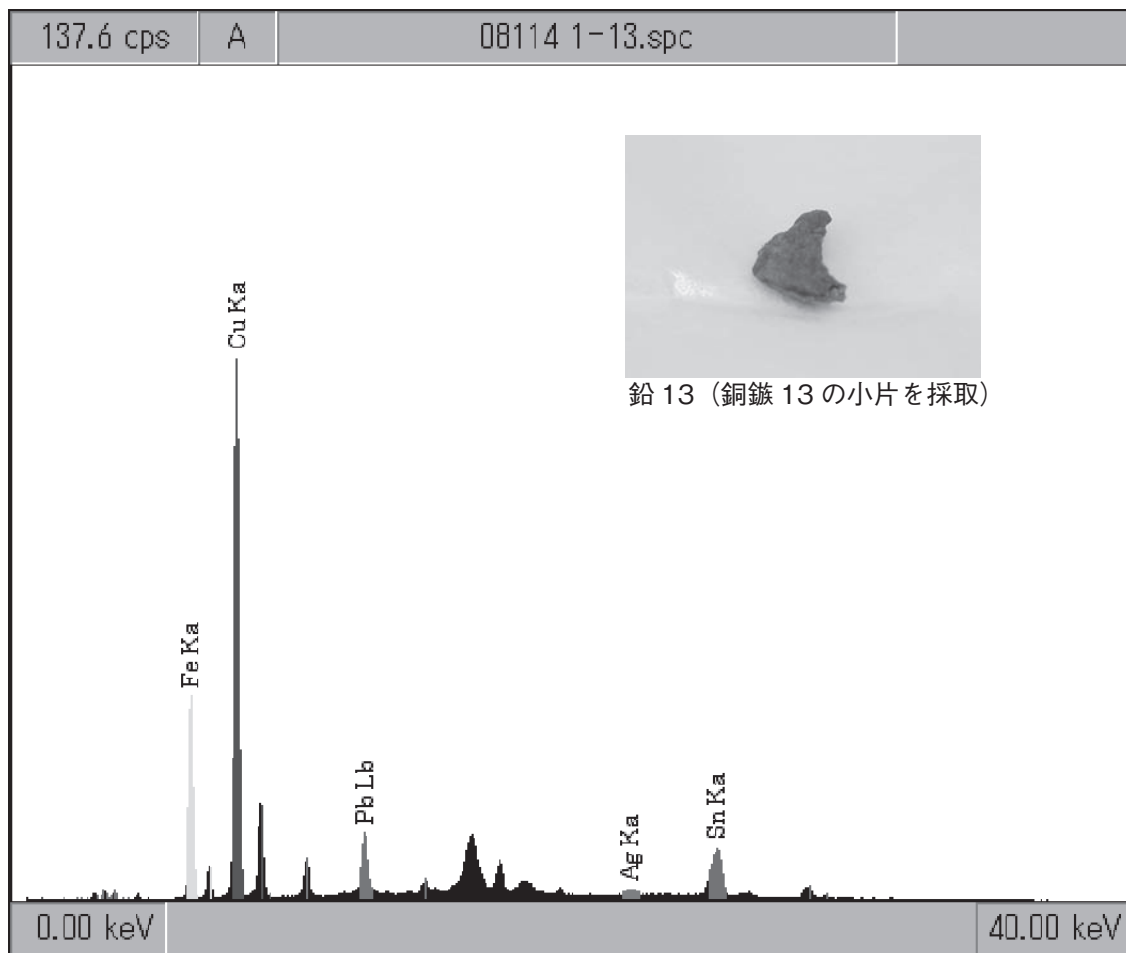


図 539 鉛 13 の XRF スペクトル

鉛 14 (銅鍍 14)

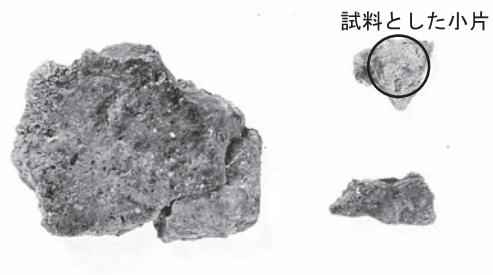


図 540 銅鍍 14

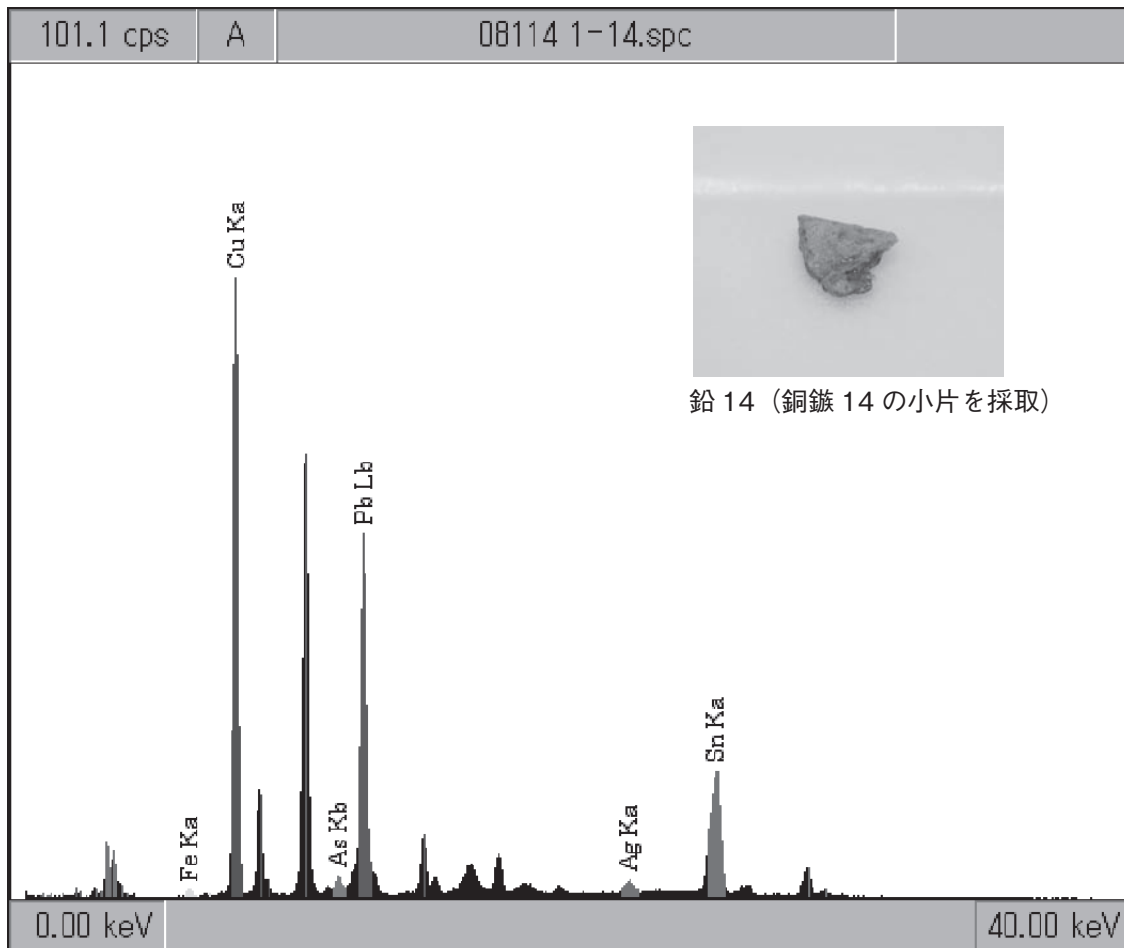


図 541 鉛 14 の XRF スペクトル

鉛 15 (銅鍍 15)

試料採取箇所 (接着部内面)



図 542 銅鍍 15 (左：試料採取前、右：試料採取後)

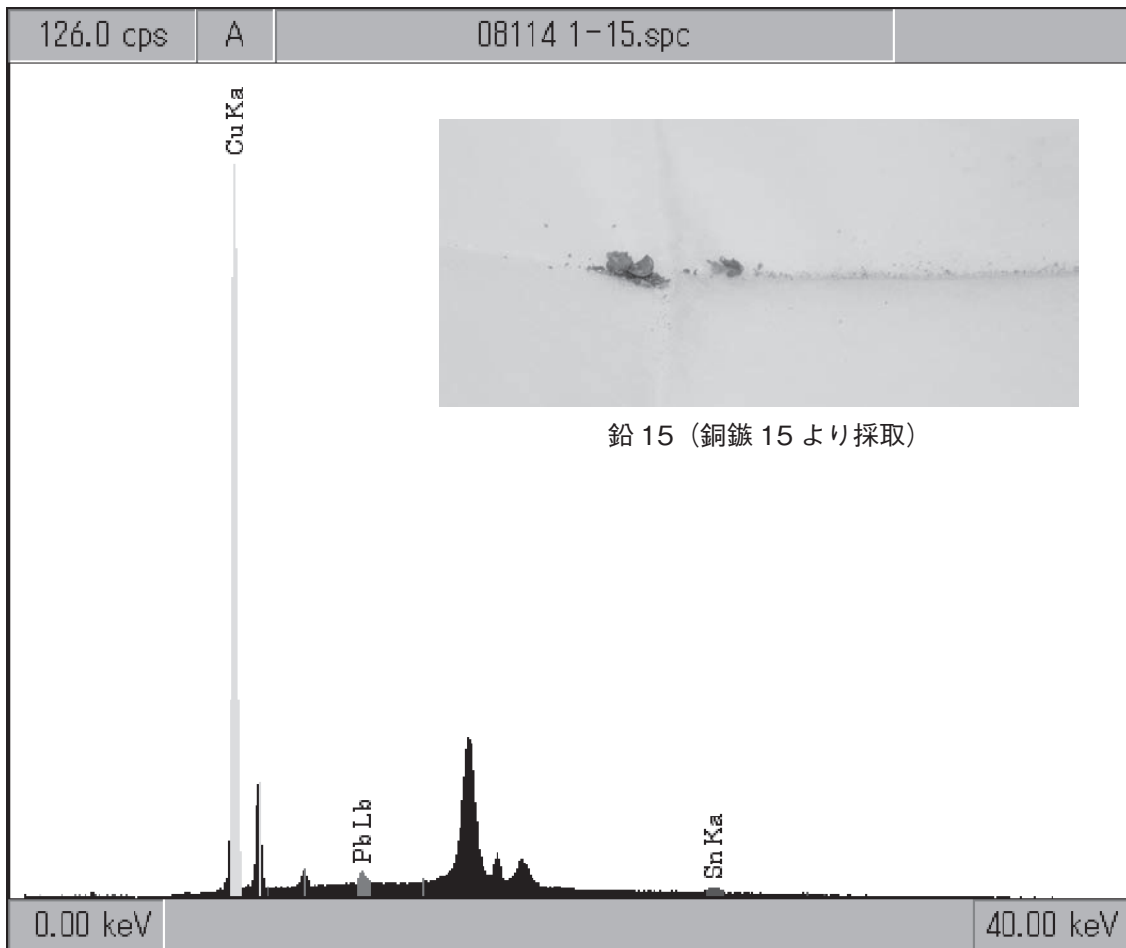


図 543 鉛 15 の XRF スペクトル

鉛 16 (銅鍍 16)



図 544 銅鍍 16

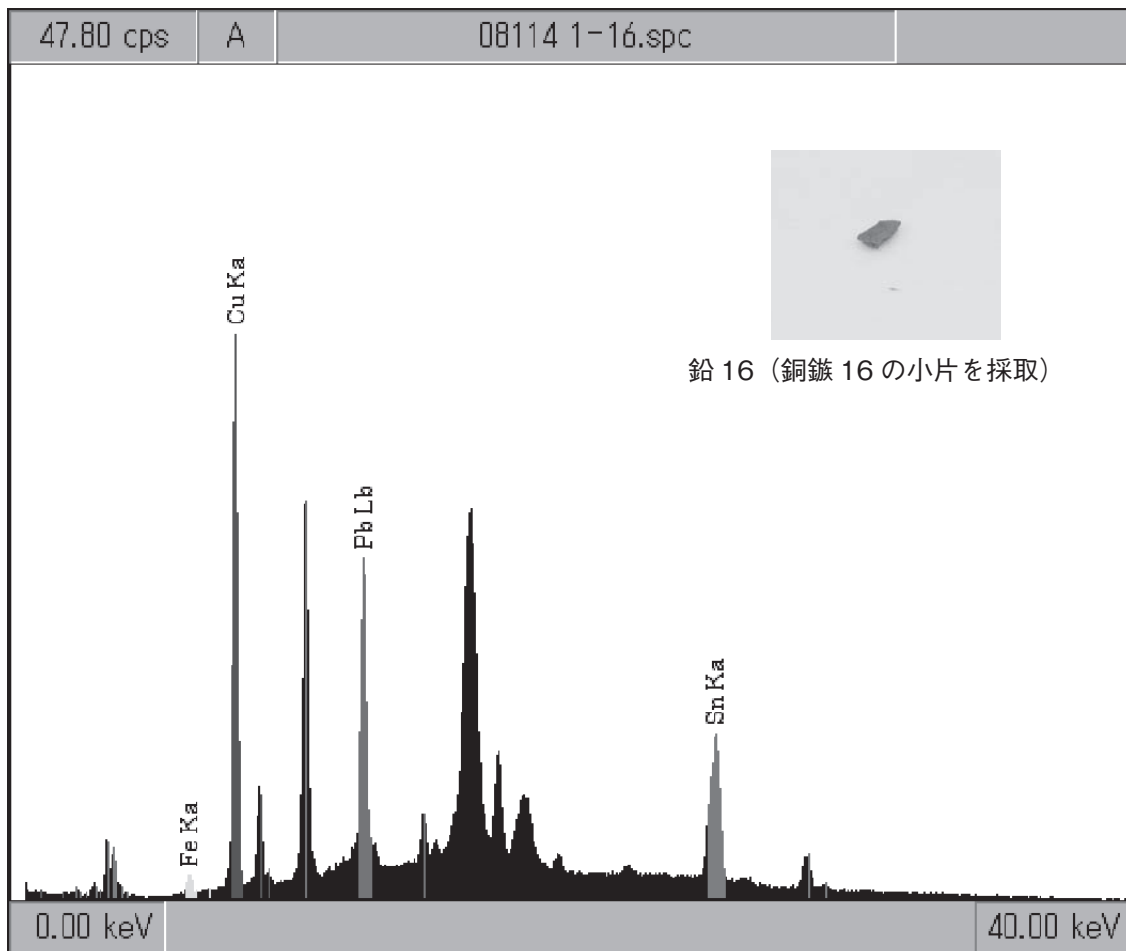


図 545 鉛 16 の XRF スペクトル

鉛 17 (銅 17)

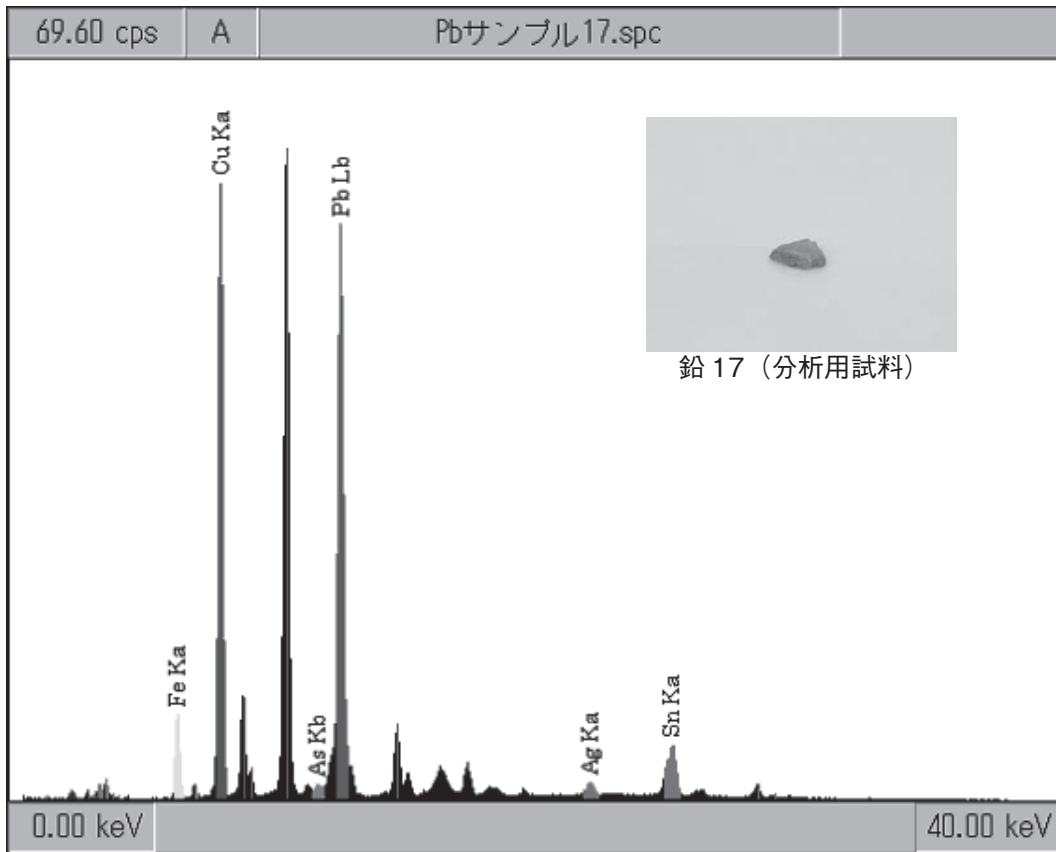


図 546 鉛 17 の XRF スペクトル

4. 鉛同位体比分析¹⁾

4.1. 鉛同位体法の原理

地球が誕生したとされている 45.6 億年前に、すべての元素の同位体組成は地球上で元素毎に一定の値となっており、その値は地球上においては普遍的であった。ほとんどの元素の同位体組成はその後変化しなかったが、例外的ないくつかの元素は変化した。鉛はその例外的な元素の一つである。

鉛 (Pb) には ^{204}Pb 、 ^{206}Pb 、 ^{207}Pb 、 ^{208}Pb の 4 種の同位体があり、地球誕生時にはある一定の比率で存在していた。しかし、地球誕生時には鉛としては存在していなかったウラン (U) やトリウム (Th) といった元素が、放射能を出して原子内の陽子や中性子の数を変化させ、最終的に鉛となって安定する放射壊変と呼ばれる現象を起こす。このため鉛の同位体は増加していく。具体的には ^{238}U は ^{206}Pb に、 ^{235}U は ^{207}Pb に、 ^{232}Th は ^{208}Pb へと変化する。ウランとトリウムが減少した量だけ各鉛同位体の量は増えるのである。このことで鉛の 3 種の同位体比は徐々に変化していく。

地球誕生時に存在したある一塊の岩石中にウランやトリウムと鉛が共存していたと仮定し、このまま数億年あるいは数十億年といった時間が経過したとする。この岩石は地殻変動などを受けて鉛のみが抽出され、鉛鉱床や鉛鉱山を形成するため、一定時間の経過後にウラン・トリウムと鉛は分離されることになる。変化前の岩石中のウラン・トリウム・鉛の量比やウラン・トリウム・鉛が共存していた時間の長さによって ^{206}Pb 、 ^{207}Pb 、 ^{208}Pb の鉛同位体の増加量が異なるため、その変化を鉛同位体比として表すことができる。この比は各鉱山ごとに固有の値を示すと推定されるため、世界の鉛鉱山の同位体比と文化財試料に含まれる鉛の同位体比を比較することで鉛の産地の違いを判別することができる。

4.2. 測定値の表し方²⁾

鉛同位体比測定の結果を理解するため、試料の同位体比を次のように示すこととした。鉛には ^{204}Pb 、 ^{206}Pb 、 ^{207}Pb 、 ^{208}Pb の独立した 4 種の同位体があるので、同位体比は $^{206}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$ 、 $^{207}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$ 、 $^{208}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$ 、 $^{204}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ 、 $^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ 、 $^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ 、 $^{204}\text{Pb}/^{207}\text{Pb}$ 、 $^{206}\text{Pb}/^{207}\text{Pb}$ 、 $^{208}\text{Pb}/^{207}\text{Pb}$ 、 $^{204}\text{Pb}/^{208}\text{Pb}$ 、 $^{206}\text{Pb}/^{208}\text{Pb}$ 、 $^{207}\text{Pb}/^{208}\text{Pb}$ という 12 の方法で表現される。この方法の中で最も整った図で表現でき、4 種類の同位体を含む $^{206}\text{Pb}/^{204}\text{Pb} - ^{207}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$ (B 式図) と $^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb} - ^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ (A 式図) という 2 つの図を用いた表現方法を利用して測定結果の図化を行った。

今までの研究から、中国の前漢時代、後漢時代・三国時代の銅鏡を分析して、これらを図 547 と図 549 の中にプロットすると、前漢時代の銅鏡と後漢・三国時代の銅鏡の材料が、はっきり区分されて分布した。さらに前漢時代の銅鏡が分布した領域を、他の出土資料と比較することによって、華北産材料の領域と表し、後漢時代・三国時代の銅鏡が分布する領域を華南産材料の領域と表現することができた。弥生時代後期後半の突線鈕銅鐸や広形銅矛などの青銅器資料は華北産材料の領域の中でも一定な範囲に集まって分布するため、この領域を特定領域“a、a'”と表した。このような狭い領域に値が集中するので、特定産地の鉛材料が利用されていたと示唆される。

日本産材料の領域を設定する場合、西暦 6 世紀頃までの遺物で日本産の材料を用いたと断定できる資料は今のところ確認できていないので、8 世紀以降に作られた銭貨と現代の鉛鉱山が示す分布を日本産材料の領域とした。

朝鮮半島産材料の領域には、朝鮮半島で製作されたと考えられる多鈕細文鏡を用い、それらが示す分布領域を朝鮮半島産材料の範囲とした。

鉛材料の産地は本来ならば鉛鉱山が示す値から設定すべきであるが、文化財資料が製作された当時に利用された鉱山を探すことにはかなり無理があり、現実的に限界がある。そのため、製作された時代がほぼ確実に推定されている文化財資料から鉛を採取し、それを基準に領域を仮定することで鉛材料産地を設定した。この仮定から測定値がある領域に位置した場合、それぞれの領域が示す産地の材料である可能性を示すのである。

4.3. 分析方法³⁾

採取試料の全量を石英製ビーカーに入れ、濃硝酸（多摩化学工業社製 分析用超高純度試薬 TAMAPURE-AA-100）を0.1ml加えて溶解し、蒸留水で5mlに希釈した。この溶液を直流2V、1.2～2.4mAで電気分解し、陽極側に析出した二酸化鉛（ PbO_2 ）を濃硝酸（同上）0.1mlと35%過酸化水素水（多摩化学工業社製 分析用超高純度試薬 TAMAPURE-AA-10）0.1mlで還元して溶解した。

溶液の鉛濃度を炭素炉原子吸光光度法で測定し、この試料溶液から0.2 μ gの鉛を分取し、1Mリン酸4 μ lとシリカゲル5 μ lを加えた。これをレニウムシングルフィラメント上に塗布し、徐々に電流を上げて蒸発乾固させて、質量分析測定用試料とした。

質量分析測定用試料が付着したフィラメントを質量分析計（別府大学に設置されているサーモフィッシャーサイエンティフィック社製表面電離型質量分析計 MAT262）に装填し、分析計の諸条件を整え、フィラメント温度を1200℃に設定して鉛同位体比を測定した。併せて同一条件で標準鉛試料 NBS-SRM981 を測定し、前述の各測定結果を規格化して測定値とした。

4.4. 測定結果と考察

得られた鉛同位体比値を表35にまとめた。4.2で述べたA式図を図547として、B式図を図549として図化した。また、各図の拡大図を図548、550として表した。なお、拡大図には参考として銅鏃101、102も加えた。

A式図、B式図どちらにおいても、多くの資料が特定領域a、a'内にほぼ収まる形で分布していることが読み取れる。日本国内で出土する青銅器の場合、弥生時代後期には材料として中国華北産材料が利用されることが多く、後期後半には特定領域a、a'の材料が使用されたことがわかっている⁴⁾。この結果から、銅鏃6、9、10を除く銅鏃は弥生時代後期後半の典型的な金属材料を利用している可能性が高いと考えられる。

銅鏃11は図の中で、特定領域a、a'のかなり近くに位置した。それ故、特定領域a、a'の材料と見ることもできし、また一方では銅鏃10を作った材料と特定領域a、a'の材料を混合したとも考えられる。しかしながら、特定領域a、a'にかなり近いことから、混合と考えても、特定領域a、a'の材料が主であると判断できる。

銅鏃10は特定領域a、a'の範囲から明らかに異なっているため、同範囲の資料とは別の材料を使用している可能性も考えられる。

銅鏃6、9は、今までの銅矛・銅鐸の原料と比較すると弥生時代終末期の資料でこれほど値が離れるのは稀であるため、異なった原料である可能性が示唆される。

さらに、図551～554にはこれまでに測定された国内で出土した弥生時代の資料である銅鏃・三稜鏃（表36、37）⁵⁾と本調査資料の鉛同位体比を比較した結果を示した。ほとんどの資料が特定領域a、a'

付近に分布していることがわかった。これは本調査における香川県善通寺市旧練兵場遺跡から出土した銅鏃の多くが、弥生時代後期の代表的な銅鏃であり、当時の典型的な金属材料を利用して製造された可能性を示唆する。

また、別添資料として本遺跡（NZR 地区）の銅鏃の変遷図 555 に示すが、今回の鉛同位体比調査でこの変遷を裏付けるための顕著な結果は得られなかった。

※参考・引用文献

- 1) 平尾良光, “鉛同位体比法”. 青銅鏡・銅鐸・鉄剣を語る. 平尾良光, 山岸良二編. 国土社, 1998, p.13-19. (文化財を語る科学の眼, 3)
- 2) 平尾良光, 榎本淳子. “第 I 章 古代日本青銅器の鉛同位体比 2 鉛同位体比法 2-5 測定値の表し方” 古代青銅の流通と製造. 平尾良光編. 鶴山堂, 1999, p.35 - 39
- 3) 松本哲一, 平尾良光, 富樫茂子. 地質調査所岩石標準試料の鉛同位体比測定. 地質調査所月報. 1993, vol.44, no.11, p.649 - 657.
- 4) 平尾良光, 鈴木浩子. “第 II 章 弥生時代青銅器と鉛同位体比”. 古代青銅の流通と製造. 平尾良光編. 鶴山堂, 1999, p.163-208
- 5) 平尾良光. “第 6 章 鉛同位体比の測定と分析”. 弥生・古墳時代 青銅・ガラス製品. 森田稔, 井上洋一編. 小学館, 2003, p.345-368. (考古資料大観, 6)

資料番号	報文番号	資料名	$^{206}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	測定番号
1-1	1985	銅鏃	17.750	15.544	38.415	0.8758	2.1643	BP 6009
1-2	1698	銅鏃	17.742	15.539	38.410	0.8758	2.1649	BP 6010
1-3	206	銅鏃	17.751	15.552	38.446	0.8761	2.1658	BP 6011
1-4	282	銅鏃	17.743	15.546	38.419	0.8762	2.1654	BP 6012
1-5	399	銅鏃	17.730	15.537	38.391	0.8763	2.1653	BP 6013
1-6	401	銅鏃	17.679	15.535	38.342	0.8787	2.1688	BP 6014
1-7	519	銅鏃	17.741	15.543	38.416	0.8761	2.1653	BP 6015
1-8	520	銅鏃	17.738	15.541	38.410	0.8762	2.1654	BP 6016
1-9	583	銅鏃	17.863	15.556	38.454	0.8708	2.1527	BP 6017
1-10	584	銅鏃	17.779	15.553	38.446	0.8748	2.1624	BP 6018
1-11	549	銅鏃	17.768	15.550	38.438	0.8751	2.1633	BP 6019
1-12	400	銅鏃	17.741	15.546	38.427	0.8763	2.1660	BP 6020
1-13	685	銅鏃	17.759	15.553	38.447	0.8758	2.1650	BP 6021
1-14	867	銅鏃	17.741	15.545	38.418	0.8762	2.1655	BP 6022
1-15	732	銅鏃	17.739	15.547	38.421	0.8764	2.1659	BP 6023
1-16	4889	銅鏃	17.757	15.554	38.450	0.8760	2.1654	BP 6024
1-17	5544	銅鏃	17.743	15.552	38.445	0.8765	2.1668	BP 6025
		誤差	± 0.010	± 0.010	± 0.030	± 0.0003	± 0.0006	

表 35 本調査における香川県善通寺市旧練兵場遺跡出土資料の鉛同位体比

番号	資料名	出土地	$^{206}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$
1	銅鏃	群馬県渋川市有馬遺跡7号墓	17.758	15.552	38.423	0.8758	2.1637
2	銅鏃	東京都北区田端不動坂遺跡	17.746	15.547	38.413	0.8761	2.1646
3	銅鏃	新潟県中頸城郡大潟町潟町字巻	18.001	15.616	38.596	0.8675	2.1441
4	銅鏃	山梨県東八代郡中道町東山北遺跡	17.743	15.548	38.405	0.8763	2.1645
5	銅鏃	山梨県東八代郡中道町東山北遺跡	17.741	15.548	38.408	0.8764	2.1649
6	銅鏃	岐阜県大垣市荒尾南遺跡 F-33 包含層	17.736	15.546	38.404	0.8765	2.1653
7	銅鏃	岐阜県大垣市荒尾南遺跡 I-35 包含層	17.774	15.563	38.472	0.8756	2.1645
8	銅鏃	岐阜県大垣市荒尾南遺跡 E-30 溝 SD-05 流路	17.746	15.549	38.415	0.8762	2.1647
9	銅鏃	岐阜県大垣市荒尾南遺跡 E-30 溝 SD-05 流路	17.745	15.553	38.43	0.8765	2.1657
10	銅鏃	岐阜県大垣市荒尾南遺跡 G-33 包含層	17.762	15.552	38.432	0.8756	2.1637
11	銅鏃	静岡県浜松市都田町椿野遺跡	17.734	15.535	38.407	0.876	2.1657
12	銅鏃	静岡県浜松市都田町椿野遺跡	17.737	15.539	38.418	0.8761	2.166
13	銅鏃	静岡県浜松市都田町椿野遺跡	17.732	15.542	38.409	0.8765	2.1661
14	銅鏃	静岡県浜松市都田町椿野遺跡	17.737	15.548	38.441	0.8766	2.1673
15	銅鏃	静岡県浜松市都田町椿野遺跡	17.753	15.548	38.4	0.8758	2.163
16	銅鏃	静岡県浜松市都田町椿野遺跡	17.763	15.583	38.548	0.8773	2.1701
17	銅鏃	静岡県袋井市愛野向山遺跡	17.793	15.574	38.479	0.8753	2.1626
18	銅鏃	静岡県駿東郡清水町伏見字根岸	17.749	15.557	38.444	0.8765	2.166
19	銅鏃	愛知県名古屋市長区鳴海町山王山遺跡	17.758	15.56	38.467	0.8762	2.1662
20	銅鏃 (No.1)	愛知県一宮市八王子遺跡	17.753	15.557	38.444	0.8763	2.1655
21	銅鏃 (No.2)	愛知県一宮市八王子遺跡	17.737	15.548	38.408	0.8766	2.1654
22	銅鏃 (No.3)	愛知県一宮市八王子遺跡	17.743	15.552	38.424	0.8765	2.1656
23	銅鏃 (No.4)	愛知県一宮市八王子遺跡	17.739	15.545	38.403	0.8763	2.1649
24	銅鏃 (No.5)	愛知県一宮市八王子遺跡	17.748	15.549	38.414	0.8761	2.1644
25	銅鏃 (No.6)	愛知県一宮市八王子遺跡	17.742	15.547	38.408	0.8763	2.1648
26	銅鏃	愛知県一宮市伝法寺野田遺跡	17.997	15.625	38.629	0.8682	2.1464
27	銅鏃	愛知県一宮市田所遺跡	17.939	15.589	38.531	0.869	2.1479
28	銅鏃 (破片)	愛知県豊川市三谷原町郷中遺跡	17.754	15.563	38.464	0.8766	2.1665
29	銅鏃 (完形)	愛知県豊川市三谷原町郷中遺跡	17.744	15.544	38.418	0.876	2.1651
30	銅鏃 (破片)	愛知県豊川市三谷原町郷中遺跡	17.727	15.529	38.365	0.876	2.1642
31	銅鏃	愛知県安城市桜井町宮下遺跡	17.791	15.548	38.441	0.8739	2.1607
32	銅鏃	愛知県安城市下懸遺跡	17.738	15.544	38.397	0.8763	2.1647
33	銅鏃	愛知県尾西市西上免遺跡	17.742	15.546	38.408	0.8762	2.1648
34	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.752	15.551	38.444	0.876	2.1656
35	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.733	15.543	38.401	0.8765	2.1655
36	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.751	15.557	38.458	0.8764	2.1665
37	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.722	15.549	38.402	0.8774	2.1669
38	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.913	15.581	38.583	0.8698	2.1539
39	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.669	15.547	38.356	0.8799	2.1708
40	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.675	15.533	38.33	0.8788	2.1686
41	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.751	15.561	38.463	0.8766	2.1668
42	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.762	15.561	38.481	0.8761	2.1665
43	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.754	15.567	38.48	0.8768	2.1674
44	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.739	15.543	38.398	0.8762	2.1646
45	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.736	15.542	38.393	0.8763	2.1647
46	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.725	15.54	38.376	0.8767	2.1651
47	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.741	15.548	38.413	0.8764	2.1652
48	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.733	15.547	38.404	0.8767	2.1657
49	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.649	15.529	38.291	0.8799	2.1696
50	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.747	15.55	38.415	0.8762	2.1646
51	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.75	15.549	38.422	0.876	2.1646
52	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.745	15.545	38.406	0.876	2.1643
53	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.746	15.546	38.409	0.876	2.1644
54	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.746	15.546	38.409	0.876	2.1644
55	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.748	15.546	38.405	0.8759	2.1639
56	銅鏃	愛知県西春日井郡清洲町朝日遺跡	17.753	15.552	38.428	0.876	2.1646
57	銅鏃	愛知県宝飯郡小坂井町欠山第三貝塚	17.764	15.565	38.486	0.8762	2.1665
58	銅鏃	愛知県渥美郡田原町大久保	17.738	15.542	38.397	0.8762	2.1647
59	銅鏃	愛知県渥美郡渥美町大本貝塚	17.714	15.533	38.361	0.8769	2.1656
59	銅鏃 (完形)	愛知県渥美郡渥美町大本貝塚	17.734	15.53	38.369	0.8757	2.1636

表 36 これまでに測定された弥生時代の銅鏃・三稜鏃の鉛同位体比 その1

番号	資料名	出土地	$^{206}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$
60	銅鏝 (連続形銅製品)	滋賀県伊香郡・滋賀県	17.719	15.545	38.383	0.8773	2.1662
61	銅鏝 (連続形銅製品)	滋賀県伊香郡・滋賀県	17.715	15.54	38.364	0.8772	2.1656
62	銅鏝	兵庫県神戸市垂水区舞子台大蔵山遺跡	17.755	15.555	38.422	0.8761	2.164
63	銅鏝	兵庫県龍野市揖西町清水遺跡	17.761	15.575	38.504	0.8769	2.1679
64	銅鏝	鳥取県鳥取市浜坂	17.78	15.558	38.451	0.875	2.1626
65	三稜鏝	鳥根県出雲市古志町古志本郷遺跡	17.702	15.523	38.362	0.8769	2.1671
66	銅鏝	鳥根県江津市後地波来浜	17.781	15.544	38.421	0.8742	2.1608
67	銅鏝	鳥根県江津市後地波来浜	17.69	15.541	38.329	0.8785	2.1667
68	銅鏝	鳥根県江津市後地波来浜	17.746	15.547	38.425	0.8761	2.1653
69	銅鏝	鳥根県江津市後地波来浜	17.768	15.549	38.418	0.8751	2.1622
70	銅鏝	鳥根県江津市後地波来浜	17.74	15.549	38.425	0.8765	2.166
71	銅鏝	鳥根県江津市後地波来浜	17.754	15.54	38.416	0.8753	2.1638
72	銅鏝	鳥根県八束郡東出雲町敷遺跡	17.787	15.558	38.452	0.8747	2.1618
73	銅鏝	岡山県岡山市足守川加茂A遺跡	17.74	15.544	38.404	0.8762	2.1648
74	銅鏝	岡山県岡山市足守川加茂B遺跡	17.749	15.548	38.407	0.876	2.1639
75	銅鏝	岡山県岡山市足守川矢部南向遺跡	17.74	15.558	38.43	0.877	2.1663
76	銅鏝	岡山県岡山市足守川矢部南向遺跡	17.752	15.554	38.435	0.8762	2.1651
77	銅鏝	岡山県岡山市足守川矢部南向遺跡	17.745	15.546	38.4	0.8761	2.164
78	銅鏝	岡山県岡山市足守川矢部南向遺跡	17.762	15.572	38.492	0.8767	2.1671
79	銅鏝	岡山県岡山市足守川矢部南向遺跡	17.751	15.553	38.429	0.8762	2.1649
80	銅鏝 (SC-33)	福岡県福岡市野方柳原台住居址	17.762	15.536	38.401	0.8747	2.162
81	銅鏝 (SC-38-1)	福岡県福岡市野方柳原台住居址	17.77	15.547	38.422	0.8749	2.1622
82	銅鏝 (SC-38-2)	福岡県福岡市野方柳原台住居址	17.745	15.545	38.406	0.876	2.1643
83	銅鏝 (SC-38-3)	福岡県福岡市野方柳原台住居址	17.75	15.547	38.411	0.8759	2.164
84	銅鏝 (SC-39-1)	福岡県福岡市野方柳原台住居址	17.747	15.546	38.406	0.876	2.1641
85	銅鏝 (SC-39-2)	福岡県福岡市野方柳原台住居址	17.773	15.551	38.42	0.875	2.1617
86	銅鏝	福岡県宗像郡津屋崎町今川遺跡	18.296	15.619	38.621	0.8537	2.1109
87	銅鏝	福岡県糸島郡前原町志登遺跡	17.757	15.521	38.384	0.8741	2.1616
		M-1 北側					
88	銅鏝	佐賀県鳥栖市柚比町平原遺跡	17.743	15.554	38.433	0.8766	2.1661
89	銅鏝	佐賀県神埼郡三田川町吉野ヶ里遺跡 SD265 溝跡	17.760	15.567	38.479	0.8765	2.1666
		誤差	± 0.010	± 0.010	± 0.030	± 0.0003	± 0.0006

表 37 これまでに測定された弥生時代の銅鏝・三稜鏝の鉛同位体比 その2

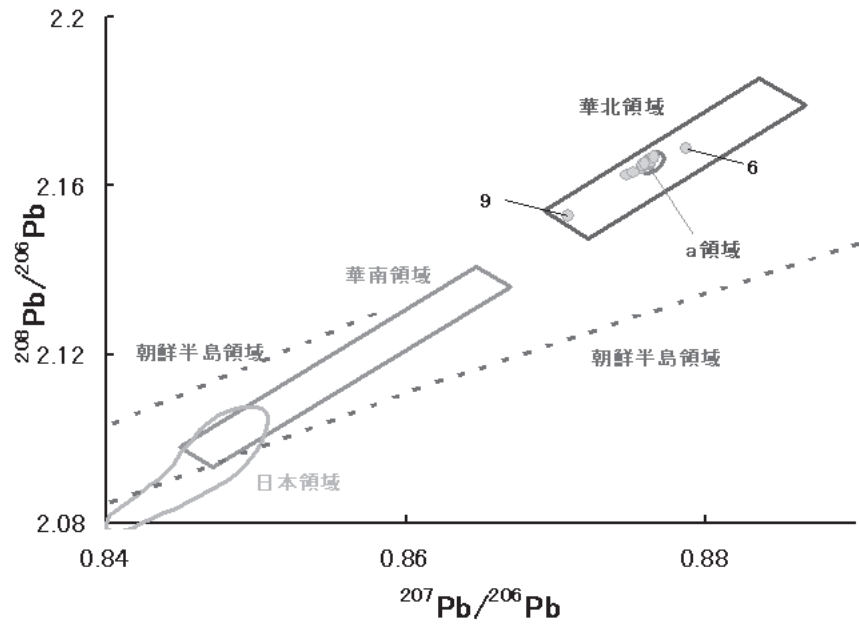


図 547 本調査における香川県善通寺市旧練兵場遺跡出土資料の鉛同位体比 (A 式図)

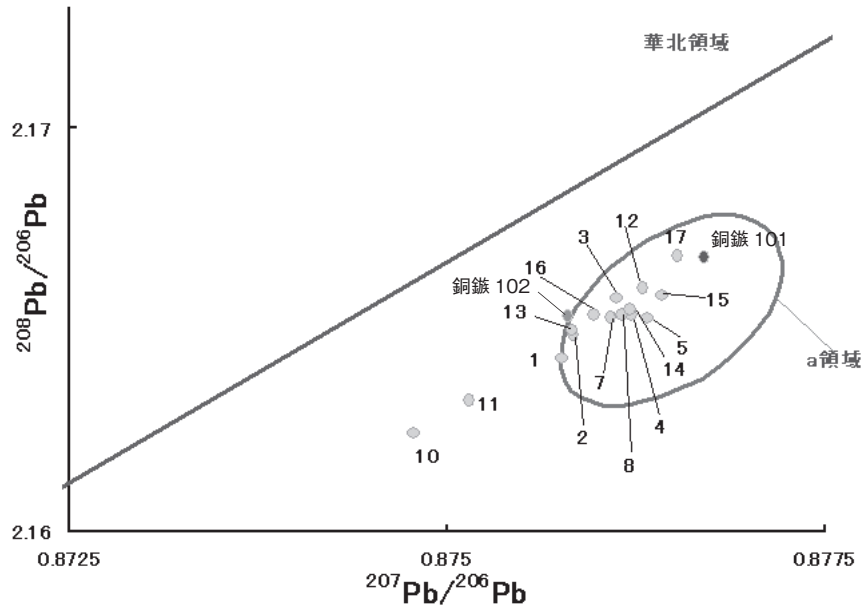


図 548 本調査における香川県善通寺市旧練兵場遺跡出土資料の鉛同位体比
(図 547 の拡大 - A 式図)

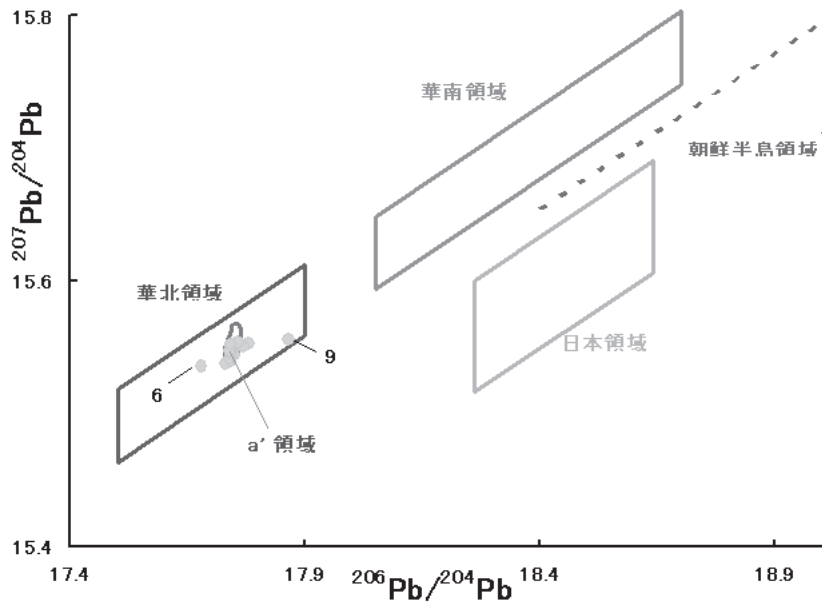


図 549 本調査における香川県善通寺市旧練兵場遺跡出土資料の鉛同位体比（B式図）

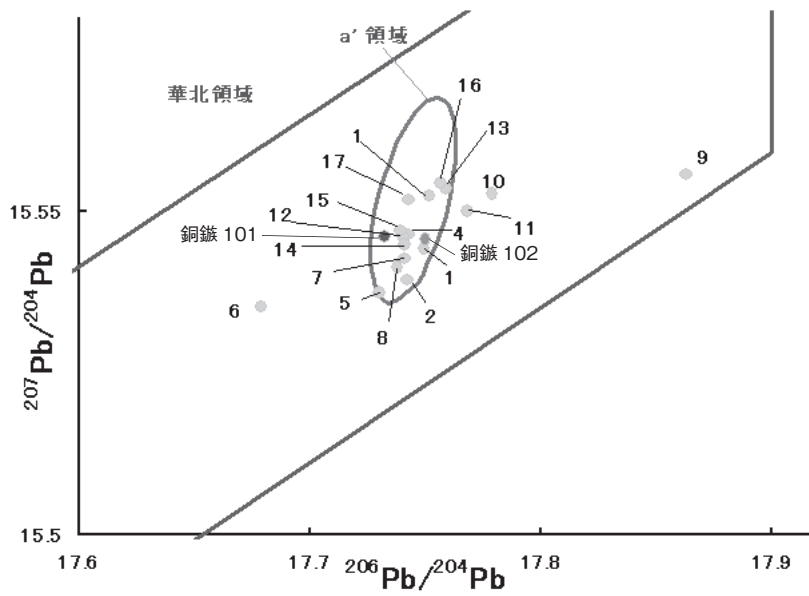


図 550 本調査における香川県善通寺市旧練兵場遺跡出土資料の鉛同位体比
（図 549 の拡大－B式図）

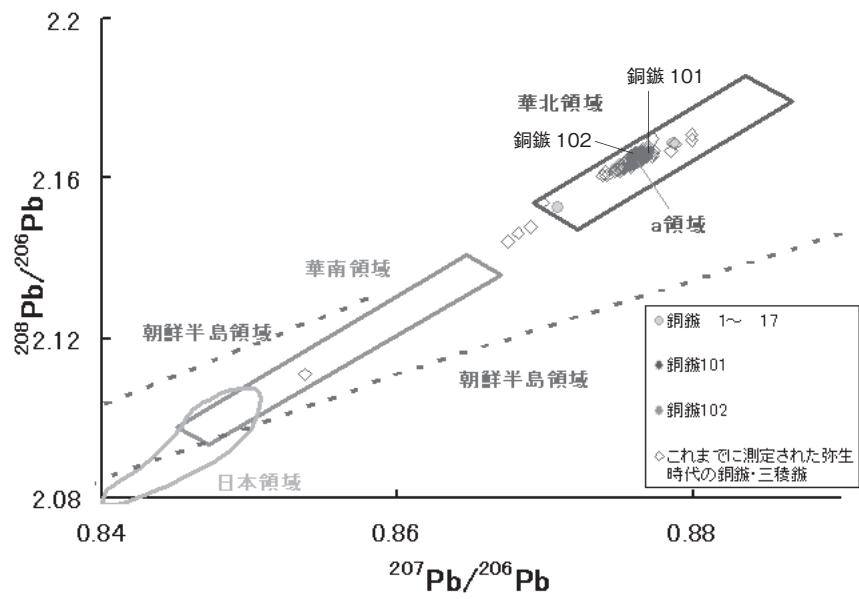


図 551 本調査における香川県善通寺市旧練兵場遺跡出土資料と比較資料が示す鉛同位体比（A式図）

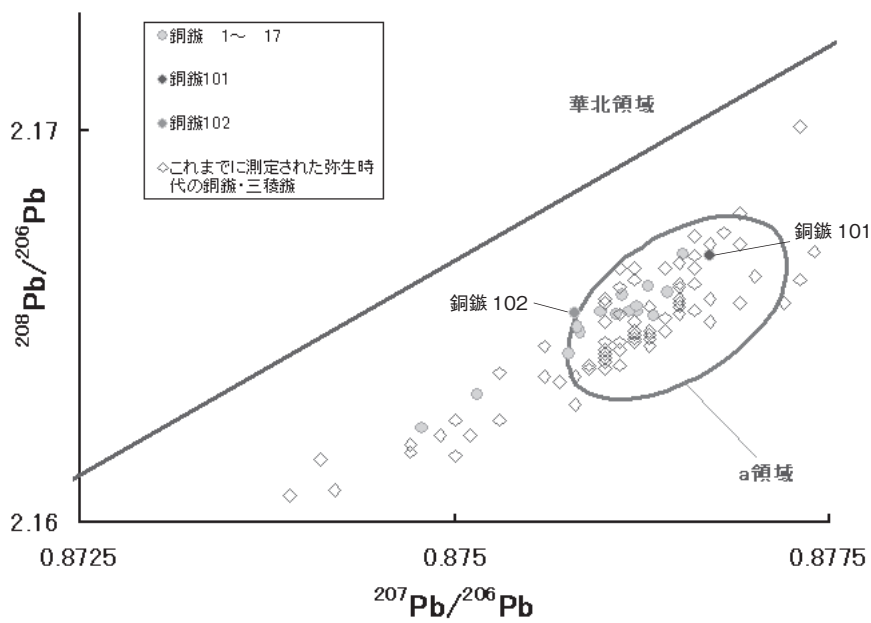


図 552 本調査における香川県善通寺市旧練兵場遺跡出土資料と比較資料が示す鉛同位体比（図 551 の拡大－A式図）

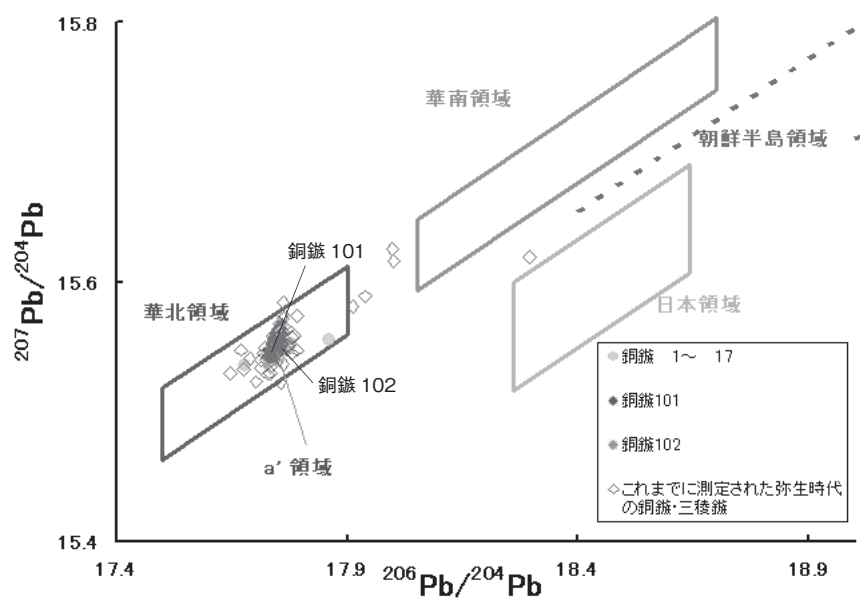


図 553 本調査における香川県善通寺市旧練兵場遺跡出土資料と比較資料が示す鉛同位体比 (B 式図)

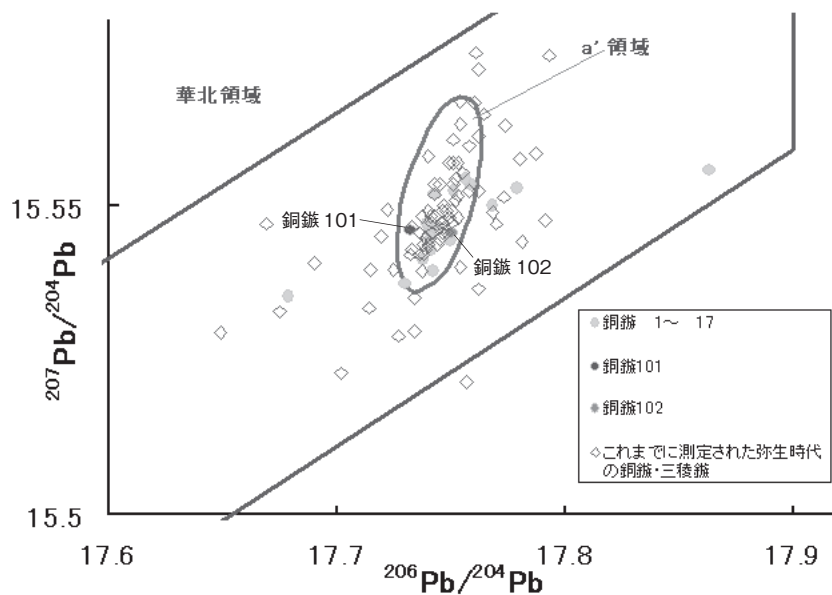
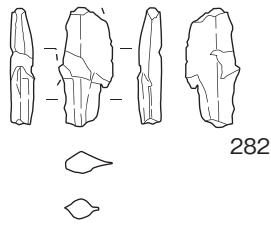
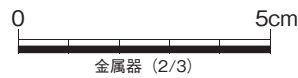
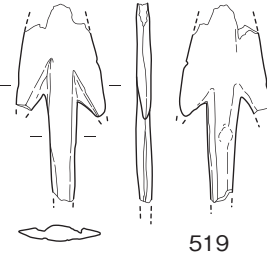
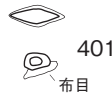
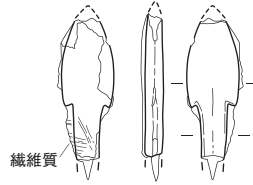
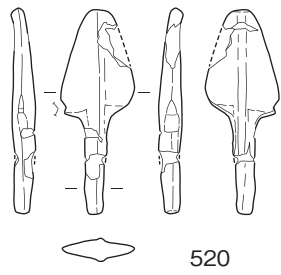
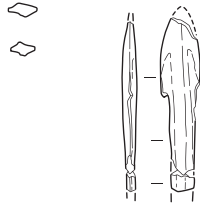
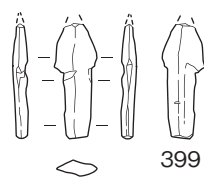
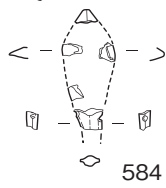
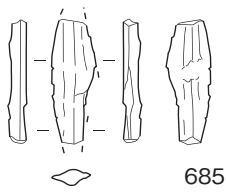
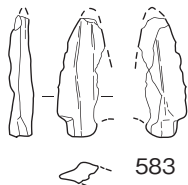
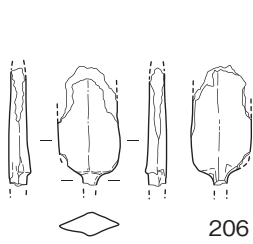


図 554 本調査における香川県善通寺市旧練兵場遺跡出土資料と比較資料が示す鉛同位体比 (図 553 の拡大 - B 式図)

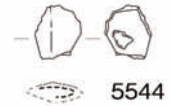
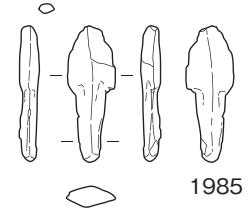
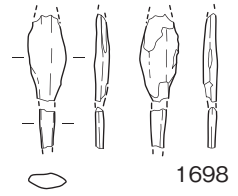
別添資料
後期前半



後期後半

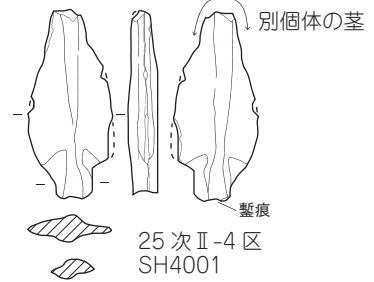
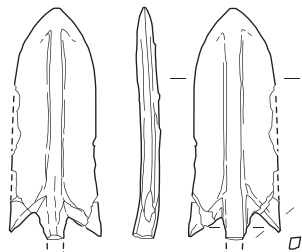
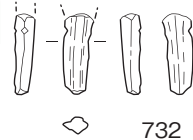
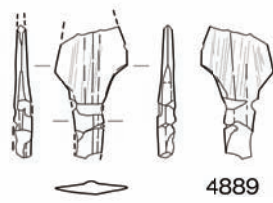


時期不明



282.B区 SH27 206.SH14
583.584.C区 SH44 685.SH56
519.520.C区 SH41 399~401.C区 SH35
4889.E区 SR02 上層 57.A区 SH01
549.C区 SH42 732.F区 SH72

終末期~古風初頭



※番号は報文番号

図 555 旧練兵場遺跡第 19 次調査銅鏃の変遷

第5節 鉄器および鍛冶関連資料の構造分析

大澤正己氏に発掘調査段階からご指導をいただいた。報告するにあたり、パリノサーヴェイ社より報告された結果や、ご自身で分析いただいた試料について、総括的な分析結果についての所見を掲載いただいた。

鉄製品及び鍛冶関連資料の構造分析

大澤正己・信里芳紀

1. はじめに

第19次調査では、弥生後期から終末期の鉄製品が多く出土するとともに、SH51等で鍛冶炉と考えられる遺構を確認したことから、素材及び鍛冶作業に伴うと考えられた派生遺物について冶金学的所見を得ることを目的として、分析を実施した。分析は、パリノサーヴェイ株式会社及び株式会社京都科学を通じて(株)九州テクノリサーチ大澤正己氏に分析をお願いした。また、現地調査の過程で鍛冶作業に伴う派生遺物と考えられた微細遺物については、予備調査として大澤正己氏個人に分析を依頼した。(信里)

2. 試料の概要

分析試料の内、番号(仮)REN-1～REN24については、平成20年度にパリノサーヴェイ株式会社を通じて分析を行った遺物、番号(仮)REN25については株式会社京都科学を通じて分析を行ったものである。また、試料番号(仮)REN26～REN30は、平成14年度の現地調査の段階で、大沢氏個人に分析を依頼した試料である。試料は、竪穴住居等から出土した鉄製品に加えて、鍛冶炉と考えられる遺構を備えたSH51の埋没土から水洗選別で回収した微細遺物、旧河道のSR02の埋没土から水洗選別で回収した微細遺物であり、帰属遺構については、表38、39に示しているので参照していただきたい。(信里)

3. 調査結果

REN-1：柳葉式鉄鏃

- (1) 肉眼観察：身部から茎部にかけての破片。方形を呈する茎部付近まで刃部が及ぶ為、柳葉式鉄鏃と判断した。刃部が見られる身部を裁断。
- (2) マクロ組織：図575の1段目に示す。中央約2mm厚みの斑淡灰褐色部が錆化鉄である。右側面から下部にかけて横倒しJ字状に黒く酸化土砂が取り囲む。金属鉄は残存しない。
- (3) 顕微鏡組織：図557の①～③に示す。3視野共にマクロ組織の錆化鉄左端の拡大組織である。③に辛うじて金属鉄組織痕跡を残す。淡灰白色地はフェライト(Ferrite：純鉄、 α 鉄)で、少量の層状組織のパーライト(Pearlite：フェライトとセメンタイトの共析)痕跡を留める。鉄中の炭素(C)量はパーライト面積比から推定して0.15%前後で極軟鋼である。フェライト結晶粒は微細で鍛造比は高く、空冷組織が想定される。鉄器は当然鍛造品である。

REN-2：鉄鏃

- (1) 肉眼観察：断面が方形を呈することや法量から鉄鏃茎部と判断。
- (2) マクロ組織：図 575 の 2 段目に示す。外周を黒色厚く酸化土砂に取り囲まれて、中央に淡灰褐色斑状の幅 8mm、厚み 4mm 長方形断面の銹化鉄が遺存する。芯は黒く風化侵食が進む。
- (3) 顕微鏡組織：図 557 の④～⑧に示す。④～⑥はマクロ組織右端の拡大である。銹化鉄基地には、僅かに微細フェライト結晶粒痕跡を留めるも不鮮明となる。⑦⑧は左寄りに視野を移したところの組織である。⑧ではフェライト基地に微細な網目状フェライト結晶粒界が読み取れる。パーライト量は僅少で炭素量は 0.05% 程度以下であろう。こちらも極軟鋼の鍛造品である。

REN-3：袋状鉄斧

- (1) 肉眼観察：袋部の折返しを僅かに留める袋状鉄斧。基端に近い袋部を裁断。
- (2) マクロ組織：図 575 の 3 段目に示す。上部外層に酸化土砂を付着し、その下部楕円形状断面が銹化鉄である。
- (3) 顕微鏡組織：図 558 の①～⑤に示す。①～③はマクロ組織の左下側拡大である。フェライト基地にはパーライトやセメントイトの析出量は少なく、微細フェライト結晶粒界が辛うじて観察できる。炭素含有量は少なく 0.01% 以下の極軟鋼鍛造鉄器である。④⑤は断面中央部の組織でゲーサイト (Goethite： α -FeO \cdot OH) の確認に留まった。
- (4) E PMA 調査：図 588 の上 2 段に非金属介在物らしき異物の反射電子像を示す。分散異物と思いきや、剥落孔であった。銹化鉄基地の分析点 17 の定量分析値は、73.5% FeO - 37% SiO₂ - 1.2% P₂O₅ 組成が得られた。銹化鉄で土砂に汚染されている。燐 (P) の固溶があった。土壌からの汚染であろう。

REN-4：ヤリガンナ

- (1) 肉眼観察：同一個体と考えられる 2 点の破片。内 1 点は断面が三角形を呈し刃部と考えられることからヤリガンナと判断。裁断は刃部側の小破片で実施。
- (2) マクロ組織：図 576 の上段に示す。断面が半月状淡灰白色部が銹化鉄で、上面凸レンズ状黒色部が酸化土砂である。
- (3) 顕微鏡組織：図 558 の⑥～⑧に示す。マクロ組織左端の拡大である。フェライト地に微細結晶粒界痕跡を僅かに残す。

REN-5：長頸式鉄鏃

- (1) 肉眼観察：刃部の断面が片丸形を呈する長頸式鉄鏃。形態から古墳時代後期の混入品と判断。裁断は断面方形の茎部で実施。
- (2) マクロ組織：図 576 の下段に示す。断面は茎部側で四方外層の黒色部は酸化土砂で取囲まれた中に銹化鉄を残す。銹化鉄は芯金は黒く硬鋼が用いられ、これを皮金の軟鋼の皮金が包む。
- (3) 顕微鏡組織：図 559 の①～⑤に示す。①～③は外囲みの低炭素軟鋼組織である。フェライト地に層状パーライトが約 0.2% 前後が析出した痕跡を残す。④⑤は芯金で黒く高炭素鋼充当の痕跡である。銹化が激しく判り辛いながら 0.5% 前後の炭素量が推定される。

REN-6：鉄片

- (1) 肉眼観察：端部に折返しをもつ不定形の鉄片。現状で明確な切断面は確認できないが、鍛冶作業に伴う切片の可能性が高い。鉄片の最大幅が確認できる位置で裁断。
- (2) マクロ組織：図 577 の 1 段目に示す。外周部を黒色酸化土砂に覆われた板状錆化鉄である。厚みは 2mm 前後で折り返し鍛接線より膨らみ、剥離現象を起こす。
- (3) 顕微鏡組織：図 559 の⑥～⑧に示す。⑥はマクロ組織の右端の拡大である。更に拡大してゆくと⑦⑧となる。⑧の中央に米粒程の淡茶色の異物が目につく。鉄中の非金属介在物である。非金属介在物 (non-metallic inclusion) は鉄鋼中に介在する固形体の非金属性不純物、つまり鉄やマンガン、珪素および燐などの合金元素の酸化物、硫化物、珪酸塩などの総称である。この場合はチタン酸化物でウルボスピネル (Ulvöspinel : $2\text{FeO}\cdot\text{TiO}_2$) が検出された。EPMA の項で詳述するが製鉄原料が砂鉄か、もしくは含チタン磁鉄鉱由来の履歴と指摘できる。介在物の調査結果は人間の DNA (細胞の遺伝子) に匹敵して多くの情報が得られる。次に非金属介在物を内蔵する基地鉄は、フェライト地に微細なフェライト結晶粒界が観察できて、パーライトの析出量はあまりない。炭素含有量は 0.10% 以下の極軟鋼の鍛造鉄器といえる。
- (4) EPMA 調査：図 588 の 3～5 段目に非金属介在物の反射電子像 (COMP) と特性 X 線像を示す。長軸 $15\ \mu\text{m}$ の淡茶色米粒状介在物の特性 X 線像は、鉄 (Fe)、チタン (Ti)、バナジウム (V)、アルミニウム (Al) などに白色輝点が集中し、それらの元素の存在を表す。分析点 18 の定量分析値は 54.2% FeO - 27.4% TiO_2 - 6.6% V_2O_3 組成が得られた。ウルボスピネル (Ulvöspinel : $2\text{FeO}\cdot\text{TiO}_2$) が同定される。これに 11.3% Al_2O_3 や 1.6% MgO が固溶する。該品の製鉄原料はチタン酸化物の検出から砂鉄もしくは含チタン磁鉄鉱が想定される。弥生時代の鉄生産は国内は否定されるので、朝鮮半島側の産物の可能性が高い。そうすると砂鉄よりも含チタン磁鉄鉱に分がありそうである。

REN-7：鍛造剥片様遺物 (磁石で回収した微細遺物。平板な小破片)

REN-7-1 A：塊状遺物 $1.8 \times 1.7 \times 0.9\text{mm}$ 、弱磁性

- (1) 肉眼観察：赤褐色で鍛冶滓片らしくもある小塊である。
- (2) マクロ組織：図 577 の 2 段目に示す。過去の前近代遺物では見慣れない鉱物相で、超微細な球状、片状異物の集合体である。
- (3) 顕微鏡組織：図 560 の①②に示す。球状や片状を呈する超微粒子的な鉄酸化物である。近代の産業廃棄物の一種ではなかろうか。鍛造剥片のもつ酸化膜 3 層構造組成 (外層ヘマタイト、中間層マグネタイト、内層ウスタイト) が一切認められない。

REN-7-1 B：塊状遺物 (焼粘土塊) $2.2 \times 2.2 \times 1.1\text{mm}$

- (1) 肉眼観察：平面が不整三角形を呈する粘土塊
- (2) マクロ組織：図 577 の 3 段目に示す。粘土鉱物で占められる。
- (3) 顕微鏡組織：図 560 の③に示す。微細な鱗片状粘土鉱物セリサイトと加熱変化が認められない石英や長石を含む。

REN-7-2：剥片様遺物 3.3 × 2.8 × 0.5mm

- (1) 肉眼観察：平面形状は不定形の剥片である。鍛打による平坦度はなく鍛冶関連遺物ではない。ただし、赤褐色を呈し鉄の酸化物であろう。
- (2) マクロ組織：図 578 の左 1 段目に示す。
- (3) 顕微鏡組織：図 560 の④に示す。鍛造剥片のもつ酸化膜ではなく超微粒子的な球状、片状の鉄粒の集合体である。前述 REN-7-1 イと同類。
- (4) E P M A 調査：図 594 に示す。反射電子像 (COMP) に示した球状や片状鉍物相は白色輝点が鉄 (Fe) と酸素 (O) に集中し、定量分析値は明白色鉍物の分析点 12 で 103% Fe-0.7% Mn、灰色球状鉍物の分析点 13 は、77.0% Fe-22.1% O-1.3%Mn 組成が得られた。マンガン (Mn) 固溶の鉄は前近代のものには有り得ず、これは近代鉄に関係した産業遺物と判断すべきだろう。何となれば近代鉄は硫黄 (S) に起因する熱間脆性 (red shortness) を防ぐため、通常の鋼中には必ず相当量の Mn を加えて S の影響を打ち消すように成分配合がしてある。通常は MnS の介在物となるが、ここでは Mn は合金化を狙った結果の Mn 固溶であろう。

REN-7-3 ~ 6 はマクロ組織を図 578 に、顕微鏡組織は図 560 の⑤、⑥と図 561 の①~④に示した様に REN-7-2 に準じた鉍物相なので詳細記述は割愛する。

REN-8：鍛造剥片様遺物 2.1 × 1.8 × 1.4mm

- (1) 肉眼観察：磁石で回収した微細遺物である。球状を呈する。幾つもの突起をもつ歪な球状遺物である。赤褐色の無光沢で弱磁性を呈する。異様な球状だった。
- (2) マクロ組織：図 578 の左 4 段目に示す。断面輪郭を保持する鉍物相が極端に不均一で、鍛冶鍛打で派生する球状滓とは完全に異なる形態である。
- (3) 顕微鏡組織：図 561 の⑤~⑦に示す。鉍物相は淡灰白色不定形結晶のフェロシライト (ferrosilite: FeSiO_3)・マグネタイト (Magnetite: Fe_3O_4) が晶出する。このような結晶は通常鍛打遺物の鉍物相では認められない。
- (4) E P M A 調査：図 589 の 1、2 段目に淡灰白色不定形結晶の反射電子像 (COMP) と特性 X 線像を示す。分析点 1 の大きな鉍物相は定量分析値が 92.6% FeO 組成からマグネタイト (Magnetite: Fe_3O_4)、分析点 2 の淡茶褐色盤状結晶の鉍物相は 46.6% FeO - 45.2% SiO_2 - 1.9% Al_2O_3 - 1.8% CaO 組成である。鉍物はフェロシライト (ferrosilite: FeSiO_3) であろう。また、分析点 3 の小型鉍物相の定量分析値は、分析点 1 と同系で 93.3% FeO - 1.8% Al_2O_3 からマグネタイトに同定される。

REN-9：針状鉄片

- (1) 肉眼観察：断面円形の針状鉄片。明確な機能の特定は困難。
- (2) マクロ組織：図 578 の右 3 段目に先端部縦断面、右 4 段目に基部寄り横断面を示す。両者共に銹化鉄になり、後者は芯部は黒く高炭素域らしく見えるが風化侵食を受けて定かでない。
- (3) 顕微鏡組織：図 562 の①~③は縦断面、④~⑧に横断面を示す。両者はフェライト地に亜共析 (< 0.77% C) パーライト痕跡を留める。炭素量をもう少し定量化した発言をすれば 0.05% 以下の極軟鋼である。なお横断面の芯部組織を⑦⑧に示したが、銹化が激しく表層側との炭素含有量の差違まで言及は

できない。

REN-10：針状鉄片

- (1) 肉眼観察：断面が方形を呈する針状の鉄片。両端部が欠損し、現状で機能部位が見られないなど、鍛冶作業に伴う切片の可能性が高い。
- (2) マクロ組織：図 579 左 1 段目に示す。断面は不整楕円状の銹化鉄である。小物鉄器なので侵食が激しくて黒銹部分も少ない。
- (3) 顕微鏡組織：図 563 の①～③に示す。金属鉄組織の痕跡も風化により壊されて情報は得られなかった。

REN-11：鍛造剥片様遺物 1.9 × 1.4 × 1.0mm

- (1) 肉眼観察：磁石で回収した微細遺物。平板な小破片。赤褐色不定形の塊で、鍛冶滓破片らしくも見える微細遺物である。
- (2) マクロ組織：図 579 の右 1 段目に示す。断面は楕円形状の黒色の粘土鉱物である。
- (3) 顕微鏡組織：図 563 の④に示す。素地は粘土鉱物セリサイトに無色・有色鉱物の混在である。鍛冶関連遺物ではない。焼粘土塊である。

REN-12：鍛造剥片様遺物（3点）2.2 × 1.8 × 1.1mm, 1.4 × 0.9 × 0.6mm, 1.2 × 1.1 × 0.6mm

- (1) 肉眼観察：磁石で回収した微細遺物。平板な小破片。灰黒色地に貫い銹を付着させたガラス質塊である。角ばった破片、球状体ではない。
- (2) マクロ組織：図 579 の左 2 段目に示す。3 点の供試材は低倍率では非晶質珪酸塩らしく見える。断面形状は球体をなさず、粒状滓は否定される。
- (3) 顕微鏡組織：図 563 の⑤～⑦に示す。⑤は 3 点の低倍率組織である。⑥に⑤左側破片の拡大組織を示した。黒色ガラス地全面に微小白色多角形結晶のマグネタイトが晶出する。⑦は⑤右下破片の拡大で、こちらは黒色ガラス地にマグネタイトとファヤライトが認められる。高熔融鉱物相の析出はガラス質粒状滓ではないことを表わす。
- (4) E PMA 調査：図 589 の 3～5 段目は図 562 の⑥組織に示した鉱物相の反射電子像 (COMP) と特性 X 線像である。白色多角形結晶は鉄 (Fe) と酸素 (O) に白色輝点が強く集中する。分析点 6 の定量分析値は 72.5% FeO - 18.8% Al₂O₃ - 1.2% MgO 組成から、マグネタイトにアルミを固溶する。分析点 7 は 63.5% FeO - 23.4% Al₂O₃ - 6.3% MgO - 2.6% SiO₂ 組成から、やはり同系鉱物相に珪酸塩の影響が現れている。

図 590 の 1～3 段目は図 563 の⑦顕微鏡組織の鉱物相の分析結果である。反射電子像 (COMP) に記した分析点 4 の淡灰色柱状結晶は、定量分析値が 63.1% FeO - 31.9% SiO₂ 組成が得られた。ファヤライト (Fayalite: 2FeO · SiO₂) が同定される。黒色ガラス地の分析点 5 は 68.2% SiO₂ - 15.6% Al₂O₃ - 4.6% CaO - 3.2% MgO - 5.2% MnO 組成である。珪酸塩にマンガン (Mn) を固溶する。マンガン (Mn) の検出は近代遺物を裏付ける。REN - 7 微細遺物のマンガン (Mn) との関連が考えられる。なお分析点 20 は明白色微小鉄である。91.3% Fe - 1.2% S - 1.0% O 組成が得られている。

REN-12-2：微細遺物（剥片状）2.8 × 1.8 × 0.3mm

- (1) 肉眼観察：磁石で回収した微細遺物である。平面が不整三角形形状を呈し、赤褐色鉄錆に覆われた剥片である。磁着を有し、金属鉄を遺存する。
- (2) マクロ組織：図 579 の 2 段目右に示す。断面は平坦度を保ち、きれない剥片で中核部に金属鉄を残す。
- (3) 顕微鏡組織：図 564 の①に示す。全面層状パーライトが晶出する共析鋼（0.77% C）である。いわゆる鋼材質であった。
- (4) ビッカース断面硬度：図 564 の①に硬度測定の影響を示す。硬度値は 254Hv で金属組織に見合った共析鋼（0.77% C）レベル値であった。金属組織の遺存度は良好で弥生時代の鉄としては疑問が残る。近代鉄の可能性が高い。

REN-12-3：微細遺物（剥片状）1.6 × 1.6 × 0.5mm

- (1) 肉眼観察：磁石で回収した微細遺物のうち赤褐色鉄錆の小剥片である。
- (2) マクロ組織：図 579 の 3 段目左に示す。断面は錆化鉄剥片で、内部の一部が侵食を受けて巣化しつつある。
- (3) 顕微鏡組織：図 564 の②に示す。金属鉄組織の痕跡は留めず、非金属介在物の剥落痕らしき展伸状孔を残す。この孔が介在物であれば大型共晶夾雑物のウスタイト（Wustite：FeO）やファヤライト（Fayalite：2FeO・SiO₂）が想定されて、低温還元製鋼法にもとづく、塊錬鉄の可能性が考えられる。

REN-12-4：微細遺物（剥片状）1.2 × 1.1 × 0.4mm

- (1) 肉眼観察：磁石で回収した微細遺物で、赤褐色鉄錆を発する平板な小破片である。
- (2) マクロ組織：図 579 の 3 段目右に示す。断面は層状剥離を起こした錆化鉄片である。金属鉄組織の痕跡は留めない。
- (3) 顕微鏡組織：図 564 の③に示す。層状剥離は折り返し鍛接材でも铸铁片でも起こるもので、該品がどちらに属するか不明瞭である。裏付けのとれる情報が得られなかった。

REN-13：鉄片

- (1) 肉眼観察：方形の鉄片で刃部が見られず厚みが約 2mm と薄い。これから鉄片と判断する。また、定形的な機種でなく、鍛冶作業に伴う切片の可能性が高い。
- (2) マクロ組織：図 580 の 1 段目に示す。断面は酸化土砂が外周を取り囲み、その内側に錆膨れの錆化鉄が遺存する。厚みは 2mm 前後から 3mm を呈するが、本来の板厚は膨れのない 2mm 程度であろう。鍛接線痕跡あたりから層状剥離を起こし、錆膨れとなっている。
- (3) 顕微鏡組織：図 564 の④～⑥に示す。側面端部に微細フェライト結晶の網目状結晶粒界が観察できた。炭素含有量は極めて少なく鑿切り加工に適した極軟鋼である。
- (4) E P M A 調査：図 590 の 4、5 段目に鉄中非金属介在物の反射電子像（COMP）と特性 X 線像を示す。反射電子像の分析点 8 は 75.5% FeO である。全体が錆化鉄であり、Total 82.0% のなかの値からのウスタイト（FeO）の結晶との断定は難しい。

REN-14：粒状滓様遺物

(1) 肉眼観察：磁石で回収した微細遺物、球状を呈する6点を対象とする。

REN-14-1：1.5mm径（不定形付着物あり）

(2) マクロ組織：図580の2段目左に示す。断面は淡灰色ガラス地のほぼ円形状で左側に小さく突起がみられる。0.2mm以下の気孔が多発。

(3) 顕微鏡組織：図565の①に示す。鉱物相の大部分は非晶質珪酸塩のガラス質で、外周部の一部に白色不定形凝集のマグネタイト（Magnetite： Fe_3O_4 ）を晶出する。鍛打派生の粒状滓は否定される。

REN-14-2：1.3mm径

(2) マクロ組織：図580の2段目右側に示す。断面は淡灰色ガラス地の円形状で、0.16mm以下の気孔を多発する。

(3) 顕微鏡組織：図565の②に示す。鉱物相は非晶質珪酸塩のガラス質である。鍛打派生の粒状滓は否定される。

REN-14-3：0.9mm～1.1mm径

(2) マクロ組織：図580の3段目に示す。断面は黒色地の焼粘土塊である。

(3) 顕微鏡組織：図565の③に示す。鉱物相は粘土鉱物のセリサイトである。鍛打派生物の粒状滓は否定される。

REN-14-4：0.6mm径

(2) マクロ組織：図581の1段目左に示す。断面はやや楕円形気味の黒い焼粘土塊である。

(3) 顕微鏡組織：図565の④に示す。鉱物相は粘土鉱物セリサイトである。鍛打派生物の粒状滓は否定される。

REN-14-5：0.6mm径

(2) マクロ組織：図581の1段目中央に示す。断面はほぼ円形状の淡灰色ガラス質で、内部中央に白色鉱物相の晶出が認められる。気孔は少ない。

(3) 顕微鏡組織：図565の⑤に示す。鉱物相はガラス質の珪酸塩中に白色多角形状マグネタイトが晶出する。鍛打派生の粒状滓は否定される。

REN-14-6：0.6mm径

(2) マクロ組織：図581の1段目右に示す。断面はほぼ円形状の淡灰色ガラス地で、内部は大きく空洞化する。

(3) 顕微鏡組織：図566の①に示す。鉱物相は珪酸塩ガラス地に白色不定形結晶のマグネタイトを極く微量晶出する。鍛打派生物の粒状滓は否定される。

REN-15：微細遺物

(1) 肉眼観察：微細遺物28点の集合体。

(2) マクロ組織：図581の2段目に示す。明白色ガラス質滓4点に対して、暗黒色焼粘土塊24点が存在。

(3) 顕微鏡組織：図 566 の②～④に代表組織を示す。②は暗黒色粘土鉱物セリサイトの 4 点と明灰色粒の珪酸塩ガラス質滓である。後者の拡大が③④で、鉱物相は明白色ガラス地に白色不定形結晶のマグネタイトが局部的に晶出する。鍛打派生の粒状滓は否定される。

REN-16：粒状滓様遺物

(1) 肉眼観察：磁石で回収した微細遺物。球状を呈する。6 点調査

REN-16-1：1.6～1.9mm 径

(2) マクロ組織：図 582 の 1 段目左に示す。断面は 1.6mm 径で内部は 2 区分されて、輪郭薄く淡灰色ガラスで保持される。

(3) 顕微鏡組織：図 566 の⑤に示す。鉱物相は淡灰色ガラス地に微細白色結晶のマグネタイトが極く微量晶出する。高温熔融結晶であり、鍛打派生粒状滓は否定される。

REN-16-2：1.6mm 径

(2) マクロ組織：図 582 の 1 段目中央に示す。端正な円形状断面は淡灰色ガラス地で、0.3mm 以下の気孔を数点発する。

(3) 顕微鏡組織：図 566 の⑥に示す。鉱物相は淡灰色ガラス地に微細白色不定形結晶のマグネタイトと淡灰色短柱状結晶のファヤライトが極く微量晶出する。鍛打派生の粒状滓は否定される。

REN-16-3：1.3mm 径

(2) マクロ組織：図 582 の 2 段目左に示す。断面は 1.4mm 径の円形状で、一部が盛り上がり、内部は大きく空洞化する。輪郭形成部は淡灰色ガラス地に白色鉱物相の晶出が認められる。

(3) 顕微鏡組織：図 567 の①～③に示す。鉱物相は濃淡 2 層の色調をもつ多角形結晶の凝集で形成される。濃色部はマグネタイト、明淡色はヘマタイト (Hematite: Fe_2O_3) であろう。高温派生物である。鍛打派生物は否定される。

(4) EPMA 調査：図 591 に分析対象とした多角形結晶の反射電子像 (COMP) と特性 X 線像を示す。結晶の色調差にもとずき分析点 9、10、11 を設定した。多角形結晶を特性 X 線像から観察すると、鉄 (Fe) - マグネシウム (Mg) - アルミ (Al) - マンガン (Mn) に白色輝点が集中する。定量分析値は分析点 9 で 86.6% FeO-3.7% MgO-3.7% Al_2O_3 -2.3% MnO 組成、分析点 10 は 77.3% FeO-7.5% MgO-5.2% Al_2O_3 -4.4% MnO と、この両者は、ここでもマンガン (MnO) の固溶があり、前近代の遺物を否定する結果となった。最後の分析点 11 は 88.9% FeO-3.0% Al_2O_3 組織に落ち着く。こちらはマンガン (Mn) の固溶は無くなる。

REN-16-4：1.0mm 径

(2) マクロ組織：図 582 の 1 段目右に示す。断面は 0.9mm 径のガラス質で形成されて、0.1～0.2mm 径気孔を数点発する。

(3) 顕微鏡組織：図 567 の④に示す。鉱物相は珪酸塩ガラス地に極く微細な不定形マグネタイトと淡灰色柱状結晶の晶出が目につく。主要鉱物はガラスである。鍛打派生の粒状滓は否定される。

REN-16-5：0.4mm径

(2) マクロ組織：図 582 の 2 段目の右に示す。断面は突起をもつ円形状の淡灰色ガラスである。0.04 mm径の気孔を数点発する。

(3) 顕微鏡組織：図 567 の⑤に示す。鉱物相は非晶質珪酸塩ガラス主体である。鍛打派生の粒状滓は否定される。

REN-16-6：0.4mm径

(2) マクロ組織：図 582 の 3 段目に示す。断面は 0.5mm径で、淡灰色ガラス地の周縁部に僅かな白色不定形結晶の晶出が認められる。

(3) 顕微鏡組織：図 567 の⑥に示す。鉱物相は淡灰色珪酸塩ガラス地に極く微量のマグネタイトが部分的に晶出する。鍛打派生の粒状滓は否定される。

REN-17-1：鍛造剥片様遺物

(1) 肉眼観察：磁石で回収した微細遺物。平板な小破片の集合体。

(2) マクロ組織：図 583 の 1 段目に示す。断面は剥片状遺物は皆無で、ガラス質滓や焼粘土塊の混在である。

(3) 顕微鏡組織：図 568 の①～③にその代表的鉱物相 3 点を示す。①は被熱粘土塊である。部分的に熔融ガラス化する。②も粘土鉱物セリサイトと無色有色鉱物が混在する。③は淡灰色珪酸塩ガラスで、これに少量の白色不定形結晶のマグネタイトが晶出する。鍛打派生の鍛造剥片は存在しない。

REN-17-2：微細遺物 4.9 × 2.2 × 0.5mm

(1) 肉眼観察：剥片状遺物として抽出された 1 点である。色調は灰褐色を呈する。

(2) マクロ組織：図 583 の 2 段目左に示す。木炭の繊維組織が認められる。

(3) 顕微鏡組織：図 568 の④に示す。木炭に鉄が置換した黒鉛化木炭であり、磁性を帯びる。木炭破片と認定できる。

REN-17-3：微細遺物 3.0 × 2.7 × 0.4mm

(1) 肉眼観察：剥片状遺物である。色調は灰褐色を呈する。

(2) マクロ組織：図 583 の 3 段目に示す。繊維組織の木炭である。

(3) 顕微鏡組織：図 568 の⑤に示す。木炭片である。

REN-17-4：微細遺物 2.4 × 1.7 × 0.4mm

(1) 肉眼観察：剥片状遺物で色調は灰褐色を呈する。

(2) マクロ組織：図 583 の 2 段目右に示す。断面は湾曲した灰白色ガラス地の剥片である。

(3) 顕微鏡組織：図 568 の⑥に示す。鉱物相は熔融ガラス地に不定形マグネタイトが被膜全体に分散晶出する。鍛打作業の剥片では有り得ない。

REN-18：粒状滓様遺物

(1) 肉眼観察：磁石で回収した微細遺物。球状を呈する。

REN-18-1：1.7mm径

(2) マクロ組織：図 584 の 1 段目左に示す。断面は 1.4mm 径の円形状。両端に僅かに突起をもつ熔融ガラスである。0.2～0.4mm 径の気孔を数点発する。

(3) 顕微鏡組織：図 569 の①に示す。鉱物相は珪酸塩ガラス地に微細白色結晶のマグネタイトを晶出する。なおマクロ組織で両端に突起有りとしたところは小型球状滓の半片の溶着であった。鍛打派生の粒状滓ではない。

REN-18-2：1.4mm径

(2) マクロ組織：図 584 の 1 段目右に示す。断面は歪な円形状のガラス地である。気孔が多発して間隙が目立つ。

(3) 顕微鏡組織：図 569 の②に示す。鉱物相は非晶質珪酸塩ガラスである。鍛打派生の粒状滓は否定される。

REN-18-3：1.3mm径

(2) マクロ組織：図 584 の 2 段目左に示す。断面は 0.8mm 径の一部に突起をもち、ガラス地に 0.2mm 以下の気孔を発する。

(3) 顕微鏡組織：図 569 の③に示す。鉱物相は珪酸塩ガラス主体で極く微量の白色不定形結晶のマグネタイトを晶出する。鍛打派生の球状滓は否定される。

REN-18-4：0.9mm径

(2) マクロ組織：図 584 の 2 段目右に示す。断面はやや歪な 0.8mm 径のガラス地で 0.2mm 以下の気孔を数点発する。

(3) 顕微鏡組織：図 569 の④に示す。鉱物相は珪酸塩ガラス地に極く微細白色結晶のマグネタイトが局部的に凝集晶出する。鍛打派生の粒状滓では有り得ない。

REN-18-5：0.6mm径

(2) マクロ組織：図 584 の 3 段目左に示す。断面は淡灰色熔融ガラス地に 0.3mm 径の大气孔を発す。

(3) 顕微鏡組織：図 569 の⑤に示す。鉱物相は珪酸塩ガラス地に微細結晶のマグネタイトを少量晶出する。鍛打派生の粒状滓は否定される。

REN-18-6：0.6mm径

(2) マクロ組織：図 584 の 3 段目右に示す。断面はやや楕円形状気味の 0.6mm 径ガラス地に 0.1mm 径気孔を 2 点発する。

(3) 顕微鏡組織：図 570 の①に示す。鉱物相は珪酸塩ガラス地に極く微細な不定形結晶のマグネタイトを晶出する。鍛打派生の粒状滓は否定される。

REN-19-1：微細遺物

- (1) 肉眼観察：ガラス質滓状の微細遺物。集合体である。
- (2) マクロ組織：図 585 の 1 段目に示す。木炭片やガラス質滓、焼粘土などで構成される。
- (3) 顕微鏡組織：図 570 の②～④に示す。②は左側に木炭片、中央はガラス質滓、右側に焼粘土塊を提示した。③は木炭片である。④は珪酸塩ガラス地に白色微細結晶のマグネタイトを晶出する。鍛打派生の球状滓や鍛造剥片は含まれていない。

REN-19-2：微細遺物 2.7 × 2.4 × 0.7mm

- (2) マクロ組織：図 585 の 2 段目左に示す。0.4mm程度の厚みをもつ剥片である。厚み中央に白く輝く銹化鉄が遺存する。
- (3) 顕微鏡組織：図 570 の⑤に示す。木炭に鉄が置換した黒鉛化木炭で、厚み方向中央に銹化鉄を残す。鍛打派生の鍛造剥片は否定される。

REN-19-3：微細遺物 1.8 × 1.6 × 0.4mm

- (2) マクロ組織：図 585 の 2 段目右に示す。断面は木質繊維が認められる。
- (3) 顕微鏡組織：図 570 の⑥に示す。木炭組織が認められた。鍛打派生の鍛造剥片ではない。

REN-20-1：粒状滓様遺物 1.7mm径

- (1) 肉眼観察：磁石で回収した微細遺物。球状を呈する。
- (2) マクロ組織：図 586 の 1 段目左に示す。断面は 1.6mm径の円形状の淡灰色ガラス地に 0.3mm径の気孔数点を発し、木炭屑の噛み込みがある。
- (3) 顕微鏡組織：図 571 の①に示す。鉱物相は非晶質珪酸塩ガラスである。木炭の抱き込みの高温熔融物であり、鍛打派生の粒状滓は否定される。

REN-20-2：粒状滓様遺物 1.4mm径

- (2) マクロ組織：図 586 の 1 段目右に示す。断面は 1.4mm径の歪な円形状を呈し、その内部は表層近くに 0.8mm径の空洞を生じ、残されたガラス地には 0.4mm以下の気泡を発する。
- (3) 顕微鏡組織：図 571 の②に示す。鉱物相は珪酸塩ガラスに極く微細結晶のマグネタイトを晶出する。鍛打派生の粒状滓は否定される。

REN-21：鍛造剥片様遺物

- (1) 肉眼観察：磁石で回収した微細遺物。平板な小破片。
- (2) マクロ組織：図 586 の 2 段目に示す。左上に 2 点の焼粘土粒、その下に銹化鉄、更にその下はガラス質滓屑である。また、右側には焼粘土粒やガラス質滓が認められる。
- (3) 顕微鏡組織：図 571 の③～⑦に代表鉱物相を示す。③の左側はガラス質滓である。ガラス地に白色微細結晶のマグネタイトが凝集晶出する。④の淡灰色不整長方形状で亀裂発生剥片は銹化鉄のゲーサイト (goethite: $a - \text{FeO} \cdot \text{OH}$) である。⑤に拡大組織を提示した。また、④黒色楕円形状と不整三角形状塊は焼粘土塊である。⑥の 2 点の塊状のうち左はガラス質滓、右側は銹化鉄で、⑦の拡大により、

フェライト地に極く微量のパーライト痕跡が認められる。当微細遺物内にも鍛打派生の粒状滓や鍛造剥片は存在しなかった。

(4) E P M A調査:図 592 にガラス地に晶出した金属鉄粒の反射電子像 (COMP) と特性 X 線像を示す。この金属鉄粒の特性 X 線像は、鉄 (Fe) と燐 (P) に白色輝点が集中して燐化鉄 (Fe_3P) と判明した。分析点 12 の定量分析値は、90.7% Fe - 6.4%P 組成であり、 γ -燐化鉄 (Fe_3P) が同定される。 Fe_3P - Fe_3C - γ 鉄との三元共晶でステダイト (steadite) でもあり、953°C の共晶温度からの生成物である。一方、この燐化鉄粒は分析点 22 の小型介在物を内蔵し、特性 X 線像はチタン (Ti) と硫黄 (S) に白色輝点が強く集中し、定量分析値は 59.5% Ti - 3.6% V - 24.5% S - 1.2% Nb から通常仲々お目にかかれぬ含ニオブ硫化チタン組成である。こちらも高温析出物であり、前近代遺物ではありえず、近代の生成物といえる。また、当燐化鉄粒が存在する基地を分析点 12 でみると、78.7% SiO_2 - 14.7% Al_2O_3 - 1.7% CaO - 2.3% K_2O 組成から、シャモット粘土質の耐火煉瓦の溶融物の可能性が高い。

次に図 593 はガラス質滓に晶出した白色多角形結晶の分析結果を示す。当結晶は色調差があるので分析点 13 ~ 15 と分けて定量分析を実施した。まず分析点 13 は 87.9% FeO - 4.3% Al_2O_3 、分析点 14 が 70.4% FeO - 10.6% Al_2O_3 - 14.7% MgO、分析点 15 になると 88.3% FeO - 3.9% Al_2O_3 組成であった。マグネタイトにアルミが固溶されており、ヘーシナイト (Hercynite: $\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$) へより接近しつつある結晶である。FeO - Al_2O_3 二元状態図 (注 1) を参照すると、溶融点が 1,310°C 前後を想定してもおかしくない状況にある。図版 592、593 両方の分析結果からはマンガン (Mn) 析出がなくてもやはり前近代遺物は否定されて、近代産業関連遺物に位置付けられる調査結果に落ち着いた。

REN-22-1: 粒状滓様遺物 1.3mm 径

- (1) 肉眼観察: 磁石で回収した微細遺物。球状を呈する。
- (2) マクロ組織: 図 587 の 1 段目に示す。断面は 1.3mm 径の端正な円形状のガラス地で気孔発生は殆んどない。
- (3) 顕微鏡組織: 図 572 の①に示す。鉱物相は非晶質珪酸塩が主体である。鍛打派生の粒状滓は否定される。

REN-22-2: 粒状滓様遺物 0.9mm 径

- (2) マクロ組織: 図 587 の 1 段目右に示す。断面は歪な円形状ガラス地に不整円形 0.3mm 径の気孔 2 点と小気孔を発する。
- (3) 顕微鏡組織: 図 572 の②に示す。鉱物相は珪酸塩ガラス地に白色不定形結晶のマグネタイトを晶出する。高温溶融物であり、鍛打派生の粒状滓は否定される。

REN-23: 微細遺物

- (1) 肉眼観察: ガラス滓状の微細遺物
- (2) マクロ組織: 図 587 の 2 段目に示す。視野の大部分は暗色部の焼粘土塊と極く少量の明色部のガラス質スラグ。これと層状剥離断面をもつ錆化鉄剥片で構成される。
- (3) 顕微鏡組織: 図 572 の③に代表組織で示す。左側の暗色部が焼粘土塊で粘土鉱物セリサイト、右側の明色部は珪酸塩ガラスの中に微細結晶のマグネタイトの晶出が認められる。鍛打派生の粒状滓は否

定される。

REN-24：刀子

- (1) 肉眼観察：側縁部に刃部が観察できる箇所があり、刀子片と判明した。
- (2) マクロ組織：図 587 の 3 段目に示す。断面は外周黒色部は酸化土砂に囲まれた中核の淡灰色部が本来は金属鉄であったのが錆化鉄となる。
- (3) 顕微鏡組織：図 572 の④～⑥に示す。黒錆化した鉄器は、フェライト地に少量のパーライト析出が認められる。金属鉄組織の痕跡がある。フェライト結晶は微細で、かつ炭素含有量は 0.2% 前後が推定される。軟鋼を素材とした鍛造鉄器の可能性が高い。また、フェライトの微細結晶傾向から鍛造比の高い空冷製品が想定される。

REN-25：板状鉄器（株式会社 京都科学）

- (1) 弥生時代の後半から終末期の鉄器を調査して、次の点が明らかになった。

鉄器は既に全体が錆化しているが、金属組織の痕跡から、亜共析鋼 (< 0.77% C) の充当と推定される。それも極軟鋼 (< 0.15% C) クラスであるが、フェライト結晶の粗大化傾向はなく、焼なましの施された端正な造りが想定された。舶載品の可能性が高い。

鉄素材は炭素量 (C) からは低温還元直接製鉄法由来の塊錬鉄を候補に挙げたいが、これを発言する大型介在物のウスタイト (Wustite: FeO) やファヤライト (Fayalite: 2FeO · SiO₂) が剥落したのか見当らず、高温還元間接製鉄法にもとづく錬鉄 (下げ脱炭材) の使用が看過できない状況にある。いずれにしろ、錆化した鉄器からの出自を解明するのは困難をきわめる。

また断面形状観察の結果、表面の黄褐色部は錆化に伴う土砂であり、鉄製品は 3.5 mm 程の厚みで、横断面が長方形の板状鉄斧であることが明らかとなった。(大澤)

4. 平成 14 年度予備調査試料

1. 供試材

表 37 に示す。SR02 と SH50 · 51 の 2 つの遺構から出土した遺物である。香川県埋蔵文化財調査センター側でフルイ分け選別された試料から、粒状滓と鍛造剥片の可能性を提示されたもの 5 点を供試材として調査した。

2. 調査結果

試料番号 REN-26：粒状滓様遺物（直径 3 mm）

鍛冶作業の鍛打初期段階で派生する粒状滓は、外観が球状、歪な球状、楕円形状を呈するが該品は球状から外れて研磨断面（表 37 参照）が円弧を描いていない。破面断面はガラス質溶融物が詰まり込み緻密で溶融ガラス質鉱物の破片と見受けられる。また、突起部形状が非直線的で、鋭さがない。

次に図 573 ①～③に顕微鏡組織を示す。鉱物組成は、暗黒色ガラス質スラグ中に淡灰色多角形結晶のヘーシナイト (Hercynite: FeO · Al₂O₃) らしき鉱物相が晶出する。粒状滓の鉱物相はウスタイト (Wustite: FeO) であって、該品は他鉱物で形成される。また図 573 ①にみられる如く溶融突起鉱物は再溶着気味で鍛打作業での急冷組織を否定する。(鍛冶炉内で再溶融すれば別であるが…)

試料番号 REN-27：鍛造剥片様遺物

ガラス質溶融物の破片である。鍛造剥片のもつ表裏面の平坦性がなく、断面からガス抜けの気孔がみえて鍛打加工から派生する剥片からは外れる。また、粒状滓のもつ円弧の輪郭も窺えない。

顕微鏡組織を図 573 の④～⑥に示す。鉱物組織は暗黒色ガラス質スラグ中に結晶外縁部に白色縁どりをもつヘマタイト (Hematite : Fe_2O_3) に囲まれてヘーシナイト系鉱物と淡灰色片状結晶のファイヤライト (Fayalite : $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$) らしき鉱物が共存する。これも粒状滓や鍛造剥片の鉱物相から大きく外れる。

なお赤熱鉄素材の酸化防止に粘土汁塗布があるが、この時に派生するガラス質溶融物においてもこの様なヘーシナイト系鉱物の晶出はありえない。

REN-28：鍛造剥片様遺物

ガラス質溶融物の破片を感じさせる剥片である。鍛造剥片のもつ平坦性や断面緻密性に欠けた剥片であった。顕微鏡組織を図 573 の⑦に示す。鉱物組成は暗黒色ガラス質スラグ中に白色樹状晶のマグネタイト (Magnetite : Fe_3O_4) らしき鉱物が晶出する。粘土汁塗布の剥片の鉱物相では、これに近似した組織もありうるが、断面中に 0.25mm 前後の気泡の発生があって鍛造剥片説は否定される。

REN-29：粒状滓様遺物

表裏面に微小気泡を発する塊状試料である。断面形状は紡錘状で 0.5mm 程度の気泡を有する。粒状滓としての円弧状断面ではなく、かつ、平坦度を欠き、鍛造剥片的外観は持ち合わせていない。顕微鏡組織を図 574 の①～③に示す。鉱物相は、ガラス質スラグ中に多角形結晶のヘーシナイトもしくはウルボスピネル (Ulvöspinel : $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$) それともマグネタイト結晶が晶出する。更に目を凝らすと白色微小粒状のヴスタイトらしき結晶も極く微量見受けられる。しかし、粒状滓や鍛造剥片の組織ではない。

REN-30：鍛造剥片様遺物

表裏面は平坦度を保ち、剥片らしい試料である。色調は鉄錆の赤褐色が表面側で、裏面は灰白色を呈する。光沢がなく酸化膜としての外観を欠く。

顕微鏡組織を図 574 の④～⑥に示す。層状剥離を有する錆化鉄片である。ゲーサイト (Goethite : $\alpha\text{-FeO} \cdot \text{OH}$) となり、鉄酸化膜ではなくて水酸基をもつ剥片であった。(大澤)

まとめ

旧練兵場遺跡 (弥生時代後期・終末期) 出土の鉄器 11 点と微細遺物 14 点 (複数以上のグループもあり、実数は + 29 点加わる)、予備調査において微細遺物 5 点を調査した。個々のまとめを表 39 に示す。(1) 錆化した 11 点の鉄器は、金属組織の痕跡から推定すると、材質は極軟鋼 (< 0.15% C) を主体とした充当である。フェライト (Ferrite : α 鉄、純鉄) の結晶粒度が微細な 9.0 番以上から鍛造比 (鍛造前の断面積と鍛造終了後の断面積で除した数値、4 以上になると材質が安定) の大きな丸鍛え製品の可能性をもつ。ただし、長頸式鉄鎌 (REN-5) は古墳時代後期に属し、軟・硬合せ鍛えであった。

次に特筆すべきは、鉄片 (REN6) の鉄中の非金属介在物からウルボスピネル (Ulvöspinel :

2FeO·TiO₂) が検出された。砂鉄もしくは含チタン磁鉄鉱(塊鉄鉱) 由来が想定できた。朝鮮半島基部側の産地が一つの候補になろう。(注2) 低温還元直接製鋼法の産物と考えられる。

(2) 微細遺物は、赤熱鉄素材の酸化膜由来の鍛冶鍛打作業派生の粒状滓や鍛造剥片ではなくて、高温溶融ガラス質滓(マグネタイト:magnetite、Fe₃O₄ 晶出)や焼粘土粒、銹化鉄片、木炭剥片などである。近代産業派生物の可能性をもつ。これを裏付けるのはガラス質滓の3点(超微細鉄粒、マグネタイト結晶、ファヤライト((2FeO·SiO₂)やガラス基地)からマンガン(Mn)が検出された。近代産高マンガン鋼(0.8~1.3% C、10~14% Mn)には耐摩耗鋼があり、兵器材料にも使用される。こちら側からのコンタミ(Comtami:汚染物)の影響も配慮すべきではなかろうか。

(3) 弥生時代は概ね原始鍛冶の世界である。羽口を使った強力送風から鉄滓を排出し、赤熱鉄素材を鍛打して粒状滓や鍛造剥片を派生する高温操業は弥生時代後期の極く限られた九州の先進地域にみられるに過ぎぬ状況である。(注3) 基本的には古墳時代初頭期の博多遺跡群の59次調査(注4)、65次調査(注5)あたりが本格鍛冶(羽口と鉄滓、粒状滓、鍛造剥片を伴う遺跡)の開始時期と考える。なお、59次調査遺物については筆者が一部調査報告(講演会)をしている。(注6) 鉄滓はウスタイトとファヤライト晶出の鍛錬鍛冶滓であり、粒状滓と鍛造剥片もウスタイト主体の鉱物相だった。

翻って、日本列島内の鉄器使用開始を繙くと、弥生時代中期初頭頃より中国東北部の燕方面で製造された二条凸帯鑄造鉄斧破片(可鍛鑄鉄焼なまし脱炭が施されて軟質)を砥石研磨加工した片刃板状鉄斧などの転用再生品であろう。古代中国産鑄造鉄斧破片の香川県内出土品としては原間遺跡のものがある。(注7) 弥生時代中期後半頃になると、同じく燕方面より鑄鉄脱炭鋼と呼ぶ棒状・板状半製品の鍛冶素材が導入される。これを炙り鑿切り、曲げ加工、砥石研磨の工程を経た鉄器製作となる。香川県下川津遺跡も原料鉄の材質は分析調査がなされていなくて、不明ながら出土鉄片の分類形態から、その可能性は十分に窺える。(注8)

このような弥生時代の原始鍛冶の展開は西日本では広く認められ、筆者の近年の調査事例を挙げると以下の如くなる。四国では徳島県矢野遺跡(注9)、名東遺跡(注10)、高知県西分増井遺跡(注11)がある。また、四国以外では年代が遡るが福岡県春日市赤井手遺跡(中期後半)(注12)、八女市西山ノ上遺跡(後期)(注13)、熊本県二子塚遺跡(後期後葉)(注14)、京都府奈良岡遺跡(中期後半)(注15)、岡山県一軒屋遺跡(弥生時代後期)(注16)、広島県油免遺跡(弥生時代後期)(注17)、鳥根県平田遺跡(弥生時代終末期)(注18)などがある。

以上列挙した10遺跡は繰返しになるが、熊本県二子塚遺跡を除いて、羽口、鉄滓、粒状滓、鍛造剥片の出土はない。本格鍛冶は否定される。鍛冶は原始鍛冶であり、海外依存の棒状、板状半製品を加熱鑿切り、曲げ加工、砥石研磨痕跡を留めた切片で構成される。旧練兵場遺跡の鍛冶工房跡もこれらに準ずるものだった。微細遺物を詳細に検討したが、この中に弥生時代の鍛打作業を証明する粒状滓や鍛造剥片は皆無であった。(大澤)

符号	報文番号	出土遺構	登録番号	遺物分類	調査結果	
					断面形状(研磨後)×2	顕微鏡観察結果
REN-26	-	S R 02 上層	NZR-M0003	粒状滓様遺物	球体破損?	H系 + G
REN-27	-	S R 02 上層	NZR-M0003	鍛造剥片様遺物	塊状	外縁H e + H + G
REN-28	-	S R 02 上層	NZR-M0003	鍛造剥片様遺物	剥片	M + G
REN-29	-	S H 51	NZR-M0012	粒状滓様遺物	塊状	H + G
REN-30	-	S H 51	NZR-M0019	鍛造剥片遺物	剥片	G O (銹化鉄)

注 H:ヘーシナイト Hercynite: FeO・Al₂O₃
 He:ヘマタイト Hematite: Fe₂O₃
 M:マグネタイト Magnetite: Fe₃O₄
 G o:ゲーサイト Goethite: α-FeO・OH 銹化鉄
 G:ガラス質溶解物 珪酸塩系
 鉱物相の同定はEPMA (Electron Probe Micro Analyzer) 調査が必要

表 38 供試材の履歴と調査結果

注

- (1) Levin, Ernest M, 1914 - (Mcmurdie.H.F/American Ceramic Society) American Ceramic Society 1975
- (2) 大澤正己 2010「加平大成里遺跡出土鉄関連遺物の金属学的調査」『加平大成里遺跡』韓国京畿文化財団付設畿甸文化財研究院
- (3) ①大澤正己 2010「下扇原遺跡出土関連遺物の金属学的調査」『小野原遺跡群』熊本県文化財調査報告第257集 熊本県教育委員会 土器を噛み込んだ38gの小型椀形滓が出土した。ベンガラ滓と共伴。遺跡内から羽口や粒状滓、鍛造剥片は未検出で棒状、板状の切片を共伴する。褐鉄鉱焼成時の偶発的派生物の可能性も検討が必要。
 ②大澤正己 2010「金相学から見た九州の鐵文化」『平成22年度資源・素材関係学協会合同秋季大会資料』A-5「鉄史」P.5-8. 椀形滓はベンガラ製造時の褐鉄鉱からの偶発的生成物の可能性を提示。
- (4) 山口譲治ほか 1993『博多36 - 第59次調査報告 -』福岡市埋蔵文化財調査報告書第328集 福岡市教育委員会
- (5) 小畑弘ほか 1993『博多37 - 博多遺跡群第65次発掘調査概報』福岡市埋蔵文化財調査報告書第329集 福岡市教育委員会
- (6) 大澤正己 1993「鉄滓からみた鉄生産」『特別考古学講座 - 鉄と考古学 (第2回)』福岡市埋蔵文化財センター
- (7) 村川義行 2005「原間遺跡出土鉄製遺物の分析調査」『原間遺跡』 - 県道大内白鳥インター線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 - 香川県教育委員会 表層のみの脱炭で中核部は錆込みままのレデブライト (ledebulite) 組織を残す。
- (8) 信里芳紀 2004「下川津遺跡における鉄器生産の可能性について」 - 弥生後期の鍛冶関係資料の新例 - 『研究紀要 XI』(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- (9) ①大澤正己 2001「矢野遺跡出土鉄製品・砂鉄等の金属学的調査」『矢野遺跡 (I)』 - 徳島南環状道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 - (徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第33集) 徳島県教育委員会
 ②大澤正己 2006「矢野遺跡出土鉄関連遺物の金属学的調査」『矢野遺跡III』(弥生・古代編) - 一般国道192号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査 - (徳島県埋蔵文化財調査報告書第63集) 徳島県教育委員会
- (10) 大澤正己 1995「名東遺跡出土弥生時代鉄製品の金属学的調査」『名東遺跡』(徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第14集) 徳島県教育委員会
- (11) 大澤正己 2004「西分増井遺跡出土鉄関連遺物の金属学的調査」『西分増井遺跡II』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
- (12) ①大澤正己 1995「春日市の鉄の歴史」『春日市史』
 ②大澤正己 2006「赤井手遺跡出土鍛冶原料鉄の“銹鉄脱炭鋼”について」『たたら研究』第45号 たたら研究会
 ③大澤正己 2008「マクロ・ミクロの世界が捉えた弥生の鉄」『第18回フォーラム講演会「弥生時代の鉄文化 - (1) -」』 - 理系から見た鉄関連遺物の諸問題 - 予稿集 日本鉄鋼協会 社会鉄鋼工学部会
- (13) 大澤正己 2004「西山ノ上遺跡出土鉄関連遺物の金属学的調査」『西山ノ上遺跡 (1・2次調査)』(八女市文化財調査報告書第70集) 福岡県八女市教育委員会
- (14) 大澤正己 2000「二子塚遺跡出土鉄器及び鍛冶関連遺物の金属学的調査」村上恭通先生經由熊本県教育委員会提出原稿 報告書準備中
- (15) ①大澤正己 1997「奈良岡遺跡出土鉄製品・鉄片(切片)の金属学的調査」『京都府遺跡調査概報第76冊』(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
 ②大澤正己 1997「弥生時代の鉄器の動向 - 金属学的見地からのアプローチ -」(可鍛鉄・銹鉄脱炭鋼・炒鋼・塊鉄)『東日本における鉄器文化の受容と展開』(第4回鉄器文化研究会) 発表要旨 鉄器文化研究会 朝霞市教育委員会
- (16) 大澤正己 1999「津寺一軒屋遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」『津寺三本木遺跡・津寺一軒屋遺跡』 - 主要地方道路蓑島高松線改良工事に伴う発掘調査 - (岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 142集) 岡山県教育委員会
- (17) ①大澤正己 2003「油免遺跡出土弥生鉄片の金属学的調査」『灰塚ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (IV) - 油免遺跡の調査 -』(財)広島県埋蔵文化財調査センター
 ②大澤正己 2006「三良坂町油免遺跡から出土した鉄片の意義」『平成18年度たたら研究会大会』発表要旨 福山市大会 広島県立歴史博物館
- (18) 大澤正己・鈴木瑞穂 2000「平田遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」『平田遺跡III調査区』(斐伊川広域一般河川改修工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書) 島根県木次町教育委員会

試料番号	符号	籍文番号	地区	出土位置	遺物名称	推定年代	計測値			調査項目						備考		
							大きさ(mm)	重量(g)	メタル度	"マクロ組織"	"顕微鏡組織"	"ビッカース断面硬度"	X線回折	EPMA	化学分析		耐火度	加印-
試料1	REN-1	251	A区	SH17②床面	刀子?	弥生時代後期	44 × 22 × 9	10.2	錆化(△)	○								
試料2	REN-2	281		SH27②	鉄製品(茎部破片?)			26 × 11 × 8	2.7	錆化(△)	○							
試料3	REN-3	333	B区	SH29	板状鉄斧	古墳時代後期	69 × 43 × 13	57.1	H (○)	○		○					破片?点(未接合) 刃部破片調査	
試料4	REN-4	474		SH38ウ床面直上	ヤリガンナ?			24 × 12 × 4	2.0	錆化(△)	○							
試料5	REN-5	550	C区	SH42オの東	鉄鏃	弥生時代後期	58 × 11 × 7	8.1	錆化(△)	○								
試料6	REN-6	608		SH48上層	鉄鏃?			63 × 27 × 8	18.3	錆化(△)	○							
試料7	REN-7	-			微細遺物		-	-	なし	○								
	REN-8	-			微細遺物		-	-	なし	○								
	REN-9	642		SH51	鉄製品(針状破片)		5 × 3 × 2	< 0.1	錆化(△)	○								
	REN-10	-	D区		鉄製品(針状破片)		11 × 2 × 2	< 0.1	錆化(△)	○								
	REN-11	-			微細遺物		-	-	なし	○								
試料8	REN-12	-			微細遺物	弥生時代終末期	-	-	なし	○								
	REN-13	656		SH52北壁切り	板状鉄斧			38 × 27 × 5	9.4	錆化(△)	○							
試料9	REN-14	-			微細遺物	弥生時代後半~終末期	-	-	なし	○								
	REN-15	-			微細遺物(粒状)			-	-	なし	○							
	REN-16	-			微細遺物			-	-	なし	○							
	REN-17	-			微細遺物(粒状)			-	-	なし	○							
	REN-18	-	E区		微細遺物			-	-	なし	○							
	REN-19	-		SR02	微細遺物(粒状)			-	-	なし	○							
	REN-20	-			微細遺物			-	-	なし	○							
試料10	REN-21	-	F区	SH56 7下層	鉄製品	弥生時代後期	-	-	なし	○								
	REN-22	-			微細遺物			-	-	なし	○							
	REN-23	-			微細遺物(粒状)		-	-	なし	○								
	REN-24	684	F区	SH56 7下層	鉄製品		52 × 15 × 5	6	錆化(△)	○								
	REN-25	-	T区		板状鉄器													

平成14年度予備調査試料

粒状滓様遺物																		
鍛造剥片様遺物			SR02上層			弥生時代後半~終末期												
鍛造剥片様遺物																		
粒状滓様遺物						弥生時代後期												
鍛造剥片様遺物			SH51															

表 39 供試材の履歴と調査項目

符号	報文番号	地区	出土位置	遺物名称	推定年代	顕微鏡組織	所見
REN-1	251	A 区	SH17 ②床面	柳葉式鉄鏃	弥生時代 後期	銹化鉄、Fe 地にP 痕跡0.15% C、微細結晶	非金属属介在物は欠落。極軟鋼鍛造品 (鍛造比大) 産地同じか
REN-2	281	B 区	SH27 ②	鉄鏃		銹化鉄、Fe 地にP 痕跡、0.05% C、微細結晶	非金属属介在物は欠落。極軟鋼鍛造品 (鍛造比大) 産地同じか
REN-3	333	C 区	SH29	袋状鉄斧	古墳時代後期	銹化鉄、Fe 地にP 痕跡、0.01% C、微細結晶	非金属属介在物は欠落。極軟鋼鍛造品 (鍛造比大) 産地同じか
REN-4	474		SH38 ウ床面直上	ヤリガクナ?		銹化鉄、Fe 地にP 痕跡、0.05% C、微細結晶	非金属属介在物は欠落。極軟鋼鍛造品 (鍛造比大) 産地同じか
REN-5	550		SH42 オの東	長頸式鉄鏃		銹化鉄皮含: 0.2% C、心金: 0.5% C 合せ鍛え?	軟鋼と硬鋼の鍛接合せ鍛えの可能性 (銹化激しく不明瞭)
REN-6	608		SH48 上層	鉄片		銹化鉄、介在物にU、Fe 地にP 痕跡、0.10% C	砂鉄もしくは含チタン磁鉄鉱由来の極軟鋼鍛造品、朝鮮半島基部側産か
REN-7	-			鍛造剥片様遺物	弥生時代 後期	4点調査、超微細鉄粒 Mn 含み、焼粘土粒 (Ce)	2種の微細遺物は鍛冶と関係ない新しい時期の混入品の可能性 (Mn 検出、近代遺物か)
REN-8	-			鍛造剥片様遺物		鉄滓粒、fer と M 晶出	不整形球体を呈するが鍛打派生の粒状滓は否定される。
REN-9	642			針状鉄片		縦・横断面共に Fe 地にP 微量痕跡<0.05% C	非金属属介在物は欠落。極軟鋼鍛造品
REN-10	-	D 区	SH51	針状鉄片		銹化鉄、金属組織痕跡不明瞭	極軟鋼鍛造品の可能性
REN-11	-			鍛造剥片様遺物		焼粘土粒 (Ce)	鍛打派生遺物ではない
REN-12	-			鍛造剥片様遺物	ガラス質滓は Mn 含み、剥片遺物は鉄片と銹化鉄	鍛打派生遺物ではない。近代産業廃棄品か (REN-7 含 Mn 軟微細鉄粒と関連)	
REN-13	656		SH52 北壁切り	鉄片	弥生時代 終末期	銹化鉄、Fe 地に微量 P、微細結晶粒	非金属属介在物欠落極軟鋼鍛造品、鍛造比大 REN-1 ~ 4 と産地同じか
REN-14	-			粒状滓様遺物		0.5 ~ 1.2mm 径の4 点のガラス質滓と2 点の焼粘土粒	鍛冶鍛打遺物は否定される
REN-15	-			微細遺物	10 倍のマクロ組織に24 点の焼粘土粒とガラス質粒混在	鍛冶鍛打遺物は存在しない (1.5mm 径程度の焼粘土粒の多いグループ)	
REN-16	-			粒状滓様遺物	1.5mm 径の球体遺物はガラス地に M 晶出 (含 Mn)	3 点の球体遺物は含 Mn マグネタイトで耐磨耗鋼関連の可能性 REN-7、12 と同系	
REN-17	-			鍛造剥片様遺物	不整形焼粘土粒とガラス質滓小片、炭灰片存在	当グループも鍛冶鍛打遺物は存在しない。剥片は木炭やガラス質滓等混在	
REN-18	-	E 区	SR02	粒状滓様遺物	弥生時代 後半~終末期	0.8 ~ 1.2mm 径ガラス質粒 (M 晶出)	鍛冶関連微細遺物は存在しない。本来粒状滓よりも高温溶融物
REN-19	-			微細遺物		木炭片、ガラス質粒、焼粘土粒等で構成	鍛冶鍛打関連遺物の微細遺物 (粒状滓、鍛造剥片) 等は存在しない
REN-20	-			粒状滓様遺物	1.2mm ~ 1.6mm 径球状遺物はガラス質滓	鍛冶鍛打関連遺物の微細遺物 (粒状滓、鍛造剥片) 等は存在しない	
REN-21	-			鍛造剥片様遺物	2mm 前後の不整形遺物はガラス質滓、銹化鉄、焼粘土粒	鍛冶鍛打関連遺物の微細遺物 (粒状滓、鍛造剥片) 等は存在しない、金属鉄粒含 Nb、TiS、近代遺物か	
REN-22	-			粒状滓様遺物	0.8 ~ 1.2mm 径球状遺物は M 晶出ガラス質滓	鍛冶鍛打関連遺物の微細遺物 (粒状滓、鍛造剥片) 等は存在しない	
REN-23	-			微細遺物	M 晶出ガラス質滓、焼粘土粒	鍛冶鍛打関連遺物の微細遺物 (粒状滓、鍛造剥片) 等は存在しない	
REN-24	684	F 区	SH56 ア下層	刀子	弥生時代 後期	銹化鉄、Fe 地にP 痕跡、0.20% C 前後、微細結晶	非金属属介在物は欠落、軟鋼鍛造品、REN-1 ~ 4 と産地は同系列か
REN-25	-	T 区		板状鉄器		銹化鉄、Fe 地にP 痕跡	非金属属介在物は欠落、軟鋼鍛造品、銹化激しく詳細不明

平成14年度予備調査史料

REN-26	-			粒状滓様遺物	弥生時代 後半~終末期	H 系 + G	溶融突起鉱物は再溶着気味で鍛打作業での急冷組織を否定する。
REN-27	-	E 区	SR02 上層	鍛造剥片様遺物		外縁 H e + H + G	粒状滓や鍛造剥片の鉱物相からは、近似した組織もありうるが、断面中に
REN-28	-			鍛造剥片様遺物		M + G	0.2mm 前後の気泡の発生があった鍛造剥片説は否定される。
REN-29	-	D 区	SH51	粒状滓様遺物	弥生時代 後期	H + G	ヘンシナイトもしくはウルボスピネルそれともマグネタイト結晶が晶出する更に目を凝らすと白色微小粒状のガスタイトらしき結晶も極く微量見受けられる。しかし、粒状滓や鍛造剥片の組織ではない。
REN-30	-			鍛造剥片様遺物		G O (銹化鉄)	ゲーサイトとなり、鉄酸化膜ではなくて水酸基をもつ剥片であった。

Fe.: Ferrite (純鉄又はα鉄)、P: Pearlite (フェライトとセメントライト: Fe₃Cの共析品)、U: Ulvospinel (2FeO・TiO₂)、Mn (マンガン) 含み鋼: 耐摩耗鋼。高 Mn 鋼は性状向上目的から 1200°C 以下の熱処理を施す、この時の派生物か。
 Ce.: 粘土鉱物セリサイト Cerisite、MnMagnetite(Fe₂O₃)、fer: (ferrosilite: FeSiO₃)
 注 H: ヘンシナイト Hercynite: FeO・Al₂O₃
 He: ヘマタイト Hematite: Fe₂O₃
 M: マグネタイト Magnetite: Fe₃O₄
 G o.: ゲーサイト Goethite: α-FeO・OH 銹化鉄
 G: ガラス質溶融物 珪酸塩系

表 40 出土遺物の調査結果のまとめ

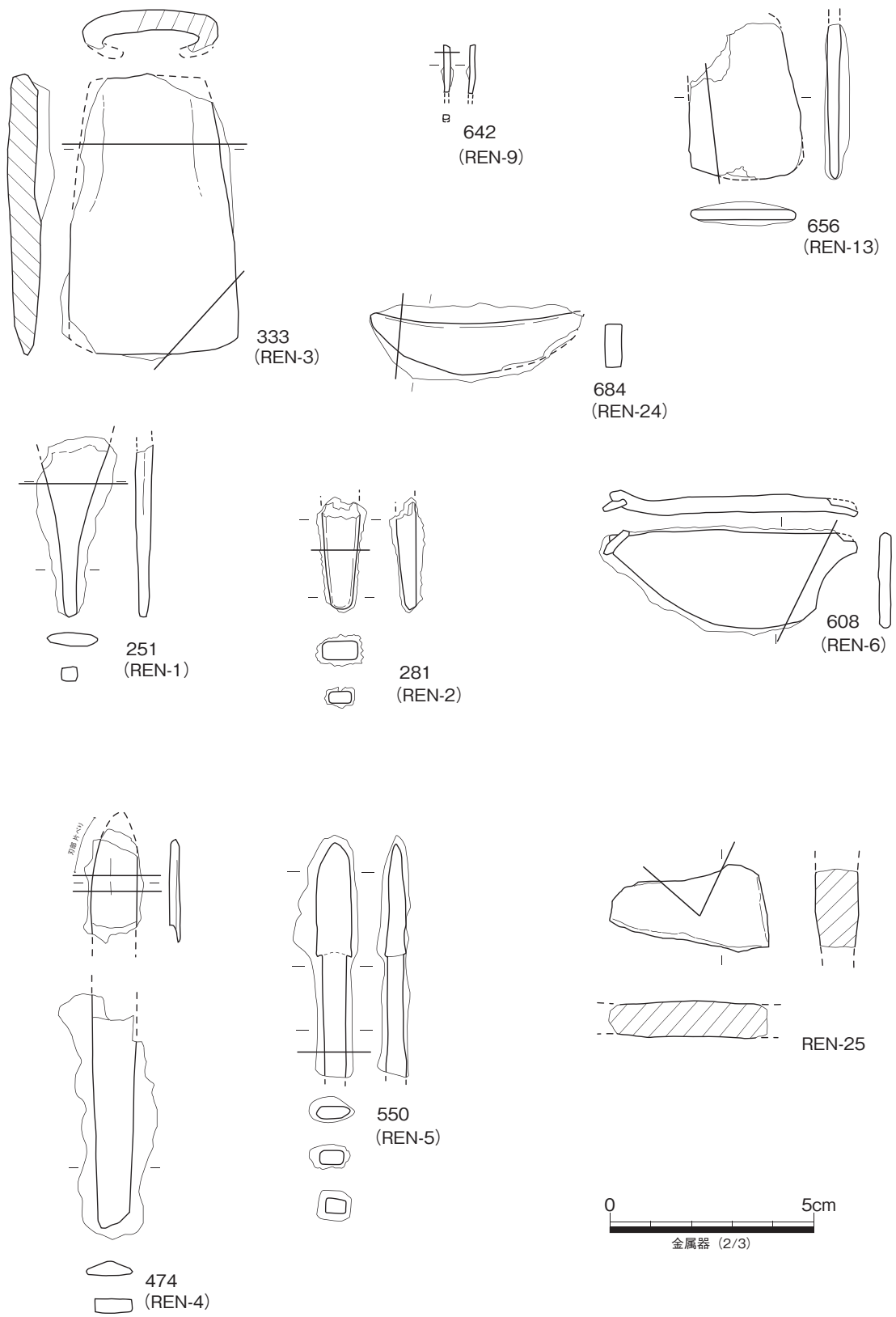


图 556 分析铁器

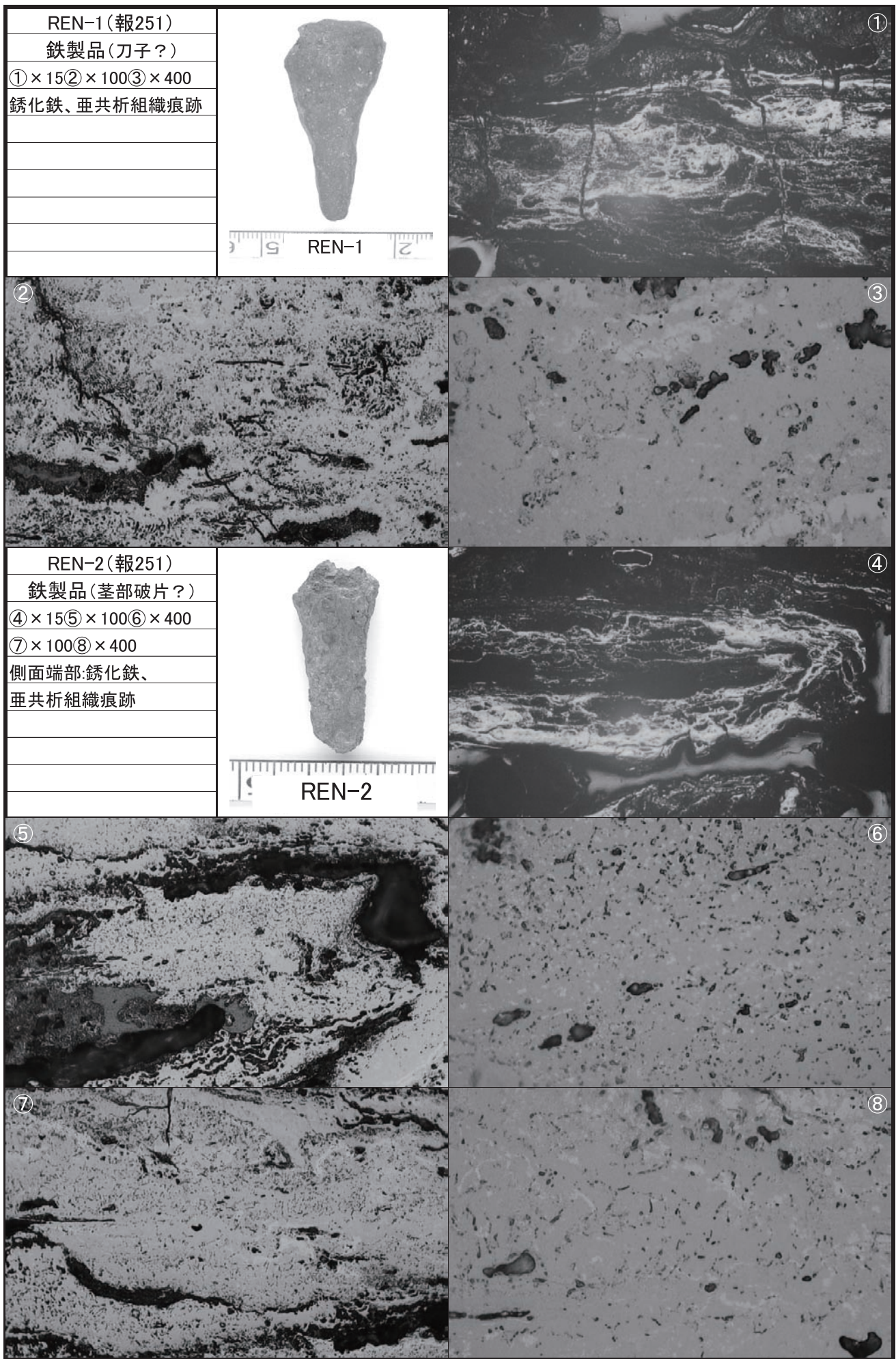


図 557 鉄製品の顕微鏡組織

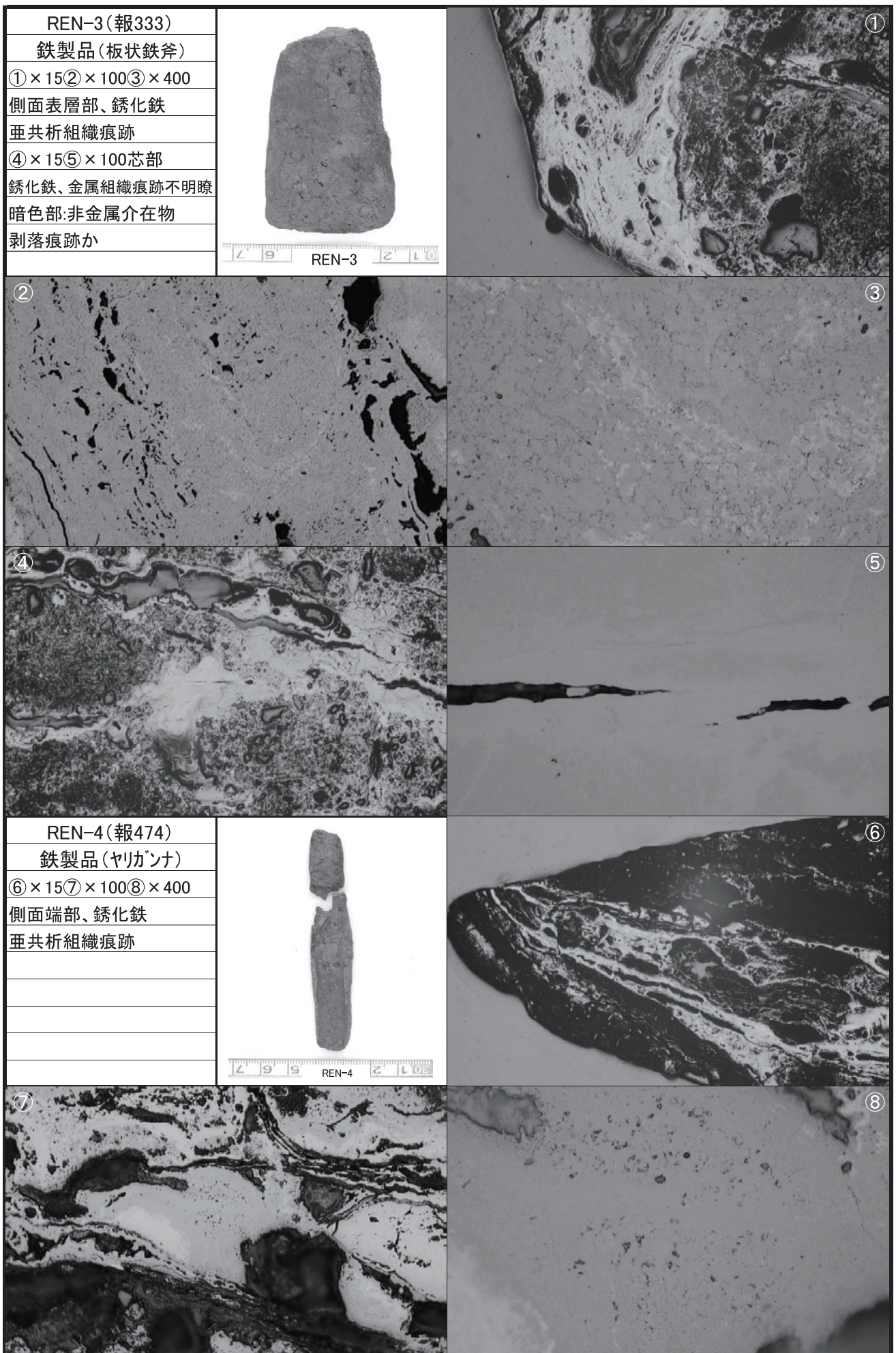


図 558 鉄製品の顕微鏡組織

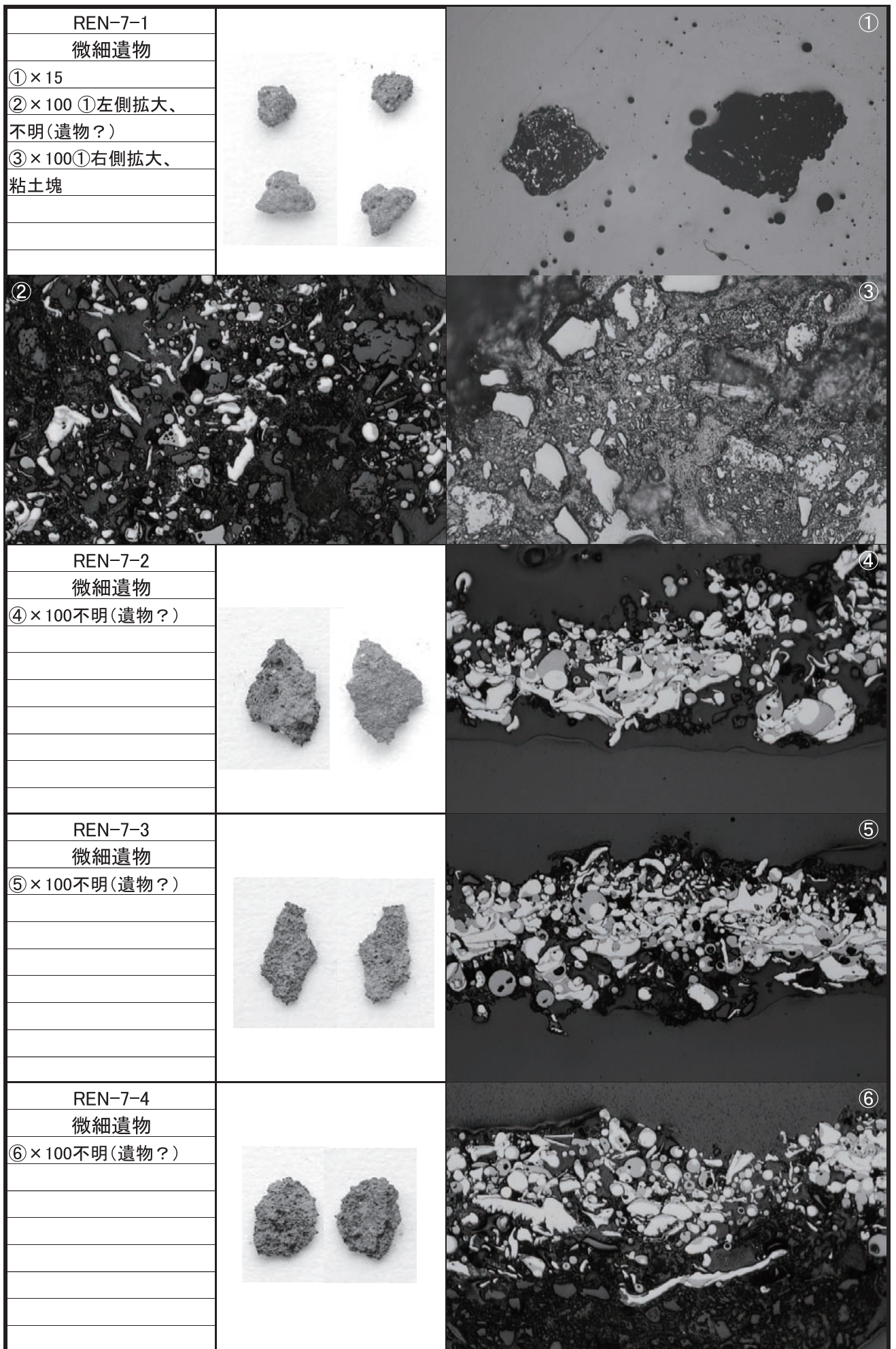


図 560 微細遺物の顕微鏡組織

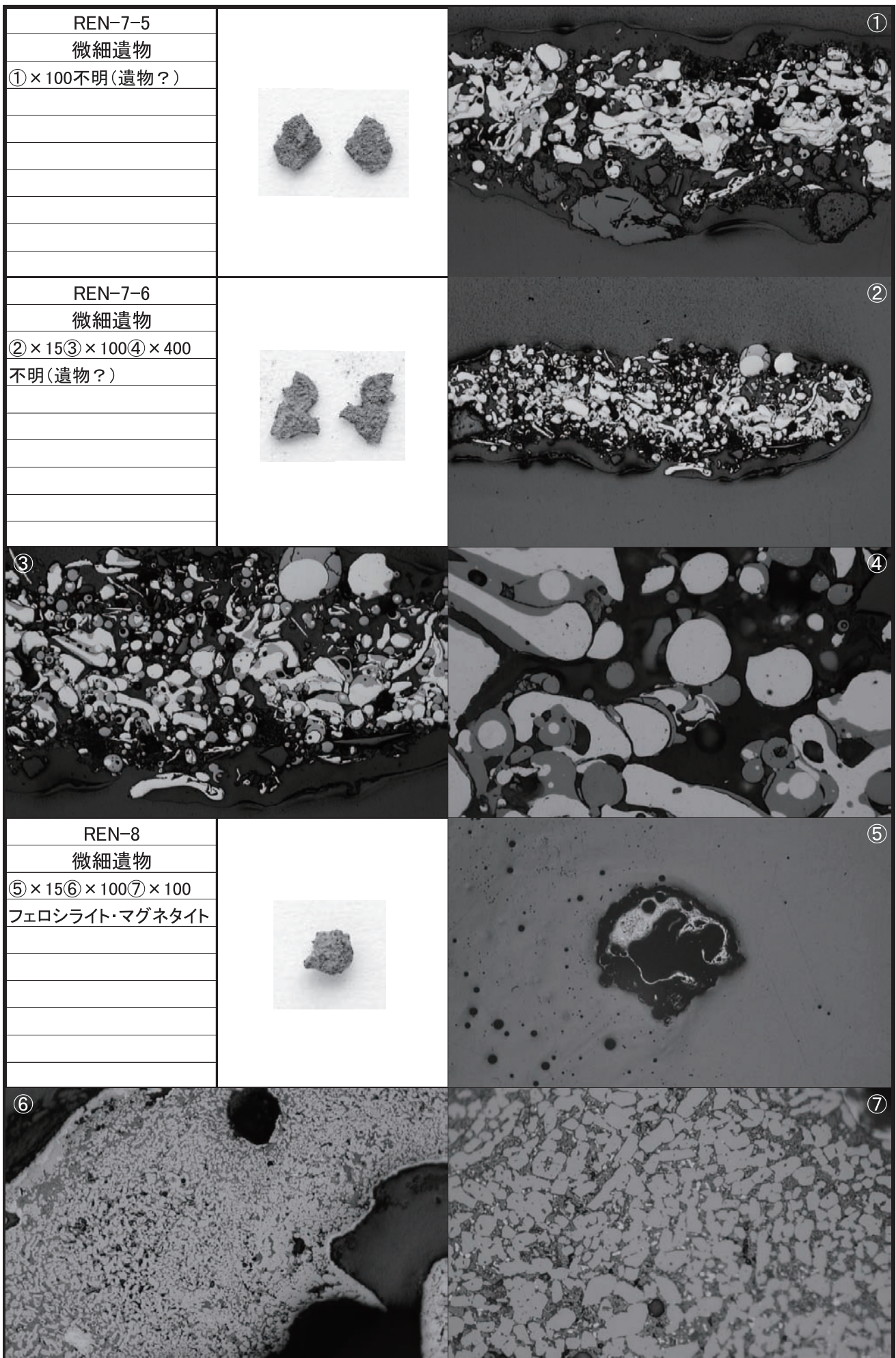


図 561 微細遺物の顕微鏡組織

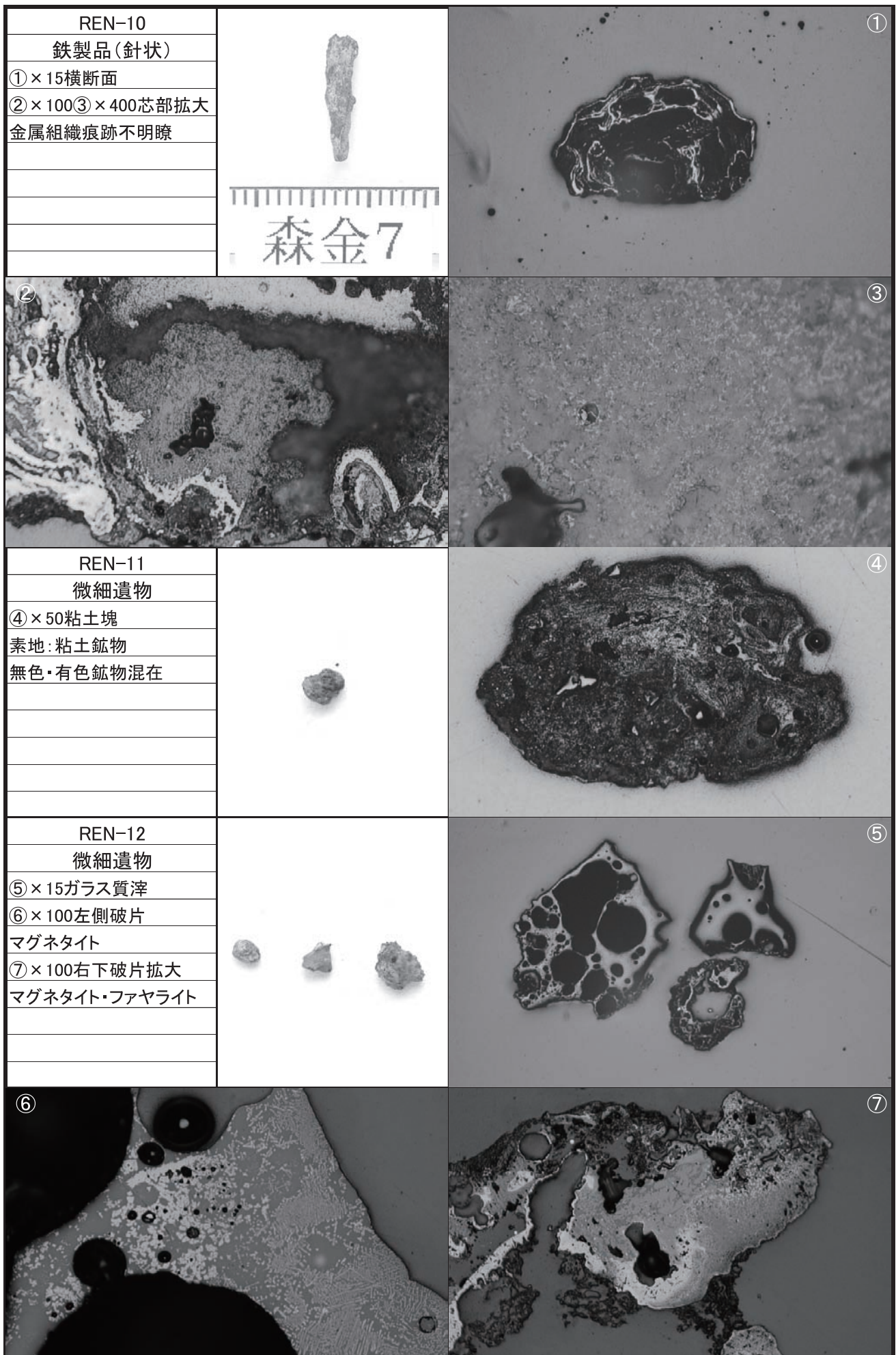


図 563 鉄製品・微細遺物の顕微鏡組織

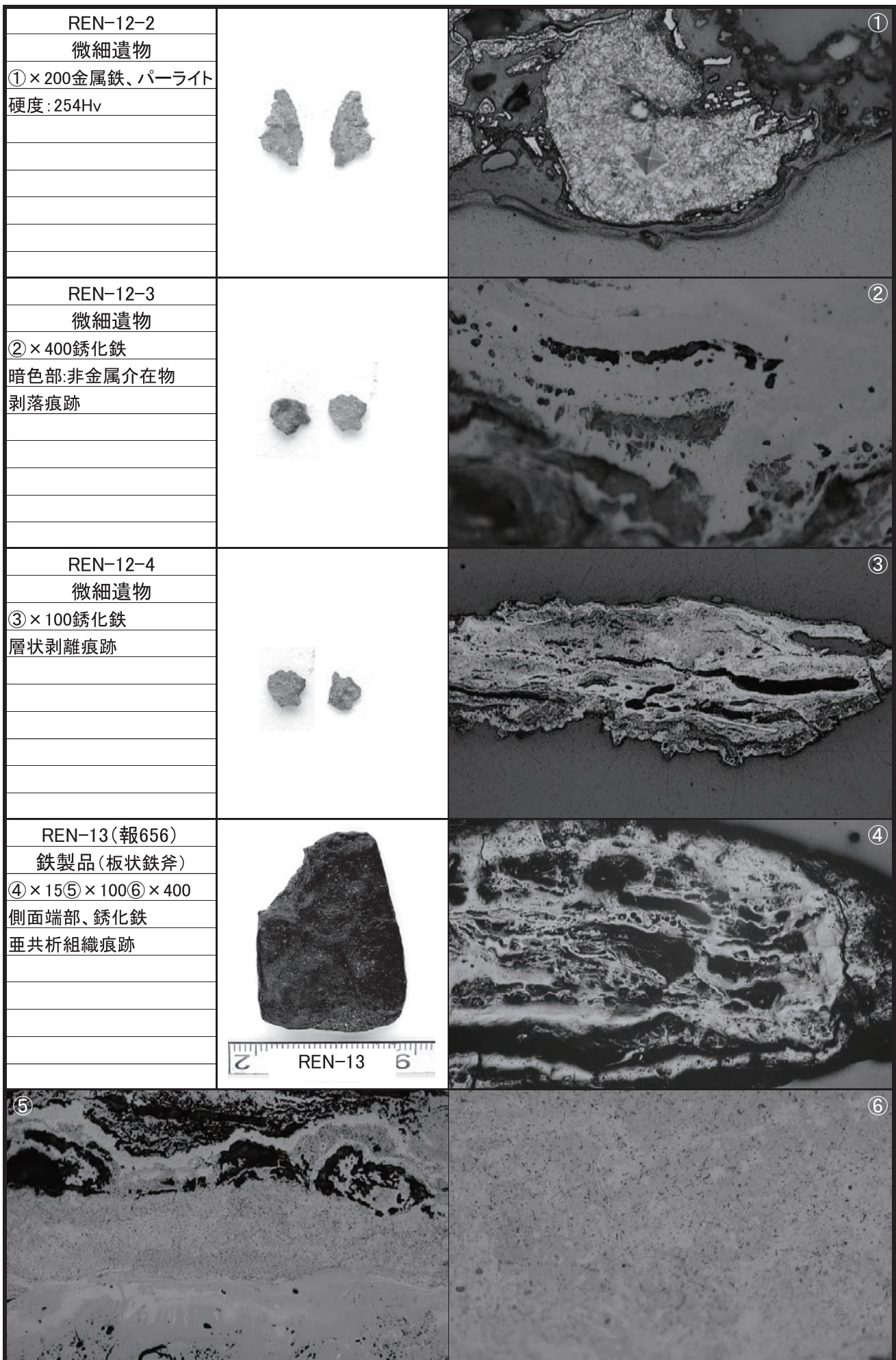


図 564 微細遺物・鉄製品の顕微鏡組織


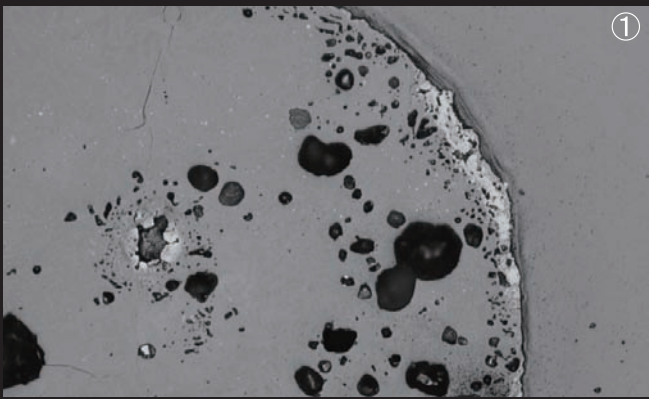



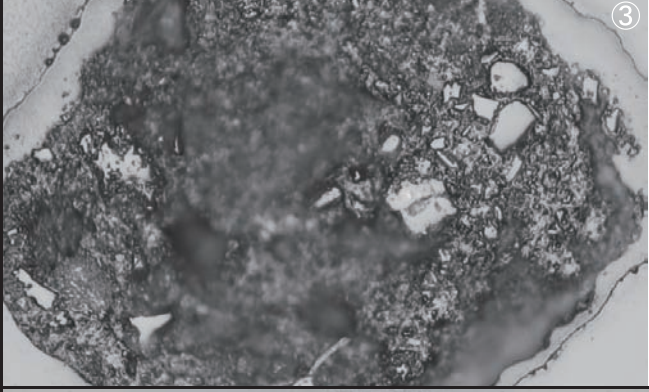
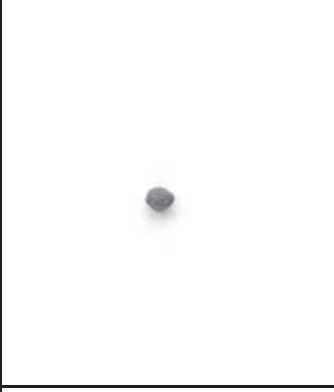
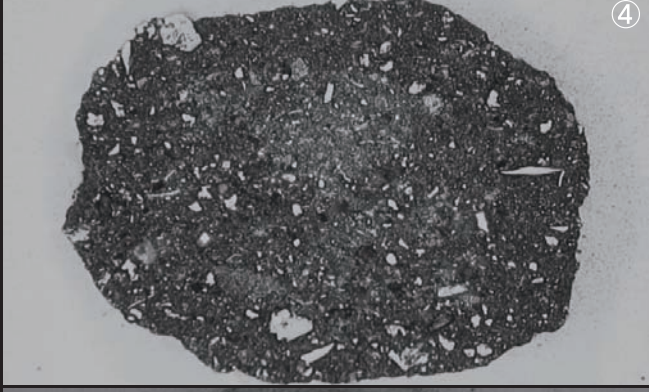

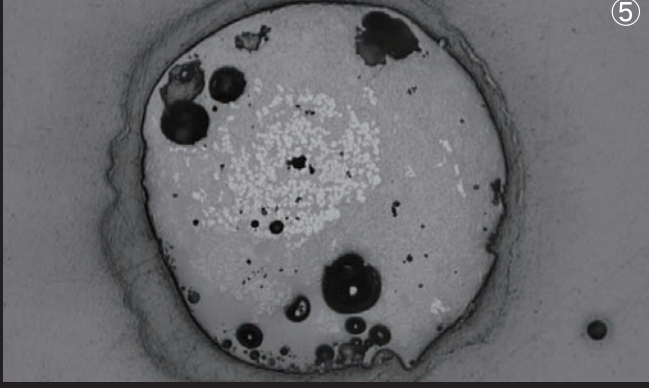
REN-14-1 微細遺物 ①×100ガラス質滓 マグネタイト		
REN-14-2 微細遺物 ②×100ガラス質滓		
REN-14-3 微細遺物 ③×100粘土塊 素地:粘土鉱物、 無色・有色鉱物混在		
REN-14-4 微細遺物 ④×100粘土塊 素地:粘土鉱物、 無色・有色鉱物混在		
REN-14-5 微細遺物 ⑤×100ガラス質滓 マグネタイト		

図 565 微細遺物の顕微鏡組織

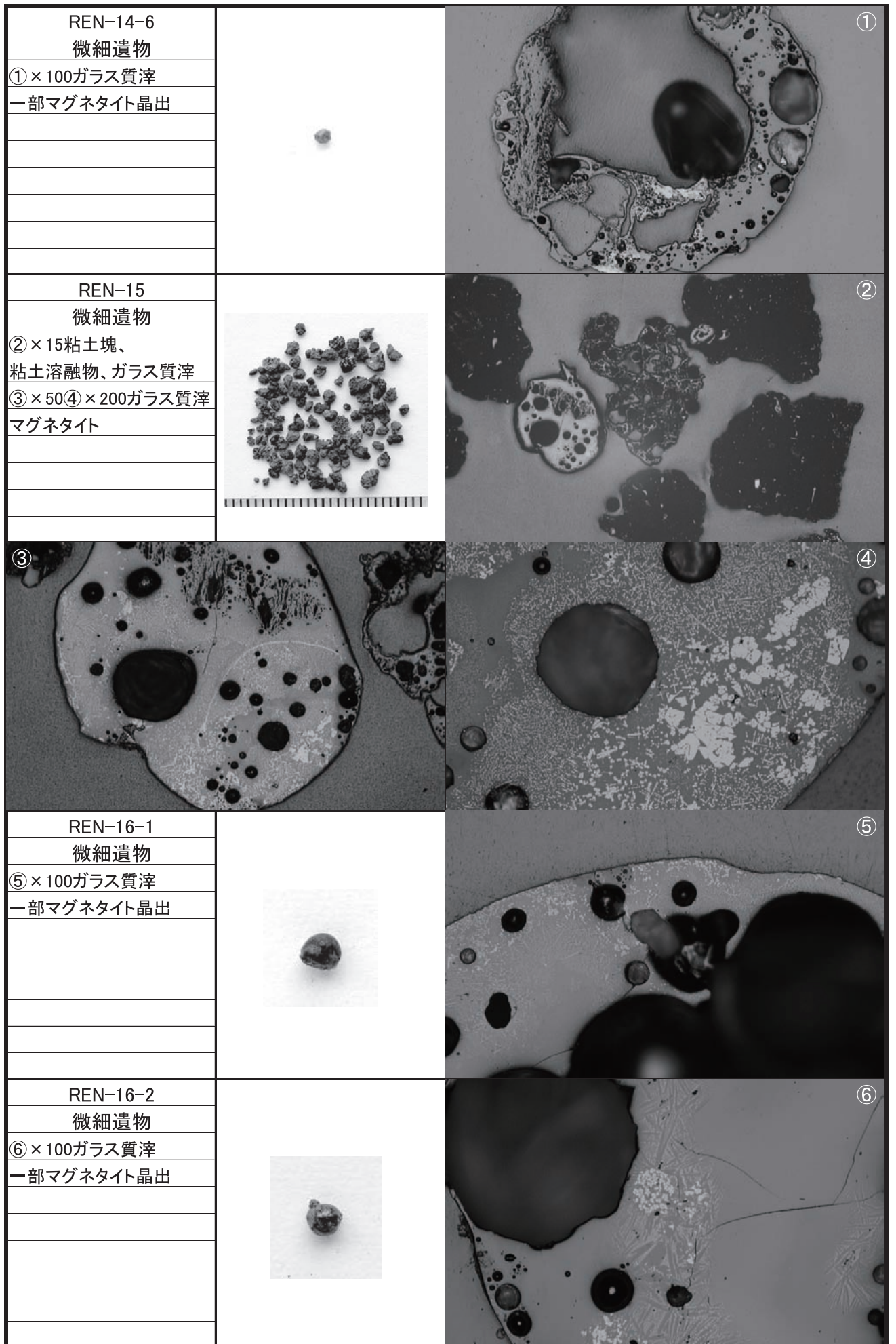


図 566 微細遺物の顕微鏡組織

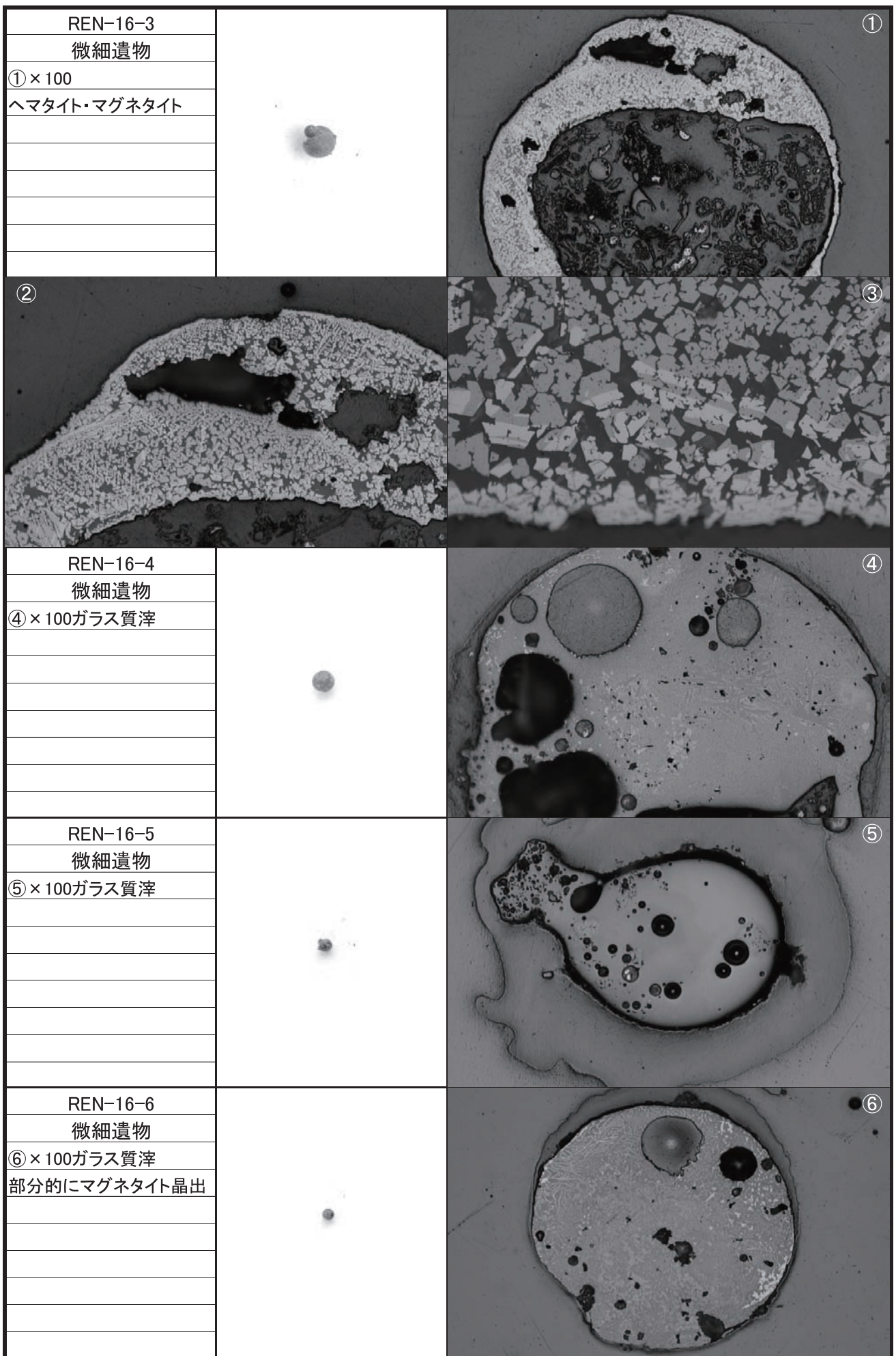


図 567 微細遺物の顕微鏡組織

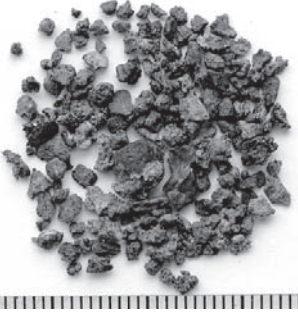
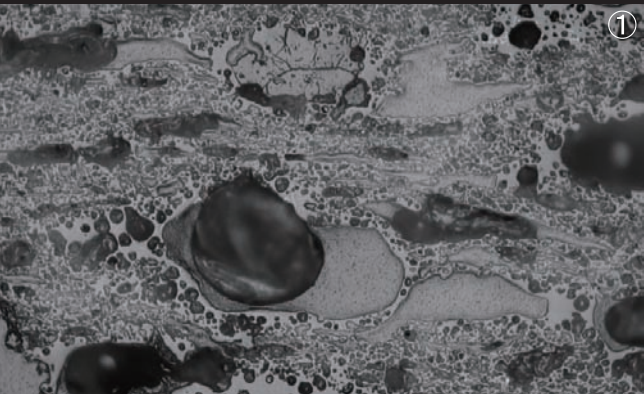
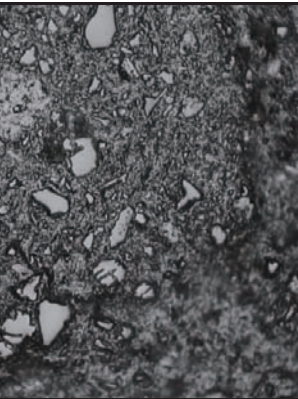
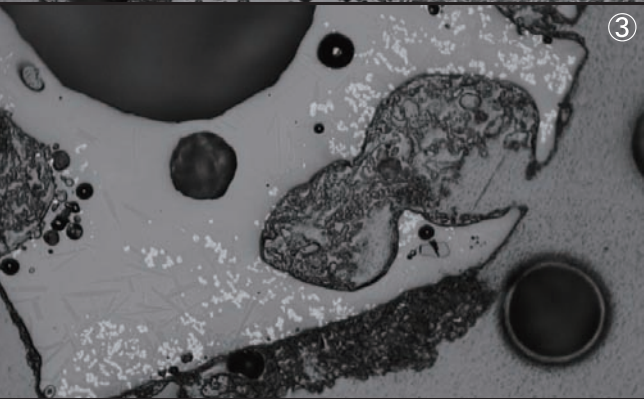



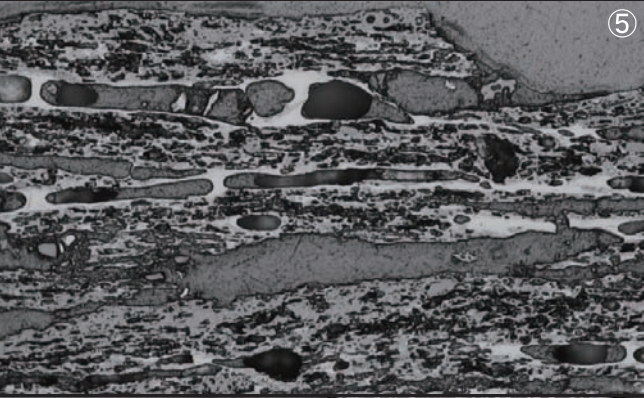

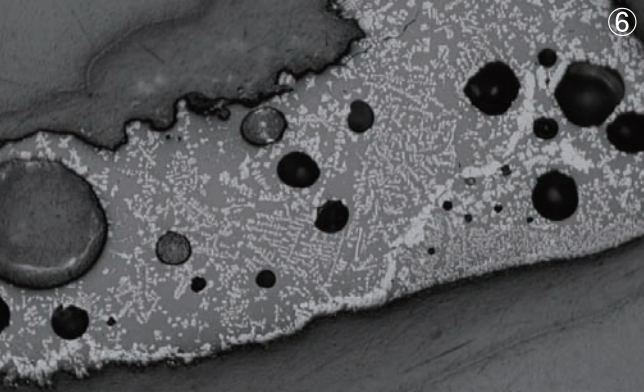
<p>REN-17-1 微細遺物</p> <p>① × 100被熱粘土 部分的にガラス質化</p> <p>② × 100粘土塊</p> <p>素地部分: 粘土鉱物 無色・有色鉱物混在</p> <p>③ × 100ガラス質滓 マグネタイト</p>		
<p>②</p>		
<p>REN-17-2 微細遺物</p> <p>④ × 200木炭破片</p>		
<p>REN-17-3 微細遺物</p> <p>⑤ × 200木炭破片</p>		
<p>REN-17-4 微細遺物</p> <p>⑥ × 100マグネタイト</p>		

図 568 微細遺物の顕微鏡組織


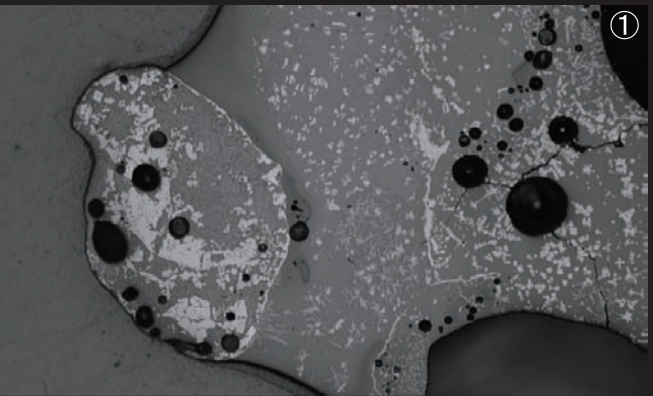

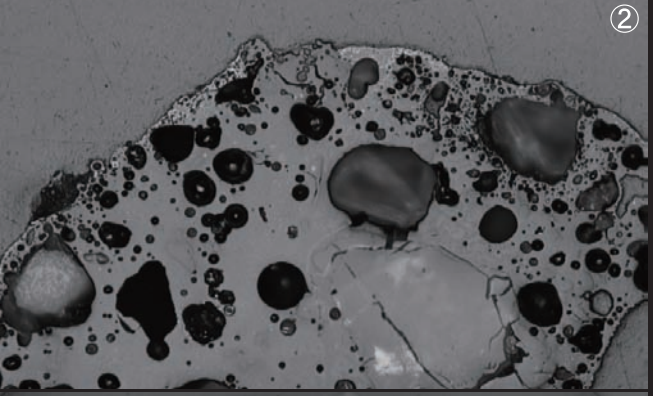
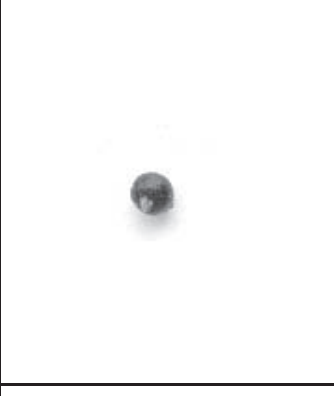

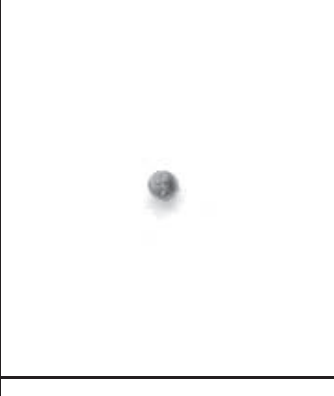
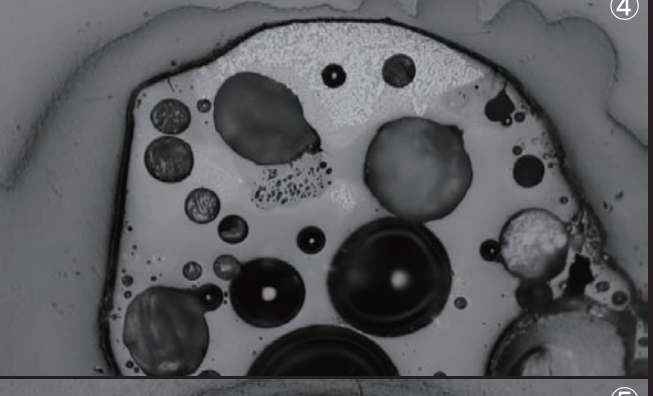

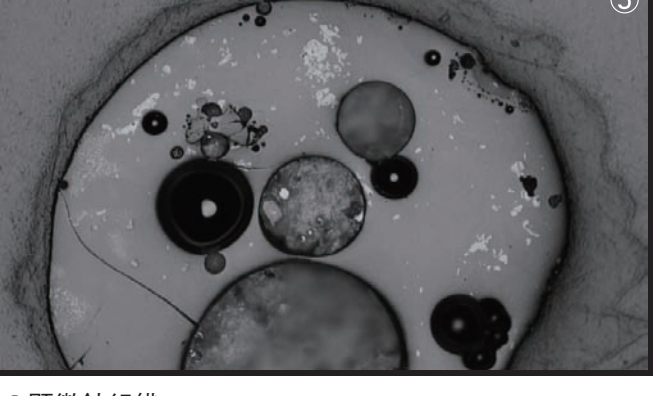
REN-18-1 微細遺物 ①×100ガラス質滓 マグネタイト		
REN-18-2 微細遺物 ②×100ガラス質滓		
REN-18-3 微細遺物 ③×100ガラス質滓		
REN-18-4 微細遺物 ④×100ガラス質滓 マグネタイト		
REN-18-5 微細遺物 ⑤×100ガラス質滓 マグネタイト		

図 569 微細遺物の顕微鏡組織

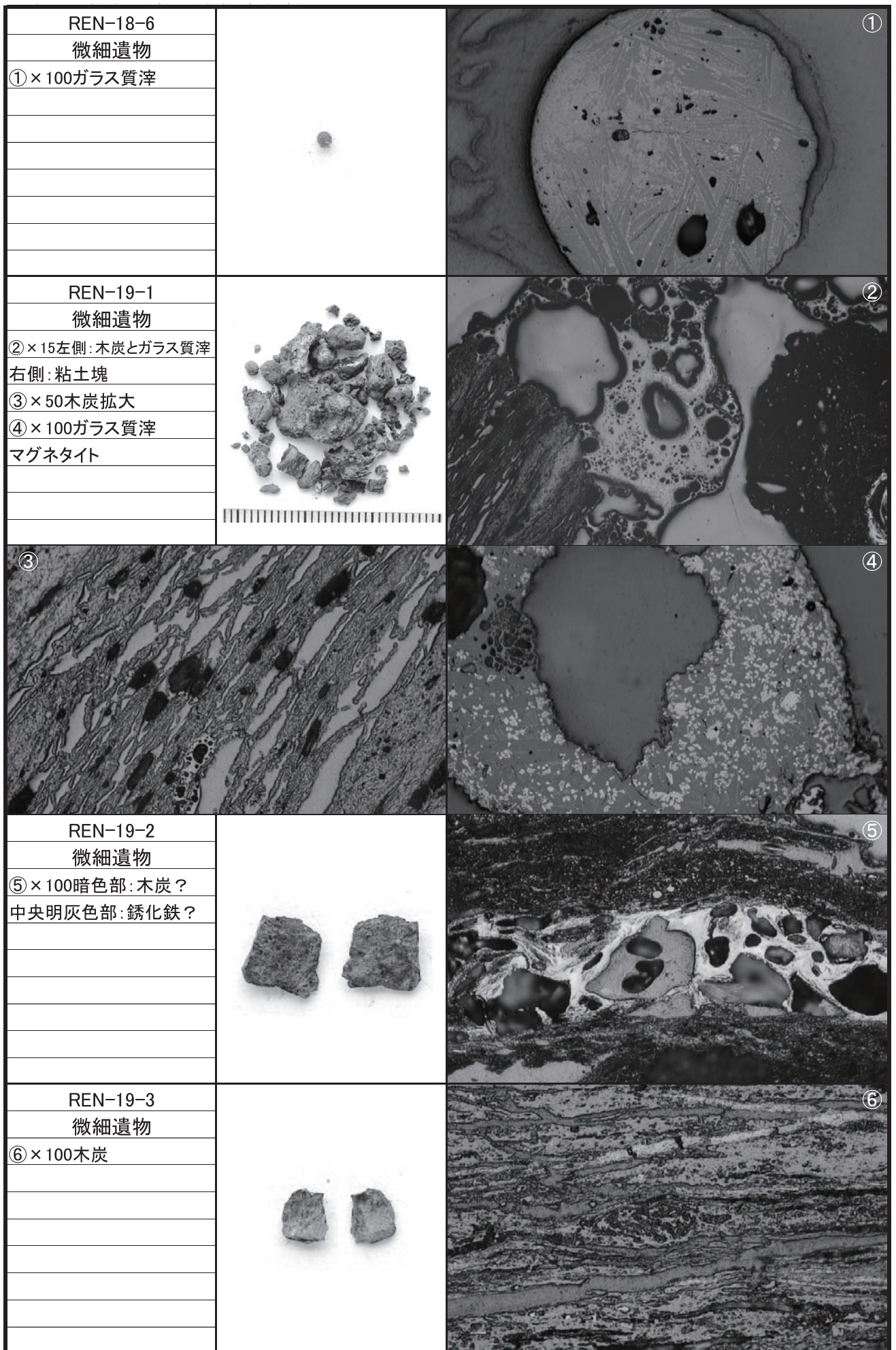


図 570 微細遺物の顕微鏡組織

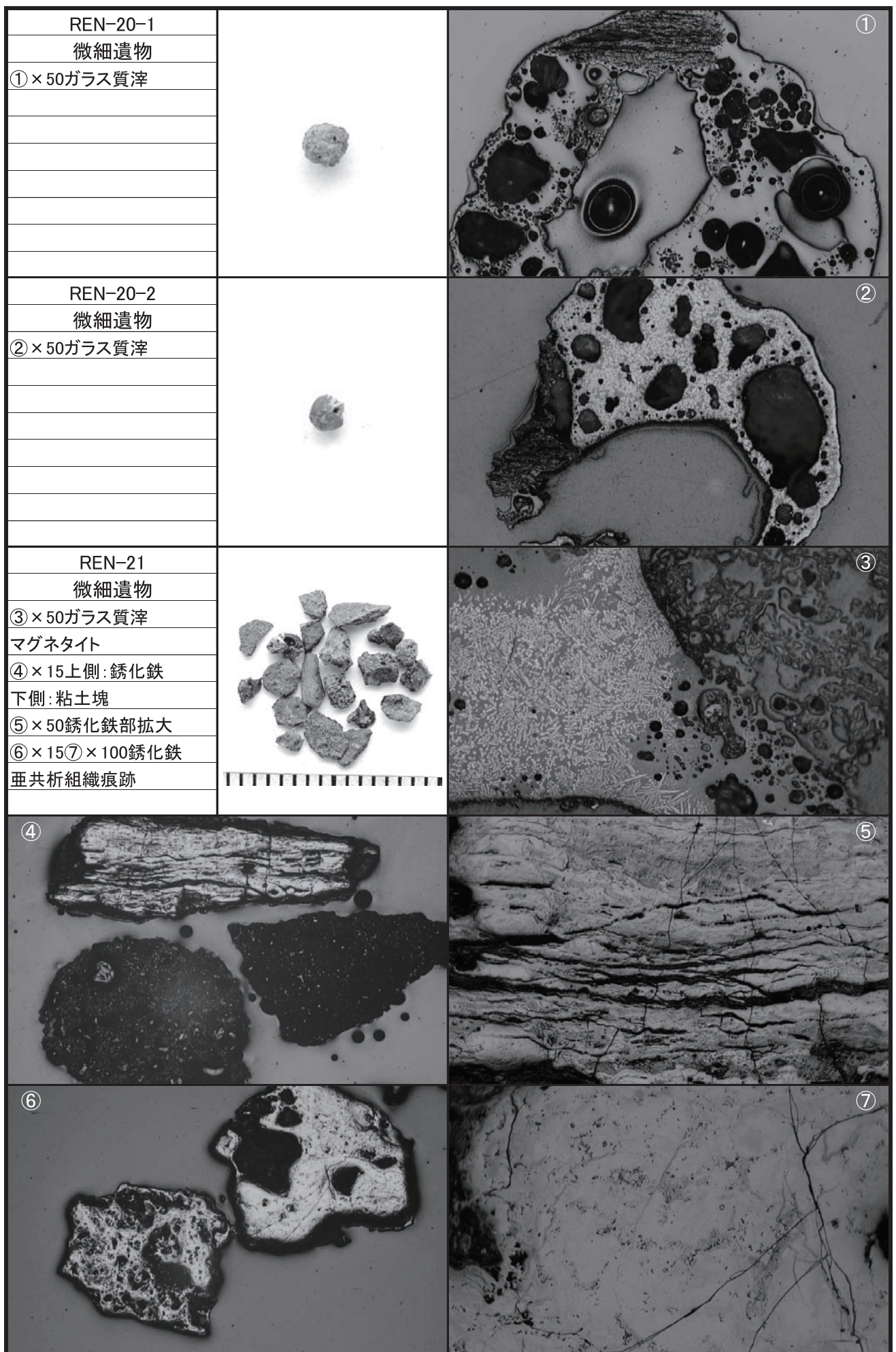


図 571 微細遺物の顕微鏡組織

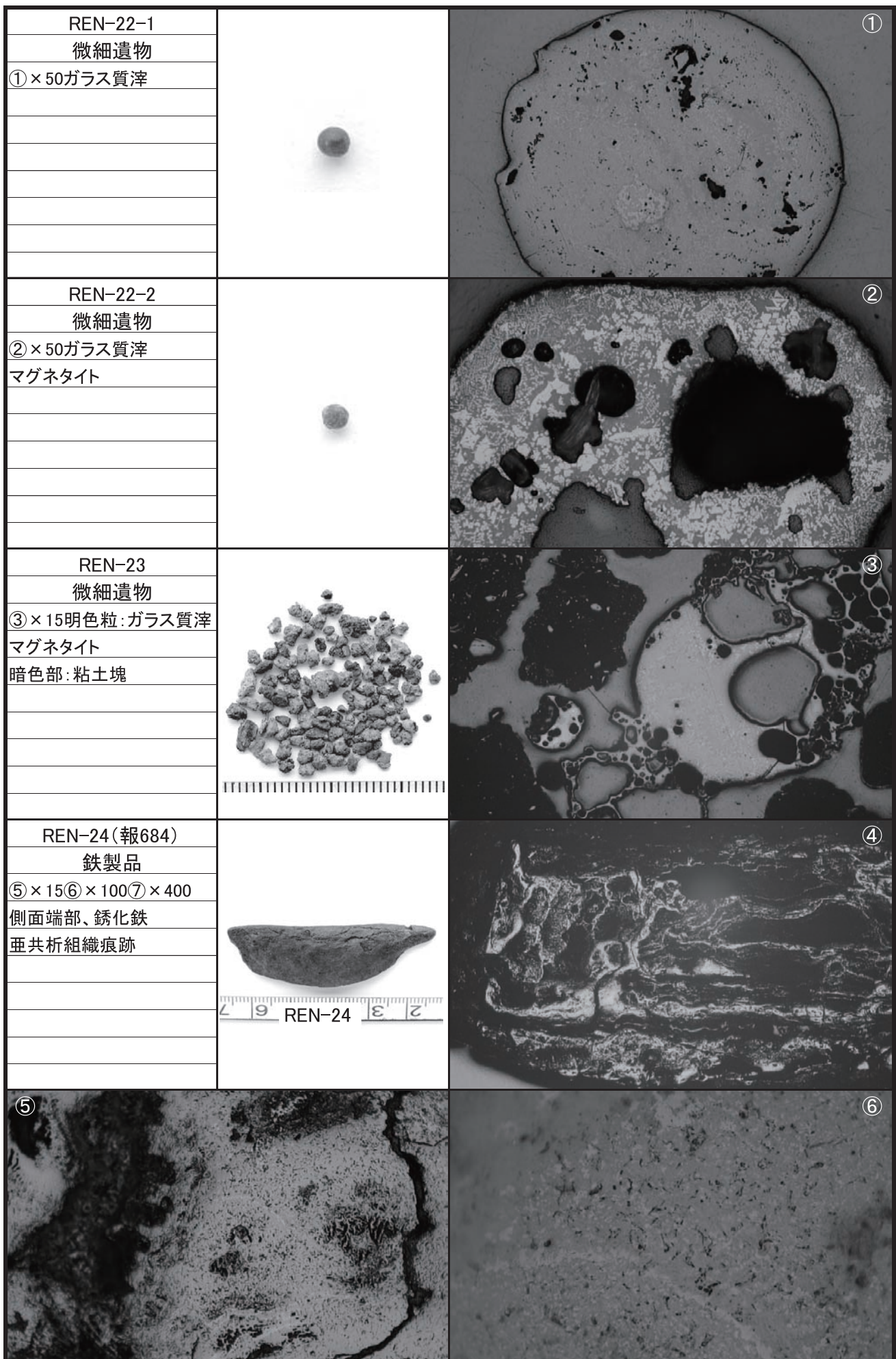


図 572 微細遺物・鉄製品の顕微鏡組織

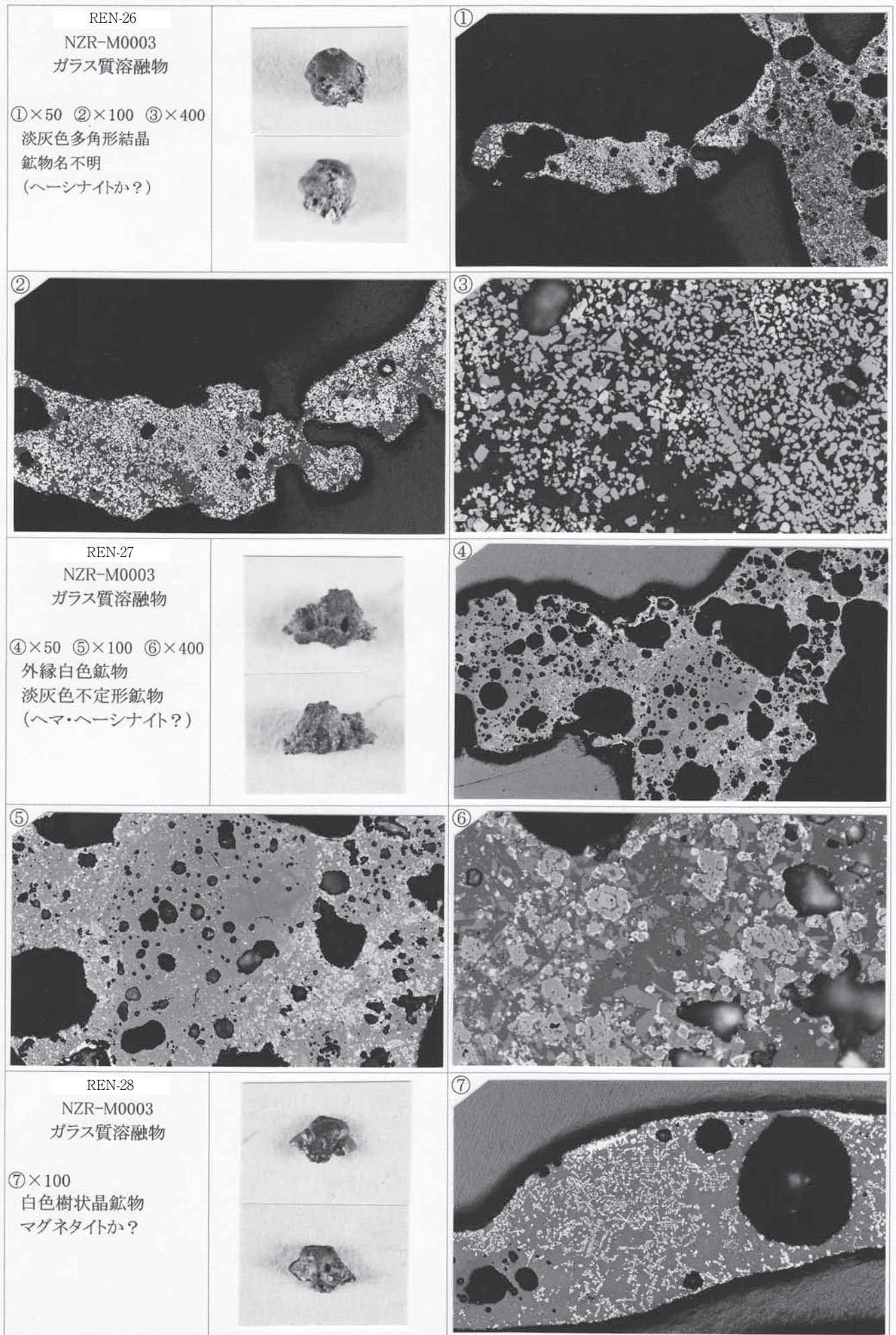


図 573 ガラス質溶解物の顕微鏡組織

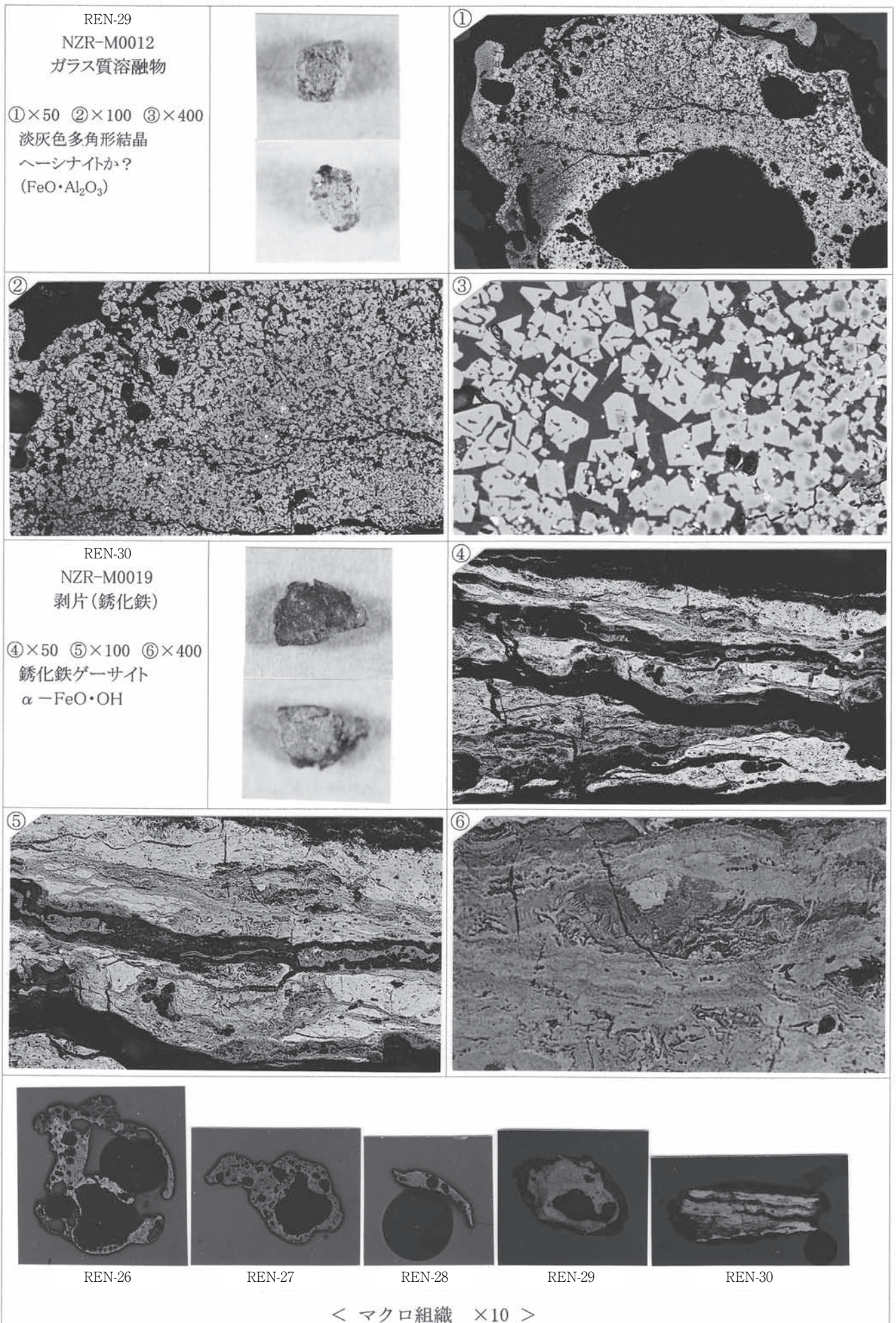
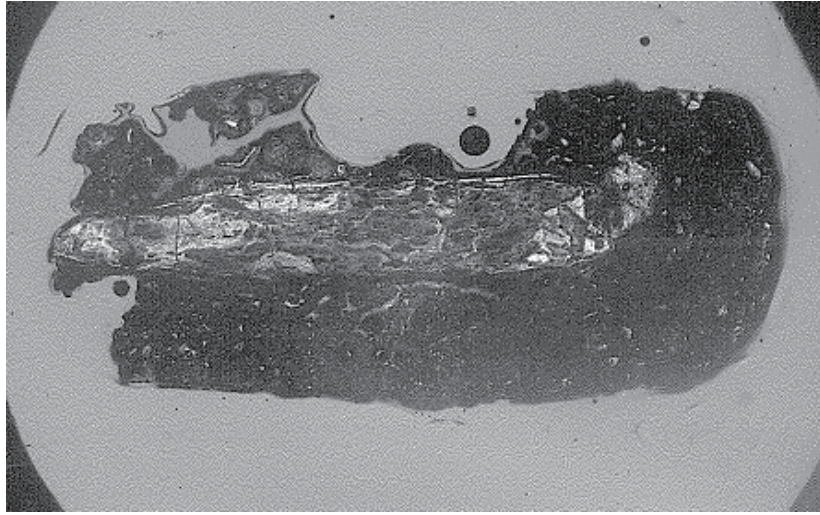
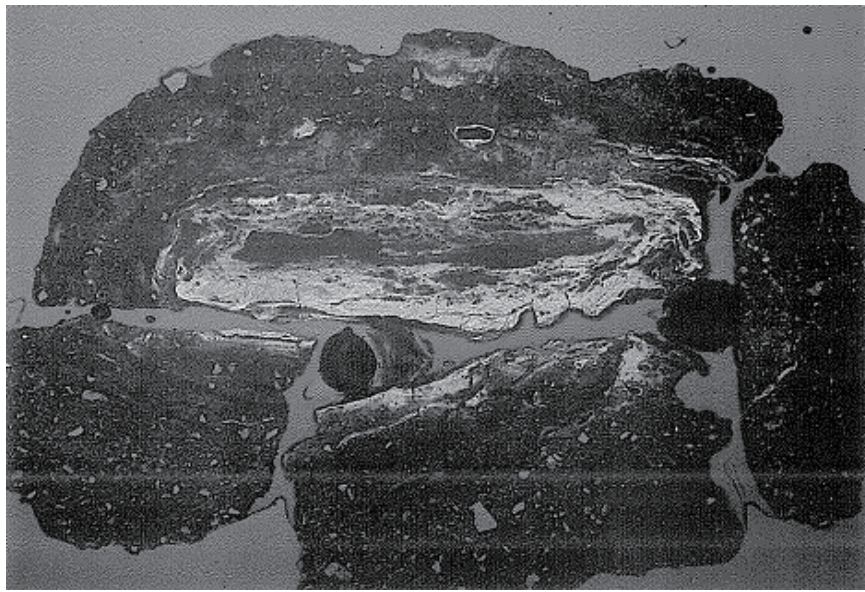


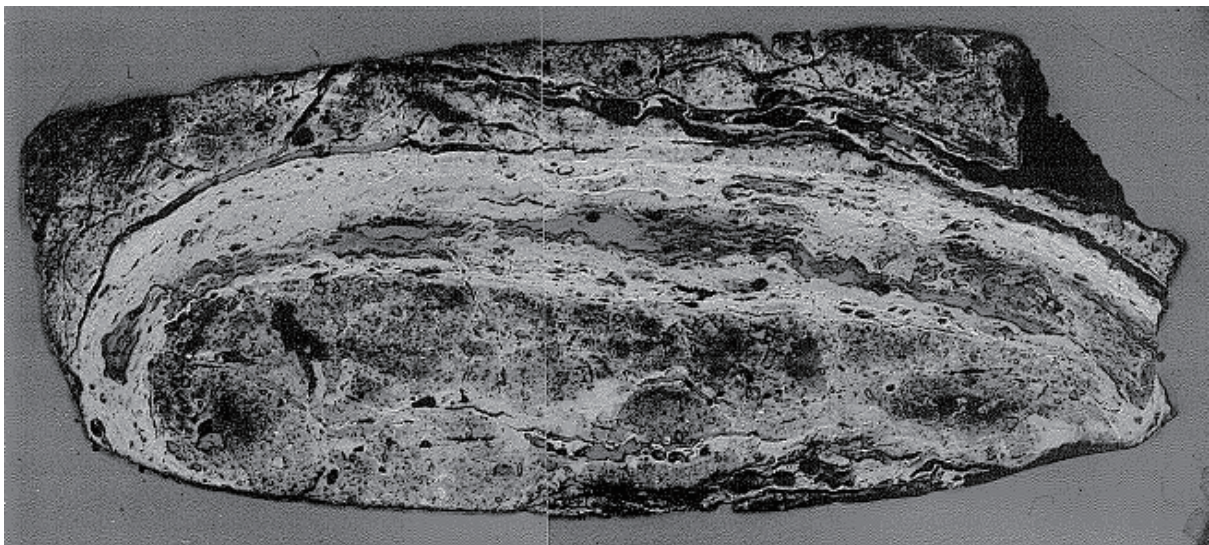
図 574 ガラス質溶解物・銹化鉄片の顕微鏡組織



REN-1(報251) × 5

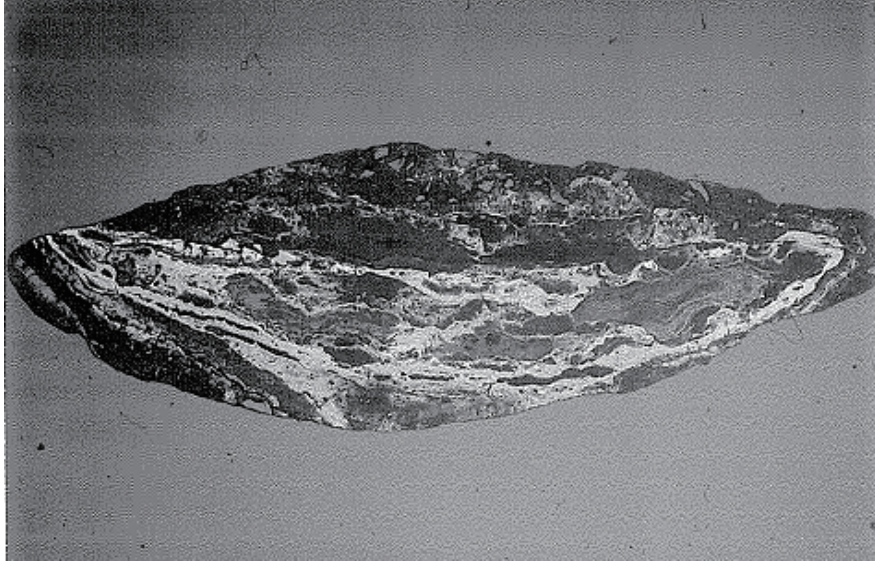


REN-2(報281) × 10



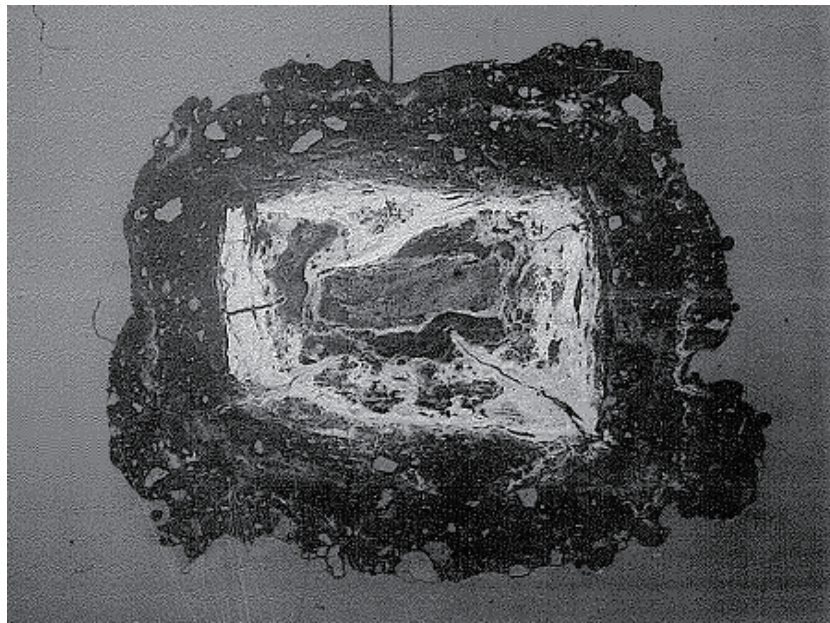
REN-3(報333) × 5

図 575 マクロ組織



REN-4

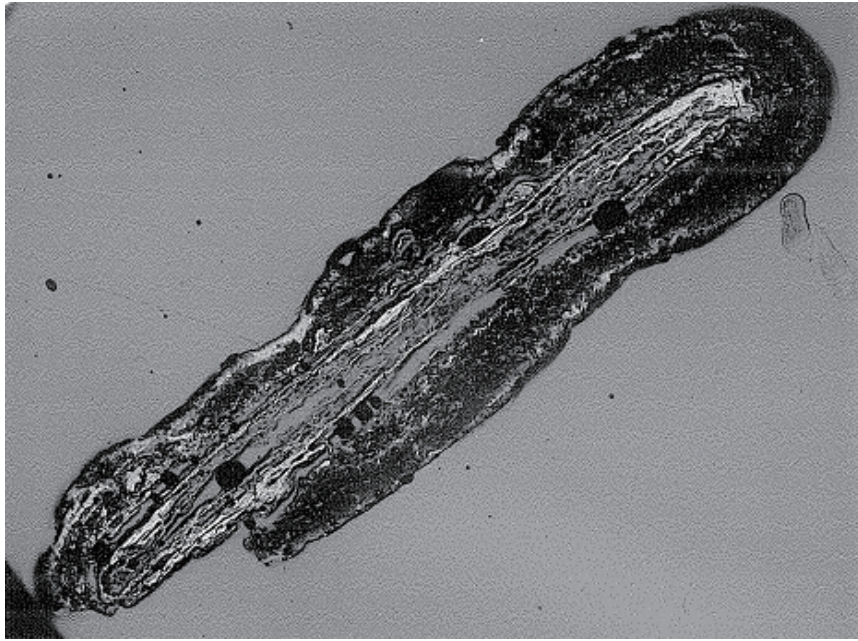
× 5



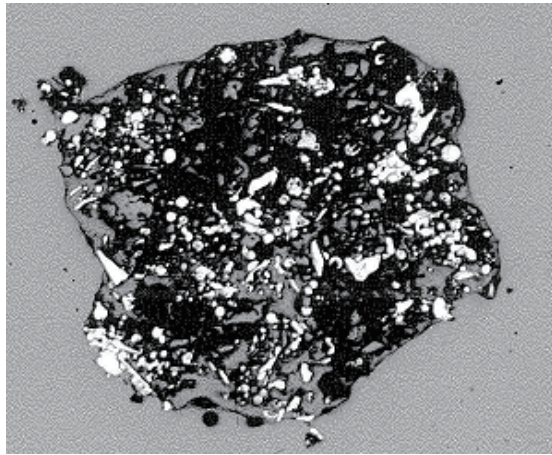
REN-5

× 10

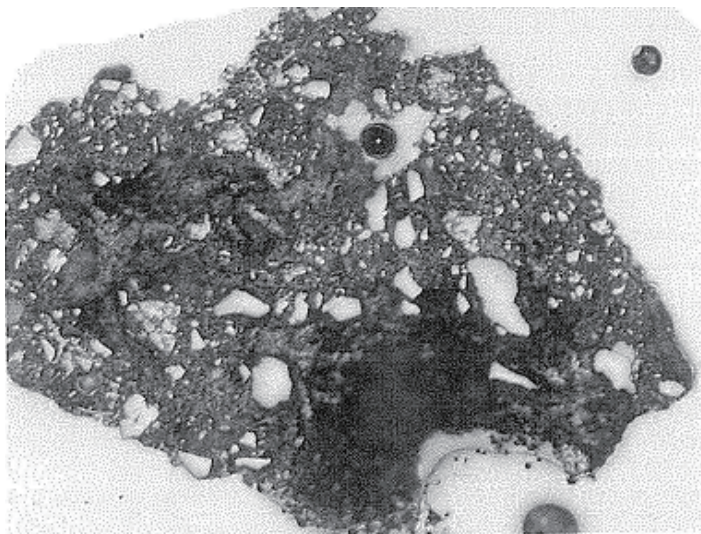
図 576 マクロ組織



REN-6(報608) × 5

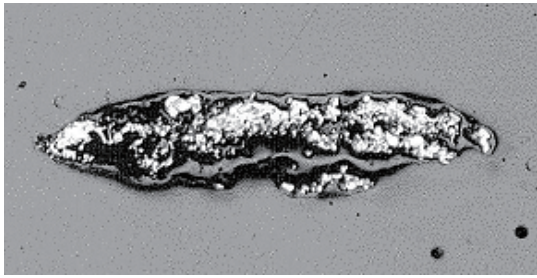


REN-7-1A × 50

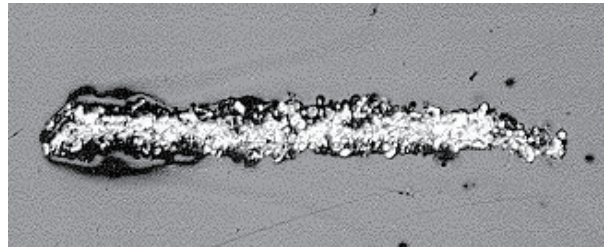


REN-7-1-B × 50

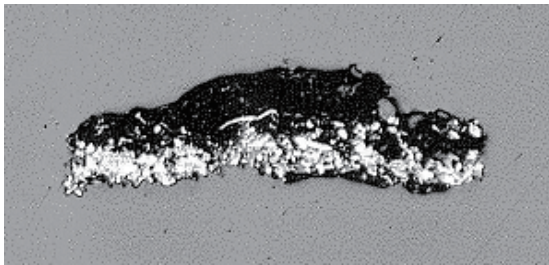
図 577 マクロ組織



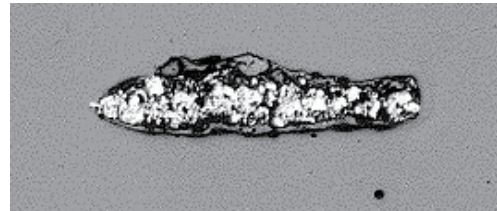
REN-7-2 × 25



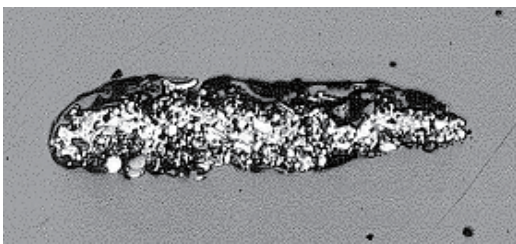
REN-7-3 × 25



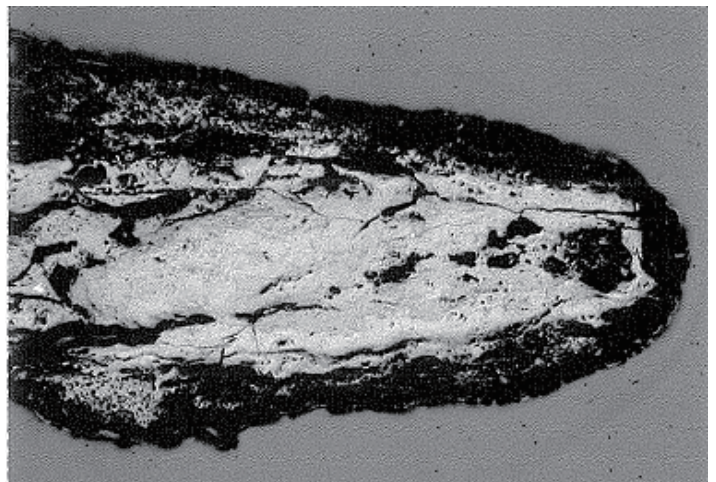
REN-7-4 × 25



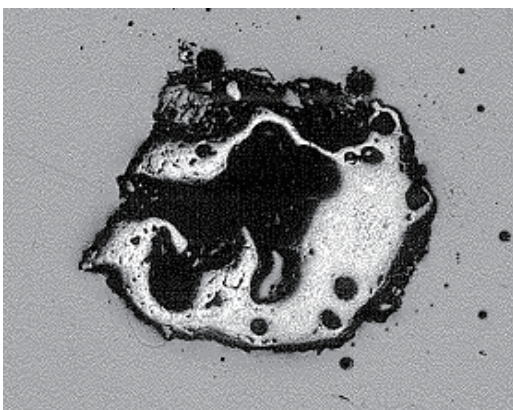
REN-7-5 × 25



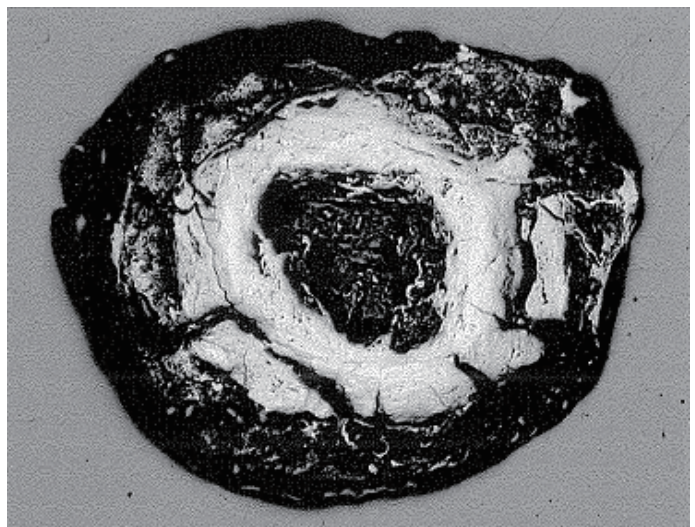
REN-7-6 × 25



REN-9L(報642) × 25

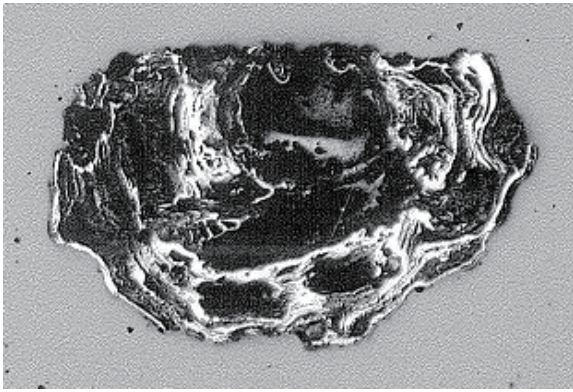


REN-8 × 25

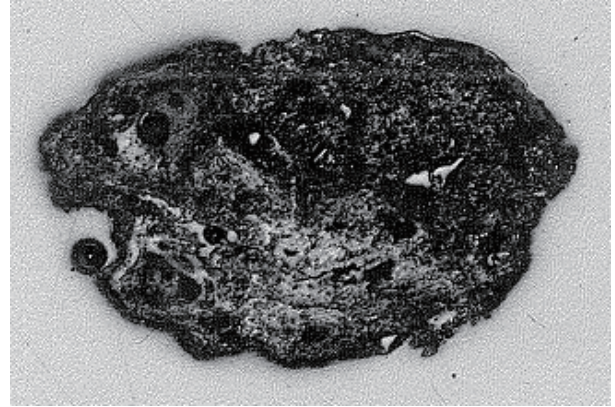


REN-9C(報642) × 25

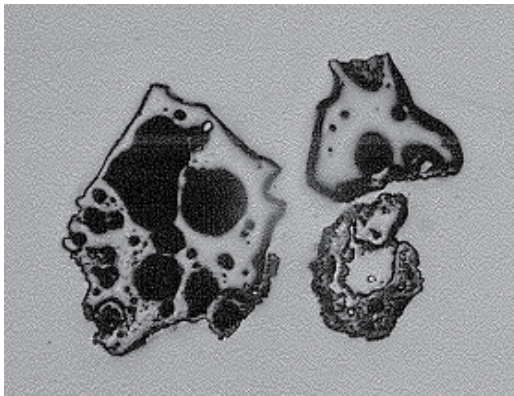
図 578 マクロ組織



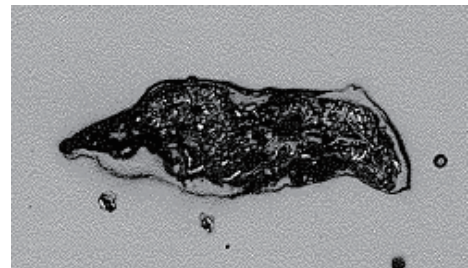
REN-10 × 25



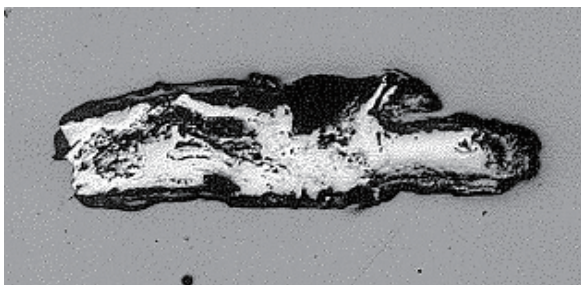
REN-11 × 50



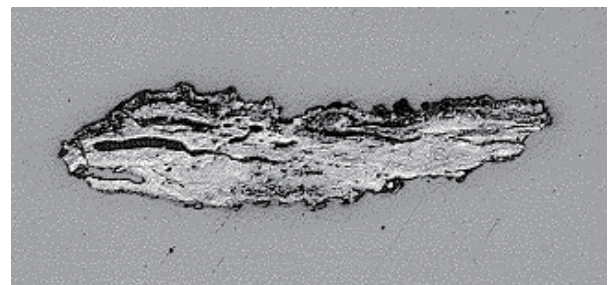
REN-12-1 × 15



REN-12-2 × 50

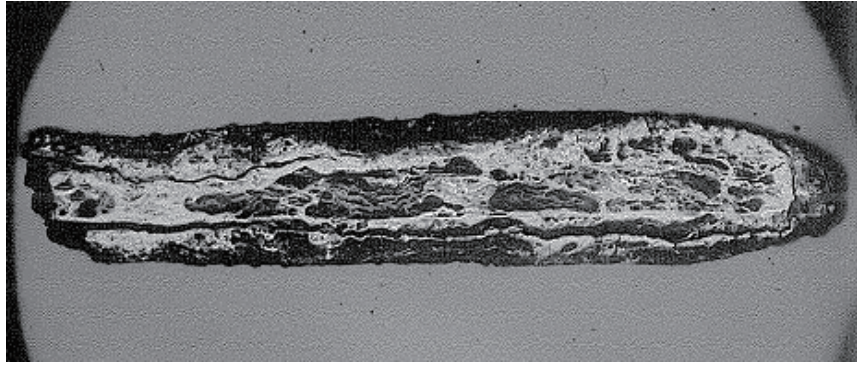


REN-12-3 × 50

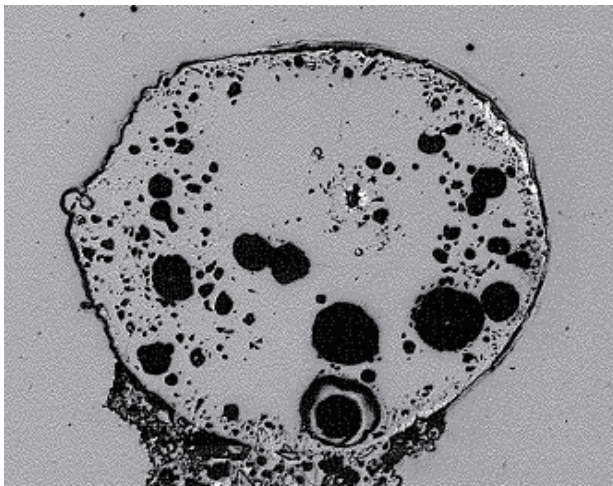


REN-12-4 × 50

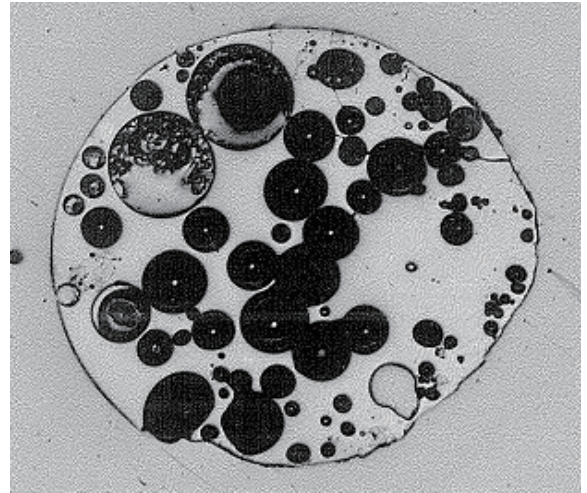
図 579 マクロ組織



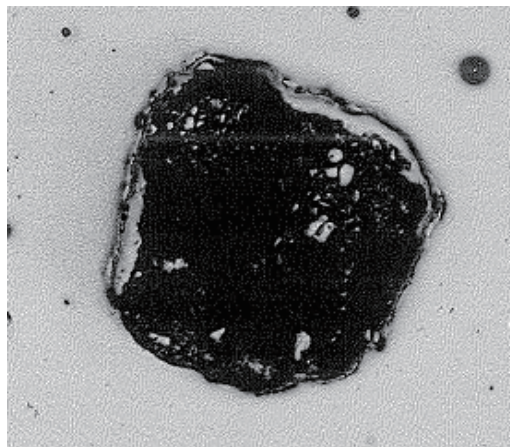
REN-13(報656) × 5



REN-14-1 × 50

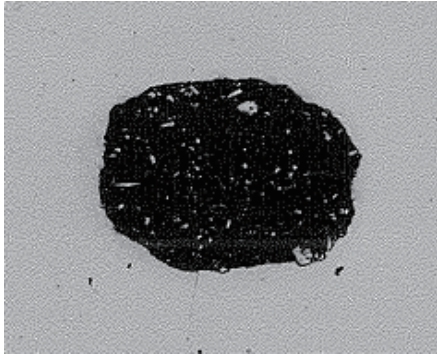


REN-14-2 × 50

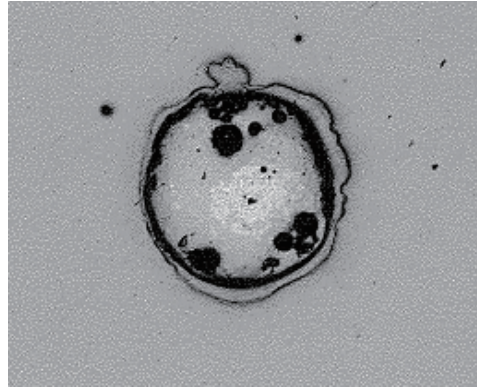


REN-14-3 × 50

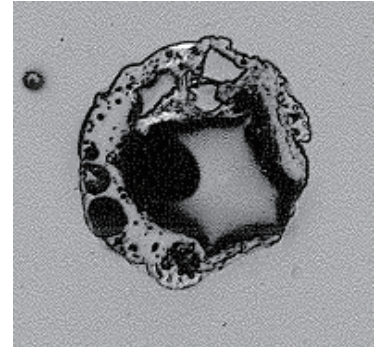
図 580 マクロ組織



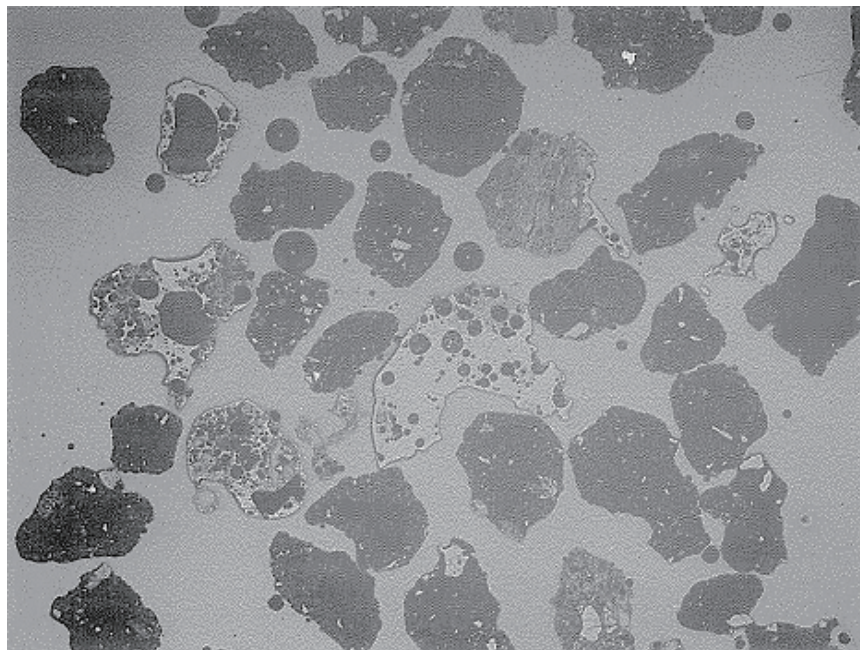
REN-14-4 × 50



REN-14-5 × 50

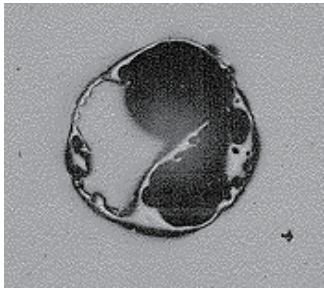


REN-14-6 × 50

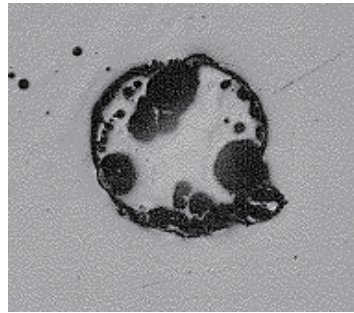


REN-15 × 10

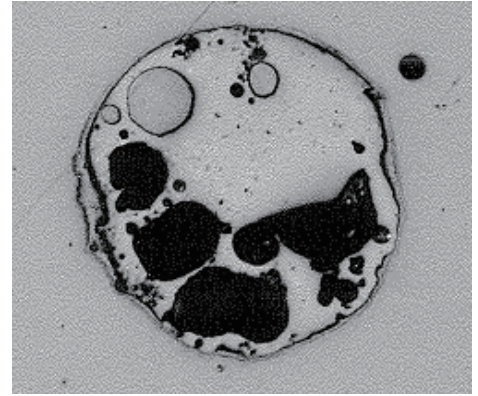
図 581 マクロ組織



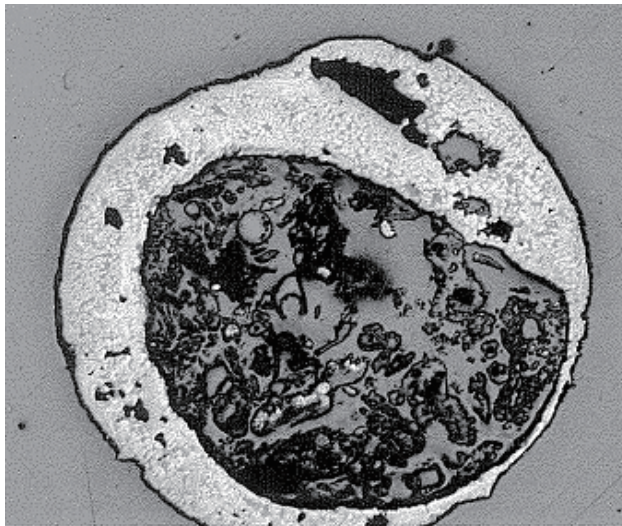
REN-16-1 × 15



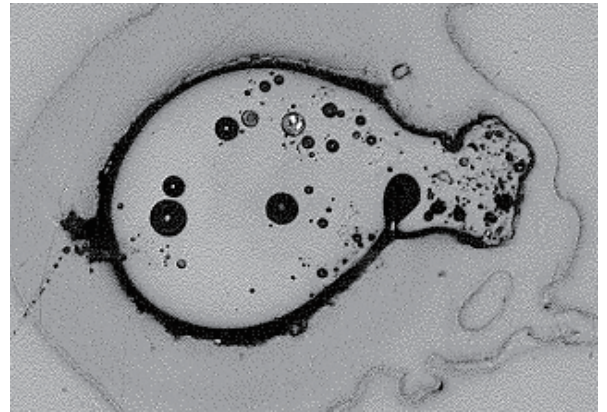
REN-16-2 × 15



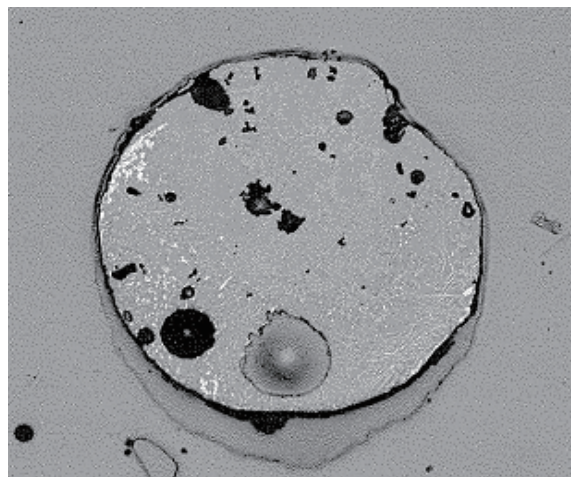
REN-16-4 × 50



REN-16-3 × 50

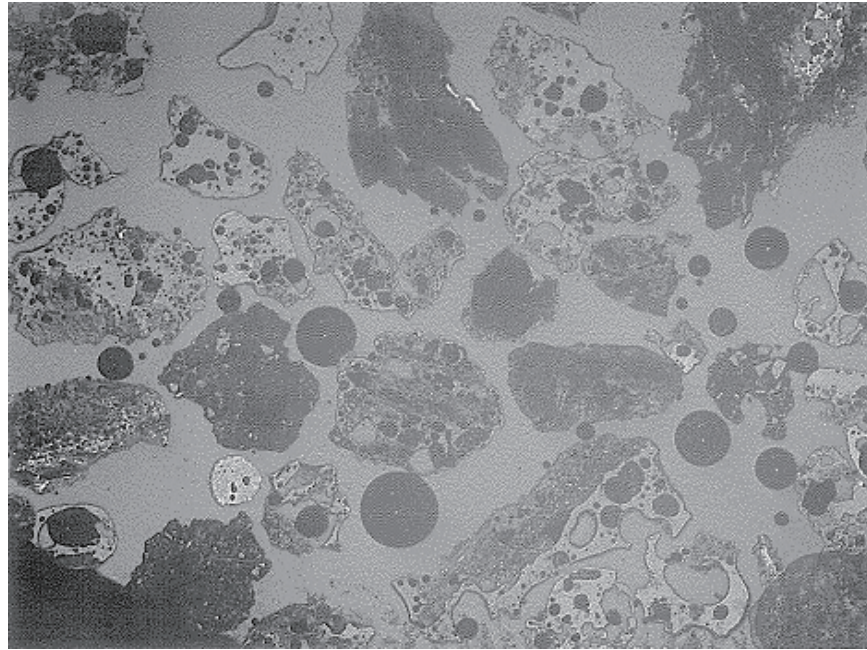


REN-16-5 × 100



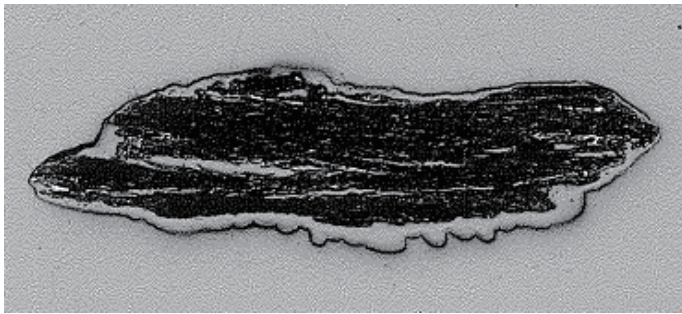
REN-16-6 × 100

図 582 マクロ組織



REN-17-1

× 10



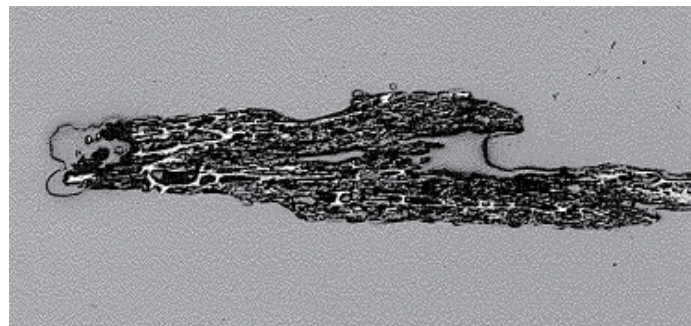
REN-17-2

× 50



REN-17-4

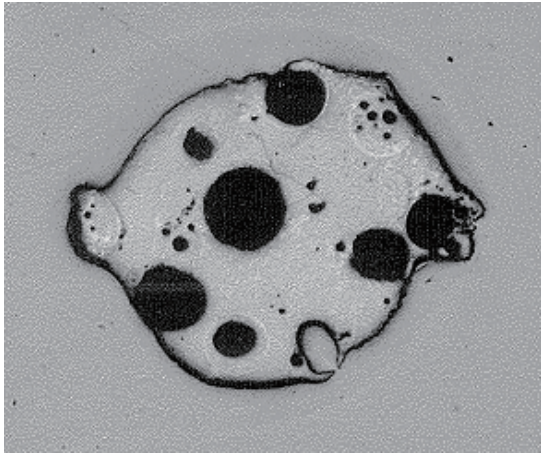
× 25



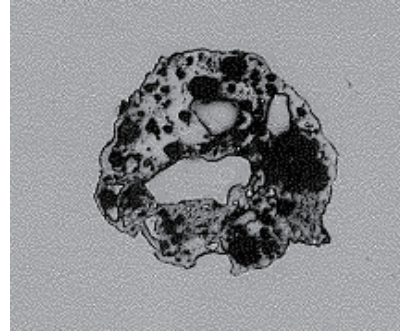
REN-17-3

× 50

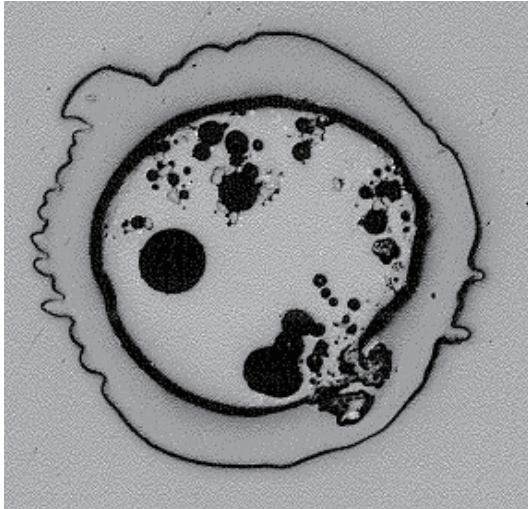
図 583 マクロ組織



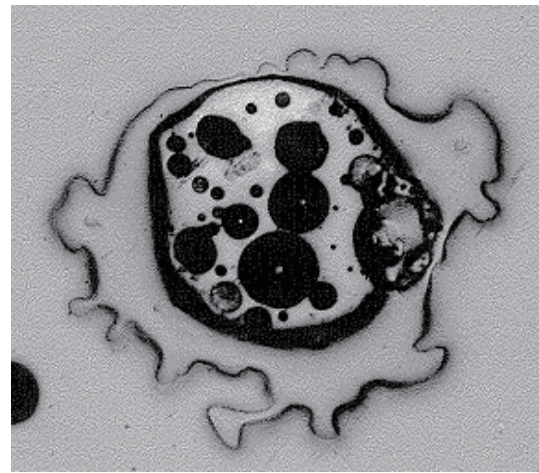
REN-18-1 × 25



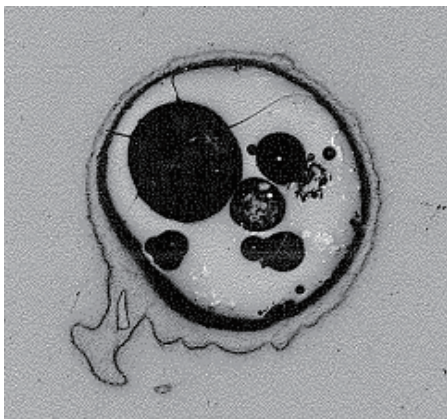
REN-18-2 × 25



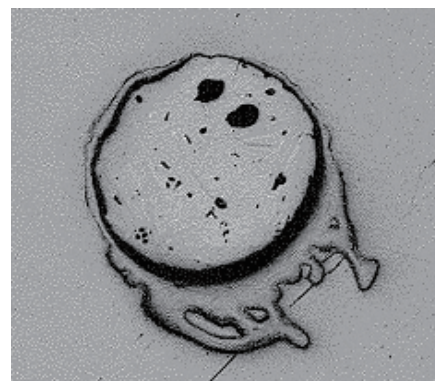
REN-18-3 × 50



REN-18-4 × 50

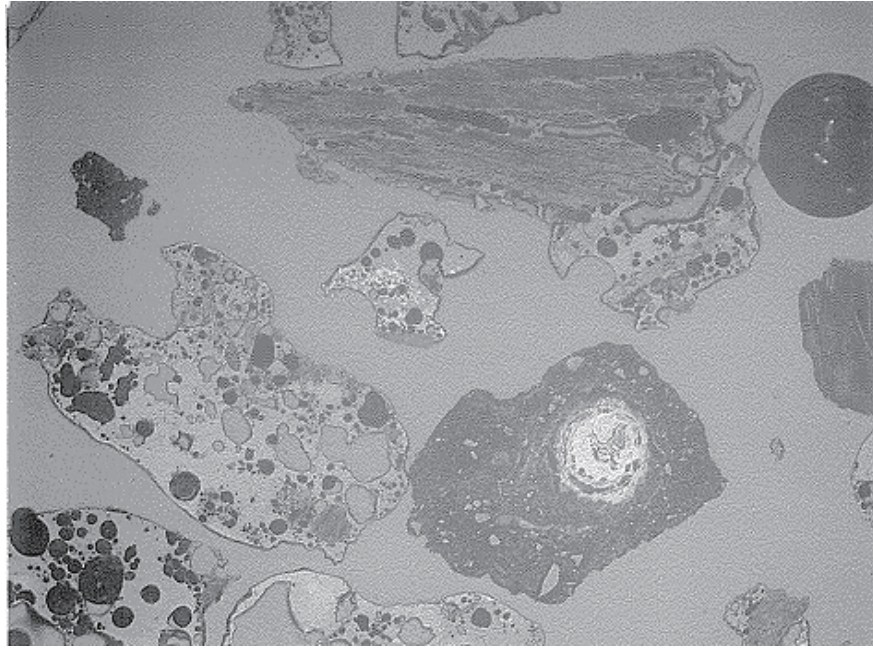


REN-18-5 × 50



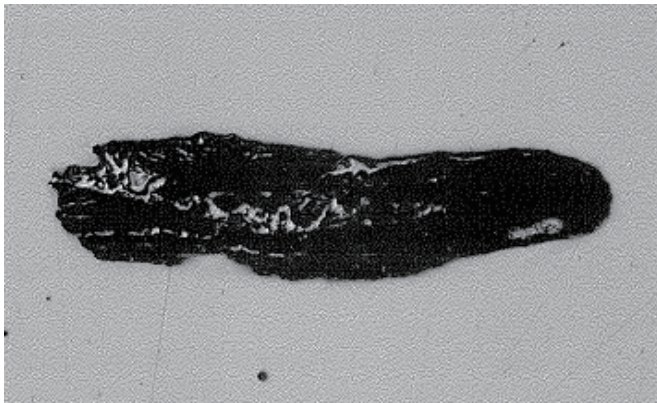
REN-18-6 × 50

図 584 マクロ組織



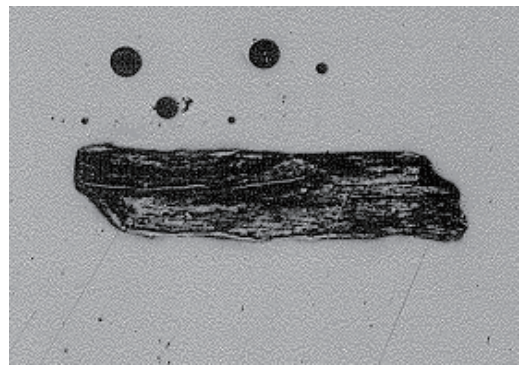
REN-19-1

× 10



REN-19-2

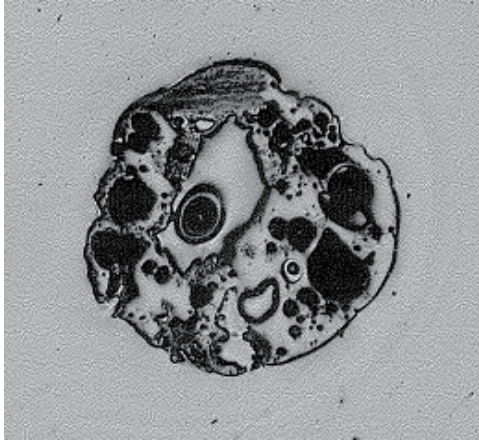
× 25



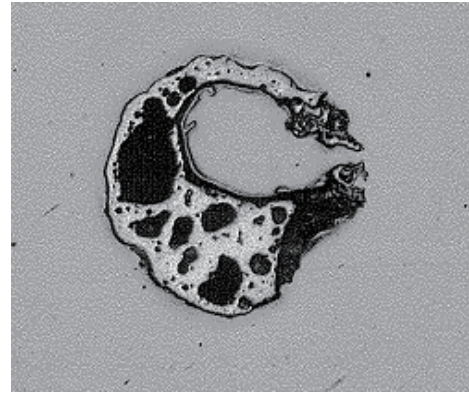
REN-19-3

× 25

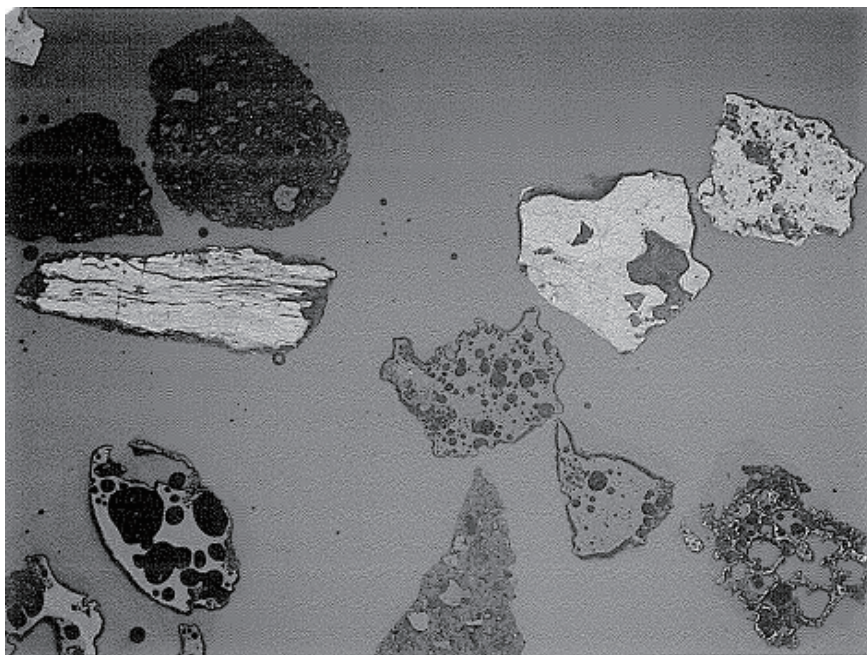
図 585 マクロ組織



REN-20-1 × 25

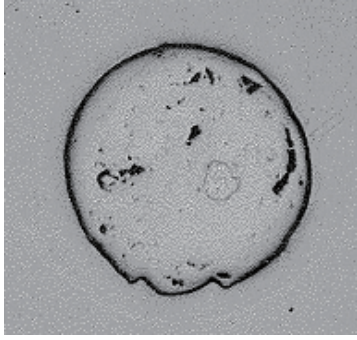


REN-20-2 × 25

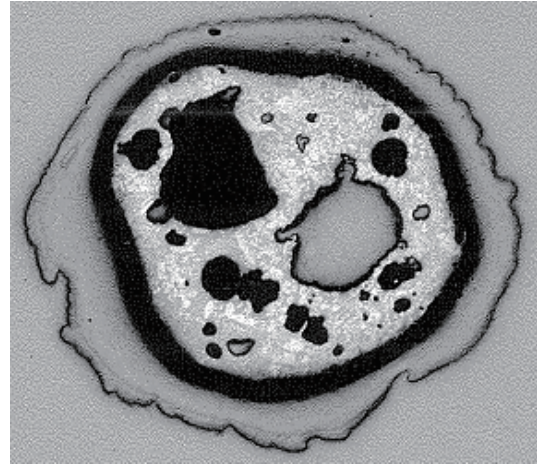


REN-21 × 10

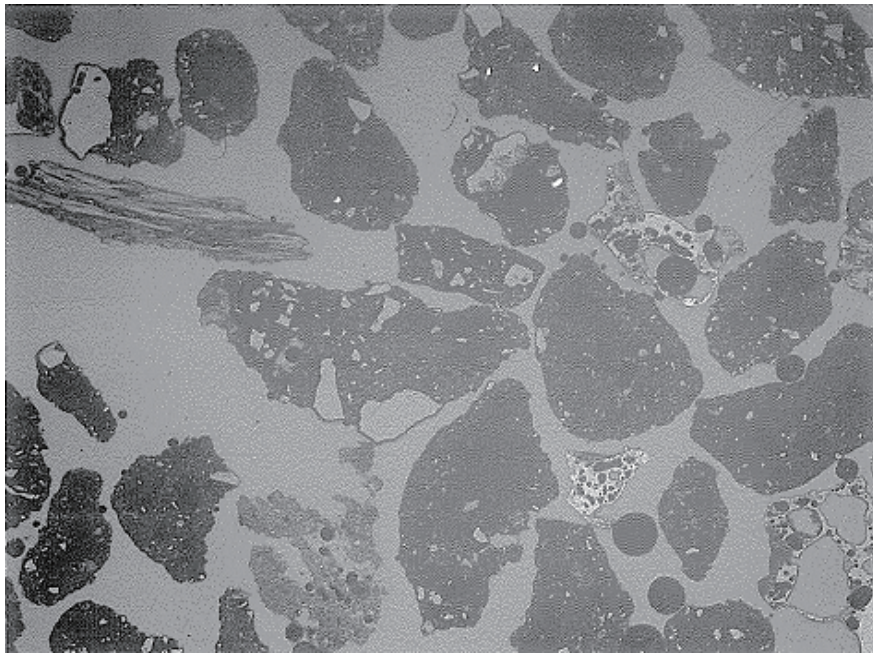
図 586 マクロ組織



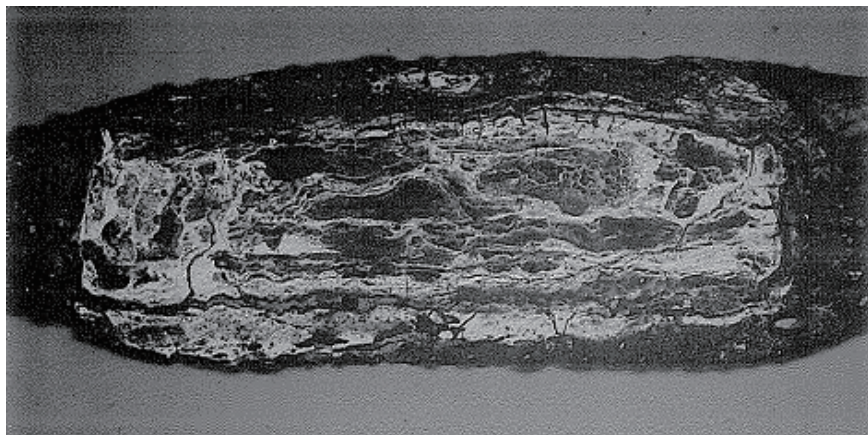
REN-22-1 × 25



REN-22-2 × 50



REN-23 × 10



REN-24(報684) × 10

図 587 マクロ組織

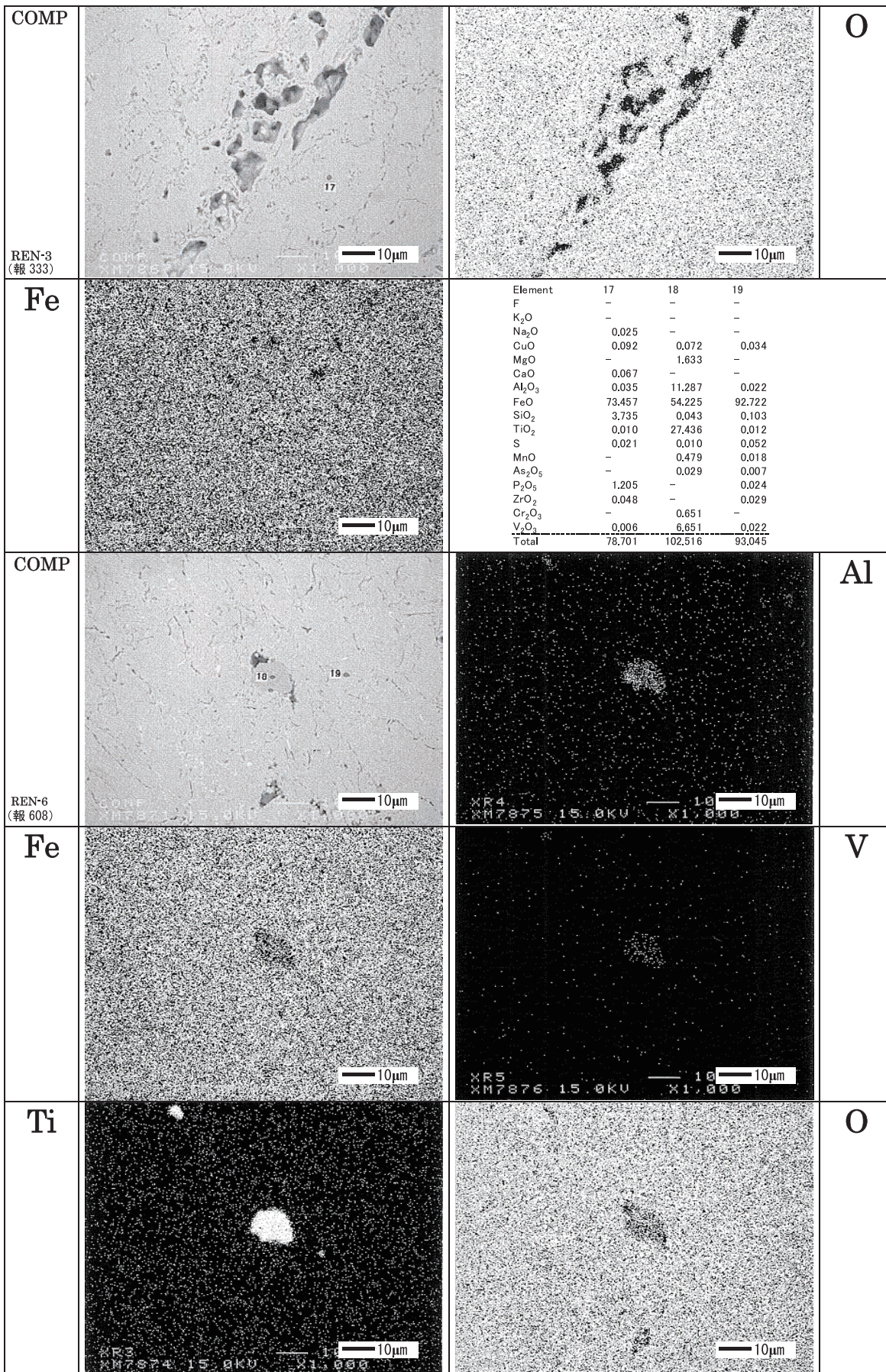


図 588 EPMA 調査

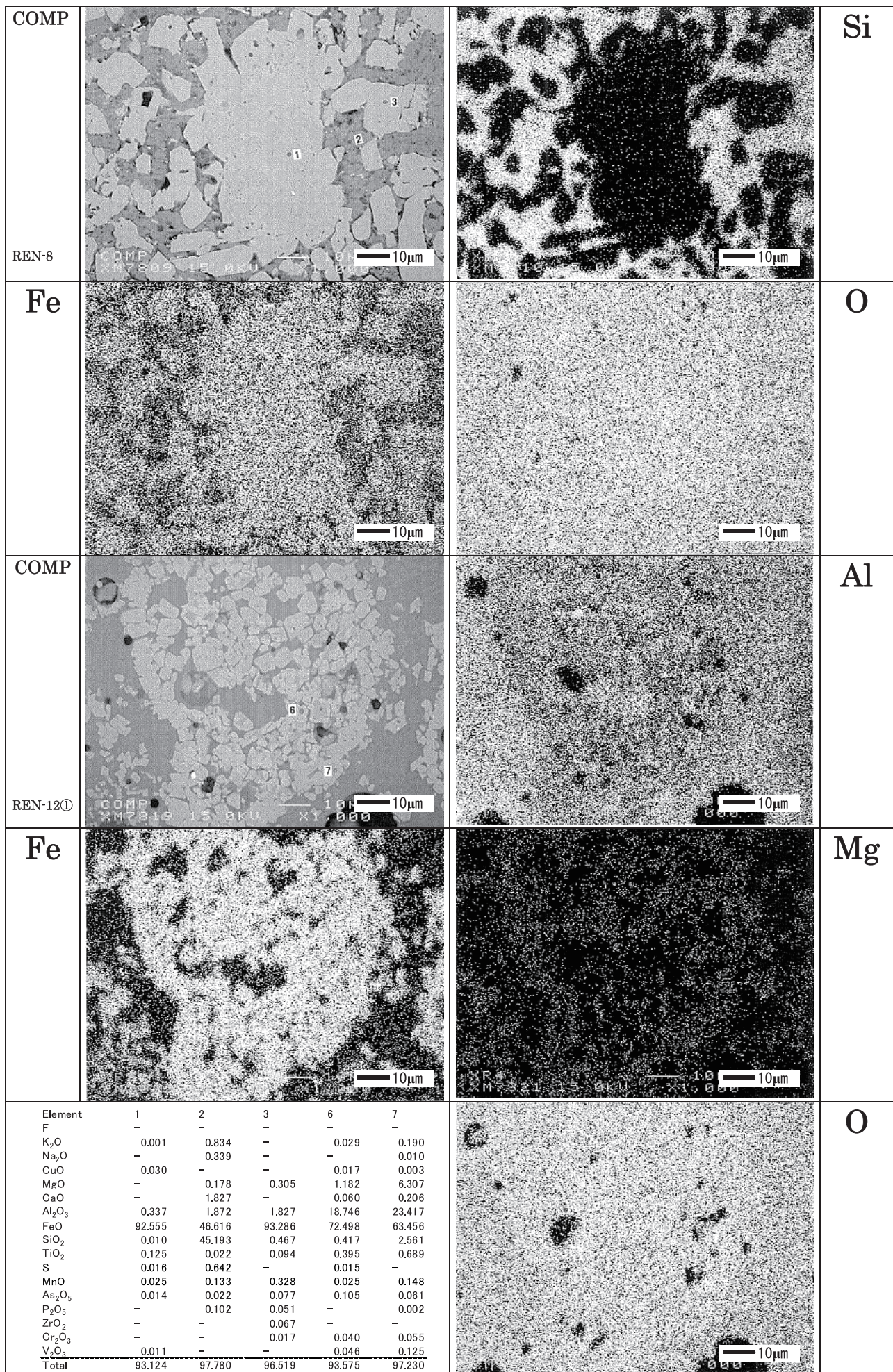


図 589 EPMA 調査

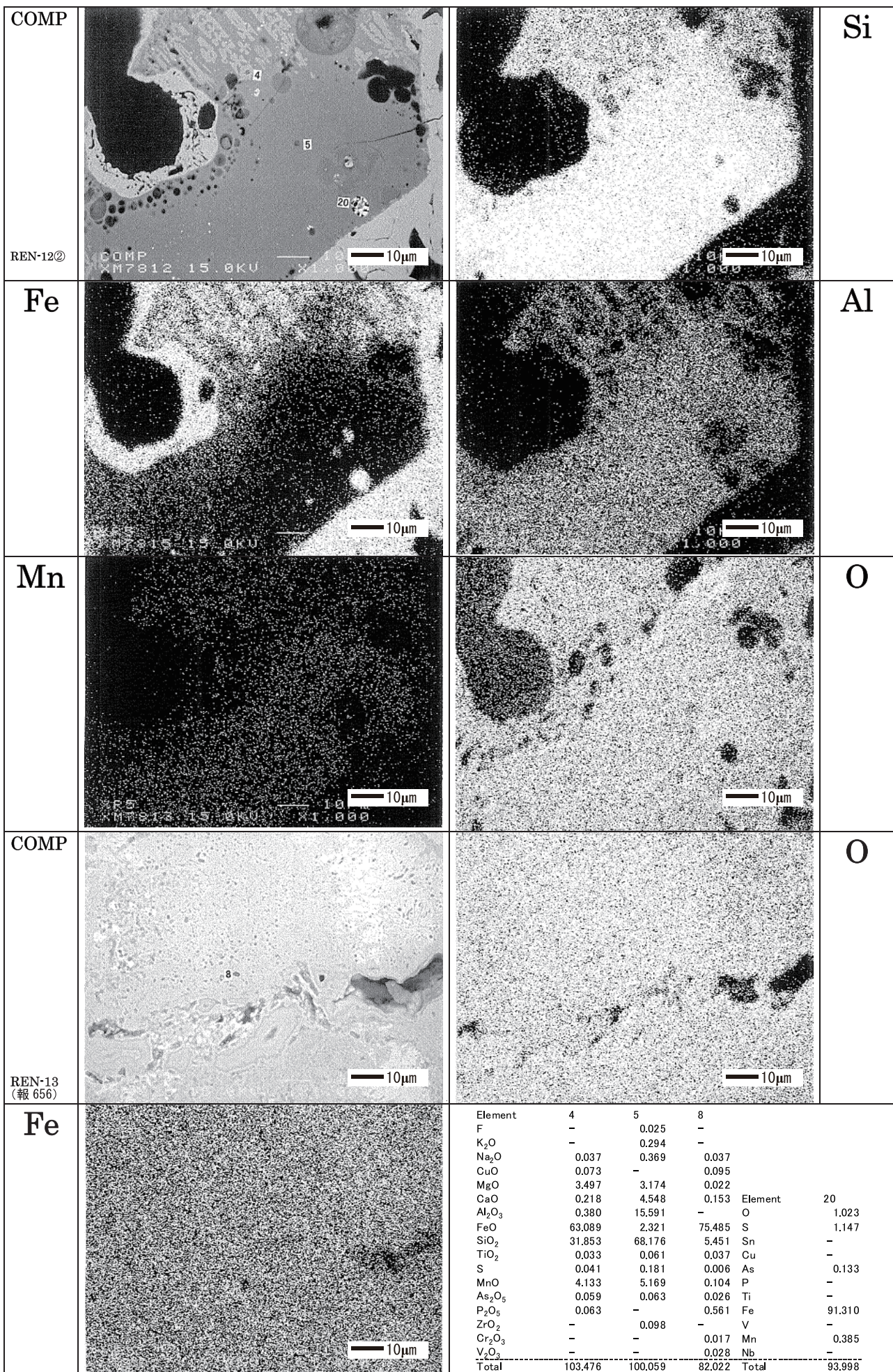


図 590 EPMA 調査

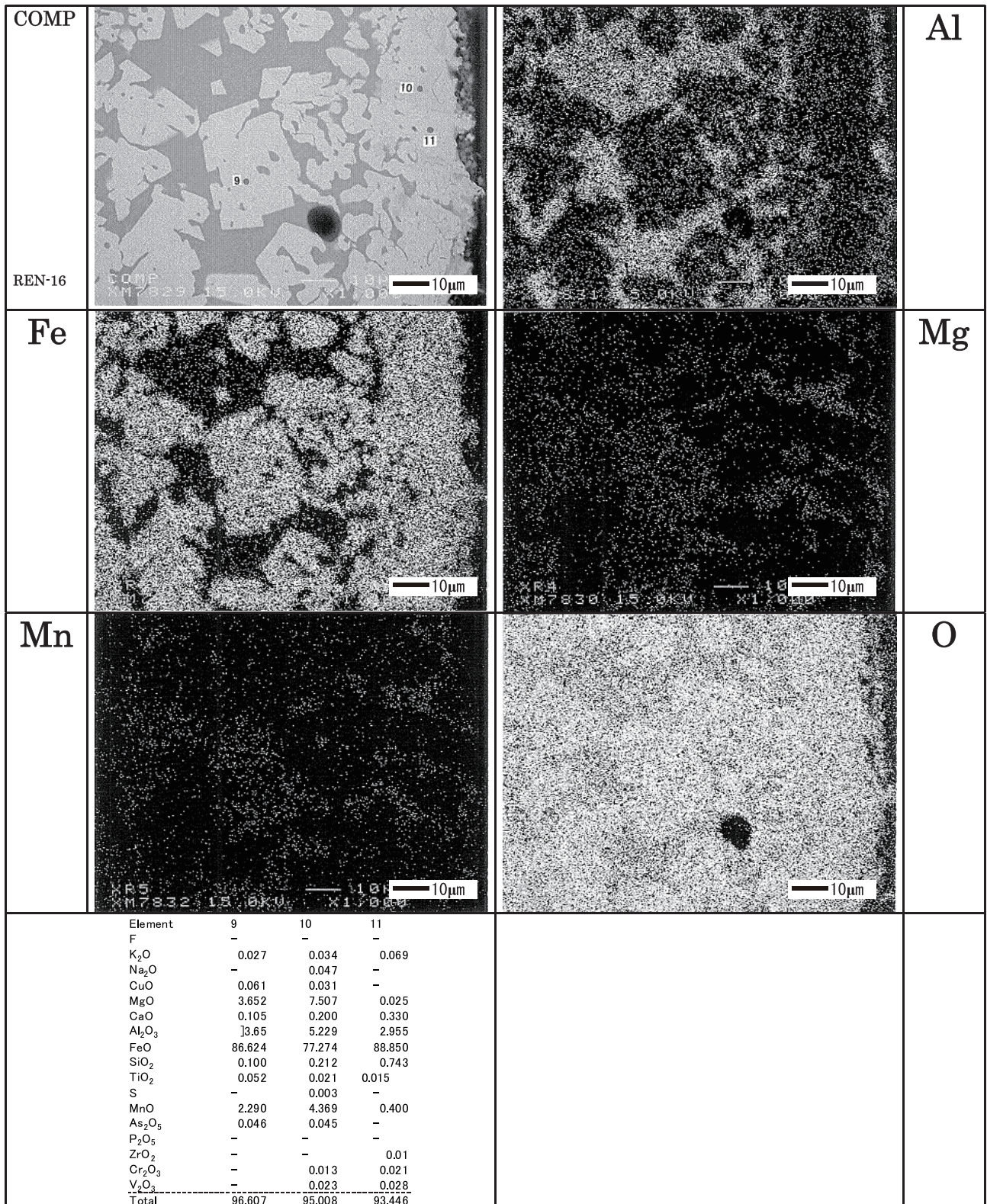


図 591 EPMA 調査

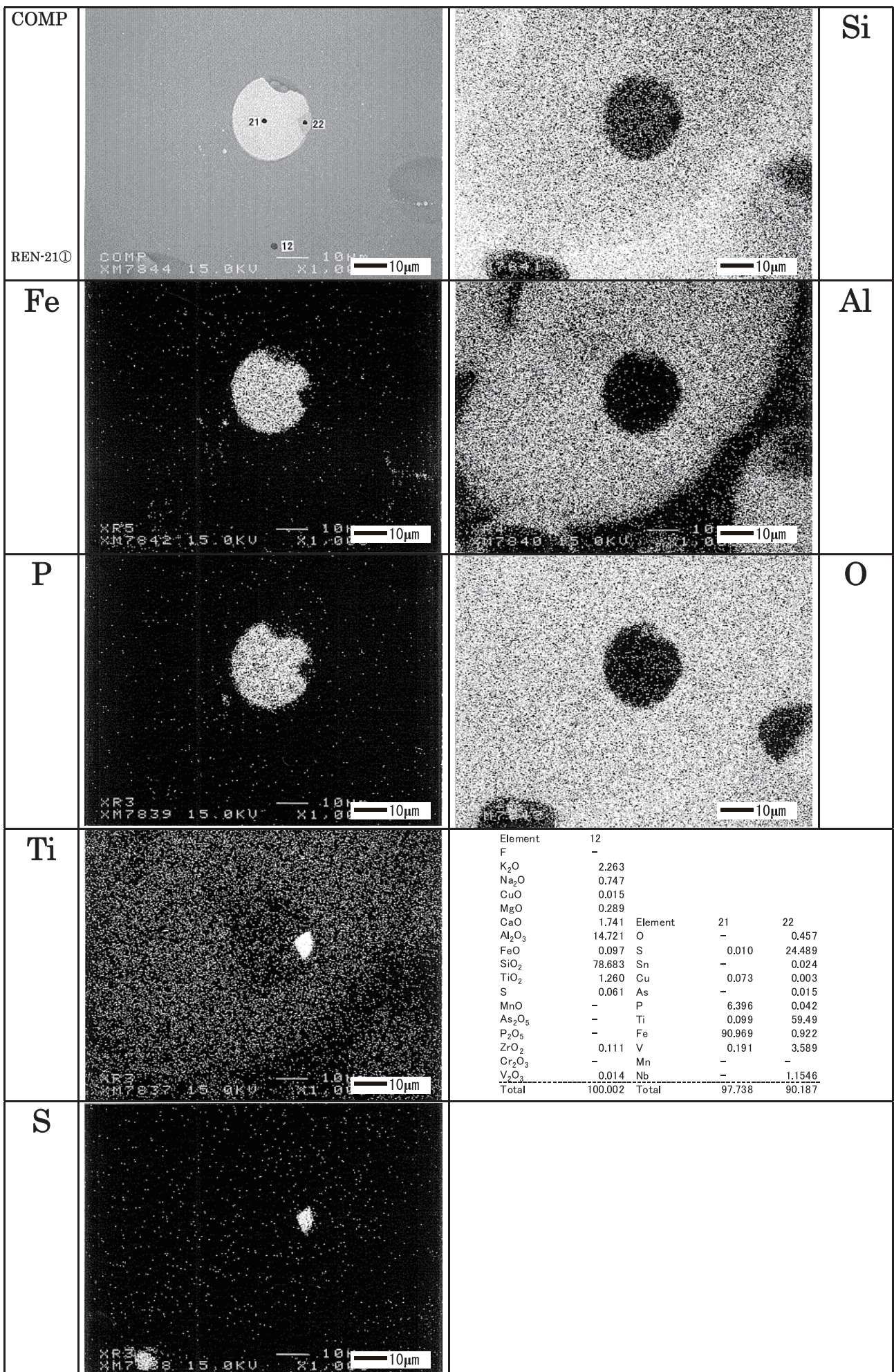


図 592 EPMA 調査

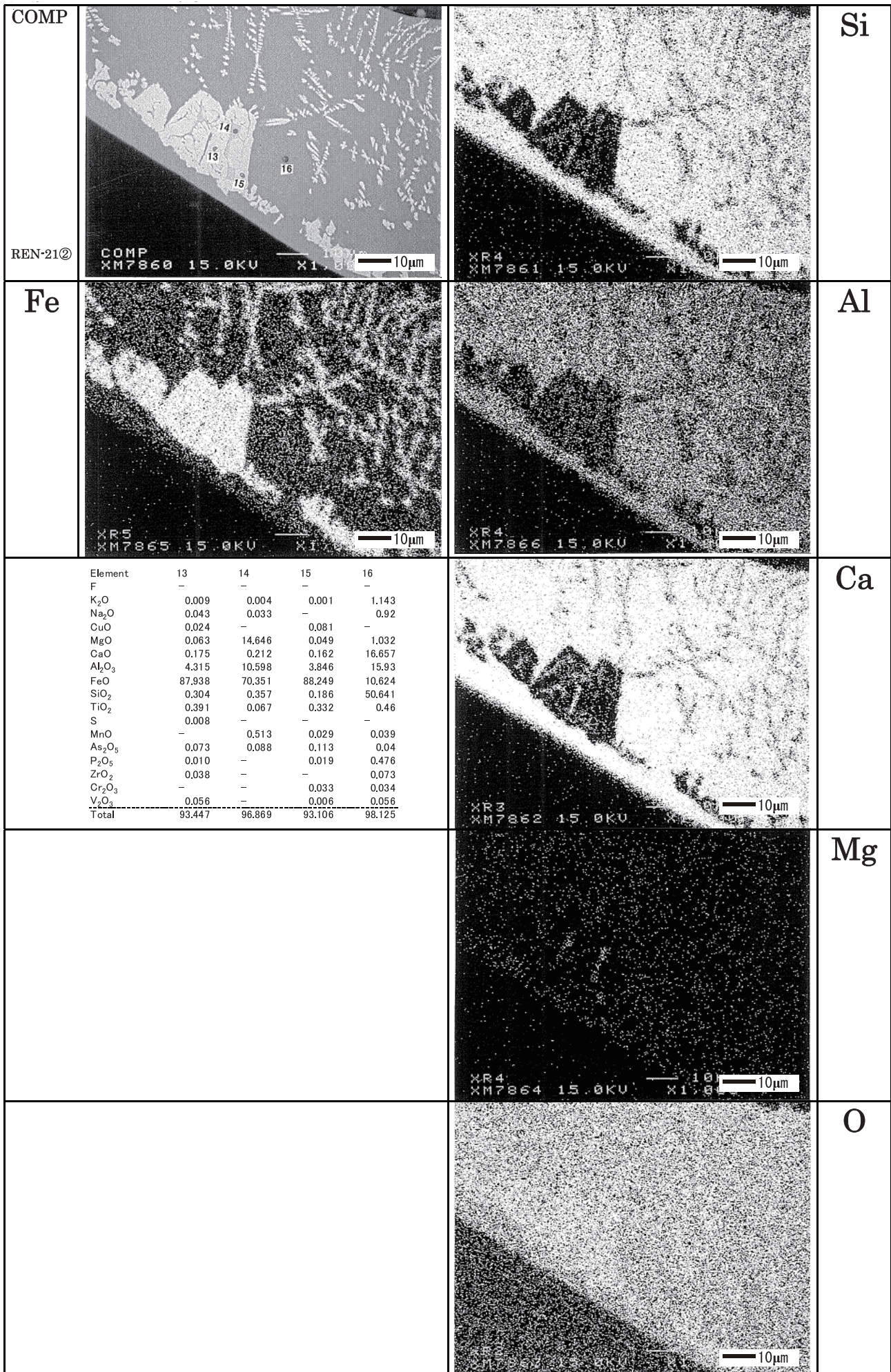


図 593 EPMA 調査

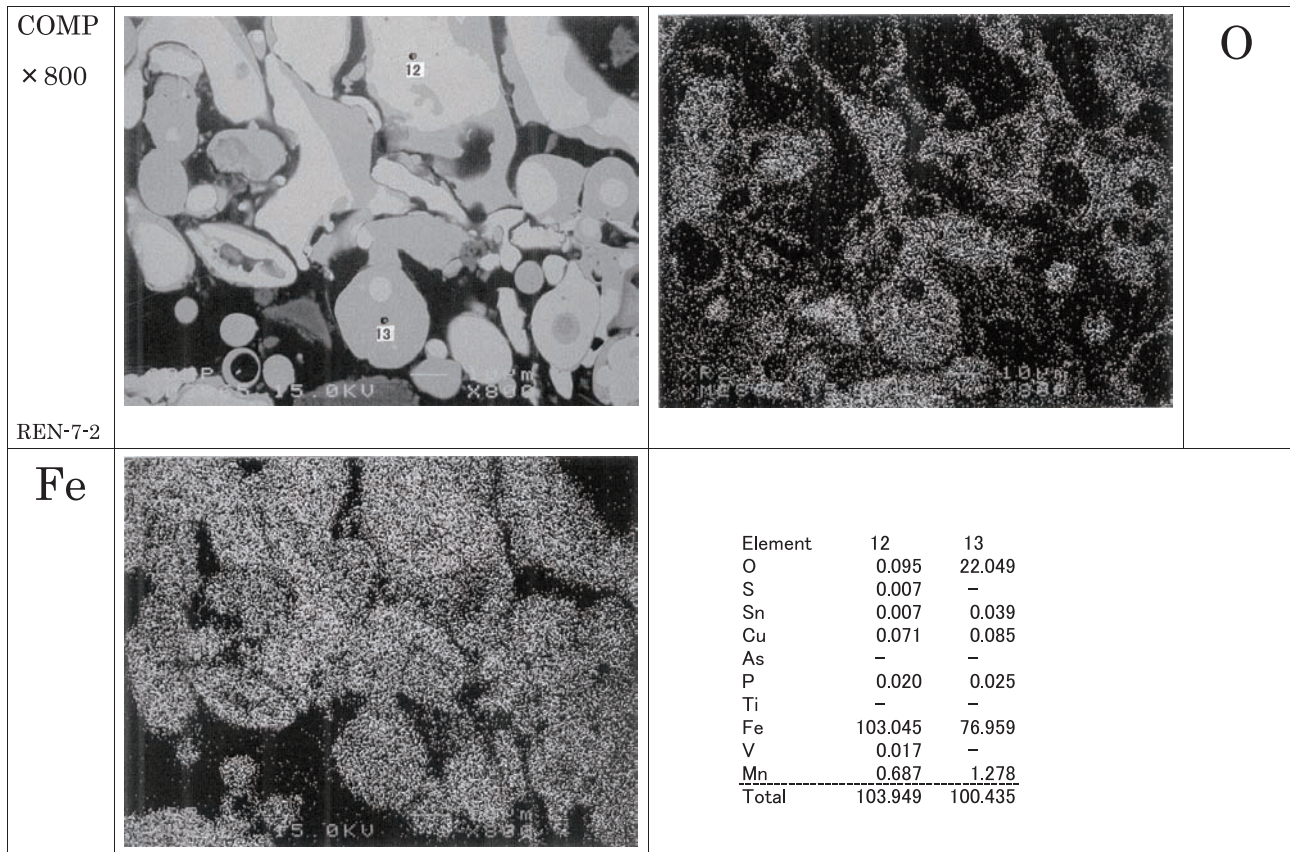


図 594 鉄製品の顕微鏡組織

鉄製品及び鍛冶関連資料の構造分析に対するコメント

信里芳紀

今回の分析では、鉄製品の素材の履歴の解明と現地調査の段階で注意された鍛冶作業に派生すると考えられた微細遺物を分析対象とすることにより、遺跡内における鍛冶作業の技術レベルを明らかにすることを目的とした。

鉄製品の状態は、必ずしも良好ではなかったが、SH48 出土の鉄片からウルボスピネルが検出されている。大澤氏の所見によれば、砂鉄もしくは含チタン磁鉄鉱（塊鉄鉱）由来素材で、朝鮮半島基部側の産地が想定された。これまで、県内の弥生時代の鉄製品の素材の履歴については、砥石による研磨加工に供される原間遺跡出土の鑄造鉄斧破片（山元編 2005, 信里 2006）が確認されているのみであり、鍛造品の素材履歴について新たな所見が得られた。今後、分析を継続することにより、弥生後期以降の鉄器の主体となる鍛造品の素材の入手経路等が明らかになることが予想され、継続的に作業を行う必要がある。また、鑄造鉄斧の破損品の転用による鉄器生産以外に、鑄鉄脱炭鋼の流入も想定しておく必要がある（大澤 1997）。

鍛冶作業に派生して生じたと考えられた微細遺物については、否定的な分析結果となった。鍛造剥片特有の酸化膜構成が認められないこと等から、高温操業に伴って排出される鍛造剥片は存在せず、精製素材を加熱鑿切り、曲げ加工、砥石研磨痕跡を留めた切片で構成される原始鍛冶と推定された。一部の微細遺物からは、高温溶融が想定されるマンガンやチタンが析出されており、近代遺物としての同定をいただいた。旧練兵場遺跡では、その名称のとおり上層に近代の土地利用の痕跡が明瞭に見られるため、上位からの攪乱や乾痕に伴うコンタミネーションがあった可能性は否定できない。埋没土を一括して水洗選別する手法では細かなコンタミネーションを防ぐことができないため、今後、試料採取の手法を工夫する必要性を感じる。

しかしながら、原始鍛冶とされる精製素材を加熱鑿切り、曲げ加工、砥石研磨の技術レベルと、今回報告する旧練兵場遺跡の SH51 をはじめとして、近年四国島内で確認された矢野遺跡 SB2037（近藤・谷川編 2006）や西分増井遺跡 ST01 他（出原・山本 2004）等の入念な下部構造をもつ鍛冶炉や、出土した鉄製品から想定される鍛冶技術との乖離が見られることも事実である。また、出土鉄器は少数の搬入品を除いて考古学的に地域差が看取されることから、四国島内をはじめとした各地域の在地製作品であることが推定されている（野島 1993, 村上 1998, 2005, 信里 2006）。考古学的に把握される鉄製品の製作技術レベルや鍛冶炉の構造から推定される技術レベルと、今回のような冶金学的な分析結果から導き出される鍛冶技術との整合が今後とも不断に求められよう。

大澤正己 1997 「弥生時代鉄器研究の動向～金属学的見地からのアプローチ～」『第 4 回鉄器文化研究集会～東日本における鉄器文化の受容と展開～発表要旨集～』鉄器文化研究会

近藤 玲・谷川真基編 2006 『矢野遺跡Ⅲ（弥生・古代篇）一般国道 192 号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査』財団法人徳島県埋蔵文化財センター

出原恵三・山本純代編 2004 『西分増井遺跡Ⅱ 新川広域河川改修に伴う西分増井遺跡Ⅰ区発掘調査報告書』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター

野島 永 1993 「弥生時代鉄器の地域性」『考古論集－潮見浩先生退官記念論集－』潮見浩先生退官記念事業会

信里芳紀 2006 「中・東部瀬戸内地域における弥生時代の鉄製品」『石器から鉄器への移行期における社会の変革を考える 近畿弥生の会第 2 回テーマ討論会発表要旨集』近畿弥生の会

村上恭通 1998 『倭人と鉄の考古学』青木書店

村上恭通 2005 「鉄器普及における西南四国の役割－弥生時代後期を中心にして－」『西南四国－九州間の交流に関する考古学的研究 平成 14 年度～平成 15 年度科学研究研究補助金 (基盤研究 (C)(1))』
山元素子編 2005 『原間遺跡 県道大内白鳥インター線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』香川県教育委員会

出土鉄製品の構造分析

川鉄テクノロジー株式会社分析・評価事業部 埋蔵文化財調査研究室

1. はじめに

遺跡から出土した製品遺物について、学術的な記録と今後の調査のための一環として自然科学的観点での調査を依頼された。調査の観点として、

①残存金属の確認、②顕微鏡組織観察、③銹化物の鉍物解析や観察上の特記事項などを中心に調査した。その結果について報告する。

2. 調査項目および試験・検査方法

(1) 調査項目

調査資料はある遺跡から出土した資料で、外観観察、顕微鏡組織観察（マクロ組織、ミクロ組織）およびX線回折（鉍物同定）の調査試験を実施した。

(2) 試験・観察方法

(i) 重量計測、外観観察および金属探知調査

資料重量の計量は電子天秤を使用して行い、少数点2位以下で四捨五入した。各種試験用試料を採取する前に、資料の外観をmm単位まであるスケールを同時に写し込みで撮影した。資料の出土位置や資料の種別等は提供された資料に準拠した。

着磁力調査については、直径30mmのリング状フェライト磁石を使用し、官能検査により「強・稍強・中・稍弱・弱」の5ランクで、個別調査結果を表示した。遺物内の残存金属の有無を金属探知機（MC：metal checker）を用いて調査した。

(ii) 顕微鏡組織写真

資料の一部を切り出し樹脂に埋め込み、細かい研磨剤などで研磨（鏡面仕上）する。金属箇所はナイタール（5%硝酸アルコール液）で腐食後、顕微鏡で観察しながら代表的な断面組織を拡大して写真撮影し、金属組織および介在物（不純物、非金属鉍物）の存在状態等から製鉄・鍛冶工程の加工状況や材質を判断する。原則として100倍および400倍で撮影を行う。必要に応じて実体顕微鏡（5倍～20倍）による観察もする。

(iii) 蛍光X線分析法による成分分析

蛍光X線分析装置EDX（エネルギー分散型X線分析：Energy Dispersive X-ray spectroscopy、堀場製作MESA-500）によって、X線管で発生させたX線を試料にあてることによって、試料に含まれる元素固有のエネルギーを持った特性X線を発生させ、この特性X線をSi半導体検出器で検出し、検出強度を数値換算し、構成元素を定性・定量する。

(iv) X線回折測定

試料を粉砕して板状に成形し、X線を照射すると、試料に含まれている化合物の結晶の種類に応じて、それぞれに固有な反射（回折）された特性X線が検出されることを利用して、試料中の未知の化合物を観察・同定することができる。多くの種類の結晶についての標準データが整備されており、ほとんどの化合物が同定される。

測定装置 理学電気株式会社製 ロータフレックス (RU-300 型)		
測定条件		
①	使用X線	Cu- K α (波長 = 1.54178Å)
②	K β 線の除去	グラファイト単結晶モノクロメーター
③	管電圧・管電流	55kV・250mA
④	スキャンニング・スピード	4.0° /min
⑤	サンプリング・インターバル	0.020°
⑥	D.S. スリット	1°
⑦	R.S. スリット	0.15mm
⑧	S.S. スリット	1°
⑨	検出器	シンチレーション・カウンター

表 41

3. 調査結果および考察

分析調査（切断資料の外観観察、X線回折、EDXによる成分分析、顕微鏡組織観察）の結果をそれぞれ示す。

外観観察：提供された外観写真（資料の切断状：全長 73.5mm × 幅 26.3mm × 厚さ 8.9mm）を図 595 に、切断試料の外観写真を図 596 に示す。切断片試料は 2 個の切断片 A、B がある。

中間のくびれ部から 2 つに割れた鉄錠（てつてい）状資料。全域にわたり土砂の固着物に覆われている。両端に近い部分から V カットした試料を抽出してある。A、B いずれも錆化してしまい、残存鉄塊はないが着磁力は強い。金属探知反応（MC）はない。

切断片の断面写真には、水平（L）方向に約 4mm 幅の錆化鉄層が数層の割れ・亀裂として観察される。切断片 B を分析対象とした。

X線回折：X回折チャートを図 602 に示す。マグネタイト（Magnetite:Fe₃O₄）とゲーサイト（Goethite: α -FeOOH）が同定された。金属鉄が錆化していると推察される。金属鉄の錆化過程については、参考を参照されたい。金属鉄の錆化物は、酸素分圧（Po₂）と水蒸気分圧（PH₂O）の条件によって、マグネタイトとオキシ水酸化鉄（安定な α -FeOOH、化学式 Fe₂O₃·H₂O）が共存できる。この資料は長期間特定の条件下（空气中酸素と湿分が 100% でない状態）にあって、マグネタイトとゲーサイトが共存していると推察される。なお、X線回折では、金属鉄は回折されなかった。

EDX分析：切断片のEDX成分分析の結果を図 601 に示す。鉄が主成分として検出された。その他に成分には、ケイ素（Si）、アルミニウム（Al）、りん（P）、カルシウム（Ca）、カリウム（K）等が検出されたが、表面に付着している土成分と推察される。

顕微鏡組織：マクロ顕微鏡組織写真を図 596 に示す。亀裂と割れ模様が横方向に多層構造を構成しているように観察される。

ミクロ顕微鏡組織写真（50 倍、100 倍）を図 597 に示す。切断資料 B の切断面 C 方向に金属鉄は観察されなかったが、さらに L 方向に小試験片をカットしたら、金属鉄を発見した。その顕微鏡写真である。写真の上部に見える割れ・亀裂がない位置、端部から約 1mm の位置に微小の残存金属鉄が観察された。形状は、四角形状（サイズは約 100 μ m=0.1mm）の幅で、突起状に観察される。

ナイトール腐食液（5% 硝酸アルコール）でエッチング（腐食）したが、全く腐食されないので、王水（濃硝酸 + 濃塩酸の混合液）でようやく腐食された。しかし、結晶面を判別できる炭素－鉄組織は現れなかつ

た。すなわち、腐食が非常に困難な単一結晶面と推察される。

切断片BのC方向マイクロ組織顕微鏡写真(100倍、400倍)を図597、598に示す。図597下は白色のゲーサイト (Goethite: α -FeOOH) と図598中下は赤色のレピドクロサイト (Lepidocrocite: γ -FeOOH) またはマージェマイト (Maghemite: γ -Fe₂O₃) と推察される組織が観察された。

オキシ水酸化鉄の発色は、酸化度や水分量により複雑に変化する。しかも、偏光顕微鏡では光線により赤色を呈することがある。したがって、本資料はオキシ水酸化鉄 (FeOOH) の中間体と推察される。SEM観察：銹化鉄中の金属鉄のSEM像を図599に示す。SEM像は、図597顕微鏡写真の上下を反転した状態を示す。王水エッチング後の状態で、金属鉄の残存領域をEDX分析を実施した。下図に示すように、微量の酸素 (O)・炭素 (C) が検出されたが、主成分は鉄 (Fe) が検出され、他成分 (合金成分) は検出されなかった。一方、銹化鉄相は、鉄と酸素のみが検出され、他成分は検出されなかった。したがって、残存金属は腐食が困難な純鉄と推察される。

4. まとめ

鉄錠 (てつてい) 状資料の切断片の外観観察、X線回折、EDX分析、顕微鏡組織観察およびSEM-EDX観察を実施した。B切断片を調査対象とした。その結果をまとめる。

- 1) 切断片の内部には、幅4mmの銹化鉄層があり、数層からなる割れ・亀裂が観察された。
- 2) X線回折では、マグネタイト (Magnetite: Fe₃O₄) とゲーサイト (Goethite: α -FeOOH) が同定された。したがって、磁性を示す。蛍光X線 (EDX) では、主成分として鉄が検出された。
- 3) 顕微鏡組織観察では、白色のゲーサイト (Goethite: α -FeOOH) と赤色のレピドクロサイト (Lepidocrocite: γ -FeOOH) またはマージェマイト (Maghemite: γ -Fe₂O₃) と推察される組織が観察された。鉄の銹化過程にあるオキシ水酸化鉄の中間体が共存していると推定される。
- 4) 切断片Bの水平 (L) 方向に微量の金属鉄 (約100 μ m=0.1mm四角形状) を発見した。腐食が困難な純鉄結晶と推定される。SEM-EDX分析では、微量の酸素、炭素を検出したが、他成分は検出されなかった。銹化鉄相にも鉄と酸素のみが検出され、他成分は検出されなかった。

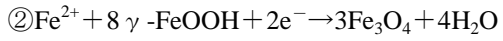
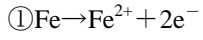
5. 参考

水と接触した金属鉄は水酸化鉄 (Fe(OH)₂) またはよりアルカリ性水溶液ではオキシ水酸化鉄 FeOOH (化学式 Fe₂O₃·H₂O) (α -FeOOH、 β -FeOOH、 γ -FeOOH) として (③式)、沈殿する可能性がある。鉄水酸化物の水への溶解度、空气中酸素との反応によって、それらの安定性が異なる。安定なゲーサイト (Goethite: α -FeOOH) が遺物中に残存し、観察されることが多く、化合水を数%含む。オキシ水酸化鉄 (γ -FeOOH: レピドクロサイト: lepidocrocite) が還元される (①②式) とマグネタイト (magnetite: Fe₃O₄) になる。X線回折では、ゲーサイトとマグネタイトが共存して検出 (回折) される。また、ゲーサイト (α -FeOOH) は約200℃で脱水して、ヘマタイト (hematite: 赤鉄鉱 α -Fe₂O₃) になる。次ページの図・式に、鉄さびの経年過程を示す。

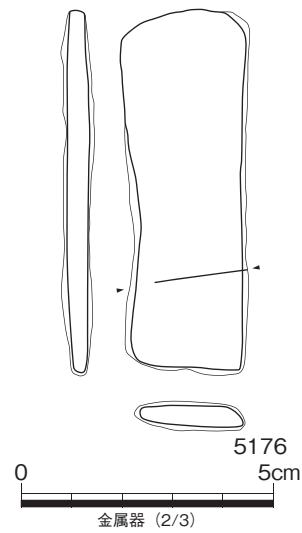
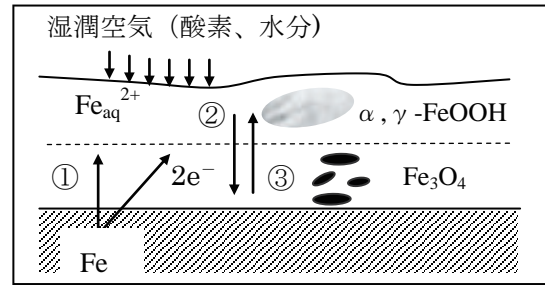
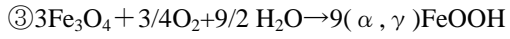
鉄さびの経年過程

(鉄さび層内の電気化学的酸化還元サイクル)

γ -FeOOH 還元反応 ($2\text{FeOOH} = \text{Fe}_2\text{O}_3 \cdot \text{H}_2\text{O}$)



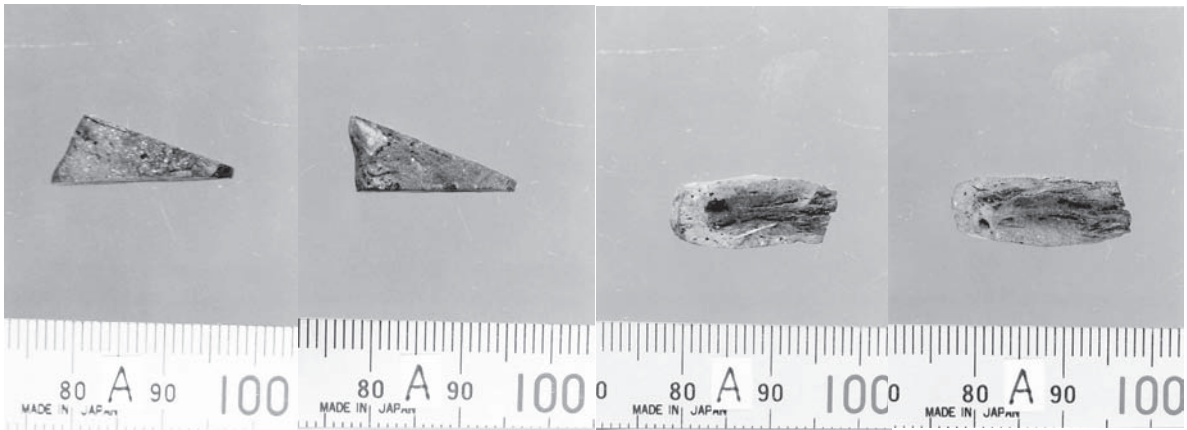
Fe_3O_4 再酸化反応



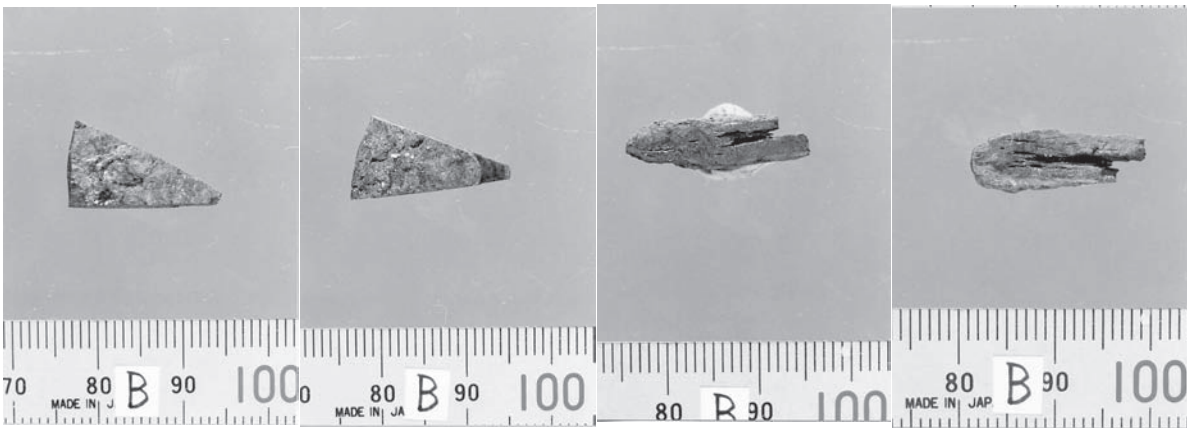
(現状) 最大長：73.4mm、最大厚：8.9mm、最大幅：26.3mm

図 595 資料の切断状況

・資料切断後の外観写真（A切断片）



・資料切断後の外観写真（B切断片）



・顕微鏡組織写真

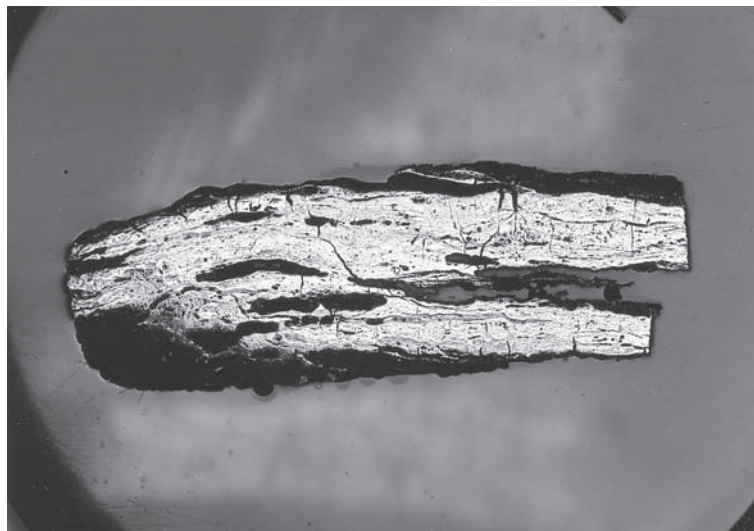
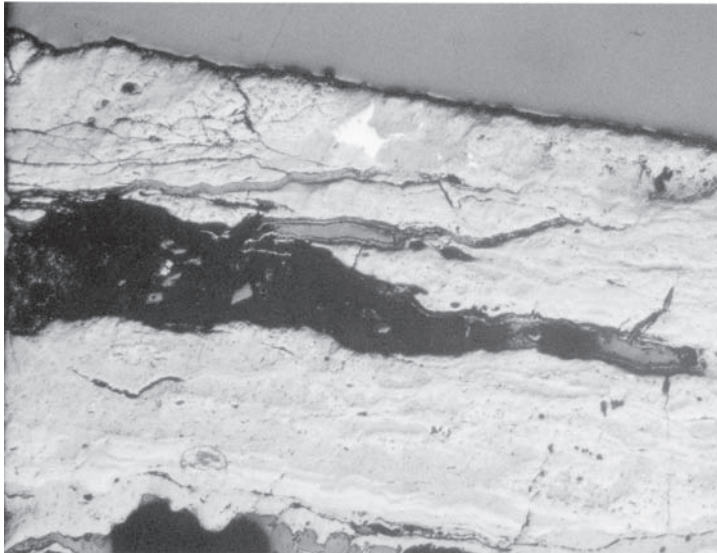
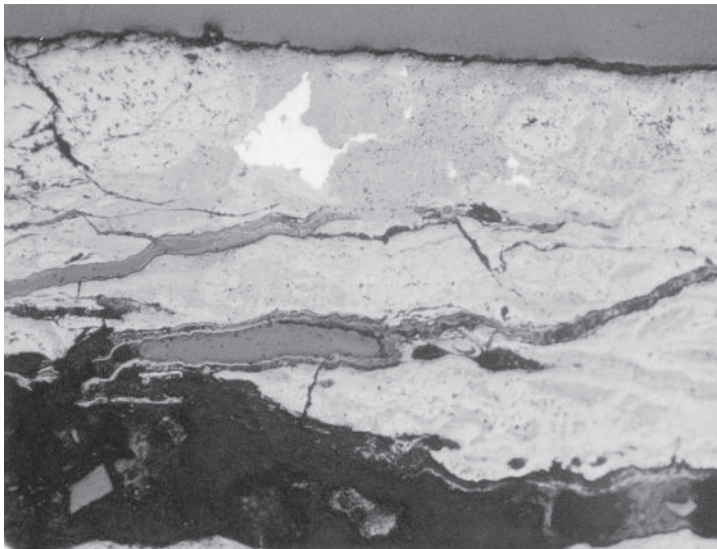


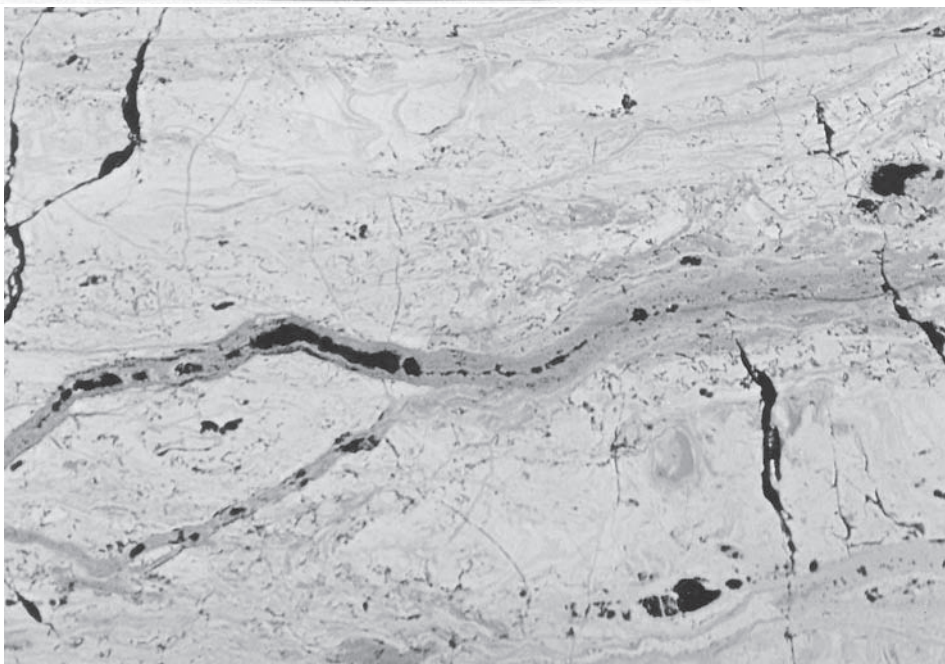
図 596 遺跡出土製品のマクロ組織写真



L方向 (B切断片) × 50 1cm = 0.2mm

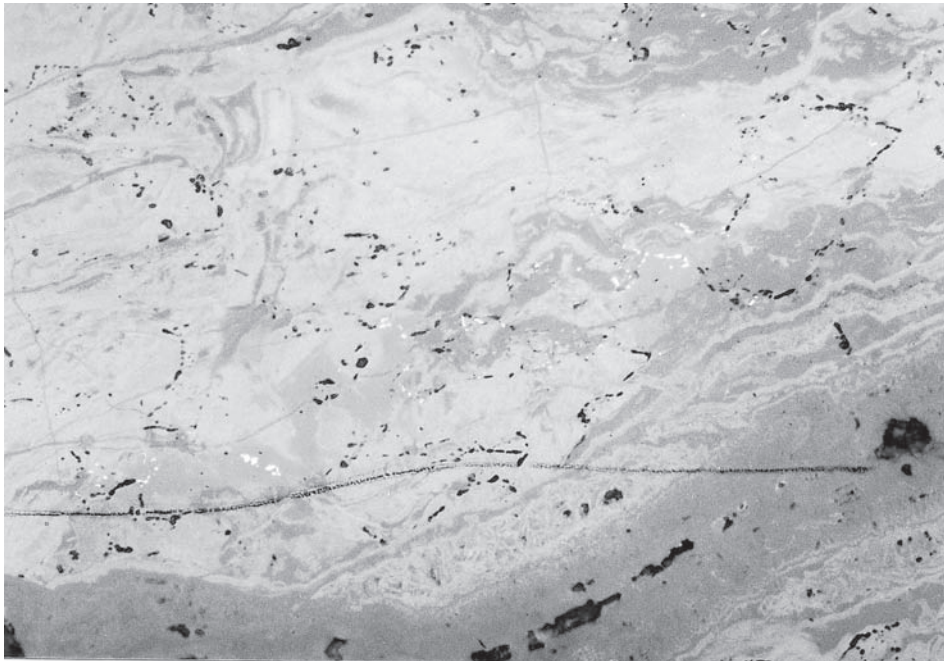


L方向 (B切断片) × 100 1cm = 0.1mm



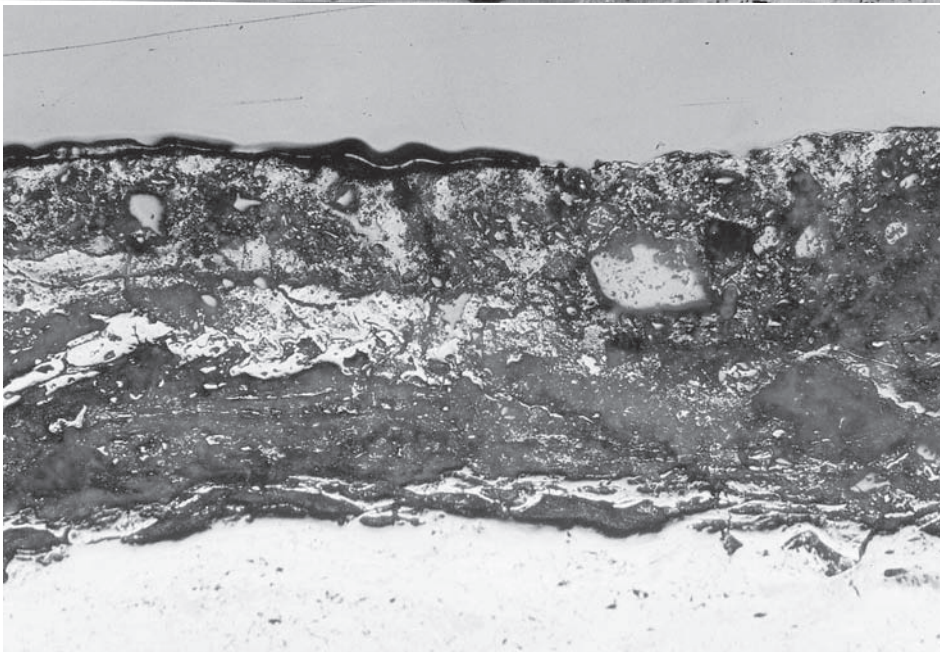
× 100
1cm = 100 μm

図 597 遺跡出土製品の顕微鏡組織写真



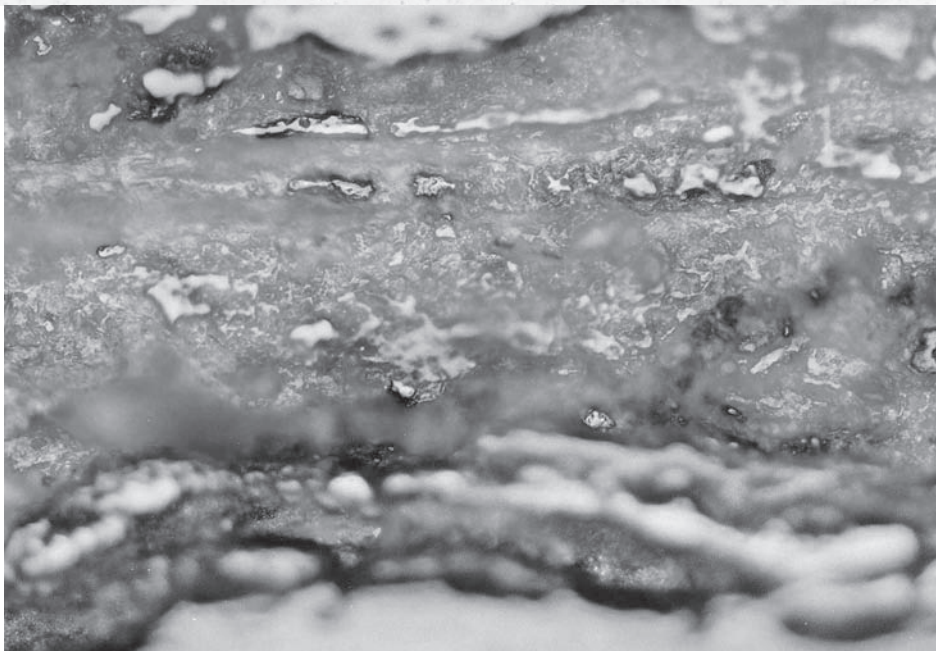
× 4 0 0

1 cm = 2 5 μ m



× 1 0 0

1 cm = 1 0 0 μ m



× 4 0 0

1 cm = 2 5 μ m

図 598 遺跡出土製品の顕微鏡組織写真

・ 銹化鉄中の金属鉄 (0.1 mm)
のSEM観察

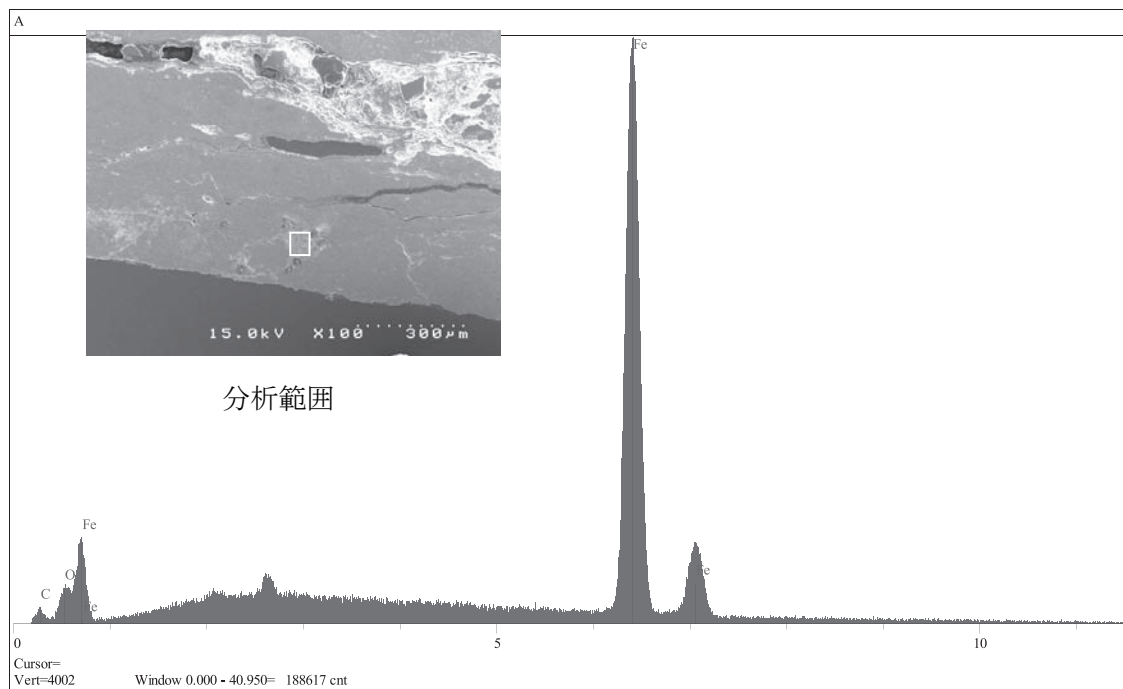
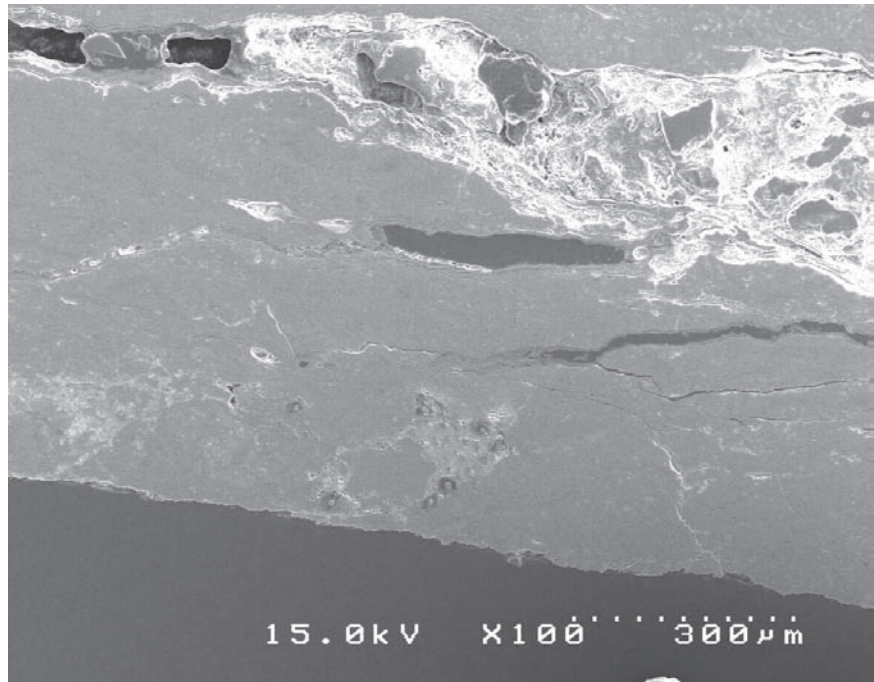


図 599 SEM-EDX による成分分析 (B 切断片)

・ 錆化鉄中のSEM-EDX分析

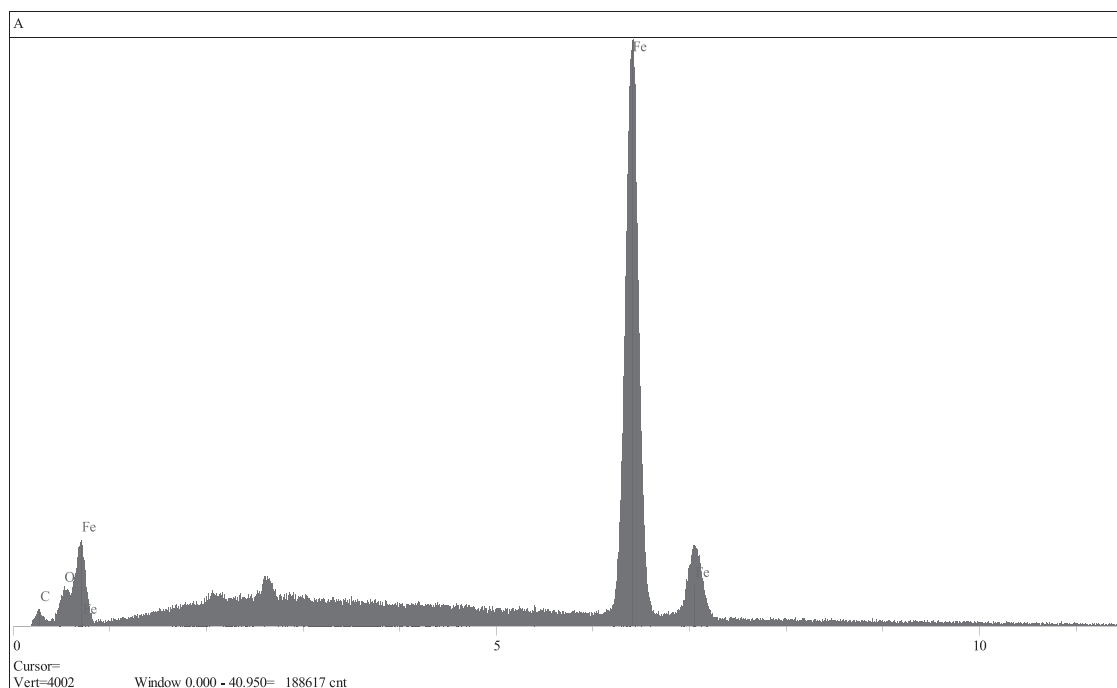
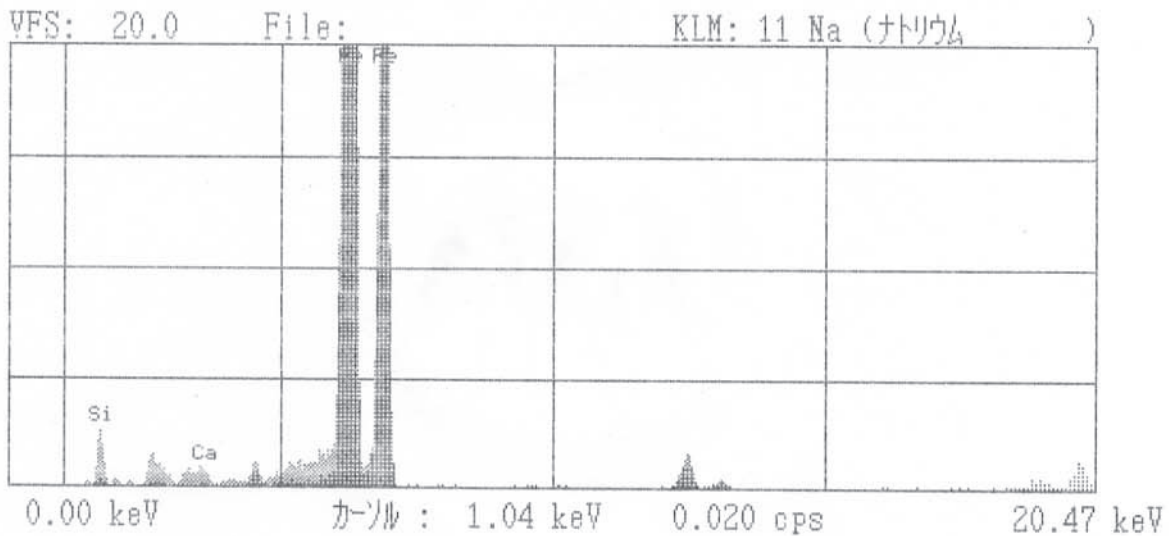


図 600 SEM-EDX による錆化鉄の成分分析 (B 切断片)

HORIBA MESA-500 スペクトル

コメント： テッタイ片



測定条件

	# 1	# 2
日付	'03/03/14	'03/03/14
時刻	09:38:29	09:38:29
電圧	15 kV	50 kV
電流	60 μ A	6 μ A
時間	50 秒	50 秒
DT%	24 %	22 %
試料セル	あり	あり
試料室	真空	真空

HORIBA MESA-500 定量結果

コメント： テッタイ片

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/ μ A)
26 Fe 鉄	93.62	0.23	563.773
14 Si けい素	4.84	0.15	0.488
13 Al アルミニウム	1.05	0.16	0.042
15 P りん	0.30	0.03	0.066
20 Ca カルシウム	0.12	0.08	0.102
19 K カリウム	0.02	0.02	0.016
24 Cr クロム	0.02	0.01	0.138
22 Ti チタン	0.01	0.01	0.055
25 Mn マンガン	0.01	0.02	0.049
29 Cu 銅	0.00	0.01	0.013

図 601 EDX分析

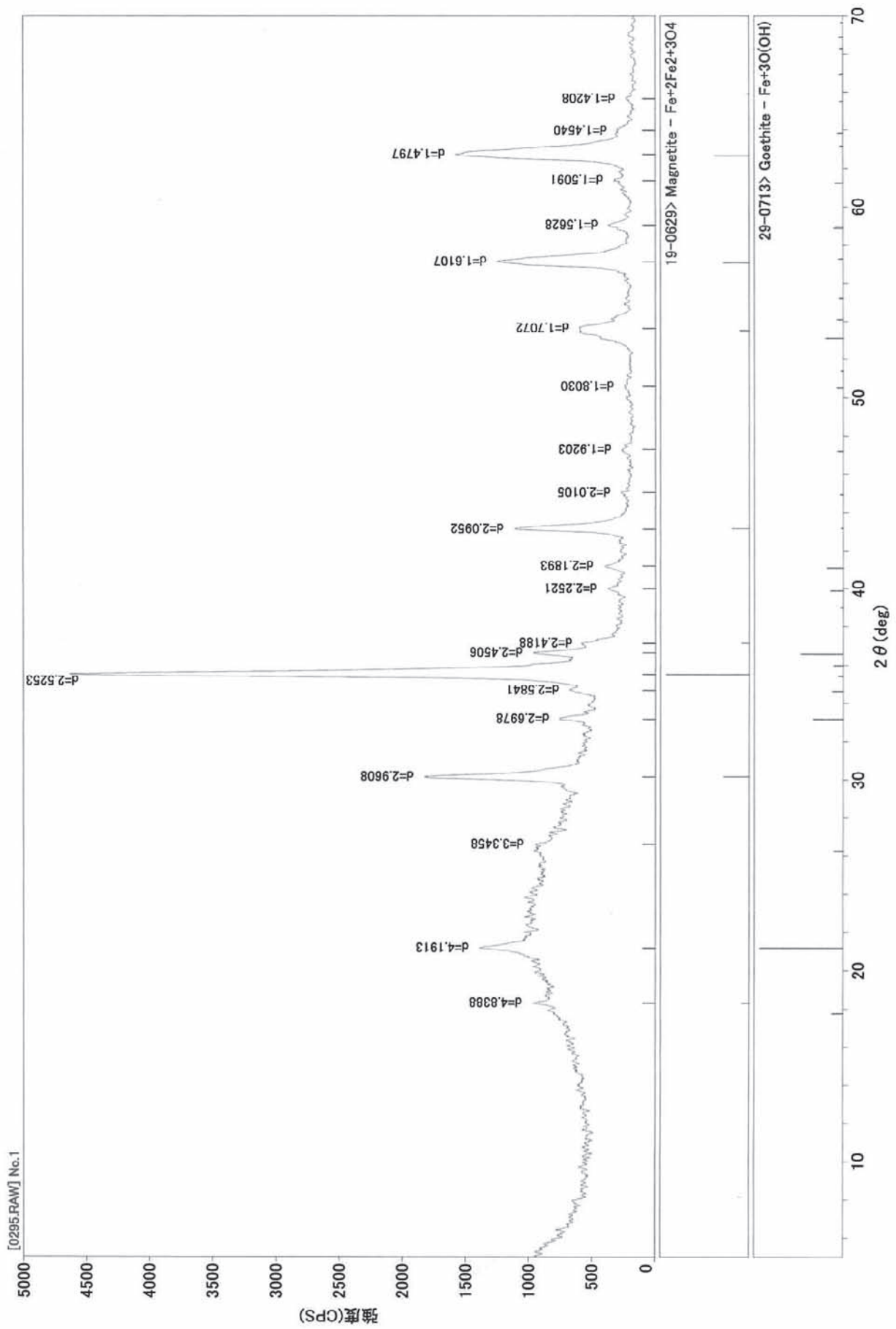


图 602 X線回折図

第6節 黒変部を認める石製品について

1. 出土状況

本節で取り上げる石製品は、旧練兵場遺跡 14 次調査 V②区 SD56(調査時遺構名 SD01) から出土している。伴う土器は、弥生後期前半古段階から古墳前期前半を主体とし、若干量の古墳前期後半期の土師器であり、出土土器にかなりの時間幅が認められる。未報告遺物を含めて、確認した範囲では、鑄造関連遺物の共伴は確認できない。

全体所見

黒変部が確認できる面が 2 面 (a・b 面) 確認できる。黒変部は、1～2mm 程度の厚みをもって形成されており、銅器鑄造時に湯に接して生じる鑄型面に類似している。a・b 面の内、a 面は黒変部が良好に残存しているが、b 面の黒変部は砥石に転用された際に大部分が削平されている。石材は、石英長石斑岩(深成岩)の可能性が高く、これまで確認されている鑄型の石材に多く見られるものである。

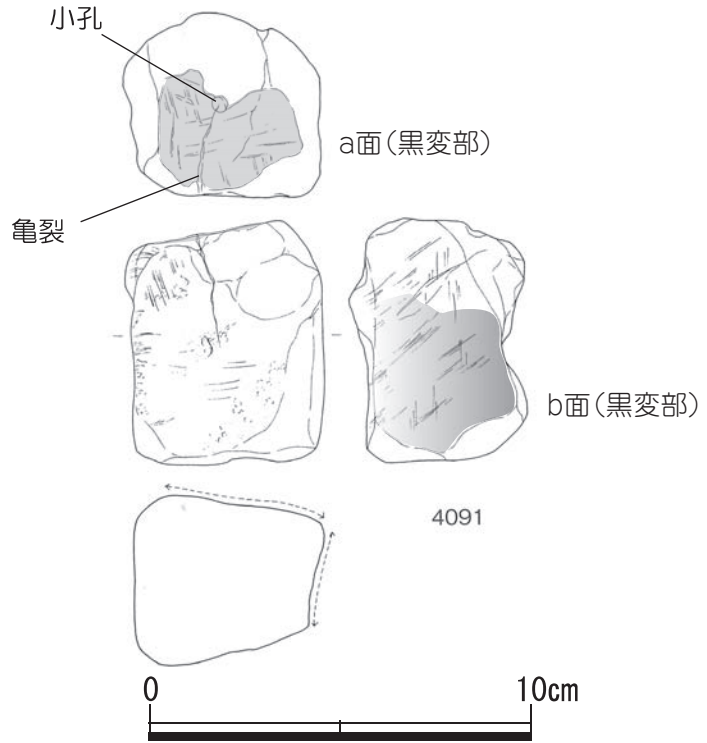


図 603 石製品実測図

2. 黒変部の状況

a 面は、僅かに丸みを帯び中央に亀裂と径 0.3cm 程の小孔、複数の擦痕が見られる。これらの内部にも黒変部が及ぶことから、製作時及び使用時に生じたものと判断できる。a 面中央の小孔は、位置関係や法量から推測して、製品の文様等の属性を反映したものではなく、鑄型の製作時か使用時に生じたものとみられる。細かな擦痕は、砥面として転用されたときに生じたものではなく、近年の青銅器の顕微鏡観察で、製品の表面に細かな亀裂に対応する可能性がある。

黒変部の現況から生産された製品の断定は困難を極める。a 面の黒変部は、平滑に近いが若干の曲面を呈する。a 面の残存範囲内には、前述した小孔以外に紋様や形状を反映するネガ面が見られないため、鑄範と推定した場合における製品の特定は困難である。(信里)

3. 分析試料

試料は、SD56 溝より出土した石製遺物(第 1 冊:報文番号 4091) 1 点である。石材は肉眼観察の結果、無斑晶質の流紋岩と同定された。本石材は、遺跡後背の中新世の讃岐層群に属する、讃岐岩類に伴う流紋岩-デイサイト由来する可能性がある。

4. 分析方法

(1) 実体顕微鏡観察

遺物表面に金属由来の物質が付着しているか否かを確認することを目的として、実体顕微鏡による表面観察を行う。

(2) 軟X線写真

鋳型面と推定される面で確認される亀裂内に金属等の残存物質の存在の有無を確認することを目的として、資料の亀裂面の縦・横方向の2面の軟X線写真を軟X線写真撮影装置（ソフテックス製 M-150）を使用し、電圧 70Kvp、電流 3mA、照射時間 9分間の条件で撮影した。撮影後の写真を観察し、付着物の有無を確認した。また写真はフラッドヘッドスキャナで画像データとして取り込み図版とした。

(3) 蛍光X線分析

蛍光X線分析装置（セイコーインスツルメンツ製：SEA2120L）による元素分析を実施し、表面に付着残留する金属成分を検証する。測定位置を図 604 に示す。

蛍光X線分析はサンプリングが困難な文化財の材質調査に広く用いられている表面分析手法である。本報告では、鋳型として利用された可能性が指摘されている SD56 砥石（報告番号 4091）を対象に、蛍光X線分析による元素分析を実施し、砥石表面に残留する金属元素を探り、鋳型の可能性を検証する。

なお、材質調査に用いた装置はセイコーインスツルメンツ（株）製エネルギー分散型蛍光X線分析装置（SEA2120L）である。測定は有孔部や亀裂部など 11箇所について行い、得られた特性X線スペクトルは元素定性を実施した後、FP法（ファンダメンタルパラメーター法）を用いたスタンダードレス分析により定量演算を行い、相対含有率（質量%）を求めた。なお、算出された結果は半定量的なものであることに留意しておく必要がある。本調査における測定条件の詳細については、表 42 に示す。

測定装置	SEA2120L	
管球ターゲット元素	Rh	
コリメータ	φ 10.0mm	
フィルター	なし	
マイラー	OFF	
雰囲気	真空	
励起電圧 (kV)	15	50
管電流 (μA)	自動設定	自動設定
測定時間 (秒)	300	300
定性元素	Na ~ Ca	Sc ~ U

表 42 測定条件

5. 結果

(1) 実体顕微鏡観察結果

実体顕微鏡観察の結果、鋳型の可能性のある面には金属由来の付着物は確認されなかった。鋳型の鋳造面の可能性のある面で肉眼観察される黒色化部分は、黒色の有色鉱物の点在からなることが確認される（図 619）。この分布密度は、鋳造面の可能性のある面に存在する穿孔部分周辺で最も顕著である（図 619）。鋳造面の可能性のある面以外では、黒色の有色鉱物は確認されないが、黄褐色を呈する有色鉱物が確認される。

(2) 軟X線写真撮影結果

軟X線写真を図 620 に示す。上の写真が亀裂面を側方から、下の写真が亀裂面の正面から撮影した写真である。軟X線写真画像は、より暗色な領域が相対的に密度が低いこと示す。よって、金属物などが付着している場合、その部分が白く写ることになる。逆に孔隙や空隙などは物質で充填されていない場合、周囲より相対的に暗色となる。

軟X線写真を見ると、亀裂表面側の写真で亀裂部分は暗色で、側面側の写真でも亀裂面に異なる密度を

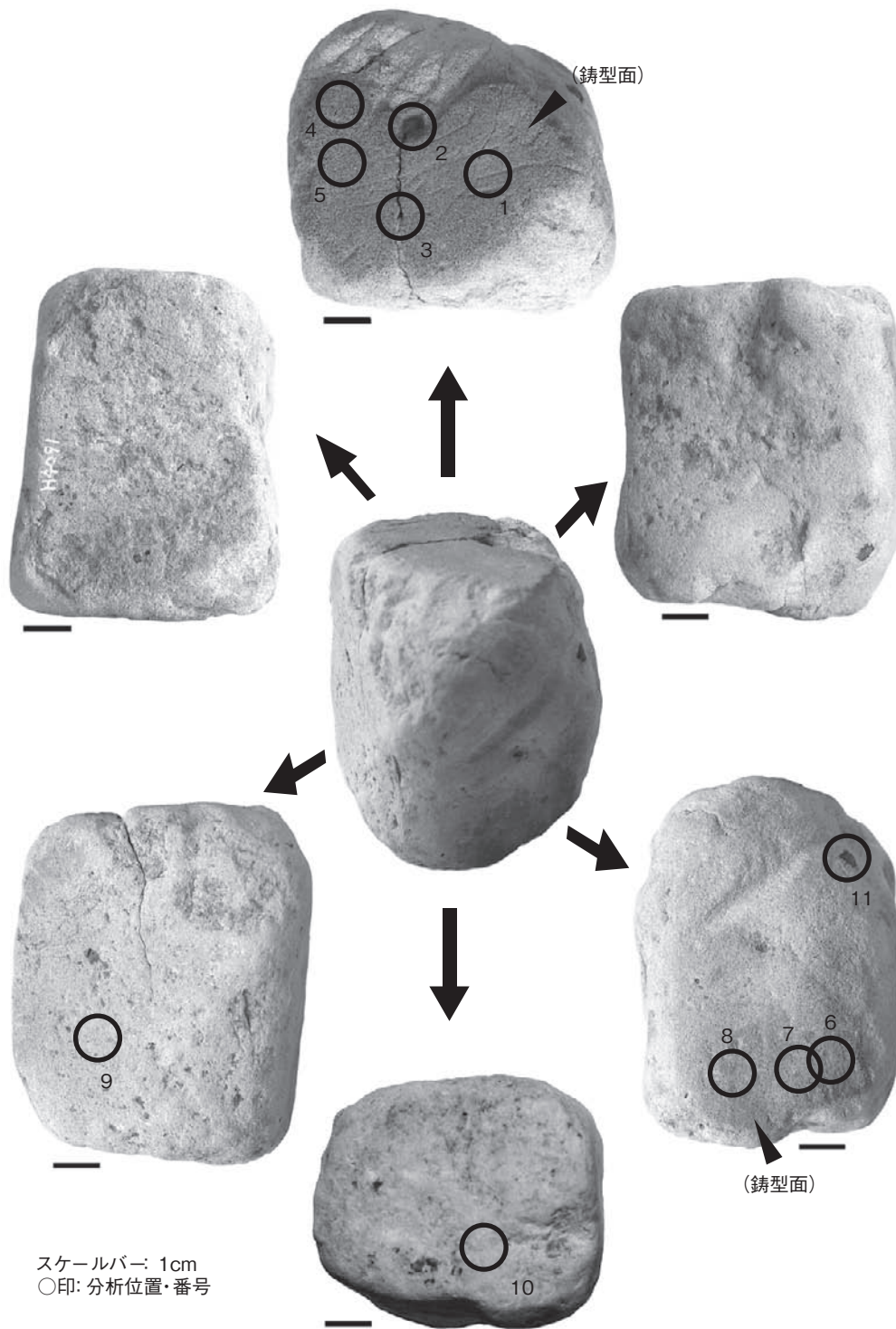


図 604 蛍光 X 線分析測定位置

示す物質は確認されない。このことから亀裂内には金属などの溶融物質が充填されていないことが確認される。また、その他の領域にも異なる密度を示す領域は確認されない。

(3) 蛍光X線分析

各測定箇所での蛍光X線スペクトルを図606～616に掲げ、FP法により求めた化学組成を表43に示す。

11箇所の測定箇所の分析結果は、いずれも類似する値を示した。元素分析によって得られた主要元素は、珪酸 (SiO₂)、酸化アルミニウム (Al₂O₃) である。このほか、酸化マグネシウム (MgO)、酸化鉄 (Fe₂O₃)、酸化チタン (TiO₂)、酸化カリウム (K₂O) など表41に示す元素が検出される。元素分析結果 (検出元素の相対含有率) によれば、およそ珪酸 (SiO₂) が70%前後、酸化アルミニウム (Al₂O₃) が22%前後、酸化カリウム (K₂O) が4%前後、酸化マグネシウム (MgO) が1%、その他は

1%未満である。

青銅器の金属成分である銅 (Cu) も検出されるものの、鑄造面とそうでない面で有意差がないことから、付着物に由来するものとは考えにくい。また、同じく鉛 (Pb)、錫

(Sn) といった金属元素は全く検出されない。以上の結果から、今回の石製品には青銅器の主体成分である銅、鉛、錫といった金属元素の残留は確認されない。

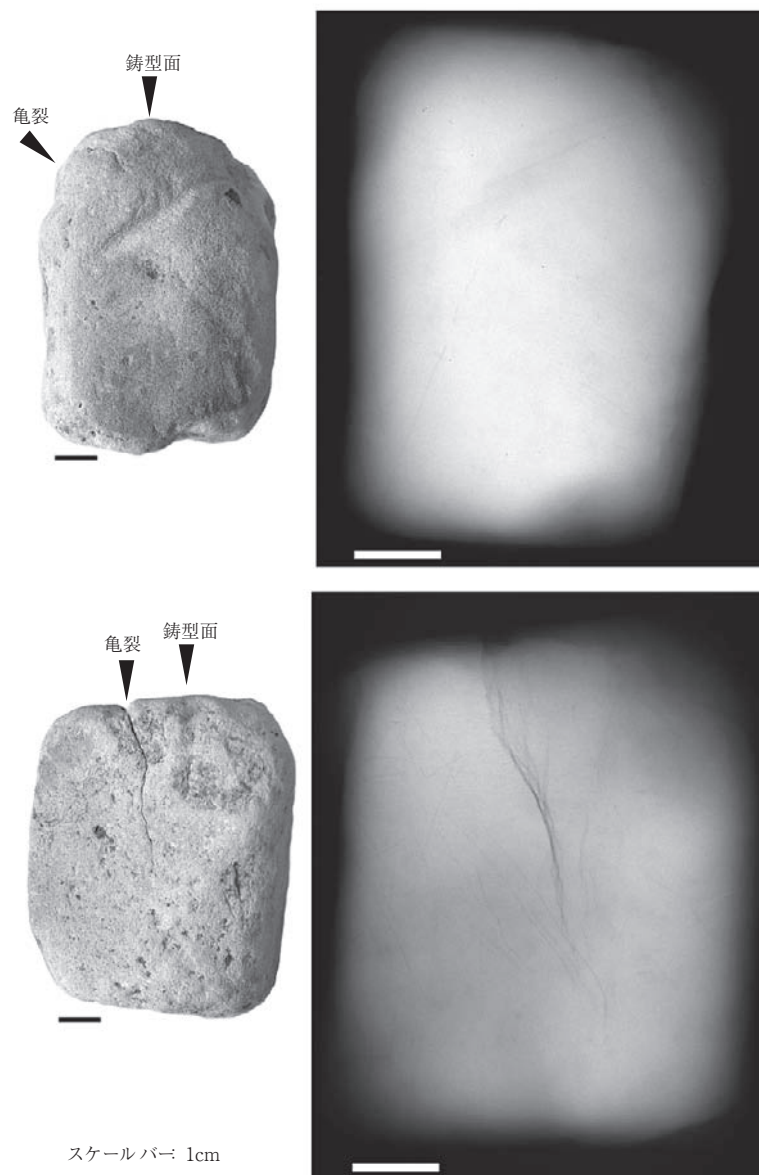


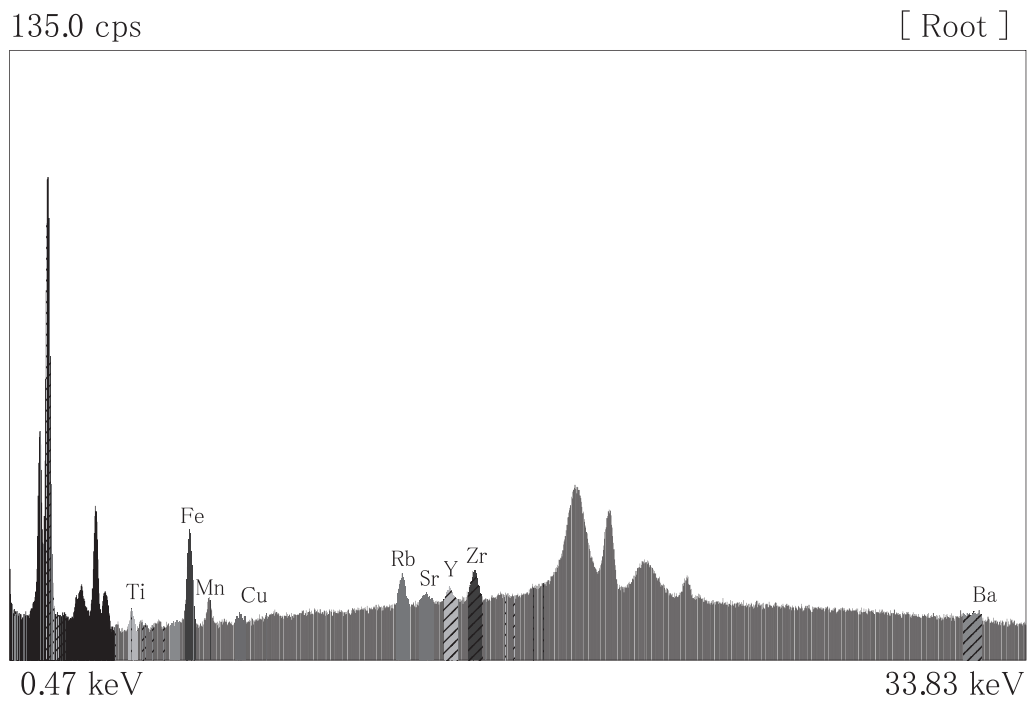
図 605 軟X線写真図

測定箇所	SiO2	TiO2	Al2O3	Fe2O3	MnO	MgO	CaO	K2O	S	Cu	Rb	Sr	Y	Zr	Ba
1	70.80	0.14	22.37	0.58	0.01	1.32	0.40	4.09	0.19	0.01	0.02	0.01	0.00	0.02	0.05
2	70.90	0.09	22.38	0.57	0.01	1.21	0.24	4.34	0.16	0.00	0.02	0.01	0.00	0.02	0.05
3	70.95	0.17	22.32	0.56	0.00	1.28	0.37	4.10	0.18	0.01	0.02	0.01	0.00	0.02	0.02
4	71.03	0.10	22.30	0.47	0.02	1.23	0.25	4.31	0.17	0.01	0.02	0.01	0.00	0.02	0.05
5	71.26	0.12	22.08	0.49	0.00	1.29	0.42	4.05	0.19	0.01	0.02	0.01	0.00	0.02	0.04
6	70.51	0.15	22.33	0.98	0.01	1.22	0.30	4.21	0.19	0.01	0.02	0.01	0.00	0.02	0.05
7	70.75	0.17	22.15	0.89	0.01	1.24	0.40	4.10	0.20	0.01	0.02	0.01	0.00	0.02	0.04
8	70.41	0.11	21.95	1.48	0.02	1.18	0.37	4.16	0.20	0.01	0.03	0.00	0.00	0.02	0.05
9	70.42	0.13	22.63	0.63	0.01	1.26	0.34	4.31	0.18	0.01	0.03	0.01	0.00	0.02	0.04
10	70.00	0.14	23.02	0.61	0.01	1.26	0.36	4.33	0.20	0.01	0.02	0.01	0.00	0.02	0.02
11	69.98	0.09	22.21	1.42	0.16	1.16	0.22	4.46	0.17	0.01	0.02	0.01	0.01	0.02	0.07

表 43 蛍光X線分析結果

*値が0.00となっているものは0.00以下の検出を示す。

<測定条件 1 >



<測定条件 2 >

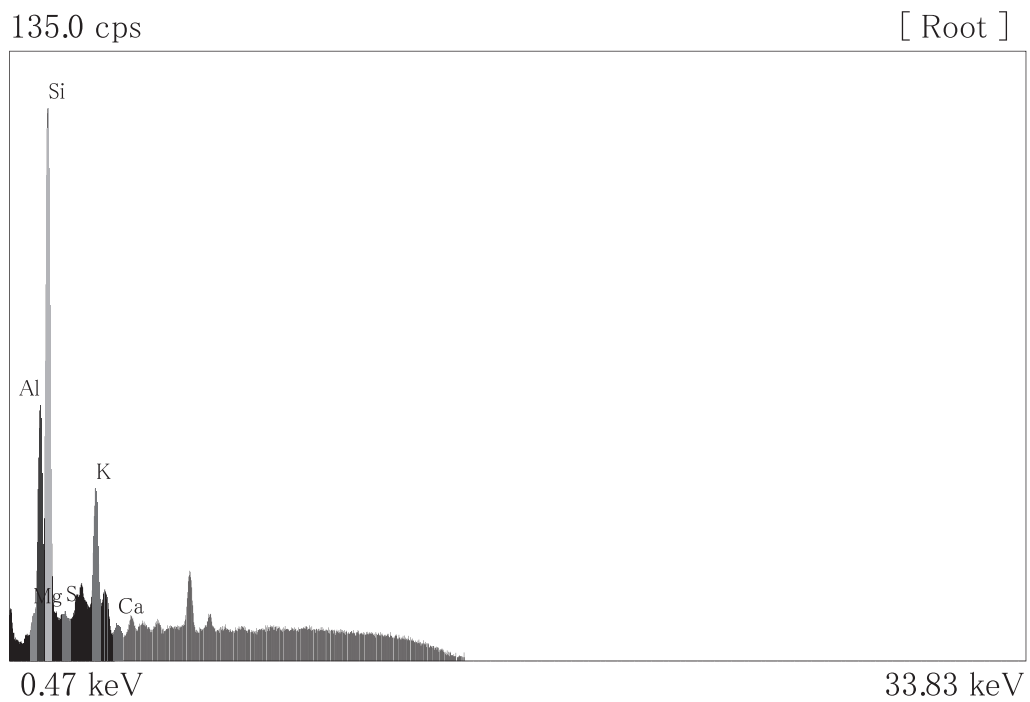
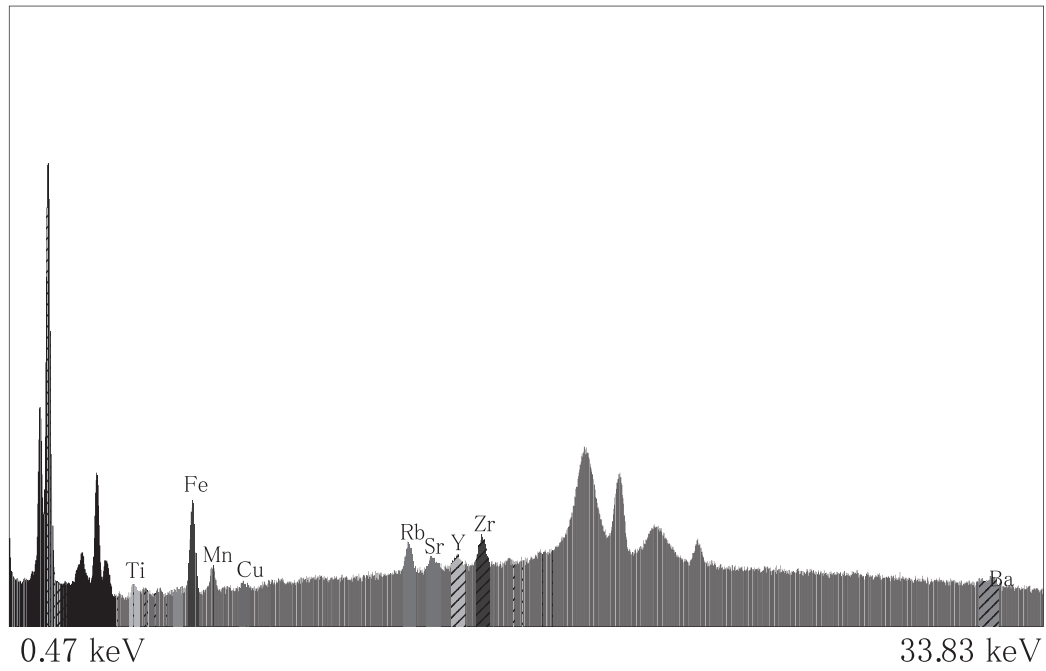


図 606 X線スペクトル（測定箇所1）

<測定条件 1 >

135.0 cps

[Root]



<測定条件 2 >

135.0 cps

[Root]

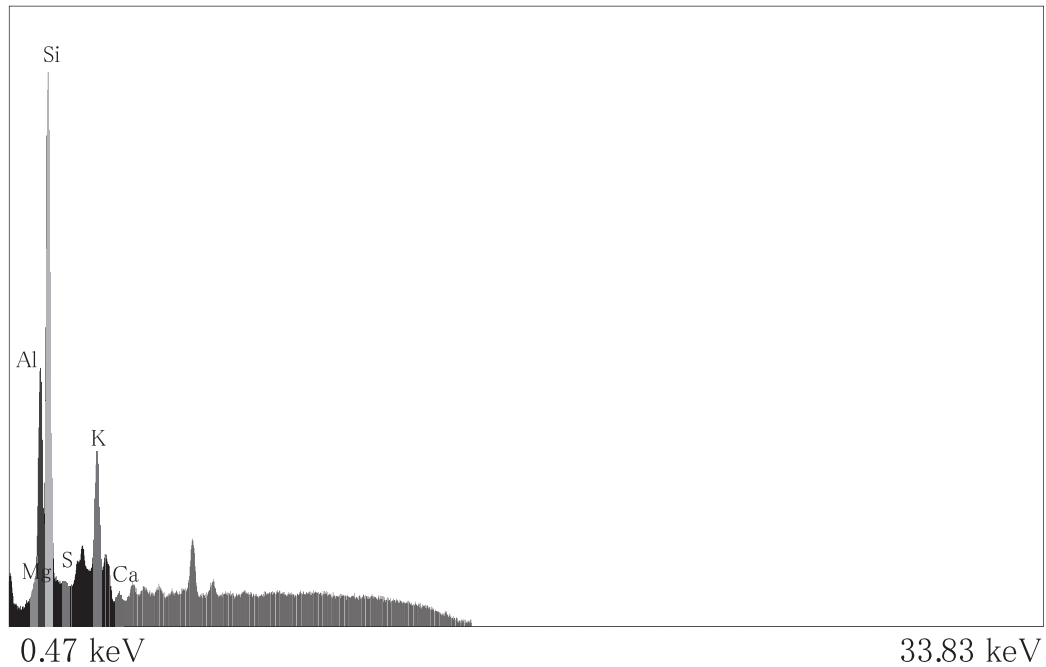
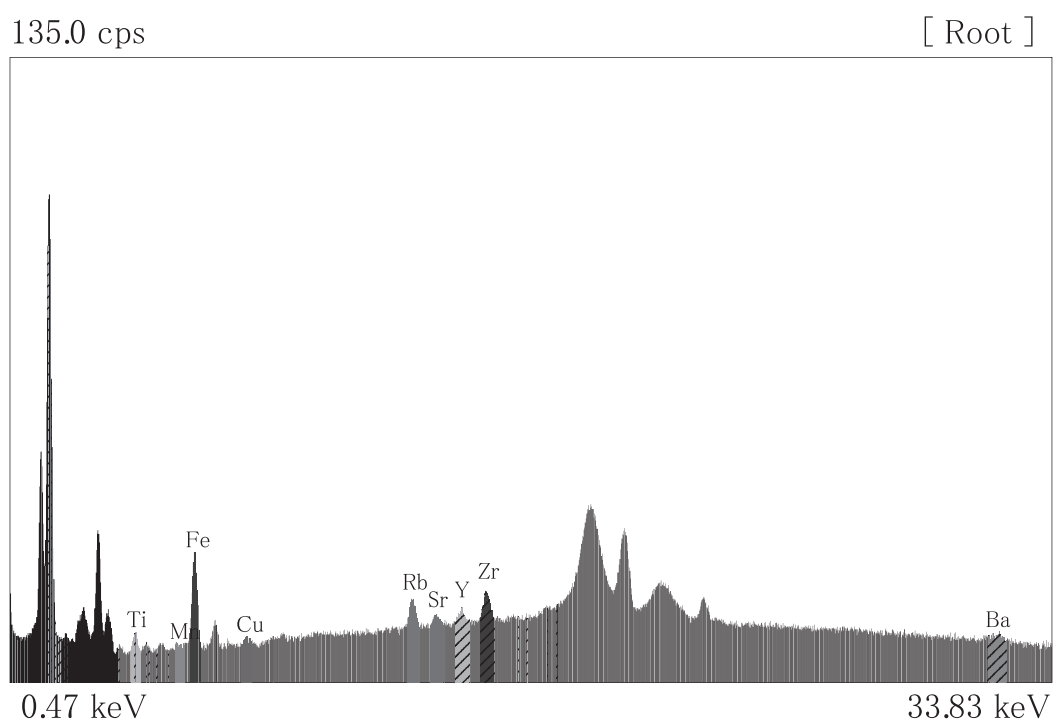


図 607 X線スペクトル (測定箇所2)

<測定条件 1 >



<測定条件 2 >

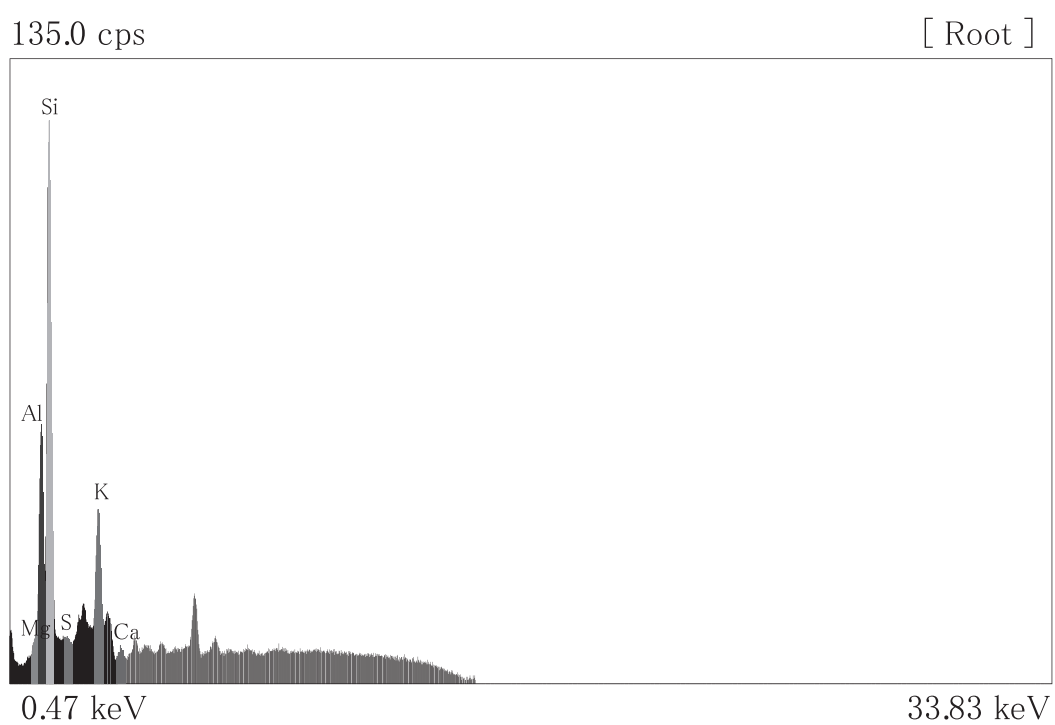
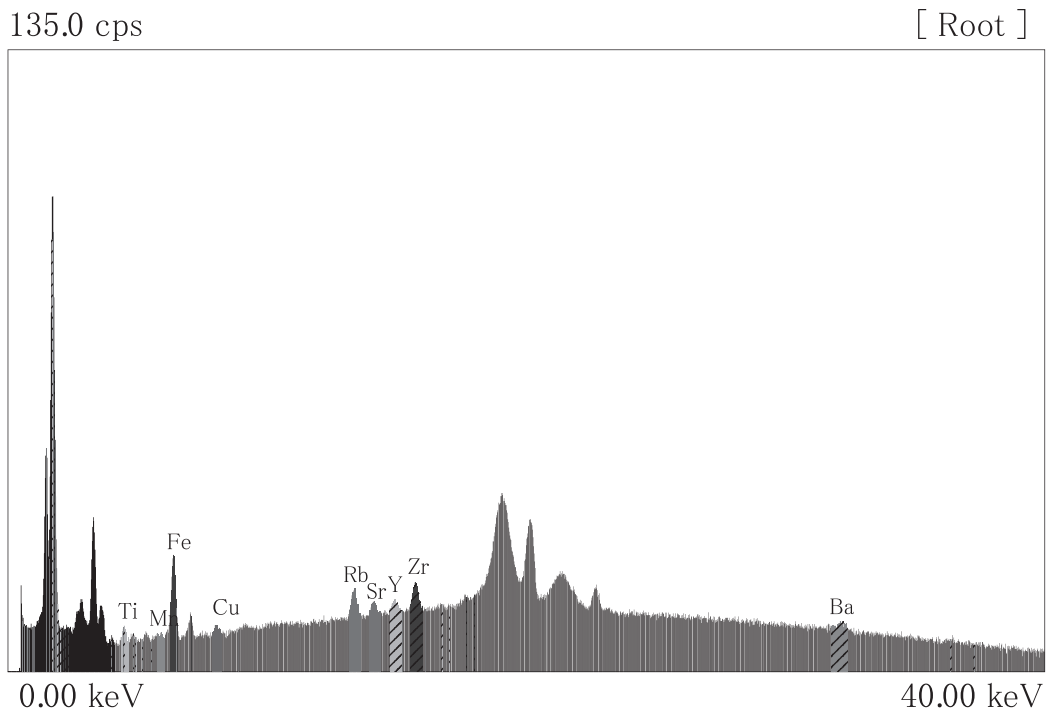


図 608 X線スペクトル (測定箇所 3)

<測定条件 1 >



<測定条件 2 >

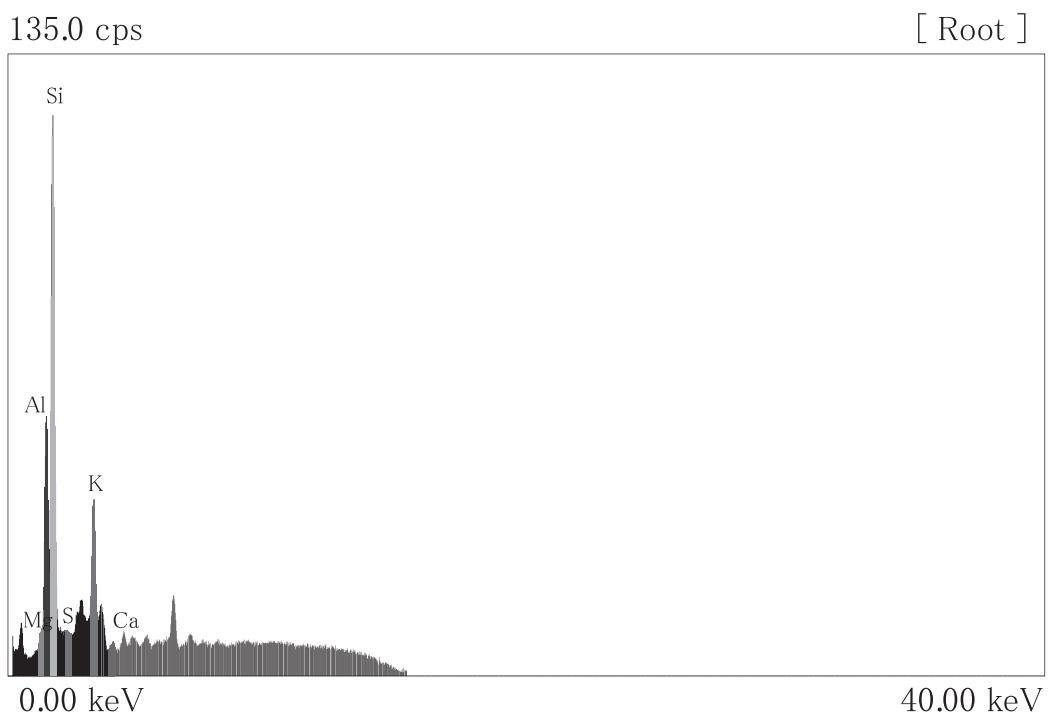
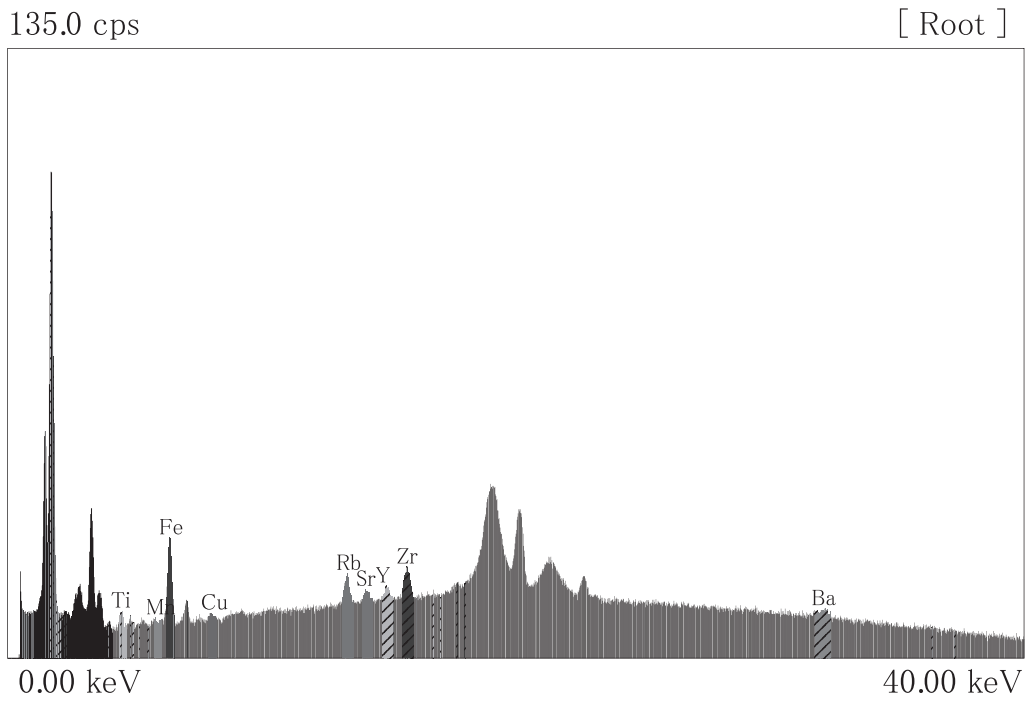


図 609 X線スペクトル (測定箇所 4)

<測定条件 1 >



<測定条件 2 >

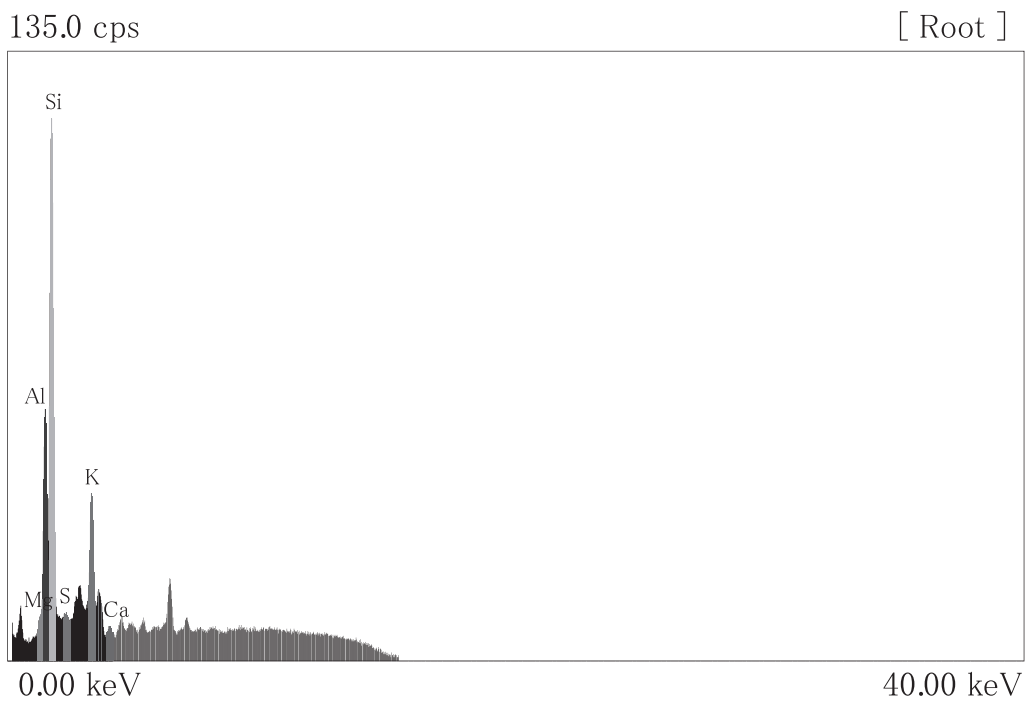
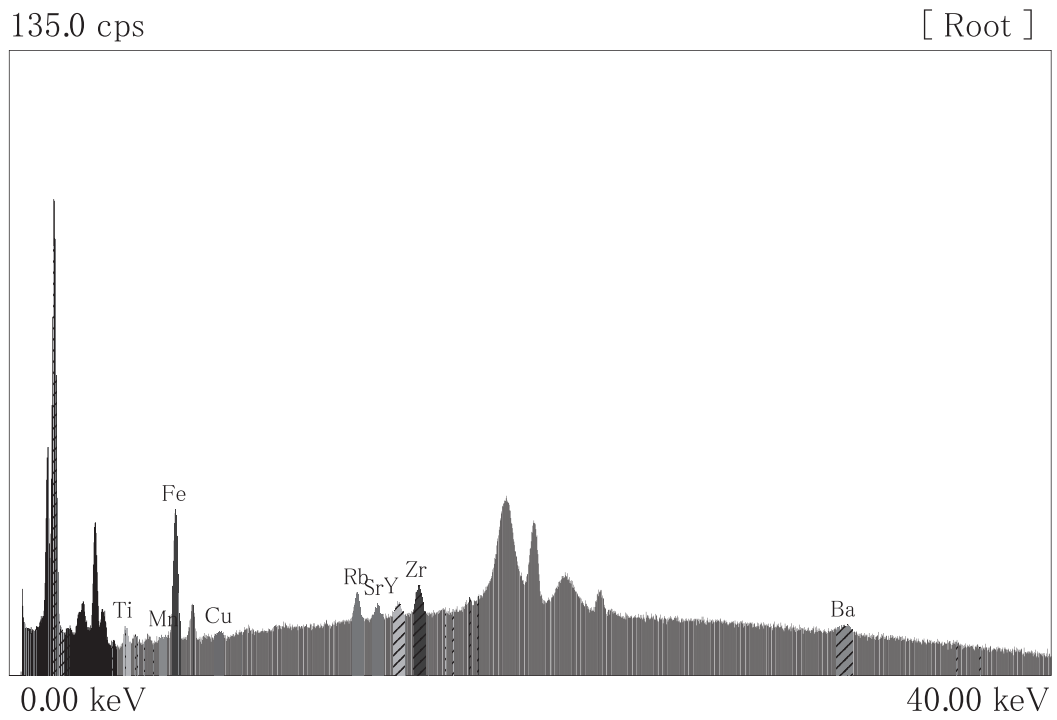


図 610 X線スペクトル (測定箇所 5)

<測定条件 1 >



<測定条件 2 >

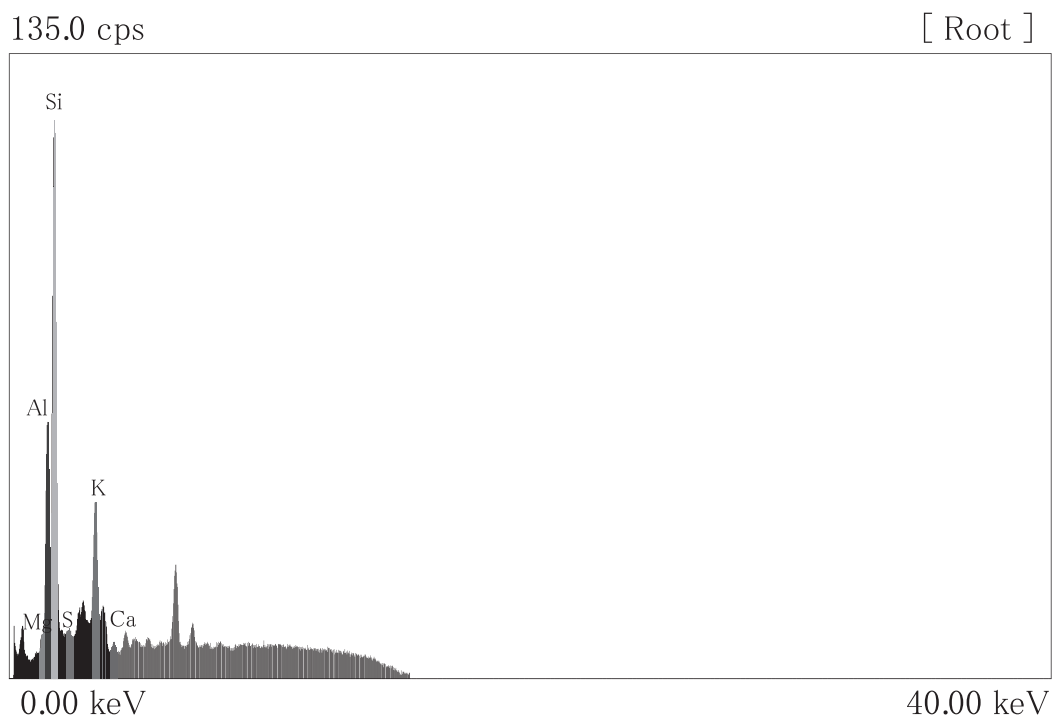
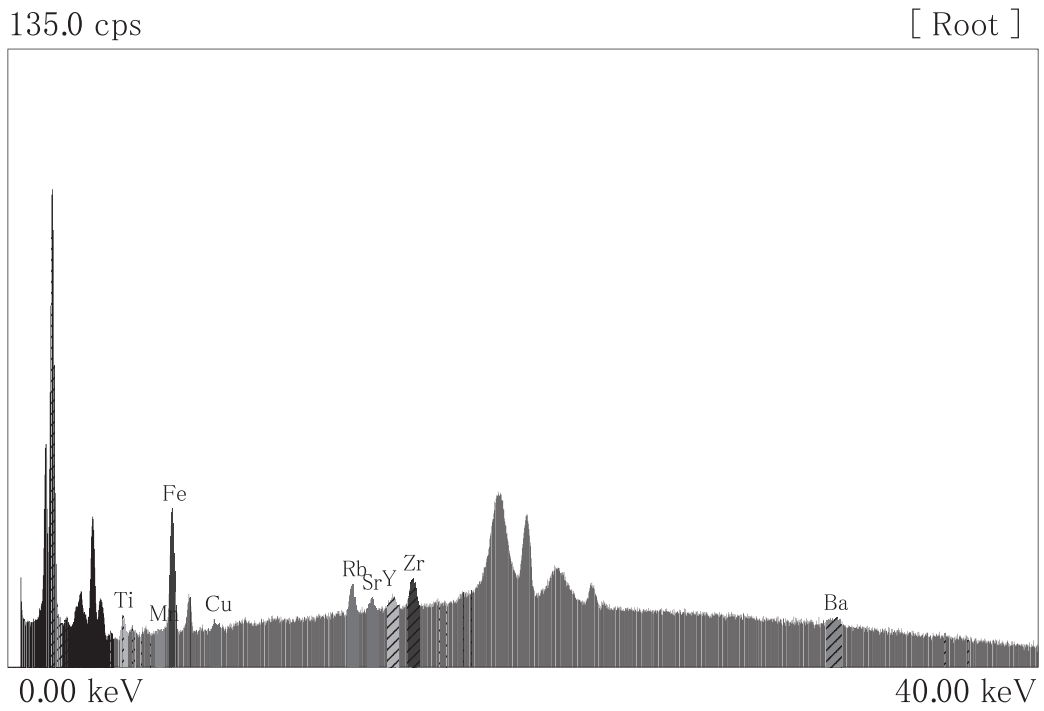


図 611 X線スペクトル (測定箇所6)

<測定条件 1 >



<測定条件 2 >

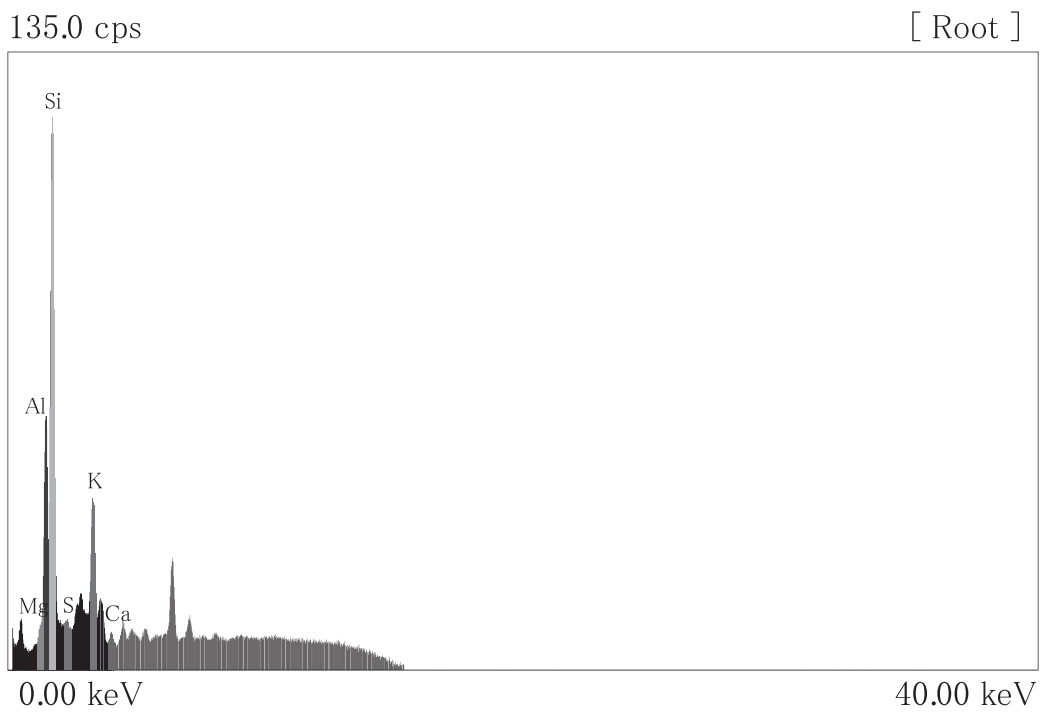
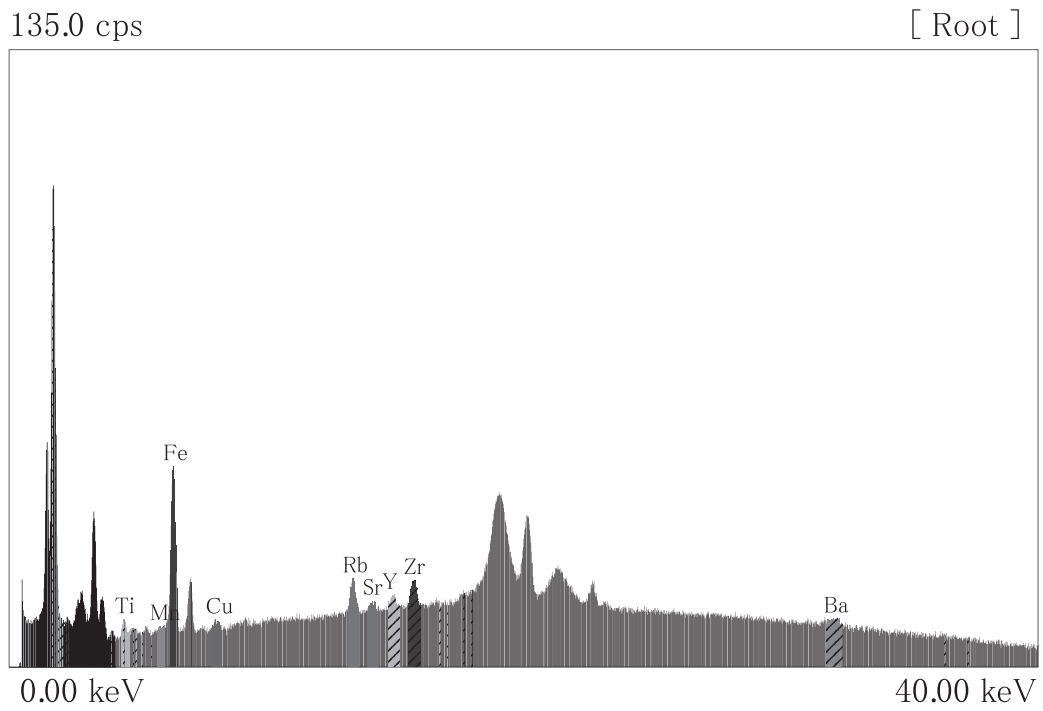


図 612 X線スペクトル (測定箇所 7)

<測定条件 1 >



<測定条件 2 >

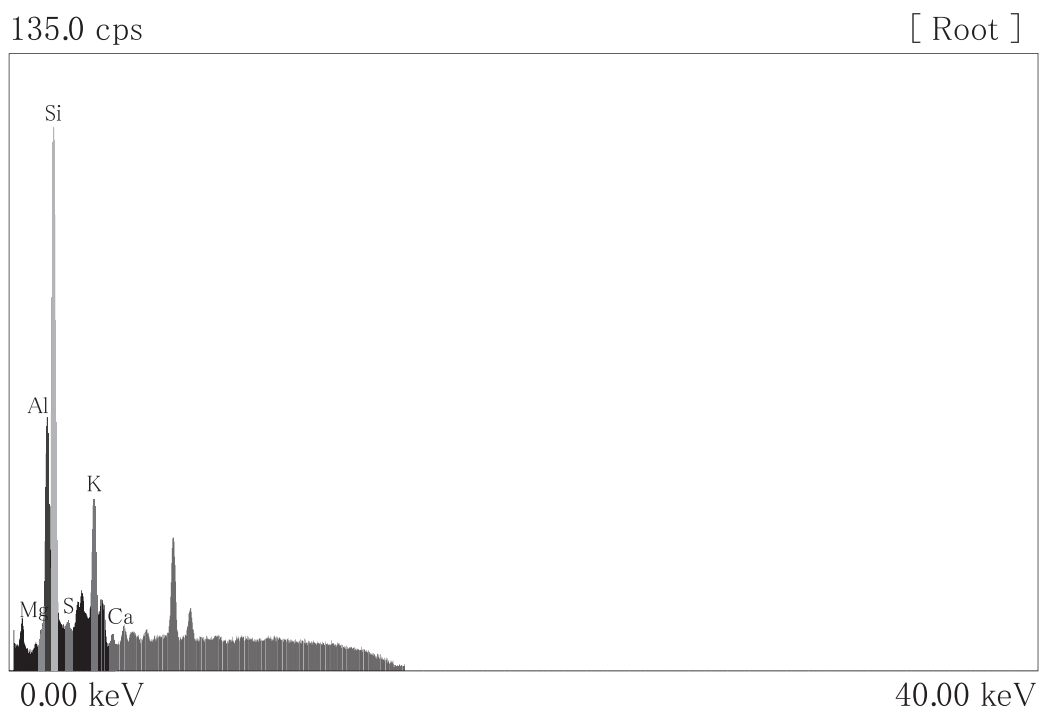
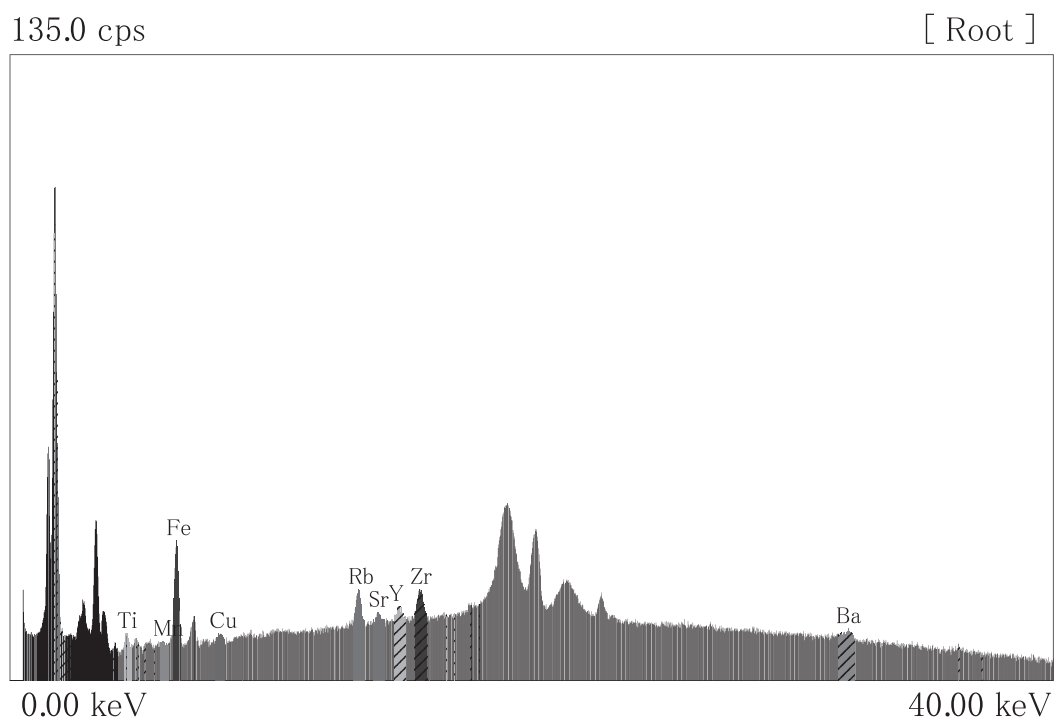


図 613 X線スペクトル (測定箇所 8)

<測定条件 1 >



<測定条件 2 >

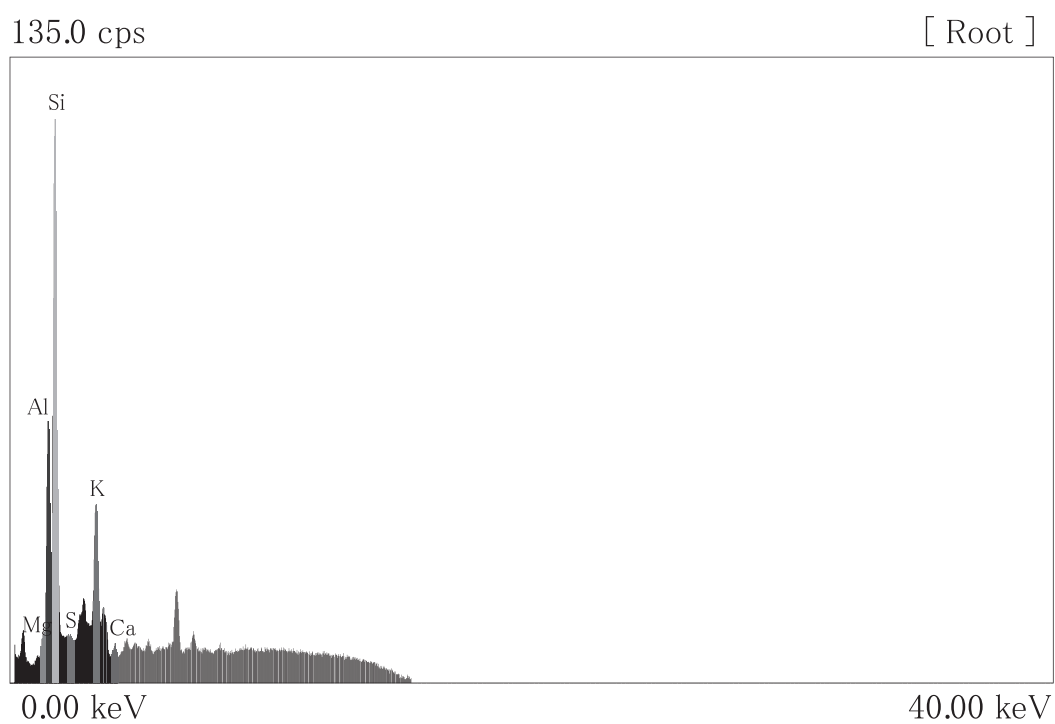
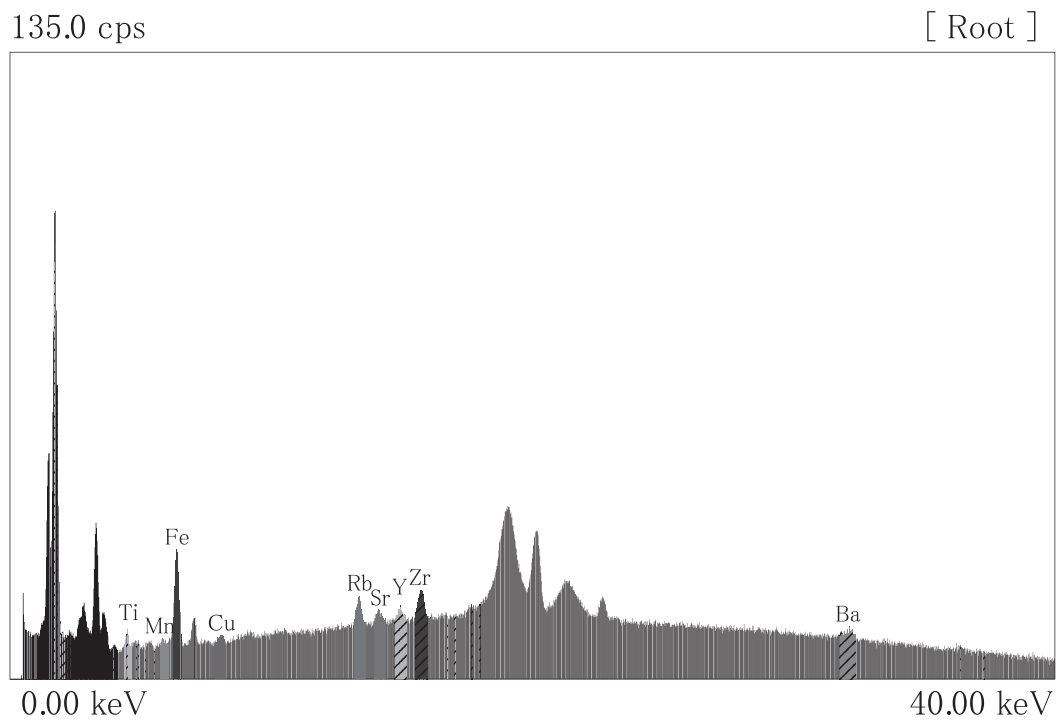


図 614 X線スペクトル (測定箇所9)

〈測定条件 1〉



〈測定条件 2〉

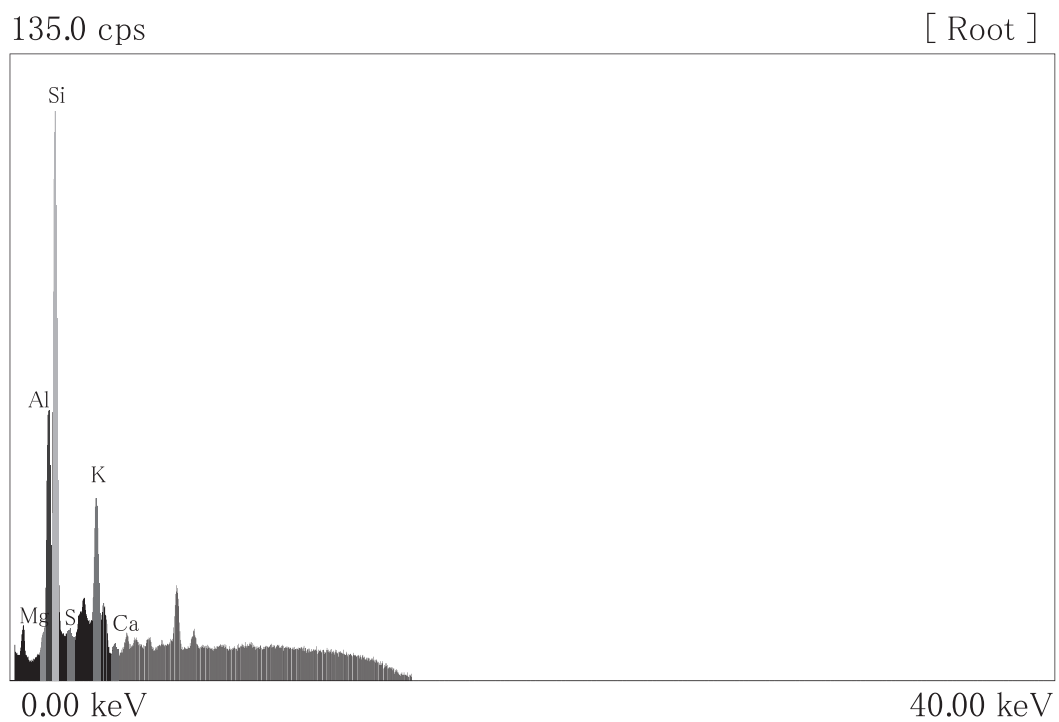
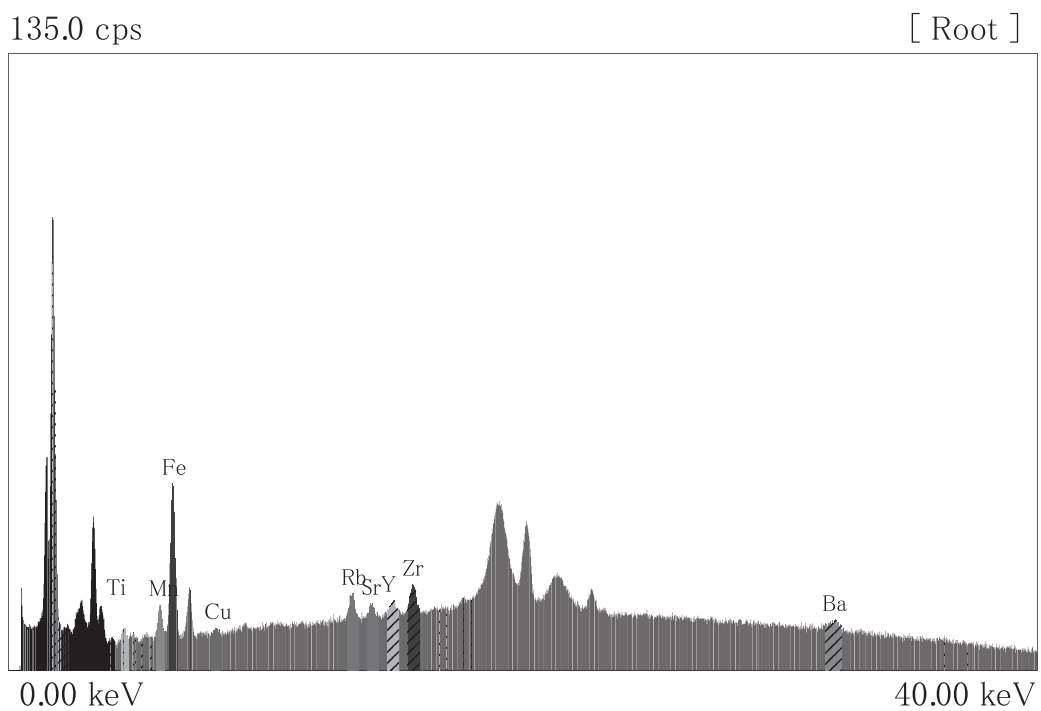


図 615 X線スペクトル (測定箇所 10)

<測定条件 1 >



<測定条件 2 >

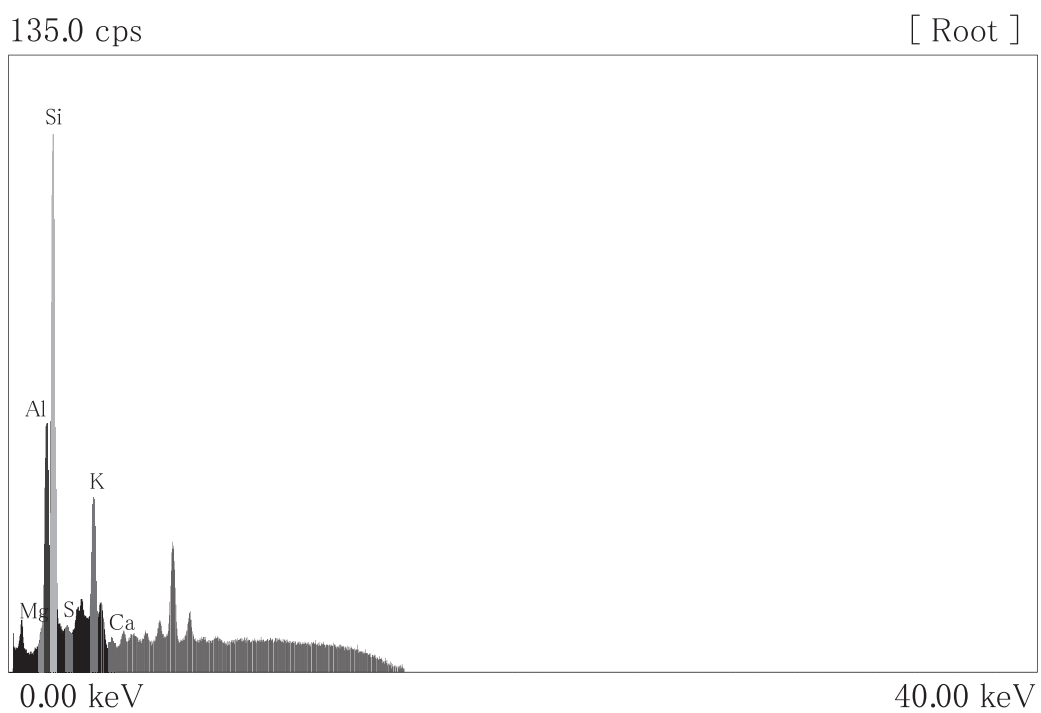


図 616 X線スペクトル (測定箇所 11)

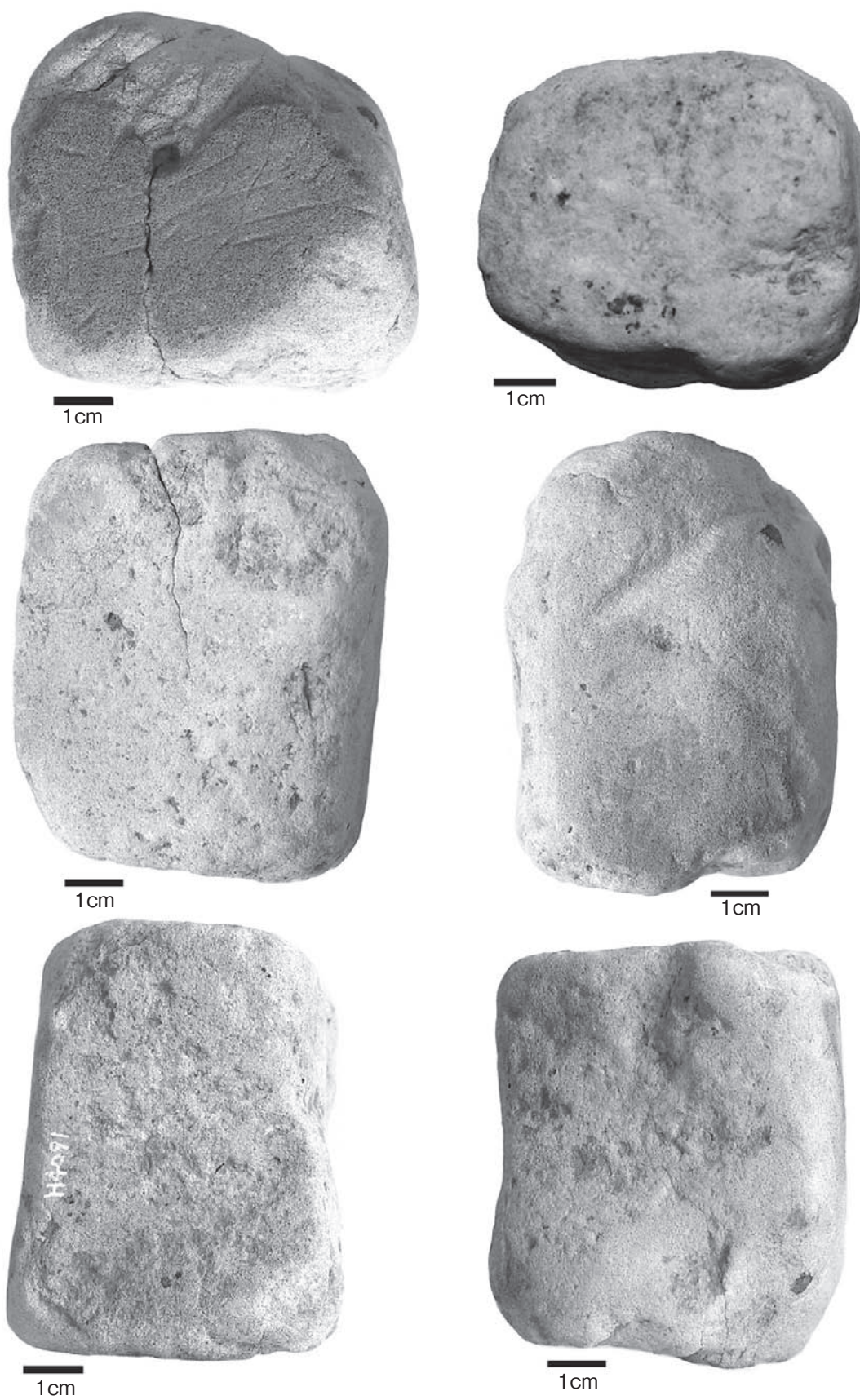


图 617 資料写真图



軟X線写真撮影装置



軟X線写真撮影状況



蛍光X線測定状況



蛍光X線測定状況

図 618 作業状況写真図

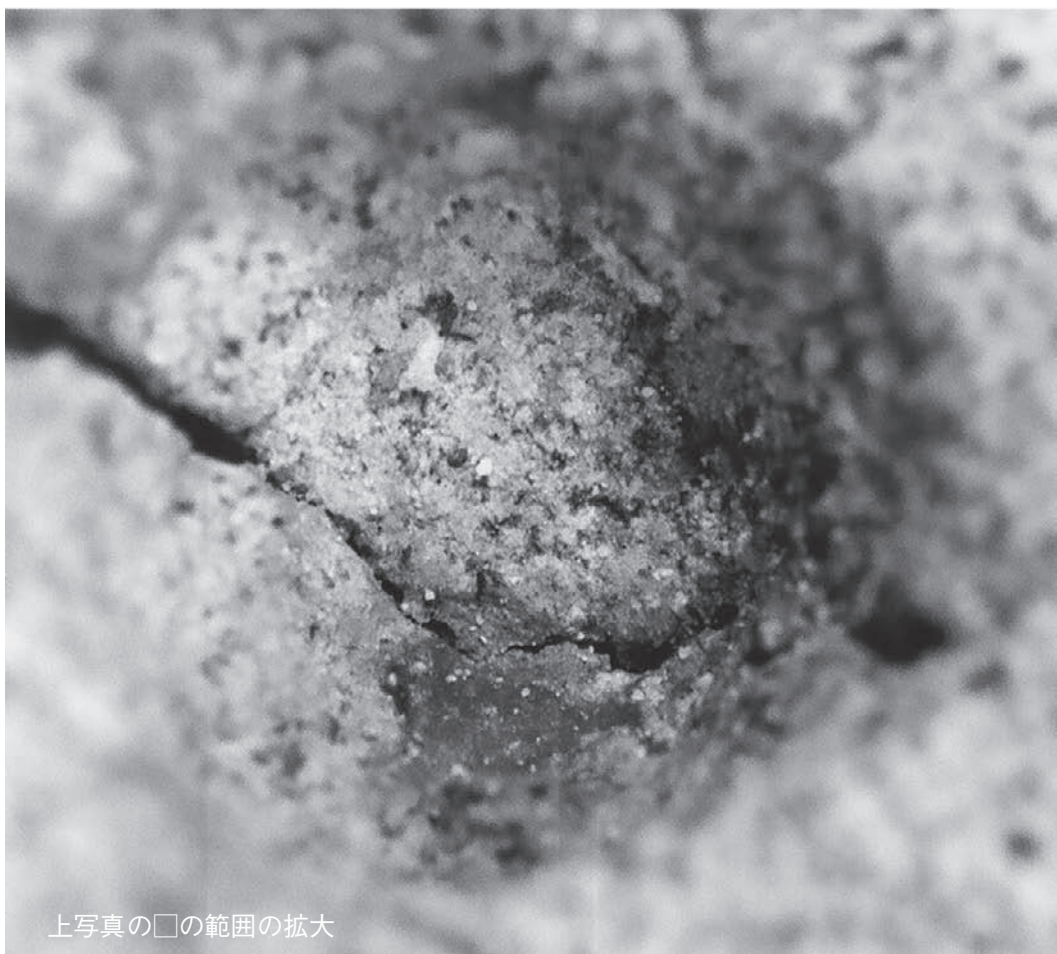
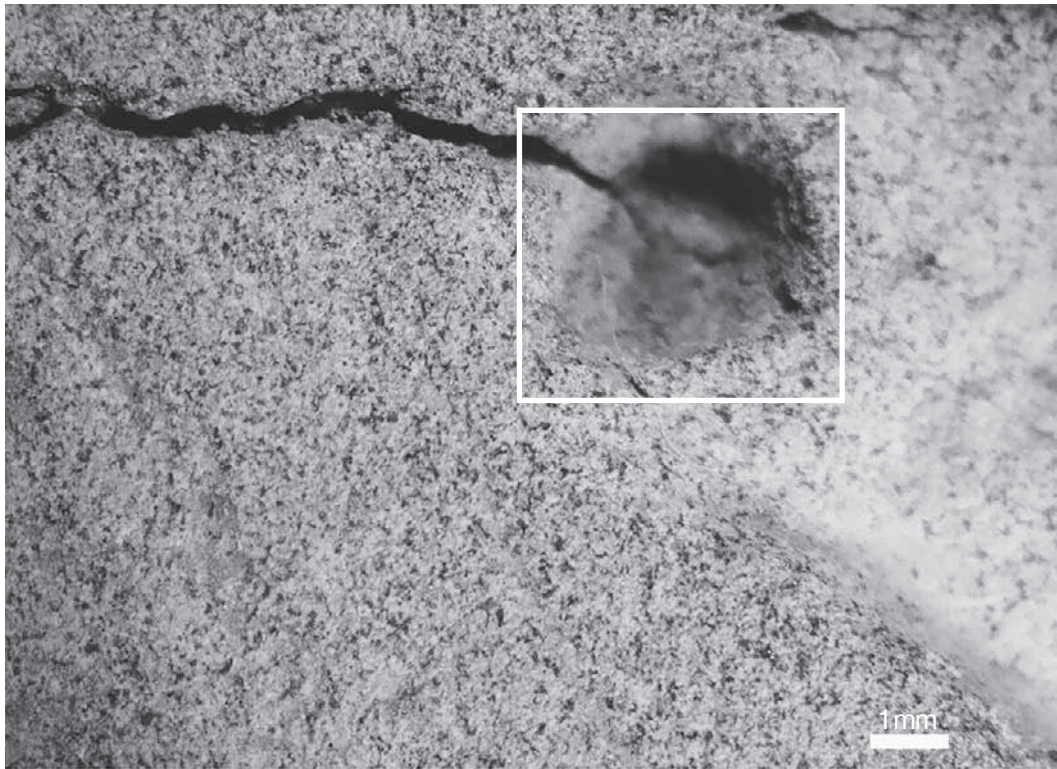


図 619 実体顕微鏡写真図

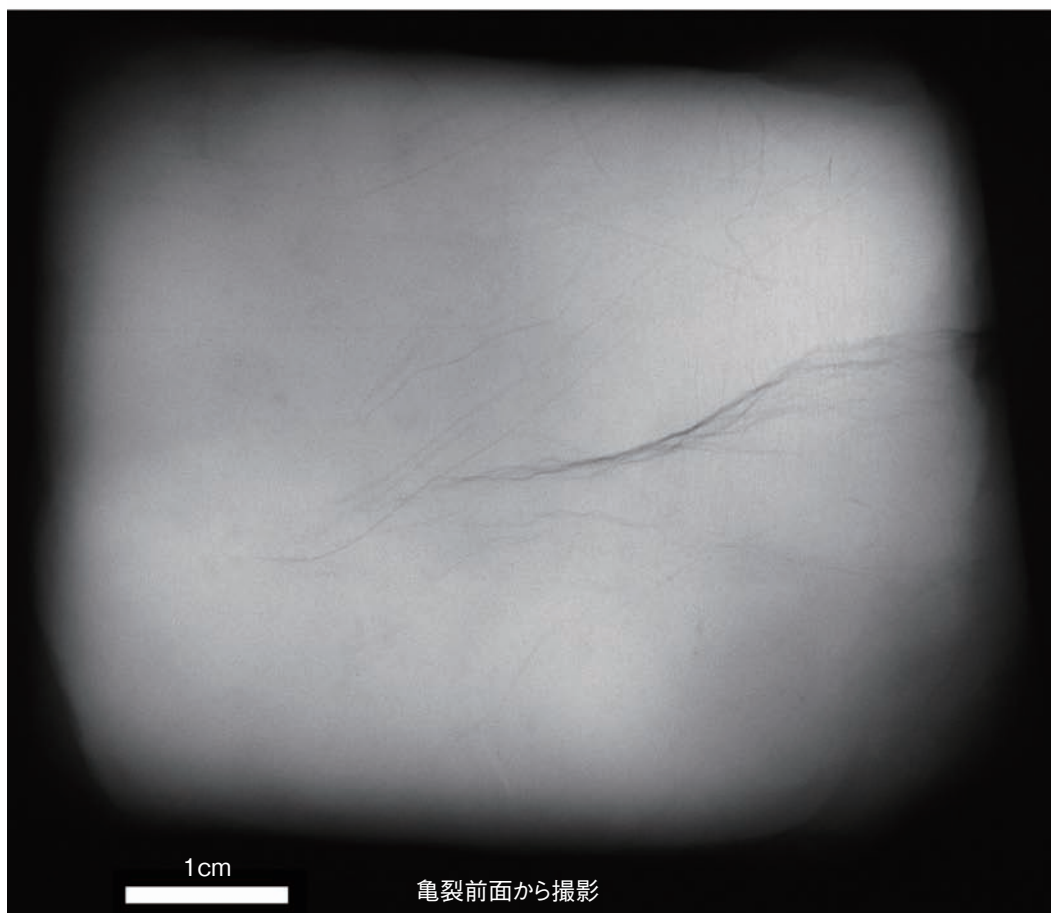
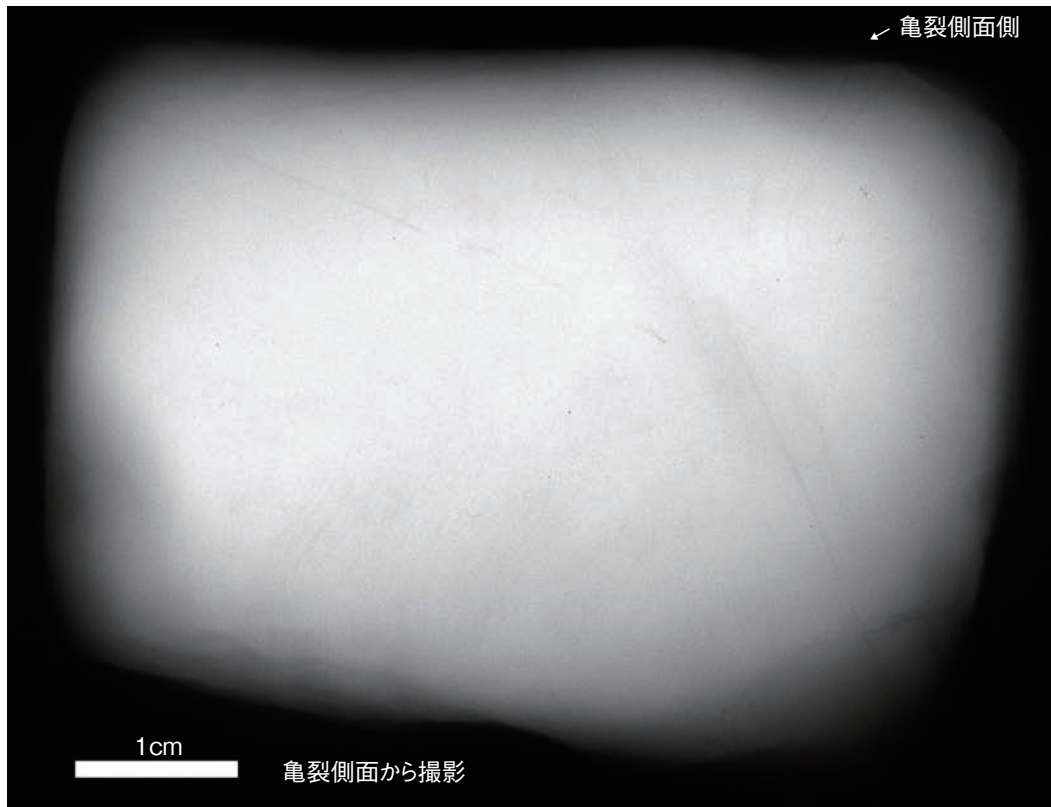


図 620 軟 X 線写真図



分析前



分析後

图 621 分析前後資料写真

4. 考察

今回の調査を行った石製品の亀裂内には、実体顕微鏡観察および軟X線写真観察の結果、金属湯などの溶融物の付着は確認されなかった。また、蛍光X線分析による石製品表面の成分分析の結果、青銅器の主要な成分である、銅・錫・鉛といった金属元素は検出されなかった。また、鑄造面とされる面と、そうでない面でも元素組成に有意な差が認められなかった。以上のことから、分析的には本石製品が鑄型として利用されていたことを特定することはできない。

秋山(2006)は、鑄型の金属成分の付着状況について実験考古学的調査を実施している。その研究成果によると、銅、鉛、錫といった金属は、①石に較べて焼物の方が付着が良い、②石に較べ焼物の方が、二次的影響(土中保管・水洗浄)によって付着物が消失しやすい、③付着・遺存状況では、鉛→銅→錫の順で減少する、④そのなかでは、鉛に対し、銅や錫の付着・遺存具合は極端に劣る、⑤さらに錫に対し、銅の方が付着・遺存具合は良好な傾向をみせる、⑥石、焼物ともに、条件A(湯付着後の状態の維持)→B(毎朝15分4日間の手ブラシによる湯付着部の水洗浄)→C(一定水分を含む土中に1ヶ月保管した後に水洗浄)の順で遺存状況は劣っていき、とくにB・C間の差が大きい、⑦蛍光X線照射範囲の広狭によって、分析データにカウントされる結果が大きく異なる、ことが確認されている。これらの成果を踏まえると、今回の石製品についても、本来保有していた金属元素などの情報が、堆積物中での遺存期間中、あるいは出土後の水洗浄などの影響によって、把握できなくなっている可能性も充分考えられる。したがって、今回の分析結果から、鑄型として利用されていた可能性を完全に否定することもできない。なお、鑄造面の可能性がある黒色面では、実体顕微鏡観察の結果、黒色の有色鉱物が確認されたが、これは鑄造面でない面で確認される黄褐色の鉱物が変質したものかもしれない。今後、この有色鉱物について成分分析および、岩石鉱物学的検討を行い、その変質過程について検討することが本遺物の性格を把握する課題と考えられる。

(パリノ・サーヴェイ株式会社)

引用文献

秋山浩三,2006,銅鐸鑄型の蛍光X線分析と試考実験.喜谷美宣先生古稀記念論集,喜谷美宣先生古稀記念論集刊行会,111-121.

第7節 旧練兵場遺跡出土赤色顔料の蛍光 X 線分析

竹原弘展 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

旧練兵場遺跡より出土した土器および石器に付着する赤色顔料について蛍光 X 線分析を行い、組成を検討した。

2. 試料と方法

分析対象資料は、旧練兵場遺跡から出土した土器 79 点および石器 3 点に付着する赤色顔料で、時期は弥生時代である (表 44)。実体顕微鏡下で、資料の赤色部分を極少量ゼロハンテープに採取して分析試料とした。

分析装置はエネルギー分散型蛍光 X 線分析装置である (株) 堀場製作所製分析顕微鏡 XGT-5000Type II を使用した。装置の仕様は、X 線管が最大 50kV・1mA のロジウムターゲット、X 線ビーム径が 100 μ m または 10 μ m、検出器は高純度 Si 検出器 (Xerophy) で、試料室の大きさは 350 × 400 × 40mm である。検出可能元素はナトリウム～ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光 X 線分析装置の性質上、検出感が悪いため、試料中に少量含む程度ではピークを検出し難く、検出できてもその定量値はかなり誤差が大きい。

本分析での測定条件は、50kV、0.38～1.00mA (自動設定による)、ビーム径 100 μ m、測定時間 500s (分析 No. 71 のみ 1500s)、パルス処理時間 P4 (分解能を重視した設定) に設定した。定量分析は標準試料を用いない FP (ファンダメンタル・パラメータ) 法による半定量分析を装置付属ソフトで行った。そのため、定量値の誤差は大きい。

また、採取した試料は顕微鏡下での観察も行い、赤色顔料の粒子形状を確認した。

3. 結果

分析により得られたスペクトルおよび FP 法による半定量分析結果を図 622～630 に示す。

分析 No. 9、No. 22、No. 27、No. 29～No. 36、No. 51、No. 53、No. 54、No. 57、No. 59、No. 72 からは水銀 (Hg) と硫黄 (S) が検出された。他にケイ素 (Si)、アルミニウム (Al) を中心に、カリウム (K)、カルシウム (Ca)、チタン (Ti)、鉄 (Fe)、銅 (Cu) などが検出された。

その他の試料からはケイ素 (Si)、アルミニウム (Al)、鉄 (Fe) を中心に、リン (P)、硫黄 (S)、カリウム (K)、カルシウム (Ca)、チタン (Ti)、マンガン (Mn) などが検出された。また、分析 No. 71 からはセリウム (Ce) などの希土類元素が検出された。

また、顕微鏡観察により得られた画像を図版 631

時期	ベンガラ	水銀朱	計	
弥生時代	前期	2	1	3
	中期	2	0	2
	後期	47	14	61
	不明	10	2	12
古代	1	0	1	
計	62	17	79	

表 44 土器の時期ごとの付着顔料

器種	ベンガラ	水銀朱	計
高杯	15	0	15
鉢	4	4	8
台付鉢	3	0	3
器台	1	0	1
壺	20	0	20
壺 or 鉢	0	1	1
甕	1	0	1
甕 or 鉢	1	0	1
朱精製容器	0	4	4
不明	2	5	7
計	47	14	61

表 45 弥生時代後期の土器の器種ごとの付着顔料

～634に示す。分析No.60とNo.77から、赤色パイプ状の粒子が観察された。

4. 考察

この時期に使用されていた赤色顔料としては、朱（水銀朱）とベンガラが挙げられる。水銀朱は、硫化水銀（HgS）で鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。ベンガラは狭義には三酸化二鉄（Fe₂O₃、鉱物名は赤鉄鉱）を指すが、広義には鉄（Ⅲ）の発色に伴う赤色顔料全般を指し（成瀬，2004）、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約1 μmのパイプ状の粒子形状からなるものも多く報告されている。これは鉄バクテリアを起源とすることが判明しており（岡田，1997）、含水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す（成瀬，1998）。

分析No.9、No.22、No.27、No.29～No.36、No.51、No.53、No.54、No.57、No.59、No.72からは水銀と硫黄が検出されたことから、これら土器には水銀朱が付着していたといえる。なお、ヒ素（As）などの産地の特徴を示す可能性があるといわれる微量元素は特に検出できなかった。

他の試料については、ケイ素など土中成分に由来すると考えられる元素は検出されたものの、水銀は検出されなかった。鉄が多く検出されていることから、赤い発色は鉄によるものと推定できる。すなわち、顔料としてはベンガラにあたると考えられる。また、光学顕微鏡下で観察したところ、分析No.60とNo.77からはパイプ状の粒子が検出されたことから、鉄バクテリアを起源とする、いわゆるパイプ状ベンガラが利用されていたといえる。なお、分析No.71は、鉄も多く検出されたが、希土類元素やリンの含有量も多かった。当試料を採取した磨石は、肉眼および実体顕微鏡下で観察すると、花崗岩質で、表面に赤褐色の物質が沈着しているような様子である。採取試料の化学組成が他者とは明らかに異なっており、由来が異なると考えられる。

表45に土器の時期ごとの付着顔料、表46、47に弥生時代後期の土器の器種ごとの付着顔料を示す。水銀朱は、朱精製容器と鉢に付着している傾向がうかがえた。なお、水銀朱の付着部位はいずれも内面であった。

5. おわりに

旧練兵場遺跡より出土した土器79点及び石器3点計82点に付着する赤色顔料について分析した。

その結果、土器17点からは水銀と硫黄が検出され、使用顔料は水銀朱であることが判明した。これら土器は朱精製容器、鉢が多く、いずれも土器内面であった。

また、土器62点および石器2点に付着する赤色顔料からは鉄が多く検出され、鉄（Ⅲ）による発色と推定された。顔料としてはベンガラにあたる。分析No.60とNo.77からはパイプ状ベンガラが検出された。

一方、磨石付着赤色物の分析No.71は、鉄などと共にリンや希土類元素が多く検出され、他とは明らかに異なる組成を示した。

引用文献

- 成瀬正和（1998）縄文時代の赤色顔料Ⅰ—赤彩土器—，考古学ジャーナルNo.438，10-14，ニューサイエンス社。
成瀬正和（2004）正倉院宝物に用いられた無機顔料，正倉院紀要，13-61，宮内庁正倉院事務所。
岡田文男（1997）パイプ状ベンガラ粒子の復元。日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集，38-39。

分析番号	報告番号	遺構名	層位	種類	時期	器種	部位	主に検出された元素	パイプ状粒子の有無	顔料の種類
1	2967	SR02 上層溝	下層	弥生土器	後期	高杯	内面・外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
2	3160	SR02 上層溝	下層	弥生土器	後期	壺	口縁外面	Si,Al,Fe,K		ベンガラ
3	3061	SR02 上層溝	上層	弥生土器	後期	台付鉢	内面・外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
4	3062	SR02 上層溝	下層	弥生土器	後期	台付鉢	外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
5	3220	SR02 上層溝	下層	弥生土器	後期	高杯	脚外面	Si,Fe,Al		ベンガラ
6	3010	SR02 上層溝	下層	弥生土器	後期	壺	外面(文様内)	Fe,Si,Al		ベンガラ
7	3166	SR02 上層溝	下層	弥生土器	後期	壺	外面	Si,Fe,P,Al		ベンガラ
8	3067	SR02 上層溝	下層	弥生土器	後期	高杯	外面	Si,Fe,Al		ベンガラ
9	3635	SR02 上層溝	(上層) ~下層	弥生土器	後期	不明	内面	Si,Hg,S,Al		水銀朱
10	3464	SR02 上層溝	上層	弥生土器	後期	高杯	脚	Si,Al,Fe		ベンガラ
11	3507	SR02 上層溝	上層	弥生土器	後期	壺	外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
12	3403	SR02 上層溝	上層	弥生土器	後期	不明	外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
13	4699	SR02 上層溝	上層	弥生土器	後期	不明	外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
14	3369	SR02 上層溝	上層	弥生土器	後期	壺	口縁外面(文様内) ・口縁内面(文様内)	Fe,Si,Al		ベンガラ
15	2968	SR02 上層溝	0	弥生土器	後期	高杯	内面・外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
16	1168	SP1750		古代		皿	内面・外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
17	3644	SR02 上層溝	上層	弥生土器	後期	鉢	内面・外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
18	3458	SR02 上層溝	上層	弥生土器	後期	高杯	内面(外面剥落)	Si,Al,Fe		ベンガラ
19	3643	SR02 上層溝	上層	弥生土器	後期	高杯	脚外面	Si,Al,Fe,K		ベンガラ
20	2619	SR02 上層溝	上層	弥生土器	後期	高杯	杯部外面	Si,Fe,Al		ベンガラ
21	3615	SR02 上層溝	上層	弥生土器	後期	高杯	脚外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
22	3693	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	不明	内面	Hg,S,Si		水銀朱
23	3807	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	壺	口縁内面・口 縁端部文様内	Si,Al,Fe		ベンガラ
24	3717	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	壺	外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
25	3719	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	壺	外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
26	3791	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	高杯	外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
27	3755	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	鉢	内面	S,Hg,Si,Al		水銀朱
28	3825	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	台付鉢	内面	Si,Fe,Al		ベンガラ
29	3754	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	鉢	内面	Hg,S,Si,Al		水銀朱
30	3842	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	不明	内面	Si,S,Hg,Al		水銀朱
31	3843	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	不明	内面	Hg,S,Si,Al		水銀朱
32	3844	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	不明	内面	Hg,S,Si,Al		水銀朱
33	3841	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	朱精製 容器	内面	Hg,S,Si		水銀朱
34	3287	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	壺 or 鉢	内面	Hg,Si,S,Al		水銀朱
35	3982	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	鉢	内面・断面	Si,Hg,S,Al		水銀朱
36	4033	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	鉢	内面	Hg,S,Si		水銀朱
37	4051	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	壺	外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
38	4535	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	甕 or 鉢	内面	Si,Al,Fe,K		ベンガラ
39	4534	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	鉢	外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
40	4661	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	甕	外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
41	4633	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	壺	外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
42	4872	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	鉢	内面・外面	Si,Fe,Al		ベンガラ
43	4868	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	高杯	内面	Si,Al,Fe		ベンガラ
44	5021	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	壺	外面	Si,Al,Fe,Ti		ベンガラ
45	4905	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	壺	外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
46	5133	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	壺	外面	Si,Al,Fe,K		ベンガラ
47	5199	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	壺	外面	Si,Al,Fe,Ca		ベンガラ
48	5421	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	高杯	内面・外面	Si,Fe,Al		ベンガラ
49	5356	SR02 上層	一括	弥生土器	後期	壺	口縁内面・口 縁端外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
50	3224	SR02 上層	上層	弥生土器	後期	器台	脚	Si,Al,Fe		ベンガラ
51	5456	SR02 上層	上層(茶褐色 包含層)	弥生土器	後期	朱精製 容器	内面	Hg,S,Si		水銀朱
52	5382	SR02	一括	弥生土器	前期か?	壺	内面	Si,Fe,Al		ベンガラ
53	2956	SR02	上層	弥生土器	後期	朱精製 容器	内面・側縁	Hg,S,Si		水銀朱
54	2318	SR01	最下層 上位	弥生土器	前期	鉢	内面	Hg,S,Si		水銀朱
55	53	SH01	検出面	弥生土器		高杯	内面・外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
56	142	SH09		弥生土器		鉢	口縁外面スリップ	Si,Al,Fe,K		ベンガラ

表 46 分析対象資料 その1

分析番号	報告番号	遺構名	層位	種類	時期	器種	部位	主に検出された元素	バイブ状粒子の有無	顔料の種類
57	224	SH15		弥生土器		鉢	内面全面	S,Hg,Si,Al		水銀朱
58	276	SH27	上層	弥生土器		高杯	内面・外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
59	356	SH31		弥生土器		朱精製 容器	内面	Hg,S,Si,Al		水銀朱
60	449	SH38	下段	弥生土器		壺	外面	Si,Fe,Al	◎	ベンガラ
61	527	SH42		弥生土器		器台	口縁部外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
62	789	SB07 (SP541)		弥生土器		高杯	脚外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
63	1530	SD18	下層	弥生土器		鉢	内面・外面	Si,Fe,Al		ベンガラ
64	1586	SD20		弥生土器		壺	内面・外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
65	1599	SD24		弥生土器		壺	内面・外面	Si,Fe,Al		ベンガラ
66	1757	SD36	上層	弥生土器		壺	内面・外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
67	5485	北西上面精査		弥生土器	後期	鉢	外面	Si,Fe,Al		ベンガラ
68	962	第11次調査 SP480		石皿	中期			Si,Fe,Al		ベンガラ
69	1193	第11次調査 包含層		石皿	後期			Si,Fe,Al		ベンガラ
70	2183	B区柱穴		弥生土器	中期	壺	口縁部内面文様内	Si,Al,Fe		ベンガラ
71	653	SH51 ウ	下段	磨石	後期			Si,Fe,P,Ce,Al,La,Ca		
72	—	U区 SH5011	キ No.37	弥生土器	後期	朱精製 容器	内面	Hg,S,Si,Al		水銀朱
73	116?	SH06	218	弥生土器	後期	壺	内面・外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
74	5484	1トレ 流路3		弥生土器	中期	壺	口縁部外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
75	5491	3Nトレ弥生 後期包含層		弥生土器	後期	壺	外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
76	5490	上面精査		弥生土器	後期	壺	外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
77	5497	SH群上面精査		弥生土器	後期	高杯	外面	Si,Fe,Al	◎	ベンガラ
78	5492	西南灰褐色粘質土		弥生土器	後期	高杯	外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
79	5493	上面精査		弥生土器	後期	壺	外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
80	5500	SD30周辺		弥生土器	後期	高杯	外面	Si,Fe,Al		ベンガラ
81	5485	北西上面精査		弥生土器	後期	壺	外面	Si,Al,Fe		ベンガラ
82	—	SR04	下層	弥生土器	前期	鉢	内面・外面 (微量)	Si,Al,Fe		ベンガラ

表 47 分析対象資料 その2

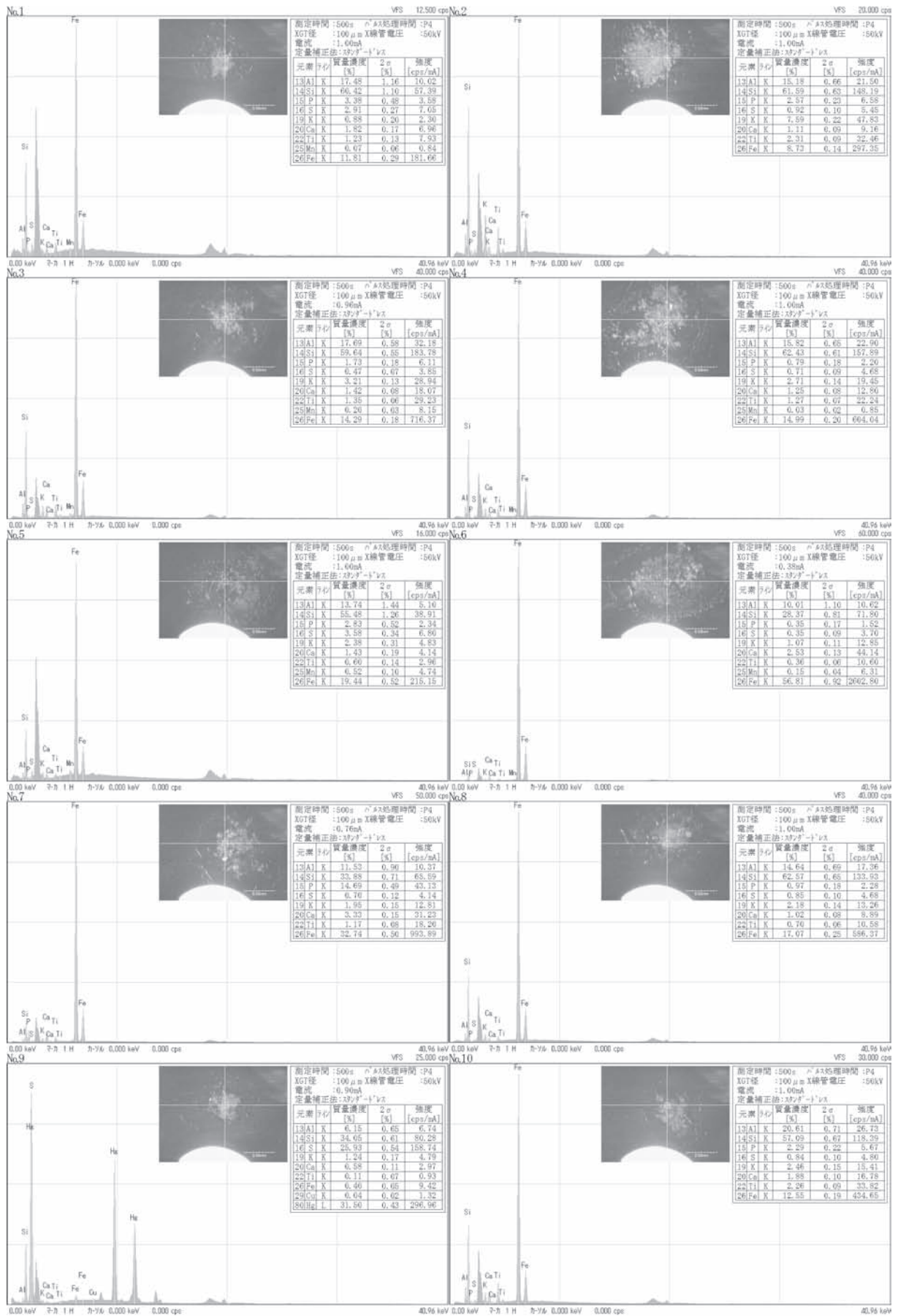


図 622 赤色顔料の蛍光 X 線分析結果 (1)

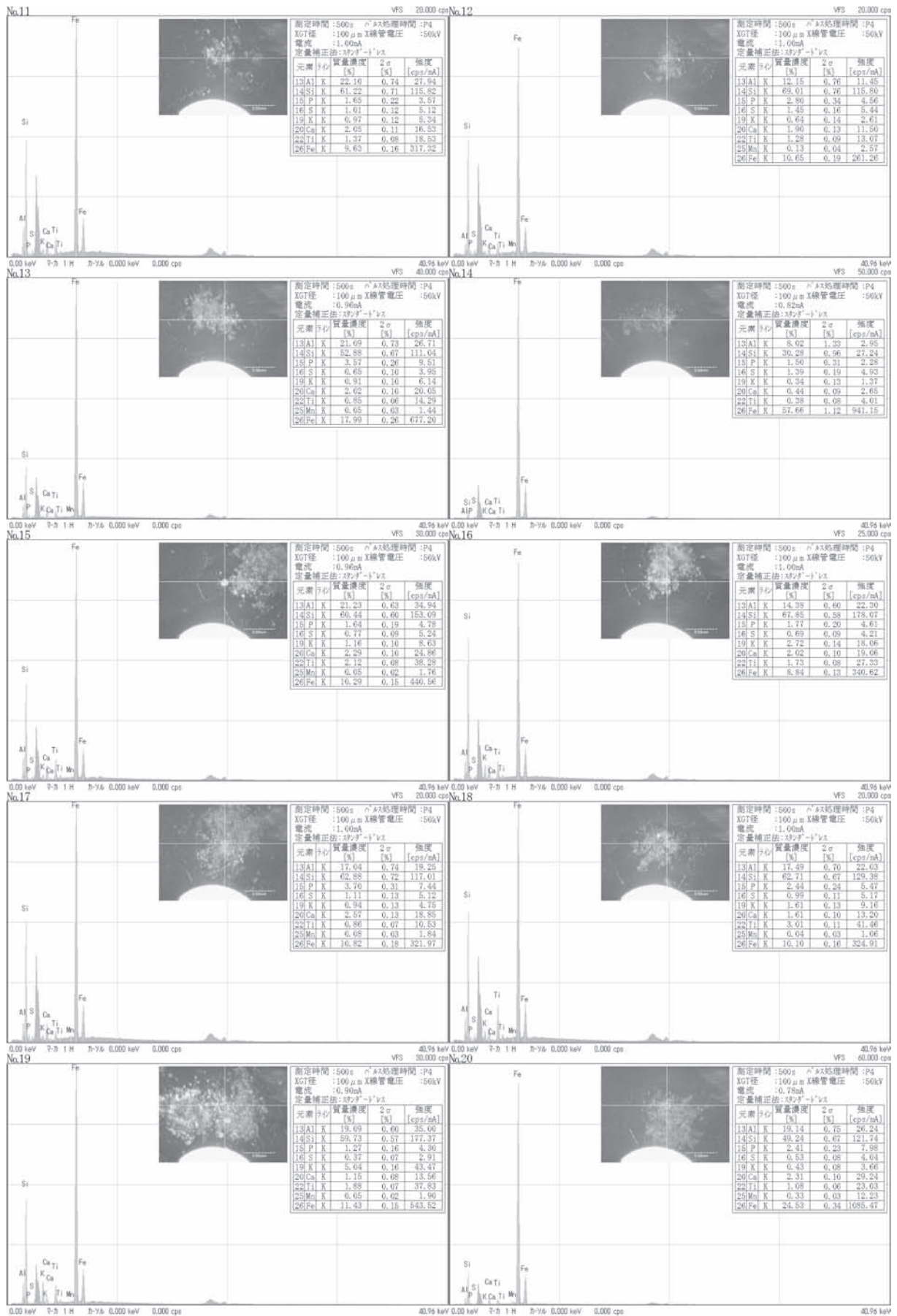


図 623 赤色顔料の蛍光 X 線分析結果 (2)

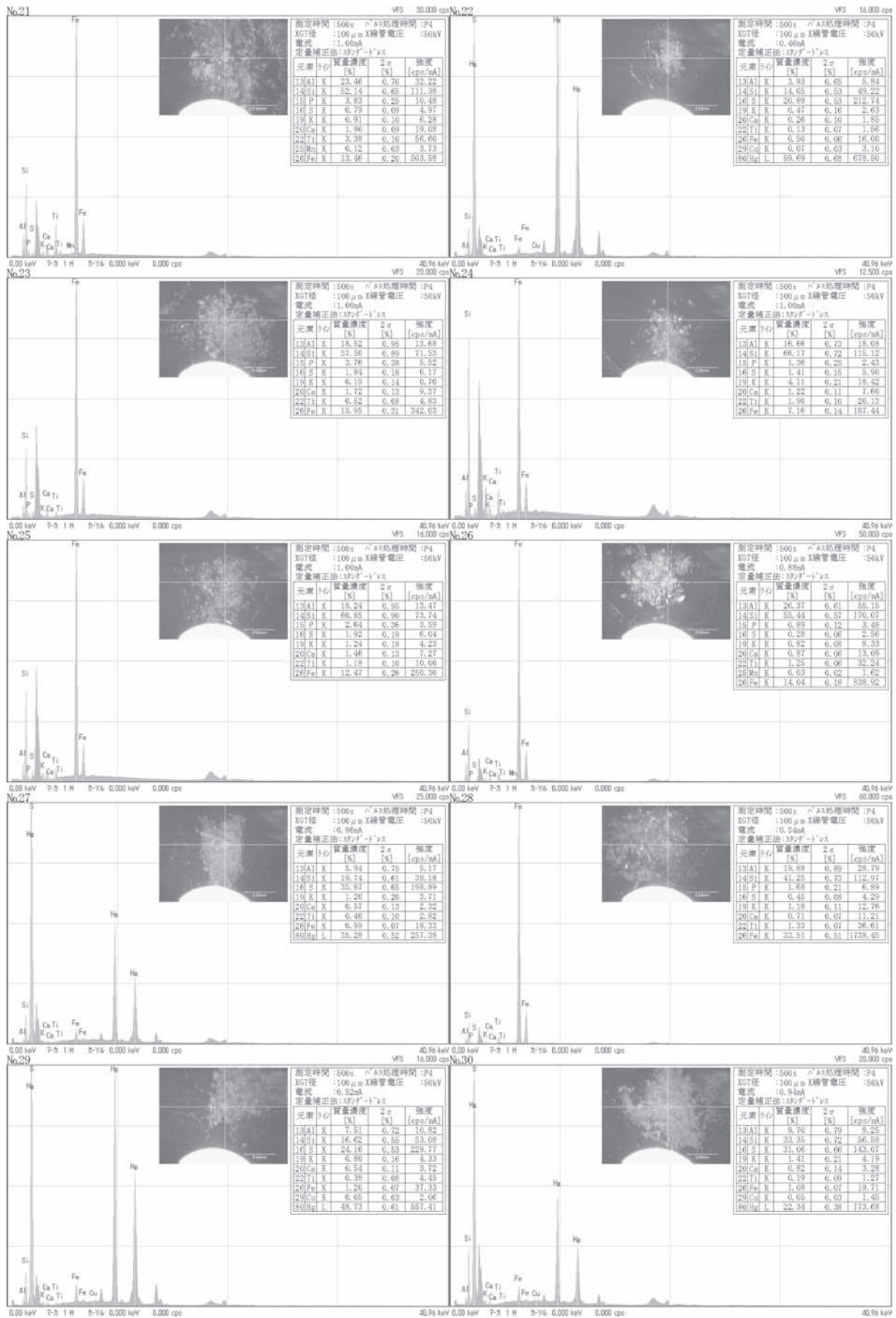


図 624 赤色顔料の蛍光 X 線分析結果 (3)

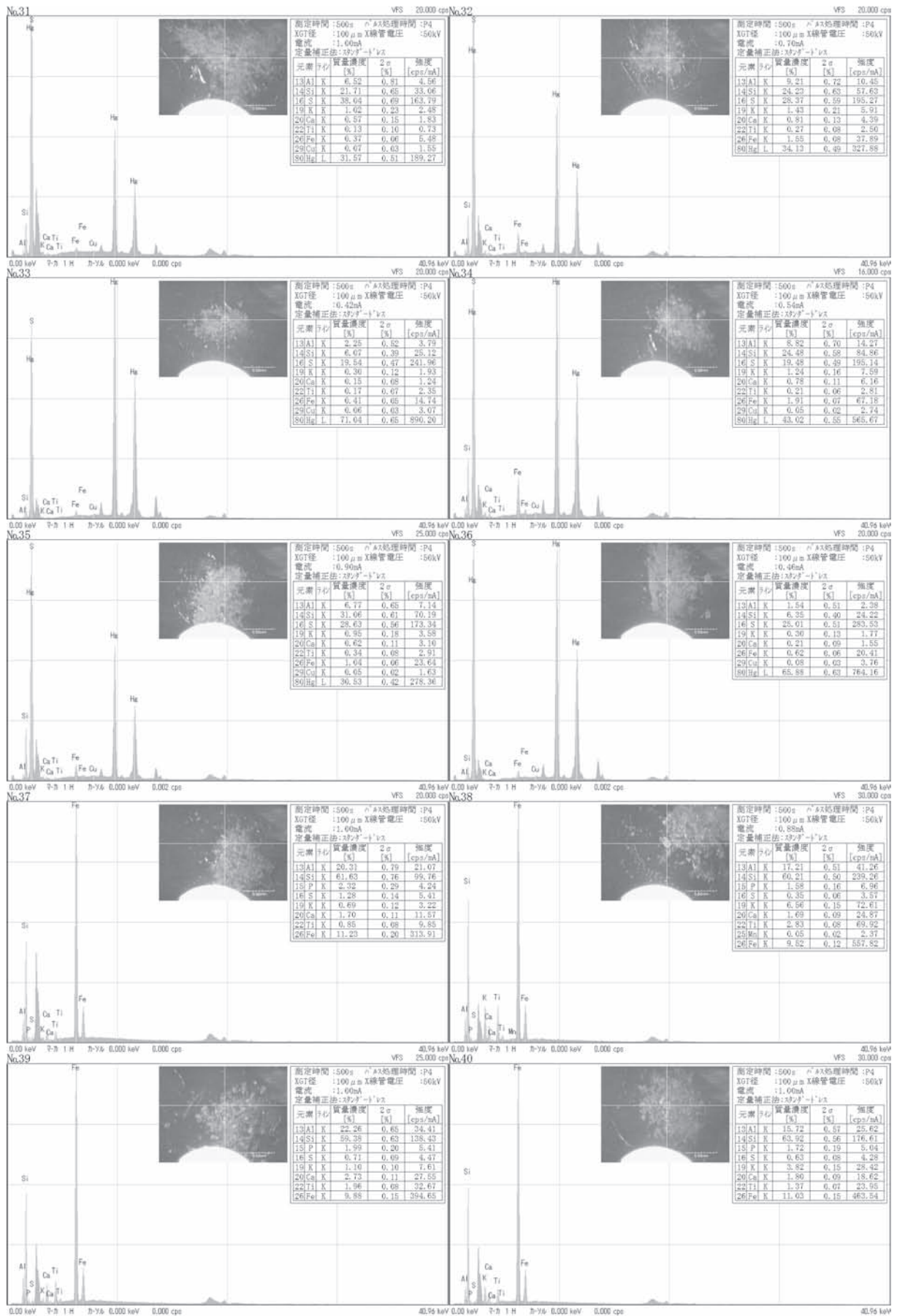


図 625 赤色顔料の蛍光 X 線分析結果 (4)

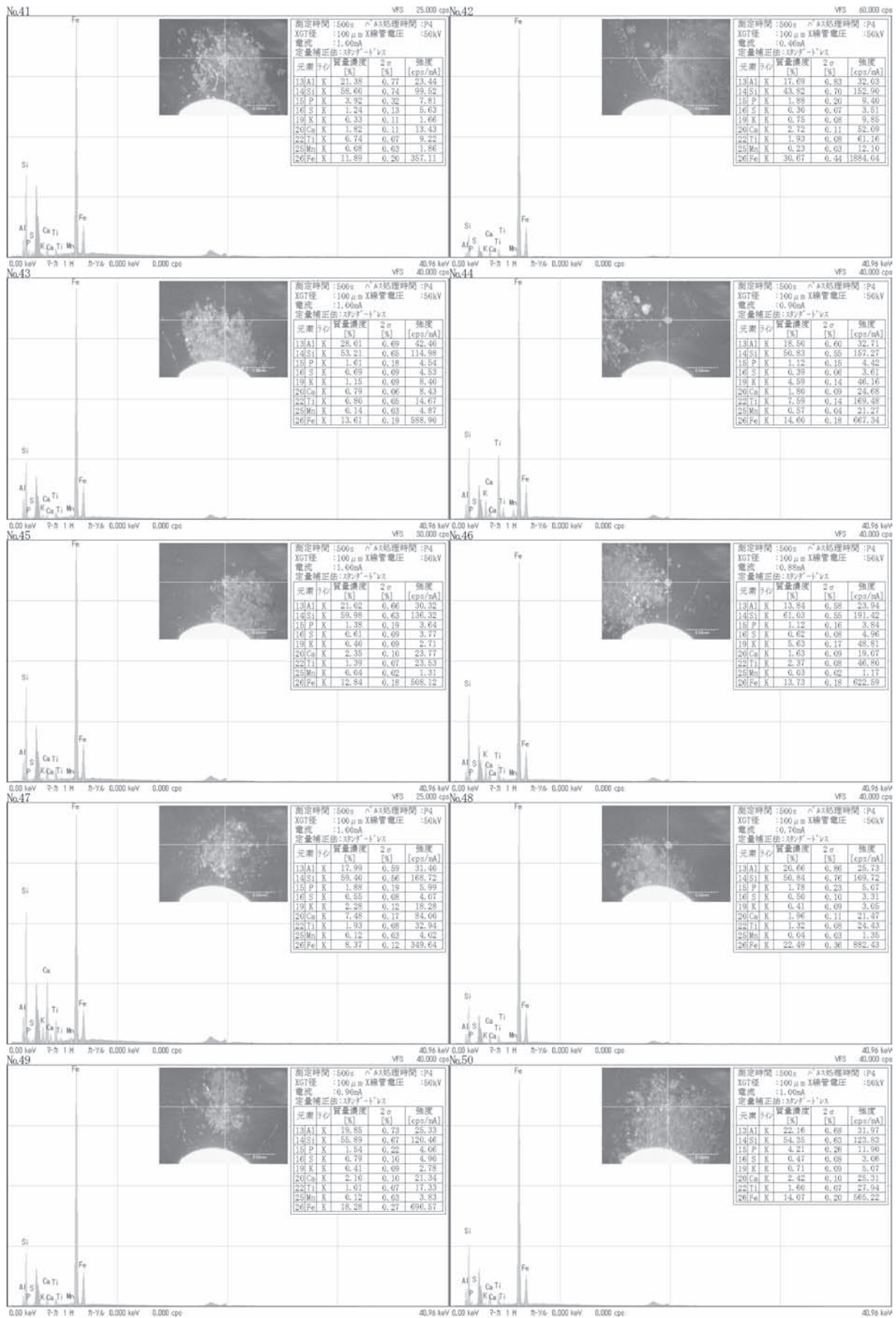


図 626 赤色顔料の蛍光 X 線分析結果 (5)

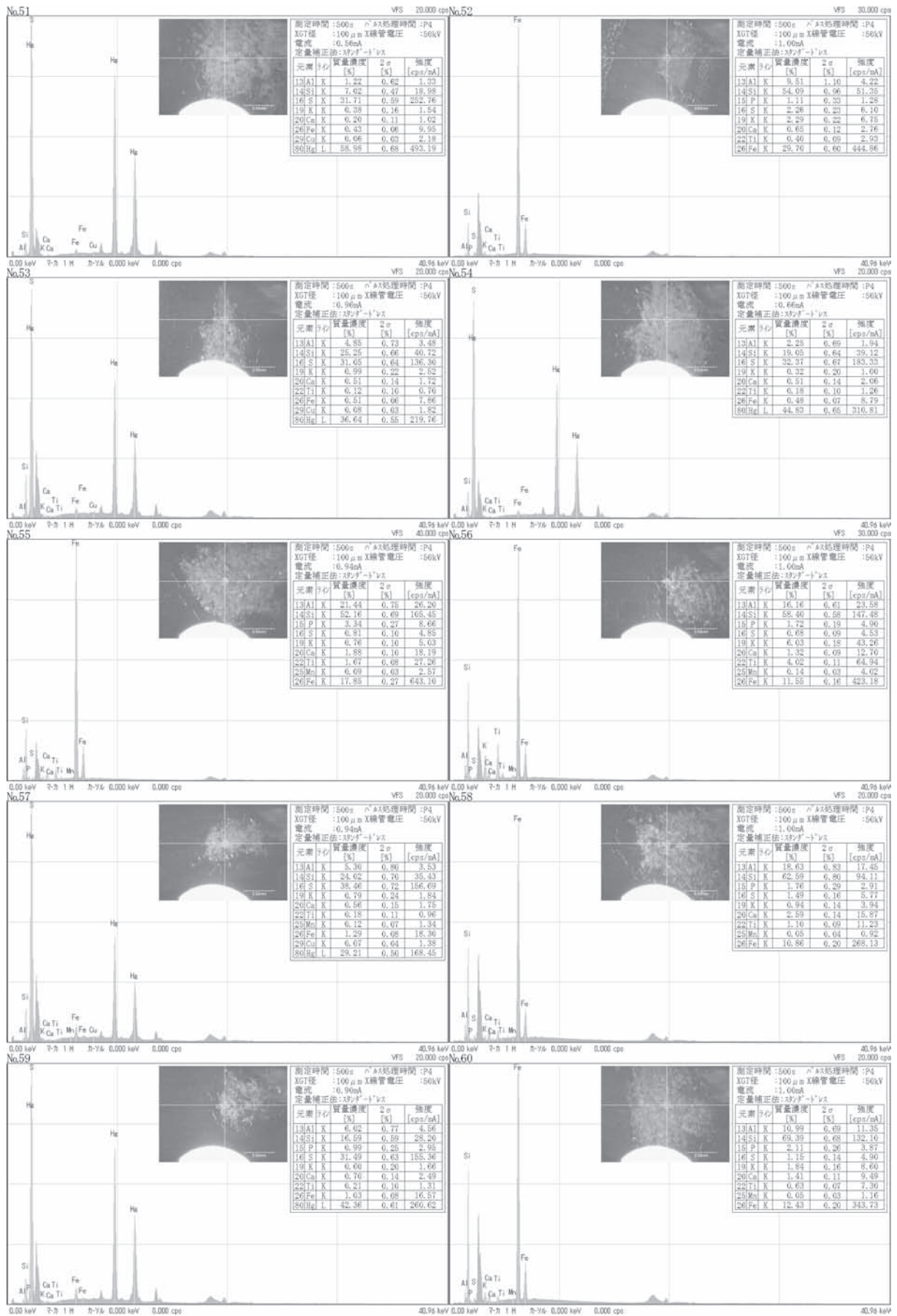


図 627 赤色顔料の蛍光 X 線分析結果 (6)

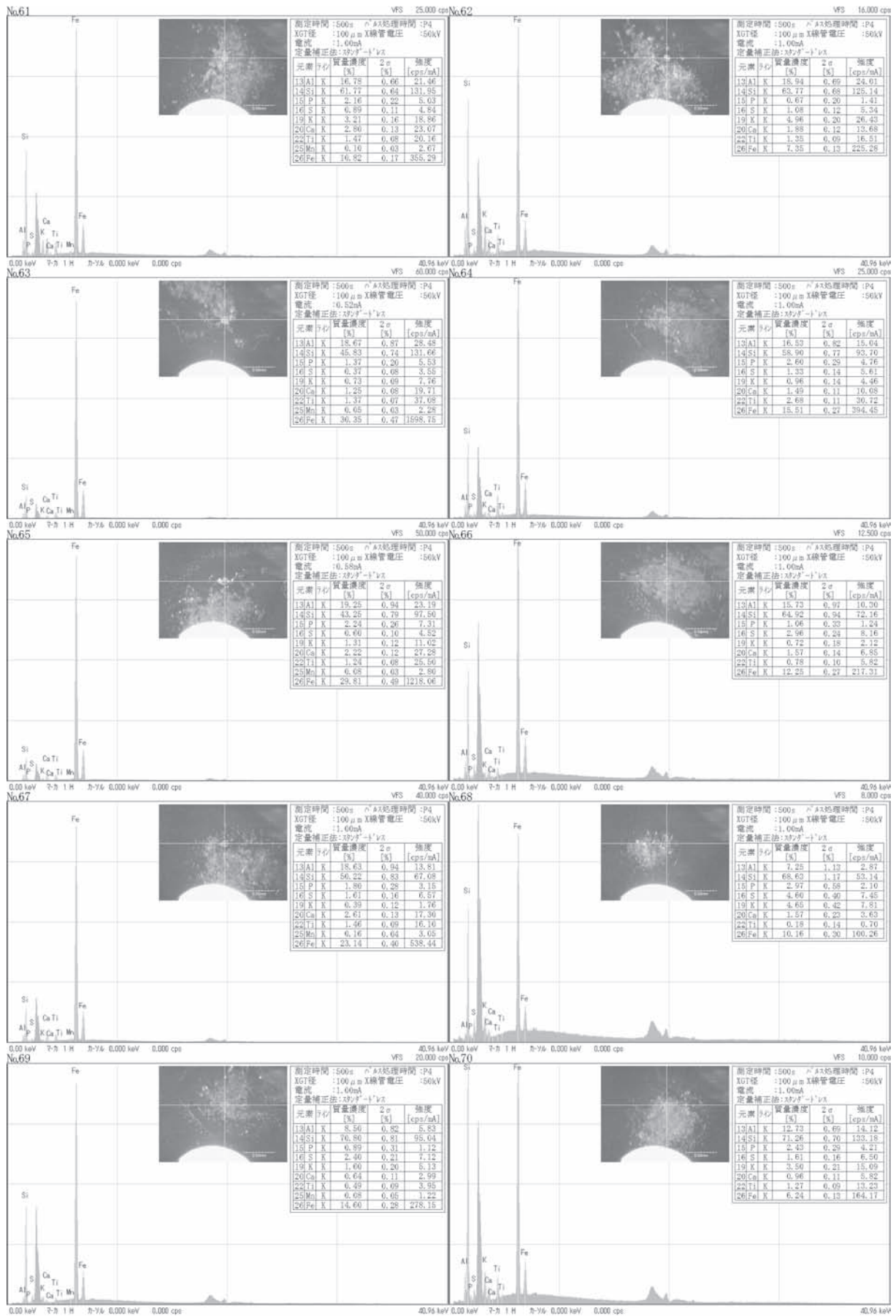


図 628 赤色顔料の蛍光 X 線分析結果 (7)

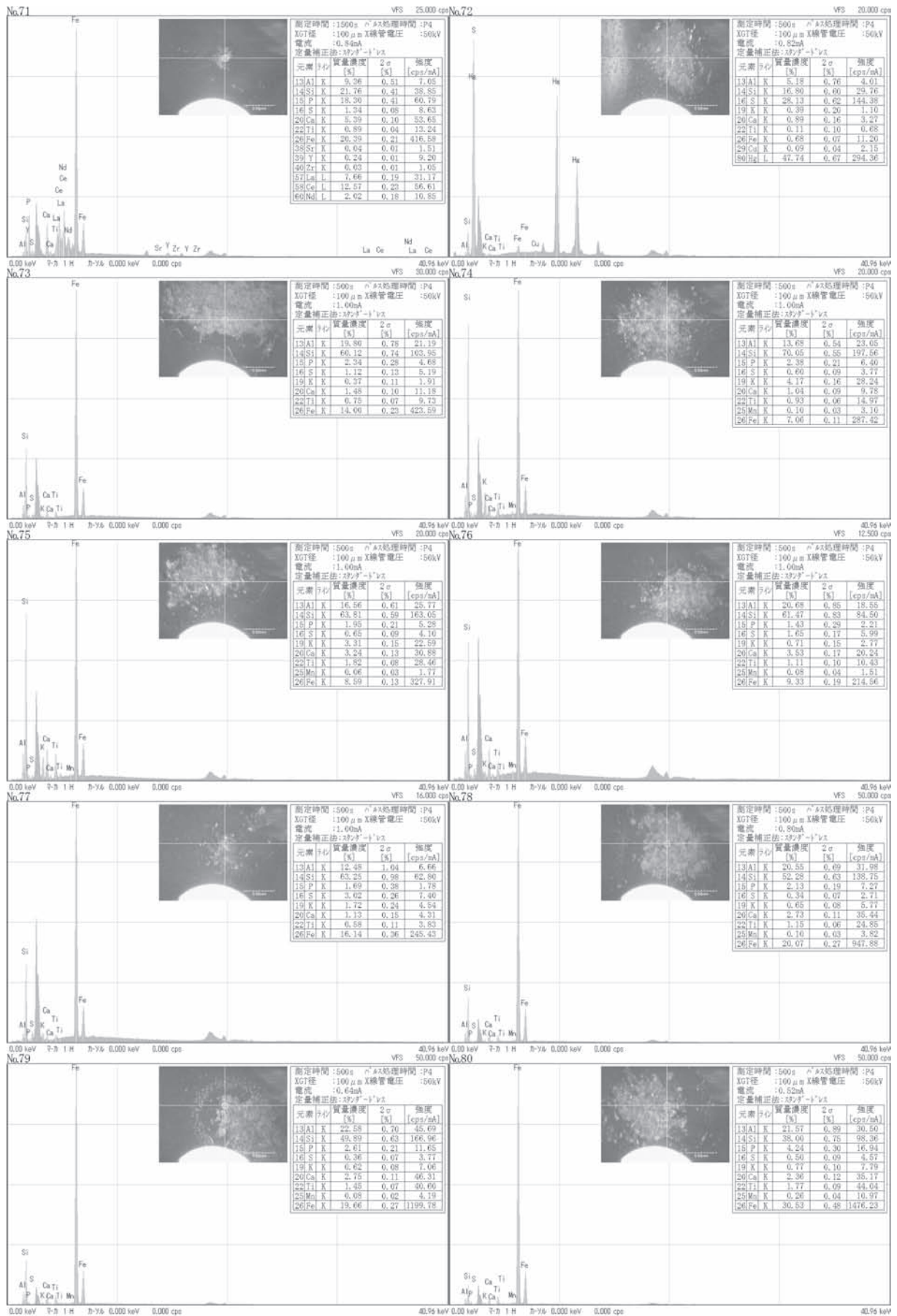


図 629 赤色顔料の蛍光 X 線分析結果 (8)



図 630 赤色顔料の蛍光 X 線分析結果 (9)

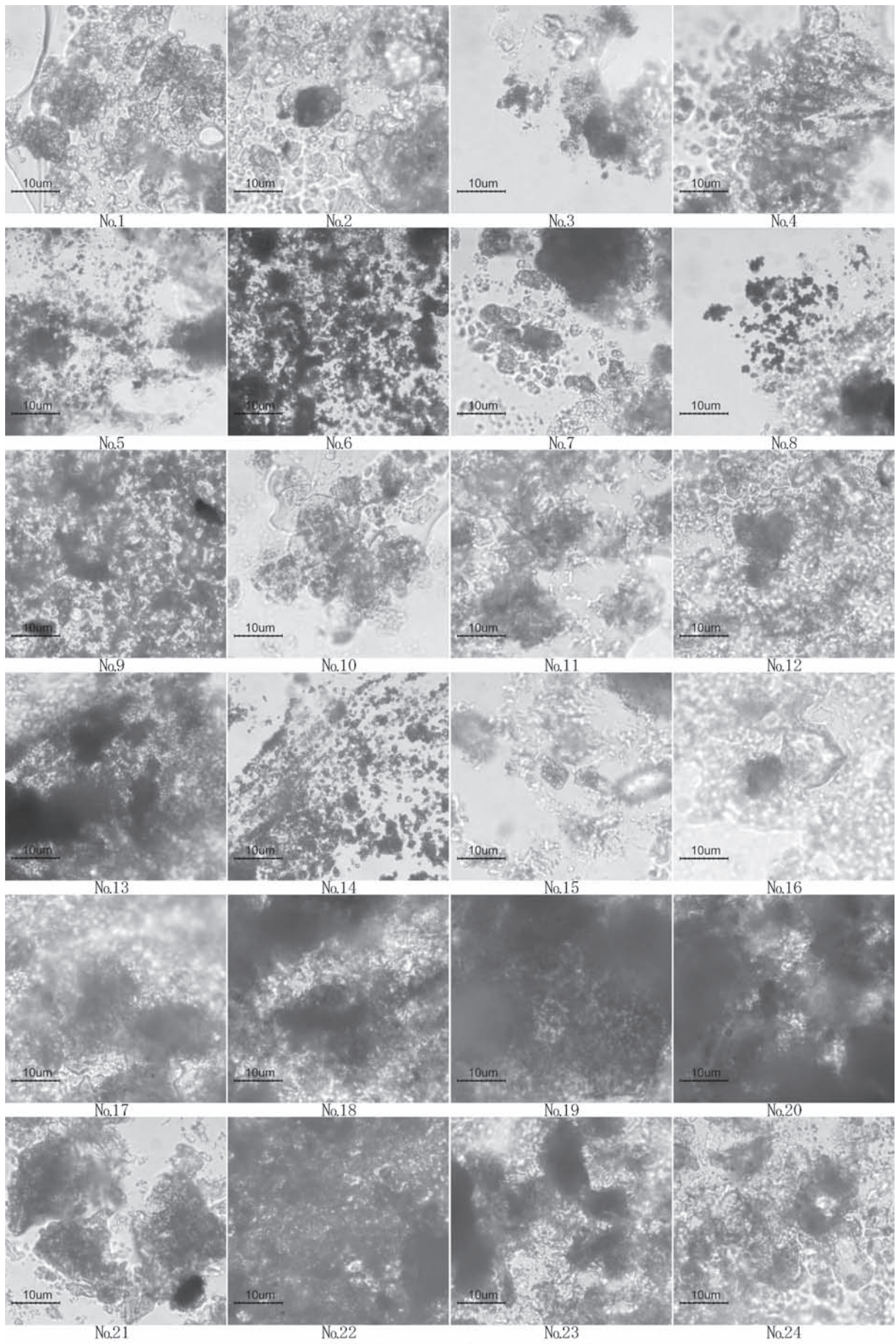


图 631 赤色顔料光学顕微鏡写真 (1)

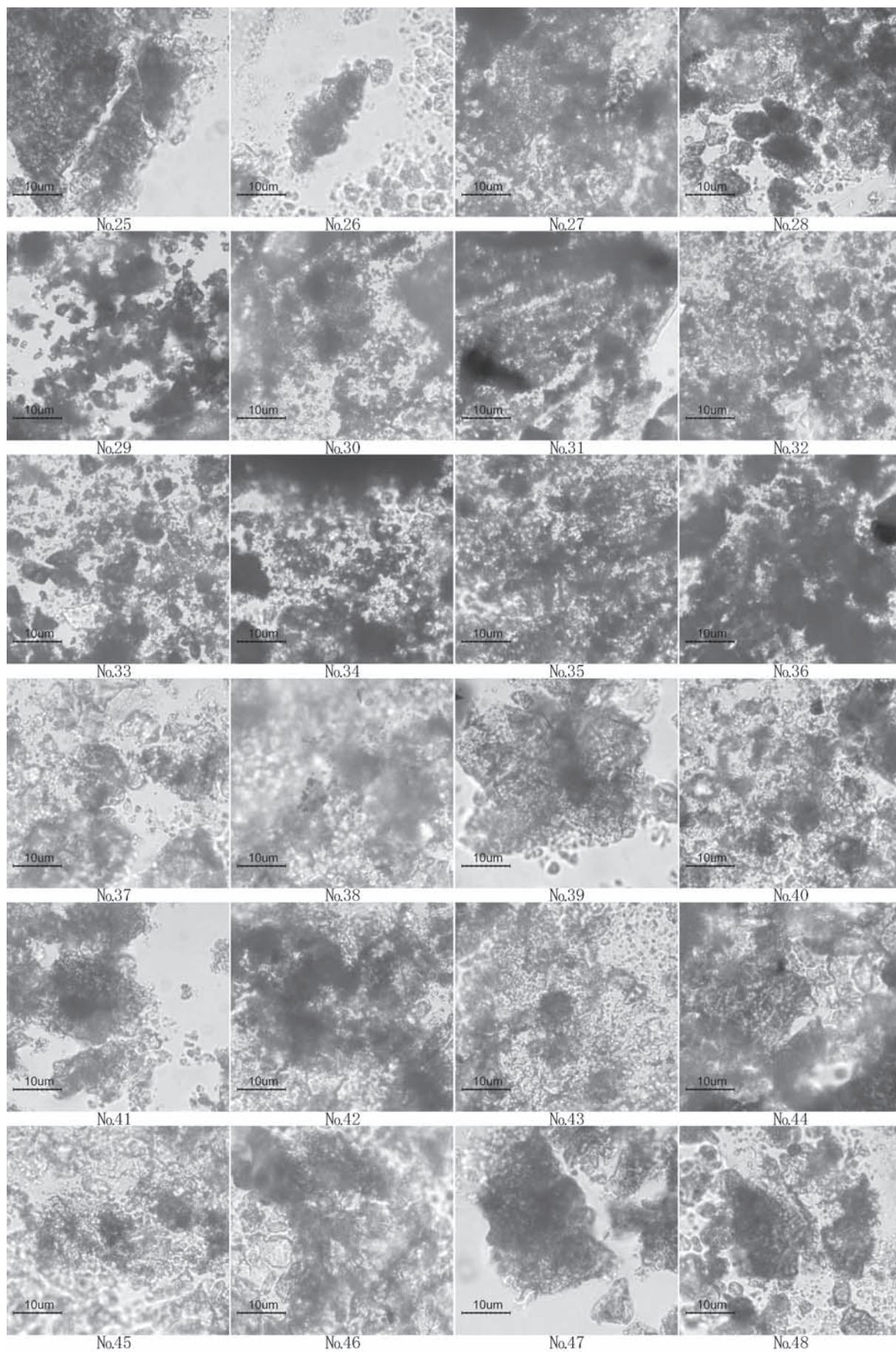


図 632 赤色顔料光学顕微鏡写真 (2)

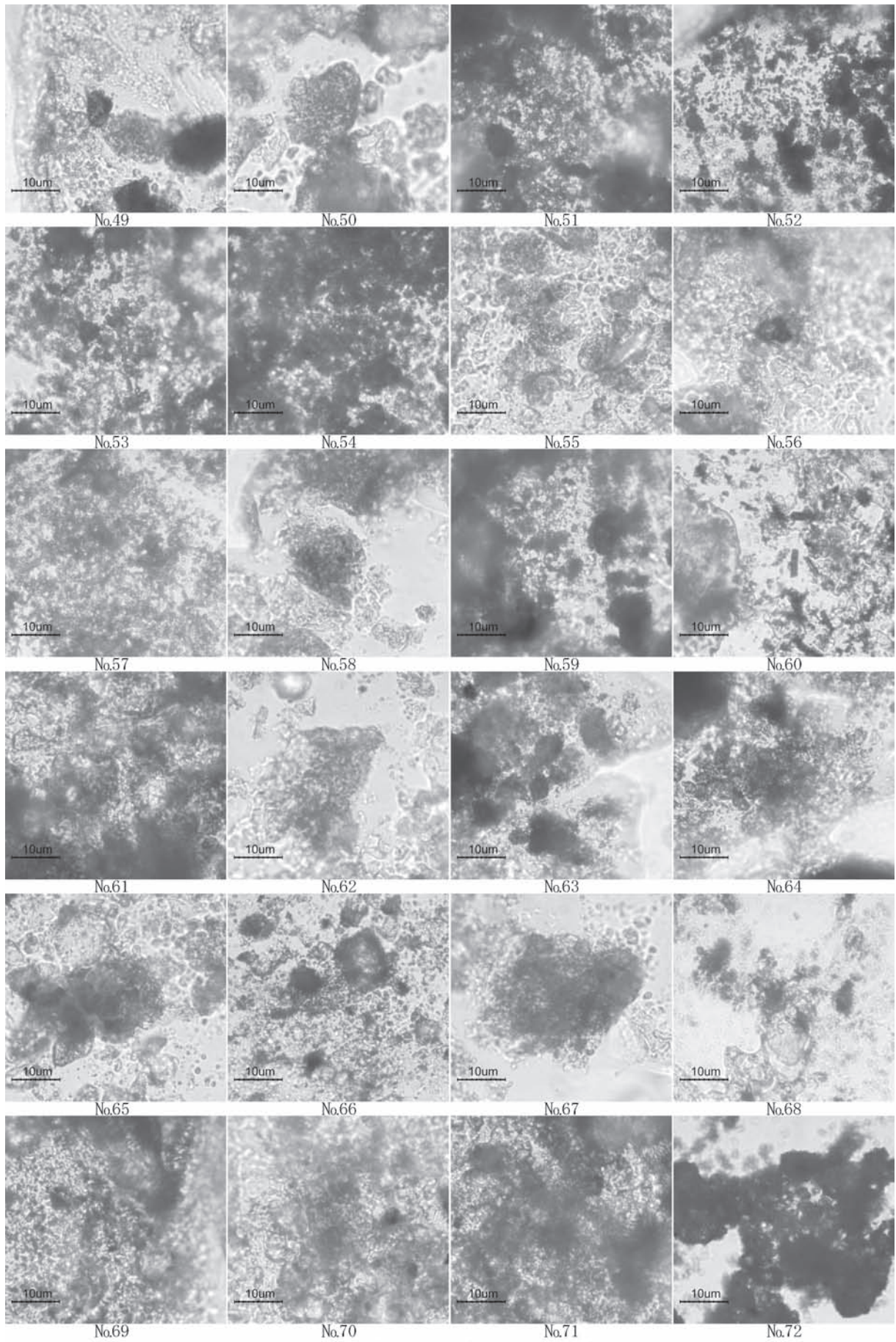


图 633 赤色顔料光学顕微鏡写真 (3)

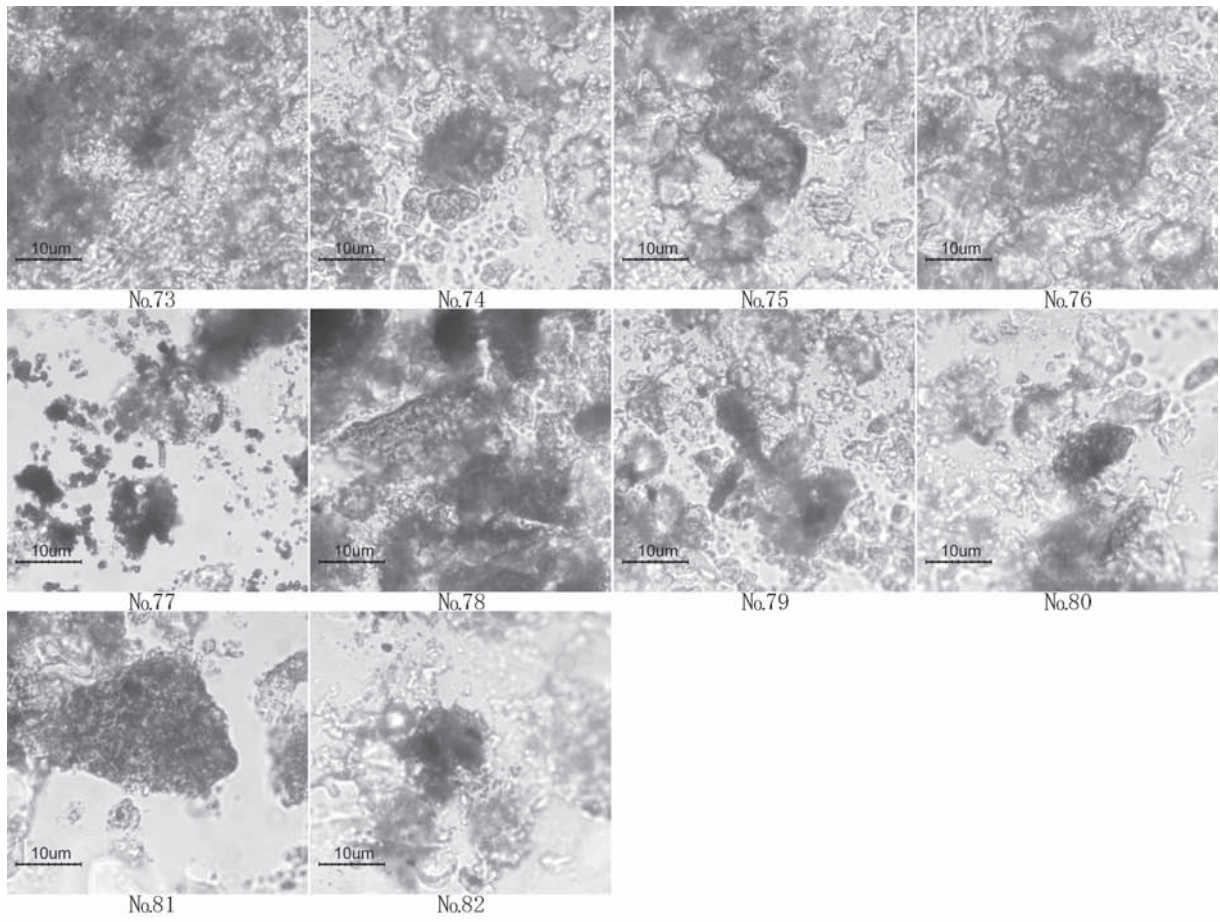


图 634 赤色顔料光学顕微鏡写真 (4)

第8節 ガラス玉の蛍光X線分析による元素分析

(有) 遺物材料研究所

分析を行ったガラス小玉は表 48 に示す 11 個で化学組成分析の結果を表 49 に示した。ガラス小玉の蛍光 X 線スペクトルは図 635 ～図 645 に示すように元素の含有量に比例した高さの元素ピークが多数観測されている。ガラス小玉で確認された元素は、ナトリウム (Na)、マグネシウム (Mg)、アルミ (Al)、シリカ (Si)、カリ (K)、カルシウム (Ca)、チタン (Ti)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、コバルト (Co)、銅 (Cu)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、ジルコニウム (Zr)、錫 (Sn)、バリウム (Ba)、鉛 (Pb) である。表 48 のガラス小玉の化学組成値 (表 49) はマトリックス効果を考慮したガラス標準試料による校正を行った結果ではなく、また、試料は絶対定量分析で行う、試料成形などを行ったものではなく、出土したガラス小玉を水洗し、非破壊状態で、セイコ製 SEA2110L 型蛍光 X 線分析装置付属のソフトのスタンダードレスによる F P (ファンダメンタルパラメータ) 法を用い相対含有量 (W%) を求めた結果である。銅、錫、鉛の元素が青銅器成分が含有されたガラス小玉は酸化鉛の含有量が 0.6% 以下で少なく、また比重も 2.2 ～ 2.5 で鉛ガラスではない。今回分析したガラス小玉の共通した特徴は、シリカ成分が多く、ソーダ成分の含有量が少なく、カリ成分が多いことから、カリガラスに分類されると思われる。また、分析番号 104256 番のガラス小玉 13 を除く分析した 10 個には銅、鉛、錫の青銅成分が含有され、この中の銅イオン (青緑系) が着色のために添加され、鉄イオンも着色に関与している可能性が推測される。またガラス小玉 13 には他のガラス小玉と化学組成が大きく異なり、酸化バリウムが含有されているが、鉛が含有されていないことから中国産の璧の材料と異なっている。また、着色に関して、他のガラス小玉に比べて鉄の他にコバルトとマンガンの含有量が多く、着色材として定性的にはコバルト原料に伴うマンガンの多いタイプに相当するのではないか。歴史的には、マンガンの多いタイプから少ないタイプに変遷すると言われているが、歴史的変遷の詳細は他の遺跡出土ガラスの分析結果と比較検討する必要がある。

分析番号	報文番号	遺跡略号	台帳番号	地区名	遺構名1	層位1	報告遺構名	日付	コンテナ番号	器種	材質	色	直径(mm)	長さ(mm)	孔の最小径(mm)	重さ(g)	備考
104253	123	NZR	H0040	A区	SH06	床直	SH06	2001/05/11	C10	ガラス小玉	ガラス	エメラルドグリーン	3.0	1.5	1.0	0.02	
104254	104	NZR	H0150	A区	SH04	北側貼床 ハット上面	SH04	2001/05/31	C10	ガラス小玉	ガラス	グリーン	4.5	4.0	1.2	0.17	
104255	403	NZR	H0949	C区	SH35		SH35	2001/12/14	C10	ガラス小玉	ガラス	スカイブルー	4.5	3.5	2.0	0.06	
104256	283	NZR	H1196	B区	SH27 K1	上層(灰色)	SH27	2002/03/06	C10	ガラス小玉	ガラス	コバルトブルー	4.5	4.0	2.0	0.08	
104257	643	NZR	H1266	D区	SH50		SH51	2002/01/22	C10	ガラス小玉	ガラス	スカイブルー	5.0	5.0	1.8	0.08	
104258	234	NZR	F0366	A区	SP304		SH16	2001/06/26	C10	ガラス小玉	ガラス	スカイブルー	4.5	2.0	1.8	0.06	
104259	235	NZR	F0366	A区	SP304		SH16	2001/06/26	C10	ガラス小玉	ガラス	スカイブルー	4.0	4.0	1.5	0.08	
104260	236	NZR	F0366	A区	SP304		SH16	2001/06/26	C10	ガラス小玉	ガラス	スカイブルー	4.5	2.5	1.0	0.06	切断後未調整
104261	404	NZR	P1289	C区	SP1105	SH35のサ	SH35	2001/12/11	C10	ガラス小玉	ガラス	スカイブルー	5.2	3.3	1.8	0.08	
104262	609	NZR	P2454	C区	SP1546		SH48	2002/04/24	C10	ガラス小玉	ガラス	スカイブルー	4.5	3.3	1.8	0.08	
104263	3700	NZR	R0275	E区	SR02A	上層		2002/06/04	C10	ガラス小玉	ガラス	スカイブルー	5.0	4.5	1.5	0.13	

表 48 分析した旧練兵場遺跡出土ガラス小玉の詳細出土地区・玉の特徴

試料名	分析番号	化合物元素組成(重量%)																	重量 g r	比重
		Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	K2O	CaO	TiO2	MnO	FeO	Co2O3	CuO	PbO	Br	Rb2O	SrO	ZrO2	SnO2		
ガラス玉 8	104253	1.2316	0.5328	9.1785	82.8404	1.3093	0.7894	0.3466	0.0593	0.8466		2.1173	0.5884	0.0200	0.0053	0.0289	0.1056		0.0191	2.329
ガラス玉 9	104254	3.2229	2.0502	8.3375	73.3972	8.1182	0.5694	0.2289	0.0267	0.7196		2.4250	0.5664	0.0404	0.0044	0.0295	0.2636		0.1654	2.376
ガラス玉 12	104255	3.3679	1.9454	8.4399	75.7501	7.7417	0.1672	0.1859	0.0169	0.5043		1.3708	0.2616	0.0430	0.0017	0.0263	0.1773		0.0828	2.332
ガラス玉 13	104256	3.4994	2.0331	5.6240	75.8648	8.0003	0.6645	0.2378	1.9064	1.8414	0.1013	0.0298	0.0000	0.0025	0.0074	0.0054	0.0009	0.1694	0.0821	2.415
ガラス玉 14	104257	1.3980	0.9484	7.8607	77.5956	8.5612	0.3619	0.1824	0.0176	0.4502		1.9329	0.4781	0.0596	0.0021	0.0223	0.1290		0.0721	2.380
ガラス玉 16	104258	3.3476	1.8598	8.7406	76.3362	7.1188	0.2154	0.1872	0.0177	0.5392		1.1510	0.3198	0.0484	0.0019	0.0255	0.0910		0.0519	2.392
ガラス玉 17	104259	3.4204	1.8635	8.4646	78.9310	4.0295	0.2740	0.1639	0.0727	0.6173		1.5843	0.3547	0.0446	0.0021	0.0172	0.1602		0.0762	2.352
ガラス玉 18	104260	3.2679	1.8541	8.0561	75.6423	7.4460	0.2341	0.2122	0.0216	0.5646		1.9673	0.4832	0.0415	0.0031	0.0274	0.1785		0.0629	2.279
ガラス玉 20	104261	3.3964	1.9260	8.4236	76.7481	6.3574	0.2050	0.2195	0.0164	0.4923		1.5627	0.4594	0.0453	0.0030	0.0283	0.1167		0.0777	2.306
ガラス玉 21	104262	3.0018	1.9632	8.6090	74.9150	8.5601	0.1480	0.1853	0.0183	0.5498		1.4743	0.3793	0.0509	0.0018	0.0278	0.1155		0.0722	2.383
ガラス玉 22	104263	2.9226	1.9845	8.3390	75.1945	8.2608	0.3190	0.1893	0.0185	0.4824		1.6551	0.4214	0.0434	0.0024	0.0267	0.1404		0.1291	2.318

表 49 旧練兵場遺跡出土ガラス玉の化合物元素濃度分析結果

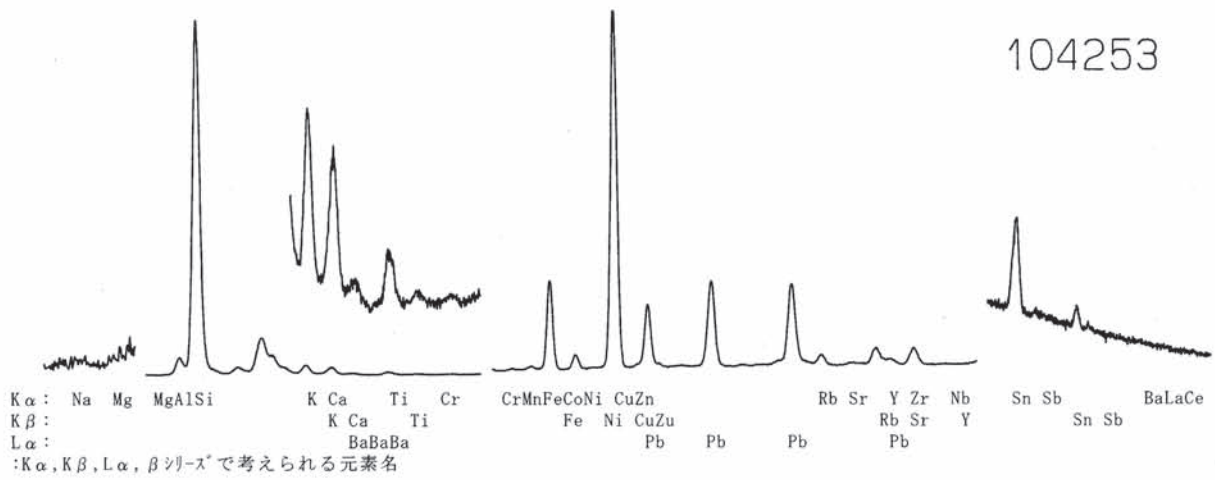


図 635 旧練兵場遺跡出土ガラス小玉 8 (104253) の蛍光 X 線スペクトル

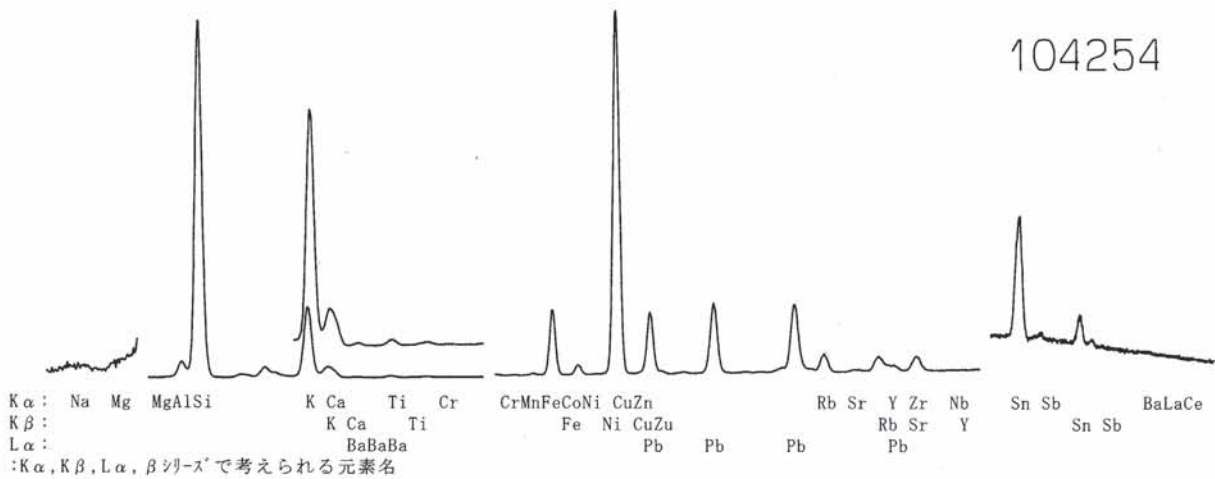


図 636 旧練兵場遺跡出土ガラス小玉 9 (104254) の蛍光 X 線スペクトル

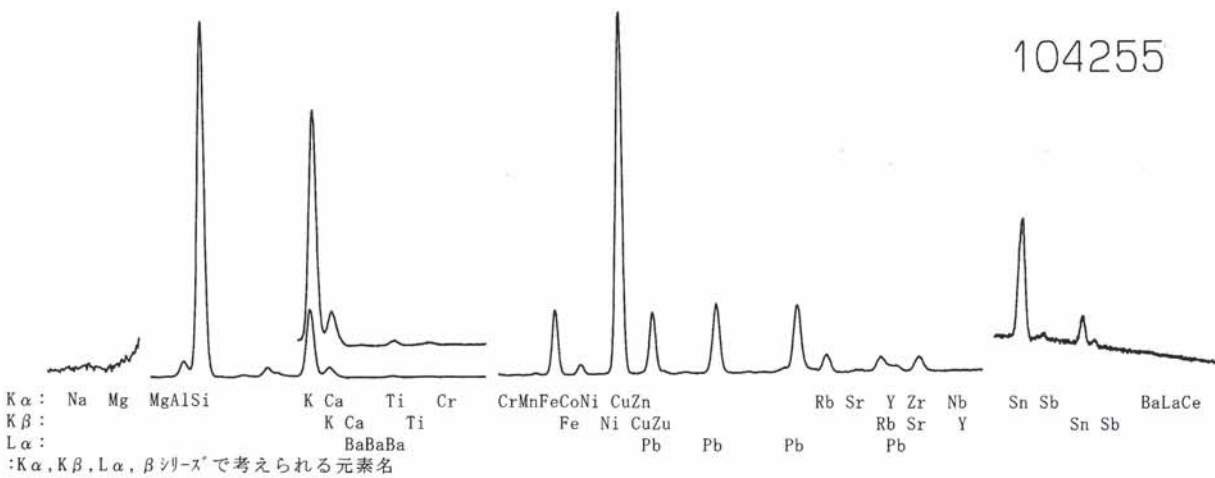


図 637 旧練兵場遺跡出土ガラス小玉 12 (104255) の蛍光 X 線スペクトル

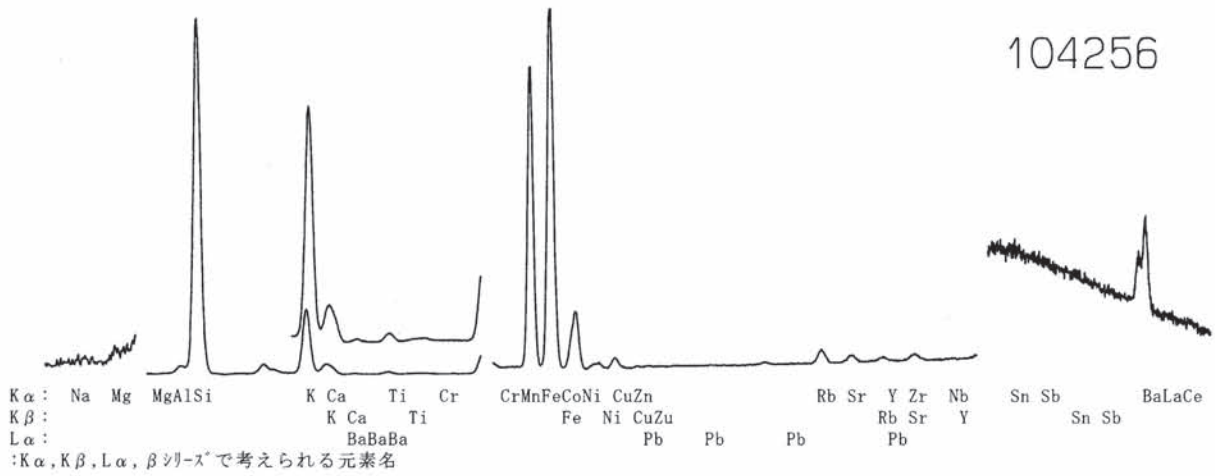


図 638 旧練兵場遺跡出土ガラス小玉 13 (104256) の蛍光 X 線スペクトル

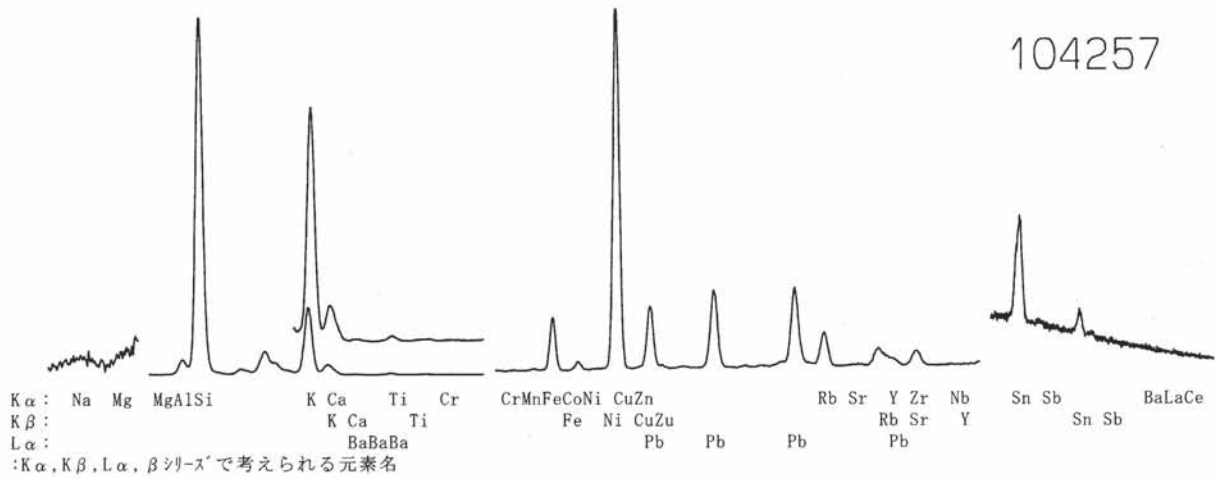


図 639 旧練兵場遺跡出土ガラス小玉 14 (104257) の蛍光 X 線スペクトル

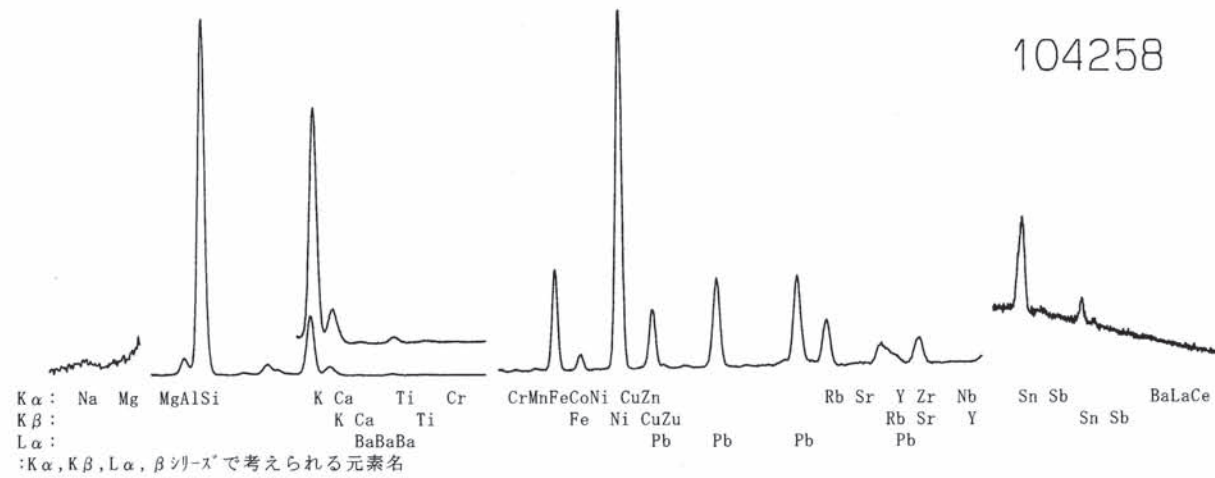


図 640 旧練兵場遺跡出土ガラス小玉 16 (104258) の蛍光 X 線スペクトル

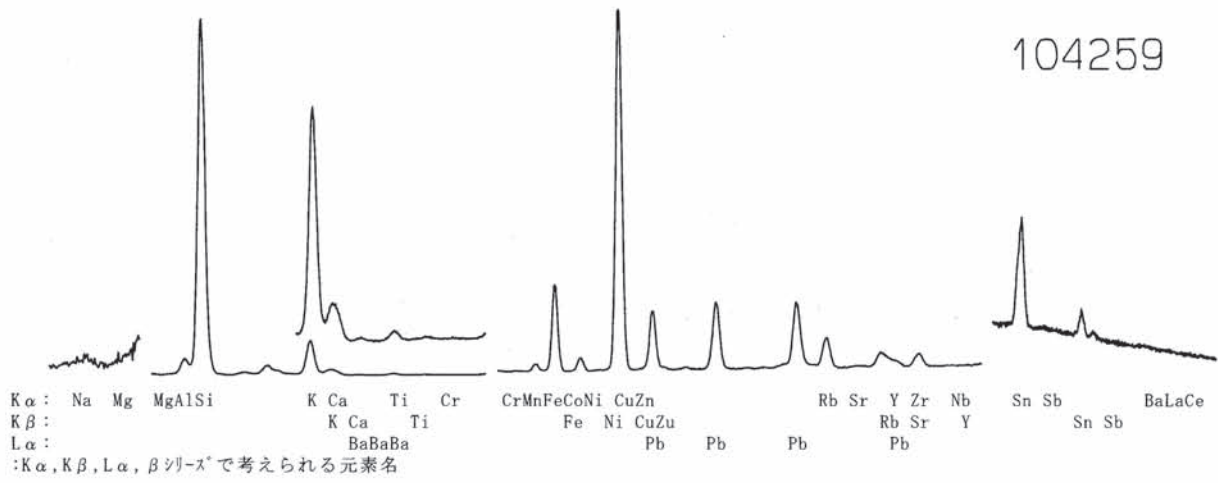


図 641 旧練兵場遺跡出土ガラス小玉 17 (104259) の蛍光 X 線スペクトル

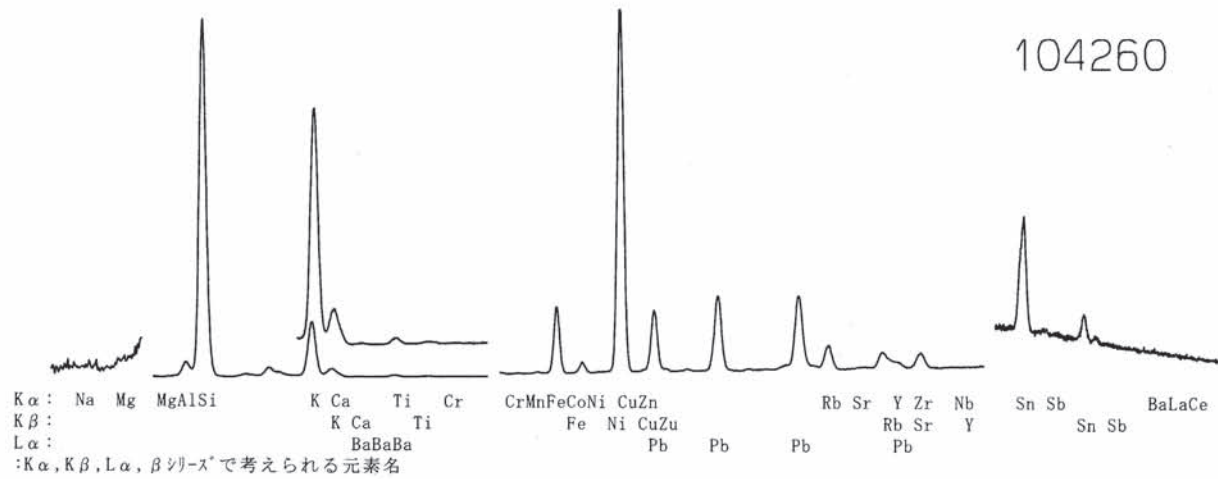


図 642 旧練兵場遺跡出土ガラス小玉 18 (104260) の蛍光 X 線スペクトル

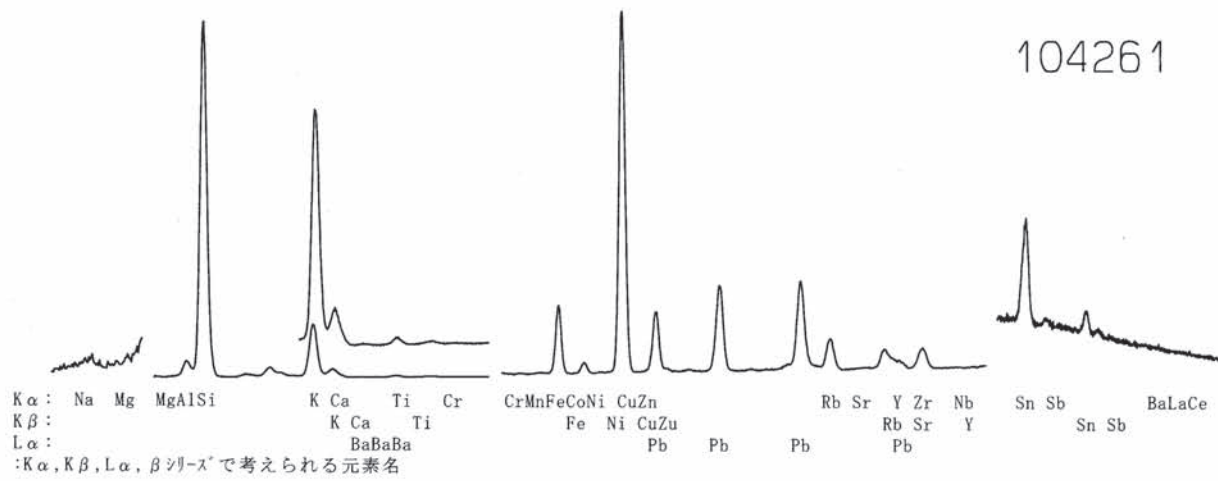


図 643 旧練兵場遺跡出土ガラス小玉 20 (104261) の蛍光 X 線スペクトル

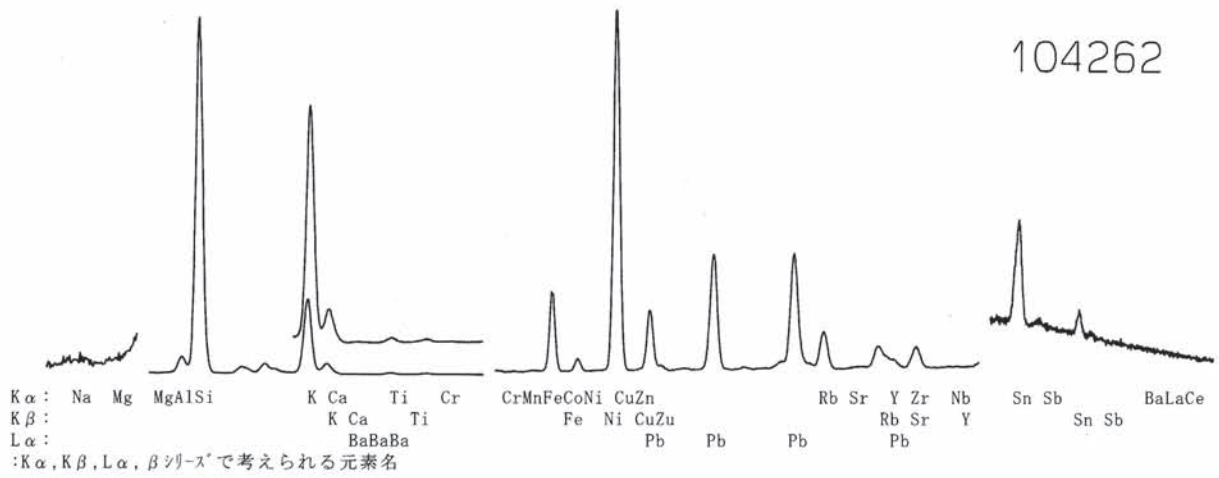


図 644 旧練兵場遺跡出土ガラス小玉 21 (104262) の蛍光 X 線スペクトル

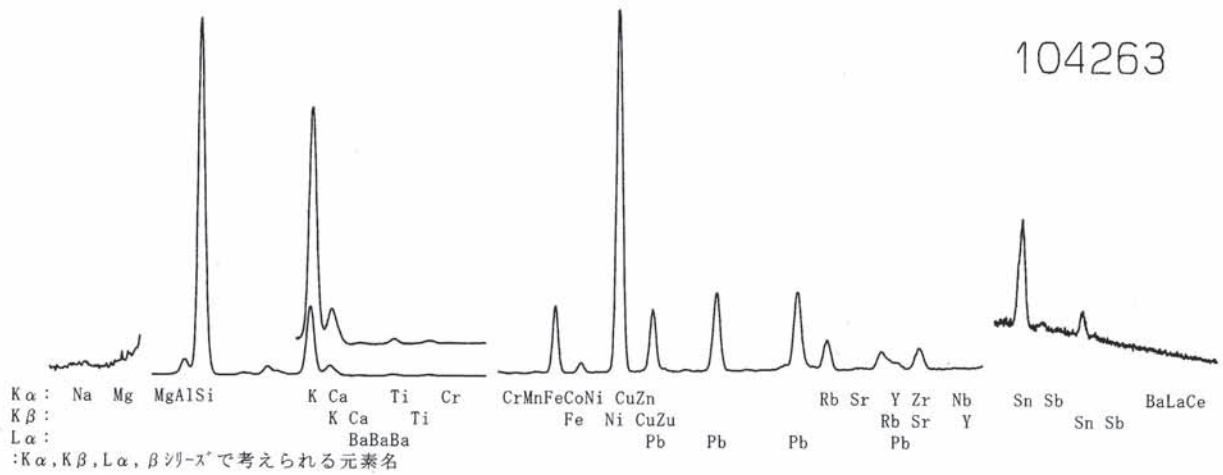


図 645 旧練兵場遺跡出土ガラス小玉 22 (104263) の蛍光 X 線スペクトル

第5章 総括

第1節 弥生中期後半から古墳初頭の土器編年

1. はじめに 今回の事実報告を総括するに当たって、遺構の時期決定をどのように行うかが最も課題となる。そのために土器編年を行い、遺構時期決定の資料として提示しておく。また、土器編年を行うに当たり、各遺構から出土する土器に対して網羅的に参照できることを意図し、可能な限り複数器種と遺跡内出土資料を使用することとしたい。しかし、破片資料が主体となる時期においては、周辺遺跡の出土資料を使用する。

編年対象となる時期は、予測される遺構の継続時期を考慮し、弥生時代中期後半から古墳時代前期前半とする。

2. 型式分類 型式分類は、各形式ごとに行っているが、ここでは遺構内から安定的な出土が見られる甕を中心にして記述を進め、各小様式における壺、高杯等の型式については、時期別の土器様式の部分で触れる。

中期における甕の型式分類については、拙稿(信里 2005)と変更はない。しかし、今回は編年対象を古墳時代前期まで広げるため、後期以降の型式分類も含めて再度提示しておく。形式分類は属性及びその変化の方向性を想定し、A～R形式を設定した。さらに、各形式ごとに型式を設定した。形式の特徴については、以下のとおり、型式の特徴は表50、51のとおりである。

甕 A 形式

くの字状口縁の中形甕を始発とし、凹線文期の拡張口縁を経て、胴部最大径が下がり胴部が球形化していく過程を想定し設定した。複数形式が併存する弥生後期後半以降は連続する型式設定に課題が残るが、古墳前期までの型式を設定する。中期後半から後期前半は胴部外面をタタキ後ハケ、下半部をミガキで仕上げ、内面はケズリを主体に調整する。

甕 B 形式

A形式よりも法量がやや大きく、胴部の張りが強い。くの字状口縁から中期後半の凹線文期の拡張口縁への変遷を想定し、弥生中期後半から後期前半まで5型式を設定。完形資料に乏しいが、中期前半期にも存在が予測される。

甕 C 形式

大形甕であり、A・B形式と同様に、くの字状口縁から拡張口縁への変遷を想定した。後期後半以降の大形甕の資料が乏しいことから、その後の連絡関係が不明確である。予察的には、甕 R1形式に接続する可能性がある。

甕 D 形式

中形甕で肩部の貼った胴部に対して直線的に立ち上がり口縁端部の上面を拡張する口縁形態をもつ型式から、胴部が球形化とともに最大径が下がり口縁部が外反していく過程を想定。後期前半期にA形式から派生して成立した可能性が高く、古墳前期まで存続する。

甕 E 形式

中形甕であり、口縁端部を上方にのみ拡張する形式である。口縁端部外面には、退化した凹線文が施されることが多い。E2 型式は備後地域の形態に極めて類似するが、遺跡内で 3 型式の変遷が追え、胎土が全て在地品と同じである。後期前半期に A 形式から派生して成立すると想定しておく。

甕 F 形式

中形甕で肩の張った胴部をもち拡張口縁の外反する口縁部から、胴部の球形化と口縁部が短く直立気味に外反していく変遷を想定して設定。後期前半期に A 形式から派生し、終末期に G 形式が分かれて成立することが予測される。

甕 G 形式

球形化の進んだ胴部に、短く屈曲する口縁部をもつ中形甕。E 形式から派生して成立する可能性が高く、2 型式を設定。

甕 H 形式

中形甕で外反する口縁部が端部付近で反転し、その内面が窪む特徴をもち、胴部の球形化とともに口頸部境の屈曲点が緩くなる変遷を想定した。後期後半期に D 形式から派生し出現したことが予測される。

甕 I 形式

全体的に丸みを帯びた胴部から、口縁部が反転しながら外反する中形甕。口縁部の立ち上がりが顕著となり外反度が増し、胴部が球形化していく過程を想定し後期後半から古墳前期にかけて 6 型式を設定した。途中で反転する口縁部の属性から、H 形式との親縁性が想定できるが明確ではない。

甕 J 形式

短く外反する口縁部に球形の胴部をもつ中形甕で、口縁部は反転部を介して外反する。初期の型式に完形品が見られず不明な点が多いが、終末期から古墳前期と予測できる型式の口縁部変化は H・I 形式と連動したものとなる。

甕 K 形式

球形の胴部をもち、口縁部が直立気味に外反する。口縁端部は面取りし、その内面がヨコナデによって窪む。胴部の球形化と口縁部の外反の度合いから 3 型式を設定。J 形式との口縁部の類似性が強く、終末期に同形式から派生して出現するものと予測する。

甕 L 形式

直立気味に立ち上がる口縁部をもつ中形甕。胴部の球形化に伴う平底の消失過程を意識し、8 型式を設定。ヨコナデ調整が弱くを内面を中心に口縁部にハケ・タタキ調整を残すことが多い。

甕 M 形式

L 形式と同様の口縁部をもつが、より長胴を呈することで同形式から分離して設定。胴部形態には明確に変化はなく、口縁部や底部形態の変遷を意識し、7 型式を想定した。ヨコナデ調整が弱くを内面を中心に口縁部にハケ・タタキ調整を残すことが多い。

甕 N 形式

丸みを帯びた胴部から口縁部が緩やかに外反する中形甕。口縁部の外反の度合いと胴部の球形化に主眼を置き、6 型式を設定した。

甕 O 形式

倒卵形の胴部に口縁部が緩やかに外反する甕で、容量は中形甕でもやや大きい部類に属する。当初の

型式名	特徴	型式名	特徴
A1	最大径が中位にある縦長の胴部をもち、強いヨコナデ調整によっての字に折り返される口縁部をもつ。胴部外面は下位がヘラミガキ、内面はナズリの後、隠ミガキで消去する。	H3	底部の立ち上がりが消滅する。口縁部は中程に反転部をもつが、H2 型式に比べ短く屈曲する。
A2	A1 型式と同様の形態をもつが、底部の立ち上がりが強調されるとともに、上方に僅かに跳ね上げられる口縁部外面に1条の凹線文をもつ。	H4	胴部の球形化が進行し、外反する口縁部中程の反転部が目立たなくなるが、胴部内面が窪み点はD3 型式を継承する。
A3	胴部最大径が中位よりやや上方にあり、底部に向かって急速に窄まる胴部をもち、強いヨコナデによって水平に折り返される口縁部を上方のみ拡張する。口縁部外面に2〜3条の凹線文を施す。	H5	平底の底部が極めて直線的となり、胴部也更に張りをもつ。口縁部の屈曲は緩やかとなり、頸部から口縁部まで連続的に外反する。
A4	胴部中位に張りをもち、やや上向きに折り返される口縁部を上方と下方に僅かに拡張する。内面はナズリが残される。	H6	丸底化が完了した丸みをもつ胴長の体部をもち口縁部が頸部の区分点から明確に外反する。
A5	A4 型式と比べ、底部と胴部の境や最大径の位置が不明確となり、口縁部境の屈曲点が下がり上向きに口縁部が立ち上がる。また、底部の厚みが増す。	I1	小型の平底を留める底部に全体的に張りのある胴部をもち、胴部内面の明確な稜線をもって口縁部が外反する。全体形から見て、H1 型式との親縁性が指摘できる。
A6	突状に近い底部をもち、丸みを帯びた胴部から短く屈曲する厚手の口縁部をもつ。口縁部は上方を主体にして明確に拡張し、口縁部境の屈曲は丸く鈍く、頸部から肩部の器壁が厚い。	I2	胴部の球形化が進み、底部が矮小化する。口縁部は明確に折り返されるもので、端部を面取りする。
A7	底部の立ち上がりがより不明確であり、胴部に向かって連続して斜めに立ち上がり、鈍く屈曲する上向きの口縁部をもつ。	I3	底部は尖底気味となり、倒卵形の胴部をもつ。口縁部はI2 型式と同様に折り返されるが、口縁部境の屈曲点の下がり、やや伸びる。
A8	倒卵形の胴部から口縁部が上向き気味に屈曲する。口縁部境の器壁は厚く、A7 型式まで見られた口縁部境の上方拡張は、ヨコナデ調整に伴う口縁部内面の窪みに変化する。	I4	胴部境が張る球形に近い器形をもち、口縁部は中程に反折しつつ外反する。底部は丸底化を完了する。
A9	倒卵形を呈する胴部から、口縁部がくの字形に外反する。底部は小さな平底であり、胴部へ斜めに連続して立ち上がる。A8 型式まで見られた胴部外面下半部の隠ミガキは消滅し、ハケが最終調整となる。	I5	胴部下半が張り、球形化が完了した形態をもち、口縁部は大きく外反する。
A10	胴部下半の張りが強くなり口縁部がくの字形に強く外反する。内面は頸部付近までナズリが及び、全体的に薄手である。	I6	I5 型式と比較して撫肩の球形の胴部をもち、長く外反した口縁部をもつ。
A11	頸部が窄まり、胴部の球形化が進行するが胴部最大径は上位にある。口縁部は弧状を描き外反し薄手となる。	J1	口縁部が短く屈曲し、端部面取りする。完形資料が存在しないため、胴部形態は不明。
A12	弧状を描く口縁部上面を軽く面取りをし、胴部最大径の位置が下がり、全体が球形化する。	J2	J1 型式と比較して、胴部内面に口縁部の屈曲に伴う稜線を残し、口縁部をやや下方向に折り曲げる。
A13	口縁部上面の平坦面が強調され胴部の球形化が進む。底部形態は不明。	J3	基本形態はI2 型式と同じであるが、口縁部の外反が強い。
A14	頸部境の屈曲点の下がり、球形がほぼ完了した胴長の器形をもつ。底部の丸底化もほぼ完了する。	J4	球形化が進んだ胴部から頸部が窄まり、口縁部が短く外反する。
A15	口縁部境の屈曲点が更に下がり、胴部下半の球形化が進む。	J5	球形化が進んだ胴部に直線的に残る平底をもち、口縁部が上向き気味に外反する。口縁部付近に反転部があり、口縁部内面に稜線状の窪みを残す。
B1	A 型式より容量がやや大きい中形器。A2 型式と同じ胴部形態をもち、くの字折り返される口縁部外面に1条の凹線文を施す。完形資料に乏しいが、先行する型式が存在する可能性が高い。	J6	球形の胴部に口縁部が中位で反折しながら外反する。底部形態は不明であるが、丸底・球形化が完了した形態をもつものと見られる。
B2	胴部は最大径が上位にあり、底部に向かって窄まり口縁部は水平に近く折り返され、口縁部を上下に拡張し、外面に3条程度の凹線文を施す。	J7	基本形態はJ6 と同様であるが、反折をしながら外反する口縁部境が先開りとなる。胴部は長胴傾向を示した球形である。
B3	B2 型式と比較して、胴部最大径が下がり下半部の張りが見られる。口縁部の外反がきつくなり、上方の端部拡張が明瞭となる。	K1	球形に近い胴部に直線的な平底をもつ。口縁部はJ5 型式に類似するが、反折せず直線的に開き口縁部境を面取りする。
B4	胴部が球形化し頸部が不明瞭となり、口縁部はやや内湾しながら外反する。	K2	K1 型式と比べ口縁部の外反に伴う胴部内面の屈曲点の下がり、縦長の球形化した胴部をもつ。
B5	撫肩の胴部をもち、口縁部境の屈曲点の下がり口縁部が上向きに施される。口縁部境の上方拡張が明瞭となり、内面に凹線状の窪みをもつ。	K3	基本形態はK2 を引き継ぐが、口縁部の屈曲や端部の面取りが緩やかであり、全体的に厚手である。
C1	口径が20〜30cm 程の大形器。強いヨコナデによっての字に屈曲する口縁部上面を僅かに跳ね上げる。全体的に器壁が薄く、内面は削りの後、隠ミガキによって消去する。	L1	直線的に立ち上がる口縁部外面に小条の凹線文を施し、安定した薄手の平底をもつ。
C2	C1 型式と概ね同様の形態をもつが、口縁部が厚くなり端部を上方に拡張し、外面に2〜3 状の凹線文を施す。全体によっては凹線文頂部に刻目紋を施すものがある。また、頸部に押捺突帯を施すものも多く見られる。	L2	直線的に立ち上がる口縁部境を面取りし、L1 型式に比べて底部が小型化する。
C3	口縁部境の明瞭な屈曲点をもち、口縁部境を強いヨコナデによって上下に拡張する。胴部内面にはヨコナデに伴う面をもっている。	L3	胴部最大径の位置や口縁部の立ち上がりに伴う胴部内面の反転位置が下がり、底部も小型化する。
C4	C3 型式と比較して、胴部の最大径が下がり、明瞭に屈曲する口縁部境をより上方に拡張する。	L4	胴部が更に張り、底部の立ち上がりが消滅し、底部端から胴部へ連続して立ち上がる。L3 型式と比較して、口縁部の屈曲がきつくなる。
C5	直立気味に短く立ち上がる頸部から、やや内湾の口縁部が短く屈曲する。口縁部境の拡張はやや鈍い。	L5	直線的に外反する口縁部に胴部下半の球形化が進む。底部は矮小な平底を留める。
C6	肩部から頸部の器壁が薄くなり、口縁部が緩やかに短く屈曲する。口縁部外面に凹線文が施されるが、ヨコナデの弱い沈線状を呈するものが多い。	L6	直線的に外反する薄手の口縁部をもち、縦長の球形化が進む胴部をもつ。
C7	口縁部の屈曲が更に緩くなり、頸部から連続するように外反し、口縁部境の拡張が消滅する。	L7	L6 型式と比較して、丸底化が完了し、口縁部が直立気味に立ち上がる。
D1	上向き気味の口縁部をもち、口縁部境を上方のみ拡張する。口縁部外面には退化の進んだ凹線文が見られる。底部と胴部の境は不明瞭であり、底部から斜め上方に連続して立ち上がる。全体形態から見て、A6 型式から派生した型式である可能性が高い。	L8	基本形態はL7 型式を踏襲するが、全体的に厚手であり、調整が粗雑化する。
D2	D1 型式と比較して底部が縮小し、口縁部が直線的に伴い端部の拡張が消滅する。	M1	縦長の胴部に口縁部が直線的に立ち上がる。口縁部境は面取りし、凹線文状の窪みを残す。
D3	胴部下半の張りが強くなり、底部がやや小型化する。胴部に対応して、口縁部境の屈曲点の下がり上向きに開く口縁部をもつ。	M2	直線的に立ち上がる口縁部をもつが、M 型式と比較して口縁部が長く、端部形状が丸みをもつ。胴部形態は不明。
D4	肩部を中心とした胴部上半に張りがあり、口縁部は弧状を描いて外反する。	M3	小型化した平底の底部から連続して立ち上がる胴部をもち、口縁部は内傾気味に折り返す。
D5	平底を留めるも底部の立ち上がりは完全に消滅し、胴部全体が張りをもった倒卵形となる。D4 型式と比べ口縁部境の屈曲点の下がり、口縁部の外反が強くなる。	M4	胴部下半の球形化が進み口縁部が直立気味に立ち上がる。
D6	胴部の球形化が進み底部が矮小化する。口縁部は外反が更に強くなる。	M5	下半部に丸みをもつ縦長の胴部に、丸底に近い底部をもつ。口縁部は先細りで直線的に外反する。
D7	胴部の球形化とともに、器高が弱くなる。口縁部はD6 型式と同様に外反するが、頸部の内外面の直立部をもつ頭部を経て口縁部が外反する。	M6	M5 型式と比較して器高がやや長くなり、口縁部はやや内湾しながら直線的に外反する。
D8	底部の丸底化が完了し、短く直立する頸部を経て口縁部が外反する。	M7	基本形態はM6 型式と同じであるが、口縁部の外反が緩くなる。底部形態は不明であるが、丸底化が完了していると予測される。
E1	部の基本形態とA7 と同様であるが、口縁部境を上方に大きく拡張し、外面に退化した凹線文を施す。A6 型式から派生した型式の可能性が高い。	N1	安定した平底に肩部が張る胴部をもち、口縁部が緩やかに外反する。
E2	肩部の張った器形をもつが、E1 型式と比較して下半部に丸みをもち、底部が小型化する。口縁部は内傾気味に上方に対して拡張され、外面に凹線文を施されるものも少ないものがある。	N2	胴部下半が張る球形の胴部をもち、底部の立ち上がり不明確。口縁部は緩やかに外反するが、胴部内面の口縁部境の区分点の下がり。
E3	口縁部の屈曲が緩やかで上方に拡張され、外面に凹線文をもつ。E2 型式と比べ胴部に張りが見られる。	N3	口縁部の外反が強くなり、水平方向を意識して折り返される。胴部・底部形態は不明。
F1	安定した底部から肩部の張った胴部をもち、口縁部が短く外反する。底部の立ち上がりは明瞭	N4	口縁部が大きく引き出され、胴部内面の屈曲点が明確化し、稜線をもつようになる。
F2	肩部の張った胴部から、やや上向き気味に外反する口縁部をもち、口縁部境を僅かに拡張する。口縁部外面には、退化した凹線文を施す。口縁部の属性から、A7 型式から派生した型式の可能性が高い。	N5	胴部の球形化が進み、口縁部が水平方向に強く外反する。
F3	倒卵形の胴部に稜線をもって折り返される口縁部をもつ。内湾の口縁部境は面取りされ、上下に弱い拡張をもつ。	N6	縦長の球形化が進む胴部をもち、口縁部は水平方向に外反する。
F4	E2 型式とほぼ同様の器形をもつが、肩部の張りが弱い。口縁部は面取りされるもの、器壁が薄く端部の拡張を行わない。	N7	胴部の球形化完了し、水平に折り返される口縁部をさらに内側に挿み出す。底部は丸底化が完了する。
F5	胴部が球形化することに伴い、最大径が下がる。口縁部境は弱く面取りされる。	O1	胴長の倒卵形の胴部をもち、口縁部は緩やかに外反する。
F6	胴部形態はF4 型式と同様であるが、口縁部の外反が強くなり、上向きに開く。	O2	口縁部の外反がきつくなり、胴部内面の口縁部の区分点の下がり。胴部下半に張りをもち底部から連続して胴部へ立ち上がる。
F7	胴部の球形化が進み、口縁部は上向きに短く屈曲する。	O3	縦長の球形化の進んだ胴部をもち、口縁部が鋭く外反し端部を面取りする。底部は立ち上がりをもたない矮小な平底をもつ。
F8	胴部の球形化と丸底化が完了する。口縁部境は短く外反し、口縁部境を面取りする。	O4	胴部下半が更に球形化するが、最大径は中位に残される。口縁部は直線的に折り返され、胴部内面に明瞭な稜線をもつ。底部は矮小な平底を留める。
G1	球形化が進む胴部に矮小な平底を留める。口縁部は、内面に稜線をもって短く外反する。口縁部や胴部形態から見て、E5 型式から派生したものである可能性が高い。	O5	胴部最大径が下がり、下膨れの形態をもつ。口縁部は明確に折り返され、胴部内面稜線をもつ。
G2	胴部の球形化と底部の丸底化が完了し、緩やかに短く外反する。	O6	胴部全体の球形化及び丸底化が完了する。口縁部は直線的に折り返される。
H1	胴部中位に最大径があり、小型の平底をもつ。外反する口縁部は、中程に反転部をもち口縁部内面に窪みを残す。全体の形態から見て、D2 型式から派生する型式の可能性が高い。	O7	胴部の膨らみが更に強くなり、口縁部の折返しを外へ伸びる。
H2	胴部全体が丸みを帯びた倒卵形を呈する。口縁部の外反が強くなり、端部内面に窪みを残す受口状となる。	P1	縦長の倒卵形の胴部をもち、口縁部は大きく外反する。底部は矮小な平底をもつ。O3 型式から派生する型式の可能性が高い。

表 50 型式分類 1

型式名	特徴
P2	胴部下半部の張りが強くなり寸胴の形態を採る。底部は辛うじて平底を留める。
P3	胴部が球形化し、底部も丸底化を完了する。口縁部は大きく外反する。
Q1	中位に張りをもちた縦長の胴部に矮小な平底をもつ。口縁部は直線的に折り返される。
Q2	胴部下半を中心に球形化し、痕跡的な平底を辛うじて留める。口縁部は反転しながら鋭く外反する。
Q3	縦長の胴部を維持したまま、全体が強る。底部は丸底化を達成する。口縁部は反転しながら大きく外反する。
R1	直立気味に立ち上がる口縁部をもち、肩部の張った胴部をもつ。底部を含めた全体形状は不明。
R2	基本的な形態はR1型式を継承するが、肩部の張りが消滅し胴部最大径が下がる。口縁部は胴部内面の区分点を境にして鋭く屈曲する。
R3	胴部をもち、底部の立ち上がりは見られない。口縁部はやや内傾しながら立ち上がり端部を面取りする。
R4	口縁部形態はR3と同様であるが、肩部の張りが見られなくなり、胴部最大径の位置が下がる。
R5	口縁部は直線的に立ち上がり、端部を軽く面取りする。胴部の球形化は完了している。

表 51 型式分類 2

ラグビーボール状の胴部をもち、口縁部が直立気味に立ち上がる中形甕。変遷過程で、直立気味に立ち上がる口縁部が器形反転しながら外反する点を想定した。少数派であり、完形資料に乏しい。

甕 R 形式

肩部の張った胴部に口縁部が直立気味に立ち上がる大形甕。初期の 2 型式として提示した資料は中形品であるが、該当する大形品に乏しいため、あえて使用している。胴部の球形化と口縁部の発達を想定し、5 型式を設定しているが、空白を埋める型式の存在が予測される。口縁部のヨコナデ調整が省略される個体が多く、内外面にハケ調整の残存が確認でき、中形品の同様の口縁部をもつ L・M 形式との親縁性が指摘できる。

甕 GK 形式

高松平野の香東川下流域産の甕を主体とする形式で、搬入品を主体として構成される。中期後半の製作技法を踏襲する薄甕であり、胎土中に角閃石を多く含む。G5 型式までは製作技法や器形と胎土が一致し搬入品と判断できるが、G6 型式以後は在地品と変わらない胎土で製作される。旧練兵場遺跡では完形品の出土があまり確認できないため、初期の資料は周辺の遺跡の資料を用いて提示している。

甕 FR 形式

所謂布留系の甕である。時期区分や併行関係推定の材料として提示した。口縁部形態にはバリエーションがあるが、典型となる 2 型式を提示した。

3. 各型式の出土状況

短期間での埋没が想定でき、一定程度の組成を網羅できる資料群の中での出土状況を表 52 にまとめた。弥生中期後半から古墳前期を対象とした場合、十分な資料数を提示できる状態ではないが、現時点での方向性を捉えたい。

甕 A～I 形式は安定的に変遷を把握できるが、それ以外の形式については、不明確な部分が多い。また、後述する中期末～後期初頭、後期後半期～終末期前半期の一括資料が不足するとともに、資料単位での出土個体数が少数に留まるため、時期設定については、旧河道や溝からの出土した形態が判明する資料を用いて、型式学的な特徴から相対的に時期を推定する必要がある。

口縁部形態は N 形式に類似するが、変遷の過程で直線的に近い形態をもって外反することが予測される。

甕 P 形式

直線的に大きく外反する口縁部から縦長の胴部が球形化していく変遷を想定し 3 型式を設定した。口縁部形態から O 形式から派生する可能性が高い。

甕 Q 形式

4. 土器様式の変遷と概要

〔弥生中期前半新段階〕川津一ノ又遺跡 SD59/100(古野 1998)を指標とする。旧練兵場遺跡では、大規模集落の最初期となるため良好な資料が知られていないが、同 2 次調査 SK I、本書に収録する 19 次調査 SR02 下層出土資料の中に当該期の遺物が見られる。壺には、広口壺 A1.C1.D1 型式、細頸長頸壺 A1 型式、短頸広口壺 C1 型式、無頸壺 A1 型式から成る。広口壺 C 形式を中心に口縁部端部及び内面に櫛描施紋を中心とした加飾が行われる。細頸長頸壺は、口縁部外面に刻目紋を施す貼り付け突帯で加飾する。

甕は、A1 型式と C1 型式が主体となるが、B 形式が存在する可能性が高い。高杯は水平口縁の A1 型式が見られるのみで、台付鉢 A1.B1 と組み合う。本小様式に凹線文の出現は確認できない。

〔弥生中期後半古段階〕凹線文の出現期で、旧練兵場遺跡 12 次調査 SK11(森下 1996)、矢ノ塚遺跡 SK85104、SX85004(真鍋編 1987)を指標とする。壺では、前小様式から継続する広口壺 A～D 形式、短頸広口壺 C 形式、無頸壺 A 形式に加えて、短頸広口壺 A が登場する。広口壺の口縁部は頸部から連続して外反し、口縁部外面に凹線文が施される。また、凹線文の頂部に刻目紋を施すものが多い。甕はシャープに折り返される口縁端部を面取りし、小条の凹線文を施す A2.B1 型式と大形品で頸部に押捺突帯を施すことが多い C2 型式が見られる。C2 型式は、押捺突帯と同様に壺との親縁性が強く、口縁端部外面の凹線文の頂部に刻目紋を施すものが見られる。

〔弥生中期後半中段階〕旧練兵場遺跡 2 次調査 ST19(笹川 1985)、同 17 次調査土器溜り(笹川ほか 2010)を指標とする。本書収録の 19 次調査 SR02 下層出土遺物の多くが本小様式に帰属する。壺では、前小様式から継続して櫛描の内面施文が見られるが、形骸・簡略化しており最末期の様相を呈する。甕は、胴部下半から底部にかけて窄まる形態をもつ A3.B2.C3 型式が指標となる。短頸広口壺 C 形式は、本小様式から口縁部を拡張する C3 型式となる。

一括資料中には確認できないが、型式学的に見て高杯 B1 型式は、本小様式から登場すると考えられる。〔弥生中期後半新段階〕中期末葉の小様式となるが、型式学的な検討では、2 小様式に細別される可能性が高い。特に壺は型式学的に分離できるものの、共伴関係を推定できる一括資料が不足しているため、予察的な提示に止まる。古相を示す資料には、旧練兵場遺跡 23 次調査 O 区 SD8001、矢ノ塚遺跡 SX85005(真鍋編 1987)が挙げられ、甕 A4.B3.C4 型式が指標となる。新相を示す資料は、旧練兵場遺跡 19 次調査 SD86/106、矢ノ塚遺跡 SD85031 があり、甕 A5.B4.C5 型式を指標とすることができる。

広口壺の内面には、円形浮紋等の貼り付けによる加飾が始まり、長頸壺が出現する。受口状に変化した細頸長頸壺 A 形式は、本小様式の古相で消滅する。

〔弥生後期前半古段階〕旧練兵場遺跡 7 次調査 SH02(森下 1994)、同 19 次調査 SH31 を指標とする。同 12 次調査 SH11 出土資料(森下 1996)は、若干の混入品を含むが、当該期の資料とすることができる。破片資料が多く、全形を知り得る資料は、19 次調査 SR02 上層溝下層に多く見られるが、型式学的な検討に基づく分離作業が必要となる。

大様式区分としては、壺・甕の口縁端部の上下拡張や、拡張口縁の高杯 D 形式の出現、台付鉢 B.C 形式の消滅、器台の出現をもって、後期として区分する。甕は、A6.B5.C6 型式が指標となる。壺の多くは、中期後半新段階より継続するものが多いが、短頸広口壺 A 形式は、同 B 形式と広口壺 E 形式に分化する。〔弥生後期前半中段階〕旧練兵場遺跡 19 次調査 SH29・48、同 26 次調査 I a 区 SH1020(信里 2009)出土資料を指標とする。19 次調査 SR02 上層溝下層出土資料の多くは、本小様式に帰属するものと見られる。

甕は A7 型式を主体とし、その派生形式と見られる F1.D1.E1 形式、大型甕 C7 形式を指標とする。甕 D 形式は、備後地域との類似性が認められ、後述する後期後半古段階まで拡張口縁を意識して継続するものである。壺の多くは、基準資料に破片が多いことから、型式学的な検討を経て本小様式に充当したものが多。

〔後期前半新段階〕旧練兵場遺跡 12 次調査 SK12(森下 1996)、同 19 次調査 SK08・SH07 出土資料を指標とする。19 次調査 SH35・38 出土資料は若干の混在品を含むが、多くは当該期の資料で構成される。後期初頭から継続する形式や属性が多く見られるため、前半期に組み込んで呼称するが、後期全体の位置関係では、中葉に相当する小様式である。甕は A8 型式を主体に、D2.E2.F2.J1.G2.M1.N1.R1 型式が見られ、形式分化が著しい。壺は、前小様式から継続するものが多いが、本小様式で長頸壺が消滅する。鉢は、前小様式まで不明確であったものが定形化する。椀形の鉢部に短脚をもつ台付鉢も本小様式から出現する。

〔弥生後期後半新段階〕旧練兵場遺跡 23 次調査 S 区 SH1069、奥白方中落遺跡土器溜まり B.C(森下 2008)を基準資料とする。19 次調査 SH02 は若干の混入品を含むものの、大半が本小様式に帰属する。全体的に一括資料が不足しており、特に壺に関する資料が不足する。器種組成としては、拡張口縁をもつ高杯 D 形式、器台 A.B 形式の消滅等を捉えて、後期後半期における古段階として提示する。甕・壺における平底の底部の縮小傾向や、甕の胴部最大径の降下等が様式的な特徴となる。甕は A9.D3.E3.F3.G1.J2.L3.M2.N2.O1.R2 型式を指標とするが、G2.N2.O1 型式等、型式学的な特徴から本小様式と推定する型式も少なくない。今後の一括資料の増加により、若干の修正が必要となる。

〔弥生後期後半新段階〕旧練兵場遺跡 19 次調査 SH44、同 22 次調査 N 区 SH7005、郡家原遺跡 SD107 下層(山下編 1993)を基準資料とする。甕は、A10.D4.F4.G2.H1.J3.C4.M3.N3.O2.R3 型式を指標とするが、J3.R3 型式の位置付けは、型式学的な特徴から本小様式に帰属するものと判断した。これらの甕は、胴部下半の張りが強くなるとともに、底部の立ち上がりが消失する特徴が共通している。壺は広口壺を中心にした組成が確認でき、口縁部外面に鋸歯紋を施す複合口縁壺が出現する。

〔弥生終末期古段階〕壺・甕における胴部の球形化著しく進行する段階を終末期として、後期と切り離し様式設定を行う。旧練兵場遺跡 7 次調査 SH07、同 23 次調査 S 区 SH1068、同 24 次調査 II 4 区 SH4001 を基準資料とする。郡家原遺跡 SD107 上層も本小様式に帰属すると考えられる。共伴関係が断片的でありやや不安が残るが、甕 A11.D5.F5.G5.H2.M4.N4.O3.R4 型式を指標とする。郡家原遺跡 SD107 下層出土の A11 型式は、形態から見て、本小様式に帰属するものとして位置付けた。

〔弥生終末期中段階〕旧練兵場遺跡 7 次調査 SH17(森下 1994)、同 11 次調査 SH48(片桐 2008)出土資料を基準資料とする。甕では、底部が矮小化し、痕跡的に平底を留めるものが主体の D6.G4.H3.L5 型式が指標とする。広口壺は口縁部の外反が強くなり、口縁端部の上下を拡張し鋸歯紋を施文することにより複合口縁壺とするものが増加する。

〔弥生終末期新段階〕旧練兵場遺跡 2 次調査 ST12(笹川 1985)、同 19 次調査 SH02、同 23 次調査 SH1038 を基準資料とする。永井北遺跡 SD6003(宮崎編 2008)も小破片を主体とするが、本小様式に帰属する資料と見られる。郡家原遺跡 SD158 土器集中も一部に時間的に次様式に下るものが含まれるが、大部分は本小様式に帰属する。また、本書に収録している SR02 上層における土器溜まり出土資料は、本小様式と次様式に帰属するものが主体を占める。

甕は、A13.D7.F7.G1.H5.I4.J5.K1.L6.M6.N5.O5.P2.Q2 型式を指標とするが、旧練兵場遺跡 2 次調査

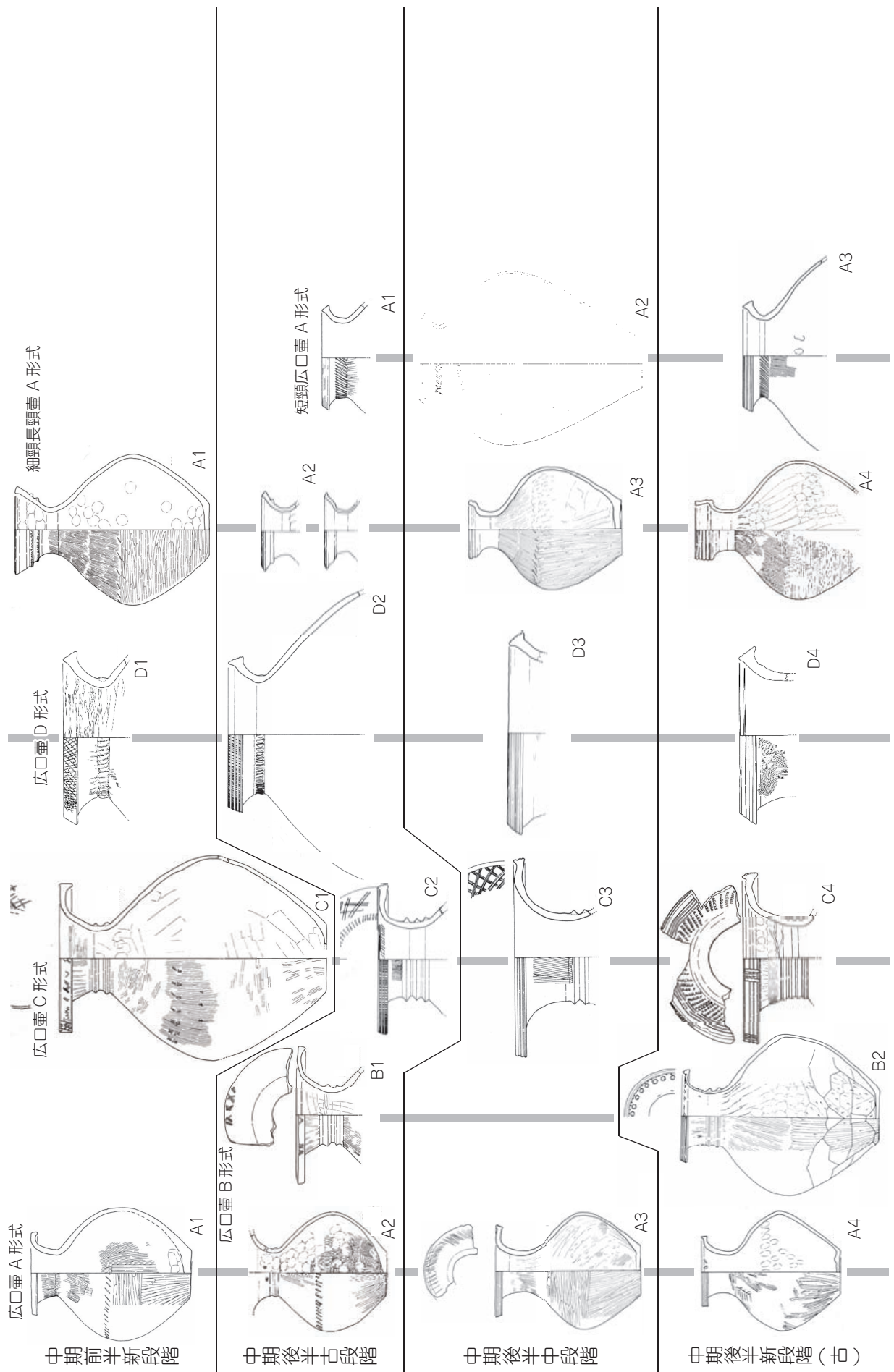


図 646 土器編年 その 1 (1/8)

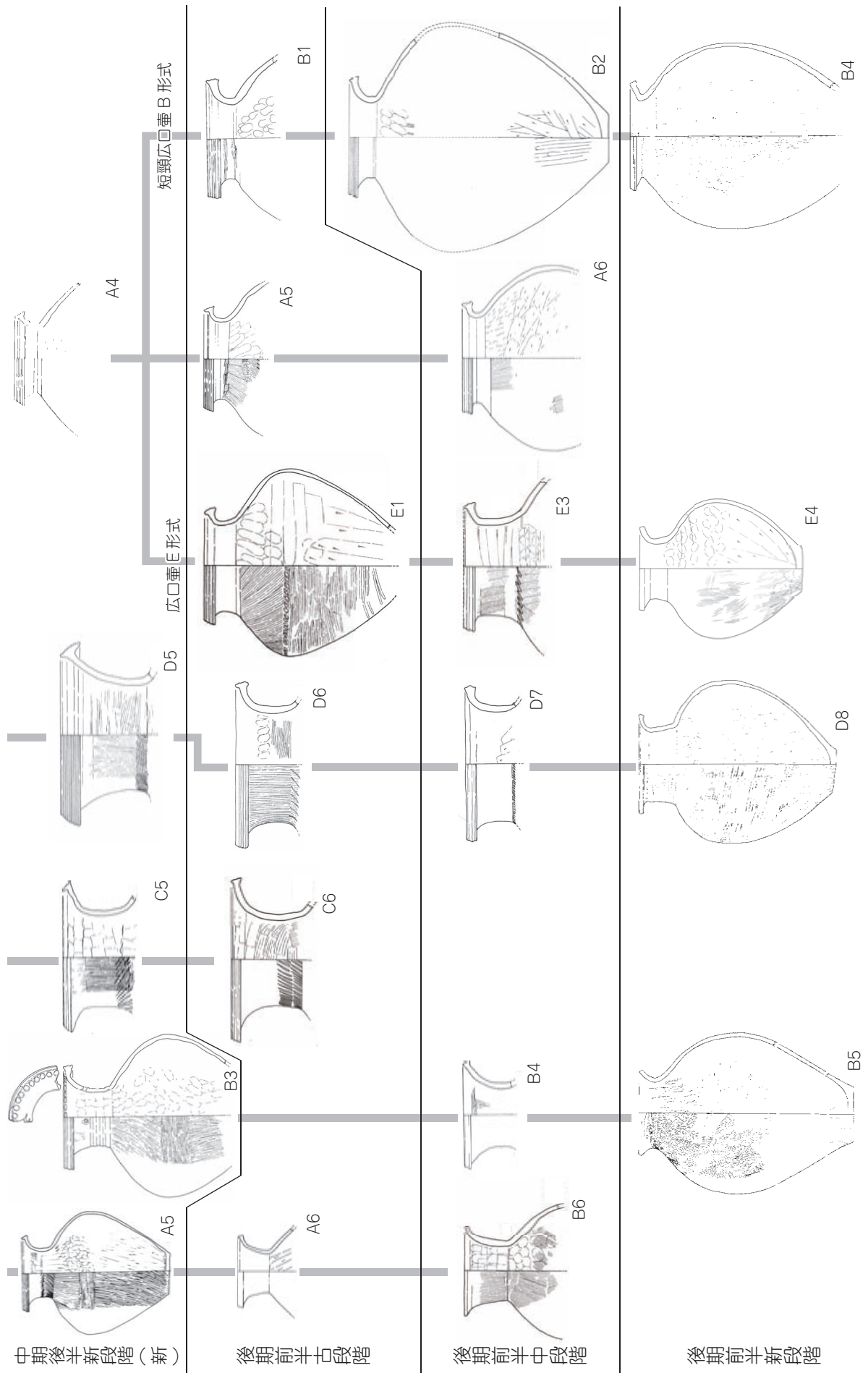


図 647 土器編年 その2 (1/8)

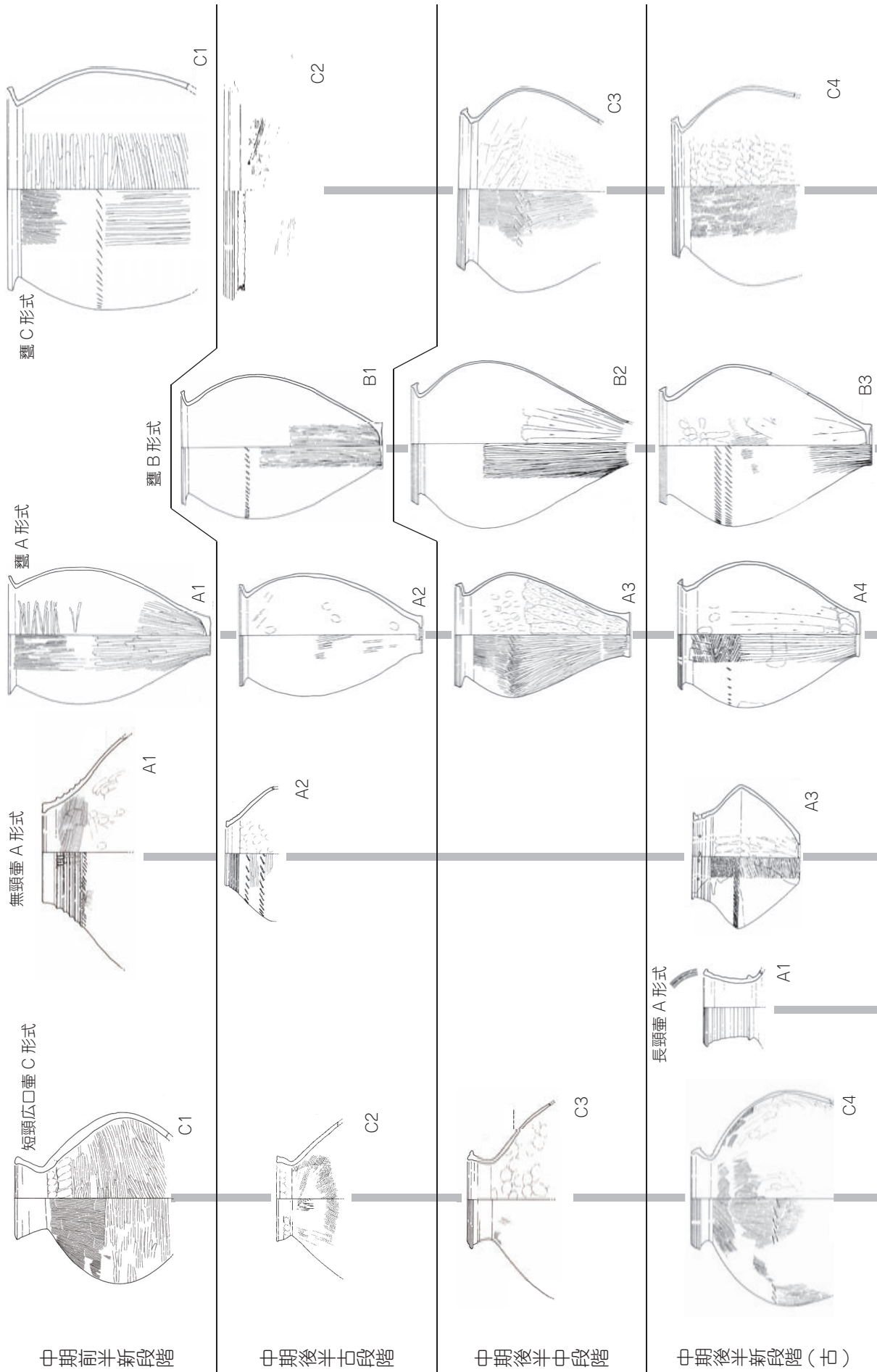


図 648 土器編年 その 3 (1/8)

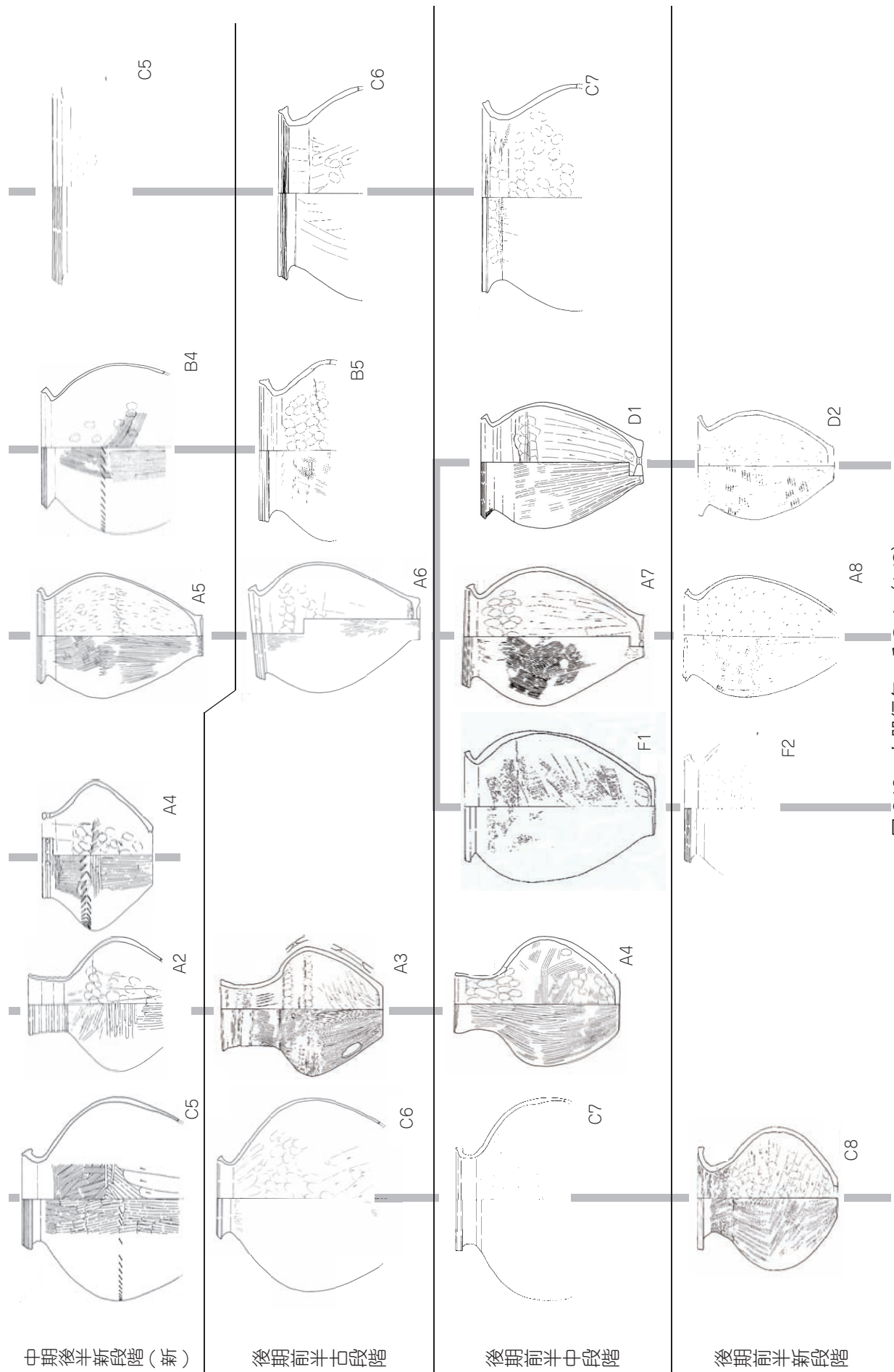


図 649 土器編年 その 4 (1/8)

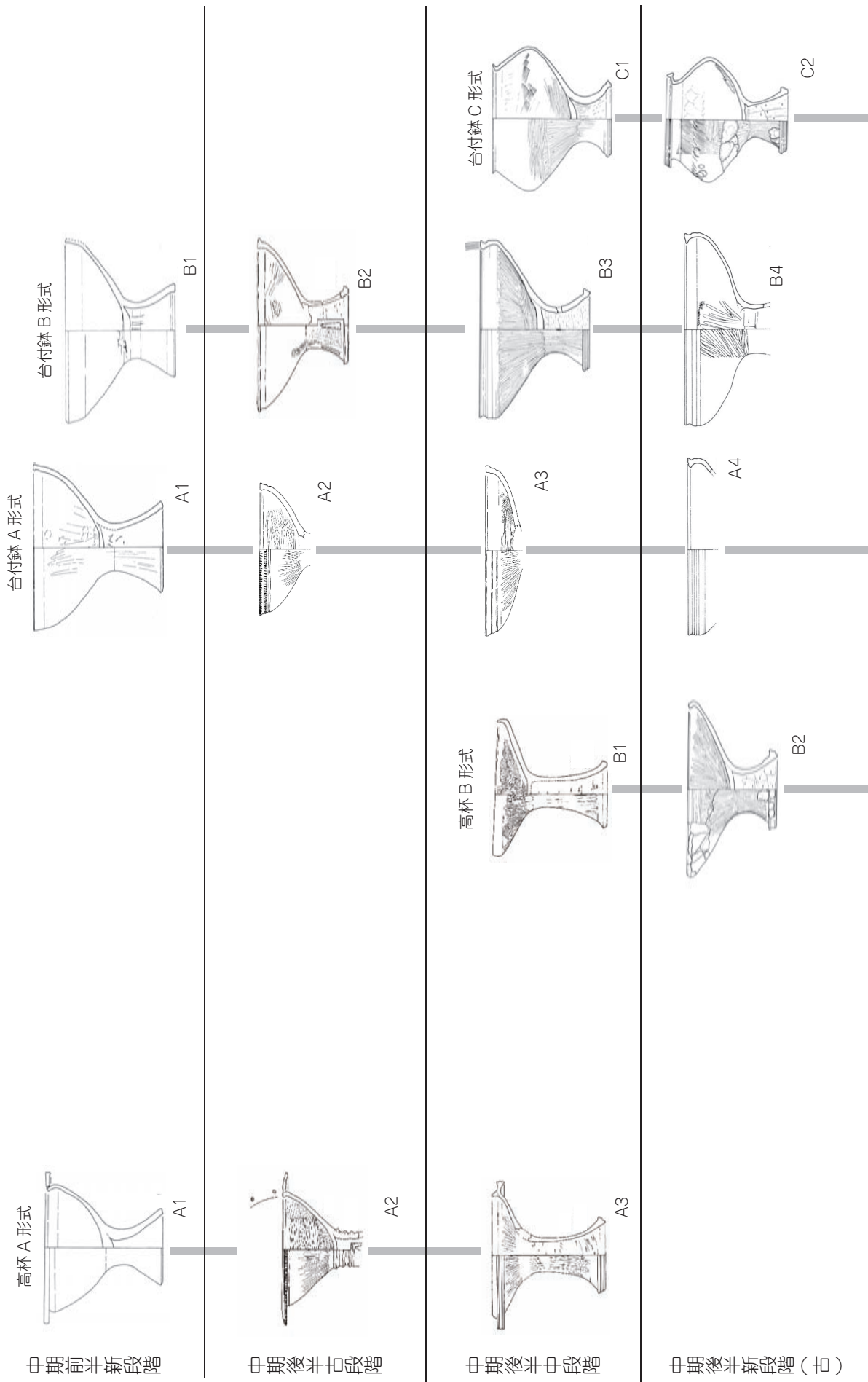


図 650 土器編年 その 5 (1/8)

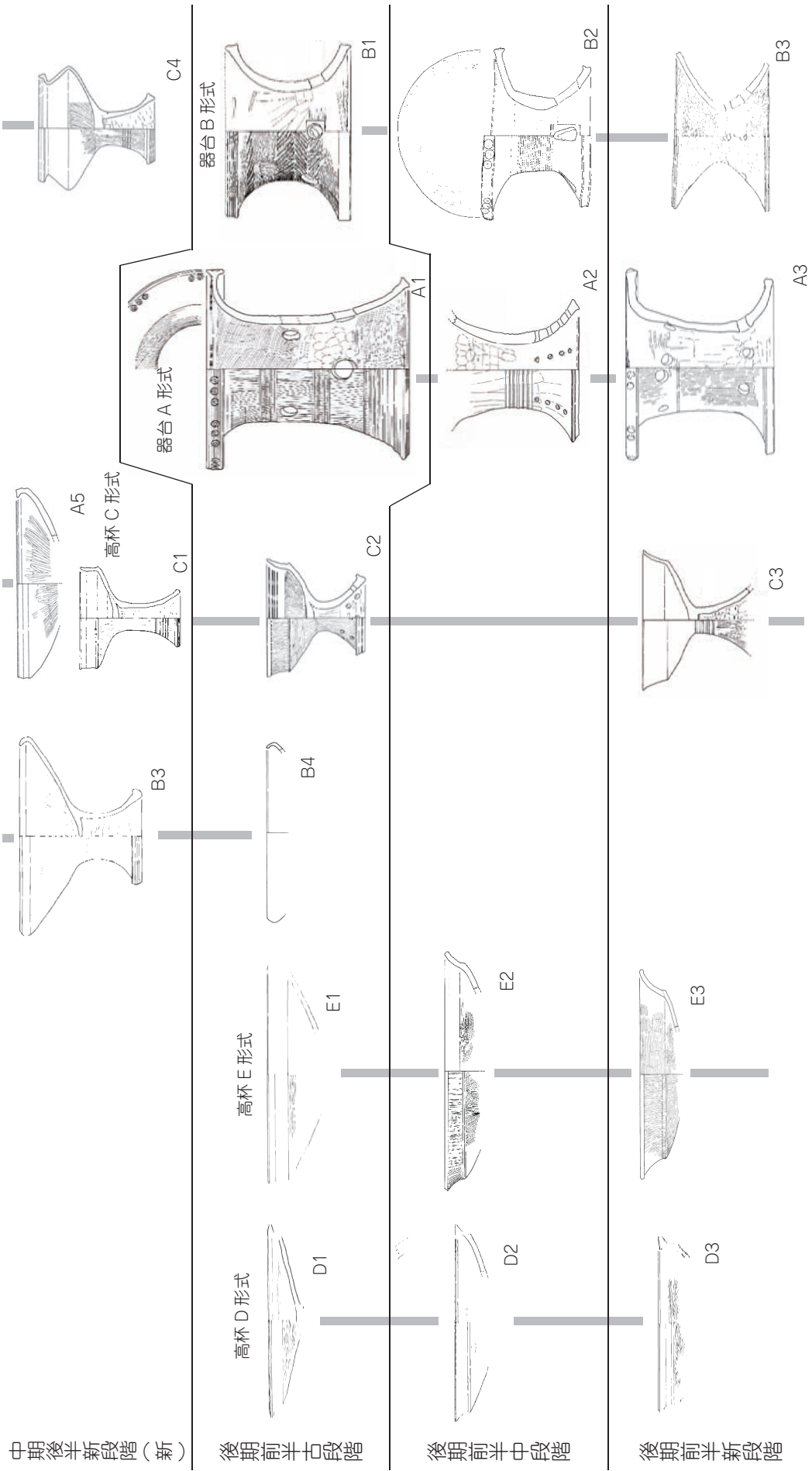


図 651 土器編年 その 6 (1/8)

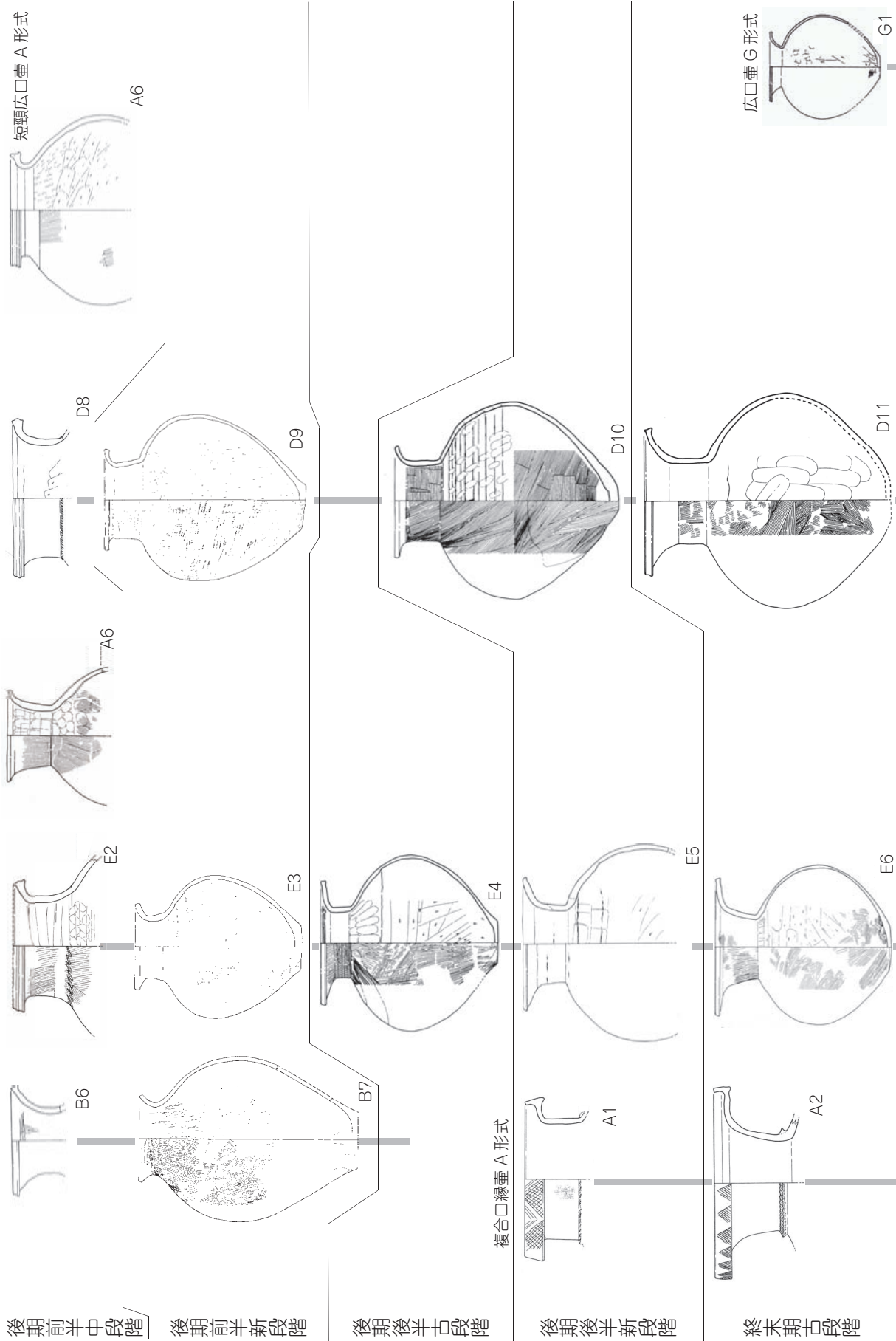


図 652 土器編年 その 7 (1/8)

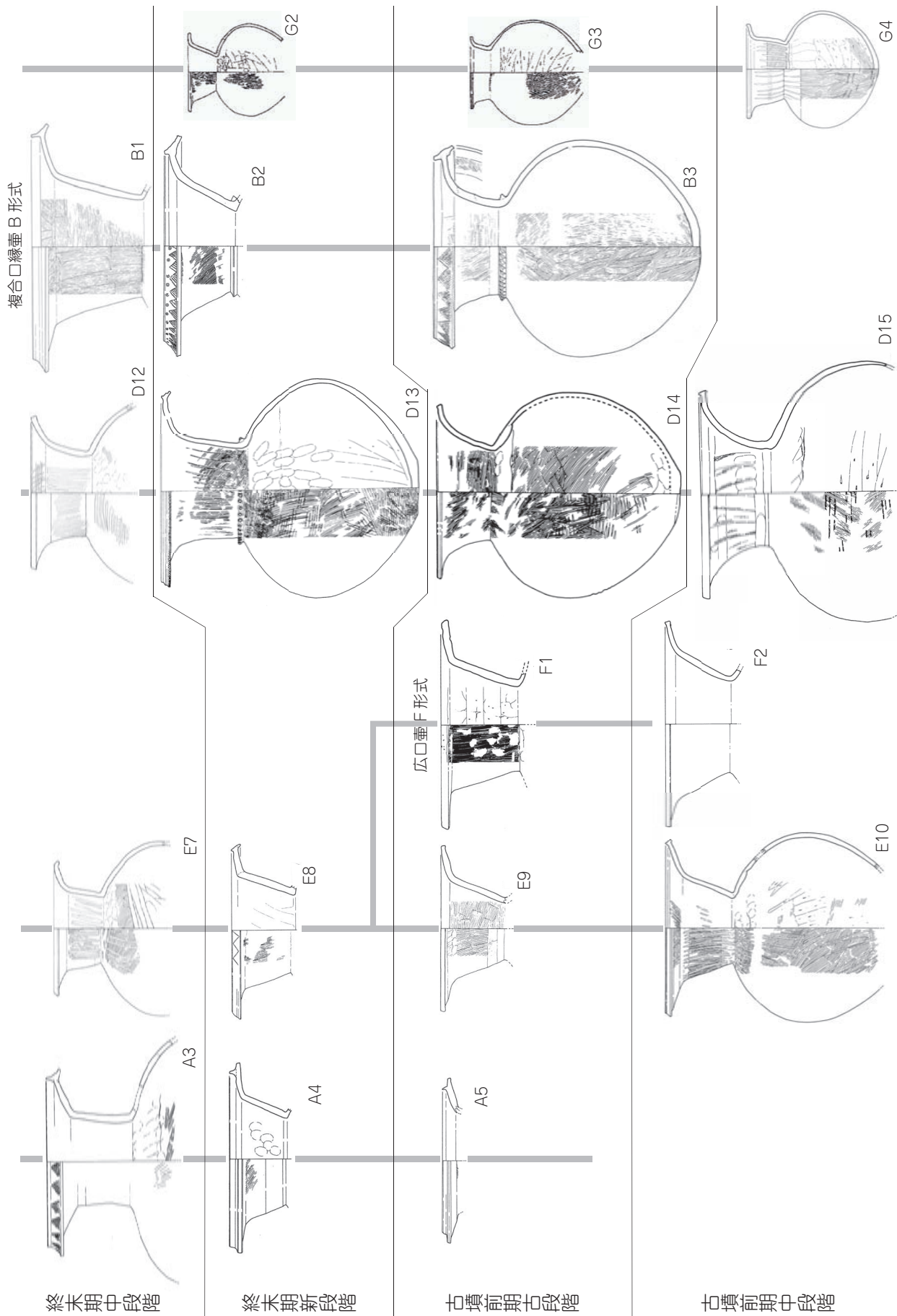


図 653 土器編年 その8 (1/8)



図 654 土器編年 その9 (1/8)

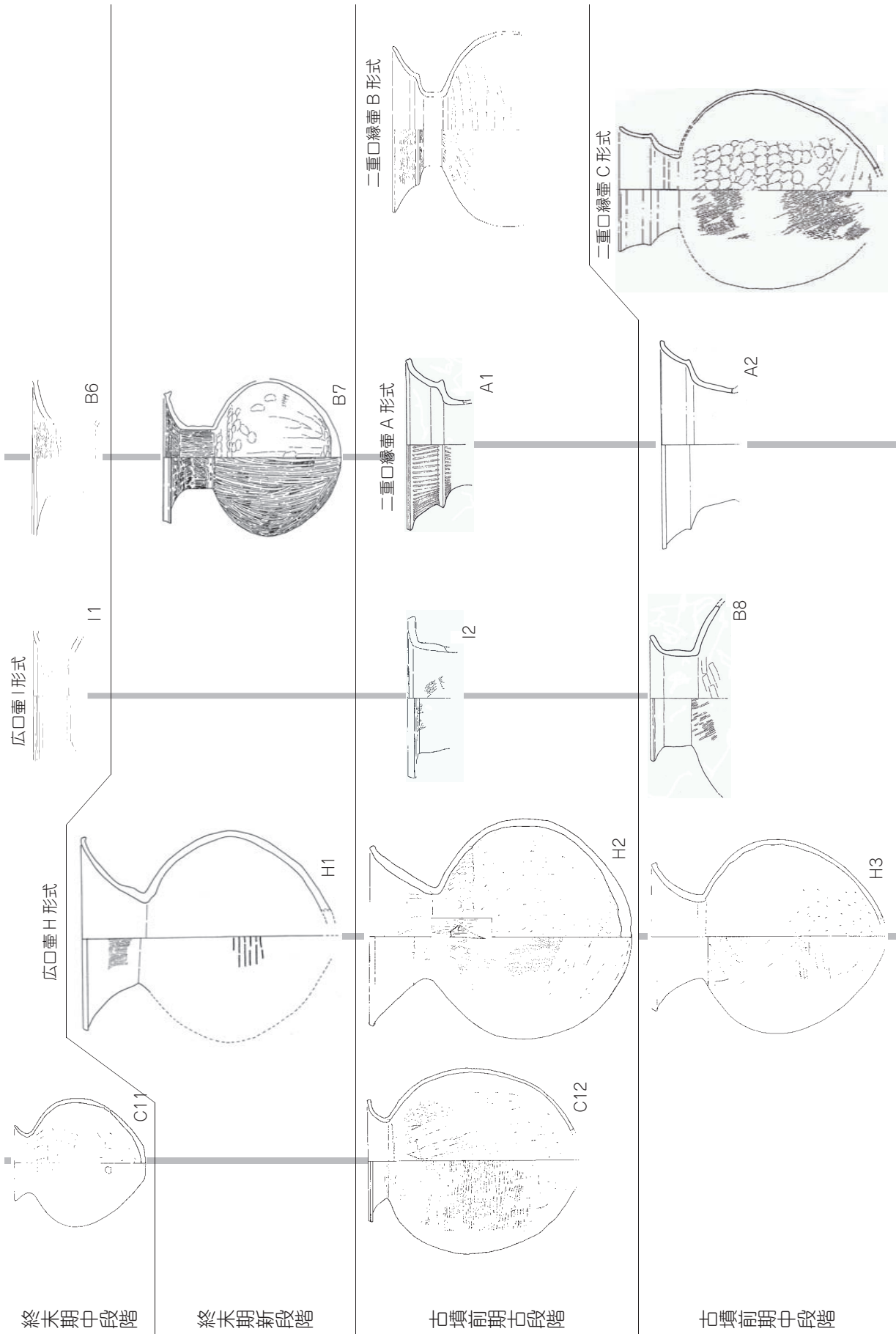


図 655 土器編年 その 10 (1/8)

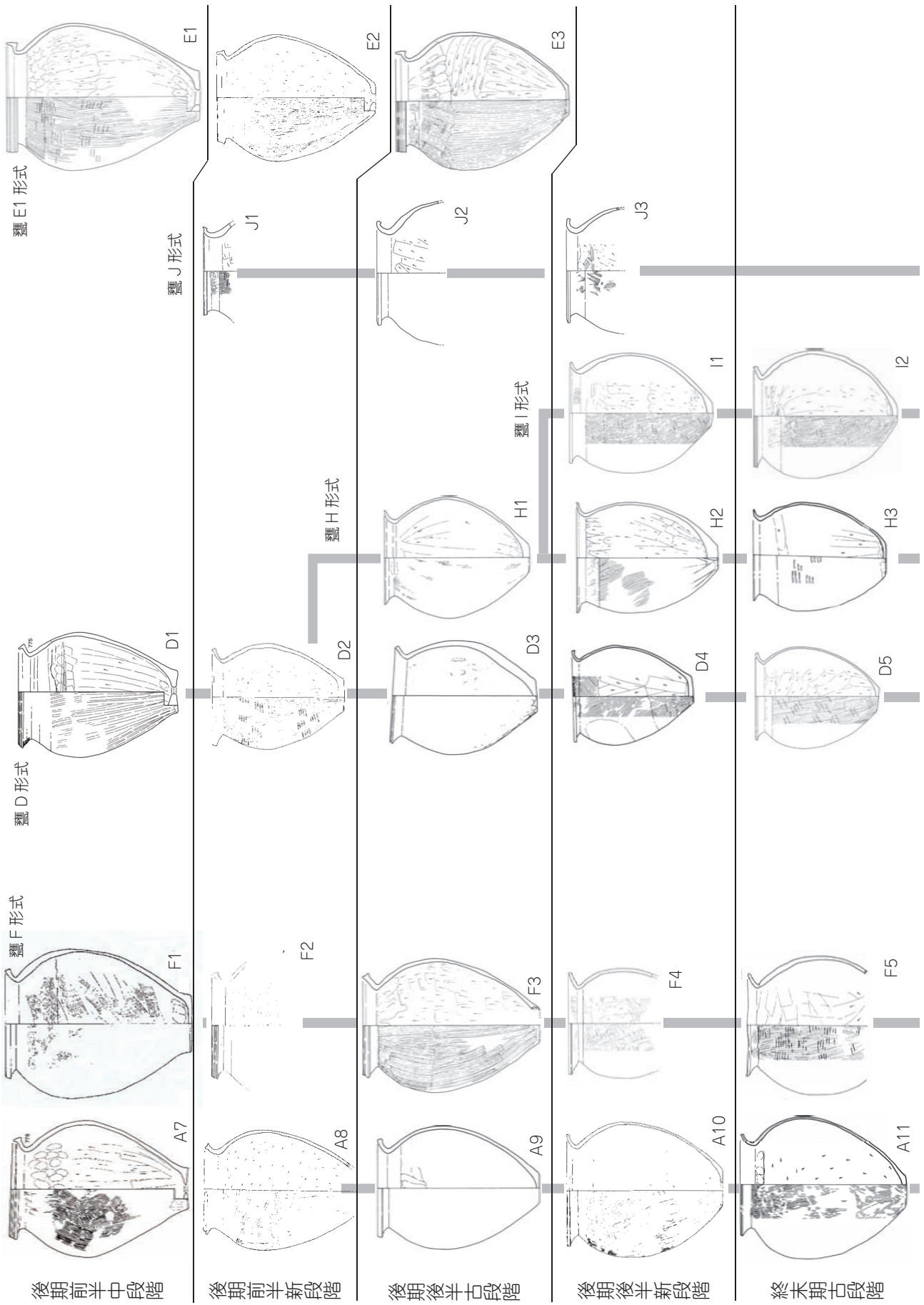


図 656 土器編年 その 11 (1/8)

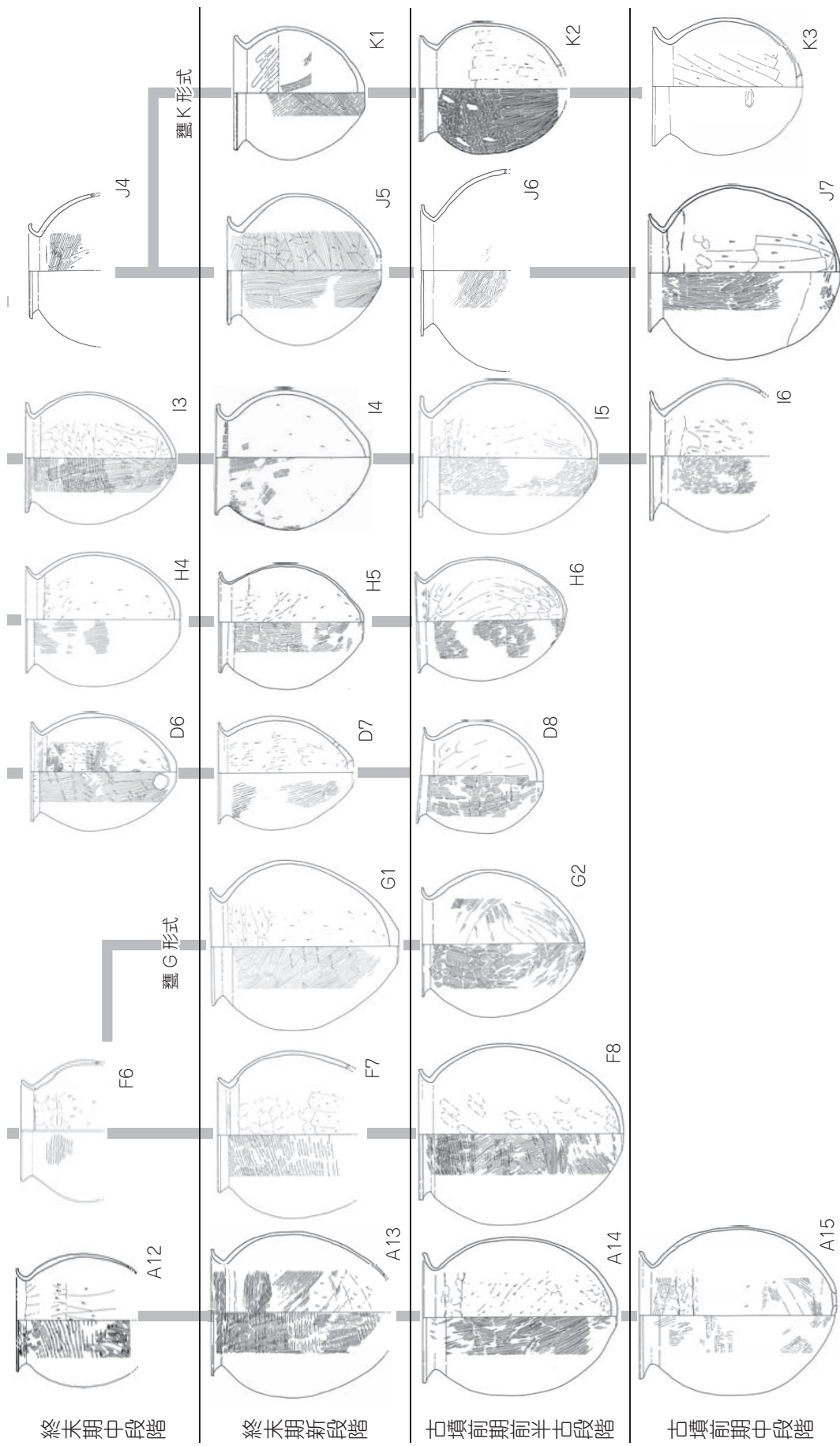


図 657 土器編年 その 12 (1/8)

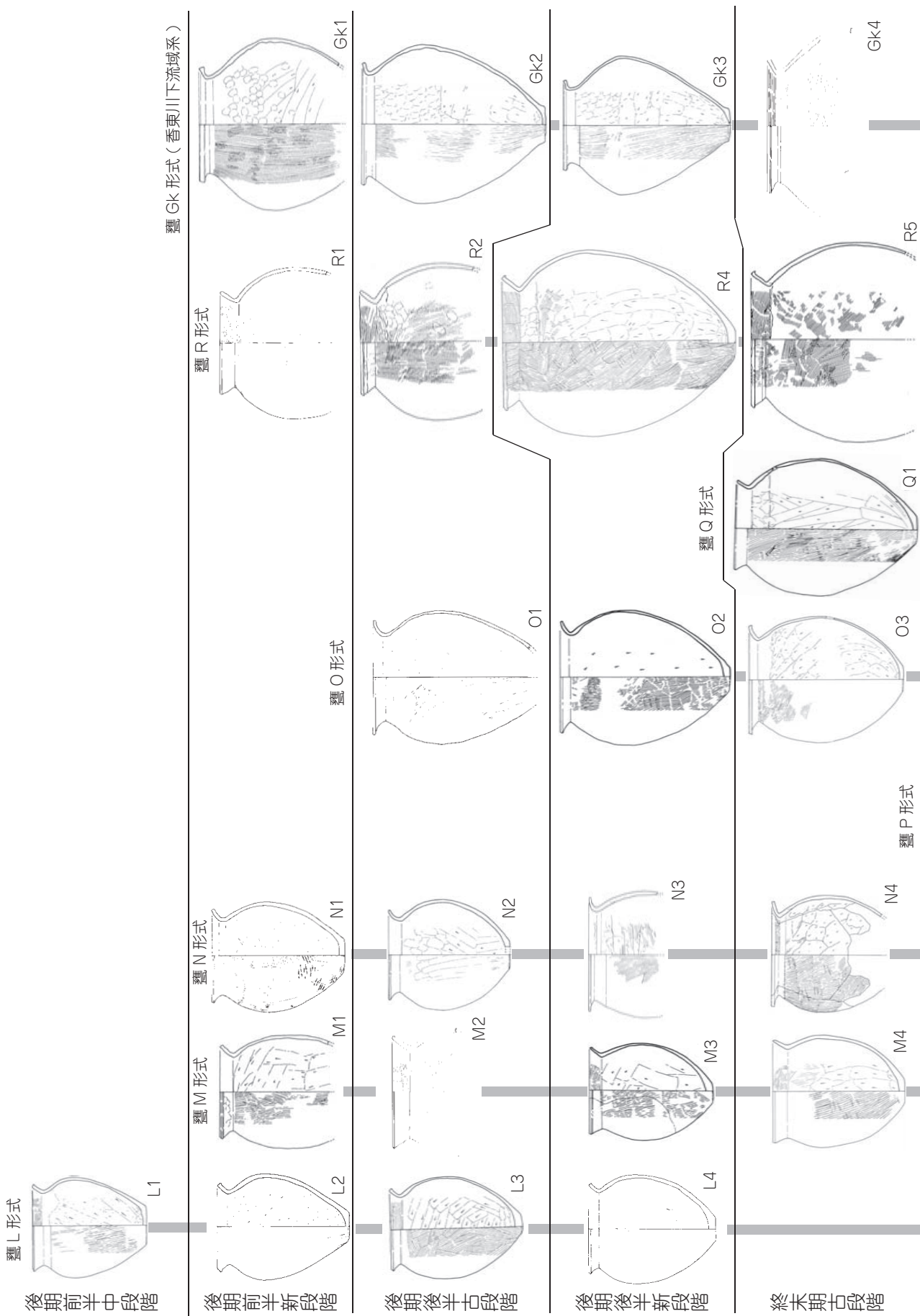


図658 土器編年 その13 (1/8)

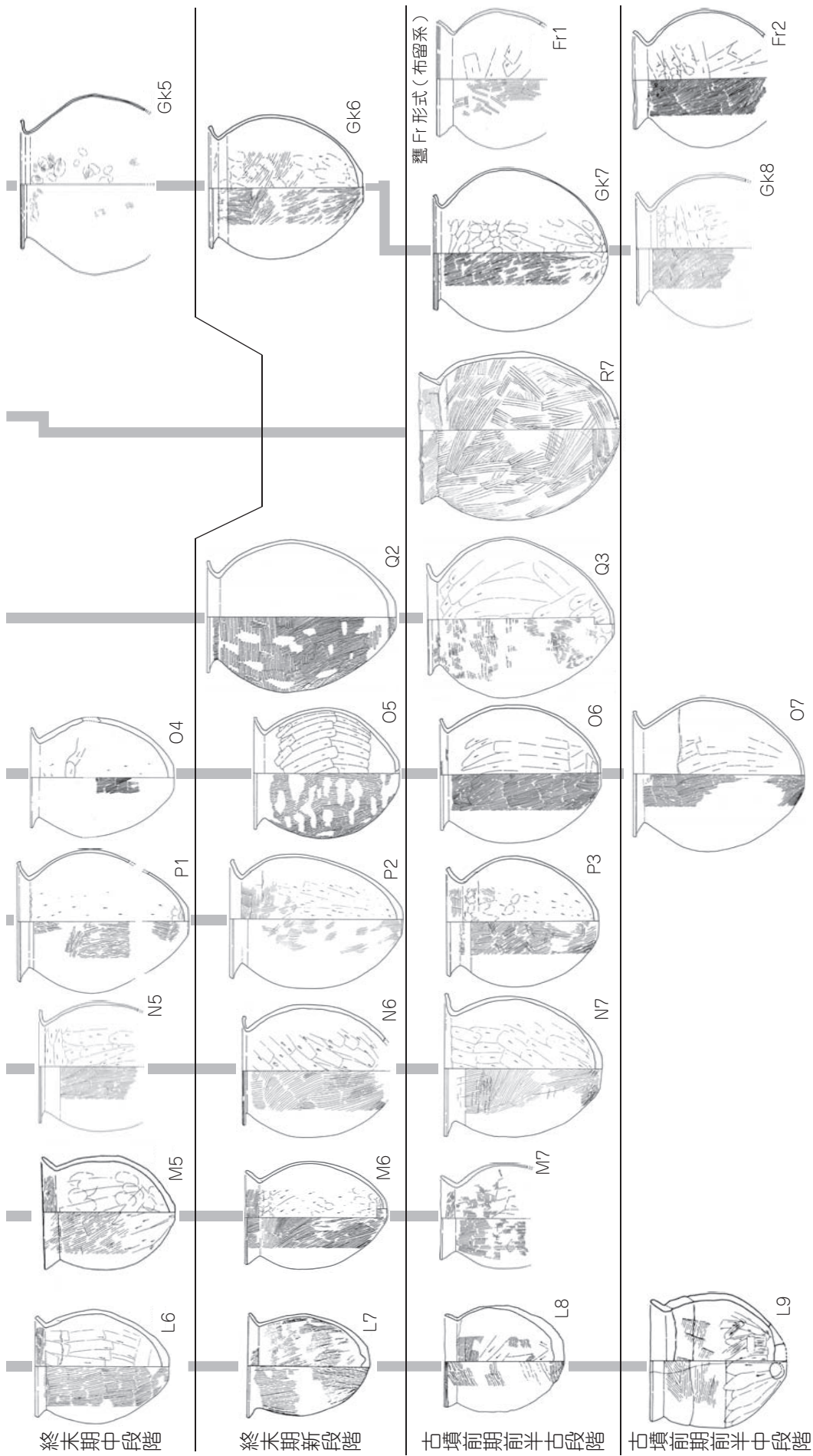


図 659 土器編年 その 14 (1/8)

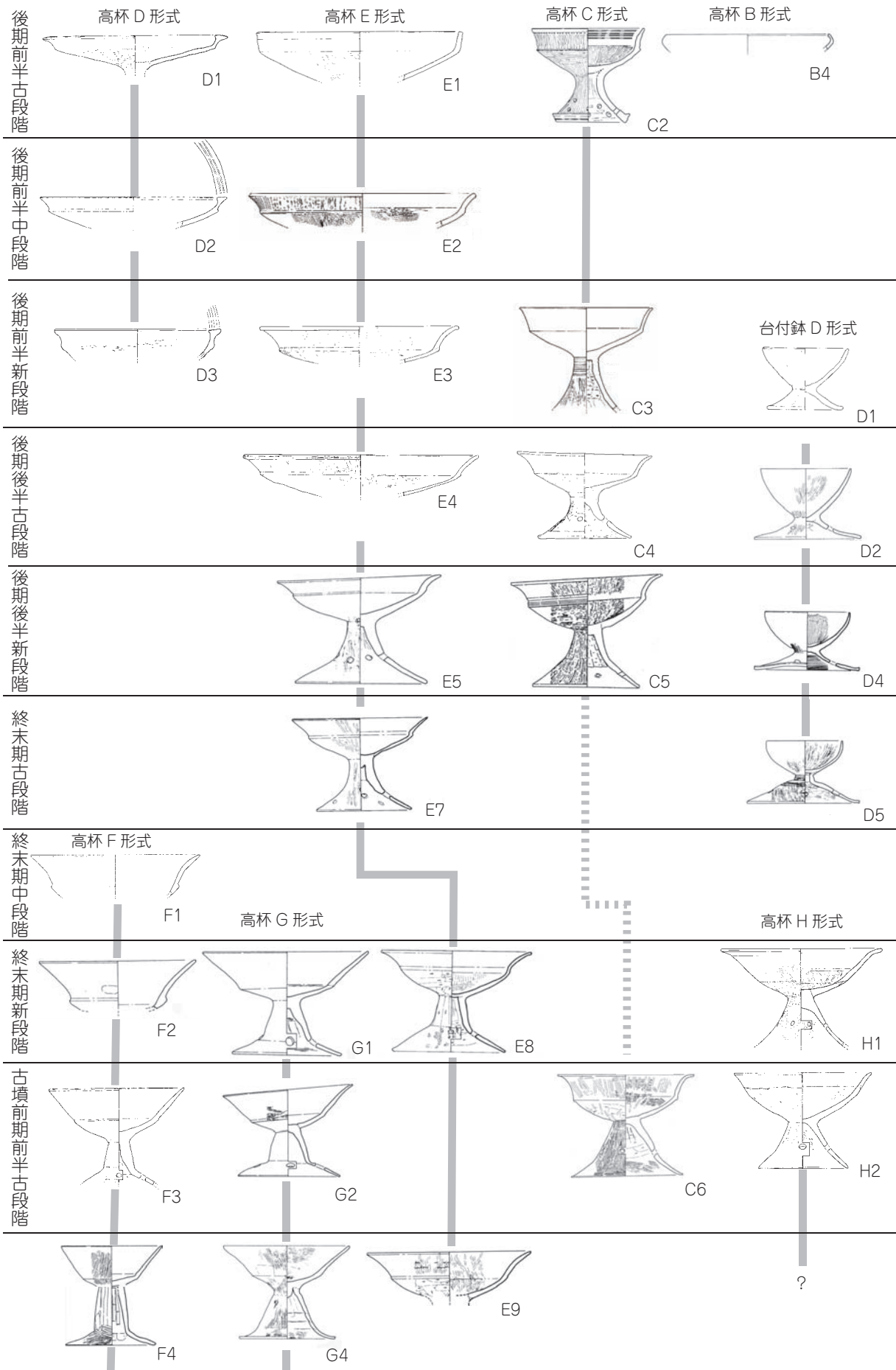


図 660 土器編年 その 15 (1/8)

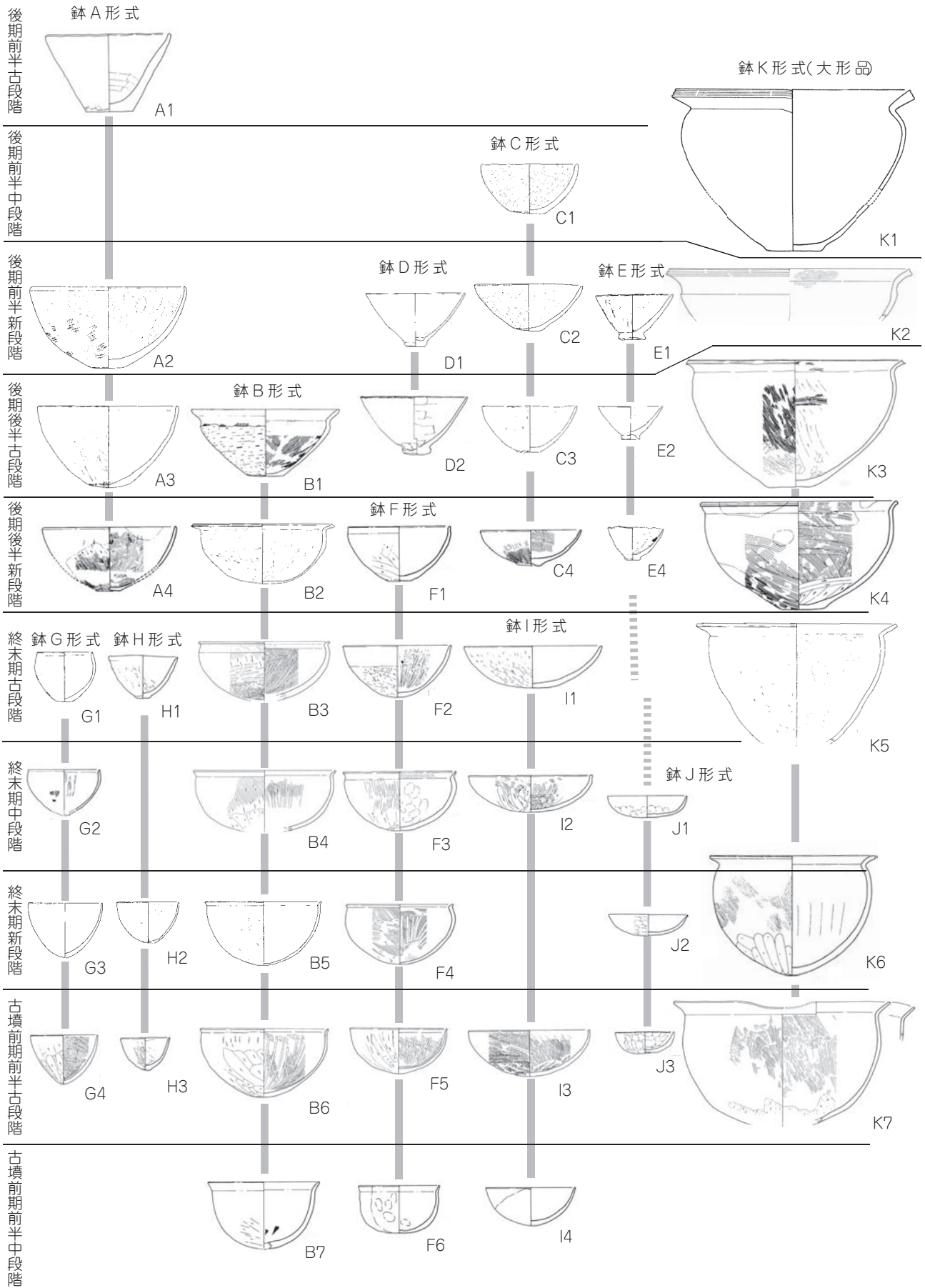


図 661 土器編年 その 16 (1/8)

ST12 出土資料で判明する I4.K1.O5.Q2 型式の組み合わせ以外は、口縁部や体部形態から類推して本様式と判断したものが多い。これらは、胴部の球形化が進行し、内外面ともに底部と胴部の境界が不明瞭であることや、頸部の内面の口縁部の屈曲点が下がる等の一定の特徴を共有する。壺では、口縁部が逆ハの字に立ち上がるものが出現する。鉢では、G 形式とした薄手で尖底の小型鉢が急激に増加する。

〔古墳前期前半古段階〕 布留系甕や近畿系の二重口縁壺等古式土師器の共伴が確認できることから古墳時代初頭の小様式として提示する。基準資料には、旧練兵場遺跡 2 次調査 ST15(笹川 1985)、同 11 次調査 SH01 下層(片桐 2008)、同 20 次調査 SH370(笹川編 2002)、小塚遺跡 SD01(宮崎編 2008) 出土資料が挙げられる。本書に収録する 19 次調査 SR02 上層出土資料は、型式学的な特徴から、本小様式に帰属させたものも多い。甕の多くは、球形化と丸底化を達成しており、甕 A14.D8.F8.G2.H6.I5.J6.K2.L8.N6.O6.P3.Q3. 型式を指標とし、多くの形式が終末期から継続する。また、旧練兵場遺跡 11 次調査 SH01 下層、小塚遺跡 SD01 では布留系甕(Fr1 型式) が共伴し、後者には畿内系二重口縁壺も伴う。

〔古墳前期前半新段階〕 旧練兵場遺跡 5 次調査 SH24(笹川 1989)、同 14 次調査 SH11(西岡 2009)、同 23 次調査 Q 区 SK0001、買田下岡下遺跡 SD37(真鍋 2004) 出土資料を基準とする。本書に収録する 19 次調査 SH01 出土資料は、前小様式との混在資料である。出土遺構によって差異が見られるが、弥生終末期から前小様式まで継続していた形式の多くが消滅し、A15.I6.J7.K3.L9.O7 型式に高松平野の香東川下流域産の系譜にある Gk8 型式と布留系甕 Fr2 型式が伴う。甕・高杯ともに布留系を確認できるが、鉢や小型丸底壺等他の布留系の器種が確認されることは少ない。

5. 既往の編年との対応関係

大久保 1990	大久保 2003	本書	森下 2001
		弥生後期前半古段階	後期前半古段階
		弥生後期前半中段階	後期前半中段階
下川津Ⅰ式	①段階	弥生後期前半新段階	後期前半新段階
下川津Ⅱ式	②段階	弥生後期後半古段階	後期後半古段階
下川津Ⅲ式			
下川津Ⅳ式	③段階	弥生後期後半新段階	後期後半新段階 / 終末期古段階
	④段階	弥生終末期古段階	
下川津Ⅴ式		⑤段階	弥生終末期中段階
	⑥段階		弥生終末期新段階
		⑦段階	古墳前期前半古段階
+	⑧段階	古墳前期前半新段階	
+	+		
下川津Ⅶ式	⑨段階		

表 53 編年対照

既往の編年との対応関係を表 53 によって整理する。

基軸となる既往の編年案は、主に香東川下流域産土器によって組まれた大久保氏の編年案である(大久保 1990.2003)。本書の編年案との対応は、香東川下流域産と考えられる搬入・模倣品の旧練兵場遺跡及び周辺遺跡での共伴状況と、基準資料の土器相から推定した。下川津Ⅰ式・①段階とされる甕の搬入品は、旧練兵場遺跡 11 次調査 SH45 で弥生後期前半新段階の資料と共伴する。下川津Ⅲ式と考えられる甕の搬入品は、稲木遺跡 C 地区 5 号住居から弥生後期後半新段階と見られる土器群に伴う。下川

津Ⅳ式・④段階と見られる細頸壺の模倣品が、旧練兵場遺跡 25 次調査Ⅱ 4 区 SH4001 で終末期古段階の資料と共伴する。下川津Ⅵ式・⑦段階の標識となる下川津遺跡 SH32 出土資料は、甕 A13,O6 型式等古墳前期前半古段階と推定する小塚遺跡 SD01 出土資料と共通する様相を示し、胎土は異なるが製作技法で香東川下流域産土器を受け継ぐ甕 Gk7 型式を伴う。⑧段階の標識とされる旧練兵場遺跡 5 次調査 SH24 出土資料は、本書の編年案では古墳前期前半新段階に位置付けている。

森下氏の編年(森下 2001)は旧練兵場遺跡出土資料を用いて組まれているが、作成当時に比べて資料数が増加していることと、形式分類に本編年案と相違が見られるため、必ずしも対応しない。

6. 小結

以上、遺構の時期決定の参照資料としての土器編年案を提示した。しかし、必ずしも十分なものとは言えず、今後継続する報告書作成作業で修正を続ける必要がある。また、本書に収録する 19 次調査では、他地域からの搬入土器が多く見られるが、それらを用いた併行関係の整理については、第Ⅲ冊で検討を加えることとしたい。(信里)

既往の編年の引用文献

大久保徹也 1990「下川津遺跡における弥生時代後期から古墳時代前半の土器について」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ 下川津遺跡』香川県教育委員会ほか

大久保徹也 2003「四国北東部地域における首長埋葬祭祀様式の画期－土器編年との対応関係について－」『古墳出現期の土師器と実年代シンポジウム資料集』(財)大阪府文化財センター

森下英治 2001「普通寺市旧練兵場遺跡における弥生土器の編年と地域性の検討(上)」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅸ』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

基準資料に使用した主な文献

片桐孝浩 2008『広域基幹河川弘田川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 弘田川西岸遺跡』香川県教育委員会

笹川龍一 1985『彼ノ宗遺跡～弘田川河川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査報告～』普通寺市教育委員会

笹川龍一 1986『仙遊遺跡発掘調査報告書－旧練兵場遺跡仙遊Ⅰ地区－』普通寺市教育委員会

笹川龍一 1989『仲村廃寺～旧練兵場遺跡における埋蔵文化財確認調査報告書～』普通寺市教育委員会

笹川龍一ほか 2010「平成 11 年度旧練兵場遺跡の調査概要について」『文化財協会報第 29 号』普通寺市文化財保護協会

中嶋将史 2005「旧練兵場遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成 16 年度』香川県埋蔵文化財センター

西岡達哉 2009『普通寺病院看護学校建設及び統合事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 1 冊 旧練兵場遺跡Ⅰ』香川県教育委員会ほか

信里芳紀 2005「讃岐地方における弥生中期から後期初頭の土器編年－凹線文期を中心に－」『香川県埋蔵文化財センター研究紀要Ⅰ』香川県埋蔵文化財センター

信里芳紀 2009「旧練兵場遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成 20 年度』香川県埋蔵文化財センター

古野徳久 1998『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第三十冊 川津一ノ又遺跡Ⅱ』香川県教育委員会ほか

真鍋昌宏編 1987『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 3 冊 矢ノ塚遺跡』香川県教育委員会ほか

真鍋昌宏 2004『一般国道 32 号満濃バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 1 冊 買田下岡下遺跡』香川県教育委員会 国土交通省四国地方整備局

宮崎哲治編 2008『一般国道 11 号坂出丸亀バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 1 冊 稲木北遺跡 永井北遺跡 小塚遺跡』香川県教育委員会 国土交通省四国地方整備局

森下英治 1994『旧練兵場遺跡－平成 5 年度国立普通寺病院内発掘調査報告』香川県教育委員会

森下英治 1996『旧練兵場遺跡Ⅲ－平成 7 年度国立普通寺病院内発掘調査報告－』香川県教育委員会

森下英治編 2008『県道丸亀多度津線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 中東遺跡 2 奥白方中落遺跡 奥白方南原遺跡』香川県教育委員会

山下平重編 1993『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第十三冊 郡家原遺跡』香川県教育委員会ほか

編年図使用土器の出典

弥生中期前半新段階

川津一ノ又遺跡 SD92/100(広口壺 A1, 高杯 A1), 川津一ノ又遺跡 SD62(甕 A1,C1), 旧練兵場遺跡 19 次 SR02 下層(広口壺 C1,D1 細頸壺 A1, 短頸広口壺 C1, 無頸壺 A1), 旧練兵場遺跡 23 次 SRy02 下層(台付鉢 A1,B1)

弥生中期後半古段階

旧練兵場遺跡 19 次 SR02 下層(広口壺 A2,B1, 短頸広口壺 C2, 高杯 A2, 台付鉢 A2, 台付鉢 B2), 旧練兵場遺跡 19 次 SP415,417(甕 C2), 旧練兵場遺跡 22 次 G 区 SH0005(無頸壺 A2), 旧練兵場遺跡 12 次 SH06(細頸長頸壺 A2, 短頸広口壺 A1), 矢ノ塚遺跡 SD85101(広口壺 C2), 矢ノ塚遺跡 SX85004(広口壺 D2), 矢ノ塚遺跡包含層(甕 B1), 多肥松林遺跡 SR01(甕 A2)

弥生中期後半中段階

旧練兵場遺跡 17 次 (広口壺 A3, 広口壺 D3, 短頸広口壺 A3, 甕 A3,C3, 台付鉢 B3, 台付鉢 C1), 旧練兵場遺跡 19 次 SR02 下層 (短頸広口壺 A2,C3, 高杯 A3, 高杯 B1, 台付鉢 A3), 矢ノ塚遺跡包含層 (広口壺 C3), 矢ノ塚遺跡 SD85123(甕 B2)

弥生中期後半新段階 (古)

旧練兵場遺跡 18 次 SD005(広口壺 A4), 旧練兵場遺跡 23 次 O 区 SD8001(広口壺 B2, 長頸壺 A1, 高杯 B2, 台付鉢 C2), 旧練兵場遺跡 19 次 SR02 下層 (広口壺 C4, 広口壺 D4, 細頸長頸壺 A4), 矢ノ塚遺跡包含層 (短頸広口壺 A3), 矢ノ塚遺跡 SD85010(甕 B3), 矢ノ塚遺跡 SD85024(台付鉢 A4), 矢ノ塚遺跡 SD85036(台付鉢 B4), 奥白方中落遺跡 SH03(甕 C4), 旧練兵場遺跡 19 次 SP1909(短頸広口壺 C4), 西碑殿遺跡 SP54(無頸壺 A4), 西碑殿遺跡 SB04(甕 A4),

弥生中期後半新段階 (新)

旧練兵場遺跡 14 次 SD100(広口壺 A5,C5, 長頸壺 A2, 無頸壺 A4), 奥白方中落遺跡 SH03(広口壺 B3), 旧練兵場遺跡 19 次 SD86(広口壺 D5, 短頸広口壺 A4, 甕 A5), 旧練兵場遺跡 19 次 SD106(甕 C5, 高杯 B3), 旧練兵場遺跡 19 次 SR02 中層 (台付鉢 A5), 旧練兵場遺跡 19 次 SD55 高杯 C1, 旧練兵場遺跡 19 次 SR02 上層 (台付鉢 C4), 矢ノ塚遺跡 SD85037(短頸広口壺 C5), 矢ノ塚遺跡 SD85032(甕 B4),

弥生後期前半古段階

旧練兵場遺跡 5 次 SK29 広口壺 A6, 旧練兵場遺跡 19 次 SR02 上層溝上層広口壺 C6, 旧練兵場遺跡 18 次 SD005, 旧練兵場遺跡 19 次 SR02 上層溝下層 (広口壺 E1, 甕 B5,C6, 長頸壺 A3, 器台 A1, 器台 B1), 旧練兵場遺跡 23 次 S 区 SK0001(短頸広口壺 A5), 旧練兵場遺跡 12 次 SB04(短頸広口壺 B1), 旧練兵場遺跡 19 次 SD86(短頸広口壺 C6), 旧練兵場遺跡 19 次 SH31(甕 A6, 高杯 E1, 鉢 A1), 旧練兵場遺跡 12 次 SH11(高杯 D1,B4), 旧練兵場遺跡 23 次 U 区 SH5011(高杯 C2)

弥生後期前半中段階

旧練兵場遺跡 19 次 SR02 上層溝下層 (広口壺 B6, 広口壺 E3, 長頸壺 A4,B1, 甕 A7,D1,E1,C6, 高杯 E2, 器台 A2), 旧練兵場遺跡 12 次 SH11(広口壺 B4, 広口壺 D7), 旧練兵場遺跡 19 次 SH29(短頸広口壺 A6, 高杯 D2), 矢ノ塚 SD85036(短頸広口壺 B2), 旧練兵場遺跡 19 次 SH48 短頸広口壺, 旧練兵場遺跡 7 次 SH14(甕 F1), 旧練兵場遺跡 19 次 SH63(器台 B2), 旧練兵場遺跡 SH35(鉢 C1), 旧練兵場遺跡 2 次 SX14(鉢 K1)

弥生後期前半新段階

旧練兵場遺跡 19 次 SK08(広口壺 B2,D8,E4, 甕 A8,D2,N1, 高杯 D3, 鉢 A2,C2, 台付鉢 D1), 旧練兵場遺跡 19 次 SH38(短頸広口壺 B3), 旧練兵場遺跡 19 次 SR02 上層溝下層 (短頸広口壺 C8, 甕 E2, 高杯 C4), 旧練兵場遺跡 19 次 SH09(甕 F2,R1, 器台 B3, 鉢 D1,K2), 旧練兵場遺跡 12 次 SK12(長頸壺 B2, 高杯 E4, 器台 A3), 旧練兵場遺跡 19 次 SH35(甕 J1), 旧練兵場遺跡 19 次 SR02 上層溝上層 (甕 L1), 旧練兵場遺跡 19 次 SH04(甕 L2), 旧練兵場遺跡 19 次 SH36(甕 M1), 旧練兵場遺跡 11 次 SH45(甕 Gk1), 旧練兵場遺跡 19 次 SH27(鉢 E1),

弥生後期後半古段階

矢ノ塚遺跡 SD85036(甕 A9), 旧練兵場遺跡 23 次 S 区 SH1069(長頸壺 B3, 短頸広口壺 B4, 甕 F3,E3), 旧練兵場遺跡 3 次箱式石棺 (甕 D3, 鉢 B1), 小塚遺跡 SD02(甕 H1), 奥白方中落遺跡土器溜まり C(甕 L3,J2,R2) 旧練兵場遺跡 19 次 SH38(甕 M2,O1), 山南遺跡 SH01(甕 N2, 鉢 D2), 下川津遺跡 SD II 22(甕 Gk2), 郡家原遺跡 SD107(広口壺 E4), 旧練兵場遺跡 19 次 SH02(短頸広口壺 C9, 鉢 C3), 旧練兵場遺跡 19 次 SH40(鉢 A3, 高杯 C4), 旧練兵場遺跡 19 次 SH15(鉢 E2), 旧練兵場遺跡 12 次 ST02(鉢 K3), 旧練兵場遺跡 19 次 SH05(高杯 E4), 旧練兵場遺跡 11 次 SH36(台付鉢 D2)

弥生後期後半新段階

旧練兵場遺跡 19 次 SR02 上層 (長頸壺 B4), 旧練兵場遺跡 7 次 SH01(複合口縁壺 A1), 山南遺跡 SH01(広口壺 E5), 郡家原遺跡 SD107(広口壺 D10), 旧練兵場遺跡 19 次 SH02(甕 L4), 郡家原遺跡 SD107 下層 (甕 D4,M3,O2, 鉢 A4, 鉢 F1,C4,K4, 台付鉢 D4), 旧練兵場遺跡 22 次 N 区 SH7005 土器溜り (甕 F4,N3), 旧練兵場遺跡 23 次 S 区 SH1040(甕 R4), 稲木遺跡 C 地区 5 号住居 (甕 Gk3, 高杯 E5), 旧練兵場遺跡 19 次 SH44(甕 A10, 鉢 B2), 旧練兵場遺跡 19 次 SH15(甕 H2), 旧練兵場遺跡 22 次 N 区 SH7003(甕 I1), 旧練兵場遺跡 19 次 SR02 上層 (甕 J3), 旧練兵場遺跡 19 次 SH06(鉢 E4), 九頭神遺跡 ST02(C5)

弥生終末期古段階

旧練兵場遺跡 23 次 S 区 SH1068(甕 I2,N4, 長頸壺 B5, 鉢 B3), 郡家原遺跡 SD107(広口壺 D11), 郡家原遺跡 SD107 下層 (甕 A11,H3), 郡家原遺跡 SD107 上層 (甕 Q1,R5), 旧練兵場遺跡 25 次 II -4 区 SH4001(甕 F5), 旧練兵場遺跡 22 次 N 区 SP7420(甕 D5), 旧練兵場遺跡 N 区 SH7003(甕 M4), 旧練兵場遺跡 19 次 SH40(甕 O3), 旧練兵場遺跡 19 次 SH15(甕 Gk4), 旧練兵場遺跡 14 次 SD86(複合口縁壺 A2, 広口壺 G1), 旧練兵場遺跡 19 次 SR02 上層 (広口壺 E6), 旧練兵場遺跡 2 次 ST20(短頸広口壺 C10), 旧練兵場遺跡 7 次 SH07(短頸広口壺 B5, 鉢 F2,H1,I1), 旧練兵場遺跡 19 次 SH06(鉢 G1,K5), 郡家原遺跡 SH01(高杯 E7), 旧練兵場遺跡 7 次 SH04(台付鉢 D5)

弥生終末期中段階

旧練兵場遺跡 19 次 SR02 上層 (短頸広口壺 C11, 複合口縁壺 A3, 甕 P1,J4, 鉢 F3), 旧練兵場遺跡 7 次 SH17(広口壺 E7,D12, 甕 D6,H4,I3,F6, 鉢 B4,G2,J1, 高杯 F1), 旧練兵場遺跡 23 次 T 区 SH1028(複合口縁壺 B1, 広口壺 I1, 甕 N5), 旧練兵場遺跡 22 次 N 区 SH7003(長頸壺 B6), 郡家原遺跡 SD107 上層 (甕 A12), 旧練兵場遺跡 11 次 SH48(甕 L6,M5, 鉢 I2), 稲木遺跡 (市教委)SR01(甕 O4), 郡家原遺跡 SH104(Gk4)

弥生終末期新段階

旧練兵場遺跡 2 次 ST31(甕 L7,K6), 旧練兵場遺跡 2 次 ST12(広口壺 H1, 甕 I4,K1,O5,Q2), 旧練兵場遺跡 19 次 SR02 上層 (甕

A13,H5M6,P2,Gk6, 鉢 F4, 高杯 H1). 旧練兵場遺跡 11 次 SH07(甕 N6). 旧練兵場遺跡 23 次 S 区 SH1038(甕 F7). 旧練兵場遺跡 S 区 SH1038(甕 G1). 永井北遺跡 SD6003(甕 D7). 旧練兵場遺跡 8 次 SH07(甕 J5). 旧練兵場遺跡 8 次 SH03(広口壺 D14). 旧練兵場遺跡 19 次 SH44(長頸壺 B7). 旧練兵場遺跡 14 次 SD86(複合口縁壺 A4, 広口壺 E8,G3). 旧練兵場遺跡 11 次 SH22(複合口縁壺 B2). 旧練兵場遺跡 19 次 SH42(鉢 B5,G3,H2). 旧練兵場遺跡 20 次 SH370(鉢 J2). 六条上所 SK01(高杯 F2,G1). 郡家原遺跡 SD158(高杯 E8)

古墳前期前半古段階

三条番ノ原遺跡 SH03(甕 L8). 小塚遺跡 SD01(短頸広口壺 C12, 広口壺 I12, 甕 D8, 二重口縁壺 BG2,H6,M7,N7,Q3, 鉢 B6,F5,I3,J3,G4, 高杯 F3,C6,H2). 郡家原遺跡 SD158(広口壺 F1,D14). 旧練兵場遺跡 19 次 SR02 上層 (複合口縁壺 A5, 甕 A14,F8,I5,P3, 鉢 K7). 旧練兵場遺跡 19 次 SH59(広口壺 H2). 旧練兵場遺跡 2 次 ST15(二重口縁壺 A1, 甕 K2). 旧練兵場遺跡 11 次 SH01(甕 Fr1). 旧練兵場遺跡 23 次 S 区 SH1060(甕 R7). 旧練兵場遺跡 11 次 SP793(甕 O6). 旧練兵場遺跡 20 次 SH370(広口壺 E9, 複合口縁壺 B3, 甕 J6, 鉢 H3). 旧練兵場遺跡 14 次 SD86(広口壺 G3). 下川津遺跡 SH II 32(甕 Gk7, 高杯 G2)

古墳前期前半新段階

三条番ノ原遺跡 SH04(広口壺 D15, 甕 L9). 稲木遺跡 (県道)SR04(甕 O7). 旧練兵場遺跡 14 次 SH11(甕 Fr2). 旧練兵場遺跡 23 次 Q 区 SK0001(広口壺 G4,H3, 甕 Gk8). 旧練兵場遺跡 5 次 SH24(二重口縁壺 A2, 広口壺 F2, 甕 K3, 鉢 B7,F6,I4). 旧練兵場遺跡 19 次 SR02 上層 (甕 A15,I6, 広口壺 E10). 郡家原遺跡 SK58(甕 J7, 高杯 E9). 買田下岡下遺跡 SD37(広口壺 B8, 二重口縁壺 C, 高杯 F4). 旧練兵場遺跡 14 次 SH13(高杯 G4)

第2節 旧練兵場遺跡における外来系土器

1. はじめに

今回の19次調査では、SR02上層溝を中心として多くの外来系土器が出土した。これらについて、若干の検討を行うことにより、旧練兵場遺跡の対外交流の傾向を把握することを目的としたい。また、本節で取り扱う外来系土器とは、搬入品と模倣品を含む系統を指し示したものである。

外来系土器の大半は、第3章第8節で紹介したとおり、SR02上層溝下層を中心に出土している。SR02上層溝下層の継続期間は、弥生後期前半を主体とし後期後半古段階までの時間幅を想定できる。従って、本節で取り扱う外来系土器の傾向は、弥生後期前半期を中心とした外来系土器の傾向を示す可能性が高い。本来的には、遺構・時期ごとの検討が必要であるが、遺跡全体の外来系土器の傾向を把握することを目的として、19次調査におけるSR02上層溝以外の遺構出土資料を含めた弥生中期後半から古墳初頭にかけての資料を取り扱う。

2. 全体傾向

表54は、19次調査で出土した外来系土器を集計したものである。集計に当たっては、弥生中期後半から古墳時代前期までの時期を含む。確認した外来系土器は332点である。

地域	点数
北河内～摂津	1
河内	6
阿波	11
土佐	15
伊予	12
香東川下流域産	55
山陰	1
吉備	68
備中	45
備後	39
安芸	11
西部瀬戸内	14
筑前	1
豊前	12
豊後	4
不明	33
合計	328

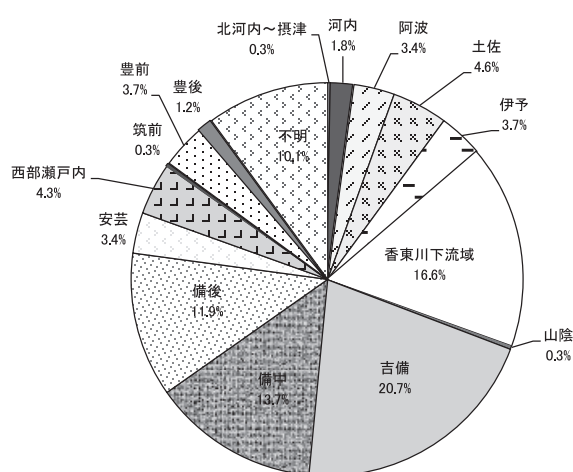


表54 外来系土器の集計

カウント方法は、

個体別識別によるもので、明らかに同一個体と考えられる破片は除外し、集計した。19次調査全体での当該期の出土土器個体数が不明なため、全体に対しての外来系土器の比率を示すことができないが、既往の県内の調査事例と比較すれば、多量と考えてよいだろう。

地域別の割合を表54に示す。香東川下流域産の一群は県内の高松平野北西部産と見られる一群で比較的近距离と言える地域であり、約17%程の比率を示す。四国島内では、旧国名で阿波・伊予・土佐を網羅するが、構成比率では5%を下回る。瀬戸内海沿岸では、東方の生駒西麓産の胎土をもつ広口壺等河内と推定される資料や豊前、豊後と考えられる東北部九州等が少数確認できるが、主体を占めるのは、山陽地方中部の備中・備後等吉備を中心とした一群と、西部瀬戸内として一括した一群である。豊前・豊後・伊予等を西部瀬戸内に含めて考えると、全体的に見て山陽地方中部から西部瀬戸内等の瀬戸内海を備讃瀬戸を境にして西方からの外来系土器が占めると捉えられる。

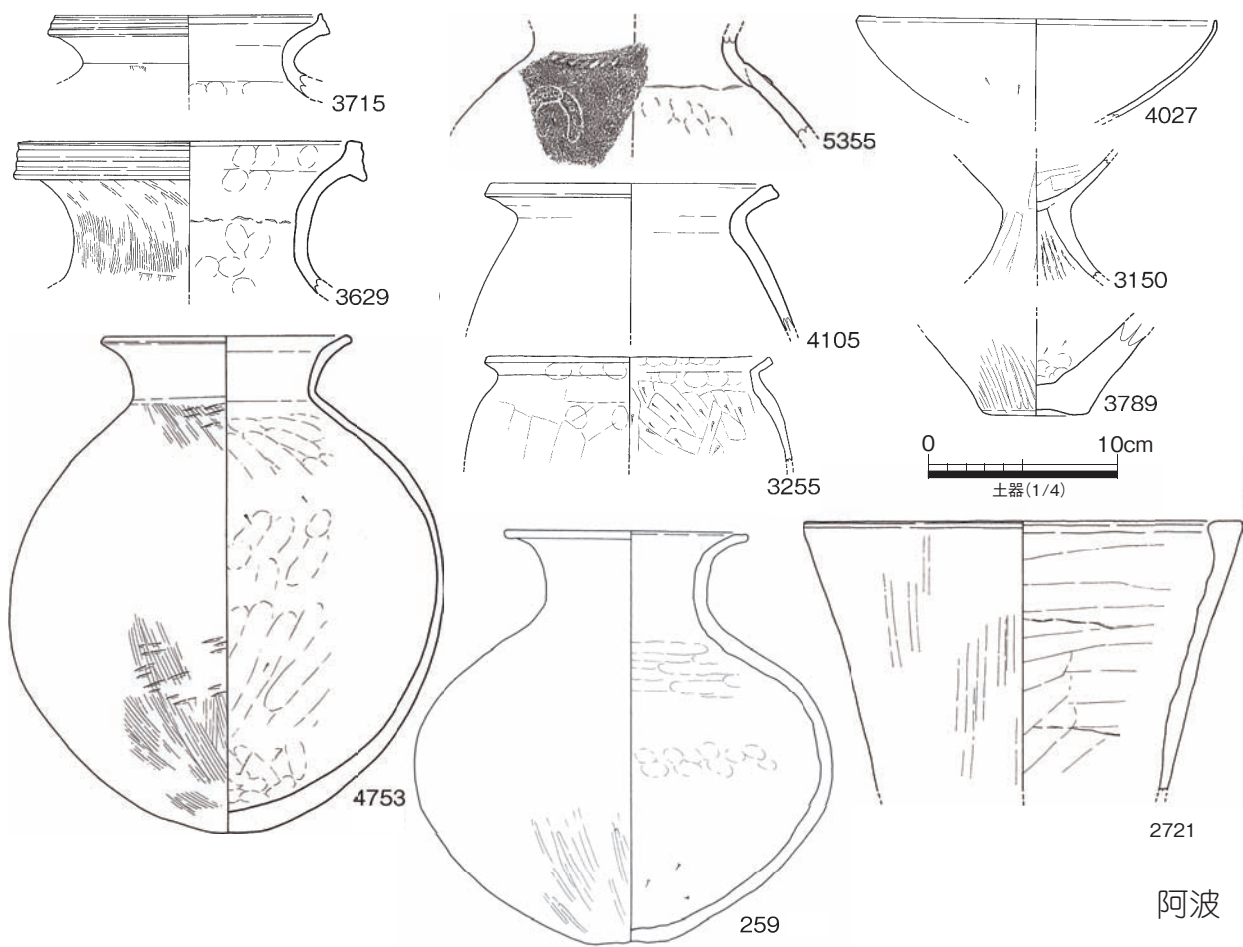
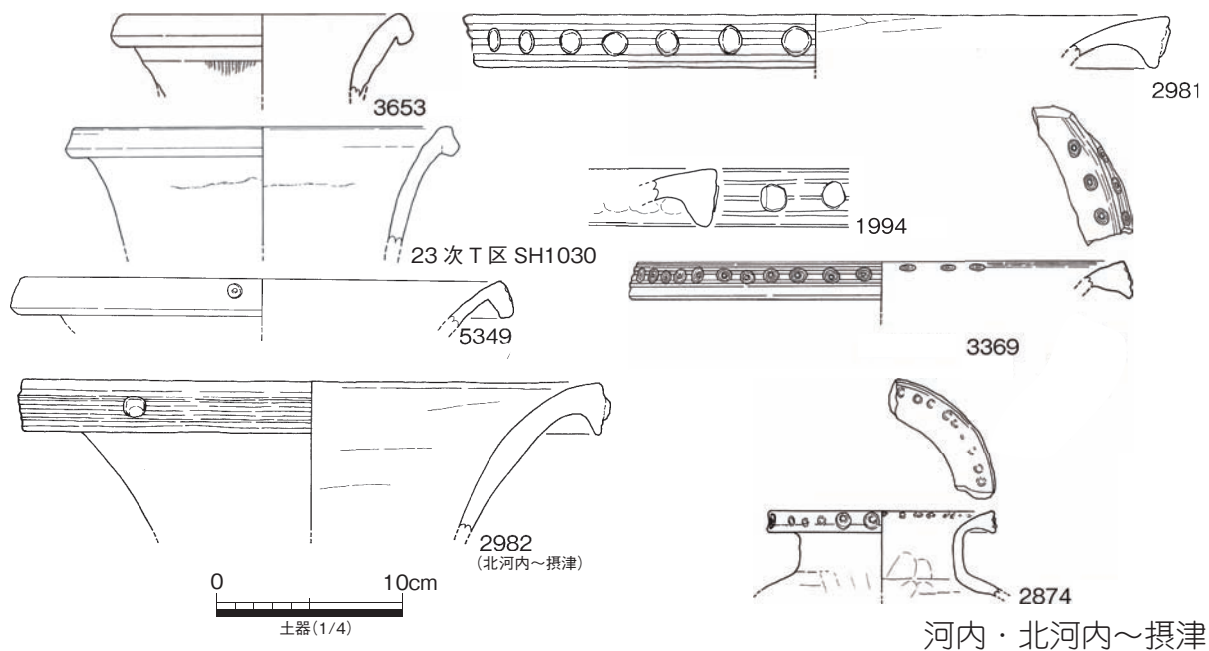


図 662 外来系土器 その1 (河内・阿波)

香東川下流域

香東川下流域としたものは、かつて「下川津 B 類土器」と呼称された高松平野北西部産の土器群(大久保 1990.2003)であり、16.9%を占める。時期別には、製作技法と角閃石が含む胎土が一致する下川津 I 式以前の後期前半古段階から前半中段階のものを含み、終末期までほぼ恒常的に確認される。また、終末期以降は、製作技法はそれを踏襲するが胎土が異なる一群が出現する。器種は、長頸壺・高杯・装飾高杯・甕・細頸壺・小型丸底壺が確認できる。

河内

大形壺を主体として数点の出土を見る。壺は垂下口縁をもつもので、西ノ辻 N 式・I 式(小林 1958)、様式編年河内 V -0 ~ V -3 様式の特徴をもつ。胎土中にやや粗粒の角閃石を多く含むものが大半であり、3653 は胎土的には異なるが、口縁部の形態が明らかに河内地域で散見される壺に類似する(註 1)。

阿波

胎土中に片岩粒の混入が確認できる一群であり、赤褐色の色調をもつものが多い。器種的には壺・甕・鉢が確認できる。5355 は、逆 U 字形の浮文の上面に竹管紋を施し、記号表現をとす。时期的には、弥生中期後半期の鉢(2721)を初現とし、古墳初頭の広口壺(4753)まで断続的に数点確認される。磨製石器及び打製石庖丁素材に結晶片岩が多用される状況と比較すると、これらの土器群は少量に止まっていると言える。

土佐

弥生後期前半期を中心に数点確認できる。壺・甕ともに口縁部外面に粘土貼り付けを行う特徴をもつものが多く、甕では反りをもつ頸部を主な指標として抽出した。広口壺(2988)、直口壺(3172)、甕(3753)は直搬品の可能性が高いが、他のものは変容を受けている可能性が高い。特に口縁部外面を肥厚させる広口壺(948.450.335.3159.3599)は、故地に類似品が認められず、胎土的に見ても旧練兵場遺跡で生産された可能性がある。壺体部片(445.381.954)は同一個体の可能性が高く、粗い櫛描紋原体による直線紋と下向きの扇形紋を施す。櫛描文原体の特徴や壺に扇形紋を多用する属性から、地域を推定したものである。

伊予

主に複合口縁壺の口縁部形態や頸部突帯の属性を参考にしながら抽出したが、複合口縁壺の中には伊予灘を挟んで対岸の周防地域等にも共通して分布する一群があることから、後述する西部瀬戸内とした一群を含みこむ可能性がある。2980.3672.3731.3930 等の弥生後期前半期の一群から、4595.3981 等の後期後半期と見られる一群、終末期と見られる旧練兵場遺跡 2 次調査 ST37 出土資料で数点確認できる。4389 は胴部形態が長胴形を指向しておらず、故地と若干異なるものである。高杯脚(4705)エンタシス状の形態をもち、縦位に配された透かし孔等を根拠に抽出した。後期前半期の装飾高杯又は器台の可能性も残るが、伊予地域の影響を想定しておきたい。

吉備南部

ここでの吉備南部として取り扱った資料群は、主に備前・備中地域が想定できるが、具体的な絞り込

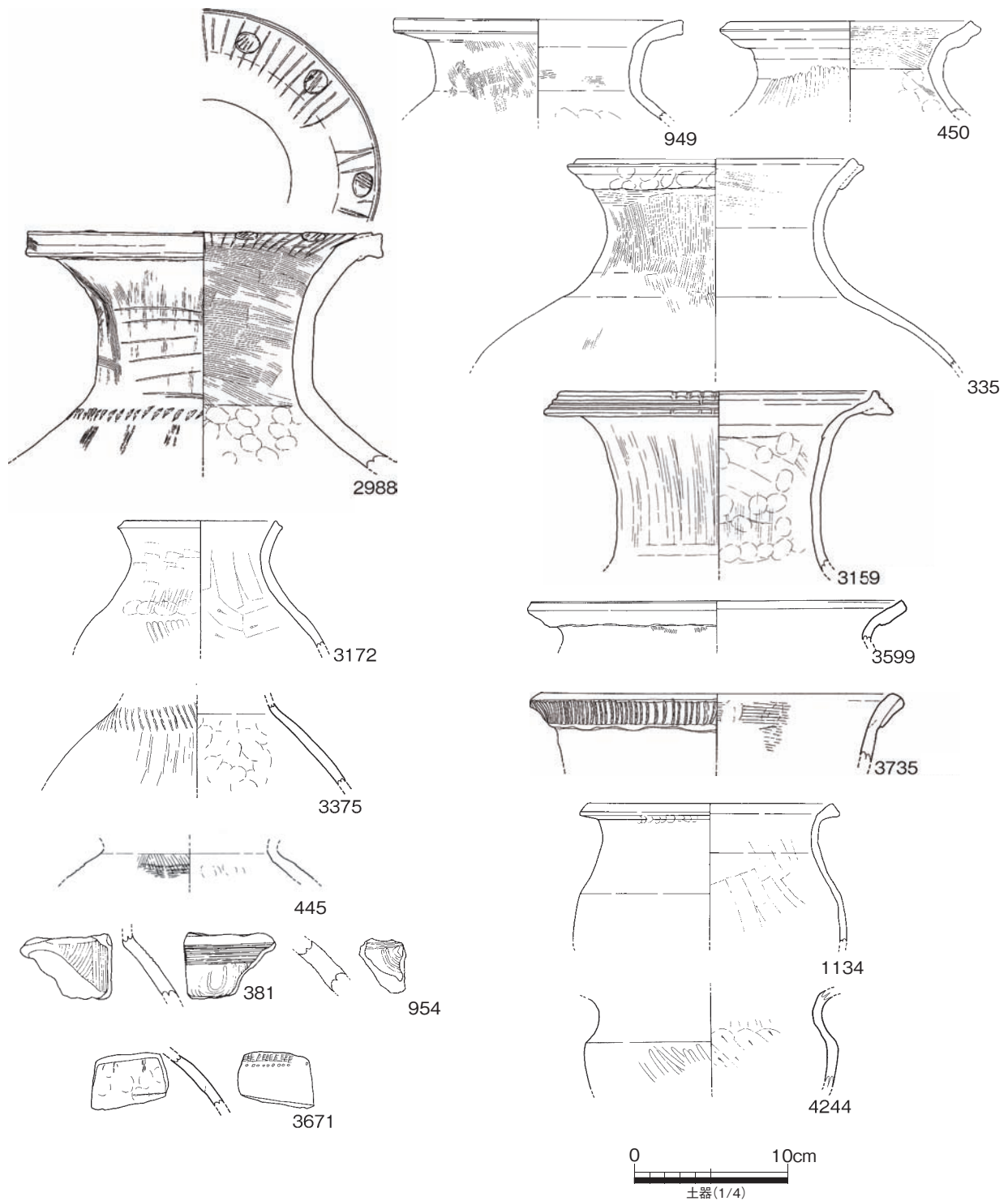


図 663 外来系土器 その2 (土佐)

みができない資料群である。壺・甕・高杯・鉢等ほぼ全ての器種を網羅しており、点数も多い。壺では、頸部の退化した凹線文あるいは沈線紋を多用する長頸壺、扁平な体部をもつ細頸壺が多く認められる。胴部最大細頸壺(5121.3012.3932.3721.3720.1001)は、後期初頭段階に本地域を初めとして瀬戸内の各地で共通して出現する可能性(大久保 2002)も考えられるが、交流関係の把握という視点から、他系統として取上げる。

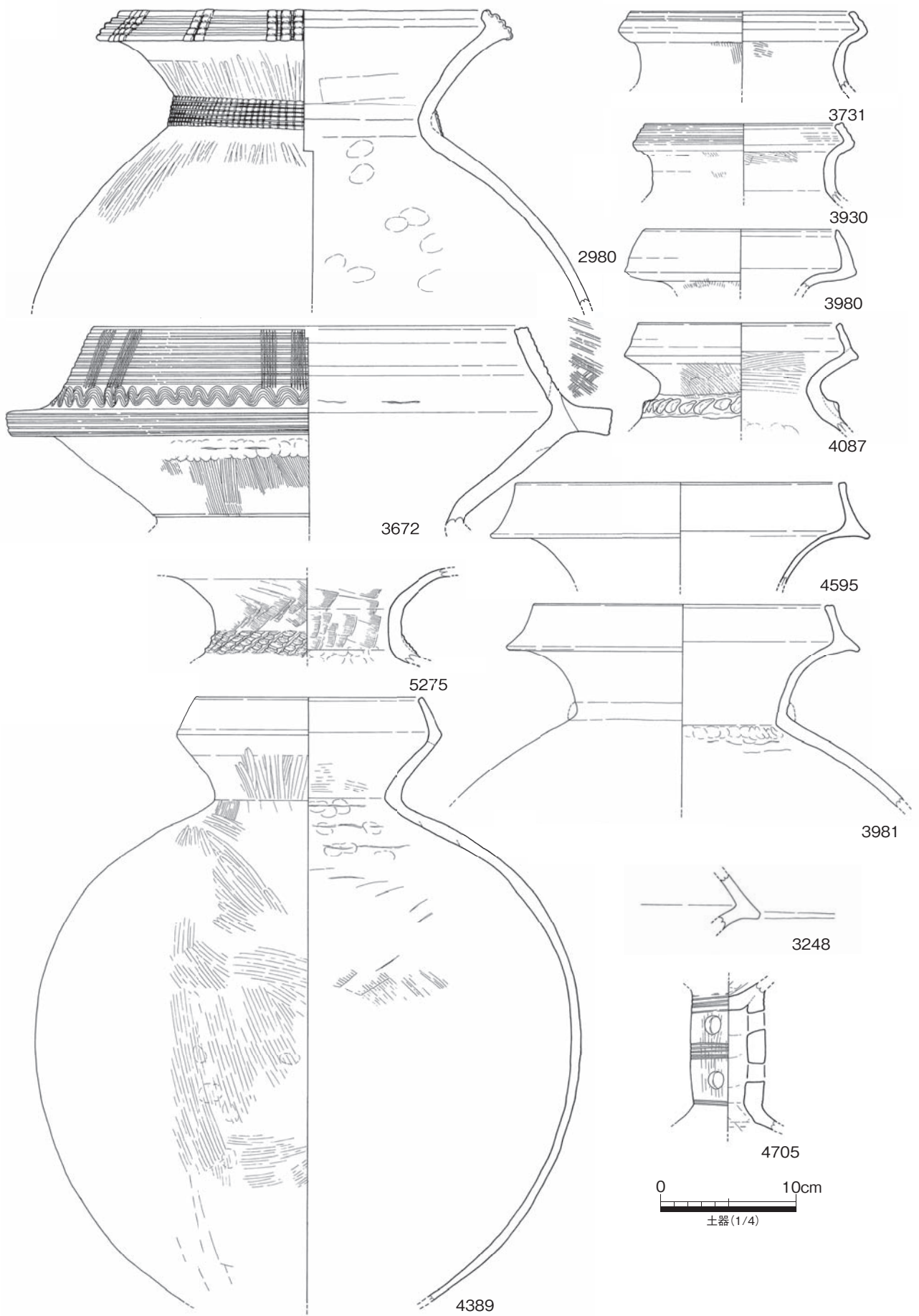


図 664 外来系土器 その3 (伊予)

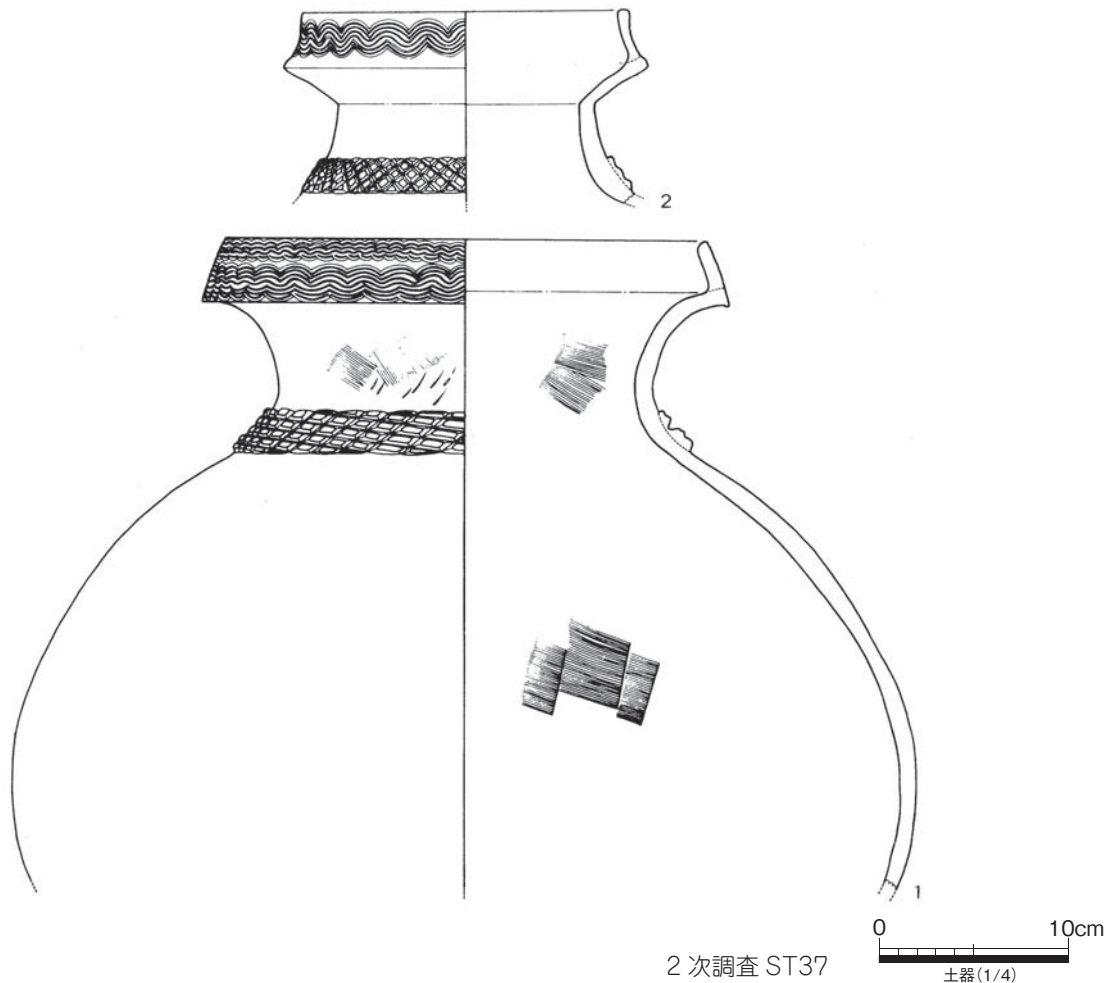


図 665 外来系土器 その4 (伊予)

甕は少数に留まる。頸部から口縁部にかけて厚みを変化させずに屈曲させる特徴を共有する一群である。3013は、本地域の無頸壺と比較して、より扁平な体部をもつ。高杯は、中期後半期から後期前半期にかけて多く見られる。高杯の口縁端部を外側にのみ拡張する点や脚端部の斜め上方拡張、脚部が外面の櫛描施紋等、故地の特徴を良好に留める。器台では、口縁部外面を中心とした櫛描波状紋等が見られ、直搬品の可能性が高い。大形器台(4531)は、在地製作の可能性も残る。

備中(小田川流域)

灰色系の角閃石を含むもつ胎土をもち、内外面にベンガラによる彩色を施す一群で、大半が直搬品と推定される。これらの土器群は、以前に「白江式」として報告された資料に相当すると考えられる(間壁1966)。胎土・彩色以外に、高杯や器台の脚端部を下方に拡張する特徴は、故地の特徴を良好に留める(高橋1992)。時期的には、鬼川市I式からオノ町式併行期にかけての資料と推定される。

備後

口縁端部の上方を強く意識した拡張傾向や複合口縁壺の形態、壺・鉢に見られる扁平な胴部形態、高杯の脚端部の下方拡張等から推定した一群である。なお、複合口縁壺に関しては、隣接する安芸地域の

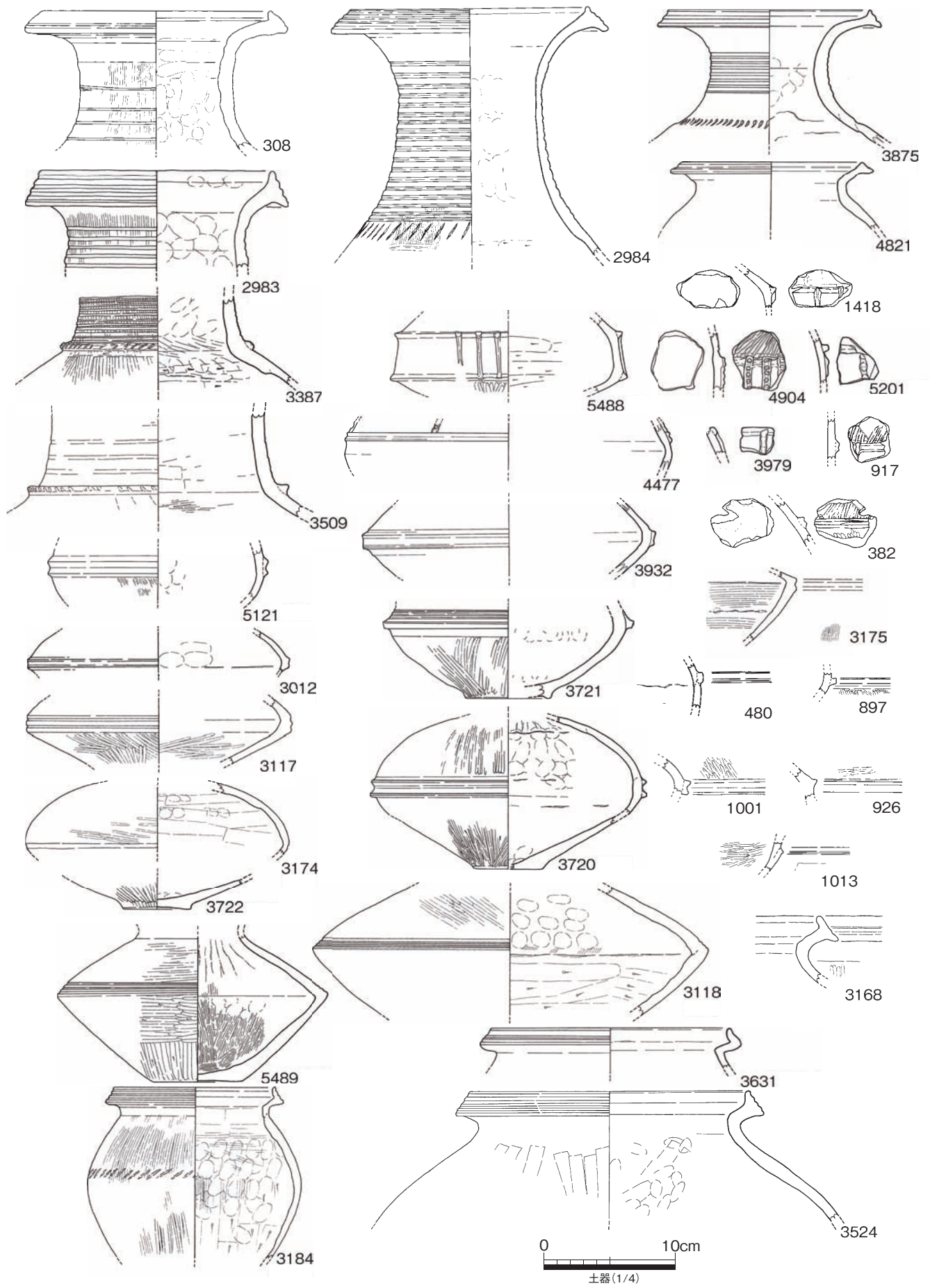


図 666 外来系土器 その5 (吉備)

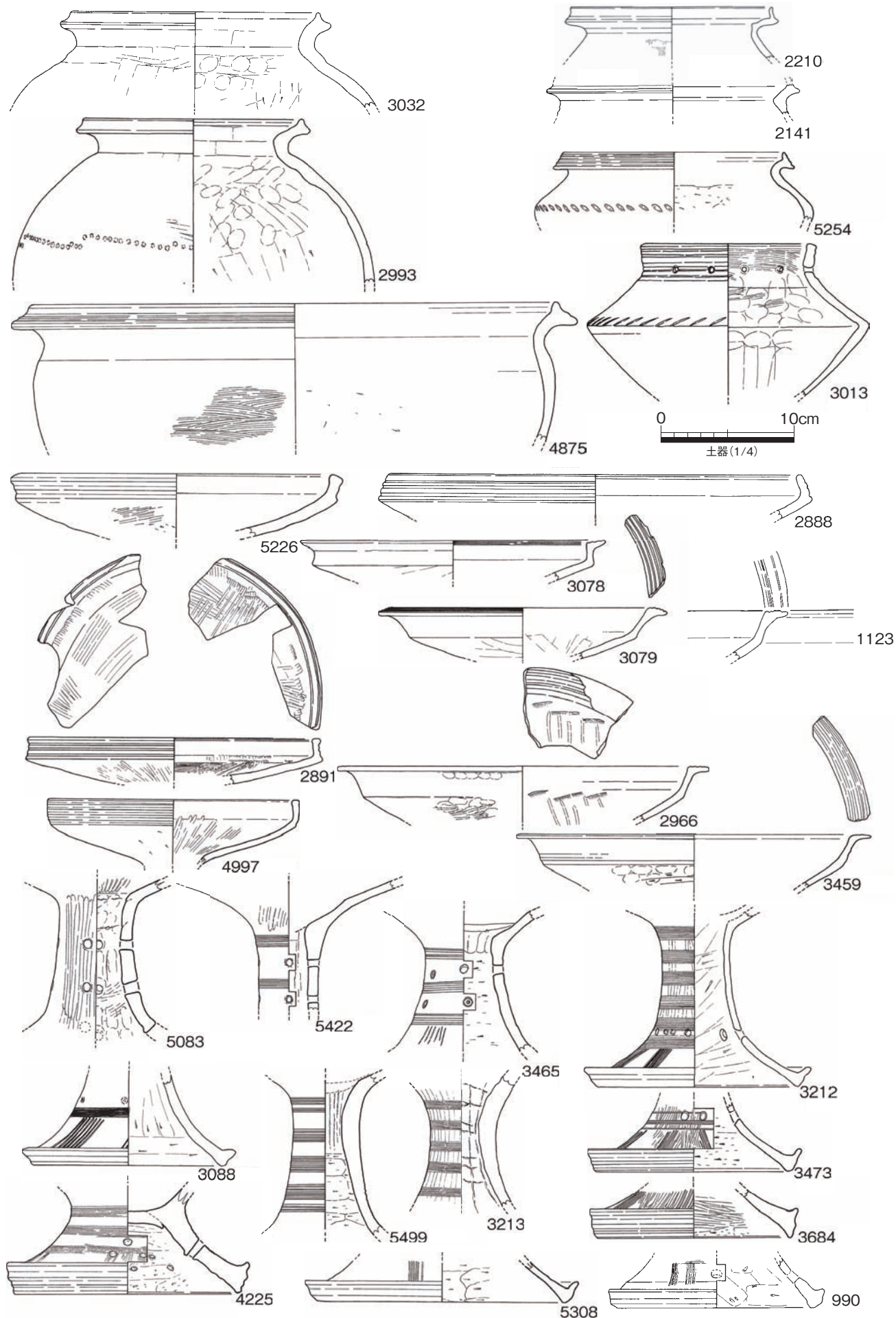


図 667 外来系土器 その6 (吉備)

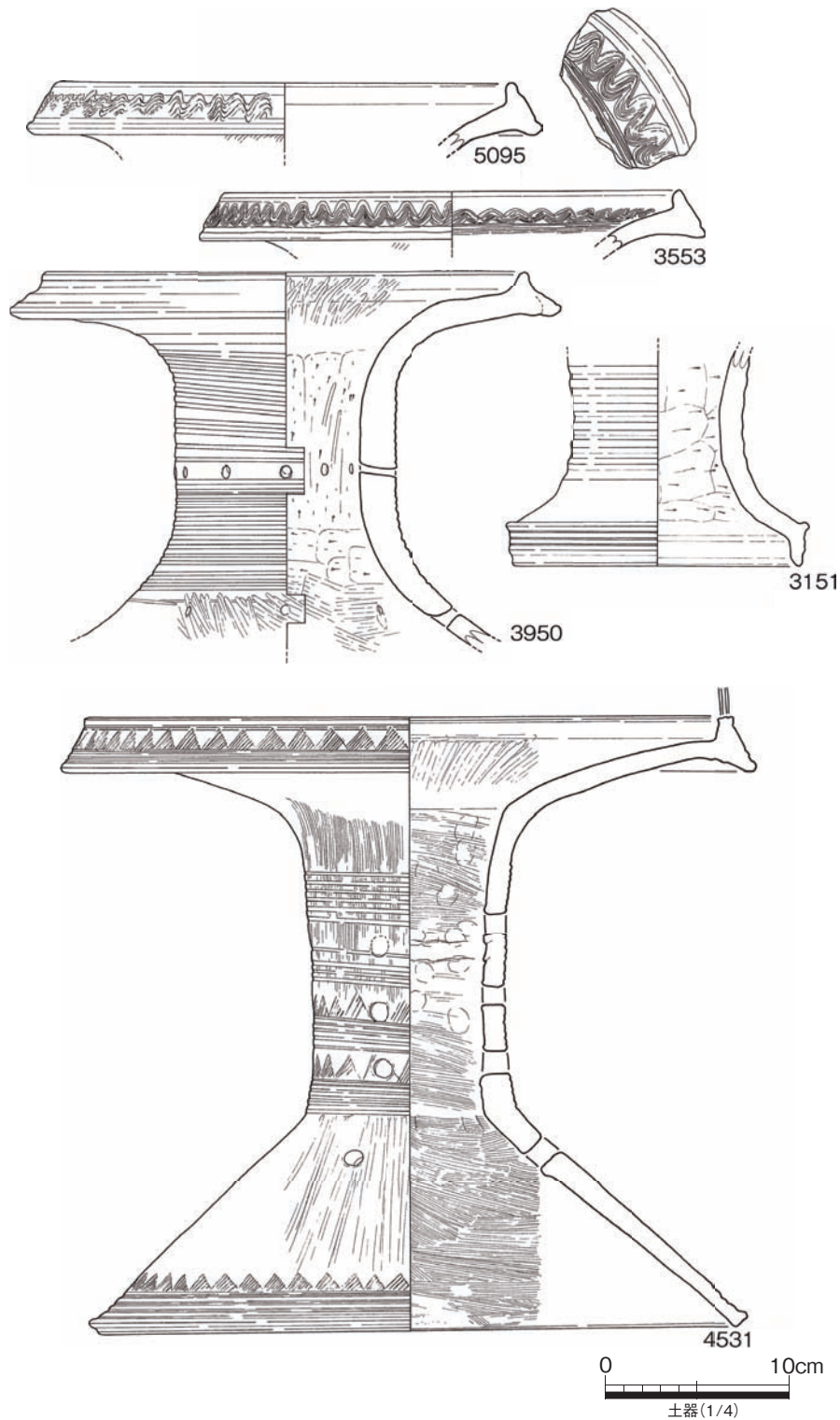


図 668 外来系土器 その7 (吉備)

ものが含まれる可能性がある。中・大形鉢(3645.3688.4234)は、忠実に故地の属性をとどめており、胎土から見ても直搬品の可能性が高い。また、少数ではあるが、大きく拡張する口縁端部に擬凹線文を施す甕(3991)や、旧練兵場遺跡18次調査SD005より出土した注口付の台付鉢(107)や、高杯脚端部を外側に開きながら下方に拡張するもの(2895.5014)等、備後北部に散見される特徴をもつ一群の存在も注意される。

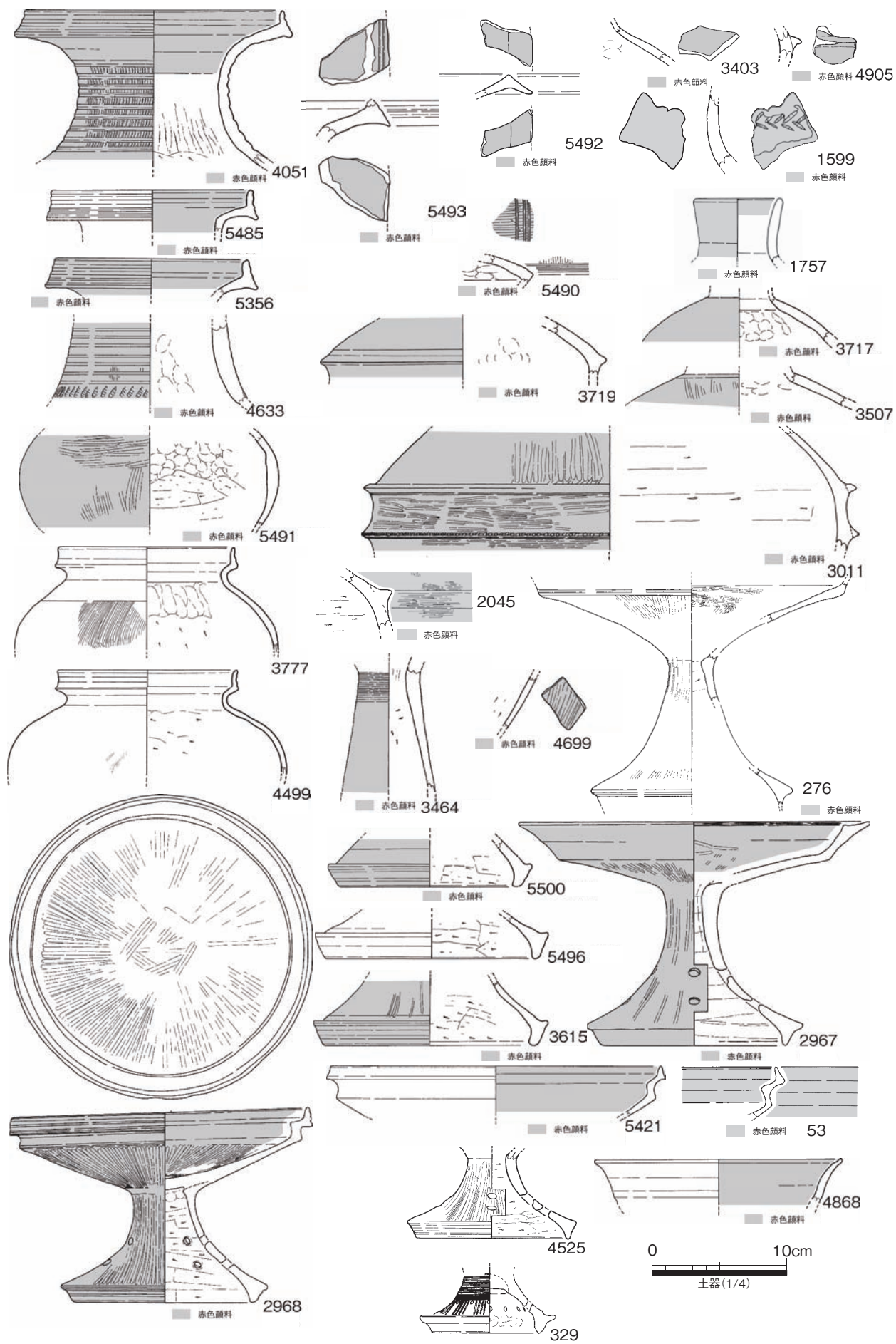


図 669 外来系土器 その 8 (備中)

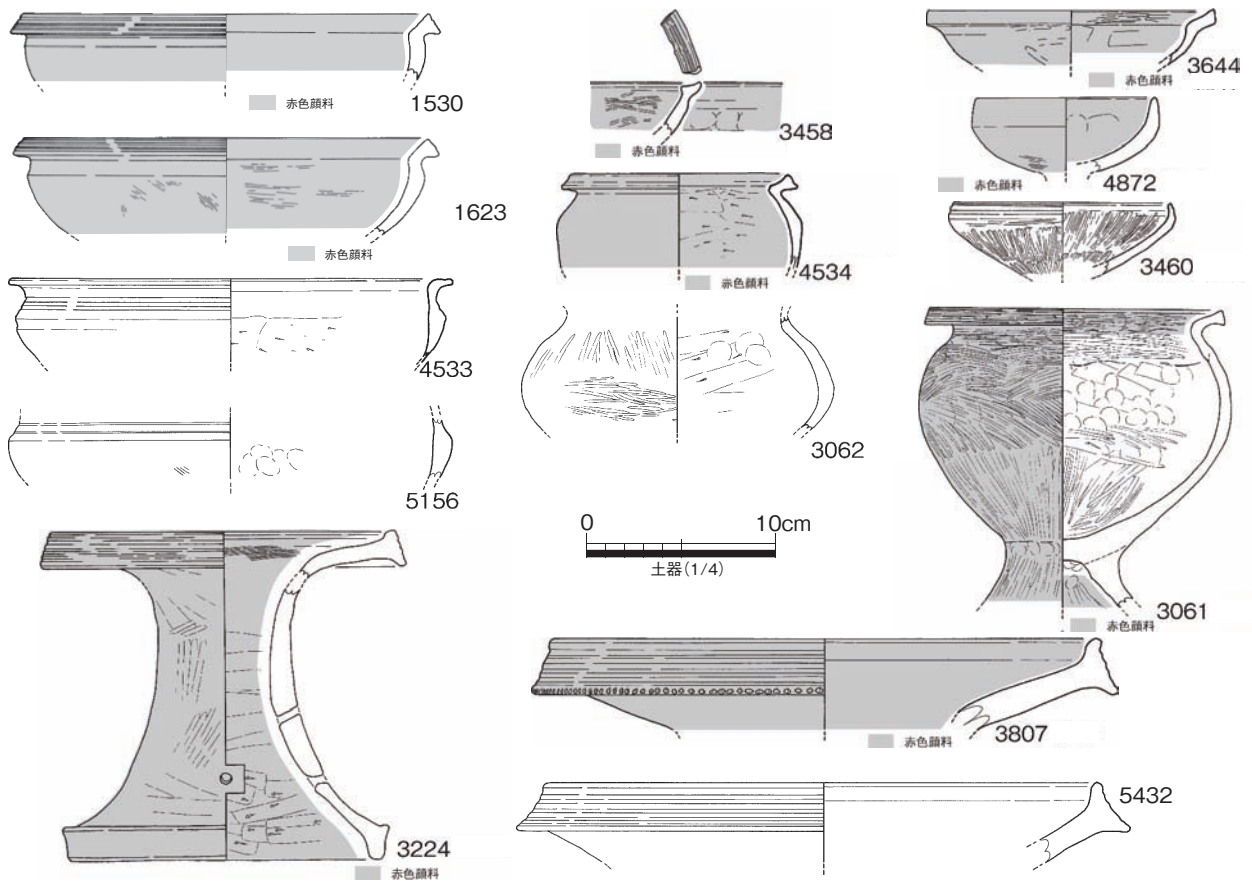


図 670 外来系土器 その9 (備中)

安芸

複合口縁壺の口縁形態と甕、鉢における列点紋の属性を中心に抽出した。2885の甕は、2段にわたって配された貝殻復縁による列点紋をもつ。形態から中期後半期の古相を示す資料と見られるが、口縁部形態や列点紋の施紋位置等に彼我との差異が見られることから、在地製作による変容品の可能性が高い。高杯脚(5423)は、羽状に列点紋を施すものである。紋様を重視し抽出しているが、彼我における類似品は確認できていない。

西部瀬戸内

安芸・伊予以西の豊前・豊後等の東北部九州を含み込む地域が想定できるものの、特定が困難なものを一括して提示した資料群である。複合口縁壺(193.5486)は、口縁の反転部が水平方向に発達せず、口縁部に反りをもつもので、周防等山陽地方西部から豊前等東北部九州が想定される。水平に近く開く口縁部に対してほぼ垂直に粘土貼り付けを行う複合口縁壺(3519.4919)は、周防地域の後期前半期に類似する資料が見られる。複合口縁壺(3740.3593.3734)は、安芸を含む西部瀬戸内の影響が想定できる。頸部突帯に羽状あるいは格子状に列点紋を刻む属性は、伊予地域の可能性を含む資料である。3945は複合口縁壺の口縁部外面に櫛描による波状紋と直線紋を施すもので、西部瀬戸内に特徴的な紋様規範と言える。

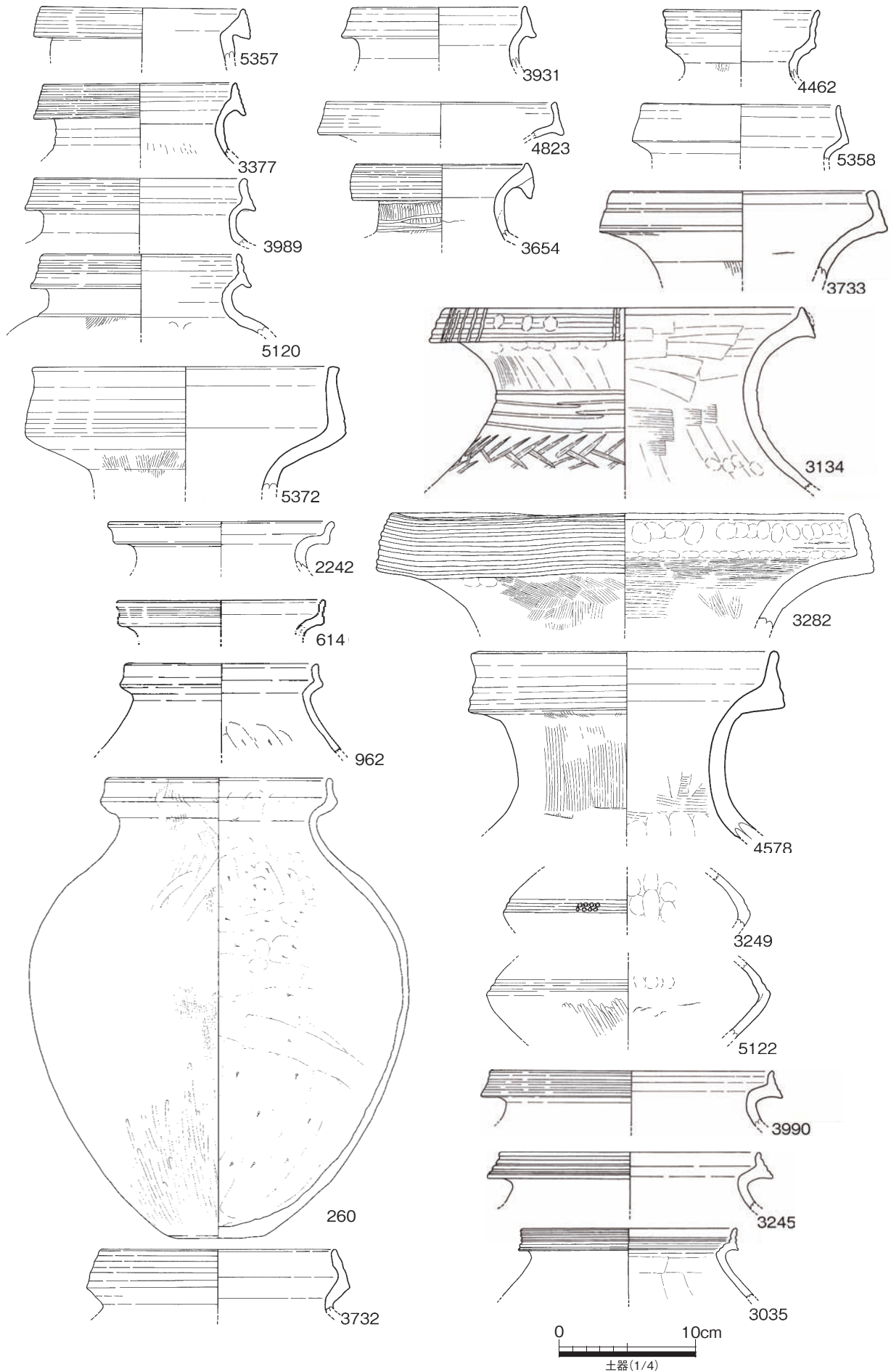


図 671 外来系土器 その 10 (備後)

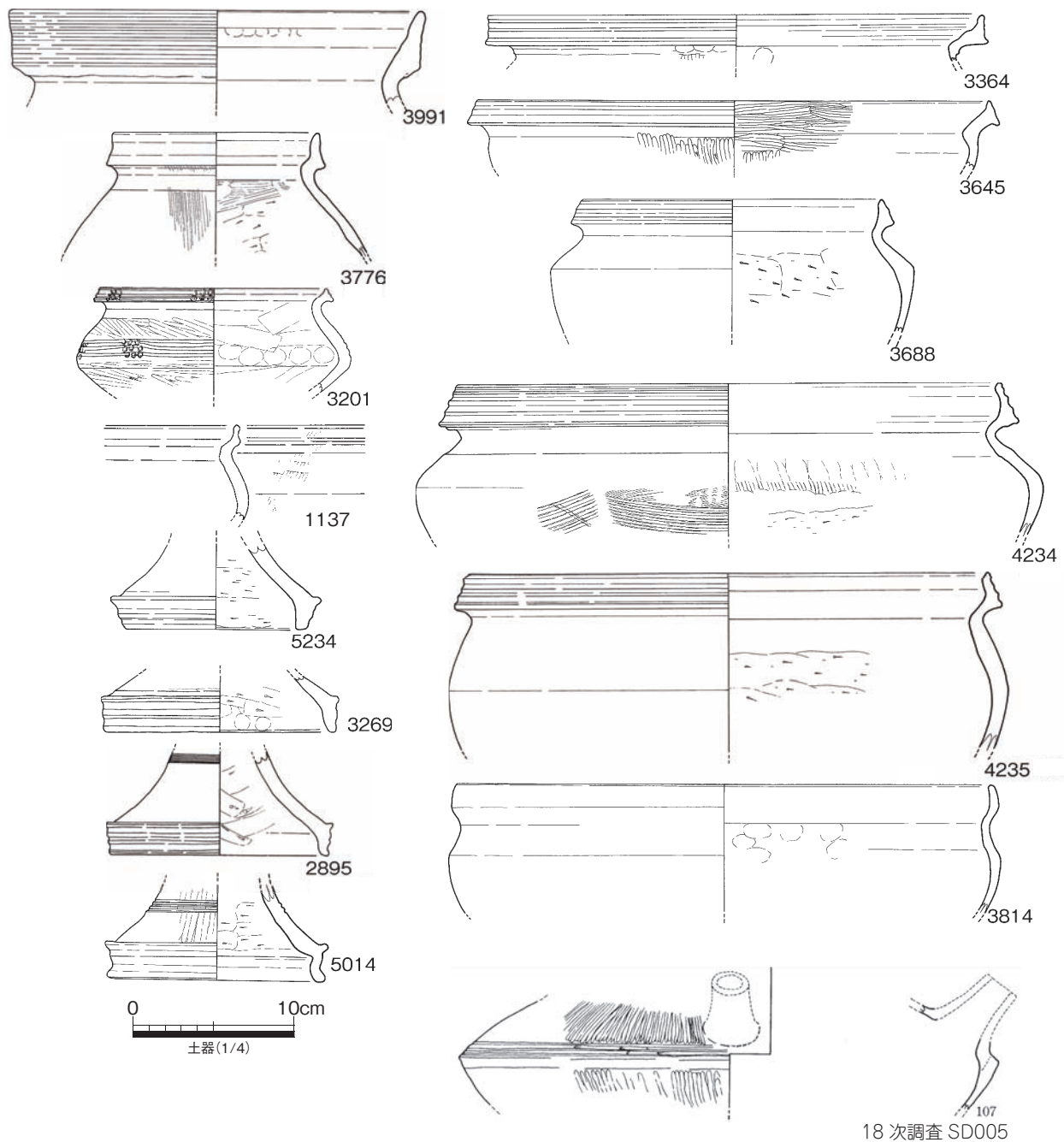


図 672 外来系土器 その 11 (備後)

豊前～北部九州

周防灘に面した行橋平野や宇佐平野を中心とした東北部九州と見られる資料が数点確認できる。図 675-a は、旧練兵場遺跡 26 次調査 I a 区 SH1020a から出土した鋤先状口縁をもつ広口壺である。締まった頸部や胴部突帯が断面四角形と三角形が組み合う属性等、故地に散見される特徴をもつ。突帯上に刻目紋を施す点や突状の底部をもつこと等から、後期前葉を中心とした高三潞新段階に比定される。胎土は角閃石を含む白色系であり、搬入品の可能性が高い。3399、5187 の広口壺も口縁部内面を肥厚しており、鋤先状口縁を意識したものと推定する。胴部突帯をもつ 3520、5116、5117 も 26 次調査の広口壺 a と同様に、断面三角形と四角形の突帯が組み合っており、豊前地域からの搬入・模倣土器の可能性はある。5188 は斜線紋様が故地で確認できないが、胴部突帯の属性から判断して提示した。

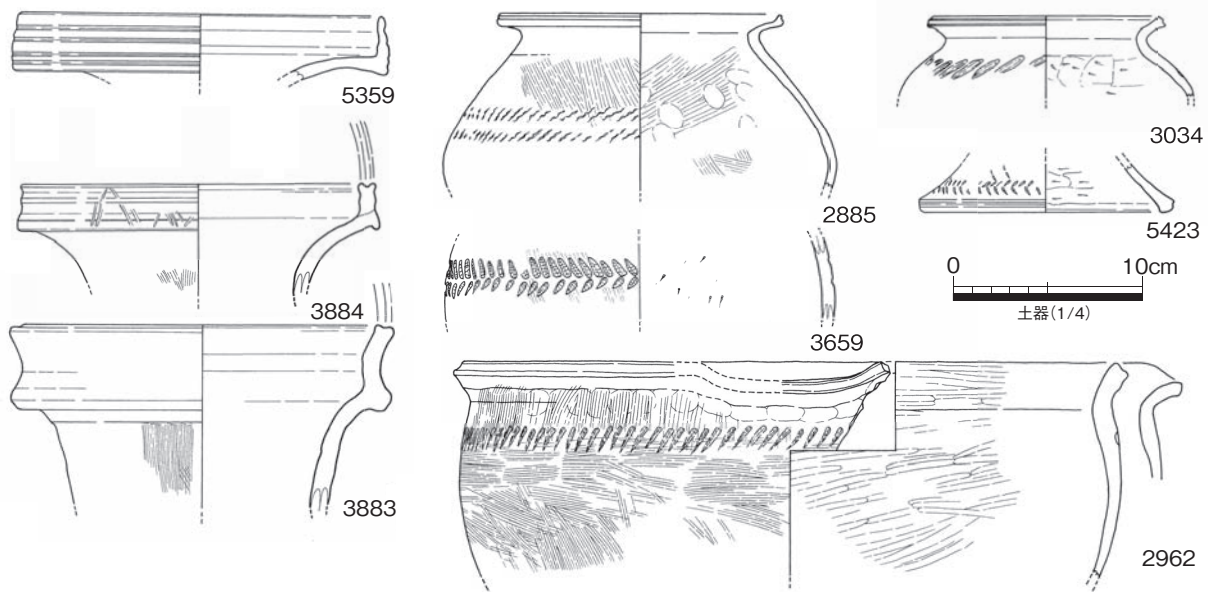


図 673 外来系土器 その 12 (安芸)

2446、3073 は甕もしくは鉢の形態をもち、口縁部を水平方向へ引き出すもので、2446 は口縁部の形態が筑前地方の須玖Ⅱ式にみられる甕の口縁を強く意識した模倣品の可能性がある。2446 は在地品の胎土と遜色なく、3073 は 26 次調査出土の広口壺 a と同様の角閃石を含む胎土をもっているため豊前地方を故地として推定しておく。

甕 (3041)、無頸壺 (3009) は、形態等の属性からの判断ではなく、豊前と推定した 26 次調査出土の広口壺 a と極めて類似した胎土をもつことから、ここで提示した。支脚 (3226) は、口縁部を U 字状に切り欠くもので、豊前地域の後期中葉頃の資料に類例が散見される。

5213、5380、2114 は、甕の頸部に突帯を施すもので、豊前から豊後地方の属性を備えている。

豊後

2912 の広口壺は、内面を肥厚する口縁部に縦長の胴部をもち、円形浮紋と突帯で加飾するもので、豊後地域の後期前葉に類例が見られる。胎土中に片岩粒を含み、同地域の大野川流域からの直搬品であろう。

系統不明ほか

他地域からの搬入・模倣品と思われるが、特定ができない資料を一括した。壺 (3010) は、最大径が下方にある下膨れの胴部をもち、頸部の縦位の竹管紋を施すことにより記号表現を採る。壺 (3260) は長胴形を呈し、安定した平底をもつ。大形の長頸壺 (3286) は、在地の組成中に類例を見ないものである。大形甕 (3296) はハケ調整を多用し、口縁端部に刻目紋を施すもので、在地品に類例を見ない。甕 (4109) は、明確に突出する特異な底部をもつ。2551 は、櫛描直線紋の上下に扇形紋を施すもので、遺跡及びその

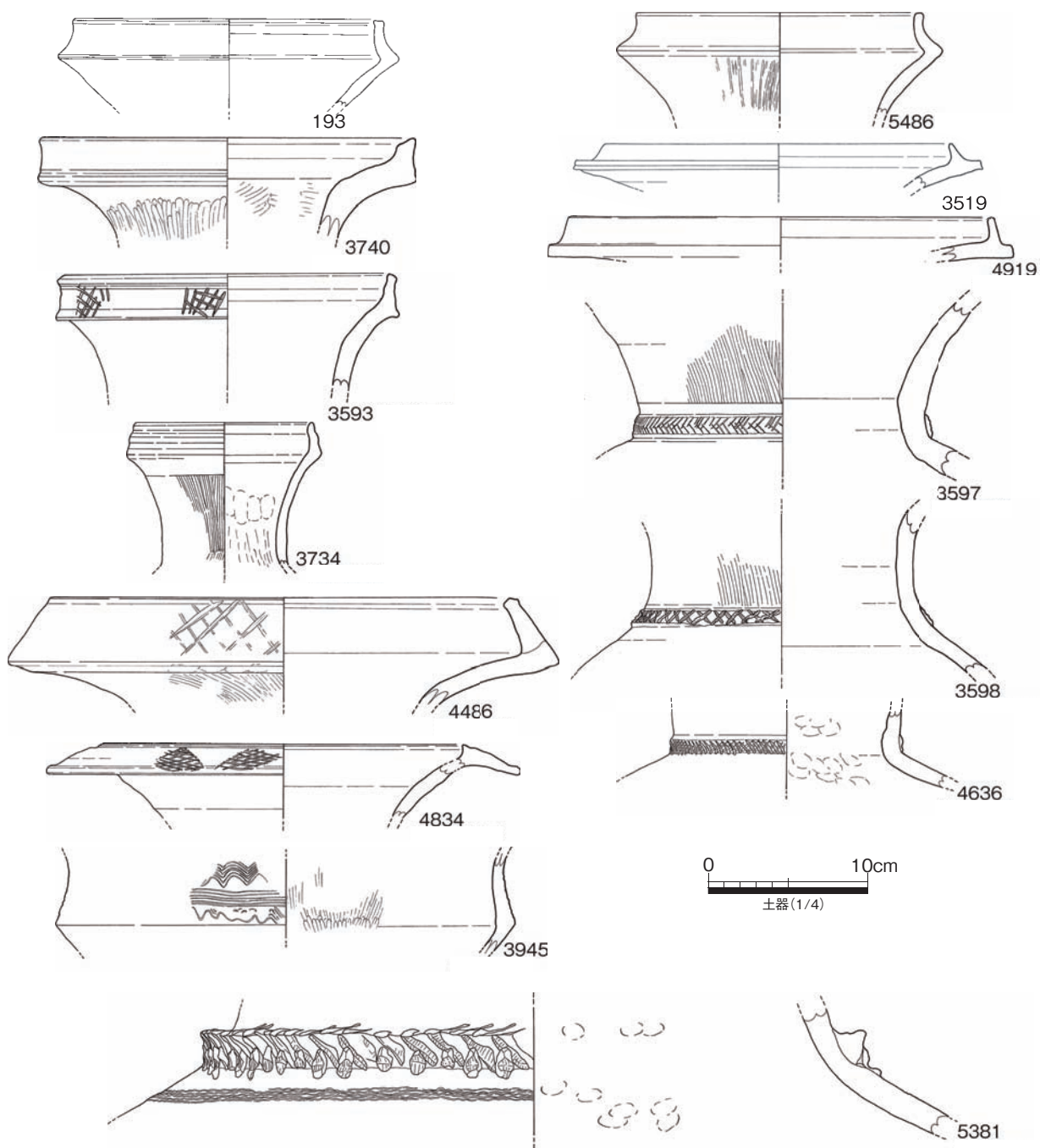
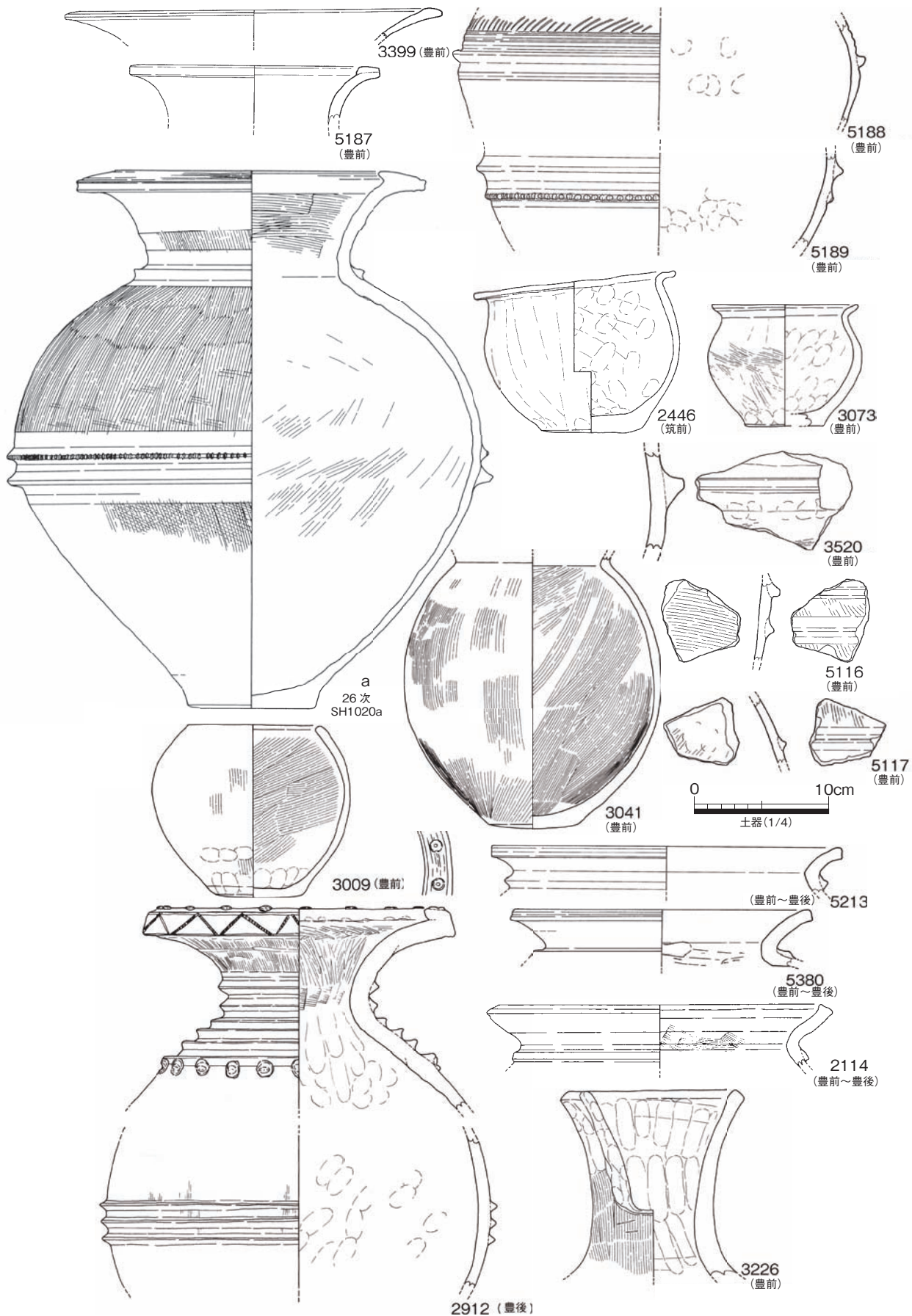


図 674 外来系土器 その 13 (西部瀬戸内)

周辺出土資料の施文規範に類例を見ない。台付鉢(4800.4717)は白色系の精製品の胎土をもち、内面をミガキ締める。山陰地方の低脚杯とも異なる形態をもち、地域を特定できない。

5445は茶褐色系の胎土をもち、形態から山陰地方の低脚杯と見られる。4208は、スカート状の脚部をもつ高杯であり、東海地方の廻間様式の高杯に類似する。



豊前・豊後ほか

図 675 外来系土器 その 14 (豊前・豊後ほか)

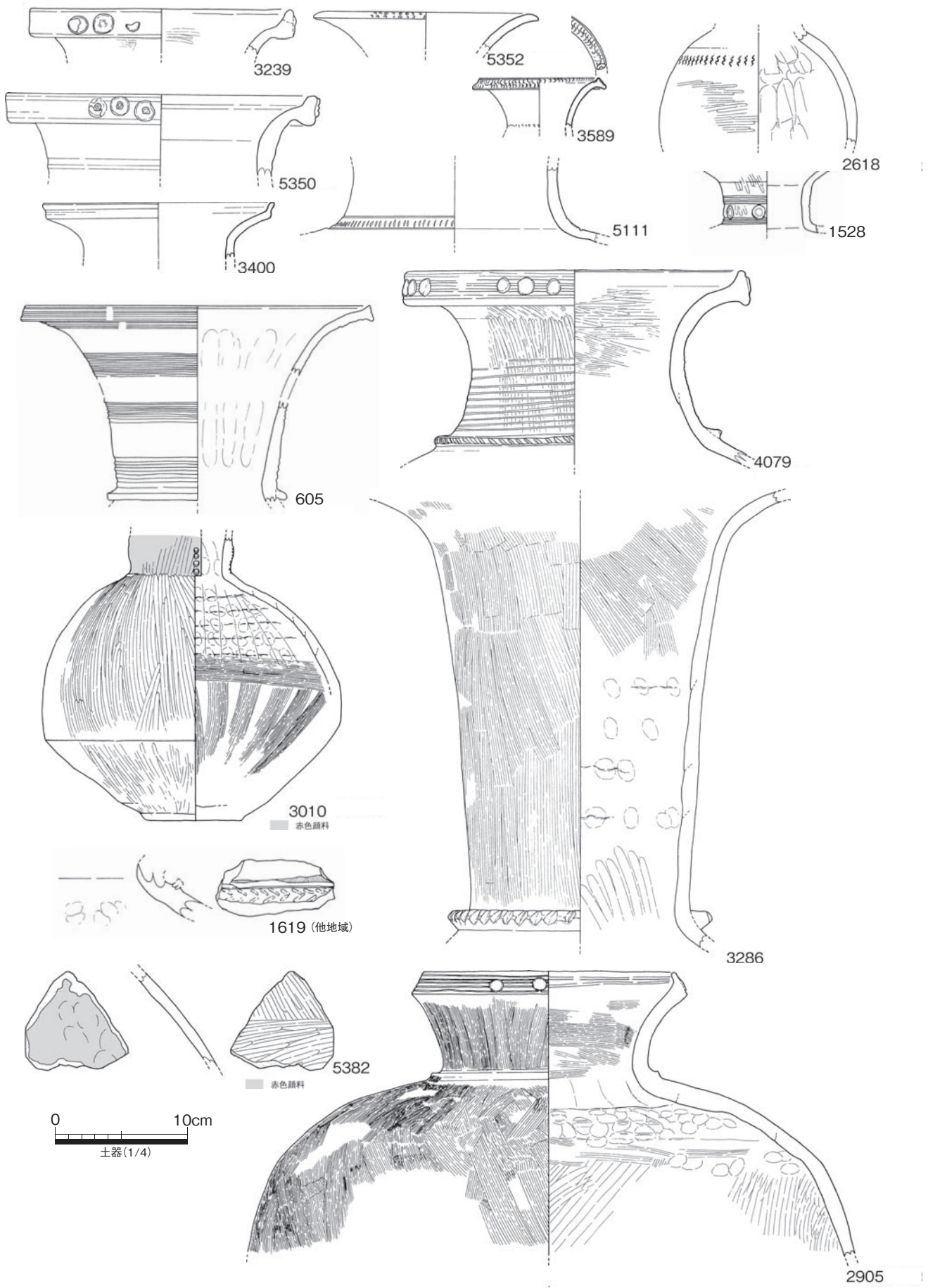


図 676 外来系土器 その 15 (系統不明)

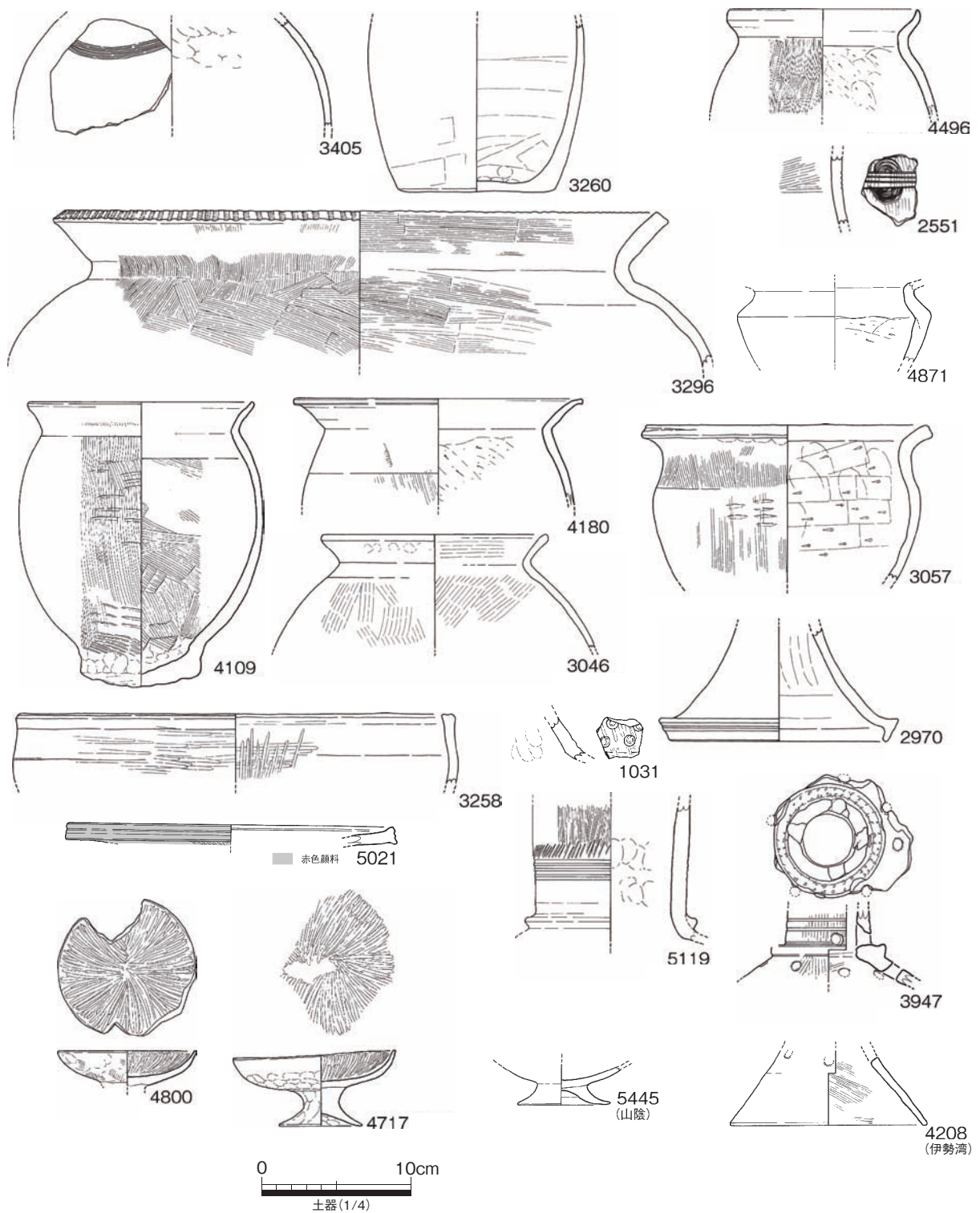


図 677 外来系土器 その 16 (系統不明・山陰・伊勢湾)

3. 小結

やや強引な比定を行いつつも、外来系土器は複数の地域からもたらされていることが判明した。特に備讃地域以西のものが多く、中でも吉備南部との関係が強い。また、赤色顔料の彩色を多用する備中地域の小田川流域の資料は、多量に見られるとともにその全てが搬入品である可能性が高いという特異な

状況を呈している。この状況は、吉備における高松平野の香東川下流域産土器が備前地域を中心に多く確認されている状況と好対照を成すものと言える。本地域の平野単位、もしくは遺跡群単位で交流対象となる地域が相違している状況も想定されよう。吉備との関係は、搬入・模倣土器だけには留まらない。祭祀遺物の分銅型土製品の分布を見ると県内出土品の約6割が旧練兵場遺跡に集中する(角南 1995, 信里 2010)。単に土器の移動に止まらない祭祀面での吉備との交流も活発であったことが窺える。

また、豊前と推定した旧練兵場遺跡 26 次調査出土の広口壺は、2 本柱の九州系住居から出土しており、少数の人の移動を伴うものであった可能性が高い(信里 2009)。他の外来系土器についても、その背景には単に土器の移動に止まらない人の動きを反映したものと推定される。また、そのピークとなる時期は、出土した外来系土器の帰属時期から見て、弥生後期前半期にあると言える。(信里)

註 1. 県内における既往の資料には、西ノ辻 N 式と見られる上天神遺跡(大久保ほか 1996)、西ノ辻 I 式と見られる汲仏遺跡 SD02 出土資料(蔵本 2001)、西ノ辻 N 式の久米山遺跡(川畑 2007)に大形壺あるいは中形壺の事例が見られる。

大久保徹也 1990「下川津遺跡における弥生時代後期から古墳時代前半の土器について」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 VII 下川津遺跡』香川県教育委員会ほか

大久保徹也 2002「中国・四国地方の土器」『考古資料大観第 2 巻 弥生・古墳時代 土器 II』小学館

大久保徹也 2003「高松平野香東川下流域産土器の生産と流通」石野博信編『初期古墳と大和の考古学』学生社

蔵本晋司 2001「汲仏遺跡」『香川県警察本部機動隊舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成 12 年度汲仏遺跡 II』香川県教育委員会 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

小林行雄 1958「大阪府牧岡市額田町西ノ辻遺跡 I 地点の土器」「大阪府牧岡市額田町西ノ辻遺跡 N 地点の土器」『弥生式土器集成資料編』日本考古学協会

潮見 浩 1964「山陽地方 I」『弥生式土器集成本編 1』東京堂

角南聡一郎 1995「讃岐地方の分銅形土製品雑考」『近藤義郎古稀記念考古文集』考古文集刊行会

寺澤薫・森井貞雄 1989「河内地域」『弥生土器の様式と編年 近畿編 I』木耳社

高橋 護 1992「弥生後期の地域性」『吉備の考古学的研究(上)』近藤義郎編 山陽新聞社

信里芳紀 2009「旧練兵場遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成 20 年度』香川県埋蔵文化財センター

信里芳紀 2010「香川の絵画・記号土器」『香川県埋蔵文化財センター研究紀要 VI』香川県埋蔵文化財センター

間壁忠彦「岡山県矢掛町白江遺跡」『倉敷考古館研究集報第 1 号』倉敷考古館

第3節 弥生時代中期から古墳時代前期の金属器

1. はじめに

旧練兵場遺跡 19 次調査では、主に弥生後期から古墳前期の鉄製品・銅製品を多く確認した。鉄製品については、後期後半期の鍛冶炉や生産に伴う残滓と見られる鉄片等が確認された。また、既往の 11 次調査において鞆羽口が出土していることが明らかになる等(片桐 2008)、製品のみならず遺構や関連遺物から鍛冶技術の変遷を視野にいれた鉄器化の状況を推定することが可能となってきた。また、鉄器化と共時的に銅鏃の出現とその増加現象も見られることから、金属器化という視点で両者の関係を整理しておきたい。

2. 鉄製品の変遷

鉄製品は、中期後半に属する SR02 下層出土の板状鉄斧片を初現とし、その後、後期前半期まで少数の鉄製品が確認される。器種組成は、鏃(図 678-1～3)・板状斧(図 678-4)・袋状斧(図 678-5)・ヤリガンナ(図 678-6)・刀子(678-7)から構成されるもので、出現時期及び組成は、県内の他の遺跡とはほぼ同様の傾向を示す(信里 2006)。鉄鏃は、柳葉式のもので占められる。袋状鉄斧(図 678-5)は基部と刃部の厚みに差が見られない。板状鉄斧(図 678-4)は、厚みから見て、大形品となる可能性が高い。

後期後半期になると、鉄鏃が増加するとともに、鋤・鍬先や鉄剣等豊富な器種組成を示すようになる。その背景には、後述するように鍛冶遺構が明確化することが影響していると考えられる。

鉄鏃は、前段階に引き続いて柳葉式を基本とするが、圭頭鏃が少数ながら含まれる。柳葉・圭頭鏃ともに身幅が広いものが出現する等やや大形化する傾向がある。身の先端から茎までの厚みが変化しない平板なものが多い。圭頭鏃(図 678-12)は、身部に別個体が付着した状態で出土している。13 は旧練兵場遺跡の近接する集落と考えられる稲木遺跡 C 地区から出土した鋤・鍬先である。柄の装着に伴う折返しの先端が鍛打によって完全に閉じられており、使用時の衝撃を意識した丁寧なつくりと言える。

剣(図 678-13)は、斜関を介す身部から柄部の小片であるが、県内及び中部瀬戸内における初現期となるものである。斜関の形態や身幅等は、丸亀平野南東部に所在する弥生終末期の石塚山 2 号墓出土例に類似している(國木 1993)。ヤリガンナ(図 678-15)は、村上恭通氏が IV b 式とする刃部のみが薄く、鋭い鑄をもつものが主体となる(村上 1998)。大形の板状斧の存在は確認できないが、加工斧と見られる小形品(図 678-17)は木柄の装着痕と見られる木質を明瞭に留める。

終末期から古墳初頭は出土点数が少なく、器種組成全体を明らかにすることができない。鏃は、身幅が狭い小形品と幅が広い大形品が組み合う(図 678-18～20)。大形品の柳葉鏃(図 678-20)は、旧練兵場遺跡 23 次調査包含層からの出土であるが、周辺遺構の状況から当該期に属する可能性が高い。斧は、板状鉄斧(図 678-21)と袋状鉄斧(図 678-22)が共存する。袋状斧(図 678-22)は、基部に比べて重厚な刃部をもつ。(図 678-23)は同 26 次調査で出土したヤスである。ヤスは山陰等日本海側で数例確認されているが瀬戸内では初例であり、列島内でも希少品であることから搬入品の可能性が高いと考える。

3. 鍛冶関連遺物

鍛冶関連遺物として、後期前半新段階に属する SH38 から出土した不定形の鉄片が見られるが明確で

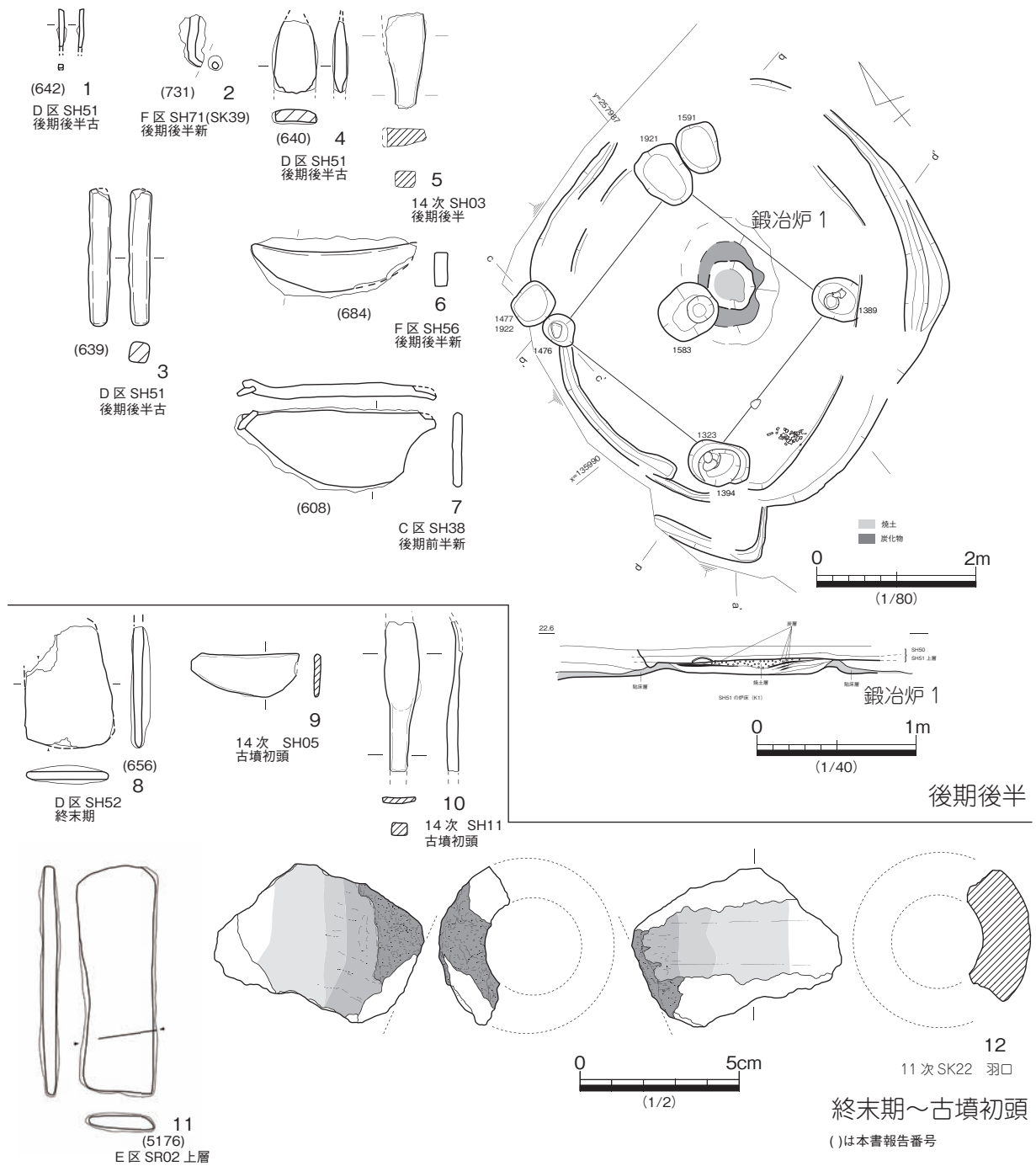


図 679 旧練兵場遺跡における鍛冶遺構・鍛冶関連遺物の変遷

はない。鍛冶関連の遺構・遺物が明確化するのには後期後半期である。鍛冶炉はSH51で確認しており、後期後半段階に属する。鍛冶炉は浅い掘り込みに簡易な防湿構造物をもつ。弥生時代の鍛冶遺構に伴うことの多い針状鉄片(図679-1.2)や、棒状鉄片(図679-3)、製品として認識できない鉄片(図679-4)が出土している。鍛打中の生じる鍛造剥片や球状滓等の派生遺物の可能性がある微細遺物を回収し、分析を行ったが否定的な結果となった(第4章第5節参照)。築炉の状況や鉄片の特徴から、鍛冶遺構の可能性が高いと考えられ、鍛錬鍛冶でも最終段階の作業の可能性もある。また、後期後半には炉は確認されていないものの、SH56から半月状の鉄片が出土する等、鍛冶遺構の定着と一定期間の作業が行われた可能

性が高い。また、前述のとおり、製品の出土量が後期前半期に比べ増加する点も鍛冶遺構及び関連遺物と符合した状況を示すことから、鉄鏃を中心とした鉄器化を想定したい。しかし、沸し等の鍛接技術を行わない鍛冶技術を前提にして鉄片等の残滓の出土量や鍛冶炉そのものの検出数を考慮すれば、継続的な操業は疑わしい。

終末期から古墳初頭には鍛冶遺構は確認されていないが関連遺物が出土している。図 679-12 は鑢羽口であり、古墳前期前半古段階の土器を伴う。先端部はガラス状に溶解しており、孔に対して先端部が斜交するように面取りされている。断面形は円形で孔径は先端部で約 3cm を測り、残存範囲では孔を絞り込む様子は確認できない。胎土は粗粒の石英・長石を多く含み、赤色斑粒をやや多く認める。熱片を受けない箇所の色調は、遺跡内の古式土師器に類似している。断面径や孔径で類似する資料には、庄・蔵本遺跡 SD14 出土資料がある(中村 2003)。古墳前期に特徴的な蒲鋒形の羽口(村上 1994)と異なるため、技術系譜の追求は今後の課題となる。

本段階には、鍛打途上で放棄された鉄片(図 679-8)や半月状の鉄片(図 679-9)等、鍛冶関連遺物と見られる鉄片が散見されるが、後期後半段階と同様に継続的な操業を疑わしめる出土量に止まっている。

報文番号	地区名	報告遺構名	器種	長さ(mm)	身部最大幅(mm)	最大厚(mm)	研磨(身)	鑄合せ痕(茎)	備考
57	A 区	SH01	銅鏃	3.0	3.0	1.5	-	?	周縁剥落
206	A 区	SH14	銅鏃	23.5	12.5	5.0	有	有?	腸袂の研磨痕有
282	B 区	SH27	銅鏃	24.5	11.0	4.5	有?	有	
399	C 区	SH35	銅鏃	22.5	8.5	3.0	有(弱)	有	
400	C 区	SH35	銅鏃	34.0	8.0	3.0	有(弱)	有	茎基部に鑿痕有
401	C 区	SH35	銅鏃	33.0	11.0	3.0	?	有	茎に繊維痕
519	C 区	SH41	銅鏃	40.0	17.0(18.0)	2.0(6.0)	有	有	
520	C 区	SH41	銅鏃	40.5	14.5	4.5	有	無	
549	C 区	SH42	銅鏃	45.5	17.5	4.0	有(弱)	有	
583	C 区	SH44	銅鏃	25.0	9.0	4.0	?	有	
584	C 区	SH44	銅鏃	-	-	-	-	-	闊部に小さな抉り有
685	F 区	SH56	銅鏃	24.5	9.0	3.5	無	有	
732	F 区	SH72	銅鏃	16.0	6.0	3.0	-	有	
867	C 区	SB15	銅鏃	15.0	12.0	3.0	?	-	
1698	E 区	SD31	銅鏃	26.0	7.5	3.0	?	有	
1985	D 区	SD76	銅鏃	2.0	9.5	4.0	有(弱)	有	
4889	E 区	SR02 上層 K 区画	銅鏃	26.0	14.5	3.5	有	有	
5544	C 区	包含層	銅鏃	11.0	9.0	4.0	有	-	

表 55 銅鏃一覧

※計測値は現況からのもの

4. 銅鏃

銅鏃は、既往の調査で出土してものを含めると 63 点の出土量が確認されている。時間的な累積を伴うものではあるが、極めて多量と言える。

時間的な変遷を 19 次調査を中心に見ると、後期前半新段階に出現し後期後半期に増加した後、古墳前期まで継続して出土する。また、同 23 次調査の所見から、出現時期は後期初頭まで遡る可能性が高い。形態的には、全てが有茎式であり、鏃身平面形が長三角形や膨をもつ長三角形を呈す鏃身幅が狭くもので、全長が 4cm 以下の小・中形品を主体としている(図 680-399.400.401.1985 等)。

少数であるが鏃身が膨をもつ長三角形で明瞭な腸袂をもつ中形の平根系鏃(図 680-519)や、鏃身から茎へ接続する脊部と扁平な翼部をもつ中形品(図 680-549)も存在する。前者の小・中形品の多くは、茎端に切断痕を留めるもの(図 680-400)や同 25 次調査出土資料の中に鏃身先端部に別個体を切断する際に残された茎を留めるもの(図 680 下段)が見られることから、鑄型や鑄放し状態での出土品が示すよ

うに、連鑄技法によって製作された可能性が高い。後者の中形品については、それを復元する材料がない。

5. 鉄鏃との関係

銅鏃は、後期初頭に出現し、後期後半から増加し始める。これは、鉄鏃の動向との共時的なものである。また、後期後半期には石器が急激に減少しており、中期後半から継続する旧練兵場遺跡では追えないものの、周辺の後期後半以降の単純遺跡である稲木遺跡(西岡編 1989)、郡家原遺跡(真鍋編 1993)では、混入品を除いて石器が伴わず急速に鉄器化が進行したと見たほうが捉えやすい。先行する石鏃の無莖式を欠くものの、銅鏃は鉄鏃とともに鏃の金属器化として後期以降に出現したと考えられ、出現時期は他地域における状況とも矛盾しない(田中 1986.1989)。

前述のとおり、連鑄による小形品が主体となる状況が見られるが、法量的に見て、銅鏃と鉄鏃の関係を検討しておきたい。

銅鏃の集計は、旧練兵場遺跡における出土品で計測可能な個体を全て含めた。鉄鏃に関しては、全体形を知り得る資料に乏しいため、下川津遺跡(藤好・西村編 1990)・稲木遺跡(西岡編 1989)を含めて表 56 に集計した。

銅鏃は全長が 2.0～4.0cm、鏃身幅が 0.8～1.5cm にまとまりをもっていることに対して、鉄鏃は全長 6.0～7.0cm、鏃身幅 2.0～2.5cm の領域にまとまりをもつ。大形品の鉄鏃が実用かどうかの疑問は残るものの、一部交錯する領域をもちながら小形品を主体とする銅鏃と中形から大形品の鉄鏃という形で分かれる(註 1)。銅鏃は、大量生産を意識した連鑄式を採用された結果が反映されている可能性があるが、旧練兵場遺跡及びその周辺で銅鏃の生産が想定できないため、先学の指摘のとおり銅・鉄という二つの素材で補完的な関係が存在していたと考えられる(田中 1986.1989)。

6. 銅鏃の保有量

次に多量に出土した銅鏃の保有量が問題となる。旧練兵場遺跡は存続期間が長期に亘ることから、累積の結果として多量であると映りかねない。そこで各細別時期での銅鏃の出土量について、比較的調査面積が類似する他の遺跡との比較を行う。他の集落遺跡で比較に耐えうる十分な調査例を用意することができないが、住居群に銅鏃が伴う高松市上天神遺跡と坂出市下川津遺跡を採り上げる。また、竪穴住居数は集落規模が反映されると予測されるが、それを含んだ上での単純比較という形で提示することとしたい。

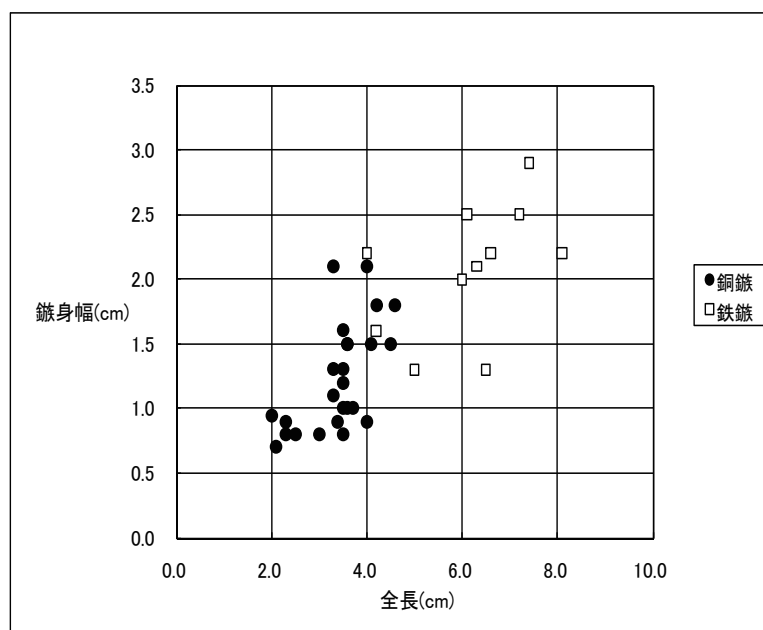
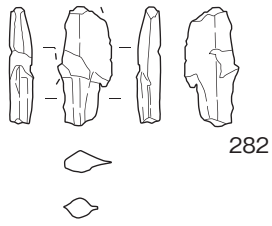
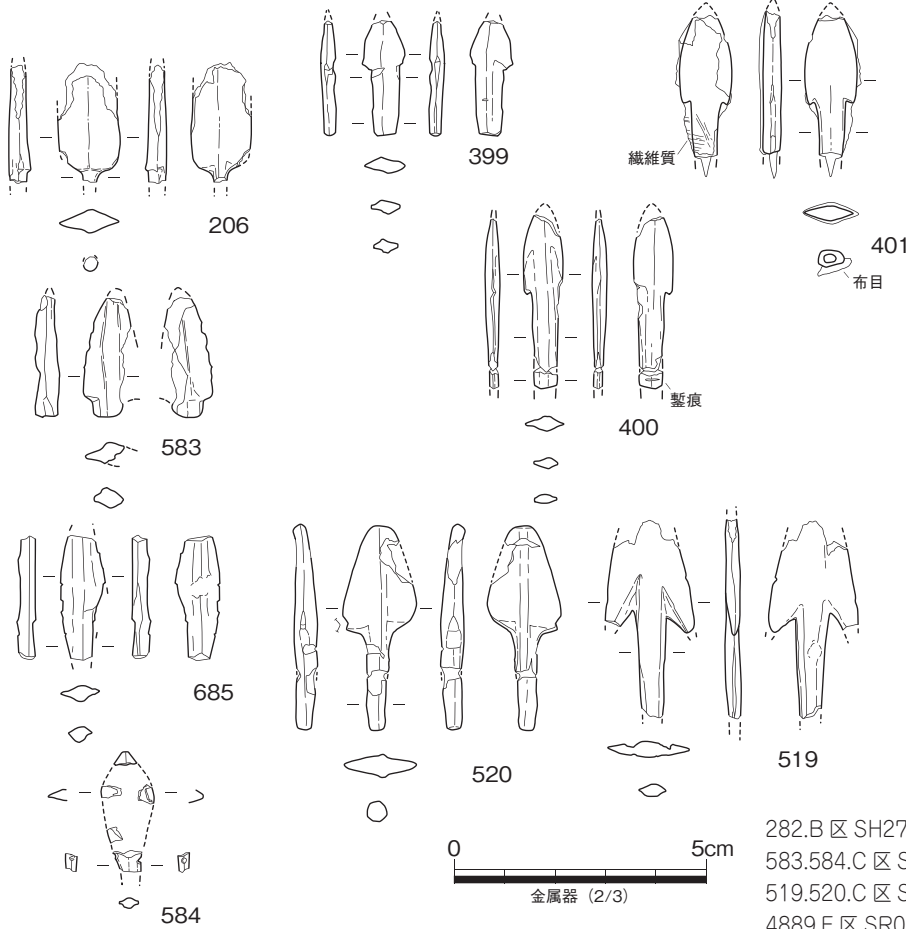


表 56 鉄鏃と銅鏃の法量分布

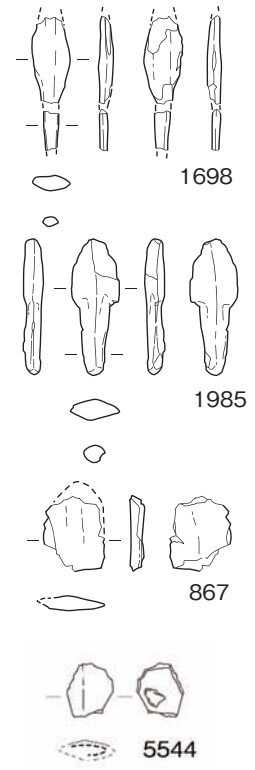
後期前半



後期後半



時期不明



282.B区 SH27 206.SH14
 583.584.C区 SH44 685.SH56
 519.520.C区 SH41 399~401.C区 SH35
 4889.E区 SR02 上層 57.A区 SH01
 549.C区 SH42 732.F区 SH72

終末期~古風初頭

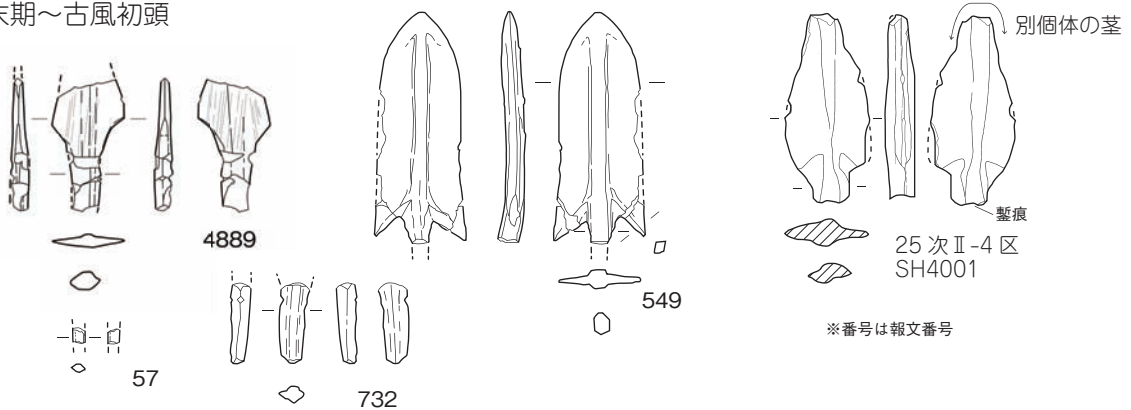


図 680 銅鍔変遷

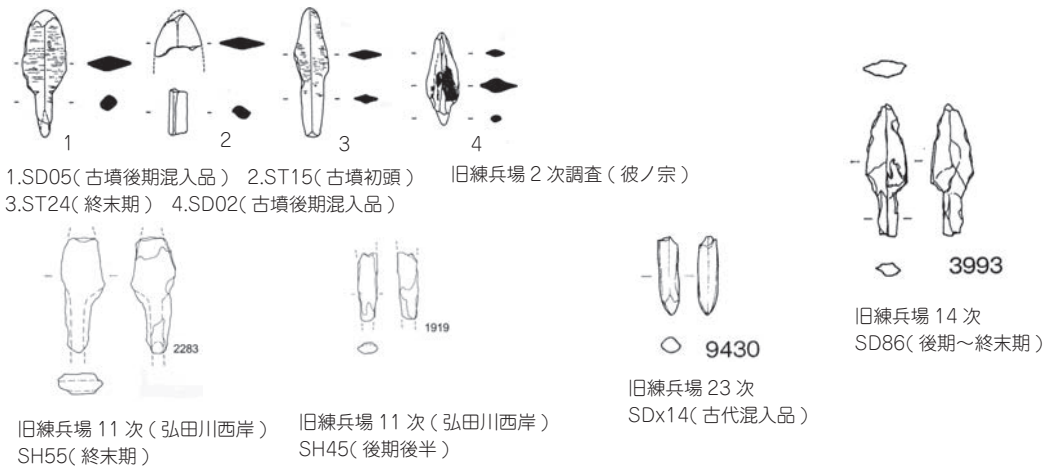
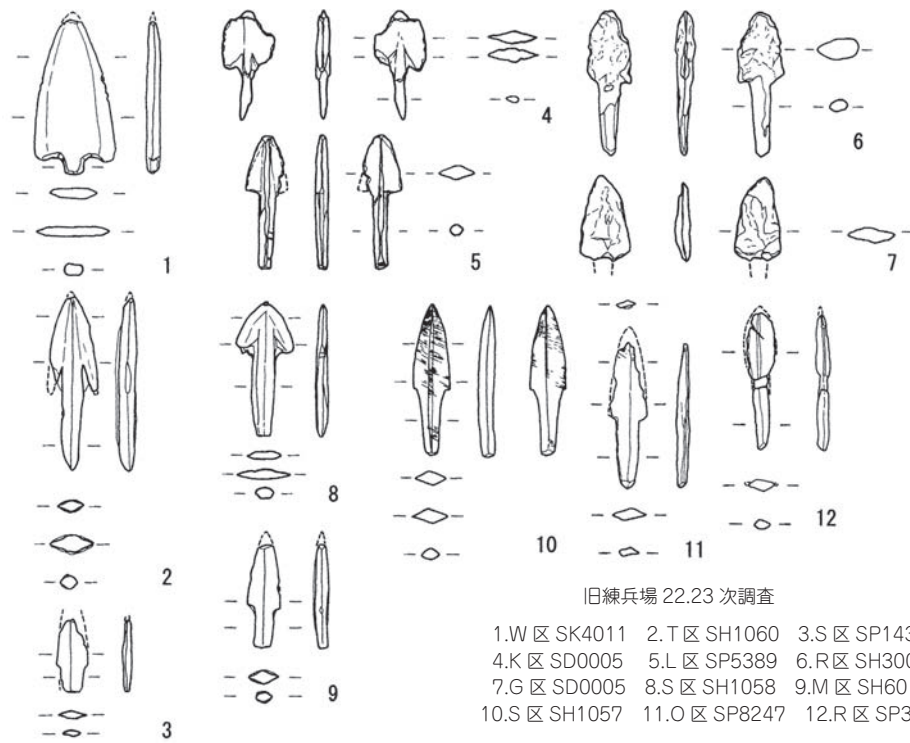
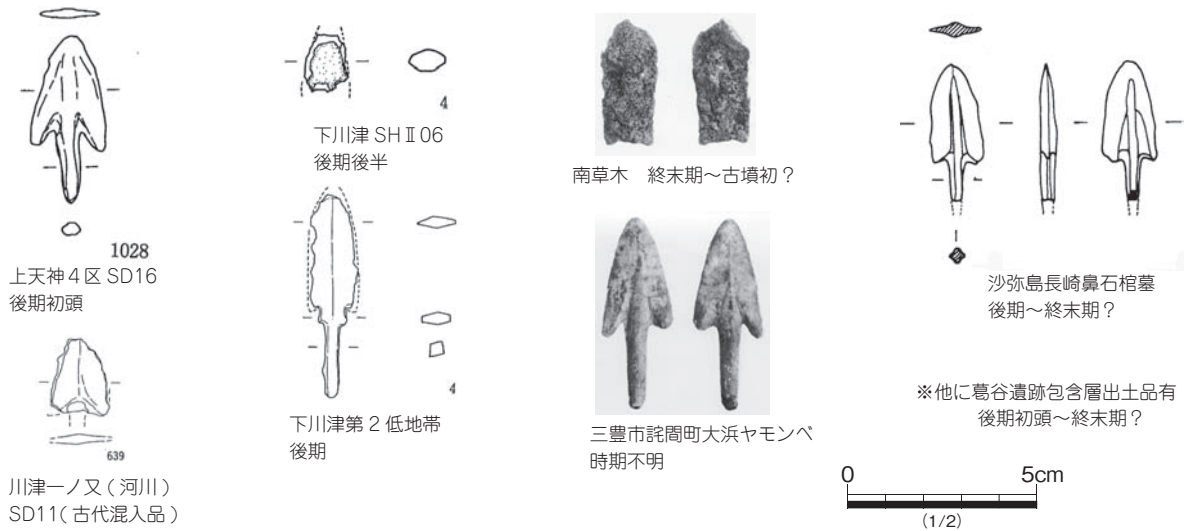


図 681 銅鏃集成

旧練兵場遺跡の19次調査の内、銅鏃の帰属時期の推定が可能な4時期と弥生後期初頭の上天神遺跡、弥生後期後半新段階の下川津遺跡第1微高地北部の銅鏃出土数に対する竪穴住居数の比率を算出した。上天神遺跡の事例は、銅鏃出現期のもので旧練兵場遺跡の弥生後期前半期の保有率に類似する。保有率が上昇する弥生後期後半期の比較では、下川津遺跡の保有率の約2倍を測るものである。旧練兵場遺跡における弥生終末期の保有率が後期後半期と比べ半減しているが、19次調査地においては本時期に営まれる住居数が減少することや、SR02など旧河道出土資料(図680-4889)や包含層出土資料が本時期に含まれる可能性を考慮する必要がある。また、弥生終末期の住居が多く検出された23次調査においても銅鏃が多く出土している点を踏まえると、弥生後期後半から終末期にかけてほぼ同様の保有率を保つ可能性が高い。

遺跡名	調査回数等	時期	銅鏃数	竪穴数	保有率	保有率 (面積補正後)	調査面積
旧練兵場	19次	弥生後期前半(新)	1	9	0.11	0.11	約4,000㎡
旧練兵場	19次	弥生後期後半(古)	6	10	0.6	0.6	約4,000㎡
旧練兵場	19次	弥生後期後半(新)	3	5	0.6	0.6	約4,000㎡
旧練兵場	19次	弥生終末期(新)	1	5	0.2	0.2	約4,000㎡
上天神	4区	弥生後期前半(古)	1	11	0.091	0.073	約5,000㎡
下川津	第1微高地北半	後期後半(新)	1	5	0.2	0.16	約5,000㎡

表57 銅鏃保有率 ※旧練兵場遺跡を基準にして調査面積で補正

7. 流通品としての銅鏃

銅鏃の保有量と関連して、問題となるのが集落内での生産の有無がある。鉄鏃については、鍛冶炉やその関連遺物の出土から見て集落内の生産が想定できるが、青銅器の生産については、調査が進んだ現状においても積極的な材料は得られていない(註2)。出土した多くの銅鏃は丁寧に研磨を行ったものが少なく、茎部側面に鋳張り状の鋳合わせ痕を残すものや、茎部や腸袂部に鋳張りを残すものが多く、一見鋳造時に近い状況を示す(表55)。しかし、多くの個体は身部を中心に弱いながらも研磨を施すなど一定の加工が進んでいる点を見過ごすことはできない。

この研磨途上の状態や出土量から遺跡内での生産を想定するならば、素材として再溶融されずに廃棄されている状況が問題となる。事実、銅鏃をはじめとした青銅器の鋳造が行われている北部九州の須玖坂本遺跡や近畿地方の唐古・鍵遺跡などの集落において、完成品に近い状態の青銅器が多く出土する状況は見られない。従ってこれらの銅鏃は集落外からの持込品であって、研磨途中の状態や保有率に表れた出土量は、流過程における一時的に集積された状態を示していると考えられる。また、25次調査出土の鏃身先端部に別個体を切断する際に残された茎を留める資料(図680下段)から、下池田遺跡、東博所蔵の伝滋賀県出土資料など鋳放し状態での流通及び遺跡内への搬入を想定しておきたい。また、小形品は鋳損じや研磨などが要因で形態が多様化している可能性はあるものの、旧練兵場遺跡における銅鏃の形態の多様性は、複数の入手先を反映した結果生じているものかもしれない。加えて、銅鏃が住居の埋め戻しに伴い他の土器などの遺物と同様に廃棄された状態で出土していることは、流通の過程で零れ落ちたものであるということを示しており、実際の流通量は更に増加するものと見たほうがよいだろう。弥生後期以降、従来の自家生産のサヌカイト製石鏃を捨て去ってまで、外部に依存した銅鏃で武装を必要とする社会像とは何か、田中氏が指摘したように、鉄鏃との補完的な関係以上に量産体制及びその入手を必要とした社会背景を追求していくことが必要である(田中1986)。また、銅鏃は旧練兵場遺跡において展開された交易の一端を示す資料として重要な位置を占めている。

註1 大村氏は重量を用いて銅鏃と鉄鏃の効力の差異を指摘したが、今回の作業では保存処理前に重量の計測を怠った個体も数多く見られることから、全長と鏃身幅を用いた。

大村 直 1986「鉄鏃」『弥生文化の研究9 弥生人の世界』金関恕 / 佐原真編 雄山閣

註2 14次調査SD86から石製鏃に見られる黒変部をもつ砂岩製の石製品を確認している(西岡2009.報4091)。最終的に砥石として転用を受けているが、現状4cm四方程度の二つの黒変部を留める。黒変部には、鏃断面を確定させるような刻み込みは見られず、蛍光X線分析においても銅・鉛等の鑄造関連を示す結果は得られなかった。出土土器は、弥生後期初頭から古墳時代前期を示す。

西岡達哉 2009『善通寺病院看護学校建設及び統合事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊 旧練兵場遺跡I』香川県教育委員会 独立行政法人国立病院機構善通寺病院

参考・引用文献

片桐孝浩 2008『広域基幹河川弘田川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 弘田川西岸遺跡』香川県教育委員会

國木健司 1993『石塚山古墳群』綾歌町教育委員会

田中勝弘 1986「銅鏃」『弥生文化の研究9 弥生人の世界』金関恕 / 佐原真編 雄山閣

田中勝弘 1989「銅鏃」『季刊考古学第27号特集青銅器と弥生社会』雄山閣

中村 豊 2003「徳島における弥生終末期の鉄器生産」『青藍』第1号 考古フォーラム蔵本

西岡達哉編 1989『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第6冊 稲木遺跡』香川県教育委員会ほか

信里芳紀 2006「中・東部瀬戸内地域における弥生時代の鉄製品」『石器から鉄器への移行期における社会の変革を考える 近畿弥生の会第2回テーマ討論会発表要旨集』近畿弥生の会

村上恭通 1994「弥生時代における鍛冶遺構の研究」『考古学研究』第41巻第3号 考古学研究会

村上恭通 1998「鉄器普及の諸段階」下条信行編『日本における石器から鉄器への転換形態の研究<平成7～9年度科学研究費助成金(基盤研究B)研究成果報告書>』

山下平重編 1993『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第13冊 郡家原遺跡』香川県教育委員会ほか

第4節 旧練兵場遺跡の漁具

1 石錘

石錘は溝が施された石製品である。海岸線から遠くない場所で出土する傾向があることや民俗例等から漁撈に用いられた錘と推定されている。

・切目石錘

18次SD005・143は切目石錘と呼ばれる石錘で、縄文時代後期～晩期を中心に岡山県等で出土する。18次SD005は弥生時代中期後半～後期後半を中心とする遺構であるが、本資料をこの時期に帰属させるのは難しい。隣接する18次SD002からは弥生時代前期の土器が出土しており、むしろこの時期の中で本資料を位置づけたほうがいいたろう。

・有溝石錘

弥生時代中期後半～後期前半には、円盤状を呈し、側縁を巡る溝、および片面のみに1方向の溝を有

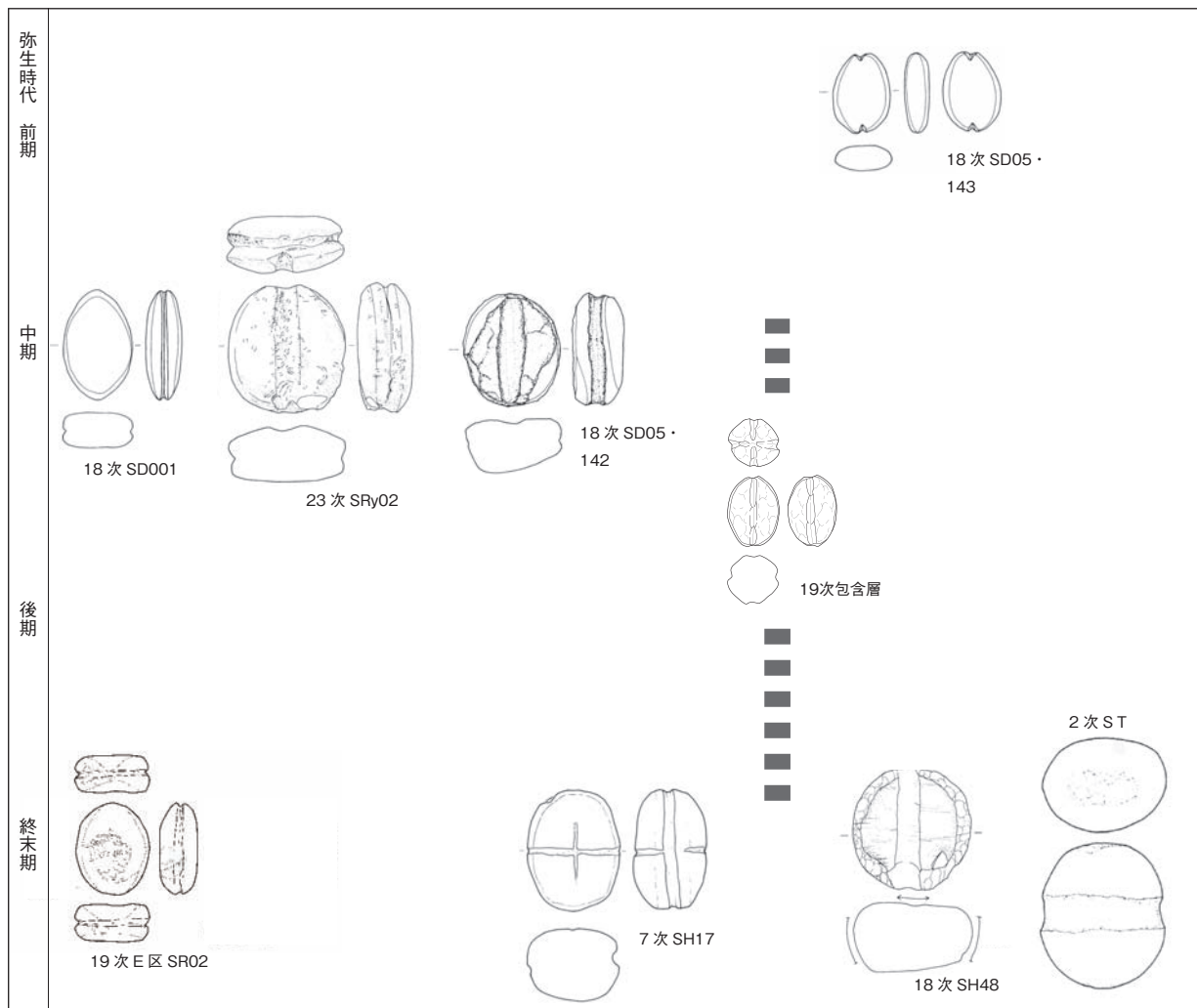


図 682 旧練兵場遺跡における石錘の変遷

する有溝石錘が認められる。これらには、側縁の溝の成形技法が擦り切りによるもの(18次SD001資料、23次SRy02資料)と、敲打によるもの(18次SD005・142)がある。終末期～古墳時代前期の19次E区SR02資料は、同じく円盤状で側縁のみに擦り切り技法による溝が巡る。円盤状で側縁に溝が巡る有溝石錘は、香川県・紫雲出山遺跡(中期後半)や、同・上天神遺跡(後期前半)、同・下川津遺跡(後期前半)等、丸亀平野から高松平野にかけて分布し、旧練兵場遺跡例はこの傾向を補強する。

時期不明の19次包含層資料は砲弾状で擦り切りの溝が長軸方向に2本巡る。香川県内では尾崎西遺跡に中期後半の類似資料がある。溝が1条のものは中期後半の大阪府・池上曾根遺跡(秋山・後藤1998)等であり、後期後半の広島県・西8地点遺跡(財団法人広島県埋蔵文化財調査センター編1993)等には横軸に溝が巡るものがある。よって19次包含層資料は中期後半～後期後半に属するものと考えておきたい。

11次SH48資料は、横断面形がやや不整で敲打による溝をもつ。中国山地等でも出土することから漁具の錘ではない可能性もある。類例は備讃瀬戸北岸を中心に分布する。

2次ST資料は卵形の短軸方向に敲打による溝を巡らせる。山間部等にも多く分布することから漁具としての機能には疑問もある。同様のものは山陰から瀬戸内まで分布することが知られている。

旧練兵場遺跡では中期後半に円盤状の有溝石錘が出現し、終末期になると18次SH48資料や2次ST資料のような形状のものが認められるようになる。瀬戸内では中期後半に有溝石錘が出現することから、旧練兵場遺跡も瀬戸内全体の様相と連動しているものとみられる。終末期の状況は備讃瀬戸北岸や山陰地方との交流関係を示すものかもしれない。

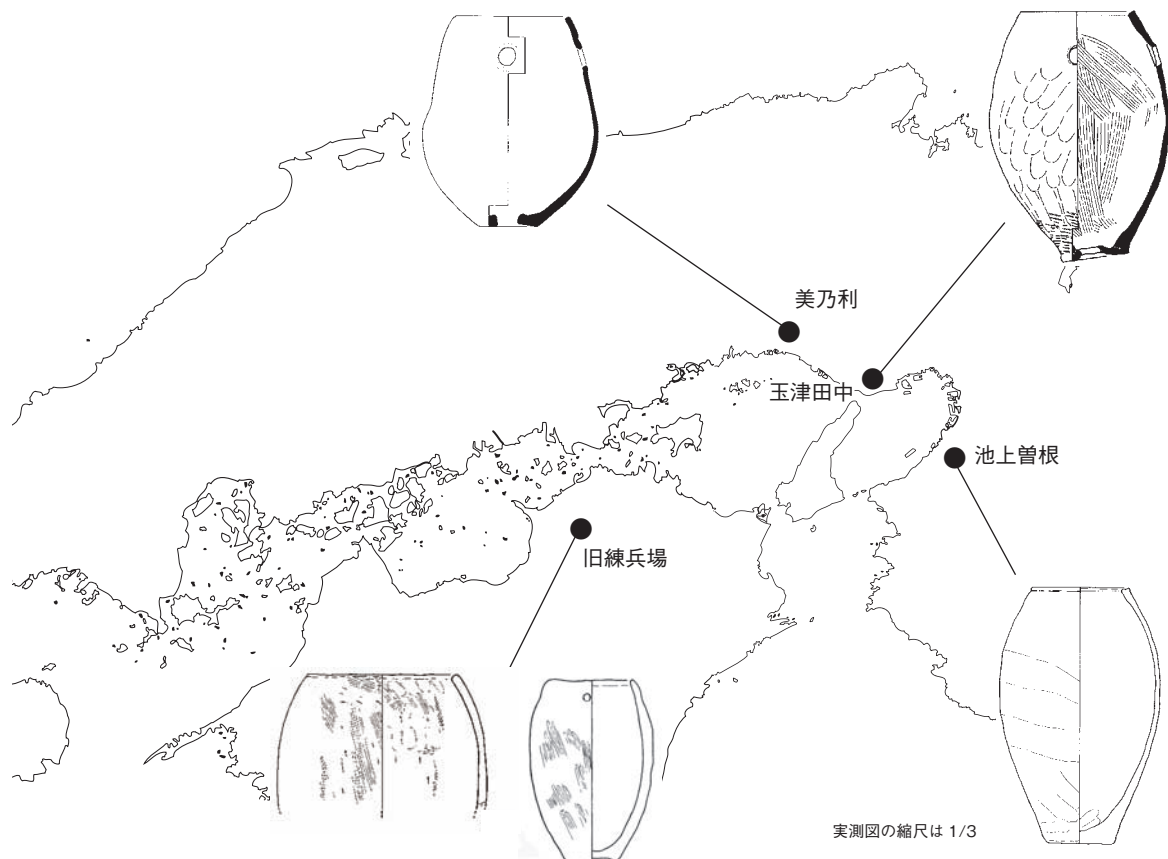


図 683 旧練兵場遺跡と関連遺跡の蛸壺

2 蛸壺

蛸壺は2点出土している。弥生時代中期後半の18次SD005例は、口縁部直下に孔を有する。19次E区SR02例（終末期）は口縁部付近の破片のため孔の有無は不明である（註1）。

蛸壺は、大阪府・池上曾根遺跡（大阪府教育委員会編1990・1999）や亀井遺跡（大阪府教育委員会編1993）等の大阪湾沿岸と、兵庫県・美乃利遺跡（兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所編1997）、同・玉津田中遺跡（兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所編2006）等の播磨灘北岸に分布する。両地域とも中期から蛸壺が確認されている。

18次SD005例は、大阪湾沿岸例に全体的な形状はよく似るが、サイズが小さく、孔をもつ点が異なる。播磨灘北岸の玉津田中遺跡例と比べると、口縁部下の1か所にしか孔が無い点や、底部の形状等が異なる。体部下半部がふくらむ美乃利遺跡例とも全体的な形状は異なる。よって、旧練兵場遺跡例は他地域から直接搬入されたものとは考えにくく、ここでは大阪湾や播磨灘沿岸との影響下で出現したものと捉えておきたい。

3 鉄製刺突漁具

26次5区SH4160aから1点、鉄製刺突漁具が出土している。本資料は、先端部から片側へのかえりへ向かって直線的になる「先端部・かえり連続型」である。方柱状の軸部をもち、先端部付近に向かって片側が少しずつ平坦に近くなる。

弥生時代の鉄製刺突漁具は日本海沿岸を中心に分布することが指摘されている（池淵2003）。島根県・沖丈遺跡資料（邑智町教育委員会編2001）と同・南講武草田遺跡資料は先端部・かえり連続型である。

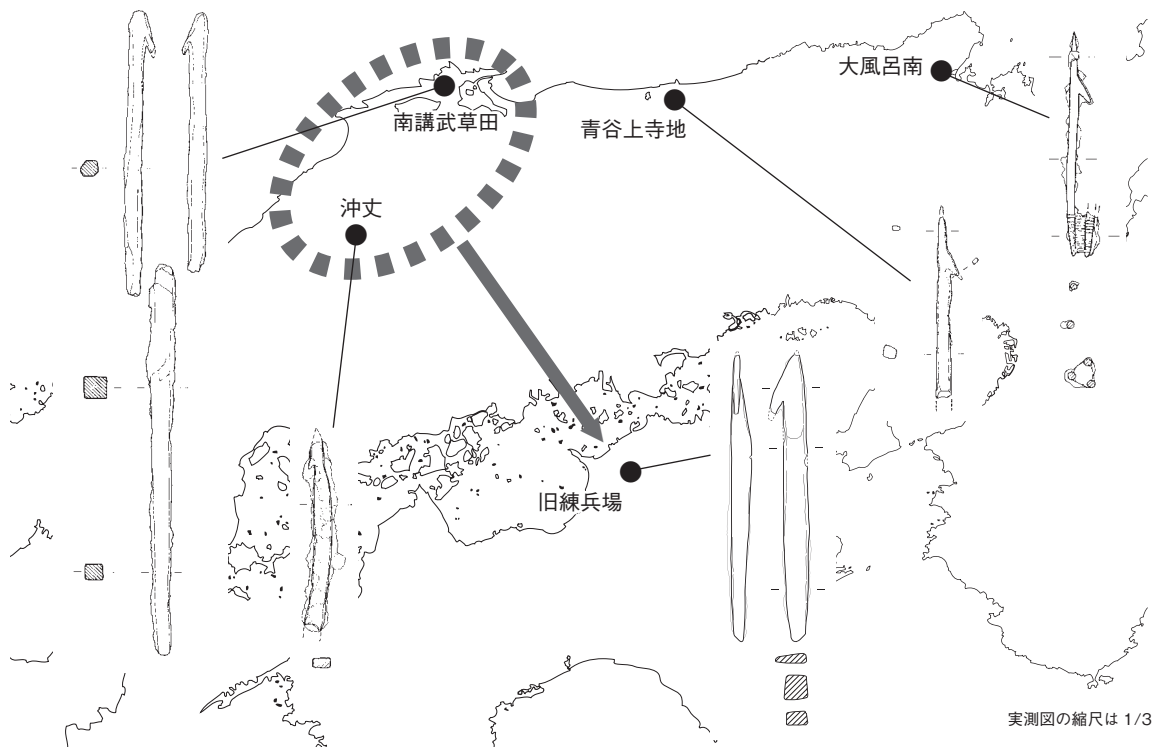


図 684 日本海沿岸の刺突漁具と旧練兵場遺跡への搬入

先端部とかえりが区別される「先端部・かえり不連続型」の一方、鳥取県・青谷上寺地遺跡資料（財団法人鳥取県教育文化財編 2001）や京都府・大風呂南 1 号墓資料（岩滝町教育委員会編 2000）は、先端部とかえりが区別される「先端部・かえり不連続型」である。日本海沿岸の状況を踏まえると、旧練兵場遺跡例は日本海沿岸でも特に島根県域からもたらされた可能性が高い。（乗松）

註 1 田村隆明は大阪府・池上遺跡資料等について頸部や孔が無いため蛸壺とは考えにくいとした（田村 2009）。しかし、通常の弥生土器に比べてつくりが粗雑であり、大きさも玉津田中遺跡例等とさほど変わらない。また、壺への縄の緊縛方法しだいで孔や頸部は必要ないと考えられる。よってここでは、頸部や孔が無い資料も蛸壺として扱う。

参考・引用文献

- 秋山浩三・後藤理加 1998 「池上曾根遺跡の土錘・石錘とその評価」『みづほ』第 27 号 大和弥生文化の会
池淵俊一 2003 「漁撈具」『考古資料大観 第 7 巻 弥生・古墳時代 鉄・金銅製品』小学館
岩滝町教育委員会編 2000 『岩滝町文化財調査報告書第 15 集大風呂南墳墓群』
大阪府教育委員会編 1990 『史跡池上曾根遺跡発掘調査概要 松ノ浜曾根線建設に伴う発掘調査』
大阪府教育委員会編 1993 『河内平野遺跡群の動態Ⅵ 近畿自動車道天理吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 南遺跡群 弥生時代中期編』
大阪府教育委員会編 1999 『大阪府文化財調査報告 1998-1 池上曾根遺跡－拠点集落東方の墓域の調査－』
邑智町教育委員会編 2001 『主要地方道川本波多線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 沖丈遺跡』
鹿島町教育委員会編 1992 『講武地区区営圃場整備事業発掘調査報告書 5 南講武草田遺跡』
財団法人広島埋蔵文化財調査センター編 1993 『広島埋蔵文化財調査センター調査報告書第 107 集 東広島ニュータウン遺跡群』
善通寺市建設経済部建築課・（財）元興寺文化財研究所編 2001 『市営西仙遊町住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 旧練兵場遺跡』
田村隆明 2009 「東部瀬戸内におけるマダコ壺漁の検討」『香川考古』第 11 号 香川考古刊行会
財団法人鳥取県教育文化財団編 2001 『鳥取県教育文化財団調査報告書 72 一般国道 9 号改築工事（青谷・羽合道路）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ鳥取県気高郡青谷町 青谷上寺遺跡 3』
兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所編 1997 『兵庫県文化財調査報告第 165 冊 兵庫県加古川市 美乃利遺跡 一級河川別府川河川改良事業に伴う発掘調査報告書－』
兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所編 2006 『兵庫県文化財調査報告第 135-5 冊 神戸市西区 玉津田中遺跡－第 5 分冊－ 田中特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書－』

第5節 旧練兵場遺跡の弥生時代集落について

1. はじめに

今回の発掘調査では、当遺跡の主たる所属時期である弥生時代中期から古墳時代初頭の集落遺構を多数検出した。また、弥生前期から中期にかけての河川跡と、岸辺の土地利用が頻繁に行われるに合わせてそれが埋没し、集落微高地間の低地帯へ移行する過程がたどれるという、集落景観を検討するにあたり、貴重な調査事例が提示できた。

一方で、集落の継続期間が長期に及ぶことによる遺構の重複が激しく、発掘現場では調査が順調に進んだとは言えない部分もある。重複関係に苦悩した経緯は、記録として提示した遺構図の各所で不十分さが表れているかもしれない。

重複が顕著な遺跡では、むしろ重複関係から非同時性を確認することができるメリットがある。一方で、掘り形を削平され、柱穴のみ残す堅穴住居跡が当然存在するはずであり、柱穴を確認しながら、その所属を認定できないものについては、可能な範囲でその配置から堅穴住居跡の復元を試みたものの、まだ気づいていないものもある程度含まれているものと思われる。

しかしながら、要所で重複関係を確認したことに加え、整理業務においては、複数の専門職員で出土遺物や遺構形状の相互関係を確認しながら、各遺構の評価を策定したことにより、信頼度の高い遺構復元ができたものと考えている。

以下、ここで提示した土器編年に基づき、各時期の遺構分布を説明することとする。

2. 背景となる調査区内の微地形

今回調査を行った約4,000㎡の調査区は、緩やかに北に下降する傾斜をもつ。地盤は本文中で検討したように、扇状地起源の礫及びその凹凸を覆う黄色系シルトである。

今回の調査区の遺構検出面の南側は平坦な面として捉えられる。しかし断面の検討によって明らかのように、古代から中世にかけての耕地化によって形成された平坦面であり、弥生期の地表の起伏を示すものではない。むしろ、該期の包含層（耕作に伴う堆積層）の厚みに、場所によってバラツキがあることから、弥生期の起伏は、今我々が想定するよりさらに大きかったことが伺える。

参考となるのが、幅広い溝跡SD36、古代の低地遺構である。埋土のPO分析では、上部層にPOが検出された。SD36自体が水田耕作層ではないことが明らかとなった。溝跡の底面は平坦で、埋土は流水の痕跡はない。一方で、13世紀代に至って、溝跡に流水痕跡が目立ち、周辺が耕地化された可能性が高いといえる。

つまり、その段階で弥生期以来の起伏に対して、大規模な平坦化が進行したものと考えられる訳である。

< SR02 >

SR02の最下層では、縄文晩期後半の突帯文系土器が出土した。しかし、下層以上の堆積層と同じ由来の河川跡かどうかは定かでない。少なくとも、弥生中期後半期に集落の大規模な営みが開始する時期に、比高差1.0 m以上の河川跡が存在したことは明らかである。

下層の堆積層中には中期後半古相～中相の土器が多く出土し、木製品や板状に加工されたヒノキ材が

出土した。注目すべき点は次の2点である。

① 蛇行部において、部分的に深い箇所があり、その周囲は矩形に整形した痕跡が認められる。そこから出土する土器は弥生中期後半古相・中相に限られる。それ以後の中期後半新相以後は、それを覆うような下から上への一方的な堆積で、遺物量も少ない。

② 主に南～東肩は、肩ラインに不規則なカーブが認められ、一部人工的に整形した痕跡がある。この不規則なラインは、後述する中期後半の遺構に近接しており、そのプランに連動して肩部が整形された可能性がある。

これらの2点は、自然形成された河川の一部に土木工事を施し、居住域に近接して水場を設ける手法である。

河川跡下層と最下層の層境が、明確な不整合面を呈することも、①の蛇行部における人工的な整形を補強する材料である。

高松市中間町の本郷遺跡では、幅5～7mで底場が平坦な断面逆台形状の溝跡を検出している。この溝跡は、周辺の微地形との照合により、河川跡に掘開されたことが明らかで、溝跡に近接して弥生後期後半から古墳時代初頭の集落が営まれる。特に溝の分岐点、即ち取水口に近接して竪穴住居を設けており、住居を集落の機能部に設けるあり方を示す。

SR02 蛇行部で矩形に整形された箇所も、近接して中期後半古相の掘立柱建物 SB16・17 が方向を揃えて存在しており、水場に関与する建物跡である可能性も考えられる。

一方で、中期後半新相に至ると、該期の遺構は、遺構数が減少した訳ではないのだが、SR02 近辺から一旦南あるいは東にずれることが判明している。つまり、SR02 に投棄された遺物が中期の後半新相に一旦少なくなる点は、居住遺構の平面的位置と連動していることが推測される。

これは、長期にわたり累積する当該遺跡では、居住地と廃棄場との関係性を考える上で、重要な視点である。

中期後半新段階新相はいわゆる中期末とされる時期である。中期末は、中期末～後期初頭と時期的に一括されることが多いように、後期初頭の土器の変化が、地域や遺跡によって一律ではないことから時期区分に歯切れの悪さが付きまとう。今回はこの時期を区分して提示しているが、後期として明確に位置づけられる土器は問題ないとしても、それらが中期末と時間的にどのような関係にあるのか、定かではない。

その意味で、中期後半新段階新相から後期前半古段階にかけて、SR02 周辺に居住遺構が移動することと、SR02 中層埋没後に掘開された SR02 上層溝の掘削が大きく関連している可能性は高いものと言える。

< SR02 上層溝 >

SR02 は中層が埋没した後も、当時の起伏を想定すると周辺と比べてかなり低い土地であったものと考えられる。上層溝は、SR02 の蛇行部より北側において、SR02 埋没後の最深部を東西方向に貫く溝跡である。中期後半新段階新相から後期前半古段階にかけて掘削されたものと推定される。溝内には大量の土器が投棄されており、その投棄は後期前半一杯続く。これらは北から南に向かって投棄された可能性が高く、平成7年度調査地、及び平成20年度調査地で検出した当該期の遺構が遺物投棄の主体であるものと推定する。

後期後半新相の遺物が少ない。これは上記の隣接調査区において、遺構がやや少なくなる時期に相当

するものである。丁度その調査区の北側の平成5年度調査区ではその時期から連続的に竪穴住居跡が営まれることが判明しており、ここでも遺構分布と廃棄場の土器の関係性が成立する。

終末期は再び大量な土器投棄が始まる。土器塚のように投棄された状態は近接して営まれる居住遺構の開始に連動する。

このような河川跡及び低地帯への土器投棄の状態を考えると、すでに削平されて不可視ながら、微高地各所に営まれる竪穴住居の廃絶後の窪地には、大量の土器投棄が行われた可能性が考えられ、古墳時代以後の微高地上の遺構埋土に多くの弥生土器が混在することも、竪穴住居跡周辺に大量の土器投棄が行われ、それが後世に混在した可能性が高いものと推定する。もちろん、SR02のように低地であれば集中的に投棄されたものと考えられるので、通常の竪穴住居跡窪み地に投棄される量と比べると、かなり多いものと考えられるが、河川跡に投棄される土器の時間的変遷と竪穴住居跡の変遷の関係性から導かれる直径約20mほどの生活圏が長期にわたって遺跡全体に広がっているとすると、廃棄物の量は想像を絶するものであったであろう。

少なくとも、古墳時代初頭まではこのSR02の廃棄場は継続して使用されたのである。

3. 各時期の遺構分布

<中期後半古段階>

SR02南肩付近に5本主柱の住居跡2棟（SH68・69）が約5m隔てて並存する。そのうちSH69の背後には、1間×7間の当該調査区で最大の掘立柱建物跡（SB10）が東西方向に建つ。規模は梁間柱間3.4m、桁方向の全長が16m、床面積54.4㎡である。さらにその背後に掘立柱建物跡2棟（SB03・06）が建つ。3棟の床面積の合計は84.2㎡となる。この3棟は、建物の方向性は異なるが、直径2～30mの範囲にまとまって分布し、互いに関連する建物群と判断できる。

一方、SH67の背後には、SB12～14・18という大小の4棟の掘立柱建物跡が建つ。中でもSB12は柱穴規模がSB10に匹敵するかそれを上回る規模を有す。4棟の合計床面積は75.3㎡で、上記のSB10等掘立柱建物跡の合計床面積に近似する。

なお、旧練兵場遺跡Iで報告したY区で検出した竪穴住居跡（SHy01）、掘立柱建物跡（SBBy04・05）はこの時期に所属するとすれば、上記の建物群のうち後者と一体となって存在するものである。

また、調査区南にSR01が蛇行して走行する。SR01は弥生時代前期前半に所属し、埋土上部では中期土器が少量出土している。中期後半古段階の遺構は、SR01の北肩からやや北にずれて営まれることから、中期ではまだ窪みが残っていた可能性が高い。

貴重品としては、SB10を構成する柱穴の柱抜き取り穴より、碧玉製管玉1点が出土している。細身の管玉で、研修棟調査区（第12次調査）で出土した管玉に似ている。いずれも弥生中期に属するもので、県内では最も古い部類に入る。

<中期後半中段階>

SR02南肩に竪穴住居跡SH67・70の2棟の住居跡が建てられる。前段階の住居と重複し、同規模で建て替えをしている。SH70の背後にはSB11・25・09・22が建つ。ただし、SB09と22は互いに近接しすぎており、同時並存は難しいので、時間的に細分することが必要である。SB09を含めた床面積合計は60.2㎡。一方、南側にはSB04・15・26が存在するSB26には、梁間柱穴間に貯蔵穴が素材する。



图 685 中期後半古段階



图 686 中期後半中段階



图 687 中期後半新段階古相



图 688 中期後半新段階新相



図 689 後期前半古段階

床面積合計は 50.7㎡である。

SB15 柱穴から銅鏃が出土しているが、これは本文中でも述べたように、後期以後の混在層で出土したものである。

この段階まで、SR02 と関連する住居跡や建物跡が存在し、SR02 への投棄遺物も多い。また、調査区南側の SR01 の河川域との遺構の重複がないことから、SR01 河川域は依然として微高地範囲に含まれないものと考えられる。

<中期後半新段階古相・中期後半新段階新相>

両時期の遺構は、SB08・09 との重複を除くと、重複する遺構が存在しない。したがって、時期差とするか並存と見るか、判断する根拠はない。ただ出土遺物の傾向から後者が新しいのは間違いなく、前段階から、あるいは次の段階へ連続的に遺構が構築され続けた事情を示すものであろう。遺構の説明としては、両者交えて説明を加える。この段階では SR02 はほぼ埋没し、少なくとも蛇行部南の河川域については微高地の一部に取り込まれつつあったことが、SH55 の位置から指摘できる。同様に、SP1909・1916 で示された遺構は、SH55 と同様に SR02 中層・上層を切り込んで営まれた遺構で、遺構埋土を検出できず、床面柱穴等のみ検出したものかもしれない。SH55 の周りには掘立柱建物跡 2 棟 (SB16・17) が存在する。同様に SH43 の周囲にも掘立柱建物跡 2 棟 (SB21・28) が、SD28 北側に想定される竪穴住居跡の周囲に掘立柱建物跡 2 棟 (SB09・24) が存在する。概ね、竪穴住居跡 1 棟につき、2 棟の掘立柱建物跡が組み合い、調査区内が大きく 3 つのグループに分けられる状況が復元できる。また、住居周溝等の溝跡の掘削が顕著となることもこの時期の特徴である。図上では後期前半古段階から SR02 上層溝を表現したが、溝の掘削時期はこの時期まで遡る可能性が高い。

<後期前半古段階>

この調査区では、見かけ上遺構数が減少する。竪穴住居跡は 2 棟 (SH31・49)、掘立柱建物跡は 2 棟 (SB20・11) がみられるのみで、調査区内に分散して存在する。一方、SR02 上層溝には大量にこの時期の遺物が投棄されている。それらの遺物は調査区外の北側から投棄されたものが多いことは間違いない。北側には、研修棟調査区 (第 12 次調査) や養護学校調査区 (第 26 次調査) において多数の遺構が検出されている。土器編年を前提とすれば、この時期の居住遺構は北側に主体が移動したようにも見える。

一方で、SH31 では中央土坑から朱精製容器が出土しており、出土遺物に特殊性が垣間見られる。また、遺構構築手法として竪穴住居跡を観察した場合、貼床によるベッド状遺構の構築を基調とする手法がこの時期に明確に捉えられるようになり、後期以降展開する住居形態が定着しつつある。ただ、個々にみるとまだ多様な床面形態もある。

<後期前半中段階>

竪穴住居跡が 10～20 m の間隔で調査区東側を中心に分布する。SH05 や SH07 はこの時期に相当する。住居中心から直径 10～12 m 円を描くと、高密度で分布する。

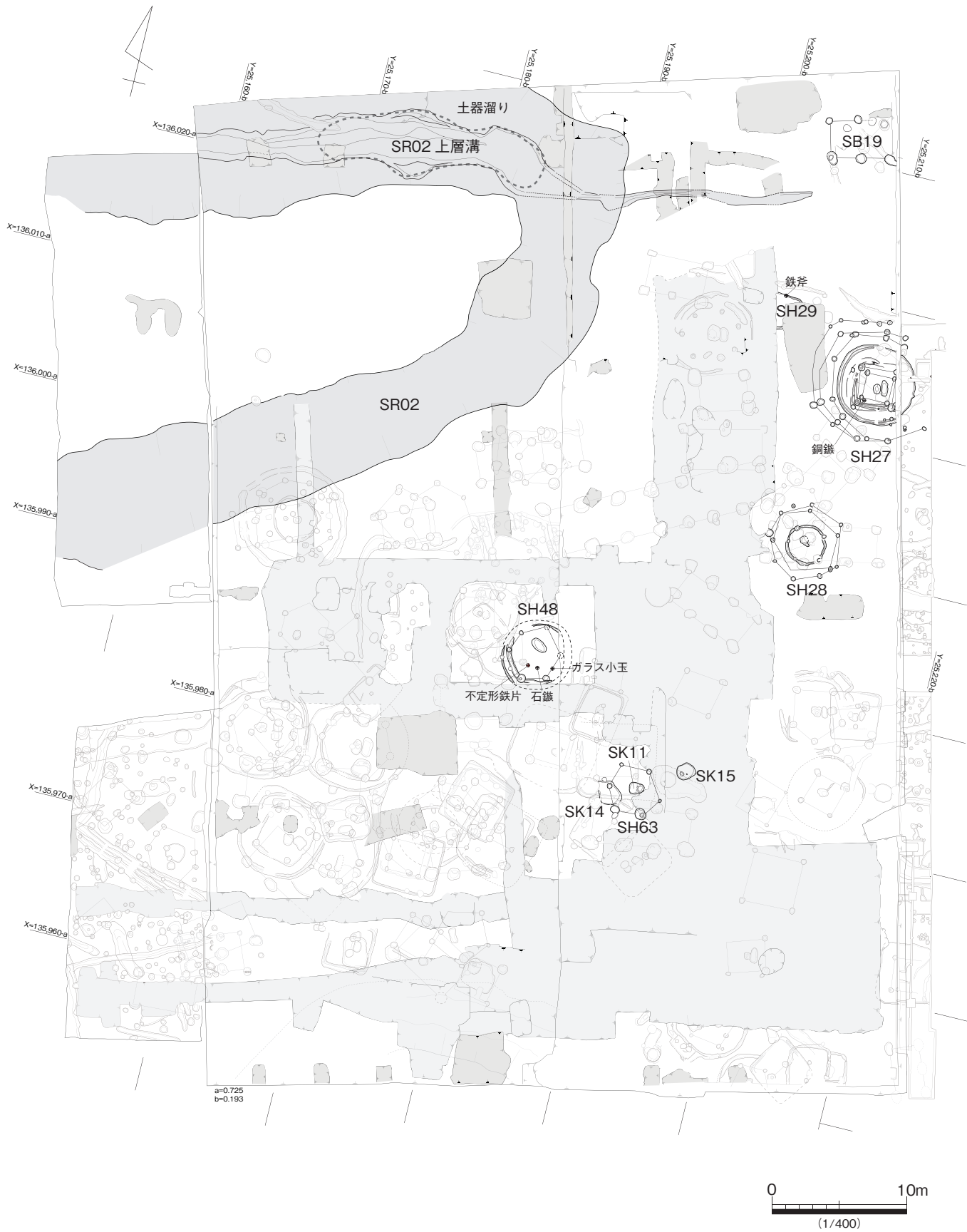


図 690 後期前半中段階

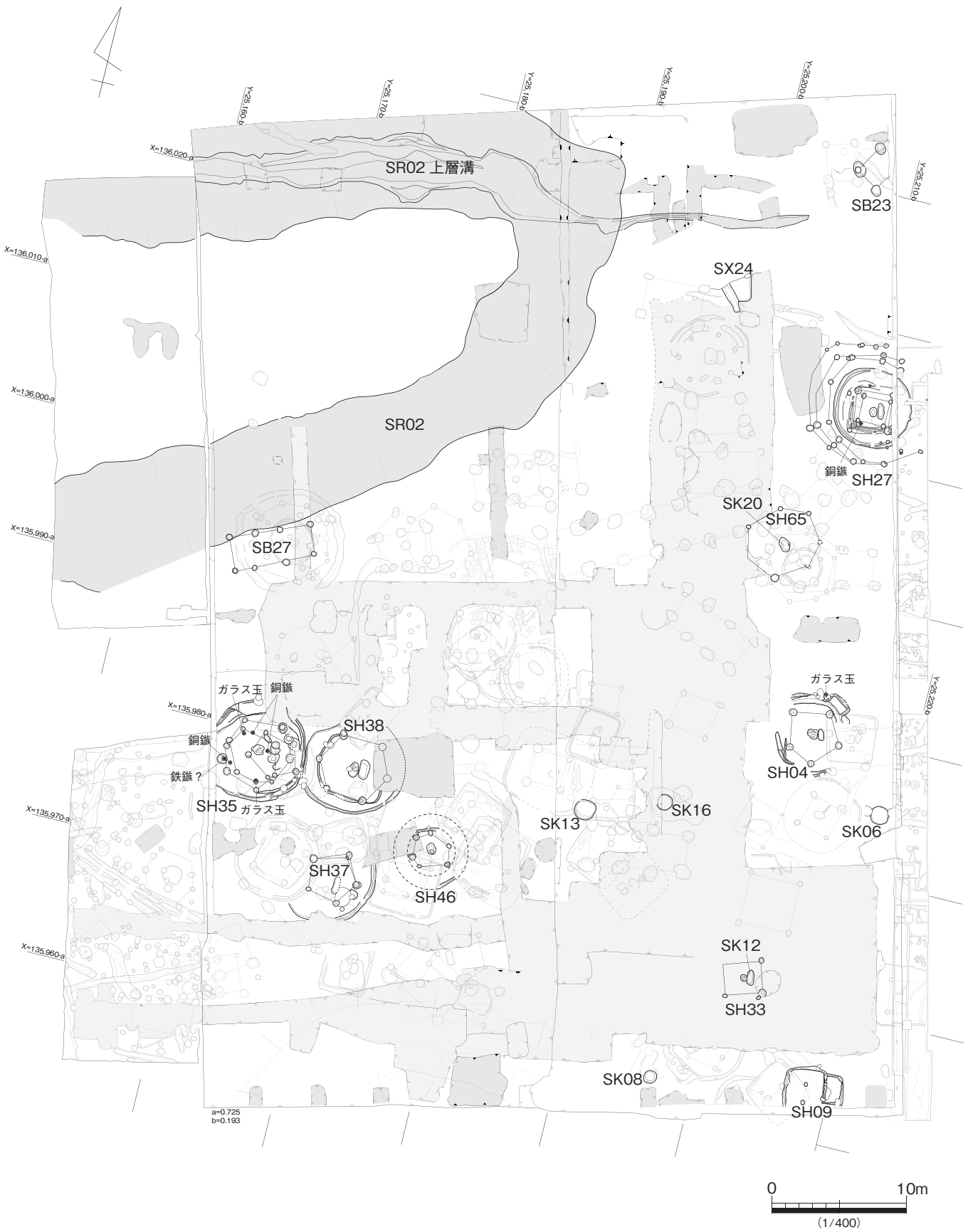


図 691 後期前半新段階

<後期前半新段階>

東側に分布したまとまりが、主に3箇所に分離する。中央部には貯蔵穴 SK13・16が存在する。配置から見て、共同機能をもつ遺構であったものと考え。ガラス玉や銅鏃等、貴重品がどちらの群からも出土する。

<後期後半古段階以後>

これ以後は、住居分布にパターンを読み取るのが困難である。たとえば、終末期中段階には調査区内にSH13しか存在しない。一方で後期後半古段階は密集しすぎているように見え、後期後半新段階の図は比較的まとまって、均質にみえる。終末期に至ると、SH39のような極めて小規模な住居跡であっても、掘り形周囲にベッド状遺構が存在し、さらにその外側に盛土による周堤を想定できるのであり、一定の住居領域を設定するのが妥当である。

また、この時期の表層は長期にわたる廃棄物堆積で覆われており、それを切って遺構が掘削されることから、遺構の所属時期は正確に捉えるのは難しいであろう。

この次期以後は、一旦報告した後、あらためて遺構論として再検討したい。

4. まとめ

遺構分布を中期から後期後半までたどった。以下、要点をまとめておく。

- ①弥生前期以来の河川等による微地形によって、中期後半古中段階は、調査区内の遺構立地箇所が限定される。
- ②中期後半古中段階では、住居跡1棟に対して3～4棟の掘立柱建物跡が付随し、2～3の群に分けられる。
- ③中期後半新段階では、住居跡1棟に対して2～3棟の掘立柱建物跡が付随し、調査区内で3群に分けられる。また、住居周溝跡を含めて、溝を掘開し始める。
- ④後期前半古段階は遺構数がやや少なく、掘立柱建物跡が急に少なくなる。
- ⑤後期前半中・新段階では堅穴住居跡3棟程度で構成されるまとまりが、調査区内に2～3群存在し、複数の単位間で貯蔵穴や井戸状遺構を共有する。
- ⑥後期前半新段階以後は銅鏃・玉類等の貴重品類が多数出土する。
- ⑦後期後半古段階は住居間が近接し、調査区南西側にまとまって分布する。
- ⑧終末期は方形プランの小型の堅穴住居跡が中心だが、周堤等を考慮して住居の構造物範囲を捉える必要もあり、時期的変遷の再検討を要する。

この調査区では、後期前半古段階において、遺構が少なくなる現象があるが、全体的には連綿と人々が生活し続けている状況が明らかである。今後、近隣地調査や報告書の刊行が進むに及び、さらに広域に検討することにより、具体的な遺構分布および今回検討した結果の補強や補正が可能となる。(森下)

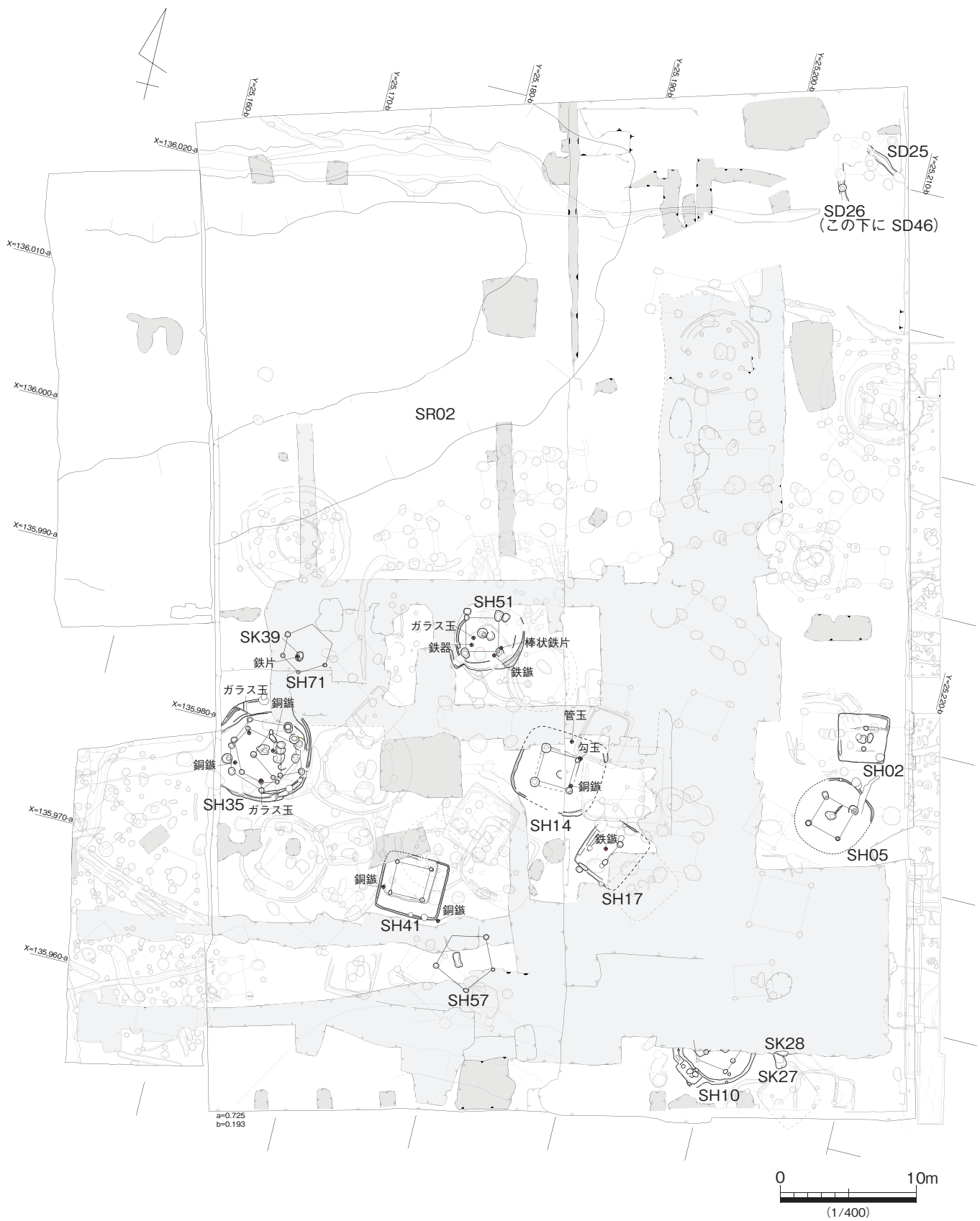


図 692 後期後半古段階



図 693 後期後半新段階



図 694 終末期古段階



図 695 終末期中段階



図 696 終末期新段階



図 697 古墳前期古段階

第6節 古代・中世の景観

第3章、第5節の項で述べたように、当該期の遺構には掘立柱建物跡、溝状遺構、土坑、性格不明遺構がみられた。ここではそのうちの溝状遺構と掘立柱建物跡に焦点を当てて古代～中世の景観を復元してみる。溝状遺構と掘立柱建物跡は検出した数が多いことのみならず、この両遺構は直線的な形状を取るものが多く、方向性を有する遺構でもある。当該期には条里制に代表される土地区割りがなされており、両遺構の示す方向はその影響を多に反映していると考えられるためである。

今回報告した調査区における溝状遺構と掘立柱建物跡は、その方向によって5つのグループにまとめることが可能である（表58参照）。

[グループ①]

概ね「正方位」（註1）に合致するものである。

溝状遺構は調査区の中央部付近から南半部にかけて分布しており、東西方向のものが大半を占めている。SD10・16・24はそれに直交しており、南北方向を示すものも認められる。また、後述するグループ⑤の溝状遺構と連続するものも一部に含まれている。これらはSD43を除いた残り全てが7～8世紀代に集中する傾向がみられる。一部の溝状遺構には重なり合っているものもあることから、7～8世紀代の中で溝状遺構が作り変えられたことがわかる。

掘立柱建物跡は調査区中央の溝状遺構以南にみられ、調査区中央西側に3棟、南西隅付近に1棟、南東隅付近に1棟と分散するようである。出土遺物が少ないため時代を推定できる建物はSB39（7～8世紀代）しかないが、溝状遺構と同じ「正方位」を指向していることから、溝状遺構の年代の7～8世紀代と同時期の可能性が高いと考えられる。ただし、溝状遺構と重なる建物もみられることから、全ての建物が同時並存したものではないと考えられる。

[グループ②]

概ね条里地割の方向に合致するものである。

溝状遺構は丸亀平野で確認されている条里地割の方向（N 30° W）と合致する（±5°）もの、ほぼ合致する（±6～12°）ものでさらに細分することも可能だが、検出長が短かったり幅の一定しない溝状遺構等方向を判断しづらいものも含まれるため、誤差の範囲と判断して1つのグループにまとめた。調査区ほぼ全体に分布しているが、中央部付近で数多くを検出している。年代は、7～13世紀代にかけてのものとみられるが、7～8世紀代のは少なく、中心となるのは11～13世紀代のものである。調査区北半部の特に西壁付近では複数の溝状遺構が重なり合っていることから、この付近で埋没と溝掘りを繰り返したことが窺え、位置の固定が計られた溝状遺構も存在したらしい。また、調査区中央部で約1m間隔で並走する複数の溝状遺構群は、水路というより、畝溝等の農耕に関するものと思われる。

掘立柱建物跡は調査区南半部に7棟が散在している。一部の建物は重なり合っており、時期差があることがわかるが、遺物の僅少さから個別の建物の時期決定は困難である。柱の直径に対してかなり大型の柱穴掘形を有するもの（SB01・40・41・42・44）は古代の建物である可能性が高いことから、古代の集落の一部を含むものと考えられる。

[グループ③]

「正方位」にも条里地割方向にも合致しない、その他の方向（N 73～75°W）でまとめられるものである。調査区南西隅付近で検出した溝状遺構3条があるだけで、掘立柱建物跡は認められない。7世紀代に位置づけられる溝状遺構である。グループ①の「正方位」とは少し角度の差があるが、誤差の範囲ととらえることも不可能ではなく、その場合もグループ①の年代に収まるものであることから、グループ①に含めてもいいかもしれない。

[グループ④]

その他の方向（N 15～20°W）でまとめられるものである。

遺構の数は少なく、溝状遺構は2条（SD53・71）、掘立柱建物跡は2棟（SB02・43）があるのみである。年代はSD71が11～13世紀代、SD53は近世、SB02・43は古代の可能性はある。

[グループ⑤]

弧を描いたり、屈曲したりして特定の方向性を持たない溝状遺構のみをまとめたグループである。調査区をさらに小分けして調査したために、他の方向を持つ（グループ①～④に属する）溝状遺構の一部も含んでいる（註2）。他グループとつながらないものとしては、調査区北端付近で並行するSD24・31、調査区南西隅付近のSD113、調査区北西隅やや南のSD128の4条がみられるのみで、いずれも7世紀代のものである。

以上見てきたように、溝状遺構と掘立柱建物跡は、方向に着目した場合、5つのグループにまとめることができた。グループ③・④・⑤は極めて少なく、グループ①・②が主流となっていることがわかる。

各グループの先後関係について7～8世紀代の遺構に注目してみたい。グループ①内ではこの期間中に溝状遺構が作り変えられたことは先に述べた。詳しく見ると、グループ⑤と連続するやや幅広の溝状遺構（SD18・83・108・80・67とSD93・128）2条が埋没した後に、幅の狭い直線の溝状遺構（SD44とSD92）2条が掘られている。グループ②との関係では、SD18（グループ①）が埋没した後にSD03（グループ②）が掘られている。このことから、グループ①（グループ⑤とつながるもの→直線的なもの）→グループ②という変遷が推定できる。換言すれば、「正方位」を意識しながらも一部が曲がるようなややルーズなものから、直線的でより厳密な「正方位」へと変化し、さらに条里地割方向へと転換したととらえることができる。また、グループ③との関係では、SD114（グループ③）の埋没後に掘立柱建物跡SB39（グループ①）が建てられており、グループ③はグループ①に先行する可能性が高い。さらにグループ③と⑤の関係では、SD113（グループ⑤）の埋没後にSD114（グループ③）が築かれており、グループ⑤の一部はグループ③に先行するものと含むとみられる。グループ⑤のうち、SD24・31の2条はほぼ並行して弧を描いており、同時並存するものと考えられる。SD24の埋没後にグループ②のSD125が築かれており、グループ②はグループ⑤より後出することがわかる（註3）。グループ④については、遺構が僅少で、かつ時期差が大きくイレギュラー的な可能性が高い。しかし、総柱構造を持つ掘立柱建物跡SB02が含まれており、今後の調査における類例の有無・増加を待つて判断したい。

以上の検討をまとめると、グループ⑤の一部とグループ③→グループ①（グループ⑤とつながるもの→直線的なもの）→グループ②という方向の変化のモデルが想定できるのである。

この流れを踏まえて、時代ごとに遺跡の変遷を追う。

飛鳥時代～奈良時代

調査区北半付近の埋積の進む低地帯には弧を描きながら並走する2条の溝状遺構が、調査区南半の微高地上では北半に一部が緩やかに曲がる「正方位」方向の溝状遺構、南半にその他の方向を持つ小規模な溝状遺構が築かれる。微高地上には「正方位」方向を取る掘立柱建物跡を含んだ多数の柱穴が存在している。

北半の溝状遺構は6世紀代の遺物も含んでおり、古墳時代後期から続く溝状遺構である可能性が高い。微高地北半の溝状遺構は西半で緩く曲がっているが、その方向は前代の埋没した自然河川の方角とおおむね合致しており、自然地形に沿わせたものと思われる。微高地と低地帯の境目付近に立地しており、利水・区画を兼ねた溝状遺構の可能性がある。この溝状遺構の埋没後には、規模は小さくなるが約8m間隔で並走する「正方位」方向の直線的な溝状遺構が築かれており、調査区を東西に横切る。どちらも途中で途切れているため、調査区外まで続くか不明だが、道路遺構の側溝に該当する可能性を有している。微高地中央部にも同じ方向の溝状遺構が認められることから、「正方位」方向を指向した地割が当該地に施されたものと判断される。掘立柱建物跡もこの地割の規制を受けて同方向を有しているであろう。これらの溝状遺構は7世紀代のうちに廃絶しているようで、「正方位」地割は7世紀代の短期間であったことが推測される。

「正方位」地割方向を取る遺構の埋没後、条里地割方向の溝状遺構が築かれる。調査区南東隅から北西へ向かう数条の溝状遺構群がそれであり、8世紀代の遺物が見られることから、当該地における条里地割の出現は奈良時代になる可能性を示す。微高地上には条里地割方向の掘立柱建物跡が見られるが、時期の特定が困難ではあるものの、当該期のもも含まれる可能性があり、微高地上は引き続き居住域として土地利用されたことがわかる。

平安時代前期

低地帯の埋積はほぼ終了し、当該地全体の平坦化がさらに進んだものとみられる。前代に引き続き、条里地割方向の溝状遺構と掘立柱建物跡を含んだ柱穴群がみられる。前代に見られた調査区南東隅から北西へ向かう数条の溝状遺構群はすぐ西隣へ場所を移して築かれており、この付近が例えば坪界のように何らかの意味を持つ場所であった可能性がある。この溝状遺構に直交する溝SD17は旧練兵場遺跡報告書Iで報告された坪界溝の延長に当たり、当該期の遺物もみられることから当該期に築かれた可能性がある。溝状遺構の多くは次の時期まで継続して使われるものがあり、基本的に前代からの地割を踏襲していることがうかがえる。条里地割方向の掘立柱建物跡を含んだ柱穴群は広く分布しており、当該期も居住域としての土地利用は前代から引き継がれているようである。条里地割とは異なる方向を有する掘立柱建物跡SB02（グループ④）は当該期に属する可能性があり、その特異性が際立つが、今後の調査を含めて再検討する必要がある。

平安時代後期～鎌倉時代

溝状遺構はほとんどが条里地割方向を持つ直線的なもので、調査区北半の坪界溝SD14付近に集中してみられる。特に調査区西壁付近ではおおむね東西方向の溝状遺構群が密集している。この段階の溝状遺構はやや粗めの灰色系砂質土で埋まっているものが多く、その一部は坪界の可能性のあるおおむね南北方向の溝状遺構の最終埋土にもなっている。洪水等で運ばれた砂質土による埋没と掘り直しが繰り返

された結果であろうか。当該期に特徴的な溝状遺構として、おおむね南北方向を持ち等間隔で並ぶ溝状遺構群を調査区中央で検出している。水路というより畑作等の畝溝のような農耕に関連する溝状遺構の可能性が高い。前代までは居住域だった部分に当たり、当該期には土地利用が変化したことがうかがえる。

以上、今回の調査区における時代的な土地利用の変遷を概観した。そして、飛鳥時代～奈良時代において、「正方位」地割から条里地割へという遺構の方向の変化があったことが窺えた。このような土地の区画を伴った制度はある程度広域に及ぶのが通常であり、今後はその詳細な時期と範囲の検証が課題となる。その解明には、旧練兵場遺跡の既往の調査結果や善通寺市域、ひいては丸亀平野における発掘調査成果を遺跡単位（マクロ的）と平野全体（マクロ的）という両面からの検討が求められるのである。

（宮崎）

註1：正方位は現在の真北に合致する方向を指すものであり、当時にはその認識が存在したかどうかは定かではない。そのためここでは1つの方向を指向したという意味合いで用いることとし、たまたまその方向が現在の真北方向に合致しているということで「正方位」と表現する。

註2：SD67・83・108は同一の溝状遺構で、グループ①のSD83につながっている。SD33・99は同一のものでグループ②のSD17から分岐している。SD80もグループ①のSD18から分岐している。

註3：調査区北東隅付近の遺跡の重なりにおいて、グループ②のSD27がグループ⑤のSD24に先行していることがわかる。SD27は7世紀以前の溝状遺構と想定されることから、明らかに条里地割が施行される以前のものであり、偶然方向が条里地割の方向と一致したものと判断される。

グループ		方位	S D	S B
①	正方位	N 0° ± 6°	[05・12・15]、10、16、[18・83]、19、20、[21・44]、43、92、93、124	31、36、37、38、39
②	条里方向	N30° W ± 5°	01、02、03、14、17、35、36、37、38、[39・42]、[53・85・127]、60、61、62、70、72、76、77、78、79、84、101	01、30、35、40、41、42、44
		N30° W ± 6 ~ 12°	08、11、27、32、50、115、116、125	
③	その他A	N 73 ~ 75° W	114、117、119、122	
④	その他B	N 15 ~ 20° W	52、71、99	02、43
⑤	その他C	カーブ・クランク	24、31、33、[67・83・108]、80、113、128	

※ [] 内は連続するとみられる溝状遺構を示す

表 58 掘立柱建物跡と溝状遺構の方向による分類

揭載資料一覽表

報文番号	地区名	報告書番号	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
1	C区	SX36	弥生土器	広口壺	47	48				
2	C区	SX36	弥生土器	広口壺	47	48	133			
3	C区	SX36	弥生土器	広口壺	47	48	132			
4	C区	SX36	弥生土器	広口壺	47	48				
5	C区	SX36	弥生土器	広口壺	47	48				
6	C区	SX36	弥生土器	壺	47	48				
7	C区	SX36	弥生土器	壺	47	48				
8	C区	SX36	弥生土器	壺	47	48	132			
9	C区	SX36	弥生土器	壺	47	48	132			
10	C区	SX36	弥生土器	壺	47	48	132			
11	C区	SX36	弥生土器	壺	47	48				
12	C区	SX36	弥生土器	壺	47	48	132			
13	C区	SX36	弥生土器	壺	47	48	133			
14	C区	SX36	弥生土器	壺	48	48	132			突帯文系壺
15	C区	SX36	弥生土器	壺	47	48	132			
16	C区	SX36	弥生土器	壺	47	48	132			
17	C区	SX36	弥生土器	壺	47	48	132			
18	C区	SX36	弥生土器	壺	48	48				突帯文系壺
19	C区	SX36	弥生土器	壺	47	48				
20	C区	SX36	弥生土器	壺	47	48				底部焼成後穿孔
21	C区	SX36	弥生土器	壺蓋	48	48				
22	C区	SX36	石器	スクレイパー	48	49				
23	C区	SX36	石器	横状石核	49	49				
24	C区	SX36	石器	叩き石	49	49				
25	C区	SX36	石器	叩き石	49	49				
26	C区	SX37	弥生土器	壺	50	50				
27	D区	SK42	弥生土器	広口壺	50	51	133			
28	D区	SK42	弥生土器	広口壺	52	51	133			
29	D区	SK42	縄文土器	壺	50	51				
30	D区	SK42	弥生土器	壺	52	51	133			
31	D区	SK42	弥生土器	壺	52	51				
32	D区	SK42	弥生土器	壺	52	51				
33	D区	SK42	弥生土器	壺	52	51	133			
34	D区	SK42	弥生土器	壺	52	51				突帯文系壺
35	D区	SK42	弥生土器	壺	52	51				
36	D区	SK42	弥生土器	壺	52	51				
37	D区	SK42	弥生土器	鉢	52	51				
38	D区	SK42	弥生土器	鉢	52	51				
39	D区	SK42	弥生土器	蓋	52	51				
40	A区	SH01	弥生土器	広口壺	55	56				
41	A区	SH01	弥生土器	広口壺	55	56				
42	A区	SH01	土師器	広口壺	55	56				
43	A区	SH01	弥生土器	二重口縁壺	55	56				
44	A区	SH01	土師器	二重口縁壺	55	56				二重口縁
45	A区	SH01	土師器	縄文壺	55	56				他地域(吉備)
46	A区	SH01	弥生土器	壺	55	56				
47	A区	SH01	弥生土器	壺	55	56				
48	A区	SH01	弥生土器	壺	55	56				
49	A区	SH01	弥生土器	壺	55	56				
50	A区	SH01	弥生土器	鉢	55	56				
51	A区	SH01	弥生土器	高杯	55	56				
52	A区	SH01	土師器	高杯	55	56				
53	A区	SH01	弥生土器	高杯	55	56		赤色顔料の蛍光X線分析	394	他地域(備中)
54	A区	SH01	弥生土器	器台	55	56				赤彩
55	A区	SH01	土師器	鉢	55	56				
56	A区	SH01	鉄	鉄鏃	57	57	115.179			
57	A区	SH01	青銅	銅鏃	57	57				
58	A区	SH01	石器	石鏃	57	57				
59	A区	SH01	石器	礫石	57	57	119			被熱により赤変
60	A区	SH01	石器	礫石	57	57				
61	A区	SH02	弥生土器	広口壺	58	59	133			
62	A区	SH02	弥生土器	広口壺	58	59	133			
63	A区	SH02	弥生土器	広口壺	58	59				
64	A区	SH02	弥生土器	広口壺	58	59				
65	A区	SH02	弥生土器	壺	58	59	133			底部焼成後穿孔
66	A区	SH02	弥生土器	縄文壺	58	59				
67	A区	SH02	弥生土器	広口壺	58	59	134			
68	A区	SH02	弥生土器	壺	58	61				
69	A区	SH02	弥生土器	壺	58	61				
70	A区	SH02	弥生土器	壺	58	61				
71	A区	SH02	弥生土器	壺	58	61				
72	A区	SH02	弥生土器	壺	58	61	134			
73	A区	SH02	弥生土器	壺	58	61	134			
74	A区	SH02	弥生土器	壺	58	61	134			
75	A区	SH02	弥生土器	壺	58	61	134			
76	A区	SH02	弥生土器	壺	58	61	134			
77	A区	SH02	弥生土器	壺	58	61	134			
78	A区	SH02	弥生土器	壺	58	61				
79	A区	SH02	弥生土器	鉢	58	61				
80	A区	SH02	弥生土器	鉢	58	61	135			
81	A区	SH02	弥生土器	鉢	58	61				
82	A区	SH02	弥生土器	鉢	58	61				
83	A区	SH02	弥生土器	高杯	61	61				他地域(香瀬川下流域)
84	A区	SH02	石器	石鏃	58	62				
85	A区	SH02	石器	石鏃	58	62				
86	A区	SH02	石器	礫石	58	62				被熱によりやや赤変
87	A区	SH02	石器	礫石	58	62				
88	A区	SH02	石器	叩き石	60	62				
89	A区	SH04	弥生土器	広口壺	66	65	135			
90	A区	SH04	弥生土器	広口壺	66	65	135			
91	A区	SH04	弥生土器	広口壺	66	65	135			他地域(香瀬川下流域)
92	A区	SH04	土師器	小型丸底壺	66	65				
93	A区	SH04	弥生土器	磨口壺	66	65	135			
94	A区	SH04	弥生土器	壺	66	65				
95	A区	SH04	弥生土器	壺	66	65				
96	A区	SH04	弥生土器	壺	66	65	135			
97	A区	SH04	弥生土器	壺	66	65				
98	A区	SH04	弥生土器	壺	66	65				
99	A区	SH04	縄文土器	漆鉢	66	65				突帯文土器
100	A区	SH04	弥生土器	鉢	66	65	135			
101	A区	SH04	弥生土器	鉢	66	65	135			
102	A区	SH04	弥生土器	高杯	66	65	136			
103	A区	SH04	弥生土器	高杯	66	65				
104	A区	SH04	玉	ガラス小玉	66	65	116	ガラス玉の蛍光X線分析	411	
105	A区	SH04	石器	石鏃	66	65				

報告番号	地区名	報告遺構名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
106	A区	SH04	石器	石鏃	66	65	117			
107	A区	SH05	弥生土器	広口壺	66	67				
108	A区	SH05	弥生土器	甕	66	67				
109	A区	SH05	弥生土器	甕	66	67				
110	A区	SH05	弥生土器	高杯	66	67				
111	A区	SH05	石器	台石	66	68				
112	A区	SH06	弥生土器	甕	68	69				
113	A区	SH06	弥生土器	細頸壺	68	69				他地域(香東川下流域)
114	A区	SH06	弥生土器	甕	68	69	136			他地域(香東川下流域)
115	A区	SH06	弥生土器	甕	68	69				
116	A区	SH06	弥生土器	甕	68	69		赤色顔料の蛍光X線分析	394	他地域(香東川下流域)
117	A区	SH06	弥生土器	甕	68	69				
118	A区	SH06	弥生土器	鉢	68	69				
119	A区	SH06	弥生土器	高杯	68	69				
120	A区	SH06	弥生土器	鉢	68	69	136			
121	A区	SH06	弥生土器	鉢	70	69	136			
122	A区	SH06	弥生土器	鉢	70	69	136			
123	A区	SH06	玉	ガラス玉	70	69		ガラス玉の蛍光X線分析	411	
124	A区	SH06	石器	楕状石核	70	69				打製石胞丁転用
125	A区	SH06	石器	砥石	70	69	120			
126	A区	SH07	弥生土器	広口壺	71	72				
127	A区	SH07	弥生土器	甕	71	72				
128	A区	SH07	弥生土器	甕	71	72				
129	A区	SH07	弥生土器	高杯	71	72				
130	A区	SH07	弥生土器	高杯	71	72				
131	A区	SH07	弥生土器	器台	71	72				
132	A区	SH07	鉄	鉄鏃	71	72	115,179			
133	A区	SH07	石器	打製石胞丁	71	72				打製石胞丁の可能性
134	A区	SH09	弥生土器	細頸壺	73	76				
135	A区	SH09	弥生土器	長頸壺	73	76				
136	A区	SH09	弥生土器	甕	73	76				
137	A区	SH09	弥生土器	甕	73	76				
138	A区	SH09	弥生土器	甕	73	76				
139	A区	SH09	弥生土器	甕	73	76				
140	A区	SH09	弥生土器	甕	73	76				
141	A区	SH09	弥生土器	甕	73	76				
142	A区	SH09	弥生土器	無頸壺	73	76		赤色顔料の蛍光X線分析	394	
143	A区	SH09	弥生土器	甕	73	76	136			
144	A区	SH09	弥生土器	鉢	73	76	136			
145	A区	SH09	弥生土器	鉢	73	76				
146	A区	SH09	弥生土器	鉢	73	76				
147	A区	SH09	弥生土器	鉢	73	76				
148	A区	SH09	弥生土器	鉢	73	76	136			
149	A区	SH09	弥生土器	鉢	73	76				
150	A区	SH09	弥生土器	鉢	76	136				
151	A区	SH09	弥生土器	甕	76	76				
152	A区	SH09	弥生土器	裝飾高杯	73	77				
153	A区	SH09	弥生土器	高杯	77	77				
154	A区	SH09	弥生土器	高杯	73	77				
155	A区	SH09	弥生土器	高杯	73	77				
156	A区	SH09	弥生土器	高杯	77	77				
157	A区	SH09	弥生土器	高杯	77	77				
158	A区	SH09	弥生土器	高杯	77	137				
159	A区	SH09	弥生土器	高杯	73	77	137			
160	A区	SH09	弥生土器	器台?	73	77				
161	A区	SH09	弥生土器	台付鉢?	73	77				
162	A区	SH09	弥生土器	支脚	73	77				
163	A区	SH09	弥生土器	支脚	73	77				
164	A区	SH09	弥生土器	支脚	73	77				
165	A区	SH09	弥生土器	器台	73	77				
166	A区	SH09	弥生土器	器台	73	77				
167	A区	SH09	鉄	ヤリガンナ?	77	179				
168	A区	SH09	石器	石鏃	73	77	117			
169	A区	SH09	石器	扁平片刃石斧	73	77				
170	A区	SH10	弥生土器	甕	78	79				
171	A区	SH10	弥生土器	甕	78	79				
172	A区	SH10	弥生土器	甕	78	79				
173	A区	SH10	弥生土器	甕	78	79				
174	A区	SH10	弥生土器	甕	78	79				
175	A区	SH10	弥生土器	高杯	78	79				
176	A区	SH10	弥生土器	支脚?	78	79				
177	A区	SH10	弥生土器	支脚	78	79	137			
178	A区	SH10	弥生土器	甕	78	79				
179	A区	SH10	石器	石鏃	78	80	117			
180	A区	SH10	石器	砥石	78	80	122			
181	A区	SH13	弥生土器	広口壺	82	81				
182	A区	SH13	弥生土器	高杯	82	81				
183	A区	SH13	弥生土器	鉢	82	81				
184	A区	SH13	弥生土器	鉢	82	81				
185	A区	SH13	弥生土器	甕	82	81				
186	A区	SH13	弥生土器	鉢	82	81				
187	A区	SH13	弥生土器	甕	82	81				
188	A区	SH13	鉄	不明	82	81				
189	A区	SH13	石器	石鏃	82	81	118			石鏃の可能性
190	A区	SH13	石器	砥石	82	81	119			
191	A区	SH13	石器	磨石	82	81				
192	A区	SH13	石器	台石(支脚)	82	81				
193	C区	SH14	弥生土器	複合口縁壺	84	83				他地域(西部瀬戸内)
194	A区	SH14	弥生土器	広口壺	84	83				
195	C区	SH14	弥生土器	甕	84	83				
196	C区	SH14	弥生土器	甕	84	83				
197	A区	SH14	弥生土器	甕	84	83				
198	A区	SH14	弥生土器	甕	84	83				
199	C区	SH14	弥生土器	甕	84	83				
200	C区	SH14	弥生土器	甕	84	83				
201	C区	SH14	弥生土器	鉢	84	83	137			
202	A区	SH14	弥生土器	鉢	84	83				
203	C区	SH14	弥生土器	鉢	84	83				
204	C区	SH14	弥生土器	高杯	84	83				
205	C区	SH14	弥生土器	器台	84	83				
206	A区	SH14	青銅	銅鏃	84	85		青銅器鉛同位体比分析	274	
207	A区	SH14	玉	碧玉	84	85	116			
208	A区	SH14	玉	勾玉	84	85	116			
209	C区	SH14	石器	石鏃	84	85				
210	A区	SH14	石器	石鏃	84	85				

報文番号	地区名	報告書番号	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
211	C区	SH14	石類	楕状石核		85				
212	C区	SH14	石類	石類		85				
213	A区	SH15	弥生土器	鉢	87	86				
214	A区	SH15	弥生土器	甕	87	86				他地域(香東川下流域)
215	A区	SH15	弥生土器	甕	87	86				
216	A区	SH15	弥生土器	甕		86				
217	A区	SH15	弥生土器	鉢	87	86				
218	A区	SH15	弥生土器	鉢	87	86				
219	A区	SH15	弥生土器	鉢	87	86				
220	A区	SH15	弥生土器	鉢	87	86				
221	A区	SH15	弥生土器	鉢	87	86				
222	A区	SH15	弥生土器	鉢	87	86				
223	A区	SH15	弥生土器	鉢	87	86	137			
224	A区	SH15	弥生土器	鉢	87	86		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料 赤彩(水鏡末)
225	A区	SH15	弥生土器	鉢	87	86	137			
226	A区	SH15	弥生土器	鉢	87	86	137			
227	A区	SH15	弥生土器	鉢	87	86				
228	A区	SH15	弥生土器	鉢	87	86				
229	A区	SH15	弥生土器	鉢		86				
230	A区	SH15	弥生土器	鉢		86	137			
231	A区	SH15	弥生土器	鉢		86				
232	A区	SH15	弥生土器	鉢		86				
233	A区	SH15	石類	磨石(即せ石)		86				
234	A区	SH16	玉	ガラス小玉	87	88	116	ガラス玉の蛍光X線分析	411	
235	A区	SH16	玉	ガラス小玉	87	88	116	ガラス玉の蛍光X線分析	411	
236	A区	SH16	玉	ガラス小玉	87	88	116	ガラス玉の蛍光X線分析	411	
237	A区	SH17	弥生土器	広口壺	91	90				
238	A区	SH17	弥生土器	壺	91	90				
239	A区	SH17	弥生土器	甕	91	90				
240	A区	SH17	弥生土器	甕	91	90				
241	A区	SH17	弥生土器	甕	91	90				他地域(香東川下流域)
242	A区	SH17	弥生土器	鉢	91	90				
243	A区	SH17	弥生土器	鉢	91	90				
244	A区	SH17	弥生土器	甕	91	90				
245	A区	SH17	弥生土器	甕	91	90				
246	A区	SH17	弥生土器	鉢	91	90				
247	A区	SH17	弥生土器	高杯	91	90				
248	A区	SH17	弥生土器	高杯	91	90				
249	A区	SH17	弥生土器	台鉢	91	90				
250	A区	SH17	土師器	移動式甕	91	90	138			
251	A区	SH17	鉄	鉄鏝	91	90	116	鉄製品及び鋳造関連資料の構造分析	303	
252	A区	SH18	弥生土器	広口壺	92	92				
253	A区	SH18	弥生土器	甕	92	92				
254	A区	SH18	弥生土器	甕	92	92				
255	A区	SH18	弥生土器	鉢	92	92				
256	B区	SH27	弥生土器	複合口縁壺	98	96				
257	B区	SH27	弥生土器	長頸壺	98	96				
258	B区	SH27	弥生土器	壺		96				
259	B区	SH27	弥生土器	広口壺	98	96	138			他地域(阿波)
260	B区	SH27	弥生土器	甕	98	96	138			他地域(備後)
261	B区	SH27	弥生土器	壺	98	96				
262	B区	SH27	弥生土器	甕	98	96				
263	B区	SH27	弥生土器	甕	98	96				
264	B区	SH27	弥生土器	甕	98	96				
265	B区	SH27	弥生土器	甕	98	96				
266	B区	SH27	弥生土器	鉢	98	97				
267	B区	SH27	弥生土器	台付鉢	98	97	138			
268	B区	SH27	弥生土器	鉢	98	97				
269	B区	SH27	弥生土器	鉢	98	97				
270	B区	SH27	弥生土器	甕	98	97				
271	B区	SH27	弥生土器	高杯		97				
272	B区	SH27	弥生土器	高杯	98	97				
273	B区	SH27	弥生土器	高杯	98	97				
274	B区	SH27	弥生土器	高杯	98	97				
275	B区	SH27	弥生土器	高杯	98	97				赤彩
276	B区	SH27	弥生土器	高杯	98	97		赤色顔料の蛍光X線分析	394	他地域(備中)外面に赤色顔料 赤彩
277	B区	SH27	弥生土器	高杯		97				
278	B区	SH27	弥生土器	支脚	98	97	138			
279	B区	SH27	弥生土器	有孔鉢	98	97				
280	B区	SH27	鉄	鉄鏝	98	97				
281	B区	SH27	鉄	鉄鏝?	98	97	116	鉄製品及び鋳造関連資料の構造分析	303	
282	B区	SH27	青銅	銅鏝	98	97		青銅鏝約同位体比分析	274	
283	B区	SH27	玉	ガラス小玉	98	97	116	ガラス玉の蛍光X線分析	411	
284	B区	SH27	石類	石類	99	97	117			
285	B区	SH27	石類	石類	99	97	117			
286	B区	SH27	石類	石類		97				
287	B区	SH27	石類	即せ石	99	97	130			若黒島
288	B区	SH27	石類	即せ石	99	98				
289	B区	SH28	弥生土器	短頸広口壺	99	101				
290	B区	SH28	弥生土器	無頸壺	99	101				
291	B区	SH28	弥生土器	壺	99	101				
292	B区	SH28	弥生土器	甕	99	101				
293	B区	SH28	弥生土器	支脚?	99	101				
294	B区	SH28	弥生土器	高杯	99	101				
295	B区	SH28	石類	石類	101	101				
296	B区	SH28	石類	石類	101	101	117			
297	B区	SH28	石類	石類	101	101	117			
298	B区	SH28	石類	スクレイパー		101				
299	B区	SH28	石類	礫石	102	101	122			初期段階の礫石
300	B区	SH28	石類	石彫丁		101				
301	B区	SH28	石類	礫石	102	101				
302	B区	SH28	石類	柱状片牙石屑		101				
303	B区	SH28	石類	即せ石	101	101	130			
304	B区	SH29	弥生土器	短頸壺	102	103				
305	B区	SH29	弥生土器	壺	102	103				
306	B区	SH29	弥生土器	壺	102	103				
307	B区	SH29	弥生土器	壺	102	103	138			
308	B区	SH29	弥生土器	長頸壺	102	103				他地域(吉備)
309	B区	SH29	弥生土器	壺	102	103	138			
310	B区	SH29	弥生土器	長頸壺	102	103				外面に記号紋
311	B区	SH29	弥生土器	壺	102	103				
312	B区	SH29	弥生土器	壺	102	103				
313	B区	SH29	弥生土器	短頸広口壺	102	103				
314	B区	SH29	弥生土器	壺	102	103				
315	B区	SH29	弥生土器	壺	102	104				

報告番号	地区名	報告番号	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
316	B区	SH29	弥生土器	甕	102	104				
317	B区	SH29	弥生土器	甕	102	104				
318	B区	SH29	弥生土器	甕		104				外面に記号紋
319	B区	SH29	弥生土器	甕	102	104				
320	B区	SH29	弥生土器	甕	102	104				
321	B区	SH29	弥生土器	甕	102	104				
322	B区	SH29	弥生土器	台付鉢	102	104	139			
323	B区	SH29	弥生土器	手づく鉢	102	104				
324	B区	SH29	弥生土器	鉢		104				
325	B区	SH29	弥生土器	高杯	102	104				
326	B区	SH29	弥生土器	高杯	102	104				
327	B区	SH29	弥生土器	高杯	102	104				
328	B区	SH29	弥生土器	高杯		104				
329	B区	SH29	弥生土器	高杯	102	104				他地域(吉備)
330	B区	SH29	弥生土器	高杯	102	104	138			
331	B区	SH29	弥生土器	支脚	102	104				
332	B区	SH29	弥生土器	器台	102	104				
333	B区	SH29	鉄	袋状鉄片	102	104	115,116,180	鉄製品及び器台関連遺物の構造分析	303	
334	B区	SH29	石器	礫石	105	104	131			
335	B区	SH31	弥生土器	広口壺	105	108	139			他地域(土佐)
336	B区	SH31	弥生土器	長頸壺	105	108				
337	B区	SH31	弥生土器	壺	105	108				
338	B区	SH31	弥生土器	壺	105	108				
339	B区	SH31	弥生土器	壺	105	108				
340	B区	SH31	弥生土器	壺	105	108				
341	B区	SH31	弥生土器	壺	105	108				
342	B区	SH31	弥生土器	壺		108				
343	B区	SH31	弥生土器	壺	105	108	139			
344	B区	SH31	弥生土器	無頸壺	105	108	139			
345	B区	SH31	弥生土器	鉢	105	108				
346	B区	SH31	弥生土器	台付鉢	105	108	139			
347	B区	SH31	弥生土器	壺	105	108				
348	B区	SH31	弥生土器	壺	105	108				
349	B区	SH31	弥生土器	壺	105	108				
350	B区	SH31	弥生土器	鉢	105	108				
351	B区	SH31	弥生土器	高杯	105	108				
352	B区	SH31	弥生土器	壺		108				
353	B区	SH31	弥生土器	高杯	105	108				
354	B区	SH31	弥生土器	高杯	105	108				
355	B区	SH31	弥生土器	高杯	105	108				
356	B区	SH31	弥生土器	把手付片口壺	105	109	139	赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料 水銀朱
357	B区	SH31	石器	石鏃	111	109	117			
358	B区	SH31	石器	石鏃	111	109	117			
359	B区	SH31	石器	石鏃	111	109	117			
360	B区	SH31	石器	石鏃	111	109	117			
361	B区	SH31	石器	石鏃	111	109	117			
362	B区	SH31	石器	石鏃	111	109	117			
363	B区	SH31	石器	石鏃	111	109	117			
364	B区	SH31	石器	石刺	105	109	117			
365	B区	SH31	石器	打製石刃丁	111	109				
366	B区	SH31	石器	磨製石核	111	109				
367	B区	SH31	石器	石刃丁	111	110	127			
368	B区	SH31	石器	礫石	111	110	121			
369	A区	SH32	弥生土器	無頸壺	111	112				
370	A区	SH32	弥生土器	鉢	111	112				
371	A区	SH33	弥生土器	鉢	111	112				
372	A区	SH33	弥生土器	高杯	111	112				
373	A区	SH32	土師器	製塩土器	111	112				
374	C区	SH35	弥生土器	広口壺	114	118	140			
375	C区	SH35	弥生土器	広口壺	114	118				
376	C区	SH35	弥生土器	長頸壺	114	118				
377	C区	SH35	弥生土器	長頸壺	114	118				
378	C区	SH35	弥生土器	長頸壺	114	118	139			外面に記号紋
379	C区	SH35	弥生土器	甕	114	118				
380	C区	SH35	弥生土器	壺	114	118				外面に黒斑
381	C区	SH35	弥生土器	壺	114	118				他地域(土佐?)
382	C区	SH35	弥生土器	壺	114	118				他地域(吉備)
383	C区	SH35	弥生土器	甕	114	118				
384	C区	SH35	弥生土器	甕	114	118				
385	C区	SH35	弥生土器	甕	114	118				
386	C区	SH35	弥生土器	甕	114	118				
387	C区	SH35	弥生土器	甕	114	118	140			
388	C区	SH35	弥生土器	甕	114	118				
389	C区	SH35	弥生土器	甕		118				
390	C区	SH35	弥生土器	鉢	114	118				
391	C区	SH35	弥生土器	鉢	114	118				
392	C区	SH35	弥生土器	鉢	114	118				
393	C区	SH35	弥生土器	鉢	114	118	140			
394	C区	SH35	弥生土器	高杯	114	118				
395	C区	SH35	弥生土器	高杯	114	118				
396	C区	SH35	弥生土器	高杯	114	118				
397	C区	SH35	弥生土器	高杯	114	118				
398	C区	SH35	弥生土器	高杯	114	118				
399	C区	SH35	青銅	銅鏃	116	119		青銅鏃鉛同位体比分析	274	
400	C区	SH35	青銅	銅鏃	116	119		青銅鏃鉛同位体比分析	274	
401	C区	SH35	青銅	銅鏃	121	119		青銅鏃鉛同位体比分析	274	
402	C区	SH35	鉄	鉄鏃?	114	119	179			
403	C区	SH35	玉	ガラス小玉	119	118		ガラス玉の蛍光X線分析	411	
404	C区	SH35	玉	ガラス小玉	119	118		ガラス玉の蛍光X線分析	411	
405	C区	SH35	石器	石鏃	121	119	117			
406	C区	SH35	石器	石鏃	121	119	117			
407	C区	SH35	石器	石鏃	121	119				
408	C区	SH35	石器	石鏃	121	119	117			
409	C区	SH35	石器	磨製石刃丁	121	119				
410	C区	SH35	石器	磨製石核	121	119				
411	C区	SH35	石器	打製石刃丁	121	119				
412	C区	SH35	石器	打製石刃丁	121	119	123			
413	C区	SH35	石器	礫石	121	119	122			使用初期の礫石か
414	C区	SH35	石器	礫石	121	120	122			一部焼熱により赤変
415	C区	SH36	弥生土器	廣口壺	122	124				
416	C区	SH36	弥生土器	甕	122	124				
417	C区	SH36	弥生土器	甕	122	124				
418	C区	SH36	弥生土器	甕	122	124				
419	C区	SH36	弥生土器	甕	122	124				
420	C区	SH36	弥生土器	甕	122	124	140			

報文番号	地区名	報告書名	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
421	C区	SH36	弥生土器	鉢	122	124				
422	C区	SH36	弥生土器	鉢	122	124				
423	C区	SH36	弥生土器	鉢	122	124				
424	C区	SH36	弥生土器	鉢	122	124				
425	C区	SH36	弥生土器	壺	122	124				
426	C区	SH36	弥生土器	台付鉢	122	124				
427	C区	SH36	弥生土器	台付鉢		124				
428	C区	SH36	弥生土器	高杯		124				
429	C区	SH36	弥生土器	高杯	122	124				
430	C区	SH36	弥生土器	高杯	122	124				
431	C区	SH36	弥生土器	高杯	122	124				
432	C区	SH36	青銅	銅輪?	122	125				
433	C区	SH36	石鏡	石鏡	122	125				
434	C区	SH36	石鏡	板石	122	125				
435	C区	SH36	石鏡	叩き石	122	125	130			
436	C区	SH36	石鏡	板石	122	125				
437	C区	SH37	弥生土器	廣口壺	124	127				
438	C区	SH37	弥生土器	廣口壺	124	127				
439	C区	SH37	弥生土器	高杯	124	127				
440	C区	SH37	弥生土器	台付鉢	125	127				
441	C区	SH37	弥生土器	高杯	125	127				
442	C区	SH37	弥生土器	高杯	125	127				
443	C区	SH37	弥生土器	壺	125	127				
444	C区	SH38	弥生土器	廣口壺	126	129				
445	C区	SH38	弥生土器	壺	126	129				他地域(土佐?)、391と同一個体
446	C区	SH38	弥生土器	壺	126	129				
447	C区	SH38	弥生土器	壺		129				
448	C区	SH38	弥生土器	壺	126	129				
449	C区	SH38	弥生土器	壺	127	129		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料 赤彩(ペンガラ)
450	C区	SH38	弥生土器	廣口壺	127	129				他地域(土佐)
451	C区	SH38	弥生土器	廣口壺	127	129	140			
452	C区	SH38	弥生土器	廣口壺		129				
453	C区	SH38	弥生土器	壺	127	129				
454	C区	SH38	弥生土器	廣口壺	127	129				
455	C区	SH38	弥生土器	壺	127	129				
456	C区	SH38	弥生土器	壺	127	129				
457	C区	SH38	弥生土器	壺	127	129				
458	C区	SH38	弥生土器	壺	127	129				
459	C区	SH38	弥生土器	壺	127	129				
460	C区	SH38	弥生土器	壺	126	129				
461	C区	SH38	弥生土器	壺	127	129				
462	C区	SH38	弥生土器	壺	127	129				
463	C区	SH38	弥生土器	壺	127	129				
464	C区	SH38	弥生土器	壺	127	129				
465	C区	SH38	弥生土器	鉢	127	129				
466	C区	SH38	弥生土器	鉢	127	129				
467	C区	SH38	弥生土器	台付鉢	127	129				
468	C区	SH38	弥生土器	高杯	127	130				他地域(香東川下流域)
469	C区	SH38	弥生土器	高杯	127	130				
470	C区	SH38	弥生土器	高杯	127	130				
471	C区	SH38	弥生土器	高杯		130				
472	C区	SH38	弥生土器	高杯	127	130				他地域(香東川下流域)
473	C区	SH38	弥生土器	高杯	127	130				他地域(香東川下流域)
474	C区	SH39	鉄	ヤリソナ	127	130	115,116,179	鉄製品及び銅器関連資料の構造分析	303	
475	C区	SH39	石鏡	石鏡	127	130				
476	C区	SH39	石鏡	石鏡	127	130				
477	C区	SH39	石鏡	打製石器丁	127	130				
478	C区	SH39	石鏡	焼石	127	130	131			
479	C区	SH39	石鏡	板石	131	130	122			
480	C区	SH39	弥生土器	細頸壺	131	132				他地域(吉備)
481	C区	SH39	弥生土器	壺	131	132				
482	C区	SH39	弥生土器	壺	131	132				
483	C区	SH39	弥生土器	壺		132				
484	C区	SH39	弥生土器	壺	131	132				
485	C区	SH39	弥生土器	鉢	131	132				
486	C区	SH39	弥生土器	鉢	131	132				
487	C区	SH39	弥生土器	鉢	131	132				
488	C区	SH39	弥生土器	鉢	131	132				
489	C区	SH39	鉄	鉄鏝?	131	133				
490	C区	SH39	石鏡	板石	131	133	121			被熱により黒変
491	C区	SH39	石鏡	板石	131	133	119			
492	C区	SH40	弥生土器	壺	132	135				
493	C区	SH40	弥生土器	壺		135				
494	C区	SH40	弥生土器	壺	132	135				
495	C区	SH40	弥生土器	壺	132	135				
496	C区	SH40	弥生土器	鉢	132	135				
497	C区	SH40	弥生土器	鉢	132	135				
498	C区	SH40	弥生土器	鉢	134	135				
499	C区	SH40	弥生土器	高杯	134	135	140			
500	C区	SH40	石鏡	板石	134	136				
501	C区	SH40	石鏡	焼石	134	136	131			
502	C区	SH41	弥生土器	廣口壺	134	138				
503	C区	SH41	弥生土器	壺	134	138				
504	C区	SH41	弥生土器	壺	134	138				
505	C区	SH41	弥生土器	脚付壺	134	138	140			
506	C区	SH41	弥生土器	壺	134	138				
507	C区	SH41	弥生土器	壺	134	138				
508	C区	SH41	弥生土器	壺	134	138				
509	C区	SH41	弥生土器	壺	134	138				
510	C区	SH41	弥生土器	壺	134	138				
511	C区	SH41	弥生土器	壺	134	138				
512	C区	SH41	弥生土器	壺	134	138				
513	C区	SH41	弥生土器	鉢	134	138	140			
514	C区	SH41	弥生土器	鉢	134	138				
515	C区	SH41	弥生土器	鉢	134	138	140			
516	C区	SH41	弥生土器	鉢	134	138				
517	C区	SH41	弥生土器	甗台	134	138				
518	C区	SH41	埴輪陶器	甗	134	138				
519	C区	SH41	青銅	銅鏝	134	138		青銅器鉛同位体比分析	274	
520	C区	SH41	青銅	銅鏝	135	138		青銅器鉛同位体比分析	274	
521	C区	SH41	玉	玉	137	138				
522	C区	SH41	石鏡	石鏡	137	138				
523	C区	SH41	石鏡	石鏡	137	138	117			
524	C区	SH41	石鏡	石鏡		138	117			
525	C区	SH41	石鏡	台石	137	138	131			

報告番号	地区名	報告書名	種別	図種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
526	C区	SH41	石器	燧石	137	138	131			
527	C区	SH42	弥生土器	複合口縁壺	139	142		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料 赤彩(ペンガラ)
528	C区	SH42	弥生土器	複合口縁壺	139	142				
529	C区	SH42	弥生土器	壺	139	142	141			
530	C区	SH42	弥生土器	小型丸底壺	139	142	140			他地域(香東川下流域)
531	C区	SH42	弥生土器	広口壺	139	142	141			
532	C区	SH42	弥生土器	壺		142				
533	C区	SH42	弥生土器	壺	139	142				
534	C区	SH42	弥生土器	壺	139	142				
535	C区	SH42	弥生土器	壺	139	142				底部に焼成後穿孔
536	C区	SH42	弥生土器	鉢	139	142				
537	C区	SH42	弥生土器	鉢	139	142	141			
538	C区	SH42	弥生土器	鉢	139	142	141			
539	C区	SH42	弥生土器	鉢	139	142	141			
540	C区	SH42	弥生土器	鉢	139	142				
541	C区	SH42	弥生土器	鉢	139	142	141			
542	C区	SH42	弥生土器	鉢	139	142	141			
543	C区	SH42	弥生土器	鉢	139	142				
544	C区	SH42	弥生土器	鉢	139	142				
545	C区	SH42	弥生土器	鉢	139	142	141			
546	C区	SH42	弥生土器	鉢	139	142				
547	C区	SH42	弥生土器	支脚	139	142				
548	C区	SH42	弥生土器	鉢	139	142				
549	C区	SH42	青銅	銅線	139	142		青銅器鉛同位体比分析	274	
550	C区	SH42	鉄	鉄線?	139	142	116	鉄製品及び銅器関連資料の構造分析	303	
551	C区	SH42	石器	台石	140	143				
552	C区	SH42	石器	台石	140	143				
553	C区	SH43	弥生土器	短頸広口壺	144	145				
554	C区	SH43	弥生土器	壺	144	145				
555	C区	SH43	弥生土器	壺	144	145				
556	C区	SH43	弥生土器	壺	144	145				
557	C区	SH43	弥生土器	高杯		145				
558	C区	SH43	弥生土器	高杯	144	145				
559	C区	SH43	石器	摩滅ある剥片	144	145				打製石屑丁に転用か
560	C区	SH43	石器	楔状石核	144	145				
561	C区	SH44	弥生土器	広口壺	146	147	141			
562	C区	SH44	弥生土器	壺	146	147				
563	C区	SH44	弥生土器	広口壺	146	147				
564	C区	SH44	弥生土器	複合口縁壺	146	147				
565	C区	SH44	弥生土器	壺	146	147				
566	C区	SH44	弥生土器	壺	146	148	141			
567	C区	SH44	弥生土器	壺	146	148				
568	C区	SH44	弥生土器	壺	146	148				
569	C区	SH44	弥生土器	壺	146	148				
570	C区	SH44	弥生土器	壺	146	148				
571	C区	SH44	弥生土器	壺	146	148				
572	C区	SH44	弥生土器	鉢	146	148	142			スリップ
573	C区	SH44	弥生土器	鉢	146	148	142			
574	C区	SH44	弥生土器	鉢	146	148				
575	C区	SH44	弥生土器	鉢	146	148	142			
576	C区	SH44	弥生土器	鉢	146	148				
577	C区	SH44	弥生土器	鉢	146	148	142			
578	C区	SH44	弥生土器	鉢	146	148				
579	C区	SH44	弥生土器	鉢	146	148				
580	C区	SH44	弥生土器	台付鉢	146	148				
581	C区	SH44	弥生土器	高杯	146	148				
582	C区	SH44	弥生土器	高杯	146	148				
583	C区	SH44	青銅	銅線	146	148		青銅器鉛同位体比分析	274	
584	C区	SH44	青銅	銅線	146	148		青銅器鉛同位体比分析	274	
585	C区	SH44	石器	石線	146	148				片端欠損
586	C区	SH44	石器	石線	146	148				
587	C区	SH44	石器	石線	149	148				
588	C区	SH44	石器	石線	149	148				
589	C区	SH44	石器	石線	149	148	117			
590	C区	SH44	石器	楔状石核	149	148				
591	C区	SH44	石器	石屑丁	149	148	127			
592	C区	SH46	弥生土器	壺	149	150				
593	C区	SH46	弥生土器	壺	149	150				
594	C区	SH46	弥生土器	壺	149	150				
595	C区	SH46	弥生土器	鉢	149	150				
596	C区	SH46	弥生土器	鉢	149	150				
597	C区	SH46	弥生土器	高杯	149	150				
598	C区	SH46	弥生土器	高杯	149	150				
599	C区	SH46	弥生土器	爵台	149	150				
600	C区	SH46	石器	石線	149	150				
601	C区	SH46	石器	石線	149	150	117			
602	C区	SH46	石器	使用痕ある剥片	149	150				
603	C区	SH46	石器	使用痕ある剥片	149	150				
604	C区	SH48	弥生土器	短頸広口壺	151	152				
605	C区	SH48	弥生土器	壺	151	152				他地域?
606	C区	SH48	弥生土器	高杯	151	152				
607	C区	SH48	弥生土器	爵台	151	152				
608	C区	SH48	鉄	不定形鉄片	151	152	115,116	鉄製品及び銅器関連資料の構造分析	303	
609	C区	SH48	玉	ガラス小玉	151	152	116	ガラス玉の蛍光X線分析	411	
610	C区	SH48	石器	石線	151	152	117			
611	D区	SH48	石器	石線	151	152				
612	D区	SH51	弥生土器	壺	157	155				
613	D区	SH51	弥生土器	壺	157	155				
614	D区	SH51	弥生土器	壺	157	155				他地域(備後)
615	D区	SH51	弥生土器	壺	157	155				
616	D区	SH51	弥生土器	壺	157	155				他地域(香東川下流域)
617	D区	SH51	弥生土器	壺	157	155				
618	D区	SH51	弥生土器	壺	157	155				
619	D区	SH51	弥生土器	壺	157	155				
620	D区	SH51	弥生土器	壺	157	155				
621	D区	SH51	弥生土器	壺		155				
622	D区	SH51	弥生土器	壺	157	155				
623	D区	SH51	弥生土器	壺	157	155				
624	D区	SH51	弥生土器	壺	157	155	142			
625	D区	SH51	弥生土器	壺	157	155	142			
626	D区	SH51	弥生土器	鉢		155				
627	D区	SH51	弥生土器	鉢		155				
628	D区	SH51	弥生土器	鉢		155				
629	D区	SH51	弥生土器	鉢		155				
630	D区	SH51	弥生土器	鉢		155				

報文番号	地区名	報告書番号	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
631	D区	SH51	弥生土器	鉢	157	155				
632	D区	SH51	弥生土器	鉢	157	155				
633	D区	SH51	弥生土器	甕	157	155				
634	D区	SH51	弥生土器	高杯	157	155				
635	D区	SH51	弥生土器	高杯	157	155				
636	D区	SH51	弥生土器	鉢	157	155				
637	D区	SH51	弥生土器	器台	157	155				
638	D区	SH51	鉄	鉄鏃	157	155	115,180			
639	D区	SH51	鉄	棒状鉄片	157	155	115,180			
640	D区	SH51	鉄	不明(鉄鏃片)	157	155	179			
641	D区	SH51	鉄	刀子	157	155	180			
642	D区	SH51	鉄	針状鉄鏃	157	155	116	鉄製品及び器台関連資料の構造分析	303	
643	D区	SH51	玉	ガラス小玉	157	155		ガラス玉の蛍光X線分析	411	
644	D区	SH51	石鏡	石鏡	157	155	117			
645	D区	SH51	石鏡	石鏡	157	155				
646	D区	SH51	石鏡	石鏡	157	155				
647	D区	SH51	石鏡	石鏡	157	155	124			
648	D区	SH51	石鏡	楕状石核	157	156				
649	D区	SH51	石鏡	磁石	157	156	122			
650	D区	SH51	石鏡	磁石	157	156				
651	D区	SH51	石鏡	焼石	157	156				
652	D区	SH51	石鏡	柱状片(牙石)	157	156				
653	D区	SH51	石鏡	磨石	157	156	129	赤色顔料の蛍光X線分析	394	赤色顔料付着か?分析番号71
654	D区	SH52	弥生土器	鉢	158	159				
655	D区	SH52	土製品	紡錘車	158	159	114			転用品
656	D区	SH52	鉄	棒状鉄片	158	159	115,116,179	鉄製品及び器台関連資料の構造分析	303	
657	D区	SH54	弥生土器	長頸甕	158	160				
658	D区	SH54	弥生土器	甕	158	160				
659	D区	SH54	弥生土器	甕	158	160				
660	D区	SH54	弥生土器	鉢	158	160				
661	D区	SH54	弥生土器	高杯	158	160				
662	D区	SH55	弥生土器	甕	162	162				
663	D区	SH55	弥生土器	長頸甕	162	162				
664	D区	SH55	弥生土器	直口甕	162	162				
665	D区	SH55	弥生土器	無頸甕	162	162				
666	D区	SH55	弥生土器	甕	162	162				
667	D区	SH55	弥生土器	甕	162	162				
668	D区	SH55	弥生土器	甕	162	162				
669	D区	SH55	弥生土器	甕	162	162				
670	D区	SH55	弥生土器	甕	162	162				
671	D区	SH55	弥生土器	高杯	163	162				
672	D区	SH55	弥生土器	高杯	163	162				
673	D区	SH55	弥生土器	高杯	163	162				
674	D区	SH55	弥生土器	高杯	163	162				
675	D区	SH55	弥生土器	支脚	163	162				
676	D区	SH55	鉄	鉄鏃片	163	162				
677	D区	SH55	石鏡	石鏡	163	162	117			
678	D区	SH55	石鏡	磁石	163	162	119			磨製石磨丁未製品を転用したものであろう
679	D区	SH55	石鏡	叩き石	163	162				
680	F区	SH56	弥生土器	甕	163	164				
681	F区	SH56	弥生土器	甕	163	164				
682	F区	SH56	弥生土器	甕	163	164				他地域(香東川下流域)
683	F区	SH56	弥生土器	鉢	163	164	142			
684	F区	SH56	鉄	不定形鉄片	163	164	115,116	鉄製品及び器台関連資料の構造分析	303	
685	F区	SH56	青銅	銅鏃	163	164		青銅器鉛同位体比分析	274	
686	F区	SH57	弥生土器	甕	165	166				
687	F区	SH57	弥生土器	甕	165	166				
688	F区	SH57	弥生土器	甕	165	166				
689	F区	SH57	弥生土器	甕	165	166				
690	F区	SH57	弥生土器	甕	165	166				
691	F区	SH57	弥生土器	鉢	165	166				
692	F区	SH57	弥生土器	高杯	165	166				
693	F区	SH57	弥生土器	高杯	165	166				
694	F区	SH57	石鏡	石鏡	165	166				
695	F区	SH57	石鏡	スクレイパー	165	166				
696	F区	SH59	土師器	直口甕	165	168	98,142			外面・口縁部内面に撥形紋
697	F区	SH59	弥生土器	甕	165	168				他地域(香東川下流域)
698	F区	SH59	弥生土器	鉢	166	168	143			
699	F区	SH59	弥生土器	鉢	166	168				スリップ
700	F区	SH59	弥生土器	鉢	166	168				
701	F区	SH59	石鏡	焼石	169	168				
702	A区	SH63	弥生土器	裝飾高杯	169	170				
703	A区	SH63	弥生土器	甕	169	170				
704	A区	SH63	弥生土器	甕	169	170				
705	A区	SH63	弥生土器	高杯	169	170				
706	A区	SH63	弥生土器	器台	169	170	143			
707	A区	SH63	石鏡	磁石	169	170				
708	A区	SH64	弥生土器	甕	169	171	143			
709	A区	SH64	弥生土器	鉢	169	171				
710	A区	SH64	弥生土器	鉢	169	171	143			
711	B区	SH65	弥生土器	直口甕	171	172	143			
712	B区	SH65	弥生土器	甕	171	172				
713	B区	SH65	弥生土器	甕	171	172				
714	B区	SH65	弥生土器	甕	171	172				
715	B区	SH65	弥生土器	甕	171	172				
716	B区	SH65	弥生土器	鉢	171	172	143			
717	B区	SH65	弥生土器	鉢	171	172				
718	B区	SH65	弥生土器	支脚	171	172				
719	B区	SH65	弥生土器	支脚	171	172				
720	A区	SH66	弥生土器	直口甕	173	173	143			
721	A区	SH66	弥生土器	甕	173	173				
722	A区	SH66	弥生土器	甕	173	173				
723	A区	SH66	弥生土器	甕	173	173				
724	D区	SH67	石鏡	石鏡	174	174				
725	D区	SH70	石鏡	打製石磨丁	175	176				
726	D区	SH70	石鏡	楕状石核	175	176				
727	D区	SH71	弥生土器	直口甕	176	177				
728	D区	SH71	弥生土器	甕	176	177				
729	D区	SH71	弥生土器	鉢	176	177				
730	D区	SH71	弥生土器	分銅形土製品	176	177	113			
731	D区	SH71	鉄	鉄片	176	177	179			
732	F区	SH72	青銅	銅鏃	178	178		青銅器鉛同位体比分析	274	
733	A区	SB03	弥生土器	甕	179	180				
734	A区	SB03	弥生土器	甕	179	180				
735	A区	SB03	弥生土器	甕	179	180				

報告番号	地区名	報告遺構名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
736	A区	SB04	弥生土器	広口壺	183	182	143			
737	A区	SB04	弥生土器	広口壺	183	182				
738	A区	SB04	弥生土器	甕	183	182	144			
739	A区	SB04	弥生土器	甕	183	182	144			
740	A区	SB04	弥生土器	甕	183	182				
741	A区	SB04	弥生土器	甕	183	182				
742	A区	SB04	弥生土器	甕	183	182				
743	A区	SB04	石器	敲き石	183	182	131			
744	A区	SB04	石器	敲き石	183	182				
745	A区	SB04	石器	叩き石	183	183	130			
746	A区	SB05	弥生土器	甕	184	184				
747	A区	SB05	弥生土器	高杯	184	184				
748	A区	SB06	弥生土器	甕台?	185	185				
749	B区	SB06	弥生土器	甕	185	185				
750	A区	SB06	弥生土器	甕	185	185				
751	B区	SB06	弥生土器	甕	185	185				
752	B区	SB06	弥生土器	甕	185	185				
753	A区	SB06	弥生土器	台付鉢	186	185				
754	B区	SB07	弥生土器	広口壺	186	188				
755	B区	SB07	弥生土器	広口壺	186	188				
756	B区	SB07	弥生土器	広口壺	186	188				
757	B区	SB07	弥生土器	広口壺	186	188				
758	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
759	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
760	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
761	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
762	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
763	B区	SB07	弥生土器	細頸長頸壺	186	188				
764	B区	SB07	弥生土器	細頸長頸壺	186	188				
765	B区	SB07	弥生土器	直口壺	186	188				
766	B区	SB07	弥生土器	無頸壺	186	188				
767	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
768	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
769	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
770	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
771	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
772	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
773	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
774	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
775	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
776	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
777	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
778	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
779	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
780	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
781	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
782	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
783	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
784	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
785	B区	SB07	弥生土器	甕	186	188				
786	B区	SB07	弥生土器	鉢	186	188				
787	B区	SB07	弥生土器	鉢	186	188				
788	B区	SB07	弥生土器	高杯	186	188				
789	B区	SB07	弥生土器	高杯	186	188				
790	B区	SB08	弥生土器	長頸壺	190	189		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料 赤彩(ベンガラ)
791	B区	SB08	弥生土器	甕	190	189				
792	B区	SB08	弥生土器	甕	190	189				
793	B区	SB08	弥生土器	甕	190	189				
794	B区	SB08	弥生土器	甕	190	189				
795	B区	SB08	弥生土器	甕	190	189				
796	B区	SB08	弥生土器	高杯	190	189				
797	B区	SB08	弥生土器	高杯	190	189				
798	B区	SB09	弥生土器	甕	190	191				
799	B区	SB09	弥生土器	甕	190	191				
800	B区	SB09	弥生土器	甕	190	191				
801	B区	SB09	弥生土器	無頸壺	190	191				
802	B区	SB09	弥生土器	台付鉢	190	191				
803	B区	SB10	弥生土器	広口壺	192	194				
804	B区	SB10	弥生土器	細頸長頸壺	192	194				
805	B区	SB10	弥生土器	直口壺	192	194				
806	B区	SB10	弥生土器	甕	192	194				
807	B区	SB10	弥生土器	甕	192	194				
808	B区	SB10	弥生土器	甕	192	194				
809	B区	SB10	弥生土器	甕	192	194				
810	B区	SB10	弥生土器	鉢	192	194				
811	B区	SB10	弥生土器	鉢	192	194				
812	B区	SB10	弥生土器	鉢	192	194				
813	D区	SB10	弥生土器	鉢	192	194				
814	B区	SB10	弥生土器	甕	192	194				
815	B区	SB10	弥生土器	鉢	192	194				
816	B区	SB10	玉	碧玉	192	194	116			
817	B区	SB10	石器	石核	192	194				
818	D区	SB10	焼土		194	194				
819	B区	SB11	弥生土器	広口壺	196	195				
820	B区	SB11	弥生土器	甕	196	195				
821	B区	SB11	弥生土器	広口壺	196	195				
822	B区	SB11	弥生土器	甕	196	195				
823	B区	SB11	弥生土器	甕	196	195				
824	B区	SB11	弥生土器	甕	196	195				
825	B区	SB11	弥生土器	甕	196	195				
826	B区	SB11	弥生土器	鉢	196	195				
827	B区	SB11	弥生土器	鉢	196	195				
828	B区	SB11	弥生土器	台付鉢	196	195				
829	B区	SB11	弥生土器	高杯	196	195				
830	B区	SB11	石器	楔状石核	196	195				
831	C区	SB12	弥生土器	広口壺	198	198				
832	C区	SB12	弥生土器	細頸長頸壺	198	198				
833	C区	SB12	弥生土器	直口壺	198	198				
834	C区	SB12	弥生土器	甕	199	198				
835	C区	SB12	弥生土器	甕	199	198				
836	C区	SB12	弥生土器	甕	199	198				
837	C区	SB12	弥生土器	甕	199	198				
838	C区	SB12	弥生土器	甕	199	198				
839	C区	SB12	弥生土器	甕	199	198				
840	C区	SB12	弥生土器	台付鉢	199	198				

報文番号	地区名	報告通稱名	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
841	C区	SB12	弥生土器	鉢	199	198				
842	C区	SB12	弥生土器	台付鉢	199	198				
843	C区	SB12	石器	打製石槍丁	199	198				
844	C区	SB12	石器	横状石核	199	198				
845	C区	SB13	弥生土器	広口壺	199	200				スリップ
846	C区	SB13	弥生土器	細頸長頸壺	199	200				
847	C区	SB13	弥生土器	鉢	199	200				
848	C区	SB13	弥生土器	鉢	199	200				
849	C区	SB13	弥生土器	台付鉢	199	200				
850	C区	SB13	弥生土器	高杯	199	200				
851	C区	SB13(SP1295)	土製品	紡錘車	199	200	114			運転用品、未成品
852	C区	SB14	弥生土器	広口壺	202	201				
853	C区	SB14	弥生土器	鉢	202	201				
854	C区	SB14	弥生土器	壺	202	201				
855	C区	SB14	弥生土器	壺	202	201				
856	C区	SB14	弥生土器	鉢	202	201				
857	C区	SB15	弥生土器	細頸長頸壺	202	203				
858	C区	SB15	弥生土器	広口壺	202	203				
859	C区	SB15	弥生土器	壺	202	203				
860	C区	SB15	弥生土器	壺	202	203				
861	C区	SB15	弥生土器	壺	202	203				
862	C区	SB15	弥生土器	壺	202	203				
863	C区	SB15	弥生土器	鉢	202	203				
864	C区	SB15	弥生土器	鉢	202	203				
865	C区	SB15	弥生土器	台付鉢	202	203				小型品
866	C区	SB15	瓦器	椀	202	203				混入品
867	C区	SB15	青銅	銅鐻	202	203		青銅器相対位体比分析	274	
868	C区	SB15	石器	横状石核	202	203				
869	C区	SB15	石器	横状石核	202	203				
870	C区	SB15	石器	打製石槍丁	202	203				横状石核に転用
871	C区	SB15	石器	横状石核	202	203				
872	D区	SB16	弥生土器	台付鉢	205	204				
873	D区	SB16	弥生土器	高杯	205	204				
874	D区	SB17	弥生土器	細頸長頸壺	205	206				
875	D区	SB17	弥生土器	壺	205	206				
876	D区	SB17	弥生土器	壺	205	206				
877	D区	SB17	弥生土器	壺	205	206				
878	D区	SB17	弥生土器	壺	205	206				
879	D区	SB17	弥生土器	高杯	205	206				
880	D区	SB17	弥生土器	高杯	205	206				
881	D区	SB17	弥生土器	高杯	205	206				
882	D区	SB18	弥生土器	壺	206	207				
883	B区	SB19	弥生土器	甗台	207	208				
884	B区	SB19	弥生土器	壺	207	208				
885	B区	SB19	弥生土器	壺	207	208				
886	B区	SB19	弥生土器	広口壺	207	208				
887	B区	SB19	弥生土器	甗台	207	208				
888	B区	SB20	弥生土器	甗台	209	209				
889	F区	SB21	弥生土器	壺	211	210				
890	F区	SB21	弥生土器	細頸長頸壺	211	210				
891	F区	SB21	弥生土器	壺	211	210				
892	F区	SB21	弥生土器	壺	211	210				
893	F区	SB21	弥生土器	台付鉢	211	210				
894	B区	SB22	弥生土器	壺	212	211				
895	B区	SB23	弥生土器	甗台	212	213				
896	B区	SB23	弥生土器	細頸長頸壺	212	213				
897	B区	SB23	弥生土器	細頸壺	212	213				他地域(吉備)
898	B区	SB23	弥生土器	壺	212	213				
899	B区	SB23	弥生土器	壺	212	213				
900	B区	SB23	弥生土器	鉢	212	213				
901	B区	SB23	弥生土器	鉢	212	213				
902	B区	SB23	弥生土器	鉢	212	213				
903	B区	SB23	弥生土器	鉢	212	213				
904	B区	SB23	弥生土器	高杯	212	213				
905	B区	SB23	弥生土器	高杯	212	213				
906	B区	SB24	弥生土器	広口壺	213	214				
907	B区	SB24	弥生土器	壺	213	214				
908	B区	SB24	弥生土器	壺	213	214				
909	B区	SB24	弥生土器	壺	213	214				
910	B区	SB24	弥生土器	鉢	213	214				
911	B区	SB25	弥生土器	細頸長頸壺	216	205				
912	B区	SB25	弥生土器	壺	216	205				
913	B区	SB25	弥生土器	壺	216	205				
914	B区	SB25	弥生土器	壺	216	205				
915	B区	SB25	弥生土器	壺	216	205				
916	B区	SB25	弥生土器	壺	216	205				
917	D区	SB27	弥生土器	細頸壺	218	218				他地域(吉備)
918	D区	SB27	弥生土器	壺	218	218				
919	D区	SB27	弥生土器	壺	218	218				
920	D区	SB27	弥生土器	壺	218	218				
921	D区	SB27	弥生土器	鉢	218	218				
922	D区	SB27	弥生土器	高杯	218	218				
923	D区	SB27	弥生土器	裝飾高杯	218	218				
924	A区	SK04	弥生土器	壺	220	220				
925	A区	SK04	弥生土器	細頸長頸壺	220	220				
926	A区	SK04	弥生土器	裝飾高杯	220	220				他地域(吉備?)
927	A区	SK04	弥生土器	壺	220	220				
928	A区	SK04	弥生土器	壺	220	220				
929	A区	SK04	弥生土器	広口壺	220	220				
930	A区	SK04	弥生土器	高杯	220	220				
931	A区	SK04	弥生土器	高杯	220	220				
932	A区	SK06	弥生土器	短頸広口壺	222	221				
933	A区	SK06	弥生土器	細頸壺	222	221				
934	A区	SK06	弥生土器	壺	222	221				
935	A区	SK06	弥生土器	壺	222	221				
936	A区	SK06	弥生土器	壺	222	221				
937	A区	SK06	弥生土器	壺	222	221				
938	A区	SK06	弥生土器	壺	222	221				
939	A区	SK06	弥生土器	壺	222	221				
940	A区	SK06	弥生土器	鉢	222	221				
941	A区	SK06	弥生土器	支脚	222	221				
942	A区	SK06	弥生土器	ジョッキ形土器把手	222	221				
943	A区	SK06	石器	スクレイパー	222	221				
944	A区	SK06	石器	横状石核	222	221				
945	A区	SK08	弥生土器	広口壺	222	223	98,144			

報告番号	地区名	報告遺構名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
946	A区	SK08	弥生土器	広口壺	222	223				
947	A区	SK08	弥生土器	広口壺	222	224	114			
948	A区	SK08	弥生土器	広口壺	222	224				
949	A区	SK08	弥生土器	広口壺	222	224				他地域(土佐)
950	A区	SK08	弥生土器	短頸広口壺	225	224				
951	A区	SK08	弥生土器	甕	225	224				
952	A区	SK08	弥生土器	広口壺	225	224				
953	A区	SK08	弥生土器	甕	225	224				
954	A区	SK08	弥生土器	壺	226	224				他地域(土佐),3B1.445と同一器種の可能性
955	A区	SK08	弥生土器	壺	226	224				
956	A区	SK08	弥生土器	甕	224	224	98,144			
957	A区	SK08	弥生土器	甕	226	224	144			
958	A区	SK08	弥生土器	甕	226	224	144			
959	A区	SK08	弥生土器	甕	224	224	98,145			
960	A区	SK08	弥生土器	甕	224	224	98,145			
961	A区	SK08	弥生土器	甕	226	224	145			他地域(備後)
962	A区	SK08	弥生土器	甕	224	224		赤色顔料の蛍光X線分析	394	他地域(備後)
963	A区	SK08	弥生土器	片口鉢	224	224				
964	A区	SK08	弥生土器	甕	226	224	145			
965	A区	SK08	弥生土器	台付鉢	226	225	145			
966	A区	SK08	弥生土器	台付鉢	226	225	98,145			
967	A区	SK08	弥生土器	台付鉢	226	225	145			
968	A区	SK08	弥生土器	鉢	226	225	98,146			
969	A区	SK08	弥生土器	鉢	226	225				
970	A区	SK08	弥生土器	鉢	226	225	98,146			
971	A区	SK08	弥生土器	鉢	226	225				
972	A区	SK08	弥生土器	鉢	226	225				
973	A区	SK08	弥生土器	高杯	226	225				
974	A区	SK08	弥生土器	高杯	226	225				
975	A区	SK08	弥生土器	高杯	226	225				
976	A区	SK08	弥生土器	高杯	226	225				
977	A区	SK08	弥生土器	高杯	226	225				
978	A区	SK08	弥生土器	甕	226	225				
979	A区	SK08	弥生土器	甕	226	225				
980	A区	SK08	弥生土器	把手	226	225				
981	A区	SK08	弥生土器	支脚	226	225				
982	A区	SK08	弥生土器	支脚	226	225	98,146			
983	A区	SK08	弥生土器	支脚	226	225	98			
984	A区	SK08	石器	台石	226	225				
985	A区	SK14	弥生土器	広口壺	226	227				
986	A区	SK14	弥生土器	壺	226	227				
987	A区	SK27	弥生土器	広口壺	228	228				外側に記号枚
988	A区	SK28	弥生土器	鉢	228	228				
989	A区	SK27	弥生土器	高杯	228	228				
990	A区	SK27	弥生土器	高杯	228	228				
991	C区	SK34	弥生土器	甕	230	229				
992	C区	SK34	弥生土器	高杯	230	229				
993	F区	SK40	弥生土器	広口壺	230	229				
994	F区	SK40	弥生土器	広口壺	230	229				
995	F区	SK40	弥生土器	広口壺	230	229				
996	F区	SK40	弥生土器	甕	230	229				
997	F区	SK40	弥生土器	鉢	230	229				
998	F区	SK40	弥生土器	鉢	230	229				
999	E区	SP1909	弥生土器	短頸広口壺	231	231	146			
1000	B区	ST01	弥生土器	壺	236	235	116,146			棺身
1001	B区	ST01	弥生土器	細頸壺	236	235				他地域(吉備),混入品
1002	B区	ST01	弥生土器	壺	236	235				他地域(香東川下流域)
1003	B区	ST01	弥生土器	壺	236	235	146			棺蓋
1004	B区	ST02	弥生土器	広口壺	238	237	146			棺身
1005	B区	ST02	弥生土器	鉢	238	237				棺蓋
1006	D区	ST03	弥生土器	壺	240	240	147			棺蓋
1007	D区	ST03	弥生土器	壺	240	240	147			棺身
1008	D区	ST03	弥生土器	壺	240	240	147			棺蓋
1009	A区	SD04	弥生土器	支脚	241	241				
1010	A区	SD04	弥生土器	細頸壺	241	241				他地域(香東川下流域)
1011	A区	SD04	弥生土器	甕	241	241				
1012	A区	SD04	弥生土器	甕	241	241				
1013	A区	SD04	弥生土器	細頸壺	241	241				他地域(吉備)
1014	A区	SD04	弥生土器	高杯	241	241				1016と同一器種
1015	A区	SD04	弥生土器	鉢	241	241				
1016	A区	SD04	弥生土器	高杯	241	241				1014と同一器種
1017	A区	SD04	弥生土器	壺	241	241				
1018	A区	SD06	弥生土器	鉢	241	242				
1019	A区	SD06	弥生土器	鉢?	242	242				
1020	A区	SD06	弥生土器	壺	242	242				他地域(香東川下流域)
1021	A区	SD06	弥生土器	壺	242	242				他地域(香東川下流域)
1022	A区	SD06	弥生土器	壺	242	242				
1023	A区	SD06	弥生土器	壺	242	242				
1024	B区	SD25	弥生土器	直口壺	242	243				
1025	B区	SD25	弥生土器	壺	243	243				
1026	B区	SD25	弥生土器	壺	243	243				
1027	B区	SD25	弥生土器	壺	243	243				
1028	B区	SD25	弥生土器	広口壺	243	243				
1029	B区	SD25	弥生土器	高杯	243	243				
1030	B区	SD25	弥生土器	裝飾高杯	243	243				
1031	B区	SD25	弥生土器	高杯	243	243				他地域?
1032	B区	SD25	弥生土器	高杯	243	243				
1033	B区	SD25	石器	石鏃	243	243	118			
1034	B区	SD26	弥生土器	細頸壺	243	244				
1035	B区	SD26	弥生土器	壺	243	244				
1036	B区	SD26	弥生土器	壺	243	244				
1037	B区	SD26	弥生土器	鉢	244	244				
1038	B区	SD26	弥生土器	高杯	244	244				
1039	B区	SD26	弥生土器	支脚	244	244				
1040	B区	SD26	弥生土器	甕	244	244				
1041	B区	SD28	弥生土器	広口壺	244	245				
1042	B区	SD28	弥生土器	長頸壺	244	245	147			
1043	B区	SD28	弥生土器	広口壺	244	245				
1044	B区	SD28	弥生土器	壺	244	245				
1045	B区	SD28	弥生土器	壺	244	245				
1046	B区	SD28	弥生土器	壺	244	245				
1047	B区	SD28	弥生土器	壺	244	245				
1048	B区	SD28	弥生土器	壺	244	245				
1049	B区	SD29	弥生土器	壺	244	245				
1050	B区	SD29	弥生土器	鉢	244	245				

報文番号	地区名	報告品名	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
1051	B区	SD29	弥生土器	鉢	244	245				
1052	C区	SD55	弥生土器	広口壺	246	247				
1053	C区	SD55	弥生土器	細頸長頸壺(大型品)	246	247				
1054	C区	SD55	弥生土器	広口壺	246	247				
1055	C区	SD55	弥生土器	壺	246	247				
1056	C区	SD55	弥生土器	壺	246	247				
1057	C区	SD55	弥生土器	壺	246	247				
1058	C区	SD55	弥生土器	壺	246	247				
1059	C区	SD55	弥生土器	壺	246	247				
1060	C区	SD55	弥生土器	高杯	246	247				
1061	C区	SD55	弥生土器	高杯	246	247				
1062	C区	SD55	弥生土器	高杯	246	247				
1063	C区	SD55	弥生土器	高杯	246	247	147			
1064	C区	SD55	弥生土器	高杯	246	247				
1065	C区	SD56	弥生土器	高杯	246	247				
1066	C区	SD55	石器	磨製石斧丁	246	247	123			
1067	D区	SD86	弥生土器	広口壺	252	249				
1068	D区	SD86	弥生土器	広口壺	252	249				
1069	D区	SD86	弥生土器	短頸広口壺	252	249				外面に焼成跡あり
1070	D区	SD86	弥生土器	短頸広口壺	252	249				
1071	D区	SD86	弥生土器	壺	252	249				
1072	D区	SD86	弥生土器	壺	252	249				
1073	D区	SD86	弥生土器	短頸広口壺	252	249				
1074	D区	SD86	弥生土器	壺	252	249				
1075	D区	SD86	弥生土器	壺	252	249				
1076	D区	SD86	弥生土器	壺	252	249	147			
1077	D区	SD86	弥生土器	壺	252	249				
1078	D区	SD86	弥生土器	壺	252	249				
1079	D区	SD86	弥生土器	鉢	252	249				
1080	D区	SD86	弥生土器	鉢	252	249				
1081	D区	SD86	弥生土器	高杯	252	249				
1082	D区	SD86	弥生土器	高杯	252	249				
1083	D区	SD86	弥生土器	高杯	252	249				
1084	D区	SD86	弥生土器	高杯	252	249				
1085	D区	SD86	弥生土器	細頸長頸壺	252	250				
1086	D区	SD86	弥生土器	広口壺	252	250				
1087	D区	SD86	弥生土器	広口壺	252	250				
1088	D区	SD86	弥生土器	壺	252	250				
1089	D区	SD86	弥生土器	壺	252	250				
1090	D区	SD86	弥生土器	壺	252	250				
1091	D区	SD86	弥生土器	壺	252	250				
1092	D区	SD86	弥生土器	壺	252	250				
1093	D区	SD86	弥生土器	壺	252	250	147			
1094	D区	SD86	弥生土器	壺	252	250				
1095	D区	SD86	弥生土器	壺	252	250	147			
1096	D区	SD86	弥生土器	壺	252	250	148			
1097	D区	SD86	弥生土器	壺	252	250				破断面を越えて黒斑が見られる焼成失敗品
1098	D区	SD86	弥生土器	壺	252	250				
1099	D区	SD86	弥生土器	壺	252	250				
1100	D区	SD86	弥生土器	壺	252	250				
1101	D区	SD86	弥生土器	壺	252	250				
1102	D区	SD86	弥生土器	鉢	252	251				
1103	D区	SD86	弥生土器	鉢	252	251				
1104	D区	SD86	弥生土器	鉢	252	251				
1105	D区	SD86	弥生土器	鉢	252	251	148			
1106	D区	SD86	弥生土器	高杯	252	251	148			
1107	D区	SD86	弥生土器	高杯	252	251				
1108	D区	SD86	弥生土器	高杯	252	251				伊予型
1109	D区	SD86	弥生土器	高杯	252	251				
1110	D区	SD86	弥生土器	高杯	252	251	148			
1111	D区	SD86	弥生土器	高杯	252	251				
1112	E区	SD129	弥生土器	広口壺	253	253				
1113	E区	SD129	弥生土器	壺	253	253				
1114	E区	SD129	弥生土器	短頸広口壺	253	253				
1115	E区	SD129	弥生土器	壺	253	253				
1116	E区	SD129	弥生土器	壺	253	253				
1117	E区	SD129	弥生土器	壺	253	253				
1118	E区	SD129	弥生土器	壺	253	253				
1119	E区	SD129	弥生土器	壺	253	253				
1120	E区	SD129	弥生土器	高杯	253	253				
1121	E区	SD129	弥生土器	甗台	254	253				
1122	E区	SD129	弥生土器	鉢	254	253				
1123	E区	SD129	弥生土器	高杯	254	253				他地域(吉備)
1124	E区	SD129	弥生土器	甗台	254	253				
1125	E区	SD129	弥生土器	甗台	254	253				
1126	E区	SD129	弥生土器	蓋	254	253				
1127	A区	SX02	弥生土器	広口壺	254	255				
1128	A区	SX02	弥生土器	長頸壺	254	255				
1129	A区	SX02	弥生土器	壺	254	255				
1130	A区	SX02	弥生土器	壺	254	255				
1131	A区	SX02	弥生土器	壺	254	255				
1132	A区	SX02	弥生土器	壺	254	255				
1133	A区	SX02	弥生土器	壺	254	255	148			
1134	A区	SX02	弥生土器	壺	254	255				他地域(土佐)
1135	A区	SX02	弥生土器	壺	254	255				
1136	A区	SX02	弥生土器	壺	254	255				
1137	A区	SX02	弥生土器	鉢	254	255				他地域(備後)
1138	A区	SX02	弥生土器	壺	254	255				
1139	A区	SX02	弥生土器	高杯	254	255				
1140	A区	SX02	弥生土器	高杯	254	255				
1141	A区	SX02	弥生土器	支脚	254	255				
1142	A区	SX23	石器	石鏃	256	256				未製品
1143	B区	SX24	弥生土器	広口壺	258	257				
1144	B区	SX24	弥生土器	長頸壺	258	257				
1145	B区	SX24	弥生土器	壺	258	257				
1146	B区	SX24	弥生土器	壺	258	257				
1147	B区	SX24	弥生土器	鉢	258	257				
1148	B区	SX24	弥生土器	高杯	258	257				
1149	B区	SX24	石器	石鏃	258	257				未製品
1150	B区	SX24	石器	砥石	258	257	121			
1151	C区	SX30	弥生土器	鉢	258	259				
1152	C区	SX30	弥生土器	壺	258	259				
1153	C区	SX30	石器	摩滅布名銅片	260	259				
1154	C区	SX30	石器	叩石	260	259				
1155	C区	SX35	弥生土器	壺	260	260				

報告番号	地区名	報告遺構名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
1156	C区	SX35	弥生土器	把手	260	260				
1157	A区	SB01	弥生土器	甕		263				
1158	A区	SB01	須恵器	甕	262	263				
1159	A区	SB01	須恵器	台付椀	262	263				
1160	A区	SB02	土師器	杯	262	264				
1161	A区	SB30	弥生土器	鉢		264				
1162	A区	SB31	弥生土器	甕		265				
1163	A区	SB35	須恵器	椀	266	266				
1164	C区	SB38	土師器	羽釜		269				
1165	C区	SB38	石器	打製石彫丁	268	269				
1166	C区	SB38	石器	模状石核	268	269				
1167	F区	SB39	須恵器	甕	269	270				
1168	F区	SB39	土師器	皿	269	270		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内外面に赤色顔料 赤彩
1169	F区	SB39	石器	模状石核	269	270				
1170	C区	SB40	須恵器	器台	270	271				
1171	C区	SB40	須恵器	円筒椀	270	271				
1172	C区	SB41	須恵器	蓋	271	272				
1173	C区	SB42	須恵器	鉢	271	273				
1174	C区	SB42	須恵器	杯	271	273				内外面火傷
1175	C区	SB42	石器	スクレイパー	271	273				
1176	C区	SB42	石器	模状石核	271	273				
1177	A区	SB43	須恵器	杯	272	274	148			
1178	F区	SB44	須恵器	台付杯	273	274				
1179	B区	SK21	須恵器	蓋	275	275				
1180	B区	SK21	土師器	椀	275	275				
1181	B区	SK30	須恵器	椀が皿	275	275				
1182	B区	SK30	須恵器	椀	275	275				
1183	A区北側	SD01	須恵器	蓋	275	276				転用破
1184	A区	SD01	須恵器	蓋	275	276				
1185	A区	SD01	須恵器	蓋	275	276				
1186	A区	SD01	須恵器	蓋	275	276				
1187	A区	SD01	須恵器	杯蓋	275	276				
1188	A区	SD01	須恵器	蓋	275	276				
1189	A区	SD01	須恵器	蓋	275	276				
1190	A区	SD01	須恵器	蓋	275	276				
1191	A区	SD01	須恵器	杯蓋	275	276				
1192	A区	SD01	須恵器	杯身	275	276				
1193	A区	SD01	須恵器	杯	275	276		赤色顔料の蛍光X線分析	394	
1194	A区	SD01	須恵器	杯身	275	276				
1195	A区	SD01	須恵器	杯	275	276				
1196	A区北側	SD01	須恵器	杯	275	276				
1197	A区	SD01	須恵器	甕	275	276				
1198	A区	SD01	須恵器	杯	275	276				
1199	A区	SD01	須恵器	高杯	275	276				
1200	A区	SD01	須恵器	椀	275	276				
1201	A区	SD01	須恵器	椀	275	276				
1202	A区	SD01	須恵器	杯	275	276				焼け歪む
1203	A区	SD01	須恵器	高杯	275	276				
1204	A区	SD01	須恵器	高杯	275	276				
1205	A区	SD01	須恵器	平皿	275	276				口縁外面に印記
1206	A区	SD01	須恵器	短頸壺	275	276				
1207	A区	SD01	須恵器	蓋	277	277				
1208	A区	SD01	須恵器	蓋	277	277				
1209	A区	SD01	須恵器	刀	277	277				
1210	A区	SD01	須恵器	甕	277	277				
1211	A区	SD01	須恵器	甕	277	277				焼け歪みあり
1212	A区	SD01	須恵器	短頸壺	277	277				
1213	A区	SD01	須恵器	蓋	277	277				
1214	A区	SD01	須恵器	蓋	277	277				
1215	A区	SD01	須恵器	甕	277	277				
1216	A区	SD01	弥生土器	複合口縁壺	277	277				
1217	A区	SD01	弥生土器	甕	277	277				
1218	A区	SD01	土師器	甕	277	277				
1219	A区	SD01	土師器	甕	277	277				
1220	A区	SD01	土師器	甕	277	277				
1221	A区	SD01	玉	ガラス小玉		277				
1222	A区	SD01	石器	砥石	277	277				
1223	A区	SD02	須恵器	杯蓋	278	279				
1224	A区	SD02	須恵器	杯	278	279				
1225	B区	SD02	須恵器	杯身	278	279				
1226	A区北側	SD02	須恵器	杯	278	279				
1227	A区	SD02	須恵器	杯	278	279				
1228	A区	SD02	須恵器	杯	278	279				外面に火傷
1229	A区	SD02	須恵器	台付杯	278	279				
1230	A区	SD02	須恵器	高杯	278	279				
1231	A区	SD02	須恵器	高杯	278	279				
1232	A区北側	SD02	須恵器	高杯	278	279				
1233	A区	SD02	須恵器	甕	278	279				
1234	B区	SD02	須恵器	甕	278	279				
1235	B区	SD02	須恵器	甕	278	279				
1236	B区	SD02	須恵器	甕	278	279				
1237	A区	SD02	須恵器	甕	278	279				
1238	A区	SD02	須恵器	甕	278	279				
1239	B区	SD02	須恵器	甕	278	279				
1240	B区	SD02	須恵器	甕	278	279				
1241	A区	SD02	須恵器	甕	278	279				
1242	A区北側	SD02	須恵器	杯	278	279				内黒
1243	B区	SD02	土師器	椀	278	279				
1244	A区	SD02	土師器	杯	278	279				
1245	A区	SD02	瓦器	椀	278	279				和歌型
1246	A区北側	SD02	土師器	甕	278	279				
1247	B区	SD02	土師器	足釜	278	279				
1248	A区北側	SD02	土製品	土罐	278	279				
1249	A区北側	SD02	瓦	平瓦	278	279				磨滅が著しい土師質
1250	A区北側	SD02	瓦	平瓦	278	279				磨滅が著しい土師質
1251	B区	SD02	石器	石錐	278	279				
1252	A区	SD03	須恵器	杯	278	280				
1253	A区北側	SD03	須恵器	椀	278	280				
1254	A区	SD03	須恵器	高杯	278	280				
1255	A区東南隅	SD03	須恵器	高杯	278	280				
1256	A区東南隅	SD03	須恵器	蓋	278	280				
1257	A区	SD03	土師器	杯	278	280				
1258	A区	SD03	土師器	鉢	278	280				
1259	A区東南隅	SD03	弥生土器	支脚	278	280				
1260	A区	SD03	弥生土器	足釜	278	280				

報文番号	地区名	報告品名	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
1261	A区東南隅	SD03	土師器	把手	278	280				
1262	A区	SD03	瓦	丸瓦	278	280				
1263	A区	SD03	瓦	平瓦	278	280				磨滅気味
1264	A区	SD05	須恵器	蓋	280	281				外面に火傷
1265	A区	SD05	須恵器	高杯	280	281				焼成不良品
1266	A区	SD05	須恵器	高杯	280	281				
1267	A区	SD05	弥生土器	支脚	280	281				
1268	A区	SD05	石器	磨製石器丁	280	281	127			
1269	A区	SD08	須恵器	杯蓋	281	281				
1270	A区北側	SD08	須恵器	杯身	281	281				
1271	A区北側	SD08	須恵器	杯		281				
1272	A区北側	SD08	須恵器	甕	281	281				
1273	A区	SD08	須恵器	甕	281	281				
1274	A区	SD08	土師器	羽釜	281	281				
1275	A区	SD08	弥生土器	支脚	281	281				
1276	A区	SD11	須恵器	杯蓋	282	282				
1277	A区	SD11	須恵器	杯蓋	282	282				
1278	A区	SD11	須恵器	杯	282	282	148			
1279	A区	SD11	須恵器	椀	282	282				焼成不良品
1280	B区	SD11	須恵器	杯	282	282				
1281	A区	SD11	須恵器	杯	282	282				
1282	A区	SD11	須恵器	杯	282	282				
1283	A区	SD11	須恵器	杯	282	282				焼成不良品
1284	A区	SD11	須恵器	杯	282	282				
1285	B区	SD11	須恵器	甕	282	282				
1286	A区	SD11	須恵器	甕	282	282				
1287	A区	SD11	須恵器	甕	282	282				
1288	A区	SD11	土師器	小皿	282	282				
1289	A区	SD11	土師器	椀	282	282				
1290	A区	SD11	土師器	甕	282	282				
1291	A区	SD11	土師器	甕	282	282				
1292	A区	SD12	須恵器	杯	283	283				
1293	A区	SD12	須恵器	高杯	283	283				
1294	B区	SD14	須恵器	杯蓋	283	284				
1295	A区	SD14	須恵器	杯蓋	283	284				
1296	B区	SD14	須恵器	杯蓋	283	284				
1297	A区	SD14	須恵器	杯蓋	283	284				
1298	B区	SD14	須恵器	蓋	283	284				
1299	B区	SD14	須恵器	杯	283	284				
1300	B区	SD14	須恵器	杯	283	284				
1301	A区	SD14	須恵器	杯	283	284				
1302	B区	SD14	須恵器	杯身	283	284				
1303	B区	SD14	須恵器	杯	283	284				
1304	B区	SD14	須恵器	椀	283	284				
1305	B区	SD14	須恵器	杯身	283	284				
1306	B区	SD14	須恵器	皿	283	284				
1307	B区	SD14	須恵器	椀	283	284				
1308	B区	SD14	須恵器	椀		284				
1309	A区	SD14	須恵器	鉢	283	284	148			
1310	B区	SD14	須恵器	高杯	283	284				
1311	B区	SD14	須恵器	高杯	283	284				
1312	B区	SD14	須恵器	高杯	283	284				
1313	B区	SD14	須恵器	蓋	283	284				
1314	B区	SD14	須恵器	甕	283	285				
1315	B区	SD14	須恵器	甕	283	285	148			
1316	A区	SD14	須恵器	甕	283	285				
1317	A区	SD14	須恵器	甕	283	285				
1318	B区	SD14	須恵器	蓋	283	285				
1319	B区	SD14	須恵器	甕	283	285				
1320	B区	SD14	須恵器	甕	283	285				
1321	B区	SD14	須恵器	甕	283	285				
1322	B区	SD14	須恵器	甕	283	285				
1323	B区	SD14	須恵器	甕	283	285				
1324	B区	SD14	須恵器	蓋	283	285	148			頸部外面に火記号
1325	B区	SD14	須恵器	甕	283	285				
1326	B区	SD14	須恵器	甕	283	285				
1327	B区	SD14	須恵器	甕	283	285				
1328	B区	SD14	須恵器	窯壁塊(破)	283	285	149			か胴部2片が融着した窯壁塊
1329	B区	SD14	須恵器	甕	283	285				
1330	B区	SD14	須恵器	把手	283	285				
1331	A区	SD14	土師器	杯	283	285				
1332	B区	SD14	土師器	杯	283	285				
1333	B区	SD14	土師器	甕	283	285				
1334	B区	SD14	土師器	甕	283	285				
1335	B区	SD14	瓦質土器	椀	283	285				
1336	B区	SD14	緑釉陶器	皿	283	285				磨輪 軟質焼成
1337	B区	SD14	土師器	壺蓋	283	285	149			
1338	B区	SD14	石器	石鏃	283	286				
1339	B区	SD14	石器	打製石器丁	283	286				
1340	B区	SD14	石器	石斧	283	286				
1341	A区	SD14	石器	叩き石	286	286				
1342	A区	SD15	須恵器	高杯	286	287				
1343	A区	SD15	石器	石鏃		287				
1344	A区	SD15	石器	石鏃		287				
1345	A区	SD16	土師器	甕	287	287				
1346	A区	SD16	土師器	甕	287	287				
1347	A区	SD16	土師器	甕	287	287				
1348	B区	SD17	須恵器	蓋	287	290				
1349	B区	SD17	須恵器	蓋	287	290				
1350	B区	SD17	須恵器	蓋	287	290				
1351	B区	SD17	須恵器	蓋	287	290				
1352	B区	SD17	須恵器	杯蓋	287	290				
1353	B区	SD17	須恵器	蓋	287	290				
1354	B区	SD17	須恵器	杯蓋	287	290				
1355	B区	SD17	須恵器	杯蓋	287	290				
1356	B区	SD17	須恵器	杯蓋	287	290				
1357	B区	SD17	須恵器	杯蓋	287	290				
1358	B区	SD17	須恵器	杯蓋	287	290				
1359	B区	SD17	須恵器	杯身	287	290				
1360	B区	SD17	須恵器	杯	294	290	149			
1361	B区	SD17	須恵器	杯		290				
1362	B区	SD17	須恵器	杯	294	290				
1363	B区	SD17	須恵器	杯	294	290				内面に火傷
1364	B区	SD17	須恵器	杯		290				焼成不良品
1365	B区	SD17	須恵器	杯		290				焼成不良品

報文番号	地区名	報告遺構名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
1366	B区	SD17	須恵器	皿	294	290				
1367	B区	SD17	須恵器	皿	294	290				
1368	B区	SD17	須恵器	皿	294	290				
1369	B区	SD17	須恵器	皿	294	290				
1370	B区	SD17	須恵器	杯	290	290				内面に火傷の痕跡、焼成不良品
1371	B区	SD17	須恵器	杯	290	290				
1372	B区	SD17	須恵器	杯	290	290				
1373	B区	SD17	須恵器	杯	290	290				底部内面に火傷
1374	B区	SD17	須恵器	杯	290	290				
1375	B区	SD17	須恵器	杯	290	290				
1376	B区	SD17	須恵器	杯	290	290				
1377	B区	SD17	須恵器	杯	290	290				焼成不良品
1378	B区	SD17	須恵器	碗	294	290				内面に黒痕、転用痕
1379	B区	SD17	須恵器	碗	294	290				
1380	B区	SD17	須恵器	碗	294	290				
1381	B区	SD17	須恵器	杯	294	290				
1382	B区	SD17	須恵器	碗	294	290				
1383	B区	SD17	須恵器	碗	294	290				
1384	B区	SD17	須恵器	碗	294	290				
1385	B区	SD17	須恵器	碗	294	290				
1386	B区	SD17	須恵器	碗	294	290				
1387	B区	SD17	須恵器	碗	294	290				
1388	B区	SD17	須恵器	碗	294	290				内面に火傷
1389	B区	SD17	須恵器	碗	294	290	149			
1390	B区	SD17	須恵器	鉢	294	290				焼成不良品
1391	B区	SD17	須恵器	裝飾高杯	294	290	149			
1392	B区	SD17	須恵器	高杯	294	290				
1393	B区	SD17	須恵器	高杯	294	290				
1394	B区	SD17	須恵器	高杯	294	290				
1395	B区	SD17	須恵器	高杯	294	290				
1396	B区	SD17	須恵器	高杯	294	290				
1397	B区	SD17	須恵器	高杯	294	290				
1398	B区	SD17	須恵器	口ノ	294	290				
1399	B区	SD17	須恵器	壺	294	291				
1400	B区	SD17	須恵器	壺	294	291				
1401	B区	SD17	須恵器	壺	294	291				底部外面に5記号
1402	B区	SD17	須恵器	壺	294	291				
1403	B区	SD17	須恵器	壺	294	291				
1404	B区	SD17	須恵器	壺	294	291				
1405	B区	SD17	須恵器	壺	294	291				
1406	B区	SD17	須恵器	壺	294	291				
1407	B区	SD17	須恵器	壺	294	291				
1408	B区	SD17	須恵器	壺	294	291				
1409	B区	SD17	須恵器	壺	294	291	149			
1410	B区	SD17	須恵器	壺	294	291				
1411	B区	SD17	須恵器	壺	294	291				
1412	B区	SD17	須恵器	壺	294	291				
1413	B区	SD17	須恵器	壺	294	291				
1414	B区	SD17	須恵器	壺	294	291				
1415	B区	SD17	須恵器	壺	294	291				
1416	B区	SD17	須恵器	把手	296	291				
1417	B区	SD17	2寸小埴	-	294	291	149			
1418	B区	SD17	弥生土器	細頸壺	296	291				他地域(吉備)
1419	B区	SD17	弥生土器	脚台	296	291				
1420	B区	SD17	土師器	杯	296	292				
1421	B区	SD17	土師器	杯	296	292				
1422	B区	SD17	土師器	杯	296	292				
1423	B区	SD17	黒色土器	杯	296	292				内黒
1424	B区	SD17	土師器	杯	296	292				(1180と同一)
1425	B区	SD17	土師器	杯	296	292	149			
1426	B区	SD17	土師器	杯	296	292	149			
1427	B区	SD17	土師器	杯	296	292				
1428	B区	SD17	土師器	杯	296	292				
1429	B区	SD17	土師器	杯	296	292				
1430	B区	SD17	土師器	杯	296	292				
1431	B区	SD17	土師器	杯	296	292				
1432	B区	SD17	土師器	杯	296	292	149			
1433	B区	SD17	土師器	杯	296	292				
1434	B区	SD17	土師器	杯	296	292				
1435	B区	SD17	土師器	杯	296	292				
1436	B区	SD17	黒色土器	杯	296	292				
1437	B区	SD17	土師器	碗	296	292				高台内面に赤色顔料
1438	B区	SD17	土師器	碗	296	292				
1439	B区	SD17	土師器	皿	296	292				
1440	B区	SD17	土師器	皿	296	292				
1441	B区	SD17	土師器	鉢	296	292				
1442	B区	SD17	土師器	壺	296	292				
1443	B区	SD17	土師器	壺	296	292				
1444	B区	SD17	土師器	壺	296	292				
1445	B区	SD17	土師器	壺	296	292				
1446	B区	SD17	土師器	壺	296	292				
1447	B区	SD17	土師器	壺	296	292				
1448	B区	SD17	土師器	壺	296	292				
1449	B区	SD17	土師器	羽釜	296	292				
1450	B区	SD17	土師器	把手	296	292				
1451	B区	SD17	土師器	把手	296	292				
1452	B区	SD17	土師器	把手	296	292				
1453	B区	SD17	土師器	壺	296	292				
1454	B区	SD17	瓦器	碗	296	292				和康型
1455	B区	SD17	瓦質土器	碗	296	292				外面に赤色顔料
1456	B区	SD17	瓦	平瓦	296	292				瓦質焼成
1457	B区	SD17	瓦	平瓦	296	292				須恵質 磨滅が著しい
1458	B区	SD17	瓦	平瓦	296	292				土師質 磨滅・剥落が著しい
1459	B区	SD17	瓦	丸瓦	296	292				土師質焼成 突面の磨滅が著しい
1460	B区	SD17	土師器	胡垂	296	292	149			
1461	B区	SD17	土師器	土罐	296	292				
1462	B区	SD17	鉄	鉄片	293	293				
1463	B区	SD17	石器	石鏃	296	293				
1464	B区	SD17	石器	石鏃	296	293				
1465	B区	SD17	石器	石鏃	296	293				未製品
1466	B区	SD17	石器	石鏃	296	293				
1467	B区	SD17	石器	石鏃	296	293	118			
1468	B区	SD17	石器	石鏃	296	293				未製品
1469	B区	SD17	石器	石鏃	296	293				
1470	B区	SD17	石器	石鏃	296	293				

報告番号	地区名	報告遺構名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
1471	B区	SD17	石鏡	石鏡	296	293				
1472	B区	SD17	石鏡	石鏡	296	293				未製品
1473	B区	SD17	石鏡	石鏡	296	293				
1474	B区	SD17	石鏡	石鏡	296	293				未製品
1475	B区	SD17	石鏡	石鏡	296	293				
1476	B区	SD17	石鏡	石鏡	296	293				
1477	B区	SD17	石鏡	石鏡	296	293				
1478	B区	SD17	石鏡	石鏡	296	293				
1479	B区	SD17	石鏡	石鏡	296	293				
1480	B区	SD17	石鏡	石鏡	296	293				
1481	B区	SD17	石鏡	石鏡	296	293				
1482	B区	SD17	石鏡	石鏡	296	293				
1483	B区	SD17	石鏡	石鏡	296	293				
1484	B区	SD17	石鏡	スクレイパー	296	293				
1485	B区	SD17	石鏡	打製石槍丁	296	293				
1486	B区	SD17	石鏡	打製石槍丁	296	293				
1487	B区	SD17	石鏡	打製石槍丁	296	294				
1488	B区	SD17	石鏡	打製石槍丁	296	294				
1489	B区	SD17	石鏡	石斧	296	294				
1490	B区	SD17	石鏡	礫石	296	294				
1491	B区	SD17	石鏡	礫石	296	294				
1492	E区	SD17	須恵器	蓋	296	295				
1493	E区	SD17	須恵器	蓋	296	295				
1494	E区	SD17	須恵器	蓋	296	295				
1495	E区	SD17	須恵器	杯蓋	296	295				
1496	E区	SD17	須恵器	皿	296	295				
1497	E区	SD17	須恵器	杯	296	295				
1498	E区	SD17	須恵器	杯	296	295				
1499	E区	SD17	須恵器	杯	296	295				内外面に火傷痕
1500	E区	SD17	須恵器	杯	296	295				
1501	E区	SD17	須恵器	杯	296	295				
1502	E区	SD17	須恵器	高杯	296	295				
1503	E区	SD17	須恵器	高杯	296	295				
1504	E区	SD17	須恵器	長頸壺	296	295				
1505	E区	SD17	須恵器	壺	296	295				
1506	E区	SD17	須恵器	壺	296	295				
1507	E区	SD17	須恵器	壺	296	295				
1508	E区	SD17	須恵器	壺	296	295				
1509	E区	SD17	須恵器	壺	296	295				
1510	E区	SD17	須恵器	壺	296	295				
1511	E区	SD17	須恵器	壺	296	295				
1512	E区	SD17	須恵器	壺	296	295				
1513	E区	SD17	須恵器	壺	296	295				
1514	E区	SD17	須恵器	壺	296	295				
1515	E区	SD17	須恵器	壺	296	295				
1516	E区	SD17	須恵器	壺	296	295				
1517	E区	SD17	須恵器	壺	296	295				
1518	E区	SD17	土師器	杯	296	295				
1519	E区	SD17	土師器	杯	296	295				
1520	E区	SD17	土師器	皿	296	295				
1521	E区	SD17	土師器	椀	296	295				
1522	E区	SD17	土師器	壺	296	295				
1523	E区	SD17	土師器	把手	296	295				
1524	E区	SD17	土師器	壺	296	295	149			
1525	E区	SD17	土師器	壺	296	295	150			
1526	E区	SD17	石鏡	石鏡	296	295	117			
1527	E区	SD17	石鏡	扁平片刃石斧	296	295				
1528	B区	SD18	弥生土器	広口壺	298	297				他地域?
1529	B区	SD18	弥生土器	壺	298	297				外面に撥形紋
1530	B区	SD18	弥生土器	鉢	298	297		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内外面に赤色顔料,他地域(備中) 赤影(ベンガラ)
1531	B区	SD18	弥生土器	支脚	298	297				
1532	B区	SD18	弥生土器	支脚	298	297	150			
1533	B区	SD18	須恵器	杯蓋	298	297				
1534	B区	SD18	須恵器	蓋	298	297				
1535	B区	SD18	須恵器	杯身	298	297				
1536	B区	SD18	須恵器	杯	298	297				
1537	B区	SD18	須恵器	杯身	298	297				
1538	B区	SD18	須恵器	杯身	298	297				
1539	B区	SD18	須恵器	杯身	298	297				
1540	B区	SD18	須恵器	鉢	299	297				
1541	B区	SD18	須恵器	高杯	299	297				
1542	B区	SD18	須恵器	皿	299	297				
1543	B区	SD18	須恵器	壺	299	297				
1544	B区	SD18	須恵器	壺	299	297				
1545	B区	SD18	須恵器	壺	299	297	150			
1546	B区	SD18	須恵器	壺	299	297				焼成不良品
1547	B区	SD18	須恵器	壺	299	297				
1548	B区	SD18	須恵器	壺	299	297				
1549	B区	SD18	須恵器	壺	299	297				
1550	B区	SD18	須恵器	壺	299	297				
1551	B区	SD18	須恵器	壺	299	297				
1552	B区	SD18	須恵器	壺	299	298				
1553	B区	SD18	須恵器	壺	299	298				
1554	B区	SD18	須恵器	壺	299	298				焼成不良品
1555	B区	SD18	土師器	皿	299	298				
1556	B区	SD18	土師器	杯	299	298				
1557	B区	SD18	土師器	壺	299	298				
1558	B区	SD18	土師器	壺	299	298				
1559	B区	SD18	土師器	壺	299	298				
1560	B区	SD18	土師器	高杯	299	298				
1561	B区	SD18	土師器	高杯	299	298				
1562	B区	SD18	土師器	高杯	299	298				
1563	B区	SD18	玉	ガラス小玉	299	298				
1564	B区	SD18	石鏡	石鏡	299	298	118			
1565	B区	SD18	石鏡	打製石槍丁	299	298				刃部研磨後摩滅
1566	B区	SD19	弥生土器	支脚	299	300				
1567	B区	SD19	須恵器	蓋	299	300				
1568	B区	SD19	須恵器	蓋	299	300				
1569	B区	SD19	須恵器	蓋	299	300				
1570	B区	SD19	須恵器	杯身	299	300				
1571	B区	SD19	須恵器	椀	299	300				
1572	B区	SD19	須恵器	椀	299	300				
1573	B区	SD19	須恵器	壺	299	300				
1574	B区	SD19	須恵器	壺	299	300				
1575	B区	SD19	須恵器	壺	299	300				

報告番号	地区名	報告遺構名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
1576	B区	SD19	須恵器	高杯	299	300				
1577	B区	SD19	須恵器	平瓶	299	300				
1578	B区	SD19	須恵器	甕	299	300				
1579	B区	SD19	須恵器	甕	299	300				
1580	B区	SD19	須恵器	甕	299	300				
1581	B区	SD19	須恵器	甕	299	300				
1582	B区	SD19	須恵器	甕	299	300				
1583	B区	SD19	土師器	杯	299	300				
1584	B区	SD19	土師器	杯	299	300				
1585	B区	SD19	黒色土器	柄	299	300				
1586	B区	SD20	弥生土器	壺	301	300		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内外面に赤色顔料、他地域(吉備) 赤色顔料(ベンガラ)
1587	B区	SD20	須恵器	甕	301	300				
1588	B区	SD20	須恵器	甕	301	300				
1589	B区	SD20	土師器	甕	301	300				
1590	B区	SD20	土師器	甕	301	300				
1591	B区	SD20	土師器	甕	301	300				
1592	B区	SD20	石器	柱状片刃石斧	301	300				
1593	B区	SD21	土師器	杯	301	301				
1594	B区	SD21	土師器	高杯	301	301				
1595	B区	SD21	石器	石鏃	301	301				
1596	B区	SD24	弥生土器	甕	303	302				
1597	B区	SD24	弥生土器	甕	303	302				
1598	E区	SD24	弥生土器	甕	303	302				
1599	B区	SD24	弥生土器	甕	303	302		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内外面に赤色顔料、他地域(吉備) 赤彩(ベンガラ)
1600	B区	SD24	須恵器	杯身	303	302				
1601	E区	SD24	須恵器	高杯	303	302				
1602	B区	SD24	須恵器	甕	303	302				
1603	B区	SD24	土師器	杯	303	302				
1604	B区	SD24	土師器	杯	303	302				
1605	B区	SD24	土師器	壺	303	302				
1606	E区	SD24	弥生土器	支脚	303	302				
1607	B区	SD24	鉄	鉄滓		303				
1608	B区	SD24	石器	石鏃	303	303				
1609	B区	SD24	石器	石鏃	303	303				
1610	B区	SD24	石器	石鏃	303	303				
1611	B区	SD24	石器	石鏃	303	303				
1612	B区	SD24	石器	石鏃	303	303				
1613	B区	SD24	石器	磨製石斧	303	303				
1614	B区	SD24	石器	打製石高丁	304	303				
1615	B区	SD27	弥生土器	壺	303	304				
1616	B区	SD27	弥生土器	甕	304	304				
1617	B区	SD27	弥生土器	鉢	304	304				
1618	E区	SD31	弥生土器	鉢	304	306				
1619	E区	SD31	弥生土器	壺	304	306				他地域?
1620	E区	SD31	弥生土器	壺	304	306				
1621	E区	SD31	弥生土器	甕	304	306				
1622	E区	SD31	弥生土器	鉢	304	306				
1623	E区	SD31	弥生土器	鉢	304	306				内外面に赤色顔料、他地域(備中) 赤彩
1624	E区	SD31	弥生土器	台付鉢	304	306				
1625	E区	SD31	弥生土器	高杯	304	306				
1626	E区	SD31	弥生土器	支脚	304	306	150			
1627	B区	SD31	弥生土器	支脚	304	306				
1628	E区	SD31	弥生土器	壺	304	306				赤彩
1629	B区	SD31	弥生土器	不明土製品	304	306	150			
1630	B区	SD31	弥生土器	甕	306	150				
1631	E区	SD31	須恵器	杯身	304	306				
1632	E区	SD31	須恵器	杯身	304	306				
1633	E区	SD31	須恵器	杯身	304	306				
1634	E区	SD31	須恵器	杯身	304	306				
1635	E区	SD31	須恵器	杯	304	306				
1636	B区	SD31	須恵器	杯身	304	306				
1637	E区	SD31	須恵器	壺	304	306				
1638	E区	SD31	須恵器	杯蓋	304	306				
1639	E区	SD31	須恵器	杯	304	306	150			
1640	B区	SD31	須恵器	杯	304	306	150			
1641	E区	SD31	須恵器	杯	304	306				
1642	E区	SD31	須恵器	杯身	304	306				
1643	E区	SD31	須恵器	杯身	304	306				
1644	E区	SD31	須恵器	杯	304	306				
1645	E区	SD31	須恵器	杯	304	306				
1646	B区	SD31	須恵器	高杯	304	306	150			
1647	B区	SD31	須恵器	高杯	304	306	150			
1648	E区	SD31	須恵器	高杯	304	306				
1649	E区	SD31	須恵器	高杯	304	306				
1650	E区	SD31	須恵器	高杯	304	306				
1651	E区	SD31	須恵器	高杯	304	306				
1652	E区	SD31	須恵器	鉢	304	306				
1653	E区	SD31	須恵器	平瓶	304	306				
1654	B区	SD31	須恵器	平瓶	304	306	151			
1655	E区	SD31	須恵器	平瓶	304	306				
1656	E区	SD31	須恵器	壺	304	307				
1657	B区	SD31	須恵器	甕	304	307				
1658	E区	SD31	須恵器	壺	304	307				
1659	B区	SD31	須恵器	壺	304	307				
1660	B区	SD31	須恵器	長頸壺	304	307				
1661	E区	SD31	須恵器	壺	304	307				
1662	E区	SD31	須恵器	壺	304	307				
1663	E区	SD31	須恵器	壺	304	307				
1664	E区	SD31	須恵器	壺	304	307				
1665	E区	SD31	須恵器	甕	304	307				頸部外面に5記号
1666	E区	SD31	須恵器	甕	304	307				
1667	E区	SD31	須恵器	甕	304	307				
1668	E区	SD31	須恵器	甕	304	307				
1669	E区	SD31	須恵器	甕	304	307				
1670	E区	SD31	須恵器	甕	304	307	151			
1671	B区	SD31	須恵器	甕	304	307	151			
1672	E区	SD31	須恵器	甕	304	307				
1673	E区	SD31	須恵器	甕	304	307				
1674	E区	SD31	須恵器	甕	304	307				
1675	E区	SD31	須恵器	甕	304	307				
1676	B区	SD31	須恵器	甕	304	307				
1677	B区	SD31	須恵器	甕	304	307				
1678	E区	SD31	須恵器	甕	304	307				
1679	E区	SD31	須恵器	甕	304	307				
1680	B区	SD31	須恵器	甕	304	307				

報文番号	地区名	報告通稱名	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
1681	E区	SD31	(須恵緑)	(壺)	304	308	151			
1682	E区	SD31	(須恵緑)	(壺)	304	308				
1683	B区	SD31	窯壁		304	308				
1684	B区	SD31	土師器	杯	305	308				
1685	B区	SD31	土師器	杯	305	308				
1686	E区	SD31	土師器	杯	305	308				
1687	E区	SD31	土師器	杯	305	308				
1688	E区	SD31	土師器	壺	305	308				
1689	B区	SD31	土師器	壺	305	308	151			
1690	B区	SD31	土師器	壺	305	308				
1691	E区	SD31	土師器	壺	305	308				
1692	E区	SD31	土師器	把手付壺	305	308				
1693	E区	SD31	土師器	把手	305	308				
1694	E区	SD31	瓦質土器	壺	305	308				
1695	E区	SD31	瓦質土器	壺	305	308				
1696	E区	SD31	土製品	罎	305	308				
1697	E区	SD31	土師器	管状土師	305	308	151			
1698	E区	SD31	青銅	銅鏡	311	309		青銅器鉛同位体比分析	274	
1699	E区	SD31	玉	ガラス小玉	311	309				
1700	B区	SD31	石鏡	石鏡	311	309				
1701	B区	SD31	石鏡	石鏡	311	309				
1702	B区	SD31	石鏡	石鏡	311	309				
1703	E区	SD31	石鏡	石鏡	311	309				
1704	B区	SD31	石鏡	石鏡	311	309				未製品
1705	E区	SD31	石鏡	打製石剣	311	309				
1706	B区	SD31	石鏡	石鏡	311	309	124			
1707	E区	SD31	石鏡	スクレイパー	311	309				
1708	B区	SD31	石鏡	スクレイパー	311	309				
1709	E区	SD31	石鏡	スクレイパー	311	309				
1710	E区	SD31	石鏡	打製石槍丁	311	309				
1711	E区	SD31	石鏡	打製石槍丁	311	309				
1712	E区	SD31	石鏡	柱状片刃石斧	311	309				
1713	E区	SD31	石鏡	打製石斧	311	309	124			
1714	E区	SD31	石鏡	打製石槍丁	311	309				
1715	E区	SD31	石鏡	摩滅ある剥片	311	310				
1716	B区	SD31	石鏡	叩き石	311	310				
1717	B区	SD31	石鏡	叩き石	311	310	128			
1718	B区	SD31	石鏡	砥石	311	310				
1719	E区	SD31	石鏡	砥石	311	310				
1720	B区	SD31	石鏡	砥石	311	310	122			搬入石材(備前)
1721	E区	SD31	石鏡	砥石	311	310	119			
1722	B区	SD32	弥生土器	ミナガ土器	312	311				
1723	B区	SD32	弥生土器	複合口縁壺	312	311				刃ヶ？
1724	B区	SD32	弥生土器	壺	312	311				
1725	B区	SD32	弥生土器	甗台	312	311				
1726	B区	SD32	弥生土器	壺	312	311				
1727	B区	SD32	弥生土器	高杯	313	311				
1728	B区	SD32	弥生土器	壺	313	311				
1729	B区	SD32	弥生土器	壺	313	311				
1730	B区	SD32	石鏡	石鏡	313	311	118			
1731	B区	SD33	須恵器	杯身	313	312				
1732	B区	SD33	須恵器	杯身	313	312				
1733	B区	SD33	須恵器	杯	313	312				
1734	B区	SD33	須恵器	鉢	313	312				
1735	B区	SD33	須恵器	壺	313	312				
1736	B区	SD33	須恵器	壺	313	312				
1737	B区	SD33	須恵器	壺	313	312				
1738	B区	SD33	須恵器	壺	313	312				
1739	B区	SD33	須恵器	壺	313	312				
1740	B区	SD33	須恵器	壺	313	312				
1741	B区	SD33	須恵器	壺	313	312				
1742	B区	SD33	須恵器	壺	313	312				
1743	B区	SD33	土師器	皿	313	312				
1744	B区	SD33	土師器	壺	313	312				
1745	B区	SD33	石鏡	石鏡	314	312				
1746	B区	SD33	石鏡	石鏡	314	312				
1747	B区	SD35	須恵器	樽	314	313				
1748	B区	SD35	須恵器	壺	314	313				
1749	B区	SD35	土師器	壺	314	313				
1750	B区	SD35	土師器	土釜	314	313				
1751	B区	SD35	須恵器	加工円盤	314	313				
1752	B区	SD35	土師器	加工円盤	314	313				
1753	B区	SD35	瓦	平瓦	314	313				須恵質
1754	B区	SD35	瓦	丸瓦	314	313				磨滅が著しい瓦質焼成
1755	B区	SD35	瓦	丸瓦	314	313				硬い瓦質焼成
1756	B区	SD36	弥生土器	壺	317	315				
1757	B区	SD36	弥生土器	直口壺	317	315		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内外面に赤色顔料、他地域？ 赤彩(ペンガラ)
1758	B区	SD36	弥生土器	壺	317	315				
1759	B区	SD36	須恵器	蓋	317	315				
1760	B区	SD36	須恵器	蓋	317	315				
1761	B区	SD36	須恵器	蓋	317	315				
1762	B区	SD36	須恵器	蓋	317	315				
1763	B区	SD36	須恵器	杯蓋	317	315				
1764	B区	SD36	須恵器	蓋	317	315				
1765	B区	SD36	須恵器	蓋	317	315				
1766	B区	SD36	須恵器	杯	317	315				
1767	B区	SD36	須恵器	杯身	317	315				
1768	B区	SD36	須恵器	杯身	317	315				
1769	B区	SD36	須恵器	杯身	317	315				
1770	B区	SD36	須恵器	杯身	317	315				
1771	B区	SD36	須恵器	杯身	317	315				
1772	B区	SD36	須恵器	杯身	317	315				
1773	B区	SD36	須恵器	杯身	317	315				
1774	B区	SD36	須恵器	杯	317	315				
1775	B区	SD36	須恵器	杯身	317	315				
1776	B区	SD36	須恵器	杯身	317	315				
1777	B区	SD36	須恵器	杯身	317	315				
1778	B区	SD36	須恵器	杯	317	315				
1779	B区	SD36	須恵器	杯	317	315				
1780	B区	SD36	須恵器	杯	317	315				
1781	B区	SD36	須恵器	杯	317	315				
1782	B区	SD36	須恵器	杯身	317	315				
1783	B区	SD36	須恵器	杯身	317	315				
1784	B区	SD36	須恵器	杯	317	315				焼成不良品
1785	B区	SD36	須恵器	杯	317	315				

報文番号	地区名	報告遺構名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
1786	B区	SD36	須恵器	皿	317	315				
1787	B区	SD36	須恵器	皿	317	315				
1788	B区	SD36	須恵器	椀	317	315				
1789	B区	SD36	須恵器	椀	317	315				
1790	B区	SD36	須恵器	椀	317	315				
1791	B区	SD36	須恵器	椀	317	315				
1792	B区	SD36	須恵器	椀	317	315				
1793	B区	SD36	須恵器	小片	317	315				
1794	B区	SD36	須恵器	高杯	317	315				
1795	B区	SD36	須恵器	高杯	317	315				
1796	B区	SD36	須恵器	盤	314	315				
1797	B区	SD36	須恵器	長頸壺	314	315				
1798	B区	SD36	須恵器	壺	317	315				
1799	B区	SD36	須恵器	壺	317	315				
1800	B区	SD36	須恵器	壺	317	315				
1801	B区	SD36	須恵器	壺	317	315				
1802	B区	SD36	須恵器	壺	317	315				
1803	B区	SD36	須恵器	壺	317	315				
1804	B区	SD36	須恵器	壺	317	315				
1805	B区	SD36	須恵器	壺	317	315				
1806	B区	SD36	須恵器	壺	317	316				
1807	B区	SD36	須恵器	壺	317	316				
1808	B区	SD36	須恵器	壺	317	316				
1809	B区	SD36	須恵器	壺	317	316				
1810	B区	SD36	須恵器	壺	317	316				
1811	B区	SD36	須恵器	壺	317	316				
1812	B区	SD36	須恵器	壺	317	316				
1813	B区	SD36	須恵器	壺	317	316				
1814	B区	SD36	須恵器	壺	317	316				
1815	B区	SD36	土師器	杯	317	316				
1816	B区	SD36	土師器	杯	317	316				
1817	B区	SD36	土師器	椀	317	316				
1818	B区	SD36	土師器	壺	317	316				
1819	B区	SD36	土師器	壺	317	316				
1820	B区	SD36	土師器	壺	317	316				
1821	B区	SD36	土師器	壺	317	316				
1822	B区	SD36	土師器	壺	317	316				
1823	B区	SD36	土師器	壺	317	316				
1824	B区	SD36	土師器	壺	317	316				
1825	B区	SD36	土師器	壺	317	316				
1826	B区	SD36	土師器	壺	317	316				
1827	B区	SD36	土師器	壺	317	316				
1828	B区	SD36	土師器	把手	317	316				
1829	B区	SD36	石器	石鏃	317	316				
1830	B区	SD36	石器	石鏃	317	316				
1831	B区	SD36	石器	石鏃	317	316				
1832	B区	SD36	石器	叩き石	317	316				
1833	B区	SD36	石器	磨石	317	316	129			
1834	B区	SD37	弥生土器	高杯	317	317				
1835	B区	SD37	弥生土器	高杯	317	317				
1836	B区	SD38	須恵器	蓋	318	317				
1837	B区	SD39	須恵器	杯蓋	318	318				
1838	B区	SD39	須恵器	杯	318	318				
1839	B区	SD39	須恵器	壺	318	318				
1840	B区	SD42	弥生土器	高杯	318	318				
1841	B区	SD43	須恵器	杯蓋	318	319				
1842	B区	SD43	須恵器	杯蓋	318	319				
1843	B区	SD43	須恵器	壺	318	319				
1844	B区	SD43	須恵器	壺	318	319				
1845	D区	SD44-98	鉄	不明鉄器	319	319				
1846	D区	SD44	石器	尖頭器	320	319				
1847	C区	SD50	須恵器	蓋	320	320				
1848	C区	SD50	須恵器	蓋	320	320				
1849	C区	SD50	須恵器	椀	320	320				
1850	C区	SD50	須恵器	杯	320	320				
1851	C区	SD50	須恵器	杯	320	320				
1852	C区	SD50	須恵器	椀	320	320				外側に火傷痕
1853	C区	SD50	土師器	杯	320	320				
1854	C区	SD50	土師器	椀	320	320				
1855	C区	SD50	石器	打製石屑丁	320	320				
1856	C区	SD50	石器	打製石屑丁	320	320				
1857	C区	SD52	須恵器	蓋	321	321				
1858	C区	SD52	須恵器	杯	320	321				
1859	C区	SD52	須恵器	杯	320	321				
1860	C区	SD52	土師器	鉢	321	321				
1861	C区	SD52	土師器	壺	321	321				
1862	C区	SD52	石器	石鏃	321	321				
1863	C区	SD53	須恵器	椀	322	321				
1864	C区	SD53	須恵器	杯	322	321				
1865	C区	SD53	須恵器	壺	322	321				
1866	C区	SD53	土師器	杯	322	321				
1867	C区	SD53	瓦	平瓦	322	321	151			磨滅がすすむ軟質の須恵質焼成
1868	C区	SD53	石器	石鏃	322	321				未製品
1869	D区	SD60	須恵器	杯	323	322				
1870	D区	SD61	石器	火打石	324	322				
1871	D区	SD62	須恵器	杯	324	323				
1872	E区	SD62	須恵器	蓋	324	323				
1873	D区	SD62	須恵器	杯	324	323				
1874	D区	SD62	須恵器	杯	324	323				
1875	E区	SD62	須恵器	杯	324	323				
1876	E区	SD62	須恵器	壺	324	323				外側に火傷痕
1877	E区	SD62	須恵器	壺	324	323				
1878	E区	SD62	石器	石鏃	325	323				
1879	E区	SD62	石器	石鏃	325	323				
1880	E区	SD62	石器	石鏃	325	323				
1881	E区	SD62	石器	石鏃	325	323				
1882	E区	SD62	石器	石鏃	325	323				
1883	D区	SD67	弥生土器	台付鉢	325	324				
1884	D区	SD67	須恵器	壺	325	324				
1885	D区	SD67	須恵器	壺	325	324				
1886	D区	SD67	須恵器	壺	325	324				
1887	D区	SD67	土師器	壺	325	324				
1888	D区	SD67	玉	ガラス小玉	325	324				
1889	D区	SD67	石器	石鏃	325	324				
1890	D区	SD67	石器	石鏃	325	324				

報文番号	地区名	報告遺構名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
1891	D区	SD70	須恵器	蓋	326	325				
1892	D区	SD70	須恵器	蓋	326	325				
1893	D区	SD70	須恵器	杯	326	325				
1894	D区	SD70	須恵器	杯身	326	325				
1895	D区	SD70	須恵器	柄	326	325				
1896	D区	SD70	須恵器	柄	326	325				
1897	D区	SD70	須恵器	鉢	326	325				
1898	D区	SD70	須恵器	高杯	326	325				
1899	D区	SD70	須恵器	蓋		325				
1900	D区	SD70	土師器	蓋	326	325				内外面に赤色顔料 赤彩か?
1901	D区	SD70	土師器	杯	326	325				
1902	D区	SD70	土師器	蓋	326	325				
1903	D区	SD70	玉	ガラス小玉	326	325				
1904	D区	SD70	石鏡	石鏡	326	325				
1905	D区	SD70	石鏡	石鏡	326	325	124			
1906	D区	SD70	石鏡	砥石	326	325				
1907	D区	SD71	須恵器	壺	326	327				
1908	D区	SD71	石鏡	石鏡	326	327				
1909	D区	SD71	石鏡	石鏡	326	327				
1910	D区	SD71	石鏡	石鏡	326	327				
1911	D区	SD71	石鏡	楕状石鏡	327	327				
1912	D区	SD72	弥生土器	壺	330	328				
1913	D区	SD72	須恵器	蓋	330	328				
1914	D区	SD72	須恵器	蓋	330	328				
1915	D区	SD72	須恵器	杯身	330	328				
1916	D区	SD72	須恵器	杯身	330	328				
1917	D区	SD72	須恵器	杯身	330	328				
1918	D区	SD72	須恵器	杯身	330	328				
1919	D区	SD72	須恵器	皿	330	328				
1920	D区	SD72	須恵器	皿	330	328				
1921	D区	SD72	須恵器	皿	330	328				
1922	D区	SD72	須恵器	皿	330	328				
1923	D区	SD72	須恵器	杯	330	328				
1924	D区	SD72	須恵器	杯	330	328				外面に火燻痕
1925	D区	SD72	須恵器	杯	330	328				
1926	D区	SD72	須恵器	杯	330	328				
1927	D区	SD72	須恵器	杯	330	328				
1928	D区	SD72	須恵器	杯	330	328				内面に火燻痕
1929	D区	SD72	須恵器	杯	330	328				
1930	D区	SD72	須恵器	柄	330	328				
1931	D区	SD72	須恵器	柄	330	328				
1932	D区	SD72	須恵器	柄	330	328				
1933	D区	SD72	須恵器	高杯	330	328				
1934	D区	SD72	須恵器	高杯	330	328				
1935	D区	SD72	須恵器	蓋台	330	328				
1936	D区	SD72	須恵器	壺	330	328				
1937	D区	SD72	須恵器	蓋	330	328				
1938	D区	SD72	須恵器	蓋	330	328				
1939	D区	SD72	須恵器	壺	330	328				
1940	D区	SD72	須恵器	台付壺	330	328	151			
1941	D区	SD72	須恵器	壺	330	328				
1942	D区	SD72	須恵器	壺	330	328				
1943	D区	SD72	須恵器	壺	330	328				
1944	D区	SD72	須恵器	壺	330	328	151			
1945	D区	SD72	須恵器	壺	330	328				
1946	D区	SD72	須恵器	壺	330	328				
1947	D区	SD72	須恵器	壺	330	328				
1948	D区	SD72	須恵器	壺	330	328				
1949	D区	SD72	須恵器	壺	330	328				
1950	D区	SD72	須恵器	壺	330	328				
1951	D区	SD72	須恵器	把手付壺	330	328				
1952	D区	SD72	土師器	杯	330	328				
1953	D区	SD72	土師器	杯	330	328				
1954	D区	SD72	土師器	杯	330	328				
1955	D区	SD72	土師器	杯	330	328				内面に赤色顔料 赤彩か?
1956	D区	SD72	土師器	杯	330	328				
1957	D区	SD72	土師器	杯	330	328				
1958	D区	SD72	土師器	柄	330	328				
1959	D区	SD72	土師器	柄	330	328				
1960	D区	SD72	土師器	壺	330	328				
1961	D区	SD72	土師器	柄	330	328				
1962	D区	SD72	土師器	土鍋	330	328				黒斑あり
1963	D区	SD72	土師器	羽釜	330	328				外面綫以下に灰層
1964	D区	SD72	土師器	壺	330	328				
1965	D区	SD72	土師器	壺	330	328				
1966	D区	SD72	土師器	壺	330	328				
1967	D区	SD72	土師器	壺	330	328				
1968	D区	SD72	土師器	壺	330	328				
1969	D区	SD72	土師器	壺	331	328				
1970	D区	SD72	土師器	壺	331	328				磨滅がすむ
1971	D区	SD72	土師器	壺	331	328				
1972	D区	SD72	土師器	壺	331	328				
1973	D区	SD72	黒色土器	柄	331	328				内黒
1974	D区	SD72	灰釉陶器	皿	331	328				
1975	D区	SD72	瓦	平瓦	331	328				須恵質
1976	D区	SD72	瓦	丸瓦	331	328				瓦質焼成
1977	D区	SD72	瓦	丸瓦	331	328				瓦質焼成
1978	D区	SD72	灰皿	・	331	328	152			
1979	D区	SD72	鉄	鉄球	331	330				
1980	D区	SD72	石鏡	石鏡	331	330				
1981	D区	SD72	石鏡	石鏡	331	330				
1982	D区	SD72	石鏡	打製石磨丁	330	330				
1983	D区	SD76	須恵器	壺	330	330				
1984	D区	SD76	土師器	柄	332	330				
1985	D区	SD76	青銅	銅鏡	332	330		青銅鏡約同位体比分析	274	
1986	D区	SD77	須恵器	柄	332	331				
1987	D区	SD77	須恵器	蓋	332	331				
1988	D区	SD77	土師器	杯	332	331				外面に赤色顔料 赤彩か?
1989	D区	SD77	土師器	壺	332	331				
1990	D区	SD78	土師器	壺	333	331				
1991	D区	SD80	須恵器	壺	333	332				
1992	D区	SD80	土師器	壺	333	332				
1993	D区	SD80	石鏡	スクレイパー	333	332				
1994	D区	SD83	弥生土器	広口壺	333	334	152			他地域(河内)生駒西麓産
1995	D区	SD83	須恵器	杯身	333	334				

報文番号	地区名	報告遺構名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
1996	D区	SD83	須恵器	杯身	333	334				
1997	D区	SD83	須恵器	杯身	333	334				
1998	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
1999	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
2000	D区	SD83	須恵器	杯身	333	334				
2001	D区	SD83	須恵器	杯蓋	333	334				
2002	D区	SD83	須恵器	杯蓋	333	334				
2003	D区	SD83	須恵器	杯蓋	333	334				
2004	D区	SD83	須恵器	杯蓋	333	334				
2005	D区	SD83	須恵器	鉢	333	334				
2006	D区	SD83	須恵器	高杯	333	334				
2007	D区	SD83	須恵器	高杯	333	334				
2008	D区	SD83	須恵器	高杯	333	334				
2009	D区	SD83	須恵器	凡口	333	334				
2010	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
2011	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
2012	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
2013	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
2014	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
2015	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
2016	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
2017	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
2018	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
2019	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
2020	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
2021	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
2022	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
2023	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
2024	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
2025	D区	SD83	須恵器	蓋	333	334				
2026	D区	SD83	土師器	蓋	333	334				
2027	D区	SD83	石器	石鏃	335	335	118			
2028	D区	SD83	石器	石鏃	335	335				
2029	D区	SD83	石器	石鏃	335	335				
2030	D区	SD83	石器	打製石槍丁	335	335				
2031	D区	SD84	弥生土器	蓋	336	336				
2032	D区	SD84	須恵器	杯	336	336				
2033	D区	SD84	須恵器	蓋	336	336				
2034	D区	SD84	須恵器	蓋	336	336				
2035	D区	SD84	土師器	蓋	336	336				
2036	D区	SD85	須恵器	蓋	336	336				
2037	D区	SD85	須恵器	杯	336	336				
2038	D区	SD85	須恵器	蓋	336	336				
2039	E区	SD92	須恵器	杯身	336	336				
2040	D区	SD92	須恵器	杯	336	336				
2041	D区	SD92	須恵器	蓋	336	336				
2042	D区	SD92	須恵器	蓋	336	336				
2043	D区	SD92	石器	石鏃	337	336				
2044	D区	SD92	石器	石鏃	337	336				
2045	D区	SD93	弥生土器	高杯	337	337				外面に赤色顔料、他地域(備中) 赤彩
2046	D区	SD93	須恵器	杯身	337	337				
2047	D区	SD93	須恵器	杯	337	337				
2048	D区	SD93	須恵器	蓋	337	337				
2049	D区	SD93	須恵器	高杯	337	337				
2050	D区	SD93	須恵器	蓋	338	337				
2051	D区	SD93	土師器	把手	338	337				
2052	D区	SD93	石器	石鏃	338	337				
2053	D区	SD93	石器	石鏃	338	337				
2054	E区	SD99	須恵器	杯	338	337				
2055	E区	SD99	須恵器	皿	338	337				
2056	D区	SD99	石器	石鏃	338	337				
2057	E区	SD101	須恵器	蓋	339	338				
2058	E区	SD101	須恵器	蓋	339	338				
2059	E区	SD101	須恵器	蓋	339	338				
2060	E区	SD101	石器	叩き石	339	338				
2061	D区	SD108	須恵器	蓋	339	339	152			口縁外面に写記号
2062	D区	SD108	須恵器	高杯	339	339				
2063	D区	SD108	石器	磨石	339	339	129			
2064	F区	SD113	須恵器	蓋	340	339				焼成不良品
2065	F区	SD113	須恵器	杯	340	339				
2066	F区	SD113	須恵器	杯	340	339				
2067	F区	SD113	土師器	皿	340	339				内外面に赤色顔料 赤彩か?
2068	F区	SD113	土師器	杯	340	339				内外面に赤色顔料 赤彩か?
2069	F区	SD114	須恵器	蓋	340	340				
2070	F区	SD114	須恵器	蓋	340	340				
2071	F区	SD114	須恵器	蓋	340	340				
2072	F区	SD114	須恵器	蓋	340	340				
2073	F区	SD114	土師器	杯	341	340				
2074	F区	SD115	須恵器	杯	341	340				
2075	F区	SD115	須恵器	杯	341	340				
2076	F区	SD115	須恵器	杯	341	340				
2077	F区	SD115	須恵器	蓋	341	340				
2078	F区	SD115	土師器	杯	341	340				
2079	F区	SD116	須恵器	鉢	341	340				
2080	F区	SD117	須恵器	杯身	341	341				
2081	F区	SD117	須恵器	蓋	341	341				
2082	F区	SD117	土師器	蓋	341	341				
2083	F区	SD117	弥生土器	蓋	341	341				
2084	F区	SD122	須恵器	鉢	342	341				
2085	F区	SD122	須恵器	高杯	342	341				
2086	F区	SD124	須恵器	蓋	342	342				
2087	F区	SD124	須恵器	平皿	342	342				
2088	F区	SD124	須恵器	蓋	342	342				
2089	F区	SD124	須恵器	蓋	342	342	152			
2090	F区	SD124	須恵器	蓋	342	342				
2091	F区	SD124	弥生土器	鉢	342	342				
2092	F区	SD124	弥生土器	鉢	342	342				
2093	E区	SD125	須恵器	蓋	344	343	152			
2094	E区	SD127	須恵器	杯	344	343				
2095	D区E区	SD127	須恵器	杯身	345	343				
2096	D区E区	SD127	須恵器	平皿	345	343				
2097	E区	SD127	須恵器	蓋	345	343				内面に写記号
2098	D区E区	SD127	須恵器	蓋	345	343				
2099	E区	SD127	須恵器	蓋	345	343				
2100	E区	SD127	須恵器	蓋	345	343				

報告番号	地区名	報告通称名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
2101	D区E区	SD127	石鏡	石鏡	345	343				
2102	E区	SD128	須恵鏡	把手付鏝	345	344				
2103	E区	SD128	須恵鏡	鏝	345	344	152			
2104	E区	SD128	土師鏡	皿	345	344				内外面に赤色顔料
2105	E区	SD128	土師鏡	皿	345	344				外面に赤色顔料
2106	E区	SD128	土師鏡	把手	346	344				赤彩か?
2107	A区	SX04	弥生土器	広口壺	346	345				赤彩か?
2108	A区	SX04	須恵鏡	杯蓋	346	345				
2109	A区	SX04	須恵鏡	杯	346	345	152			
2110	A区	SX04	土師鏡	甌	346	345				
2111	B区	SX17	須恵鏡	杯	346	345				
2112	B区	SX17	須恵鏡	杯身	346	345				
2113	B区	SX20	鉄	鉄滓	346	346				
2114	D区	SX39	弥生土器	広口壺	347	348				他地域?
2115	D区	SX39	須恵鏡	鏝	347	348				
2116	D区	SX39	土師鏡	甌	347	348				
2117	D区	SX39	石鏡	スクレイパー	348	348				
2118	D区	SX39	石鏡	横状石核	348	348				
2119	D区	SX39	石鏡	叩き石	348	348				
2120	D区	SX41	須恵鏡	蓋	348	348				
2121	D区	SX41	須恵鏡	杯身	348	348				
2122	D区	SX41	須恵鏡	高杯	348	348				
2123	D区	SX41	須恵鏡	鏝	348	348				
2124	D区	SX41	石鏡	横状石核	348	348				石鏡未製品か
2125	A区	SK03	瓦	平瓦	351	351				須恵質
2126	B区	SD23	石鏡	石鏡	351	351				
2127	B区	SD23	石鏡	打製石高丁	351	351				
2128	B区	SD23	石鏡	スクレイパー	351	351				
2129	E区	SD105	玉	ガラス小玉	353	352				
2130	E区	SD105	鉄	毛炭き	353	352				
2131	A区	SX03	弥生土器	鏝	354	353				
2132	A区	SX06	石鏡	磨製石高丁	354	354				
2133	A区	SP321	弥生土器	短頸広口壺		359				
2134	A区	SP479	弥生土器	長頸壺		359				
2135	A区	SP388	弥生土器	広口壺		359				
2136	A区	SP386	弥生土器	広口壺		359				
2137	A区	SP420	弥生土器	広口壺		359				
2138	A区	SP462	弥生土器	広口壺		359				
2139	A区	SP274	弥生土器	鏝		359				
2140	A区	SP233	土師鏡	鏝		359				
2141	A区	SP443	弥生土器	鏝		359				他地域(備後)
2142	A区	SP274	弥生土器	鏝		359				
2143	A区	SP421	弥生土器	無頸壺		359				
2144	A区	SP405	弥生土器	高杯		359				
2145	A区	SP274	弥生土器	鏝		359				
2146	A区	SP276	弥生土器	鏝		359				
2147	A区	SP284	弥生土器	鏝		359				スリップ
2148	A区	SP301	弥生土器	鏝		359				
2149	A区	SP420	弥生土器	鏝		359				
2150	A区	SP284	弥生土器	鏝		359				
2151	A区	SP100	弥生土器	鏝		359				
2152	A区	SP388	弥生土器	鏝		359				
2153	A区	SP492	弥生土器	鏝		359				
2154	A区	SP388	弥生土器	鏝		359				
2155	A区	SP328	弥生土器	鉢		359				
2156	A区	SP283	弥生土器	鉢		359				
2157	A区	SP284	弥生土器	鉢		359				
2158	A区	SP274	弥生土器	鉢		359				
2159	A区	SP83	弥生土器	高杯		359				
2160	A区	SP83	弥生土器	高杯		359				
2161	A区	SP93	弥生土器	高杯		359				
2162	A区	SP444	弥生土器	高杯		359				
2163	A区	SP421	弥生土器	広口壺		359				
2164	A区	SP01	弥生土器	支脚		359	152			
2165	A区	SP492	弥生土器	不明		359				
2166	A区	SP381	弥生土器	不明		359				内面に記号紋
2167	A区	SP54	須恵鏡	杯蓋		360				
2168	A区	SP394	須恵鏡	椀		360				
2169	A区	SP278	須恵鏡	杯		360				
2170	A区	SP278	須恵鏡	杯		360				
2171	A区	SP278	土師鏡	鏝		360				
2172	A区	SP112	土師鏡	杯		360				
2173	A区	SP263	土師鏡	小皿		360				
2174	A区	SP208	土製品	羽口		360				
2175	A区	A区柱穴	石鏡	石鏡	358	360				
2176	A区	A区柱穴	石鏡	石鏡	358	360				未製品
2177	A区	A区柱穴	石鏡	石鏡	358	360				
2178	A区	A区柱穴	石鏡	石鏡	358	360	118			
2179	A区	A区柱穴	石鏡	磁石	358	360				磨製石高丁に転用か
2180	A区	A区柱穴	石鏡	磁石	358	360				
2181	A区	A区柱穴	石鏡	叩き石	358	360				
2182	B区	SP884	弥生土器	細頸壺		362				
2183	B区	SB10(SP790)	弥生土器	広口壺	358	362		赤色顔料の蛍光X線分析	394	
2184	B区	SP798	弥生土器	広口壺		362				
2185	B区	SP846	弥生土器	鏝		362				
2186	B区	SP664	弥生土器	鏝		362				
2187	B区	SP850	弥生土器	鏝		362				
2188	B区	SP854	弥生土器	鏝		362				
2189	B区	SP558	弥生土器	鉢		362	152			
2190	B区	SP758	須恵鏡	鏝		362				
2191	B区	SP746	須恵鏡	椀		362				
2192	B区	SP746	須恵鏡	蓋		362				
2193	B区	SP786	黒色土器	椀		362				内黒
2194	B区	B区柱穴	鉄	毛炭き		362				
2195	B区	B区柱穴	石鏡	石鏡	358	362				
2196	B区	B区柱穴	石鏡	石鏡	358	362				
2197	B区	B区柱穴	石鏡	火打石	358	362				
2198	B区	B区柱穴	石鏡	柱状片刃石斧?	360	362				
2199	B区	B区柱穴	石鏡	磁石	360	362	119			
2200	B区	B区柱穴	石鏡	石鏡	360	362				
2201	B区	B区柱穴	石鏡	磁石	360	362				
2202	C区	SP1284	弥生土器	広口壺		363				
2203	C区	SP1284	弥生土器	広口壺		363				
2204	C区	SP1006	弥生土器	細頸長頸壺		363				
2205	C区	SP1195	弥生土器	短頸広口壺		363				

報文番号	地区名	報告遺構名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
2206	C区	SP1182	弥生土器	広口壺		363				
2207	C区	SP1210	弥生土器	広口壺		363				
2208	C区	SP1035	弥生土器	広口壺		363				
2209	C区	SP1282	弥生土器	甕		363				
2210	C区	SP1210	弥生土器	甕		363				他地域(吉備)
2211	C区	SP1006	弥生土器	甕		363				
2212	C区	SP1184	弥生土器	甕		363				
2213	C区	SP1037	弥生土器	甕		363				
2214	C区	SP1006	弥生土器	甕		363				
2215	C区	SP904	弥生土器	甕		363				
2216	C区	SP1006	弥生土器	甕		363				
2217	C区	SP1319	弥生土器	鉢		363				
2218	C区	SP1032	弥生土器	高杯		363				
2219	C区	SP1159	弥生土器	裝飾高杯		363				
2220	C区	SP1162	弥生土器	台付鉢	358	363				
2221	C区	SP1006	弥生土器	台付鉢		363				
2222	C区	SP1279	縄文土器	漆鉢		363				
2223	C区	C区柱穴	石器	石鏃	361	363				
2224	C区	C区柱穴	石器	石鏃	361	363				
2225	C区	C区柱穴	石器	石鏃	361	363	118			
2226	C区	C区柱穴	石器	石鏃	361	363				
2227	C区	C区柱穴	石器	石鏃	361	363				
2228	C区	C区柱穴	石器	打製石磨丁	361	363				
2229	C区	C区柱穴	石器	模状石核	361	363				
2230	C区	C区柱穴	石器	使用痕ある剥片	361	363				打製石磨丁に転用か
2231	C区	C区柱穴	石器	打製石磨丁	361	364				
2232	C区	C区柱穴	石器	石核	361	364				
2233	C区	C区柱穴	石器	摩滅ある剥片	361	364				回転部最大径：0.8cm 長さ：0.45cm
2234	C区	C区柱穴	石器	摩滅ある剥片	361	364				
2235	C区	C区柱穴	石器	模状石核	361	364				
2236	C区	C区柱穴	石器	模状石核	361	364				
2237	C区	C区柱穴	石器	模状石核	361	364				
2238	C区	C区柱穴	石器	石核	361	364				
2239	C区	C区柱穴	石器	剥片(接合資料)	361	364				側縁加工後に分割
2240	D区	SP826	弥生土器	広口壺	358	365				
2241	D区	SP1657	弥生土器	長頸壺		365				
2242	D区	SP1397	弥生土器	甕		365				他地域(備後)
2243	D区	SP826	弥生土器	甕	358	365				
2244	D区	SP1685	弥生土器	甕		365				
2245	D区	SP1598	弥生土器	甕		365				
2246	D区	SP1684	弥生土器	甕		365				
2247	D区	SP1473	弥生土器	甕		365				
2248	D区	SP1473	弥生土器	甕		365				
2249	D区	SP826	弥生土器	甕	358	365				
2250	D区	SP1635	弥生土器	甕		365				
2251	D区	SP1473	弥生土器	甕		365				
2252	D区	SB17 (SP1671)	弥生土器	甕		365				
2253	D区	SP1526	弥生土器	鉢		365				
2254	D区	SP1735	弥生土器	鉢		365				
2255	D区	SP1684	弥生土器	鉢		365				
2256	D区	SB17 (SP1653)	弥生土器	甕		365				
2257	D区	SP1896	弥生土器	甕		365				
2258	D区	SP1424	須恵器	杯		365				
2259	D区	SP1354	土師器	杯		365				
2260	D区	D区柱穴	石器	石鏃	361	365				
2261	D区	D区柱穴	石器	石鏃	361	365	118			
2262	D区	D区柱穴	石器	模状石核	361	365				
2263	E区	SP1897	弥生土器	甕		366				
2264	E区	SP1876	弥生土器	支脚		366	153			
2265	E区	SP1501	土師器	小皿		366				
2266	F区	SP1720	弥生土器	広口壺		366				
2267	F区	SP1832	弥生土器	広口壺	216,358	366				
2268	F区	SP1723	弥生土器	甕		366				
2269	F区	SB20 (SP1772)	弥生土器	甕		366				
2270	F区	SB20 (SP1772)	弥生土器	甕		366				
2271	F区	SP1723	弥生土器	鉢		366				
2272	F区	SP1760	弥生土器	鉢		366				
2273	F区	SP1810	弥生土器	鉢		366				
2274	F区	SP1755	須恵器	杯		366				内外面に火傷
2275	F区	SP1822	須恵器	杯		366				
2276	F区	SP1757	須恵器	杯		366				
2277	F区	SP1776	土師器	杯		366				
2278	F区	SP1776	黒色土器	杯		366				内黒
2279	F区	SP1745	須恵器	甕		366				
2280	F区	SR01	弥生土器	大型壺	2	4				
2281	F区	SR01	弥生土器	広口壺	2	4	102,153			
2282	F区	SR01	弥生土器	広口壺	2	4				
2283	F区	SR01	弥生土器	広口壺	2	4				
2284	F区	SR01	弥生土器	広口壺	2	4				
2285	F区	SR01	弥生土器	広口壺	2	4				
2286	F区	SR01	弥生土器	広口壺	2	4				
2287	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2288	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2289	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2290	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2291	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2292	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2293	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2294	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2295	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2296	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2297	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2298	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2299	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2300	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2301	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2302	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4	102,153			
2303	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4	102			赤彩
2304	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2305	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2306	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2307	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2308	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4	102			
2309	F区	SR01	弥生土器	甕	2	4				
2310	F区	SR01	弥生土器	甕	2	5				

報文番号	地区名	報告書名	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
2311	F区	SR01	弥生土器	甕	2	5				
2312	F区	SR01	弥生土器	甕	2	5				
2313	F区	SR01	弥生土器	甕	2	5				
2314	F区	SR01	弥生土器	鉢	2	5				
2315	F区	SR01	弥生土器	鉢	2	5				
2316	F区	SR01	弥生土器	鉢	2	5				
2317	F区	SR01	弥生土器	鉢	2	5	102,153			
2318	F区	SR01	弥生土器	鉢	2	5		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料
2319	F区	SR01	弥生土器	蓋	2	5				
2320	F区	SR01	弥生土器	蓋	2	5				
2321	F区	SR01	弥生土器	蓋	2	5				
2322	F区	SR01	弥生土器	蓋	2	5				
2323	F区	SR01	縄文土器	浅鉢	2	5				
2324	A区	SR01	弥生土器	甕	2	5				
2325	A区	SR01	弥生土器	甕	2	5				
2326	A区	SR01	弥生土器	高杯	2	5				
2327	F区	SR01	石器	石鏃	2	5				
2328	A区	SR01	石器	石鏃	2	5				
2329	F区	SR01	石器	打製石高丁	2	5				
2330	F区	SR01	石器	打製石高丁	2	5				
2331	F区	SR01	石器	磨製石斧	2	6				
2332	F区	SR01	石器	柱状片刃石斧	2	6				
2333	F区	SR01	石器	石棒	2	6	128			
2334	B区	SR02 最下層下位	縄文土器	甕	9	10				
2335	B区	SR02 最下層下位	弥生土器	甕	9	10				底部外側に種子付痕
2336	B区	SR02 最下層下位	縄文土器	深鉢	9	10		放射性炭素年代測定	213	
2337	B区	SR02 最下層下位	縄文土器	浅鉢	9	10	153			
2338	B区	SR02 最下層下位	弥生土器	土釜	10	10				
2339	B区	SR02 最々下層	石器	打製石斧	9	10	124			
2340	B区	SR02 最々下層	木器	杭	9	10	165	樹種同定	254	芯持ちアカガシ産属 芯持ち
2341	B区	SR02 最下層番号取り上げ	弥生土器	広口壺	13	14	103,153			
2342	B区	SR02 最下層番号取り上げ	弥生土器	広口壺	13	14				
2343	B区	SR02 最下層番号取り上げ	弥生土器	細頸長頸壺	13	14				
2344	B区	SR02 最下層番号取り上げ	弥生土器	細頸長頸壺	13	14				
2345	B区	SR02 最下層番号取り上げ	弥生土器	細頸長頸壺	13	14				
2346	B区	SR02 最下層番号取り上げ	弥生土器	広口壺	13	14				
2347	B区	SR02 最下層番号取り上げ	弥生土器	広口壺	13	14				
2348	B区	SR02 最下層番号取り上げ	弥生土器	甕	13	14				
2349	B区	SR02 最下層番号取り上げ	弥生土器	甕	13	14				
2350	B区	SR02 最下層番号取り上げ	弥生土器	甕	13	14				
2351	B区	SR02 最下層番号取り上げ	弥生土器	甕	13	14				
2352	B区	SR02 最下層番号取り上げ	弥生土器	甕	13	14	153			
2353	B区	SR02 最下層番号取り上げ	弥生土器	甕	13	15				
2354	B区	SR02 最下層番号取り上げ	弥生土器	ジョッキ形土器	13	15				
2355	B区	SR02 最下層番号取り上げ	弥生土器	ジョッキ形土器	13	15				
2356	B区	SR02 最下層番号取り上げ	弥生土器	台付鉢	13	15				
2357	B区	SR02 最下層番号取り上げ	弥生土器	台付鉢	13	15				
2358	B区	SR02 最下層番号取り上げ	木器	板状木製品	13	15	165	樹種同定	254	板目材アスナロ 板目材
2359	B区	SR02 最下層番号取り上げ	木器	杭	13	15		樹種同定	265	イヌマキ
2360	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	広口壺	13	16				
2361	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	広口壺	13	16				
2362	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	広口壺	13	16				
2363	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	広口壺	13	16				
2364	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	細頸長頸壺	13	16				
2365	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	広口壺	13	16				
2366	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	細頸壺	13	16				
2367	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	甕	13	16				
2368	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	甕	13	16				
2369	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	甕	13	16				
2370	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	甕	13	16				
2371	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	甕	13	16				
2372	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	蓋	13	16				
2373	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	鉢	13	16				
2374	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	鉢	13	16				
2375	E区東側	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	鉢	13	16				
2376	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	高杯	13	16	104			
2377	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	高杯	13	16				
2378	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	小型壺	13	16				
2379	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	甕	13	16				
2380	B区	SR02 最下層一括取り上げ	弥生土器	甕	13	16				
2381	E区東側	SR02 最下層一括取り上げ	縄文土器	深鉢	13	16				
2382	E区東側	SR02 最下層一括取り上げ	石器	石鏃	17	17	118			
2383	B区	SR02 最下層一括取り上げ	石器	スクレイパー	17	17				
2384	B区	SR02 最下層一括取り上げ	石器	スクレイパー	17	17				
2385	E区東側	SR02 最下層一括取り上げ	石器	打製石高丁	17	17				
2386	B区	SR02 最下層一括取り上げ	石器	磨製石斧	17	17				
2387	E区	SR02 最下層一括取り上げ	木器	杭	9	17	165	樹種同定	254	芯持ちアカガシ産属 芯持ち
2388	E区	SR02 最下層一括取り上げ	木器	板状木製品	9	17	165	樹種同定	254	板目材アカガシ産属 板目材
2389	E区東	SR02 下層下位	弥生土器	広口壺	18	19				
2390	B区	SR02 下層下位	弥生土器	広口壺	18	19				
2391	E区東	SR02 下層下位	弥生土器	広口壺	18	19				
2392	E区東	SR02 下層下位	弥生土器	広口壺	18	19				
2393	E区	SR02 下層下位	弥生土器	広口壺	18	19				
2394	B区	SR02 下層下位	弥生土器	広口壺	18	19				
2395	E区東	SR02 下層下位	弥生土器	広口壺	18	19				
2396	E区東	SR02 下層下位	弥生土器	広口壺	18	19				
2397	B区	SR02 下層下位	弥生土器	広口壺	18	19				
2398	B区	SR02 下層下位	弥生土器	広口壺	18	19				
2399	E区	SR02 下層下位	弥生土器	広口壺	18	19				
2400	E区東	SR02 下層下位	弥生土器	広口壺	18	19				
2401	B区	SR02 下層下位	弥生土器	広口壺	18	19				
2402	E区東	SR02 下層下位	弥生土器	短頸広口壺	18	19				
2403	B区	SR02 下層下位	弥生土器	短頸広口壺	18	19				
2404	E区東	SR02 下層下位	弥生土器	広口壺	18	19				
2405	B区	SR02 下層下位	弥生土器	広口壺	18	19				
2406	E区東	SR02 下層下位	弥生土器	広口壺	18	19				
2407	E区東	SR02 下層下位	弥生土器	細頸長頸壺	18	19				
2408	B区	SR02 下層下位	弥生土器	細頸長頸壺	18	19				
2409	E区東	SR02 下層下位	弥生土器	細頸長頸壺	18	19				
2410	E区東	SR02 下層下位	弥生土器	細頸長頸壺	18	19				
2411	B区	SR02 下層下位	弥生土器	細頸長頸壺	18	19				
2412	E区	SR02 下層下位	弥生土器	細頸長頸壺	18	19				
2413	B区	SR02 下層下位	弥生土器	細頸長頸壺	18	19				
2414	E区	SR02 下層下位	弥生土器	細頸長頸壺	18	19				
2415	B区	SR02 下層下位	弥生土器	細頸長頸壺	18	19				

報告番号	地区名	報告箇所名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
2416	B区	SR02 下層下位	珪生土層	繊維長顕微鏡	18	19				
2417	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	繊維顕微鏡	18	20				
2418	B区	SR02 下層下位	珪生土層	無顕微鏡	18	20				
2419	B区	SR02 下層下位	珪生土層	広口壺	18	20				
2420	B区	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2421	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2422	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2423	B区	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2424	B区	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2425	B区	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2426	B区	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2427	E区	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2428	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2429	B区	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2430	B区	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2431	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2432	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20	154			
2433	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	鉢	18	20				
2434	B区	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2435	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2436	B区	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2437	E区	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2438	B区	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2439	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	20				
2440	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	21				
2441	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	21				
2442	B区	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	21				
2443	B区	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	21				
2444	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	21				
2445	B区	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	21				
2446	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	鉢	18	21				他地域(豊前)
2447	B区	SR02 下層下位	珪生土層	台付鉢	18	21				
2448	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	台付鉢	18	21				
2449	B区	SR02 下層下位	珪生土層	ジョッキ形土器	18	21				
2450	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	ジョッキ形土器	18	21				
2451	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	台付鉢	18	21				
2452	B区	SR02 下層下位	珪生土層	鉢	18	21				
2453	B区	SR02 下層下位	珪生土層	鉢	18	21				
2454	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	鉢	18	21				
2455	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	台付鉢	18	21				
2456	E区	SR02 下層下位	珪生土層	台付鉢	18	21				
2457	B区	SR02 下層下位	珪生土層	台付鉢	18	21				
2458	E区	SR02 下層下位	珪生土層	高杯	18	21				
2459	B区	SR02 下層下位	珪生土層	蓋	18	21				
2460	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	蓋	18	21				
2461	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	蓋	18	21				
2462	E区	SR02 下層下位	珪生土層	台付鉢	18	21				
2463	B区	SR02 下層下位	珪生土層	回転台形土器	18	21				
2464	E区東	SR02 下層下位	珪生土層	壺	18	21				
2465	B区	SR02 下層	土製品	紡錘車	18	21	114			転用品
2466	E区	SR02 下層下位	土製品	紡錘車	18	21	114			転用品、未成器穿孔土
2467	E区	SR02 下層下位	石器	石鏃	18	22				
2468	E区	SR02 下層下位	石器	磨入石材剥片	18	22				
2469	E区	SR02 下層下位	石器	槍刃石斧	18	22				
2470	B区	SR02 下層下位	石器	打製石斧丁	18	22				
2471	E区	SR02 下層下位	石器	大形打製石斧丁	18	22	128			
2472	E区	SR02 下層下位	木器	把手状木製品	25	23		樹種同定	249	板目材ヒノキ 板目材
2473	E区	SR02 下層下位	木器	板状木製品	25	23		樹種同定	265	ヒノキ
2474	E区	SR02 下層下位	木器	角状木製品	25	23		樹種同定	249	板目材ヒノキ 板目材
2475	E区	SR02 下層下位	木器	棒状木製品	25	23	165	樹種同定	254	板目材マツ属(二葉松類) 板目材
2476	E区	SR02 下層下位	木器	棒状木製品	25	23	165	樹種同定	254	板目材マツ属(二葉松類) 板目材
2477	E区	SR02 下層下位	木器	板状木製品	25	23		樹種同定	249	板目材ヒノキ 板目材
2478	E区	SR02 下層下位	木器	板状木製品	25	23		樹種同定	249	板目材ヒノキ 板目材
2479	E区	SR02 下層下位	木器	板状木製品	25	24	165	樹種同定	254	板目材アスナロ 板目材
2480	E区	SR02 下層下位	木器	板状木製品	25	24	165	樹種同定	254	板目材アスナロ 板目材
2481	E区	SR02 下層下位	木器	板状木製品	25	24	165	樹種同定	254	板目材アスナロ 板目材
2482	E区	SR02 下層下位	木器	板状木製品	25	24	166	樹種同定	254	板目材アスナロ 板目材
2483	E区	SR02 下層下位	木器	板状木製品	25	24		樹種同定	249	板目材アスナロ 板目材
2484	E区	SR02 下層下位	木器	板状木製品	25	24		樹種同定	249	板目材アスナロ 板目材
2485	E区	SR02 下層下位	木器	板状木製品	25	24	166	樹種同定	254	板目材アスナロ 板目材
2486	E区	SR02 下層下位	木器	板状木製品	25	24	166	樹種同定	254	板目材アスナロ 板目材
2487	E区東	SR02 下層南半	珪生土層	広口壺	25	26	153			
2488	E区東	SR02 下層南半	珪生土層	広口壺	25	26				
2489	D・E区西	SR02 下層南半	珪生土層	広口壺	25	26				
2490	E区東	SR02 下層南半	珪生土層	広口壺	25	26				
2491	D・E区西	SR02 下層南半	珪生土層	広口壺	25	26				
2492	E区	SR02 下層南半	珪生土層	広口壺	25	26				
2493	D・E区西	SR02 下層南半	珪生土層	広口壺	25	26				
2494	D・E区西	SR02 下層南半	珪生土層	広口壺	25	26				
2495	E区西南	SR02 下層南半	珪生土層	広口壺	25	26				
2496	E区西南	SR02 下層南半	珪生土層	広口壺	25	26				
2497	D・E区西	SR02 下層南半	珪生土層	広口壺	25	26				
2498	E区	SR02 下層南半	珪生土層	壺口壺	25	26	154			
2499	E区東	SR02 下層南半	珪生土層	壺口壺	25	26				
2500	E区東	SR02 下層南半	珪生土層	壺口壺	25	26				
2501	D・E区西	SR02 下層南半	珪生土層	壺口壺	25	26				
2502	D・E区西	SR02 下層南半	珪生土層	壺口壺	25	26				
2503	D・E区西	SR02 下層南半	珪生土層	壺口壺	25	26				
2504	D・E区西	SR02 下層南半	珪生土層	繊維長顕微鏡	25	27	104,105,154	105		
2505	E区東	SR02 下層南半	珪生土層	繊維長顕微鏡	25	27				
2506	D・E区西	SR02 下層南半	珪生土層	繊維長顕微鏡	25	27				
2507	E区東	SR02 下層南半	珪生土層	繊維長顕微鏡	25	27				
2508	E区東	SR02 下層南半	珪生土層	繊維長顕微鏡	25	27				
2509	E区東	SR02 下層南半	珪生土層	繊維長顕微鏡	25	27				
2510	D・E区西	SR02 下層南半	珪生土層	繊維長顕微鏡	25	27				
2511	D・E区西	SR02 下層南半	珪生土層	繊維長顕微鏡	25	27				
2512	D・E区西	SR02 下層南半	珪生土層	無顕微鏡	25	27				
2513	E区東	SR02 下層南半	珪生土層	無顕微鏡	25	27				
2514	E区東	SR02 下層南半	珪生土層	壺	25	27				
2515	D・E区東	SR02 下層南半	珪生土層	壺	25	27				
2516	D・E区西	SR02 下層南半	珪生土層	壺	25	27				
2517	E区	SR02 下層南半	珪生土層	壺	25	27				
2518	D・E区西	SR02 下層南半	珪生土層	壺	25	27				
2519	E区	SR02 下層南半	珪生土層	壺	25	27		放射性炭素年代測定	213	
2520	E区東	SR02 下層南半	珪生土層	壺	25	27				

報文番号	地区名	報告品名	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
2521	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	27				
2522	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	27				
2523	E区東	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	27				
2524	E区東	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	27				
2525	E区	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	27				
2526	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	28				
2527	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	28				
2528	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	28				
2529	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	28				
2530	D・E区東	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	28				
2531	E区東	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	28				
2532	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	28				
2533	E区東	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	28		放射性炭素年代測定	213	
2534	E区高側	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	28				
2535	E区高側	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	28				
2536	E区東	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	28				
2537	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	28				
2538	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	甕	25	28				
2539	E区	SR02 下層南半	弥生土器	鉢	25	28				
2540	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	鉢	25	28				
2541	E区	SR02 下層南半	弥生土器	鉢	25	28				
2542	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	鉢	25	28				
2543	E区	SR02 下層南半	弥生土器	鉢	25	28				
2544	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	鉢	25	28				
2545	E区高側	SR02 下層南半	弥生土器	鉢	25	29				
2546	E区	SR02 下層南半	弥生土器	ジョッキ形土器	25	29				
2547	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	台付鉢	25	29				
2548	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	鉢	25	29	104,154			
2549	E区東	SR02 下層南半	弥生土器	鉢	25	29				
2550	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	鉢	25	29				
2551	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	蓋?	25	29				他地域?
2552	D・E区東	SR02 下層南半	弥生土器	鉢	25	29				
2553	D・E区東	SR02 下層南半	弥生土器	ジョッキ形土器把手	25	29				
2554	E区東	SR02 下層南半	弥生土器	台付鉢	25	29				
2555	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	台付鉢	25	29				
2556	E区東	SR02 下層南半	弥生土器	台付鉢	25	29				
2557	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	台付鉢	25	29				
2558	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	台付鉢	25	29				
2559	E区高側	SR02 下層中位	弥生土器	高杯	25	29				
2560	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	高杯	25	29				
2561	E区	SR02 下層南半	弥生土器	高杯	25	29				
2562	E区東	SR02 下層南半	弥生土器	蓋	25	29				
2563	E区高側	SR02 下層南半	弥生土器	蓋	25	29				
2564	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	蓋	25	29				
2565	E区東	SR02 下層南半	弥生土器	蓋	25	29				
2566	E区高側	SR02 下層南半	弥生土器	ミニチュア甕	25	29				
2567	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	回転台形土器	25	30				
2568	E区	SR02 下層南半	弥生土器	回転台形土器	25	30				
2569	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	広口甕	25	30				
2570	D・E区西	SR02 下層南半	縄文土器	漆鉢	25	30				
2571	D・E区西	SR02 下層南半	弥生土器	土製品	25	30				
2572	E区高側	SR02 下層南半	弥生土器	土製品	25	30				
2573	E区東	SR02 下層南半	石器	石鏃	25	30				
2574	E区高側	SR02 下層南半	石器	打製石鏃丁	25	30				
2575	E区高側	SR02 下層南半	石器	スクレイパー	25	30				
2576	D・E区東	SR02 下層南半	石器	打製石鏃丁	25	30				
2577	E区高側	SR02 下層南半	石器	磨石	25	31				
2578	E区	SR02 下層南半	石器	叩き石	30	31	130			
2579	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	30	32	166	樹種同定	254	板目材アスナロ
2580	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	30	32	166	樹種同定	254	板目材アスナロ
2581	E区	SR02 下層南半	木器	有孔板状木製品	30	32	166	樹種同定	254	板目材アスナロ
2582	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	30	32	166	樹種同定	254	板目材アスナロ
2583	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	30	32	166	樹種同定	254	板目材アスナロ
2584	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	30	32	167	樹種同定	254	板目材アスナロ
2585	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	30	32	167	樹種同定	254	板目材アスナロ
2586	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	30	32	167	樹種同定	254	板目材アスナロ
2587	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	30	32	167	樹種同定	254	板目材アスナロ
2588	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	30	32	167	樹種同定	254	板目材アスナロ
2589	E区	SR02 下層南半	木器	盤状容器	30	32		樹種同定	249	板目材クスノキ
2590	E区	SR02 下層南半	木器	盤状容器	30	32		樹種同定	249	板目材クスノキ
2591	E区	SR02 下層南半	木器	半截材木製品	30	32		樹種同定	249	半截
2592	E区	SR02 下層南半	木器	棒状木製品	30	32		樹種同定	249	芯外しクスノキ
2593	E区	SR02 下層南半	木器	鏝	30	33	167	樹種同定	249	板目材アカガシ垂属
2594	E区	SR02 下層南半	木器	鏝	30	33	167	樹種同定	249	板目材アカガシ垂属
2595	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	31	33		樹種同定	249	斜めアカガシ垂属
2596	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	31	33	167	樹種同定		板目材アカガシ垂属
2597	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	33	33	168	樹種同定		板目材アカガシ垂属
2598	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	31	33	168	樹種同定		板目材シノ属
2599	E区	SR02 下層南半	木器	曲棒状木製品	31	33		樹種同定	249	板目材マタタビ属
2600	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	31	33	168	樹種同定		板目材アオキ
2601	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	30	34		樹種同定	249	板目材ヒノキ
2602	E区	SR02 下層南半	木器	有孔板状木製品	30	34		樹種同定	249	板目材ヒノキ
2603	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	30	34		樹種同定	249	板目材ヒノキ
2604	E区	SR02 下層南半	木器	有孔板状木製品	30	34		樹種同定	249	斜めヒノキ
2605	E区	SR02 下層南半	木器	棒状木製品	30	34		樹種同定	249	板目材ヒノキ
2606	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	30	34		樹種同定	249	板目材ヒノキ
2607	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	30	34		樹種同定	249	板目材ヒノキ
2608	E区	SR02 下層南半	木器	板状木製品	30	34		樹種同定	249	板目材ヒノキ
2609	E区高側	SR02 下層北半	弥生土器	広口甕	36	35				
2610	E区高側	SR02 下層北半	弥生土器	広口甕	36	35				
2611	E区高側	SR02 下層北半	弥生土器	広口甕	36	35				
2612	E区高側	SR02 下層北半	弥生土器	短頸広口甕	36	35				
2613	E区高側	SR02 下層北半	弥生土器	細頸長頸甕	36	35				
2614	E区高側	SR02 下層北半	弥生土器	細頸長頸甕	36	35				
2615	E区高側	SR02 下層北半	弥生土器	細頸長頸甕	36	35				
2616	E区高側	SR02 下層北半	弥生土器	細頸長頸甕	36	35				
2617	E区高側	SR02 下層北半	弥生土器	細頸長頸甕	36	35				
2618	E区高側	SR02 下層北半	弥生土器	細頸甕	34	35				他地域?
2619	E区高側	SR02 下層北半	弥生土器	甕	34	35		赤色顔料の蛍光X線分析	394	
2620	E区高側	SR02 下層北半	弥生土器	甕	34	35				
2621	E区高側	SR02 下層北半	弥生土器	甕	34	35				
2622	E区高側	SR02 下層北半	弥生土器	甕	34	35				
2623	E区高側	SR02 下層北半	弥生土器	甕	34	35				
2624	E区高側	SR02 下層北半	弥生土器	甕	34	35				
2625	E区高側	SR02 下層北半	弥生土器	甕	36	35				

報告番号	地区名	報告遺構名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
2626	E 区西側	SR02 下層北半	弥生土器	甕	36	35				
2627	E 区西側	SR02 下層北半	弥生土器	甕	36	35				
2628	E 区西側	SR02 下層北半	弥生土器	甕	36	35				
2629	E 区西側	SR02 下層北半	弥生土器	甕	36	35				
2630	E 区西側	SR02 下層北半	弥生土器	甕	36	35				
2631	E 区西側	SR02 下層北半	弥生土器	甕	34	35				
2632	E 区西側	SR02 下層北半	弥生土器	鉢	34	35				
2633	E 区西側	SR02 下層北半	弥生土器	台付鉢	34	35				
2634	E 区西側	SR02 下層北半	弥生土器	台付鉢	34	35				
2635	E 区西側	SR02 下層北半	弥生土器	台付鉢	34	35				
2636	E 区西側	SR02 下層北半	弥生土器	ジョッキ形土器	36	35				
2637	E 区西側	SR02 下層北半	弥生土器	高杯	36	35				
2638	E 区西側	SR02 下層北半	弥生土器	高杯	34	35				
2639	E 区西側	SR02 下層北半	弥生土器	回転台形土器	36	35				
2640	E 区西側	SR02 下層北半	弥生土器	小壺	36	35				
2641	E 区西側	SR02 下層北半	弥生土器	漆文	36	35				
2642	E 区西側	SR02 下層北半	石器	打製石砲丁	36	36				
2643	E 区西側	SR02 下層北半	石器	打製石砲丁	36	36				
2644	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	広口壺	37	38				
2645	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	広口壺	37	38				
2646	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	広口壺	37	38				
2647	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	広口壺	37	38	154			
2648	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	広口壺	37	38	104,105			
2649	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	広口壺	37	38	103,104			
2650	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	広口壺	37	38				
2651	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	壺	37	38				
2652	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	短頸広口壺	37	38				
2653	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	短頸広口壺	37	38				
2654	E 区西側	SR02 下層中位	弥生土器	短頸広口壺	37	38				
2655	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	短頸広口壺	37	38				
2656	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	短頸広口壺	37	38				
2657	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	短頸広口壺	37	39	105,154			
2658	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	細頸長頸壺	37	39				
2659	E 区西側	SR02 下層中位	弥生土器	細頸長頸壺	37	39				
2660	E 区西側	SR02 下層中位	弥生土器	細頸長頸壺	37	39				
2661	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	細頸長頸壺	37	39				
2662	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	細頸長頸壺	37	39				
2663	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	細頸長頸壺	37	39	155			
2664	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	細頸長頸壺	37	39	104,105,155			
2665	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	壺	37	39				
2666	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	壺	36	39				
2667	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	壺	36	39				外面に赤色顔料
2668	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	壺	36	39				
2669	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	壺	36	39				
2670	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	甕	37	40				
2671	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	甕	37	40				
2672	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	甕	37	40				
2673	E 区西側	SR02 下層中位	弥生土器	甕	37	40				
2674	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	甕	37	40				
2675	E 区西側	SR02 下層中位	弥生土器	甕	37	40				
2676	E 区西側	SR02 下層中位	弥生土器	甕	37	40				
2677	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	甕	37	40				
2678	E 区西側	SR02 下層中位	弥生土器	甕	37	40				
2679	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	甕	37	40				
2680	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	甕	37	40				
2681	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	甕	37	40				
2682	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	壺	37	40				
2683	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	壺	37	40	103,104,155			
2684	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	壺	37	40				
2685	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	壺	37	40				
2686	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	壺	37	40		放射性炭素年代測定	213	内面に赤色顔料
2687	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	鉢	37	40				
2688	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	鉢	37	40				
2689	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	鉢	37	40				
2690	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	鉢	37	41				
2691	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	鉢	37	41				
2692	E 区西側	SR02 下層中位	弥生土器	鉢	37	41				
2693	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	鉢	37	41				
2694	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	鉢	37	41				
2695	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	鉢	37	41				
2696	E 区西側	SR02 下層中位	弥生土器	鉢	37	41				
2697	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	鉢	37	41				
2698	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	鉢	37	41				
2699	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	鉢	37	41				
2700	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	鉢	37	41				
2701	E 区西側	SR02 下層中位	弥生土器	鉢(把手)	37	41				
2702	E 区西側	SR02 下層中位	弥生土器	高杯	37	41				
2703	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	高杯	37	41	103,104,105			
2704	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	高杯	37	41				
2705	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	高杯	37	41				
2706	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	高杯(脚)	37	41				
2707	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	高杯	37	41				
2708	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	高杯	37	41				
2709	E 区西側	SR02 下層中位	弥生土器	高杯	37	41				
2710	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	高杯	37	41				
2711	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	高杯	37	41				
2712	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	高杯	37	41				
2713	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	蓋	37	42	104,155			
2714	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	蓋	37	42				
2715	E 区西側	SR02 下層中位	弥生土器	小壺	37	42				
2716	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	壺	37	42				
2717	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	壺	37	42				
2718	E 区西側	SR02 下層中位	弥生土器	回転台形土器	37	42				
2719	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	回転台形土器	37	42				
2720	E 区西側	SR02 下層中位	弥生土器	回転台形土器	37	42				
2721	E 区西側	SR02 下層中位	弥生土器	鉢	37	42				他地域(阿波)
2722	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	広口壺	37	42	102,155			
2723	E 区東側	SR02 下層中位	弥生土器	小壺	37	42				
2724	E 区西側	SR02 下層中位	弥生土器	把手	36	42				
2725	E 区東側	SR02 下層中位	石器	石鏃	37	42				
2726	E 区西側	SR02 下層中位	石器	石鏃	37	42	118			
2727	E 区東側	SR02 下層中位	石器	磨製石斧	37	42				
2728	E 区西側	SR02 下層中位	石器	打製石砲丁	37	42				
2729	E 区西側	SR02 下層中位	石器	打製石砲丁	37	42				
2730	E 区東側	SR02 下層上位	弥生土器	広口壺	43	44				

報文番号	地区名	報告品名	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
2731	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	広口壺	43	44				
2732	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	広口壺	43	44				
2733	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	広口壺	43	44				
2734	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	広口壺	43	44				
2735	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	広口壺	43	44				
2736	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	広口壺	43	44				
2737	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	広口壺	43	44				
2738	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	広口壺	43	44				
2739	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	広口壺	43	44				
2740	E 区東	SR02 下層上位	狹生土層	広口壺	43	44				
2741	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	短頸広口壺	43	44				
2742	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	短頸広口壺	43	44				
2743	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	短頸広口壺	43	44				
2744	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	細頸長頸壺	43	44				
2745	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	細頸長頸壺	43	44				
2746	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	細頸長頸壺	43	44				
2747	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	細頸長頸壺	43	44				
2748	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	細頸長頸壺	43	44				
2749	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	細頸長頸壺	43	44				
2750	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	細頸長頸壺	43	44				
2751	D 区	SR02 下層上位	狹生土層	壺口壺	43	44				
2752	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	無頸壺	43	44				
2753	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	無頸壺	43	44				
2754	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	細頸壺	43	44				
2755	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	壺	43	45				
2756	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	壺	43	45				
2757	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	壺	43	45				
2758	D・E 区西	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2759	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2760	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2761	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2762	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2763	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2764	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2765	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2766	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2767	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2768	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2769	D・E 区西	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2770	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2771	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2772	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2773	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2774	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2775	E 区東	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2776	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2777	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2778	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2779	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	45				
2780	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	46				
2781	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	46				
2782	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	46				
2783	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	46				他地域(備後)
2784	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	46				
2785	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	46				
2786	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	46				
2787	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	46				
2788	D・E 区西	SR02 下層上位	狹生土層	鉢	43	46				
2789	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	鉢	43	46				
2790	D 区	SR02 下層上位	狹生土層	鉢	43	46				
2791	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	鉢	43	46				
2792	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	鉢	43	46				
2793	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	鉢	43	46				
2794	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	鉢	43	46				
2795	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	台付鉢	43	46				
2796	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	台付鉢	43	46				
2797	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	台付鉢	43	46				
2798	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	台付鉢	43	46				
2799	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	台付鉢	43	46				
2800	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	台付鉢	43	46				
2801	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	台付鉢	43	46				
2802	D 区	SR02 下層上位	狹生土層	高杯	43	47				
2803	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	高杯	43	47				
2804	D・E 区西	SR02 下層上位	狹生土層	高杯	43	47				
2805	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	高杯	43	47				
2806	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	高杯	43	47				
2807	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	高杯	43	47				
2808	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	高杯	43	47				
2809	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	高杯	43	47				
2810	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	裝飾高杯	43	47				
2811	E 区	SR02 下層上位	狹生土層	高杯	43	47				
2812	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	甌台	43	47				
2813	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	高杯	43	47				
2814	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	高杯	43	47				
2815	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	高杯	43	47				
2816	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	高杯	43	47				
2817	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	高杯	43	47				
2818	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	高杯	43	47				
2819	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	高杯	43	47				
2820	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	高杯	43	47				
2821	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	蓋	43	47				
2822	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	蓋	43	47	155			
2823	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	蓋	43	47				
2824	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	蓋	43	47				
2825	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	蓋	43	47				
2826	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	甌	43	47				
2827	D・E 区西	SR02 下層上位	狹生土層	支脚	43	47				
2828	E 区高側	SR02 下層上位	狹生土層	回転台形土器	43	47				
2829	B 区	SR02 下層上位	狹生土層	甕	43	47				
2830	E 区高側	SR02 下層上位	土製品	紡錘車	43	47	114			転用品、穿孔塗上未成品
2831	E 区高側	SR02 下層上位	石器	石錘	43	47				
2832	B 区	SR02 下層上位	石器	スクレイパー	43	47				石錘未製品か
2833	E 区	SR02 中層	狹生土層	甌台	48	49				
2834	E 区	SR02 中層	狹生土層	広口壺	48	49				
2835	E 区東側	SR02 中層	狹生土層	広口壺	48	49				

報告番号	地区名	報告箇所名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
2836	E区	SR02 中層	弥生土器	短頸広口壺	48	49				
2837	E区西側	SR02 中層	弥生土器	短頸広口壺	48	49				
2838	E区西側	SR02 中層	弥生土器	壺	48	49				
2839	E区東	SR02 中層	弥生土器	壺	48	49				
2840	E区	SR02 中層	弥生土器	壺	48	49				
2841	E区東	SR02 中層	弥生土器	壺	48	49				
2842	E区東	SR02 中層	弥生土器	壺	48	49				
2843	E区	SR02 中層	弥生土器	壺	48	49				
2844	E区	SR02 中層	弥生土器	壺	48	49				
2845	E区西側	SR02 中層	弥生土器	台付鉢	48	49				
2846	E区西側	SR02 中層	弥生土器	鉢	48	49				
2847	E区	SR02 中層	弥生土器	鉢	48	49				
2848	E区	SR02 中層	弥生土器	台付鉢	48	49				外面に焼成破裂痕
2849	E区東	SR02 中層	弥生土器	鉢	48	49				
2850	E区	SR02 中層	弥生土器	鉢	48	49				
2851	E区西側	SR02 中層	弥生土器	鉢	48	49				
2852	E区	SR02 中層	弥生土器	鉢	48	49				
2853	E区西側	SR02 中層	弥生土器	鉢(把手)	48	49				
2854	E区	SR02 中層	弥生土器	高杯	48	49				
2855	E区	SR02 中層	弥生土器	台付鉢	48	49				
2856	E区東	SR02 中層	弥生土器	高杯	48	49				
2857	E区	SR02 中層	弥生土器	高杯	48	49				
2858	E区	SR02 中層	弥生土器	高杯	48	49				
2859	E区	SR02 中層	弥生土器	小壺	48	49				
2860	E区	SR02 中層	弥生土器	小壺鉢	48	49				
2861	E区	SR02 中層	鉄	鉄屑片	48	50				
2862	E区西側	SR02 中層	石器	石鏃	48	50	118			
2863	E区	SR02 中層	石器	石鏃	48	50	118			
2864	E区	SR02 中層	石器	石鏃	48	50	118			
2865	B区	SR02 中層	石器	打製石刃丁	48	50				
2866	E区	SR02 中層	石器	柱状片刃石斧	48	50				
2867	E区	SR02 中層	石器	礫石	48	50				
2868	E区西側	SR02 中層	石器	扁平片刃石斧	48	50				
2869	E区	SR02 中層	石器	柱状片刃石斧	48	50				
2870	E区東	SR02 上層溝段下層	弥生土器	広口壺	54	57				
2871	E区東	SR02 上層溝段下層	弥生土器	短頸広口壺	54	57				
2872	E区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	短頸広口壺	54	57				
2873	E区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	広口壺	54	57				
2874	E区東	SR02 上層溝段下層	弥生土器	広口壺	54	57				他地域(河内)生駒西麓産
2875	E区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	長頸壺	54	57				
2876	E区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	長頸壺	54	57				
2877	E区東	SR02 上層溝段下層	弥生土器	細頸長頸壺	54	57				
2878	E区東	SR02 上層溝段下層	弥生土器	細頸長頸壺	54	57				
2879	E区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	細頸長頸壺	54	57				
2880	E区東側	SR02 上層溝段下層	弥生土器	壺	54	57				
2881	E区東側	SR02 上層溝段下層	弥生土器	壺	54	57				
2882	E区東	SR02 上層溝段下層	弥生土器	壺	54	57				
2883	E区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	壺	54	57				
2884	E区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	壺	54	57				
2885	E区東	SR02 上層溝段下層	弥生土器	壺	54	57				他地域(安芸?)
2886	E区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	壺	54	57				
2887	E区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	鉢	54	57				
2888	E区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	高杯	54	57				他地域(畿中?)
2889	E区東側	SR02 上層溝段下層	弥生土器	高杯	54	57				
2890	E区東側	SR02 上層溝段下層	弥生土器	高杯	54	57				他地域(吉備)
2891	E区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	高杯	54	57				
2892	B区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	高杯	54	57				
2893	E区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	高杯	54	57				
2894	E区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	高杯	54	57				
2895	E区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	高杯	54	57				他地域(備後北部)
2896	E区東側	SR02 上層溝段下層	弥生土器	高杯	54	57				脚端部に有機物繊維痕
2897	E区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	壺	57	57				
2898	E区東	SR02 上層溝段下層	弥生土器	鉢	54	57				
2899	B区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	支脚	54	57				
2900	E区	SR02 上層溝段下層	弥生土器	水差し土器	54	57				
2901	E区東	SR02 上層溝段下層	石器	石鏃	58	58				
2902	E区	SR02 上層溝段下層	石器	石鏃	58	58				
2903	E区	SR02 上層溝段下層	石器	礫石	58	58				
2904	E区	SR02 上層溝段下層	石器	叩き石	58	58				
2905	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	短頸広口壺	58	59	156			他地域?
2906	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	壺	58	59	156			
2907	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	広口壺	58	59				
2908	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	広口壺	58	59				
2909	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	短頸広口壺	58	59	156			
2910	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	広口壺	58	59				
2911	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	広口壺	58	59				
2912	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	広口壺	58	60	156			他地域(豊後)
2913	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	広口壺	58	60	109,110,156			
2914	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	長頸壺	58	60	109,110			
2915	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	細頸壺	60	60				
2916	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	細頸壺	60	60				
2917	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	細頸壺	60	60				
2918	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	壺	58	60				
2919	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	壺	58	60				
2920	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	壺	58	61				
2921	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	壺	58	61				
2922	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	壺	58	61				
2923	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	壺	58	61				
2924	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	壺	58	61				
2925	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	壺	58	61				
2926	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	壺	58	61				
2927	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	壺	58	61				
2928	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	壺	58	61	106			
2929	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	58	61	109,110,156			
2930	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	58	61				
2931	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	58	61				
2932	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	58	61	156			
2933	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	裝飾高杯	58	61				
2934	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	58	61				
2935	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	58	61				
2936	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	58	61				
2937	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	58	61				
2938	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	58	61				
2939	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	58	61				
2940	E区	SR02 上層溝下層Bブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	58	62				

報文番号	地区名	報告書名	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
2941	E区	SR02 上層満下層Bブロック番号取り上げ	珪生土器	裝飾高杯	58	62				
2942	E区	SR02 上層満下層Bブロック番号取り上げ	珪生土器	高杯	58	62				
2943	E区	SR02 上層満下層Bブロック番号取り上げ	珪生土器	器台	58	62				
2944	E区	SR02 上層満下層Bブロック番号取り上げ	珪生土器	器台	58	62				
2945	E区	SR02 上層満下層Bブロック番号取り上げ	珪生土器	器台	58	62	156			
2946	E区	SR02 上層満下層Bブロック番号取り上げ	珪生土器	器台	58	62				
2947	E区	SR02 上層満下層Bブロック番号取り上げ	珪生土器	器台	58	62				
2948	E区	SR02 上層満下層Bブロック番号取り上げ	珪生土器	器台	58	62				
2949	E区	SR02 上層満下層Bブロック番号取り上げ	珪生土器	器台	58	62				外面に赤色顔料
2950	E区	SR02 上層満下層Bブロック番号取り上げ	珪生土器	器台	58	62				
2951	E区	SR02 上層満下層Bブロック番号取り上げ	珪生土器	器台	58	62				
2952	E区	SR02 上層満下層Bブロック番号取り上げ	珪生土器	支脚	60	62	109,156			
2953	E区	SR02 上層満下層Bブロック番号取り上げ	珪生土器	支脚	60	62				
2954	E区	SR02 上層満下層Bブロック番号取り上げ	珪生土器	支脚	60	62				
2955	E区	SR02 上層満下層Bブロック番号取り上げ	珪生土器	支脚	60	62				
2956	E区	SR02 上層満下層Bブロック番号取り上げ	珪生土器	把手付片口壺	60	62		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料
2957	E区	上層満下層	土製品	紡錘車	60	62	114			帯底部転用品, 穿孔途上未成品
2958	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	広口壺	63	64				
2959	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	細頸壺	63	64				
2960	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	64				
2961	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	64				
2962	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	鉢	63	64	157			他地域(安芸)
2963	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	鉢	63	64				
2964	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	鉢	63	64				
2965	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	鉢	63	64				
2966	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	高杯	63	64				他地域(吉備)
2967	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	高杯	63	64	110,157	赤色顔料の蛍光X線分析	394	内外面に赤色顔料, 他地域(備中)
2968	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	高杯	63	64	110,157	赤色顔料の蛍光X線分析	394	内外面に赤色顔料, 他地域(備中)
2969	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	高杯	63	64				
2970	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	高杯	63	64				他地域?
2971	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	高杯	63	64				外面に赤色顔料
2972	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	支脚	63	64				
2973	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	支脚	63	64				
2974	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	支脚	63	64				
2975	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	支脚	63	64				
2976	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	支脚	63	64	109			
2977	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	回転台形土器	63	64				
2978	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	石鏡	63	65				
2979	E区	SR02 上層満下層Fブロック番号取り上げ	珪生土器	石鏡	63	65	120			
2980	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	広口壺	63	66	157			他地域(伊予?)
2981	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	広口壺	63	66				他地域(河内)生物西瀬産
2982	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	広口壺	63	66				他地域(近畿)
2983	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	長頸壺	63	66				他地域(吉備)
2984	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	長頸壺	63	66				他地域(吉備)
2985	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	長頸壺	63	66				
2986	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	長頸壺	63	66	158			
2987	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	長頸壺	63	66				
2988	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	広口壺	63	66				他地域(土佐)
2989	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	広口壺	63	66				
2990	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	広口壺	63	66				
2991	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	広口壺	63	66				
2992	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	広口壺	63	66	157			
2993	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	広口壺	63	66				他地域?
2994	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	長頸壺	63	67	107,157			原庄瓦器文
2995	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	長頸壺	63	67				
2996	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	長頸壺	63	67				
2997	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	長頸壺	63	67	107,158			頸部外面に記号紋
2998	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	67				外面に記号紋
2999	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	長頸壺	63	67				
3000	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	長頸壺	65	67				外面に棒状浮文による記号紋
3001	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	長頸壺	65	67				他地域(香瀬川下流域)
3002	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	細頸壺	63	67	109			
3003	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	長頸壺	63	67				
3004	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	長頸壺	63	67				
3005	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	長頸壺	63	67				
3006	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	広口壺	63	67	158			
3007	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	広口壺	63	67	109			
3008	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	広口壺	63	67				
3009	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	無頸壺	65	67				他地域(豊前)
3010	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	65	68		赤色顔料の蛍光X線分析	394	他地域?頸部外面に竹節列による記号紋, 外面に赤色顔料
3011	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	65	68	110			外面に赤色顔料, 他地域(備中)
3012	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	細頸壺	65	68				他地域(吉備)
3013	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	短頸壺	65	68				他地域(吉備)
3014	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	器口壺	63	68	109,158			
3015	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	広口壺	63	68				
3016	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	68				
3017	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	68				
3018	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	68				
3019	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	68				
3020	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	68				
3021	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	68	106,158			
3022	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	68	106,158			
3023	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	68				
3024	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	68				
3025	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	68				
3026	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	68				
3027	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	70	108			
3028	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	70				
3029	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	70				
3030	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	70				
3031	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	70				他地域(香瀬川下流域)
3032	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	70				
3033	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	70				
3034	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	69	70				他地域(安芸)
3035	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	70				他地域(備後?)
3036	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	70				
3037	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	70				焼成後底部穿孔
3038	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	70				
3039	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	70				
3040	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	鉢	63	70	106			
3041	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	65	70	158			他地域(豊前?)
3042	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	70	106,159			
3043	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	70				
3044	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	鉢	63	70				
3045	E区	SR02 上層満下層L・Jブロック番号取り上げ	珪生土器	甕	63	70				

報告番号	地区名	報告遺構名	種別	図種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
3046	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	壺	69	70				他地域?
3047	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	壺	63	71				
3048	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	壺	63	71				
3049	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	壺	63	71				
3050	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	壺	63	71				
3051	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	71				
3052	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	71				
3053	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	71				
3054	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	71				
3055	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	71	159			
3056	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	71				
3057	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	71	108			他地域?
3058	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	71				
3059	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	71				
3060	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	71				
3061	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	台付鉢	69	72	110,159	赤色顔料の蛍光X線分析	394	内外面に赤色顔料, 他地域(備中)
3062	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	台付鉢	69	72		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料, 他地域(備中)
3063	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	72				
3064	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	72				
3065	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	72				
3066	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	72				
3067	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	台付鉢	63	72		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料
3068	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	72				
3069	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	72				
3070	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	72				
3071	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	72				
3072	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	72				
3073	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	72	158			他地域(北部九州)
3074	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢	63	72				
3075	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	63	72				
3076	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	63	72				
3077	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	63	72				
3078	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	69	72				他地域(吉備)
3079	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	69	72				他地域(吉備)
3080	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	63	72				
3081	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	63	72				
3082	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	63	72				
3083	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	63	72				
3084	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	63	72				
3085	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	63	72				
3086	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	63	72				
3087	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	63	72				
3088	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	69	72				他地域(吉備)
3089	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	63	72				
3090	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	63	72				
3091	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	63	72				
3092	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	高杯	63	72				
3093	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	裝飾高杯	63	72				
3094	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢台	69	73	109,110,159			
3095	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢台	69	73				
3096	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢台	69	73				
3097	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢台	69	73				
3098	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢台	69	73				
3099	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢台	69	73				
3100	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	鉢台	69	73				
3101	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	支脚	63	73				
3102	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	支脚	63	73				
3103	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	支脚	63	73				
3104	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	支脚	63	73				
3105	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	支脚	69	74	111			
3106	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	蓋	63	74				
3107	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	小皿鉢	63	74				
3108	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	分銅型土製品	69	74	113			
3109	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	焼土	69	74				
3110	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	石皿	69	74				
3111	E区	SR02 上階満下層L・Jブロック番号取り上げ	弥生土器	石皿	69	74				
3112	E区	SR02 上階満下層Bブロック	弥生土器	長頸壺	69	75				
3113	E区	SR02 上階満下層Bブロック	弥生土器	壺	69	75				
3114	E区	SR02 上階満下層Bブロック	弥生土器	壺	69	75				
3115	E区	SR02 上階満下層Bブロック	弥生土器	壺	69	75				外面に円形浮紋による記号紋
3116	E区	SR02 上階満下層Bブロック	弥生土器	短頸壺	69	75				
3117	E区	SR02 上階満下層Bブロック	弥生土器	短頸壺	69	75				他地域(吉備)
3118	E区	SR02 上階満下層Bブロック	弥生土器	壺	69	75				他地域(備後)
3119	E区	SR02 上階満下層Bブロック	弥生土器	壺	69	75				
3120	E区	SR02 上階満下層Bブロック	弥生土器	壺	69	75				
3121	E区	SR02 上階満下層Bブロック	弥生土器	壺	69	75				
3122	E区	SR02 上階満下層Bブロック	弥生土器	高杯	69	75				
3123	E区	SR02 上階満下層Bブロック	弥生土器	高杯	69	75				
3124	E区東	SR02 上階満下層Bブロック	弥生土器	鉢	69	75				
3125	E区	SR02 上階満下層Bブロック	弥生土器	壺	69	75				
3126	E区	SR02 上階満下層Bブロック	弥生土器	鉢	69	75				
3127	E区東側	上階満上層一括	土製品	紡錘車	69	75	114			
3128	E区東	SR02 上階満下層Bブロック	石皿	石皿	69	75	118			
3129	E区	SR02 上階満下層Bブロック	石皿	石皿	69	75				
3130	E区	SR02 上階満下層Bブロック	石皿	石皿	69	75	118			
3131	E区	SR02 上階満下層Bブロック	石皿	石皿	69	75				
3132	E区	SR02 上階満下層Bブロック	石皿	叩き石	69	76	130			
3133	E区	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	広口壺	76	77				
3134	E区	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	広口壺	76	77	159			他地域?
3135	E区東	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	広口壺	76	77				
3136	E区東	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	広口壺	76	77				
3137	E区東	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	壺	76	77				
3138	E区東	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	短頸広口壺	76	77				
3139	E区東	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	直口壺	76	77				
3140	E区東	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	長頸壺	76	77				外面に竹篋による記号紋
3141	E区	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	長頸壺	76	77				
3142	E区	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	壺	76	77				
3143	E区東	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	壺	76	77				
3144	E区東	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	壺	76	77				
3145	E区東	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	壺	76	77				
3146	E区東	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	鉢	76	77				
3147	E区	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	高杯	76	77				
3148	E区東	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	高杯	76	77				
3149	E区東	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	高杯	76	77				
3150	E区東	SR02 上階満下層Fブロック	弥生土器	高杯	76	77				他地域(阿波)

報告番号	地区名	報告通称名	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
3151	E 区	SR02 上層満下層Fブロック	珪生土類	高杯	76	77				他地域
3152	E 区東	SR02 上層満下層Fブロック	珪生土類	支脚	76	77				
3153	E 区	SR02 上層満下層Fブロック	珪生土類	蓋	76	77				
3154	E 区東	SR02 上層満下層Fブロック	珪土		76	78				
3155	E 区	SR02 上層満下層Fブロック	石類	磁石	76	78				
3156	E 区東	SR02 上層満下層Fブロック	石類	縦状石核	76	78				
3157	E 区	SR02 上層満下層Fブロック	石類	柱状片刃石片	76	78				
3158	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	蓋	78	79				
3159	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	広口壺	78	79				他地域(土佐?)
3160	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	広口壺	78	79		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内外面に赤色顔料
3161	E 区中央	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	広口壺	78	79				
3162	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	広口壺	78	79				
3163	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	広口壺	78	79				
3164	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	広口壺	78	79				
3165	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	広口壺	78	79				
3166	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	短頸広口壺	78	79		赤色顔料の蛍光X線分析	394	
3167	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	短頸広口壺	78	79				
3168	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	短頸広口壺	78	79				他地域(備後)
3169	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	長頸壺	78	79				
3170	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	79				焼成前底部穿孔
3171	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	罐頭壺	78	79				
3172	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	罐頭壺	78	79				他地域(土佐)
3173	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	広口壺	78	79				
3174	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	罐頭壺	78	79				他地域(吉備)
3175	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	79				他地域(吉備)
3176	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	79				
3177	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	79				
3178	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	79				
3179	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	79				
3180	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	79				
3181	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	79				
3182	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	79				
3183	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	79				
3184	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	79				他地域
3185	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	79				
3186	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	79				他地域(香東川下流域)
3187	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	79				
3188	E 区中央	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	79				
3189	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	79				
3190	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	80				
3191	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	80				
3192	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	80				
3193	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	80				
3194	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	80				
3195	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	80				
3196	E 区中央	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	壺	78	80				
3197	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	無頸壺	78	80				
3198	E 区西側	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	鉢	78	80				
3199	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	鉢	78	80				
3200	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	鉢	78	80				
3201	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	鉢	78	80				他地域(備後)
3202	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	鉢	78	80				
3203	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	鉢	78	80				
3204	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	鉢	78	80				
3205	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	高杯	78	80				
3206	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	高杯	78	80				
3207	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	高杯	78	80				
3208	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	高杯	78	80				
3209	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	高杯	78	80				
3210	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	高杯	78	80				
3211	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	高杯	78	80				
3212	E 区中央	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	高杯	78	80				他地域(吉備)
3213	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	高杯	78	80				他地域(吉備)
3214	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	高杯	78	80				
3215	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	裝飾高杯	78	80				
3216	E 区中央	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	高杯	78	80				他地域(香東川下流域)
3217	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	高杯	78	80				
3218	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	高杯	78	80				
3219	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	高杯	78	80				
3220	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	蓋台	81	80		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料
3221	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	蓋台	78	80				
3222	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	蓋台	78	82				
3223	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	蓋台	78	82				
3224	E 区西側	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	蓋台	81	82		赤色顔料の蛍光X線分析	394	他地域、内外面に赤色顔料
3225	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	蓋台	78	82				
3226	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	支脚	81	82				他地域(西部瀬戸内～東北部九州)
3227	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	支脚	78	82				
3228	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	支脚	78	82				
3229	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	支脚	78	82				
3230	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	支脚	78	82				
3231	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	支脚	78	82				
3232	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	珪生土類	小型鉢	78	82				
3233	E 区東	上層満下層	土製品	紡錘車	81	82	114			未製品
3234	E 区東	上層満下層	土製品	紡錘車	81	82	114			未製品
3235	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	石類	石籠	81	82	118			
3236	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	石類	磨製石磨丁	81	82	127			
3237	E 区	SR02 上層満下層L・Jブロック	石類	打製石磨丁	81	82				
3238	E 区東	SR02 上層満下層L・Jブロック	石類	打製石磨丁	81	82				
3239	E 区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土類	広口壺	81	83				他地域?
3240	E 区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土類	蓋台		83				
3241	E 区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土類	長頸壺	81	83	107,160			
3242	E 区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土類	長頸壺	81	83				
3243	E 区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土類	長頸壺	81	83				
3244	E 区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土類	長頸壺	81	83				
3245	E 区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土類	壺	81	83				他地域(備後)
3246	E 区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土類	広口壺	81	83	155			
3247	E 区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土類	複合口縁壺	81	83				
3248	E 区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土類	複合口縁壺	81	83				他地域(伊予)
3249	E 区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土類	壺	81	83				他地域(備後)
3250	E 区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土類	壺	81	83				
3251	E 区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土類	壺	81	83				
3252	E 区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土類	壺	81	83				
3253	E 区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土類	壺	81	83				
3254	E 区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土類	壺	81	83				
3255	E 区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土類	壺	81	83				他地域(阿波)

報告番号	地区名	報告箇所名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
3256	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	鏝	81	83				
3257	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	鏝	81	83				
3258	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	鉢	81	83				他地域
3259	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	鉢	81	83				
3260	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	鏝	81	83				他地域?
3261	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	無頭鏝	81	83				他地域(香東川下流域)
3262	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	鉢	81	83				
3263	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	高杯	81	83				
3264	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	高杯	81	83				
3265	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	高杯	81	84				
3266	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	高杯	81	84				
3267	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	高杯	81	84				他地域(香東川下流域)
3268	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	高杯	81	84				凹線文2条
3269	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	高杯	81	84				他地域(備後)
3270	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	台付鉢	81	84				
3271	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	台付鉢		84				
3272	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	鏝	81	84				
3273	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	縁台	81	84				
3274	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	縁台	81	84	159			
3275	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	縁台	81	84				
3276	E区北西	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	支脚	81	84				
3277	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	支脚	81	84				
3278	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	支脚	81	84				
3279	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	珪生土層	分銅型土製品	81	84	113			
3280	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	石器	打製石砲丁	84	84				
3281	E区西側	SR02 上層満下層Wブロック	石器	スクレイパー	84	84				
3282	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	複合口縁鏝	84	86	160			他地域(備後~安芸)
3283	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	広口鏝	84	86				
3284	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	長頭鏝	84	86				
3285	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	広口鏝	84	86	160			
3286	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	長頭鏝	84	86				他地域?
3287	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	88	86		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料
3288	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	84	86				
3289	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	84	86				
3290	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	84	86				
3291	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	無頭鏝	84	86				
3292	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	84	86				
3293	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	84	86				
3294	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	無頭鏝	84	86				
3295	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	84	86				
3296	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	88	87	160			他地域
3297	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	84	87				
3298	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	84	87				
3299	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	88	87				
3300	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	88	87				
3301	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	84	87				
3302	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	84	87				
3303	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	84	87				
3304	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	84	87				
3305	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	84	87				
3306	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	84	87				
3307	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	84	87				
3308	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	鏝	84	87				
3309	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	高杯	84	87				
3310	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	高杯	84	87				
3311	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	高杯	84	87				
3312	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	高杯	84	87				
3313	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	台付鉢		87				
3314	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	台付鉢		87				
3315	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	高杯	84	87				
3316	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	高杯	84	87				
3317	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	高杯	84	87				
3318	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	高杯	84	87				
3319	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	高杯	84	87				
3320	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	縁台	84	88				
3321	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	裝飾高杯	88	88				
3322	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	支脚	84	88				
3323	B区	SR02 上層満下層Eブロック	珪生土層	縁台	84	88				
3324	B区	SR02 上層満下層Eブロック	石器	石器	88	88				
3325	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	短頸広口鏝	88	89				
3326	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	短頸広口鏝	88	89				
3327	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	短頸広口鏝	88	89				
3328	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	広口鏝	88	89				
3329	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	長頭鏝	88	89				
3330	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	長頭鏝	88	89	107			
3331	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	長頭鏝	88	89				
3332	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	広口鏝	88	89				
3333	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	鏝	88	89				外面に棒状浮紋による記号紋
3334	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	鏝	88	89				
3335	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	鏝	88	89				
3336	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	鏝	88	89				
3337	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	鏝	88	89				
3338	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	鏝	88	89				
3339	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	鏝	88	89				
3340	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	鏝	88	89				
3341	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	鉢	88	89				
3342	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	台付鉢	88	89				
3343	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	鉢	88	89				
3344	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	鉢	88	89				
3345	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	台付鉢	88	89				
3346	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	高杯	88	89				
3347	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	高杯	88	89				
3348	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	高杯	88	89				
3349	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	高杯	88	89				
3350	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	高杯	88	89				
3351	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	高杯	88	89				他地域(香東川下流域)
3352	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	高杯	88	89				
3353	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	縁台	88	90				
3354	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	縁台	88	90				
3355	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	珪生土層	回転台形土器	88	90				
3356	E区	SR02 上層満下層一括取り上げ	鉄	鉄器片 or 鉄片	88	90	179			
3357	E区西側	SR02 上層満下層一括取り上げ	石器	打製石砲丁	88	90				
3358	E区東側	SR02 上層満上層B・Nブロック間アゼ	珪生土層	広口鏝	90	91				
3359	E区東側	SR02 上層満上層B・Nブロック間アゼ	珪生土層	短頸広口鏝	90	91				
3360	E区東側	SR02 上層満上層B・Nブロック間アゼ	珪生土層	広口鏝	90	91				

報告番号	地区名	報告書名	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
3361	E区東側	SR02 上層溝上層 B・N ブロック間アゼ	狹生土層	広口壺	90	91				
3362	E区	SR02 上層溝上層 B・N ブロック間アゼ	狹生土層	器台	90	91				
3363	E区	SR02 上層溝上層 B・N ブロック間アゼ	狹生土層	壺	90	91				
3364	E区東側	SR02 上層溝上層 B・N ブロック間アゼ	狹生土層	甕	90	91				他地域(備後)
3365	E区東側	SR02 上層溝上層 B・N ブロック間アゼ	狹生土層	甕	90	91				
3366	E区東側	SR02 上層溝上層 B・N ブロック間アゼ	狹生土層	甕	90	91				
3367	E区東側	SR02 上層溝上層 B・N ブロック間アゼ	狹生土層	甕	90	91				
3368	E区	SR02 上層溝上層 B・N ブロック間アゼ	狹生土層	甕	90	91				
3369	E区東側	SR02 上層溝上層 B・N ブロック間アゼ	狹生土層	広口壺	90	91		赤色顔料の蛍光X線分析	394	他地域(河内)生駒西麓産
3370	E区東側	SR02 上層溝上層 B・N ブロック間アゼ	狹生土層	高杯	90	91				
3371	E区東側	SR02 上層溝上層 B・N ブロック間アゼ	狹生土層	鉢	90	91				
3372	E区東側	SR02 上層溝上層 B・N ブロック間アゼ	狹生土層	分類耐土製品	90	91	113			
3373	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	広口壺	92	93				
3374	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	広口壺	92	93				
3375	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	壺	92	93				他地域(土佐?)
3376	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	長頸壺	92	93				
3377	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	広口壺	92	93				他地域(備後)
3378	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	短頸広口壺	92	93				
3379	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	短頸広口壺	92	93				
3380	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	短頸広口壺	92	93				
3381	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	短頸広口壺	92	93				
3382	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	短頸広口壺	92	93				
3383	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	広口壺	92	93				他地域(香東川下流域)
3384	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	広口壺	92	93				
3385	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	広口壺	92	93				
3386	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	広口壺	92	93				
3387	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	長頸壺	92	93				他地域(吉備)
3388	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	長頸壺	92	93				
3389	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	長頸壺	92	93				
3390	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	広口壺	92	93				
3391	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	広口壺	92	93				
3392	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	広口壺	92	93				
3393	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	広口壺	92	93				
3394	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	土師類	甕	92	93				
3395	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	広口壺	92	93				
3396	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	複合口縁壺	92	93				他地域(豊前?)
3397	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	複合口縁壺	92	93				他地域
3398	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	複合口縁壺	92	93				
3399	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	広口壺	92	93				
3400	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	広口壺	92	93				
3401	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	広口壺	92	93				
3402	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	広口壺	92	93				
3403	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	壺	92	94		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外側に赤色顔料, 他地域(備中)
3404	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	壺	92	94				外面に記号紋
3405	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	壺	92	94				他地域
3406	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	壺	92	94				
3407	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	壺	92	94				
3408	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	壺	92	94				
3409	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	壺	92	94				
3410	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	壺	92	94				
3411	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	壺	92	94				
3412	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	壺	92	94				
3413	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3414	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3415	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3416	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3417	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3418	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3419	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3420	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3421	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3422	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3423	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3424	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3425	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3426	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3427	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3428	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				他地域(香東川下流域)
3429	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				他地域(香東川下流域)
3430	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3431	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3432	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3433	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3434	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3435	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3436	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3437	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3438	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3439	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3440	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3441	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	94				
3442	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	95				
3443	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	95				
3444	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	95				
3445	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	95				
3446	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	95				
3447	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	95				
3448	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	95				
3449	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	95				
3450	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	95				
3451	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	95				
3452	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	95				
3453	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	95				
3454	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	95				
3455	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	甕	92	95				
3456	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	高杯	92	95				
3457	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	高杯	92	95				
3458	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	高杯	92	95		赤色顔料の蛍光X線分析	394	他地域(備中)
3459	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	高杯	92	95				他地域(吉備)
3460	E区東	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	高杯	92	95				他地域(備中)
3461	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	高杯	92	95				
3462	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	高杯	92	95				
3463	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	高杯	92	95				
3464	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	高杯	92	95		赤色顔料の蛍光X線分析	394	他地域(備中) 外側に赤色顔料
3465	E区	SR02 上層溝上層 L-Jブロック	狹生土層	高杯	92	95				他地域(吉備)

報告番号	地区名	報告箇所名	種別	銘柄	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
3466	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	高杯	92	95				
3467	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	高杯	92	95				他地域(香東川下流域)
3468	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	高杯	92	95				
3469	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	高杯	92	95				
3470	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	高杯	92	95				
3471	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	台付鉢	92	95				
3472	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	高杯	92	95				外面に絵画
3473	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	高杯	92	95				他地域(吉備)
3474	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	高杯	92	95				
3475	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	高杯	92	95				
3476	E区東	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	高杯	92	95				
3477	E区東	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	台付鉢	92	95				
3478	E区東	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	台付鉢	92	95				
3479	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	台付鉢	92	96				
3480	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	高杯	92	96				
3481	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	大型鉢	92	96				
3482	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	鉢	92	96				
3483	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	鉢	92	96				
3484	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	鉢	92	96				
3485	E区東	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	鉢	92	96				
3486	E区東	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	鉢	92	96				
3487	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	厨台	92	96				
3488	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	厨台	92	96				
3489	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	厨台	92	96				
3490	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	高杯	92	96				
3491	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	厨台	92	96				
3492	E区東	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	支脚	92	96				
3493	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	支脚	92	96				
3494	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	支脚	92	96				
3495	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	支脚	92	96				
3496	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	支脚	92	96				
3497	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	支脚	92	96				
3498	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	発生土	小型壺	92	96				
3499	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	焼土		92	96				
3500	E区東前	SR02 上層満上層し-Jブロック	焼土		92	96				破片
3501	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	石	打製石丁	92	96	127			
3502	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	石	磨製石丁	92	96	127			
3503	E区	SR02 上層満上層し-Jブロック	石	打製石丁	92	97	127			
3504	E区東	SR02 上層満上層し-Jブロック	石	叩き石	92	97				
3505	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	短頸広口壺	97	98				
3506	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	広口壺	97	98				
3507	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	細頸壺	97	98		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料,他地域(備中)
3508	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	広口壺	97	98				
3509	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	長頸壺	97	98				他地域(吉備)
3510	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	広口壺	97	98				
3511	E区北西	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	広口壺	97	98				
3512	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	広口壺	97	98				
3513	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	広口壺	97	98				
3514	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	長頸壺	97	98				
3515	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	長頸壺	97	98				
3516	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	壺	97	98				外面に竹葉による記号紋
3517	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	長頸壺	97	98				
3518	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	長頸壺	97	98				
3519	E区北西	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	複合口縁壺	97	98				他地域(西部瀬戸内)
3520	E区	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	壺	97	98				他地域
3521	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	厨台	97	98				
3522	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	壺	97	98				
3523	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	壺	97	98				
3524	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	壺	97	98				他地域(備後)
3525	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	壺	97	98				
3526	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	壺	97	98				
3527	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	壺	97	98				
3528	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	壺	97	98				
3529	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	壺	97	98				
3530	E区	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	壺	97	98				
3531	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	台付鉢	97	98				
3532	E区北西	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	台付鉢	97	98				
3533	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	壺	97	98				
3534	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	壺	97	98				
3535	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	壺	97	98				
3536	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	水壺	97	99				
3537	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	水壺	97	99				
3538	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	高杯	97	99				
3539	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	高杯	97	99				
3540	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	高杯	97	99				
3541	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	高杯	97	99				
3542	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	高杯	97	99				他地域(香東川下流域)
3543	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	高杯	97	99				
3544	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	高杯	97	99				
3545	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	高杯	97	99				
3546	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	高杯	97	99				
3547	E区北西	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	高杯	97	99				
3548	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	高杯	97	99				
3549	E区北西	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	高杯	97	99				
3550	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	高杯	97	99				
3551	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	高杯	97	99				
3552	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	高杯	97	99				
3553	E区西前	SR03 上層満上層一拵取り上げ	発生土	厨台	97	99				他地域(吉備)
3554	E区西前	SR03 上層満上層一拵取り上げ	発生土	厨台	97	99				
3555	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	厨台	97	99				
3556	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	厨台	97	99				
3557	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	台付鉢	97	99				
3558	E区北西	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	壺	97	99				
3559	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	鉢	97	99				
3560	E区北西	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	有孔鉢	97	99				
3561	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	有孔鉢	97	99				
3562	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	鉢	97	99				
3563	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	有孔鉢	97	99				
3564	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	把手付片口壺	97	99				内面に赤色顔料付着
3565	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	支脚	97	100				
3566	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	支脚	97	100				
3567	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	支脚	97	100				
3568	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	支脚	97	100				
3569	E区西前	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	支脚	97	100				
3570	E区北西	SR02 上層満上層一拵取り上げ	発生土	支脚	97	100				

報文番号	地区名	報告遺構名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
3571	E区北西	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	支脚	97	100				
3572	E区北西	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	支脚	97	100				
3573	E区北西	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	器台	97	100				
3574	E区高側	上層溝上層一括	土製品	紡錘車	97	100	114			
3575	E区 西側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	埴土		97	100				
3576	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	石鏡	石鏡	97	100				
3577	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	石鏡	石鏡	97	100	118			
3578	E区北西	SR02_上層溝上層一括取り上げ	石鏡	石鏡	97	100	118			
3579	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	石鏡	石鏡	97	100				
3580	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	石鏡	石鏡	97	100				
3581	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	石鏡	スクレイパー	97	100				
3582	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	石鏡	打製石器丁	97	100				
3583	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	石鏡	打製石器丁	97	100				表面面磨減
3584	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	石鏡	打製石器丁	97	100				刃部磨減
3585	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	石鏡	打製石器丁	97	100				
3586	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	石鏡	台石	97	101	131			被熱
3587	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	石鏡	叩き石	97	101				
3588	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	石鏡	砥石	97	101	122			
3589	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	広口壺	102	103				他地域?
3590	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	広口壺	102	103				
3591	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	長頸壺	102	103				底部に焼成後穿孔
3592	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	広口壺	102	103				
3593	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	複合口縁壺	102	103				他地域(西部瀬戸内)
3594	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	103				
3595	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	長頸壺	102	103				
3596	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	広口壺	102	103				
3597	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	複合口縁壺	102	103				他地域(西部瀬戸内)
3598	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	複合口縁壺	102	103				他地域(西部瀬戸内)
3599	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	広口壺	102	103				他地域(土佐)
3600	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	103				
3601	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	103				
3602	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	103				
3603	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	103				
3604	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	有孔鉢	102	103				
3605	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	高杯	102	103				
3606	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	高杯	102	103				
3607	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	高杯	102	103				
3608	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	高杯	102	103				
3609	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	高杯	102	103				
3610	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	裝飾高杯	102	103				
3611	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	裝飾高杯	102	103				
3612	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	高杯	102	103				
3613	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	高杯	102	103				
3614	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	高杯	102	103				
3615	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	高杯	102	103		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料、他地域(備中)
3616	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	器台	102	103				外面に赤色顔料付着・内外面にマメツ
3617	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	器台	102	103				
3618	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	器台	102	104				
3619	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	器台	102	104				
3620	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	支脚	102	104	112			
3621	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	支脚	102	104				
3622	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	埴土		102	104				支脚の可能性あり 残存率底部 1/8
3623	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	埴土		102	104				土器片の可能性あり
3624	B区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	石鏡	叩き石	102	104				
3625	E区中央	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	105				
3626	E区中央	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	広口壺	102	105				
3627	E区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	広口壺	102	105				
3628	E区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	広口壺	102	105				
3629	E区中央	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	広口壺	102	105				他地域(阿波)
3630	E区中央	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	広口壺	102	105				
3631	E区中央	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	105				他地域(備後?)
3632	E区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	105				
3633	E区中央	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	105				
3634	E区中央	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	105				
3635	E区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	105		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料
3636	E区中央	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	105				
3637	E区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	105				
3638	E区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	有孔鉢	102	105				
3639	E区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	105				
3640	E区中央	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	器台	102	105				
3641	E区中央	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	器台	102	105				
3642	E区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	高杯	102	105				
3643	E区中央	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	高杯	102	105		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料
3644	E区中央	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	鉢	102	105		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内外面赤色顔料、他地域(備中)
3645	E区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	鉢	102	105				他地域(備後)
3646	E区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	有孔鉢	102	105				
3647	E区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	支脚	102	105				
3648	E区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	支脚	102	105				
3649	E区中央	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	支脚	102	105				
3650	E区中央	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	支脚	102	105				
3651	E区中央	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	支脚	102	105				
3652	E区	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	把手付鉢	102	105				0
3653	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	広口壺	102	106				他地域(河内)非生期西瀬産
3654	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	広口壺	102	106				他地域(備後~安芸)
3655	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	長頸壺	102	106				
3656	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	106				
3657	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	106				
3658	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	106				
3659	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	102	106				他地域(安芸)
3660	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	壺	106	106				
3661	E区高側	SR02_上層溝上層一括取り上げ	弥生土器	大形鉢	106	106				
3662	E区	SR02_上層 A ブロック	弥生土器	広口壺	111	112				
3663	E区	SR02_上層 A ブロック	弥生土器	広口壺	111	112				
3664	E区	SR02_上層 A ブロック	弥生土器	広口壺	111	112				
3665	E区	SR02_上層 A ブロック	弥生土器	広口壺	111	112				
3666	E区	SR02_上層 A ブロック	弥生土器	広口壺	111	112				
3667	E区	SR02_上層 A ブロック	弥生土器	廣口壺	111	112				
3668	E区	SR02_上層 A ブロック	弥生土器	長頸壺	111	112				
3669	E区	SR02_上層 A ブロック	弥生土器	壺	111	112				
3670	E区	SR02_上層 A ブロック	弥生土器	壺	111	112				
3671	E区	SR02_上層 A ブロック	弥生土器	壺	111	112				他地域(土佐)
3672	E区	SR02_上層 A ブロック	弥生土器	複合口縁壺	111	112				他地域(伊予)
3673	E区	SR02_上層 A ブロック	弥生土器	壺	111	112				
3674	E区	SR02_上層 A ブロック	弥生土器	壺	111	112				
3675	E区	SR02_上層 A ブロック	弥生土器	壺	111	112				

報告番号	地区名	報告書名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
3676	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	甕	111	112				
3677	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	甕	111	112				
3678	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	甕	111	112				
3679	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	甕	111	112				
3680	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	鉢	111	112				底部外面に記号紋
3681	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	高杯	111	112				
3682	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	高杯	111	112				
3683	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	高杯	111	112				
3684	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	高杯	111	112				他地域 (吉備)
3685	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	支脚	111	112				
3686	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	高杯	111	112				
3687	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	甕		112				
3688	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	鉢	111	112				他地域 (備後)
3689	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	鉢	111	112				
3690	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	鉢	111	112				
3691	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	台付鉢	111	112				
3692	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	鉢	111	112				
3693	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	大型鉢	111	112		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料
3694	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	鉢	111	113				
3695	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	甕	111	113				
3696	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	鉢	111	113				
3697	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	鉢	111	113				
3698	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	鉢	111	113				
3699	E区	SR02 上層 A ブロック	弥生土器	支脚	111	113				
3700	E区	SR02 上層 A ブロック	玉	ガラス小玉	111	113		ガラス玉の蛍光X線分析	411	
3701	E区	SR02 上層 A ブロック	石器	石鏃	111	113	118			
3702	E区	SR02 上層 A ブロック	石器	石鏃	111	113	118			
3703	E区	SR02 上層 A ブロック	石器	石鏃	111	113	118			
3704	E区	SR02 上層 A ブロック	石器	剥片	111	113				
3705	E区	SR02 上層 A ブロック	石器	打製石屑丁	111	113	125			刃部磨滅
3706	E区	SR02 上層 A ブロック	石器	石鏃	111	113				
3707	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	広口壺	113	114				
3708	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	広口壺	113	114				
3709	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	壺	113	114				
3710	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	広口壺	113	114				
3711	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	広口壺	113	114				
3712	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	広口壺	113	114				
3713	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	広口壺	113	114				
3714	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	広口壺	113	114				
3715	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	広口壺	113	114				他地域 (阿波)
3716	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	広口壺	113	114				
3717	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	細頸壺	113	114		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料, 他地域 (備中)
3718	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	細頸壺	113	114				
3719	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	細頸壺	113	114		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料, 他地域 (備中)
3720	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	細頸壺	113	114				他地域 (吉備)
3721	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	細頸壺	113	114				搬入系 (吉備) 他地域 (吉備) 貼付突帯文
3722	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	細頸壺	113	114				他地域 (吉備)
3723	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	長頸壺	113	114				
3724	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	長頸壺	113	114				
3725	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	長頸壺	113	114				
3726	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	114				
3727	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	114				
3728	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	長頸壺	113	114				
3729	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	長頸壺	113	114				
3730	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	広口壺	113	114				
3731	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	複合口縁壺	113	114				他地域 (伊予)
3732	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	複合口縁壺	113	114				他地域 (備後)
3733	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	複合口縁壺	113	114				他地域 (備後?)
3734	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	複合口縁壺	113	114				他地域 (西部瀬戸内)
3735	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	広口壺	113	114				他地域 (土佐)
3736	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	複合口縁壺	113	114				他地域 (豊前?)
3737	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	複合口縁壺?	113	114				
3738	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	複合口縁壺	113	116				
3739	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	二重口縁壺?	115	116				装飾高杯の可能性
3740	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	複合口縁壺	115	116				他地域 (西部瀬戸内)
3741	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	複合口縁壺	115	116				
3742	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	複合口縁壺	113	116				
3743	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	壺	115	116				外面に記号紋
3744	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	壺?	115	116				外面に記号紋
3745	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	壺?	113	116				外面に記号紋
3746	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	壺	115	116				外面に記号紋
3747	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	壺	113	116				
3748	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	壺	113	116				
3749	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	壺	113	116				
3750	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	壺	113	116				
3751	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	壺	113	116				
3752	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	壺	113	116				
3753	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	壺	113	116				
3754	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	壺	115	116		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料
3755	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	壺	115	116		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料
3756	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	116				
3757	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	116				
3758	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	116				
3759	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	116				
3760	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	116				
3761	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	116				
3762	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	116				
3763	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	117				
3764	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	117				
3765	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	117				
3766	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	117				
3767	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	117				
3768	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	117				
3769	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	117				
3770	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	117				
3771	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	117				
3772	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	117				
3773	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	117				
3774	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	117				
3775	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	117				
3776	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	115	117				他地域 (備後)
3777	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	115	117				他地域 (備中)
3778	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	117				
3779	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	117				
3780	E区	SR02 上層 B ブロック	弥生土器	甕	113	117				

報告番号	地区名	報告通称名	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
3781	E区	SR02上層Bブロック	土師器	甕	113	117				
3782	E区	SR02上層Bブロック	土師器	甕	113	117				
3783	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕	113	117				
3784	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕	113	117				
3785	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕	113	117				
3786	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕	113	117				
3787	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕	113	117				
3788	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕	113	117				
3789	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕	115	117				他地域(阿波)
3790	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕	113	117				
3791	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	高杯	115	118		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内外面に赤色顔料,他地域(香東川下流域)
3792	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	高杯	115	118				
3793	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	高杯	113	118				
3794	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	高杯	113	118				
3795	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	裝飾高杯	113	118				
3796	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	高杯	113	118				
3797	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	台付鉢	113	118				
3798	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	高杯	113	118				
3799	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	高杯	113	118				
3800	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	支脚	113	118				
3801	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	高杯	113	118				
3802	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	高杯	113	118				
3803	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	高杯	113	118				
3804	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	台付鉢	113	118				
3805	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	高杯	113	118				
3806	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕台	113	118				
3807	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕台	115	118		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内外面に赤色顔料,他地域(備中)
3808	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕台	113	118				
3809	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕台	113	118				
3810	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕台	113	118				
3811	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕台	113	118				
3812	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕台	113	118				
3813	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕台	113	118				
3814	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢	115	118				他地域(備後-安芸)
3815	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢	113	118				
3816	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	台付鉢	113	118				
3817	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢	113	118				
3818	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢	113	118				
3819	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢蓋手	113	118				
3820	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	大型鉢	113	119				
3821	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	大型鉢	113	119				
3822	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕	113	119				
3823	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	台付鉢	113	119				
3824	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	台付鉢	113	119				
3825	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	台付鉢	115	119		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料
3826	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢	113	119				
3827	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢	113	119				
3828	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢	113	119				
3829	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢	113	119				
3830	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢	113	119				
3831	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢	113	119				
3832	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢	113	119				
3833	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢	113	119				
3834	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢	113	119				
3835	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	高杯	113	119				
3836	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢	113	119				
3837	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢	113	119				
3838	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢	113	119				
3839	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	鉢	113	119				
3840	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	有孔鉢	113	119				
3841	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	取手付片口皿	115	119		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料
3842	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	大形鉢	115	119		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料
3843	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	取手付片口皿?	115	119		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料
3844	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	甕	115	119		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料
3845	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	製塩土器	115	119				
3846	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	製塩土器	115	119				外面に二次焼成痕
3847	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	把手付鉢	115	119				
3848	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	支脚	115	119				
3849	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	支脚	115	119				
3850	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	支脚	115	119				
3851	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	支脚	115	119				
3852	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	支脚	115	119				
3853	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	支脚	115	119				
3854	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	長頸壺	115	120				
3855	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	支脚	115	120				
3856	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	支脚	115	120				
3857	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	支脚	115	120				
3858	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	支脚	115	120	112			
3859	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	支脚	115	120				
3860	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	支脚	115	120				
3861	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	支脚	115	120				
3862	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	支脚	115	120				
3863	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	支脚	115	120				
3864	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	土製品?	115	120				内面側は疑口縁
3865	E区	SR02上層Bブロック	弥生土器	小型鉢	113	120				
3866	E区	SR02上層Bブロック	埴土		115	120				
3867	E区	SR02上層Bブロック	埴土		113	120				
3868	E区	SR02上層Bブロック	石罨	石罨	115	120				
3869	E区	SR02上層Bブロック	石罨	打製石罨丁	115	120				
3870	E区	SR02上層Bブロック	石罨	スクレイパー	115	120				
3871	E区	SR02上層Bブロック	石罨	打製石罨丁	115	120				
3872	E区	SR02上層Bブロック	石罨	スクレイパー	115	120				
3873	E区	SR02上層Bブロック	石罨	石靴	115	120	124			風化強
3874	E区	SR02上層Bブロック	石罨	叩き石	115	121				
3875	E区	SR02上層ブロックNo.取り上げ	弥生土器	長頸壺	121	122				他地域(吉備)
3876	E区	SR02上層ブロックNo.取り上げ	弥生土器	壺	121	122				
3877	E区	SR02上層ブロックNo.取り上げ	弥生土器	壺	121	122				
3878	E区	SR02上層ブロックNo.取り上げ	弥生土器	広口壺	121	122				
3879	E区	SR02上層ブロックNo.取り上げ	弥生土器	広口壺	121	122				
3880	E区	SR02上層ブロックNo.取り上げ	弥生土器	広口壺	121	122				
3881	E区	SR02上層ブロックNo.取り上げ	弥生土器	広口壺	121	122				
3882	E区	SR02上層ブロックNo.取り上げ	弥生土器	広口壺	121	122				
3883	E区	SR02上層ブロックNo.取り上げ	弥生土器	複合口縁壺	121	122				他地域(安芸?)
3884	E区	SR02上層ブロックNo.取り上げ	弥生土器	複合口縁壺	121	122				他地域(安芸?)
3885	E区	SR02上層ブロックNo.取り上げ	弥生土器	複合口縁壺	121	122				

報文番号	地区名	報告書名	種別	図種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
3886	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	広口壺	121	122				
3887	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	壺	121	122				
3888	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	広口壺	121	122				
3889	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	広口壺	121	122				
3890	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	壺	121	122				
3891	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	壺	121	122				
3892	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	壺	121	122				
3893	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	壺	121	122				
3894	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	壺	121	123				
3895	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	壺	121	123				
3896	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	壺	121	123				内面にタタキに伴う欠損
3897	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	壺	121	123				
3898	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	壺	121	123				
3899	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	壺	121	123				
3900	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	壺	121	123				
3901	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	壺	121	123				
3902	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	壺	121	123				
3903	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	片口鉢	121	123				
3904	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	片口鉢	121	123				
3905	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	鉢	121	123				
3906	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	鉢	121	123				
3907	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	鉢	121	123				
3908	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	鉢	121	123				
3909	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	鉢	121	123				
3910	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	小壺鉢	121	123				
3911	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	有孔鉢	121	123				
3912	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	土師器	高杯	121	124				
3913	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	鉢	121	124				
3914	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	鉢	121	124				
3915	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	鉢	121	124				
3916	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	鉢	121	124				
3917	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	鉢	121	124				
3918	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	鉢	121	124				
3919	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	鉢	121	124				
3920	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	支脚	121	124				
3921	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	支脚	121	124				
3922	E区	SR02 上層ブロック No. 取り上げ	発生土層	手づくね土器	121	124				
3923	E区	SR02 上層 B ブロック番号取り上げ	石蔵	石蔵	121	124				
3924	E区	SR02 上層 B ブロック番号取り上げ	石蔵	磨滅ある石蔵	121	124	123			
3925	E区	SR02 上層 B ブロック番号取り上げ	石蔵	叩き石	121	124				
3926	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	広口壺	124	125				
3927	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	広口壺	124	125				
3928	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	広口壺	124	125				
3929	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	広口壺	124	125				
3930	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	複合口縁壺	124	125				他地域 (伊予)
3931	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	広口壺	124	125				他地域 (備後)
3932	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	細頸壺	124	125				他地域 (吉備)
3933	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	細頸壺	124	125				
3934	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	複合口縁壺	124	125				
3935	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	広口壺	124	125				
3936	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	壺	124	125				銅部外面に記号紋
3937	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	壺	124	125				銅部外面に記号紋
3938	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	壺	124	125				
3939	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	壺	124	125				
3940	E区	SR02 上層 D ブロック	発生土層	壺	124	125				
3941	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	壺	124	125				
3942	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	壺	124	125				
3943	E区	SR02 上層 D ブロック	発生土層	短頸広口壺	124	125				
3944	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	高杯	124	125				
3945	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	複合口縁壺	124	125				他地域 (西部瀬戸内)
3946	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	裝飾高杯	124	125				
3947	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	裝飾高杯	126	125				他地域
3948	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	蹄台	124	125				
3949	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	蹄台	124	125				
3950	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	蹄台	126	125				他地域
3951	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	台付鉢	124	125				
3952	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	鉢	124	125				
3953	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	台付鉢	126	125				
3954	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	支脚	124	125				
3955	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	支脚	124	125				
3956	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	支脚	124	125				
3957	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	支脚	124	125				
3958	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	支脚	124	125				
3959	E区	SR02 上層 C ブロック	発生土層	小壺鉢	124	126				
3960	E区	SR02 上層 C ブロック	石蔵	石蔵	126	126				
3961	E区	SR02 上層 C ブロック	石蔵	打製石磨丁	126	126				
3962	E区	SR02 上層 C ブロック	石蔵	打製石磨丁	126	126				表面磨滅
3963	E区	SR02 上層 C ブロック No. 取り上げ	発生土層	広口壺	126	127				
3964	E区	SR02 上層 C ブロック No. 取り上げ	発生土層	蹄台	126	127				
3965	E区	SR02 上層 C ブロック No. 取り上げ	発生土層	小型壺	127	127				
3966	E区	SR02 上層 C ブロック No. 取り上げ	発生土層	台付鉢	127	127				
3967	E区	SR02 上層 C ブロック No. 取り上げ	発生土層	大型鉢	127	127				
3968	E区	SR02 上層 C ブロック No. 取り上げ	発生土層	有孔鉢	126	127				
3969	E区	SR02 上層 C ブロック No. 取り上げ	発生土層	支脚	127	127				
3970	E区	SR02 上層 E ブロック	発生土層	壺	127	128				
3971	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	壺	127	128				
3972	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	広口壺	127	128				
3973	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	壺	127	128				
3974	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	広口壺	127	128				
3975	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	広口壺	127	128				
3976	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	壺	127	128				
3977	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	長頸壺	127	128				
3978	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	複合口縁壺	127	128				
3979	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	細頸壺	127	128				他地域 (吉備)
3980	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	複合口縁壺	127	128				他地域 (伊予)
3981	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	複合口縁壺	127	128				他地域 (伊予)
3982	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	壺底部	127	128		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料
3983	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	複合口縁壺	127	128				
3984	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	複合口縁壺	127	128				
3985	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	壺	127	128				
3986	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	壺	127	128				
3987	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	壺	127	128				他地域 (香東川下流域)
3988	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	壺	127	128				
3989	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	壺	127	128				他地域 (備後)
3990	E区東	SR02 上層 E ブロック	発生土層	壺	127	128				他地域 (備後)

報告番号	地区名	報告通称名	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
3991	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	甕	127	128				他地域 (備後)
3992	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	甕	127	128				
3993	E 区	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	甕	127	129				
3994	E 区	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	甕	127	129				
3995	E 区	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	甕	127	129				
3996	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	甕	127	129				
3997	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	甕	127	129				
3998	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	甕	127	129				
3999	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	甕	127	129				
4000	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	甕	127	129				
4001	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	甕	127	129				
4002	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	甕	127	129				
4003	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	甕	127	129				
4004	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	甕	127	129				
4005	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	甕	127	129				
4006	E 区	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	高杯	127	129				
4007	E 区	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	大型鉢	127	129				
4008	E 区	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	高杯	127	129				
4009	E 区	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	高杯	127	129				
4010	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	高杯	127	129				
4011	E 区	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	器台	127	129				
4012	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	器台	127	129				
4013	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	甕	127	129				
4014	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	鉢	127	129				
4015	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	鉢	127	129				
4016	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	鉢	127	129				
4017	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	鉢	127	129				
4018	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	鉢	127	129				
4019	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	鉢	127	129				
4020	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	鉢	127	130				
4021	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	鉢	127	130				
4022	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	鉢	127	130				
4023	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	鉢	127	130				
4024	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	鉢	127	130				
4025	E 区	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	鉢	127	130				
4026	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	鉢	127	130				焼成失敗品・外面に別個体の土器が溶着
4027	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	鉢	127	130				他地域 (阿波)
4028	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	鉢	127	130				
4029	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	鉢	127	130				
4030	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	鉢	127	130				
4031	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	台付鉢	127	130				
4032	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	台付鉢	127	130				
4033	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	取手付片口皿	127	130		赤色顔料の蛍光 X 線分析	394	内面に赤色顔料
4034	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	支脚	127	130				
4035	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	支脚	127	130				
4036	E 区	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	支脚	127	130	112			
4037	E 区東	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	支脚	127	130				
4038	E 区	SR02 上層 E ブロック	弥生土器	支脚	127	130	112			
4039	E 区	SR02 上層 E ブロック	石鏡	石鏡	127	130				
4040	E 区東	SR02 上層 E ブロック	石鏡	石鏡	127	130	118			
4041	E 区	SR02 上層 E ブロック	石鏡	石鏡	127	130	118			
4042	E 区	SR02 上層 E ブロック	石鏡	打製石杵丁	127	130				
4043	E 区東	SR02 上層 E ブロック	石鏡	叩き石	127	130	131			
4044	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4045	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4046	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4047	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4048	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4049	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4050	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				他地域 (香東川下流域)
4051	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	長頸壺	131	132		赤色顔料の蛍光 X 線分析	394	内外面に赤色顔料, 他地域 (備中)
4052	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	長頸壺	131	132				
4053	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	壺	131	132				
4054	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4055	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4056	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4057	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4058	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4059	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4060	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4061	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4062	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4063	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4064	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4065	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	壺	131	132				
4066	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4067	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4068	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4069	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4070	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4071	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	132				
4072	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	壺	131	132				外面に記号紋
4073	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	133				外面に記号紋
4074	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	133				
4075	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	133				
4076	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	133				
4077	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	133				
4078	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	133				
4079	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	133				他地域?
4080	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	133				
4081	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	133				外面に記号紋
4082	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	133				
4083	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	複合口縁壺	131	133				
4084	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	複合口縁壺	131	133				
4085	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	複合口縁壺?	131	134				
4086	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	広口壺	131	134				
4087	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	複合口縁壺	131	134				他地域 (伊予)
4088	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	複合口縁壺	131	134				他地域?
4089	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	複合口縁壺	131	134				
4090	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	複合口縁壺	131	134				
4091	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	複合口縁壺	131	134				
4092	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	複合口縁壺	131	134				
4093	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	壺口壺	131	134				
4094	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	縄文壺	131	134				他地域 (香東川下流域), 焼成後穿孔
4095	E 区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢	131	134				

報告番号	地区名	報告遺構名	種別	図種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
4306	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢	131	143				
4307	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	台付鉢	131	143				
4308	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢	131	143				
4309	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢	131	143				
4310	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢	131	143				
4311	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢	131	143				
4312	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢	131	143				
4313	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢	131	143				
4314	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢	131	143				
4315	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢	131	143				
4316	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢	131	143				
4317	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢		143				
4318	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢		143				
4319	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢		143				
4320	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢		143				
4321	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢		143				
4322	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢		143				
4323	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	鉢		143				
4324	E区	SR02 上層 F ブロック	土師器	鉢		143				
4325	E区	SR02 上層 F ブロック	土師器	鉢		143				
4326	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	支脚	131	143				
4327	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	支脚	131	143				
4328	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	支脚	131	143				
4329	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	支脚	131	143				
4330	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	支脚	131	143				
4331	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	支脚	131	143				
4332	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	支脚	131	143				
4333	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	支脚	131	143	112			
4334	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	支脚	131	143				
4335	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	支脚	131	143				
4336	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	支脚	131	145				
4337	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	支脚	131	145				
4338	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	支脚	131	145				
4339	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	支脚	131	145				
4340	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	支脚	131	145				
4341	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	支脚	131	145				
4342	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	支脚	145	145	112			
4343	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	取手		145				
4344	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	小瓶蓋	131	145				内面黒色物(漆?)付着
4345	E区	SR02 上層 F ブロック	弥生土器	小瓶蓋	131	145				
4346	E区	SR02 上層 F ブロック	焼土		131	145				
4347	E区	SR02 上層 F ブロック	鉄	鉄線	131	145				
4348	E区	SR02 上層 F ブロック	石器	石鏃	144	145				未製品
4349	E区	SR02 上層 F ブロック	石器	石鏃	144	145	118			
4350	E区	SR02 上層 F ブロック	石器	打製石刃丁	144	145				
4351	E区	SR02 上層 F ブロック	石器	磨製石刃丁	144	145	127			
4352	E区	SR02 上層 F ブロック	石器	磨製石刃丁	144	145	127			
4353	E区	SR02 上層 F ブロック	石器	スクレイパー	144	145				風化強
4354	E区	SR02 上層 F ブロック	石器	スクレイパー	144	145				
4355	E区	SR02 上層 F ブロック	石器	柱状片刃石斧	144	146				
4356	E区	SR02 上層 F ブロック	石器	板石	144,188	146	119			
4357	E区	SR02 上層 F ブロック	石器	叩き石	144	146				
4358	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	147				
4359	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	147				
4360	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	147				
4361	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	147				
4362	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	147				
4363	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	147				
4364	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	147				
4365	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	147				
4366	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	147				
4367	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	147				
4368	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	147				
4369	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	147				
4370	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	147				
4371	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	147				
4372	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	147				他地域(香東川下流域)
4373	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	複合口縁壺	144	147				
4374	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	147				
4375	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	147				
4376	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	大型鉢	144	147				
4377	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	148				
4378	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	148				
4379	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	148				外面に焼成破線
4380	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	148				
4381	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	148				
4382	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	148				
4383	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	148				
4384	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	細頸壺	144	148				他地域(香東川下流域)
4385	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	148				外面に記号紋
4386	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	149				
4387	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	144	149				
4388	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	無頸壺	144	149				
4389	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	複合口縁壺	144	149				他地域(伊予)
4390	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	大型壺	144	149				
4391	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	150				
4392	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	150				
4393	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	150				
4394	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	150				
4395	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	150				
4396	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	150				
4397	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	150				
4398	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	150				
4399	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	150				
4400	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	土師器	壺	144	150				
4401	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	150				
4402	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	150				
4403	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	150				
4404	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	150				
4405	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	150				
4406	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	150				外面に記号紋
4407	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	150				
4408	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	150				
4409	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	151				
4410	E区	SR02 上層 F ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	144	151				

報告番号	地区名	報告書名	種別	図種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
4516	E区	SR02 上層 G ブロック	土師器	甕	153	156				
4517	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	甕	153	157				
4518	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	甕	153	157				
4519	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	甕	153	157				
4520	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	甕	153	157				
4521	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	高杯	153	157				
4522	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	高杯	153	157				
4523	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	高杯	153	157				
4524	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	高杯	153	157				
4525	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	高杯	153	157				他地域 (備中)
4526	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	高杯	153	157				
4527	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	高杯	153	157				
4528	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	台付鉢	153	157				
4529	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	甌台		157				
4530	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	甌台	153	157				
4531	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	甌台	153	157				他地域 (吉備)
4532	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	把手		157				
4533	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	高杯	153	157				他地域 (備中)
4534	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	157		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内外面に赤色顔料, 他地域 (備中)
4535	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	157		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料
4536	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	有孔鉢	153	157				
4537	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	157				
4538	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	157				
4539	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	157				
4540	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	甕	153	157				
4541	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	台付鉢	153	157				
4542	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	台付鉢	153	157				
4543	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	台付鉢	153	157				
4544	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	台付鉢	153	157				
4545	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	158				
4546	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	158				
4547	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	158				
4548	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	158				
4549	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	158				
4550	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	158				
4551	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	158				
4552	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	158				
4553	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	158				
4554	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	158				
4555	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	158				
4556	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	158				
4557	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	158				
4558	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	158				
4559	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	158				
4560	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	鉢	153	158				
4561	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	製塩土器	154	158				
4562	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	支脚	153	158				
4563	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	支脚	153	158				
4564	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	支脚	153	158				
4565	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	支脚	153	158				
4566	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	支脚	154	158				
4567	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	支脚	153	158				
4568	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	支脚	153	158				
4569	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	土製品	154	158				
4570	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	支脚	153	158				
4571	E区	SR02 上層 G ブロック	弥生土器	小銅鉢	154	158				内面黒色物 (漆?) 付着
4572	E区	SR02 上層 G ブロック	焼土			159				
4573	E区	SR02 上層 G ブロック	石器	扁平片刃石斧	154	159				
4574	E区	SR02 上層 G ブロック	石器	スクレイパー	154	159				
4575	E区	SR02 上層 G ブロック	石器	磨製石砲丁	154	159	127			
4576	B区	SR02 上層 G ブロック	石器	叩き石	154	159				
4577	E区	SR02 上層 G ブロック	石器	砥石	154	159	120			
4578	E区	SR02 上層 G ブロック No. 取り上げ	弥生土器	複合口縁壺	159	160				他地域 (備後?)
4579	E区	SR02 上層 G ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	159	160				
4580	E区	SR02 上層 G ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	159	160				
4581	E区	SR02 上層 G ブロック No. 取り上げ	弥生土器	広口壺	159	160				
4582	E区	SR02 上層 G ブロック No. 取り上げ	土師器	甕	159	160				
4583	E区	SR02 上層 G ブロック No. 取り上げ	弥生土器	甕	159	160				
4584	E区	SR02 上層 G ブロック No. 取り上げ	土師器	甕	159	160				
4585	E区	SR02 上層 G ブロック No. 取り上げ	弥生土器	甕	159	160				
4586	E区	SR02 上層 G ブロック No. 取り上げ	弥生土器	甕	159	160				
4587	E区	SR02 上層 G ブロック No. 取り上げ	弥生土器	甕	159	160				
4588	E区	SR02 上層 G ブロック No. 取り上げ	弥生土器	高杯	159	160				
4589	E区	SR02 上層 G ブロック No. 取り上げ	弥生土器	甌台	159	160				
4590	E区	SR02 上層 G ブロック No. 取り上げ	弥生土器	高杯	159	160				
4591	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	広口壺	160	161				
4592	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	長頸壺	160	161				
4593	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	複合口縁壺	160	161				
4594	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	複合口縁壺	160	161				
4595	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	複合口縁壺	160	161				他地域 (伊予?)
4596	E区	SR02 上層 I ブロック	土師器	広口壺	160	161				
4597	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	甕	160	161				
4598	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	甕	160	161				
4599	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	甕	160	161				
4600	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	甕	160	161				
4601	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	甕	160	161				
4602	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	甕	160	161				
4603	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	甕	160	161				
4604	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	甕	160	161				
4605	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	甕	160	161				
4606	E区	SR02 上層 I ブロック	土師器	甕	160	161				
4607	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	甕	160	161				
4608	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	甕	160	161				
4609	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	甕	160	161				
4610	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	高杯	160	161				
4611	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	高杯	160	161				
4612	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	甌台	160	161				
4613	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	台付鉢	160	161				
4614	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	鉢	160	161				
4615	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	鉢	160	161				
4616	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	鉢	160	161				
4617	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	鉢	160	161				
4618	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	鉢	160	161				
4619	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	鉢	160	161				
4620	E区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	支脚	160	162				

報告番号	地区名	報告通称名	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
4621	E 区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	支脚	160	162				
4622	E 区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	支脚	160	162				
4623	E 区	SR02 上層 I ブロック	弥生土器	支脚	160	162				
4624	E 区	SR02 上層 I ブロック	石鏡	石鏡	160	162				
4625	E 区	SR02 上層 I ブロック	石鏡	石鏡	160	162	124			下層部磨滅
4626	E 区	SR02 上層 I ブロック	石鏡	石鏡	160	162	124			
4627	E 区	SR02 上層 I ブロック	石鏡	スクレイパー	160	162				
4628	E 区	SR02 上層 I ブロック	石鏡	打製石筒丁	160	162				
4629	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	長頸壺	162	163				
4630	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	広口壺	162	163				
4631	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	広口壺	162	163				
4632	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	広口壺	162	163				他地域
4633	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	長頸壺	162	163		赤色顔料の蛍光 X 線分析	394	外面に赤色顔料, 他地域 (嶺中)
4634	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	複合口縁壺	162	163				
4635	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	広口壺	162	163				
4636	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	163				他地域 (西部瀬戸内)
4637	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	広口壺	162	163				
4638	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	広口壺	162	163				
4639	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	広口壺	162	163				
4640	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	広口壺	162	163				
4641	E 区	SR02 上層 J ブロック	土師器	広口壺	162	163				
4642	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	広口壺	162	163				
4643	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	広口壺	162	163				
4644	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	複合口縁壺	162	163				
4645	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	複合口縁壺	162	163				
4646	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	複合口縁壺	162	163				
4647	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	複合口縁壺	162	163				
4648	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	163				
4649	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	163				
4650	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	広口壺	162	163				
4651	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	広口壺	162	163				
4652	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	広口壺	162	163				
4653	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	広口壺	162	164				
4654	E 区	SR02 上層 J ブロック	土師器	壺	162	164				
4655	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	短頸壺	162	164				他地域 (香川川下流域)
4656	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4657	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4658	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4659	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4660	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4661	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164		赤色顔料の蛍光 X 線分析	394	外面に赤色顔料
4662	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4663	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4664	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4665	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4666	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4667	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4668	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4669	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4670	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4671	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4672	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4673	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4674	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4675	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4676	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4677	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4678	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4679	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4680	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4681	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4682	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4683	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4684	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4685	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	164				
4686	E 区	SR02 上層 J ブロック	土師器	壺	162	165				
4687	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	165				
4688	E 区	SR02 上層 J ブロック	土師器	壺	162	165				
4689	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	165				
4690	E 区	SR02 上層 J ブロック	土師器	壺	162	165				
4691	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	165				
4692	E 区	SR02 上層 J ブロック	土師器	壺	162	165				
4693	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	165				
4694	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	165				
4695	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	165				
4696	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	165				
4697	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	165				
4698	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	165				他地域 (香川川下流域) 胎土は非香川川下流域産
4699	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	壺	162	165		赤色顔料の蛍光 X 線分析	394	外面に赤色顔料, 他地域 (嶺中)
4700	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	高杯	162	165				
4701	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	高杯	162	165				
4702	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	高杯	162	165				
4703	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	高杯	162	165				
4704	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	高杯	162	165				
4705	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	裝飾高杯	162	165				他地域 (伊予?)
4706	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	高杯	162	165				
4707	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	高杯	162	165				
4708	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	高杯	162	165				
4709	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	高杯	162	165				
4710	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	高杯	162	165				
4711	E 区	SR02 上層 J ブロック	土師器	高杯	162	165				
4712	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	高杯	162	165				
4713	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	高杯	162	165				
4714	E 区	SR02 上層 J ブロック	土師器	高杯	162	165				
4715	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	鉢台	162	165				
4716	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	鉢台	162	165				
4717	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	台付鉢	162	165				他地域
4718	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	鉢	162	165				
4719	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	台付鉢	162	165				
4720	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	把手	162	165				
4721	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	鉢	162	165				
4722	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	鉢	162	166				
4723	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	鉢	162	166				
4724	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	鉢	162	166				
4725	E 区	SR02 上層 J ブロック	弥生土器	鉢	162	166				

報文番号	地区名	報告書題名	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
4831	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	複合口縁壺	171	172				
4832	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	複合口縁壺	171	172				
4833	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	複合口縁壺	171	172				
4834	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	複合口縁壺	171	172				他地域 (西部瀬戸内?)
4835	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	172				
4836	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	複合口縁壺	171	172				
4837	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	複合口縁壺	171	172				
4838	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	172				
4839	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	172				
4840	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	172				
4841	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	172				
4842	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	172				他地域 (香東川下流域)
4843	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	172				
4844	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	172				
4845	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	172				
4846	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	172				
4847	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	172				
4848	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	172				外面に記号紋
4849	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	172				内外面ともにマツ
4850	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	172				
4851	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	172				
4852	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	173				
4853	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	173				
4854	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	173				
4855	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	土師器	壺	171	173				
4856	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	173				
4857	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	173				
4858	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	173				
4859	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	土師器	壺	171	173				
4860	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	土師器	壺	171	173				
4861	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	土師器	壺	171	173				
4862	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	土師器	壺	171	173				
4863	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	土師器	壺	171	173				
4864	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	173				
4865	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	土師器	壺	171	173				
4866	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	土師器	壺	171	173				
4867	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	土師器	壺	171	173				
4868	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	高杯	171	173		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料、他地域 (備中)
4869	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	高杯	171	173				
4870	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	器台	171	173				
4871	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	鉢	171	173				他地域
4872	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	台付鉢	171	173		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料、他地域 (備中)
4873	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	鉢	171	173				外面にマツ
4874	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	鉢	171	173				
4875	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	大形鉢	171	173				他地域 (吉備)
4876	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	鉢	171	173				
4877	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	鉢	171	173				
4878	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	鉢	171	173				
4879	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	鉢	171	173				
4880	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	土師器	鉢	171	173				
4881	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	鉢	171	174				
4882	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	有孔鉢	171	174				
4883	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	鉢	171	174				
4884	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	壺	171	174				
4885	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	鉢	171	174				
4886	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	支脚	171	174				
4887	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	支脚	171	174				
4888	E区	SR02 上層 K ブロック No. 取り上げ	弥生土器	小碗	171	174				
4889	E区	SR02 上層 K ブロック番号取り上げ	青銅	銅鏝	171	174		青銅器同位体比分析	274	
4890	B区	SR02 上層 K ブロック番号取り上げ	石鏡	柱状片刃石斧	175,193	174				
4891	E区	SR02 上層 K ブロック番号取り上げ	石鏡	打製石槍丁	175	174				
4892	E区	SR02 上層 K ブロック番号取り上げ	石鏡	磨製石槍丁	175	174	127			
4893	B区	SR02 上層 K ブロック番号取り上げ	石鏡	打製石斧	175	174				
4894	B区	SR02 上層 K ブロック番号取り上げ	石鏡	叩き石	175	174				
4895	B区	SR02 上層 K ブロック番号取り上げ	石鏡	砥石	175	175	121			
4896	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	広口壺	176	177				
4897	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	複合口縁壺	176	177				
4898	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	長頸壺	176	177				
4899	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	長頸壺	176	177				
4900	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	広口壺	176	177				
4901	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	広口壺	176	177				
4902	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	広口壺	176	177				
4903	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	広口壺	176	177				
4904	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	細頸壺	176	177				他地域 (吉備)
4905	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	細頸壺	176	177		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料、他地域 (備中)
4906	E区	SR02 上層 L ブロック	土師器	広口壺	176	177				内面に記号紋
4907	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	広口壺	176	177				
4908	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	広口壺	176	177				
4909	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	広口壺	176	177				
4910	E区	SR02 上層 L ブロック	土師器	広口壺	176	177				
4911	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	広口壺	176	177				
4912	E区	SR02 上層 L ブロック	土師器	広口壺	176	177				
4913	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	複合口縁壺	176	177				
4914	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	複合口縁壺	176	177				
4915	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	複合口縁壺	176	177				
4916	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	広口壺	176	177				
4917	E区	SR02 上層 L ブロック	土師器	広口壺	176	177				
4918	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	複合口縁壺	176	177				
4919	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	複合口縁壺	176	177				他地域 (西部瀬戸内?)
4920	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	複合口縁壺	176	177				
4921	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	複合口縁壺	176	177				
4922	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	広口壺	176	177				
4923	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	広口壺	176	177				
4924	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	広口壺	176	177				
4925	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	壺	176	177				
4926	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	壺	176	177				
4927	E区	SR02 上層 L ブロック	土師器	広口壺	176	178				
4928	E区	SR02 上層 L ブロック	土師器	広口壺	176	178				
4929	E区	SR02 上層 L ブロック	土師器	広口壺	176	178				
4930	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	壺	176	178				
4931	E区	SR02 上層 L ブロック	土師器	壺	176	178				
4932	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	壺	176	178				他地域 (香東川下流域)
4933	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	壺	176	178				
4934	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	壺	176	178				
4935	E区	SR02 上層 L ブロック	弥生土器	壺	176	178				他地域 (香東川下流域)

報告番号	地区名	報告通称名	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
5041	E区	SR02上層Lブロック	弥生土器	鉢	176	181				
5042	E区	SR02上層Lブロック	弥生土器	鉢	176	181				
5043	E区	SR02上層Lブロック	土師器	鉢	176	181				
5044	E区	SR02上層Lブロック	土師器	鉢	176	181				
5045	E区	SR02上層Lブロック	土師器	鉢	176	181				
5046	E区	SR02上層Lブロック	弥生土器	鉢	176	181				
5047	E区	SR02上層Lブロック	土師器	杯	176	181				
5048	E区	SR02上層Lブロック	弥生土器	鉢	176	182				
5049	E区	SR02上層Lブロック	弥生土器	鉢	176	182				
5050	E区	SR02上層Lブロック	弥生土器	台付鉢	176	182				
5051	E区	SR02上層Lブロック	弥生土器	支脚	176	182				
5052	E区	SR02上層Lブロック	弥生土器	支脚	176	182				
5053	E区	SR02上層Lブロック	弥生土器	支脚	176	182				
5054	E区	SR02上層Lブロック	弥生土器	支脚	176	182				
5055	E区	SR02上層Lブロック	弥生土器	支脚	176	182				
5056	E区	SR02上層Lブロック	弥生土器	支脚	176	182				
5057	E区	SR02上層Lブロック	弥生土器	小型鉢	176	182				
5058	E区	SR02上層Lブロック	弥生土器	小型鉢	176	182				
5059	E区	SR02上層Lブロック	埴土			182				
5060	E区	SR02上層Lブロック	石鏡	石鏡	176	182				未製品
5061	E区	SR02上層Lブロック	石鏡	石鏡	176	182	118			
5062	E区	SR02上層Lブロック	石鏡	打製石高丁	176	182				刃部磨滅
5063	E区	SR02上層Lブロック	石鏡	打製石高丁	176	182				
5064	E区	SR02上層Lブロック	石鏡	打製石高丁	176	182				表裏面磨滅
5065	E区	SR02上層Lブロック	石鏡	叩き石	176	182				二片接合
5066	E区	SR02上層Lブロック	石鏡	砥石	176	182				
5067	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	広口壺	176	183				
5068	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	広口壺	176	183				
5069	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	広口壺	176	183				
5070	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	広口壺	176	183				
5071	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	壺	176	183				
5072	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	壺	176	183				
5073	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	壺	176	183				
5074	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	壺	176	183				
5075	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	壺	176	183				
5076	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	土師器	壺	176	183				
5077	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	壺	176	183				
5078	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	壺	176	183				
5079	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	壺	176	183				
5080	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	壺	176	183				
5081	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	壺	176	183				
5082	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	壺	176	183				
5083	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	高杯	176	183				他地域?
5084	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	高杯	176	183				
5085	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	片口鉢	176	183				
5086	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	鉢	176	183				
5087	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	鉢	176	183				
5088	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	鉢	176	183				
5089	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	土師器	鉢	176	183				
5090	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	土師器	鉢	176	183				
5091	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	鉢	176	183				
5092	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	支脚	176	183				
5093	E区	SR02上層LブロックNo.取り上げ	弥生土器	支脚	176	183				
5094	E区	SR02上層MブロックNo.取り上げ	弥生土器	広口壺	176	184				
5095	E区	SR02上層MブロックNo.取り上げ	弥生土器	甗台	176	184				他地域(吉備)
5096	E区	SR02上層MブロックNo.取り上げ	弥生土器	広口壺	176	184				他地域?
5097	E区	SR02上層MブロックNo.取り上げ	弥生土器	壺	184	184				
5098	E区	SR02上層MブロックNo.取り上げ	弥生土器	壺	184	184				
5099	E区	SR02上層MブロックNo.取り上げ	弥生土器	壺	184	184				
5100	E区	SR02上層MブロックNo.取り上げ	弥生土器	高杯	184	184				
5101	E区	SR02上層MブロックNo.取り上げ	弥生土器	高杯	184	184				
5102	E区	SR02上層MブロックNo.取り上げ	弥生土器	甗台	184	184				
5103	E区	SR02上層MブロックNo.取り上げ	弥生土器	壺	184	184				
5104	E区	SR02上層MブロックNo.取り上げ	弥生土器	台付鉢	184	184				
5105	E区	SR02上層MブロックNo.取り上げ	弥生土器	台付鉢	184	184				
5106	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	広口壺	184	185				内面に竹管による記号文
5107	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	広口壺	184	185				
5108	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	広口壺	184	185				
5109	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	広口壺	184	185				
5110	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	短頸広口壺	184	185				
5111	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	185				他地域?
5112	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	広口壺	184	185				
5113	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	広口壺	184	185				
5114	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	広口壺	184	185				外面に記号紋
5115	E区	SR02上層Nブロック	土師器	広口壺	184	185				
5116	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	185				他地域
5117	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	185				他地域
5118	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	廣口壺	184	185				
5119	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	長頸壺	184	185				他地域?
5120	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	短頸広口壺	184	185				他地域(備後)
5121	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	細頸壺	184	185				他地域(吉備)
5122	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	185				他地域(備後)
5123	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	185				
5124	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	185				
5125	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	185				
5126	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	185				
5127	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	185				
5128	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	186				他地域((香取川下流域)
5129	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	186				内面にマメツ
5130	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	186				
5131	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	186				
5132	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	186				
5133	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	186		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料
5134	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	186				
5135	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	186				
5136	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	壺	184	186				
5137	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	高杯	184	186				
5138	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	高杯	184	186				
5139	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	高杯	184	186				
5140	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	高杯	184	186				
5141	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	高杯	184	186				他地域(香取川下流域)
5142	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	高杯	184	186				
5143	E区	SR02上層Nブロック	土師器	高杯	184	186				
5144	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	高杯	184	186				
5145	E区	SR02上層Nブロック	土師器	高杯	184	186				

報告番号	地区名	報告遺構名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
5146	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	高杯	184	186				
5147	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	器台	184	186				
5148	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	器台	184	186				
5149	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	器台	184	186				
5150	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	器台	184	186				
5151	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	器台	184	186				
5152	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	器台	184	186				
5153	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	器台	184	186				
5154	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	器台	184	186				
5155	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	器台	184	186				
5156	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	鉢	184	186				他地域(備中)
5157	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	台付鉢	184	186				
5158	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	鉢	184	186				
5159	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	鉢	184	187				
5160	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	台付鉢	184	187				
5161	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	片口鉢	184	187				
5162	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	鉢	184	187				
5163	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	鉢	184	187				
5164	E区	SR02上層Nブロック	土師器	鉢	184	187				
5165	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	鉢	184	187				
5166	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	鉢	184	187				
5167	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	台付鉢	184	187				
5168	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	鉢	184	187				
5169	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	支脚	184	187				
5170	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	支脚	184	187				
5171	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	支脚	184	187				
5172	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	支脚	184	187				
5173	E区	SR02上層Nブロック	弥生土器	支脚	184	187				
5174	E区	SR02上層Nブロック	焼土		184	187				
5175	E区	SR02上層Nブロック	焼土		184	187				
5176	E区	SR02上層Nブロック	鉄	鉄片	184	187	115,179	出土鉄製品の構造分析	362	
5177	E区	SR02上層Nブロック	石器	石鏃	188	188	118			
5178	E区	SR02上層Nブロック	石器	槌状石核	188	188				
5179	E区	SR02上層Nブロック	石器	磨滅ある石鏃	188	188	123			
5180	E区	SR02上層Nブロック	石器	砥石	188	188	120			
5181	E区	SR02上層Nブロック	石器	砥石	188	188	119			
5182	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	広口壺	189	190				
5183	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	広口壺	189	190				
5184	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	広口壺	189	190				
5185	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	長頸壺	189	190				
5186	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	複合口縁壺	189	190				
5187	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	広口壺	189	190				他地域(豊前?)
5188	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	190				他地域(東北郡九州?)
5189	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	190				他地域(東北郡九州?)
5190	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	短頸広口壺	189	190				
5191	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	短頸広口壺	189	190				
5192	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	広口壺	189	190				
5193	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	広口壺	189	190				
5194	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	広口壺	189	190				
5195	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	広口壺	189	190				
5196	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	広口壺	189	190				
5197	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	広口壺	189	190				
5198	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	広口壺	189	190				
5199	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	190		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料
5200	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	細頸壺	189	190				他地域(香洲川下流域)
5201	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	細頸壺	189	190				他地域(吉備)
5202	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	190				
5203	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	190				
5204	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	190				
5205	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	190				
5206	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	190				
5207	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	190				
5208	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	190				
5209	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	191				
5210	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	191				
5211	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	191				
5212	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	191				
5213	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	191				他地域(瀬西瀬戸内)
5214	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	191				
5215	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	191				
5216	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	191				黒斑が破断面を超えて見られる・焼成破損土器
5217	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	191				外面に焼成破損痕
5218	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	191				底部穿孔
5219	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	191				
5220	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	191				
5221	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	有孔壺	189	191				
5222	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	高杯	189	191				
5223	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	高杯	189	191				
5224	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	高杯	189	191				
5225	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	杯	189	191				
5226	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	壺	189	191				他地域?
5227	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	支脚	189	191				
5228	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	高杯	189	191				
5229	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	高杯	189	191				
5230	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	高杯	189	191				
5231	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	高杯	189	191				
5232	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	高杯	189	191				
5233	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	高杯	189	191				
5234	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	高杯	189	191				他地域(備後)
5235	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	台付鉢	189	191				
5236	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	器台	189	191				
5237	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	器台	189	191				
5238	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	器台	189	191				
5239	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	器台	189	191				
5240	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	器台	189	191				
5241	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	台付鉢	189	192				
5242	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	台付鉢	189	192				
5243	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	台付鉢	189	192				
5244	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	台付鉢	189	192				
5245	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	高杯	189	192				
5246	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	台付鉢	189	192				
5247	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	鉢	189	192				外面に焼成破損痕
5248	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	台付鉢	189	192				
5249	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	鉢	189	192				
5250	E区	SR02上層Oブロック	弥生土器	大型鉢	189	192				

報告番号	地区名	報告遺構名	種別	器種	本文頁	挿入頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
5251	E 区	SR02 上層 O ブロック	弥生土層	台付鉢	189	192				
5252	E 区	SR02 上層 O ブロック	弥生土層	台付鉢	189	192				
5253	E 区	SR02 上層 O ブロック	弥生土層	蓋?	189	192				
5254	E 区	SR02 上層 O ブロック	弥生土層	鉢	189	192				他地域 (吉備)
5255	E 区	SR02 上層 O ブロック	弥生土層	支脚	189	192				
5256	E 区	SR02 上層 O ブロック	弥生土層	支脚	189	192				
5257	E 区	SR02 上層 O ブロック	弥生土層	支脚	189	192				
5258	E 区	SR02 上層 O ブロック	石葺	石葺	189	192				
5259	E 区	SR02 上層 O ブロック	石葺	石葺	189	192				
5260	E 区	SR02 上層 O ブロック	石葺	石葺	189	192				
5261	E 区	SR02 上層 O ブロック	石葺	打製石器丁	189	192				
5262	E 区	SR02 上層 O ブロック	石葺	打製石器丁	189	192	125			表裏面磨滅
5263	E 区	SR02 上層 O ブロック	石葺	打製石器丁	189	193	125			
5264	E 区	SR02 上層 O ブロック	石葺	打製石器丁	189	193	126			表裏面磨滅
5265	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	広口壺	193	194				
5266	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	広口壺	193	194				
5267	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	広口壺	193	194				
5268	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	広口壺	193	194				
5269	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	廣口壺	193	194				
5270	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	広口壺	193	194				
5271	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	広口壺	193	194				外面に記号紋
5272	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	複合口縁壺	193	194				
5273	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	複合口縁壺	193	194				
5274	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	複合口縁壺	193	194				
5275	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	複合口縁壺	193	194				他地域 (伊予)
5276	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	194				
5277	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	194				
5278	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	194				
5279	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	194				
5280	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	194				
5281	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	194				
5282	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	194				
5283	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	194				
5284	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	194				
5285	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	194				
5286	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	194				
5287	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	土師器	壺	193	194				
5288	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	土師器	壺	193	194				
5289	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	土師器	壺	193	194				
5290	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	194				
5291	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	土師器	壺	193	194				
5292	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	194				
5293	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	土師器	壺	193	194				
5294	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	194				
5295	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	194				
5296	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	土師器	壺	193	194				
5297	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	194				
5298	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	土師器	壺	193	195				
5299	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	土師器	壺	193	195				
5300	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	土師器	壺	193	195				他地域 (布留系)
5301	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	土師器	壺	193	195				他地域 (布留系)
5302	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	土師器	壺	193	195				
5303	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	土師器	壺	193	195				
5304	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	土師器	壺	193	195				
5305	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	195				
5306	E 区	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	195				
5307	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	高杯	193	195				他地域 (香瀬川下流域)
5308	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	高杯	193	195				他地域 (吉備)
5309	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	高杯	193	195				
5310	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	高杯	193	195				
5311	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	裝飾高杯	193	195				
5312	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	裝飾高杯	193	195				
5313	E 区	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	甌台	193	195				
5314	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	甌台	193	195				
5315	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	甌台	193	195				
5316	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	台付鉢	193	195				
5317	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	壺	193	195				
5318	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	鉢	193	195				
5319	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	鉢	193	195				
5320	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	鉢	193	195				
5321	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	土師器	鉢	193	195				
5322	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	鉢	193	195				
5323	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	有孔鉢	193	195				
5324	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	台付鉢	193	195				
5325	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	鉢	193	195				
5326	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	鉢	193	195				
5327	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	土師器	鉢	193	195				
5328	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	支脚	193	195				
5329	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	弥生土層	支脚	193	195				
5330	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	土製品	分銅製土製品	193	195	113			
5331	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	石葺	打製石刺	193	196				
5332	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	石葺	柱状片刃石斧	193	196				
5333	E 区中央	SR02 上層 P ブロック	石葺	砥石	193	196	121			被熱
5334	E 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	細頸長頸壺	196	198				
5335	E 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	細頸長頸壺	196	198				
5336	E 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	細頸長頸壺	196	198				
5337	E 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	広口壺	196	198				
5338	B 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	廣口壺	196	198				
5339	B 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	壺	196	198				
5340	B 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	壺	196	198				
5341	E 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	広口壺	196	198				
5342	B 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	広口壺	196	198				
5343	E 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	広口壺	196	198				
5344	E 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	広口壺	196	198				
5345	E 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	広口壺	196	198				
5346	E 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	広口壺	196	198				
5347	E 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	広口壺	196	198				
5348	E 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	広口壺	196	198				
5349	E 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	広口壺	196	198				他地域 (河内) 生駒西福産
5350	E 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	広口壺	196	198				他地域
5351	E 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	細頸壺	196	198				
5352	E 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	広口壺	196	198				他地域
5353	E 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	長頸壺	196	198				
5354	E 区	SR02 上層、層位不明	弥生土層	長頸壺	196	198				
5355	E 区西側	SR02 上層、層位不明	弥生土層	壺	196	198				他地域 (阿波) 外面に記号紋

報告番号	地区名	報告箇所名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
5356	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	長頸壺	196	198		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内外面に赤色顔料、他地域(吉備)
5357	E区西側	SR02上層・層位不明	弥生土器	広口壺	196	198				他地域(備後)
5358	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	複合口縁壺	196	198				他地域(備後)
5359	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	複合口縁壺	196	198				他地域(安芸?)
5360	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	広口壺	196	198				
5361	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	広口壺	196	198				
5362	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	広口壺	196	198				
5363	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	広口壺	196	198				
5364	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	広口壺	196	198				
5365	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	磨口壺	196	198				
5366	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	磨台?	196	198				外面に記号紋
5367	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	広口壺	196	198				内面に記号紋
5368	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	広口壺	196	198				
5369	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	広口壺	196	198				
5370	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	長頸壺	196	198				
5371	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	広口壺	196	198				
5372	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	複合口縁壺	196	199				他地域(備後?)
5373	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	複合口縁壺	196	199				
5374	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	複合口縁壺	196	199				
5375	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	複合口縁壺	196	199				
5376	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	複合口縁壺	196	199				
5377	E区	SR02上層・層位不明	土師器	二重口縁壺	196	199				
5378	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	複合口縁壺	196	199				
5379	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	細頸壺	196	199				
5380	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	広口壺	196	199				他地域
5381	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	複合口縁壺?	196	199				他地域(西部瀬戸内)
5382	B区	SR02上層・層位不明	弥生土器	壺	196	199		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料、他地域
5383	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	壺	196	199				
5384	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	壺	196	199				
5385	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	壺	196	199				
5386	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	壺	196	199				
5387	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	壺	196	199				
5388	E区西側	SR02上層・層位不明	弥生土器	壺	196	199				
5389	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	壺	196	199				
5390	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	甕	196	199				
5391	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	甕	196	199				
5392	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	甕	196	199				
5393	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	甕	196	199				
5394	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	甕	196	199				
5395	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	甕	196	199				
5396	E区	SR02上層・層位不明	土師器	甕	196	199				
5397	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	甕	196	199				
5398	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	甕	196	199				
5399	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	甕	196	199				
5400	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	甕	196	199				
5401	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	甕	196	199				
5402	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	甕	196	199				
5403	E区	SR02上層・層位不明	土師器	甕	196	200				
5404	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	甕	196	200				
5405	E区西側	SR02上層・層位不明	土師器	甕	196	200				
5406	E区	SR02上層・層位不明	土師器	甕	196	200				
5407	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	甕	196	200				
5408	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	甕	196	200				
5409	E区	SR02上層・層位不明	土師器	甕	196	200				
5410	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	甕	196	200				
5411	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	甕	196	200				
5412	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	有孔鉢	196	200				
5413	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	高杯	196	200				
5414	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	高杯	196	200				
5415	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	高杯	196	200				
5416	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	高杯	196	200				
5417	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	高杯	196	200				
5418	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	高杯	196	200				
5419	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	高杯	196	200				
5420	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	高杯	197	200				他地域(香来川下流域)
5421	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	高杯	197	200		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料、他地域(備中)
5422	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	高杯	197	200				他地域(吉備)
5423	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	高杯	197	200				他地域(安芸)
5424	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	高杯	196	200				
5425	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	高杯	196	200				
5426	E区	SR02上層・層位不明	土師器	高杯	196	200				
5427	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	高杯	196	200				
5428	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	高杯	196	200				
5429	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	高杯	196	200				
5430	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	高杯	197	200				脚部内面に小礫封入
5431	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	磨台	196	200				
5432	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	磨台	197	200				他地域(備中)
5433	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	磨台	196	200				
5434	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	磨台	196	200				
5435	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	磨台	196	200				
5436	B区	SR02上層・層位不明	弥生土器	台付鉢	196	201				
5437	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	台付鉢	196	201				
5438	B区	SR02上層・層位不明	弥生土器	鉢	196	201				
5439	B区	SR02上層・層位不明	弥生土器	台付鉢	196	201				
5440	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	台付鉢	196	201				
5441	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	片口鉢	196	201				
5442	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	台付鉢	197	201				
5443	B区	SR02上層・層位不明	弥生土器	台付鉢	196	201				
5444	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	台付鉢	196	201				
5445	E区	SR02上層・層位不明	土師器	低脚杯	197	201				他地域(山陰)
5446	E区	SR02上層・層位不明	土師器	鉢	196	201				
5447	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	鉢	196	201				
5448	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	鉢	196	201				
5449	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	鉢	196	201				
5450	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	有孔鉢	196	201				
5451	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	有孔鉢	196	201				
5452	E区	SR02上層・層位不明	土師器	鉢	196	201				
5453	E区	SR02上層・層位不明	土師器	鉢	196	201				
5454	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	鉢	196	201				
5455	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	鉢	196	201				
5456	E区西側	SR02上層・層位不明	弥生土器	把手付片口皿	197	201		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料
5457	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	把手付片口皿?	197	201				支脚の可能性有
5458	E区	SR02上層・層位不明	土師器	鉢	196	201				
5459	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	支脚	196	201				
5460	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	支脚	196	201	112			

報告番号	地区名	報告遺構名	種別	器種	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
5461	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	支脚	196	201				
5462	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	支脚	196	201				
5463	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	支脚	196	201				
5464	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	支脚	196	202				
5465	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	支脚	196	202				
5466	E区	SR02上層・層位不明	弥生土器	支脚	197	202				
5467	E区	SR02上層・層位不明	土製品	小壺	197	202				内面に黒色物(漆?)付着
5468	B区	SR02上層・層位不明	土製品	紡錘車	196	202	114			鏝頭部乾用品
5469	B区	SR02上層・層位不明	土製品	分銅型土製品	196	202	113			
5470	E区	SR02上層・層位不明	焼土		197	202				
5471	B区	SR02上層・層位不明	石鏡	石鏡	197	202				未製品
5472	B区	SR02上層・層位不明	石鏡	石鏡	197	202				
5473	B区	SR02上層・層位不明	石鏡	石鏡	197	202				風化強
5474	E区	SR02上層・層位不明	石鏡	搬入石材剥片	197	202				
5475	E区	SR02上層・層位不明	石鏡	柱状片刃石斧	197	202				
5476	E区	SR02上層・層位不明	石鏡	スクレイパー	197	202				風化強
5477	E区	SR02上層・層位不明	石鏡	打製石高丁	197	202				
5478	B区	SR02上層・層位不明	石鏡	磨滅ある石鏡	197	202	123			
5479	E区	SR02上層・層位不明	石鏡	叩き石	197	203	130			
5480	E区	SR02上層・層位不明	石鏡	砥石	197	203				
5481	予備調査	包含層	弥生土器	細頸長頸壺	205					
5482	予備調査	包含層	弥生土器	細頸長頸壺	205					
5483	予備調査	包含層	弥生土器	広口壺	205					
5484	予備調査	包含層	弥生土器	広口壺	205					外面に赤色顔料
5485	E区	包含層	弥生土器	長頸壺	204	205		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内・外面に赤色顔料、他地域(備中)
5486	C区	包含層	弥生土器	複合口縁壺	204	205				他地域(西部瀬戸内)
5487	E区	包含層	弥生土器	複合口縁壺	205					
5488	予備調査	包含層	弥生土器	細頸壺	204	205				他地域(吉備)
5489	予備調査	包含層	弥生土器	壺	204	205				他地域(備後)
5490	A区	包含層	弥生土器	壺	204	205		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料、他地域(備後)
5491	予備調査	包含層	弥生土器	壺	204	205		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料、他地域(備中)
5492	B区	包含層	弥生土器	長頸壺	204	205		赤色顔料の蛍光X線分析	394	内面に赤色顔料、他地域(備中)
5493	B区	包含層	弥生土器	甗台	204	205		赤色顔料の蛍光X線分析	394	他地域(備中)
5494	E区	包含層	弥生土器	壺	205					他地域(香取川下流域)
5495	F区	包含層	弥生土器	壺	204	205				
5496	E区	包含層	弥生土器	高杯	205					他地域(備中)
5497	A区	包含層	弥生土器	高杯	205			赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料
5498	A区	包含層	弥生土器	高杯	204	205				
5499	予備調査	包含層	弥生土器	高杯	205					他地域(吉備)
5500	B区	包含層	弥生土器	高杯	204	205		赤色顔料の蛍光X線分析	394	外面に赤色顔料、他地域(備中)
5501	E区	包含層	縄文土器	浅鉢	204	205				
5502	C区	包含層	縄文土器	浅鉢	204	205				
5503	予備調査	包含層	弥生土器	回転台型土器	205					
5504	C区	包含層	土師器	飯椀	205					
5505	D-E区	包含層	須恵器	壺	205					
5506	B区	包含層	須恵器	杯身	205					内面に紫雲母付着
5507	B区	包含層	緑釉陶器	皿	205					
5508	D区	包含層	緑釉陶器	皿	205					
5509	予備調査	包含層	土製品	分銅型土製品	204	205	113			
5510	B区	包含層	土製品	紡錘車	205	205	114			乾用品
5511	A区	包含層	弥生土器	広口壺	206					
5512	A区	包含層	弥生土器	壺	206					
5513	A区	包含層	弥生土器	壺	206					
5514	F区	包含層	弥生土器	壺	206					
5515	B区	包含層	弥生土器	壺	206					
5516	B区	包含層	須恵器	壺	206					
5517	F区	包含層	弥生土器	壺	206					
5518	A区	包含層	弥生土器	壺	206					
5519	A区	包含層	弥生土器	壺	206					
5520	A区	包含層	弥生土器	壺	206					
5521	B区	包含層	弥生土器	壺	206					
5522	B区	包含層	弥生土器	壺	206					
5523	B区	包含層	弥生土器	壺	206					
5524	B区	包含層	縄文土器	浅鉢	206					
5525	A区	包含層	弥生土器	高杯	206					
5526	B区	包含層	弥生土器	高杯	206					
5527	B区	包含層	弥生土器	台付鉢	206					
5528	B区	包含層	弥生土器	支脚	206	160				
5529	D区	包含層	須恵器	杯身	206					
5530	D区	包含層	須恵器	壺	206					
5531	E区	包含層	須恵器	杯身	206					
5532	B区	包含層	須恵器	壺	206					
5533	E区	包含層	須恵器	皿	206					
5534	C区	包含層	土師器	皿	206					外面に赤色顔料
5535	B区	包含層	須恵器	壺	206					
5536	E区	包含層	須恵器	壺	206					
5537	B区	包含層	須恵器	壺	206					
5538	B区	包含層	須恵器	壺	206					
5539	D区	包含層	須恵器	壺	206					
5540	A区	包含層	土師器	土罐	204	206	160			
5541	D区	包含層	鉄	刀子	207	179				
5542	E区	包含層	鉄	鉄塊	207					
5543	D区	包含層	鉄	鉄屑片	207					
5544	C区	包含層	青銅	銅鏡	204	207		青銅鏡同位体比分析	274	
5545	D区	包含層	玉	ガラス小玉	204	207				
5546	F区	包含層	玉	ガラス小玉	204	207				
5547	C区	包含層	石鏡	石鏡	204	207	118			
5548	F区	包含層	石鏡	石鏡	204	207				
5549	E区	包含層	石鏡	石鏡	204	207	118			
5550	B区	包含層	石鏡	石鏡	204	207				
5551	予備調査	包含層	石鏡	石鏡	204	207				
5552	A区	包含層	石鏡	石鏡	204	207	118			
5553	B区	包含層	石鏡	石鏡	204	207				
5554	D区	包含層	石鏡	石鏡	204	207				
5555	C区	包含層	石鏡	石鏡	204	207				
5556	B区	包含層	石鏡	石鏡	204	207				
5557	B区	包含層	石鏡	石鏡	204	207				
5558	D区	包含層	石鏡	石鏡	204	207				
5559	A区	包含層	石鏡	石鏡	204	207				
5560	A区	包含層	石鏡	石鏡	204	207				
5561	A区	包含層	石鏡	石鏡	204	207				
5562	D区	包含層	石鏡	石鏡	204	207				
5563	C区	包含層	石鏡	石鏡	204	207				
5564	C区	包含層	石鏡	石鏡	204	207				
5565	C区	包含層	石鏡	石鏡	204	207				

報文番号	地区名	報告書種名	種別	銘柄	本文頁	挿図頁	図版番号	分析内容	分析頁	備考
5566	C区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5567	E区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5568	E区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5569	E区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5570	E区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5571	E区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5572	C区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5573	D区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5574	D区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5575	C区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5576	D区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5577	D区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5578	E区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5579	C区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5580	C区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5581	C区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5582	C区	包査層	石礫	石礫	204	207	118			
5583	E区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5584	D区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5585	E区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5586	C区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5587	D区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5588	D区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5589	D区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5590	A区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5591	C区	包査層	石礫	石礫	204	207				
5592	D区北東	包査層	石礫	石礫	204	207	118			
5593	D区	包査層	石礫	石礫	204	207	118			
5594	C区	包査層	石礫	石礫	204	208	124			
5595	D区	包査層	石礫	石礫	204	208	124			
5596	C区	包査層	石礫	石礫	204	208	124			
5597	D区	包査層	石礫	打製石片	204	208				
5598	A区	包査層	石礫	打製石片	204	208				
5599	予備調査	包査層	石礫	打製石片	204	208				
5600	D区	包査層	石礫	打製石片	204	208				
5601	D区	包査層	石礫	打製石片	204	208				
5602	D区	包査層	石礫	打製石片	204	208				
5603	F区	包査層	石礫	打製石片	204	208				
5604	C区	包査層	石礫	打製石片	204	208				
5605	E区	包査層	石礫	打製石片	204	208				
5606	E区	包査層	石礫	打製石片	204	208				
5607	D区	包査層	石礫	打製石片	204	208				
5608	D区	包査層	石礫	打製石片	204	208				
5609	C区	包査層	石礫	スクレイパー	208	208				風化強
5610	D区	包査層	石礫	スクレイパー	208	208				
5611	E区	包査層	石礫	スクレイパー	208	208				
5612	A区	包査層	石礫	打製石片	204	209				
5613	B区	包査層	石礫	柱状片刃石片	204	209				
5614	B区	包査層	石礫	柱状片刃石片	204	209				
5615	A区	包査層	石礫	投擲か	204	209				
5616	C区	包査層	石礫	横状石核	204	209				
5617	B区	包査層	石礫	横状石核	204	209				
5618	D区	包査層	石礫	叩き石	204	209				
5619	予備調査	包査層	石礫	叩き石	204	209	130			
5620	C区	包査層	石礫	礫石	206	210	119			
5621	C区	包査層	石礫	礫石	206	210	119			
5622	C区	包査層	石礫	礫石	206	210				
5623	B区	包査層	石礫	礫石	206	210	129			
5624	予備調査	包査層	石礫	礫石	206	210	129			